“不死鳥”桜庭和志『PRIDE.25』出陣!!

# 紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

59
2003

WWE再爆発!!
レッスルマニアに向け
ホーガン、ロック、
オースチンがカムバック!!

いまこそ、この男の出番!
## 小川 直也

“皇帝”が遂にノゲイラに挑戦!
その恐るべき強さを徹底検証!!
## エメリヤーエンコ・ヒョードル

吉田秀彦の一番弟子、『PRIDE』デビュー!
## 中村 和裕

『U-STYLE』旗揚げ成功!
いま再び“U”を考える
## 田村 潔司

3・4、桜井“マッハ”速人戦を前に
田村、桜庭へ挑戦宣言!
## 上山 龍紀

『K-1』は死なず! アンビリーバボー!
## サップvsミルコ実現!!

関係者Xが『W-1』のすべてを語る!

“プロレスの先生”大いに語る!
## 馳 浩

『ガファリ・タイフーン』日本侵略!
## マット・ガファリ&トム・ハワード

天下一Jr.王者が
新たな野望を激白!
## 坂田 亘

恐ろしいほどプロレスがわかる対談
## ウルティモ・ドラゴン×ターザン山本

“アメリカン・ドリーム”を
現地直撃取材!
## ダスティ・ローデス

ZERO-ONE vs 全日本!

WJ、マグマ噴火ド直前!

『PRIDE』リスタート!

あの“¥マネーの虎”が
女子格闘技界に進出!
高橋がなり

# 吹けよ風! 呼べよ嵐!!

紙のプロレス RADICAL NO.59 吹けよ風! 呼べよ嵐!!
発売元：(株)ソニー・マガジンズ 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ソニー・マガジンズ 定価：本体838円＋税

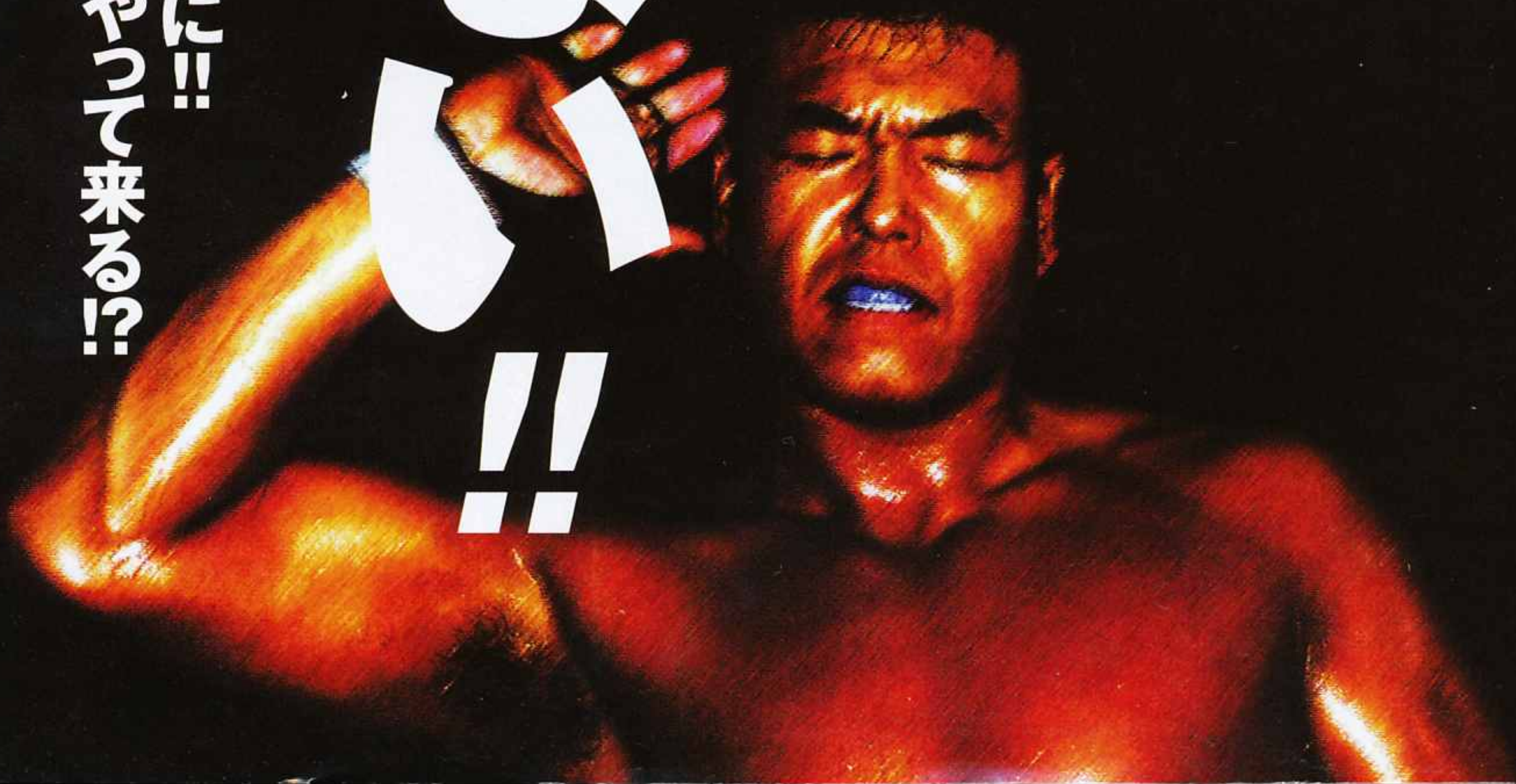
〝伝説〟に向け

# 小川動く!!

&

〝対抗戦〟では

# 小川動かない!!

UFO本格飛行態勢に!!
そしてまた〝伝説〟はやって来る!?

# ZERO-ONEvs全日本、WJ、『WRESTLE-1』まで語り倒し!! そして“伝説”は再び舞い降りるのか!?

**いよいよオーちゃんの周辺が騒がしくなってきそうな気配だ。聞きたいことは山ほどあるので、今回は“UFO公式出入り禁止カメラマン”・モーリーとのやりとりは完全カット！
マット界が乱れ、混乱したときこそ、この男の出番!! 今回はいろいろ想像しながら読んでみよーーッ!!**

聞き手／山口日昇 撮影／森“モーリー”鷹博
designed by hisa (Two Three)

——それはそうと小川さん、ホーガンがビンスと抗争を始めましたよ！

**小川** いいなぁっ！ やっぱりホーガンはアメリカが似合うよ。フレアーも似合ってたけど、やっぱりホーガンでしょ。ホーガンはオーナーになったんですか？

——いや、オーナーのビンスと敵対してて、設定はアメリカンヒーローですね。

**小川** ホーガンのスーパーヒーローは似合うね。

——やっぱり入場で5分ぐらい取るんですよ（笑）。で、リングに上がって耳あてポーズをやって、マイクパフォーマンスもなく5分近くもたす（笑）。

**小川** うんうん。

——で、そこにビンスが登場して「オマエはいまをいつの時代だと思ってるんだ。オマエなんかもうとっくに終わってるんだ！」「いまを1985年と勘違いしてないか？」ってガナるわけですよ（笑）。

**小川** ハッハッハ。面白そうだねぇ。

——ホーガンがWWEにカムバックする直前に、日本で極秘会談をしていた小川さんとしては、今回のWWEカムバックをどう思います？

**小川** ホーガンって自分のシチュエーションと立ち位置を考えてるでしょ。お金じゃないんだよね。〝俺はどこにいたら一番光れるんだろう〟とか、自分が一番必要とされる場所っていうのが一番なんだよね。

——まさに「イチバ〜ン！」（笑）。そのホーガンの考え方には小川さんは共鳴できるんですか？

**小川** 〝ああ〜、俺は間違ってなかったんだ〟って思いますよ（笑）。

——アメリカに盟友がいた（笑）。

**小川** わかってくれるのがホーガンだったっていうのは嬉しかったよね。

この男の出番、〝交流戦〟にはなし!!

# 小川直也

**Naoya Ogawa**

――小川＆ホーガンは世界を股にかけたOH砲ですからね（笑）。

**小川**　そうそう！　日米OH砲だから。夢があるっていうか、そういうのはワクワクするよね。日米OH砲はいつかやりたいねぇ。ボクはホーガンのパフォーマンスをやるのを、すべて本人から許可をもらいましたから（嬉しそうに）。

――お墨付き（笑）。

**小川**　お墨付き！

――「ハルカ・マニア」をパクッた、赤いTシャツも許可をもらったんですよね？（笑）。

**小川**　あれはパクったんじゃなくて参考にしたんだよ（笑）、それも、もちろんお墨付き！　Tシャツの背中に「BROTHER」って入れようかなぁ。日本語で「兄弟」って入れたほうがいいかなぁ？

――ホントに嬉しそうだなぁ。

**小川**　嬉しいね～。この間も2時間半ぐらいメシとか食ったりして、一緒にコンビニまで行ったりしたんだから！

――ほ、ホーガンとコンビニ！（笑）。

**小川**　ニック（ホーガンの息子）の車を探してるらしいから、車の雑誌をニックに買って渡したんだけどさ。

――極秘会談をスッパ抜いてた『東スポ』の写真を見たら、小川さん、もはや単なるミーハーですからね（笑）。

**小川**　そりゃそうでしょ！

――いや、ああいうとこは素晴らしいですよ。自分もスターなのにミーハーになれるっていうのは（笑）。

**小川**　やっぱり憧れの人ですからね。

――で、ビンスとホーガンって、地球規模で敵対してたシャレにならない関係だったのに、その部分を超えて同じ舞台に立って物語に仕立ててるから凄いですよね。

**小川**　日本も喧嘩しながらでもなんでも、ビジネスにすればいいんだけどね。

――日本の場合、プロレス界も格闘技界も、一旦亀裂が入るとビジネスにならないじゃないですか。アメリカのそういうプロフェッショナル観というか、タフさって凄いですよね。

**小川**　俺の場合はね、俺はいつでもウエルカムなんだけど、俺の相手になるヤツっていうか、向こうがこだわっちゃうから。

――世間的には逆だと思われてますよ（笑）。

**小川**　ねぇ、ホントに（笑）。でも、そういうところは俺たちが直していけばいいんだよ。でもさ、破壊王もよく、俺には「こだわるな」って言うけどさ、実は破壊王のほうがこだわってる部分あるからね（笑）。

――橋本さんも固くなるときがある（笑）。

## 破壊王自身も「交流戦じゃない」って言うけど俺から見たら交流戦!!

**小川**　もちろん、いい意味で固くないときもあるんですよ。ZERO―ONEみたいに、一つの興行としてみれば固くないんだけど、いざ自分のことになれば固くなるんだな、これがまた意外に（笑）。

――へえ～、そうなんですか。

**小川**　今度、「Wなんとか」って旗揚げするじゃない？

――WJですね。

**小川**　そう！　それ。

――「Wなんとか」（笑）。

**小川**　あそこに集まったヤツは、みんな橋本さんとソリが合わなかったみたいなんだよね。だから、あそこと潰し合いやったら最高だと思うんだけどな。ホントに低次元だけど、ホラ、長州の親方にソックリな弟子がいるじゃない。

――あ、「正直、スマン」の人ですか？

**小川**　それには特にこだわってるからね。「死んでも同じリングには上がらない！」って。

――いや、OH砲vs長州＆健介なんて実現したものなら、コーフンするでしょうねぇ。選手もファンも。でもその、ビンスとホーガンのやり取りを見てたら、あれだけ仲の悪い2人が、仲の悪いまま罵り合うというのは闘いがありますよ。

**小川**　ビジネスと考えてるから、いざこざをリングに結びつけて母体に利益をもたらすから最高だよね。

――しかも発言とかマイクはガチンコですからね（笑）。

**小川**　つい日本って年下の選手の立場が弱いとかっていうのがあるじゃない。

――年功序列とキャリアの壁。

**小川**　俺だって散々言いたいことがたくさんあるけど、仕事に結びつかないから言わないだけでさぁ。散々言いたい放題言われてるんだから、こっちだって言いたいよ。

――でも日本のプロレス界も、派閥だとか好き嫌いを超越して、いかに面白いモノを提供していくかという組み上げ方をしていかないとジリ貧になっていきますよね。それを最近で一番やってるのがZERO―ONEなんだろうし。

**小川**　俺のことを、「銭ゲバ」って言っちゃった本人がさ、かえって固くなっちゃったりとかしてるからね（笑）。

――ダハハ。ダーッ!!

**小川**　どっちが「銭ゲバ」だっていう話になっちゃうから。

――でも「銭ゲバ」って言われて、「俺は銭ゲバだ」って言うのも凄いですよ（笑）。

**小川**　やっぱり俺はこだわりないからさ。だから日本の場合、「アイツのいるところは出ない」とかなるけど、そうじゃなくって、面白くなるものをつくり上げていくっていう感覚がないんだよね。こだわりでどんどん「こうしなきゃダメだ」ってつまんなくしちゃうから。

――ホントにあのWWEの、どんなイレギュラーがあっても、それを〝リング上で仕立て上げていく〟っていうエネルギーは凄まじいですよね。イレギュラーとイレギュラーを繋げていく貪欲さは、日本も見習わなきゃいけない部分ありますよね。

**小川**　そういう感覚は必要だね。

――日本はほとんどブツ切れですからね。

**小川**　なんかダメだよね。ブツッ、ブツッって切れていくからさ。今度のZERO―

ONEと全日本の交流戦も、なんかそんな感じがするんだよね。

――なにかフロント同士も交渉がまとまらないみたいですしねぇ。

**小川**　わかんないんだよ、向こうがなにやりたいか。やるっていうんだったら、早い話がトップ同士でやればいいじゃない。だったら協力するよ、みたいな話にもなってたしね。UFOとZERO―ONEの連合軍で一気に潰しに行けばいいだけの話だから。だから、俺は別にこだわってなかったんだけど、他が固くなってるみたいだね。俺は細かいことは聞いてないけど、結局そういうプランは消滅したって聞いて、〝何だそりゃ?〟だよ。

――でも、小川さんの対全日本へのコメントは面白かったですよ。

**小川**　なんかありましたっけ？

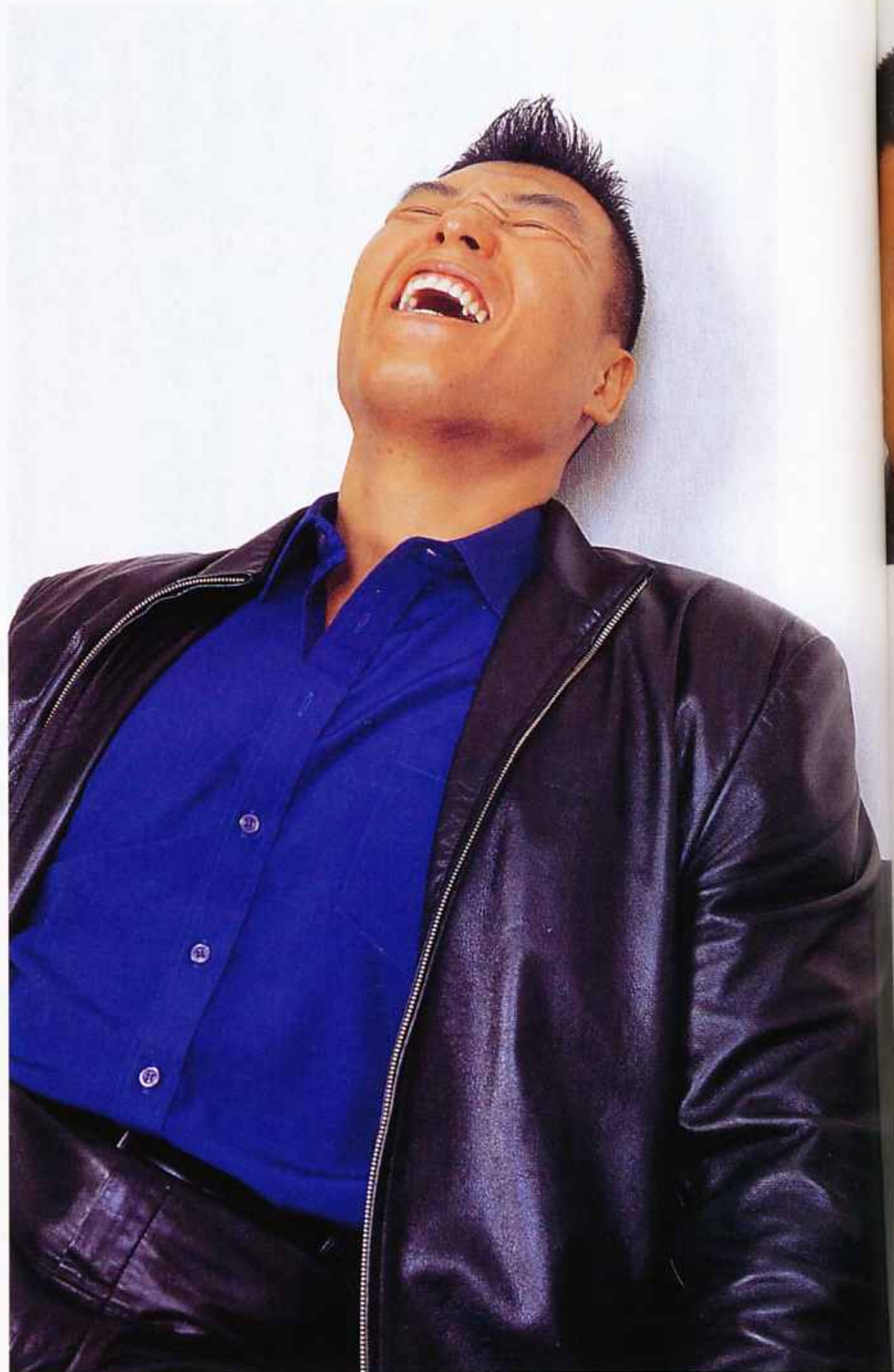
――（2月）15日にラジオに出た後、マスコミが囲んだときにブッ放したやつですよ（笑）。

**小川**　ああ～。よく抜き出しますねぇ。でも、確かにあれは久々にスッキリした！　ダメなもんはダメだと思って。

――「俺は潰し合いなら参加すると橋本に言った」「やるべきことは潰し合い。交流戦ならやるな」「俺と橋本が潰し合ってきたからこそ、いまのZERO―ONEがある」。確かに聞く方もスッキリですよ。

**小川**　まんま、だよ。

――ビンスとホーガンも、いがみ合ってきたからこそ、いまの物語を生んだわけですからね（笑）。

**小川**　だからこそ、いまのWWEがあると。ちょっと下降気味だったWWEがまた跳ね返って上がってきたっていう。WWEも一時期みんな去っちゃったじゃない。でも、自分たちの個人的なイガミ合いはさて置き、アメリカのプロレス界を立て直さなくてはいけないっていう意味で、また戻ってくるんだよね。金っていうのもあるかもしれないけど、最後は金じゃねぇんだよね。「あんなところはもう出ない」っていう気持ちもあっただろうけど、このままガタガタになっちゃうと自分たちの存在価値までもがなくなっちゃうからね。それに凄いのはさ、あれだけ層が厚くても、光るポイントが一つ一つあるんだなぁと。

――自分が一番必要とされる場所、というのが見えやすい。

**小川**　うん。そういう上のステージを見ながら、業界全体を見て考えるスケールというかさ。それで受け入れる団体も、まず自分たちの業界にとって起爆剤になることが第一って考えてるから、そういった意味でお互いが目線を上のステージに向けられるんだろうね。

――その目線の先に、起こってしまったイレギュラーを繋げる。イレギュラーからドラマを生んでいくっていう、プロレスにとって大事な根っこがあるんですよね。

## Naoya Ogawa

**小川**　今度の全日本とのことなんか、安易なものは安易なんだから！　天龍さんも「安直なことをやりやがって」って言ってたよな、たしか。

――お互いがお互いの存在を消すっていう迫力を見せていかないと、最終的に相手も自分も光りませんからね。小川さんの発言は、久々に小川節が炸裂して気持ち良かったですよ。

**小川**　黙ってるのも、いっぱいいっぱいだったからね（笑）。

――堪忍袋の緒が切れたと（笑）。でも、やる以上は盛り上がってほしいですけどね。

**小川**　交流戦は誰も見たかぁないんだよ！　破壊王自身も「交流戦じゃない」って言うけど、俺から見たらどう見ても交流戦。

――今度の両国のカード、破壊王&大谷vs武藤&……。

**小川**　（話を遮って）OHを迎えるなら団体のトップ、全日本なら全日本のツートップをもってくるのが普通でしょ？　なんのためにOHがいるのかわからないじゃない。あんな先が見えちゃうようなカードじゃ客なんか来ねぇよ！

――辛らつだなぁ。

**小川**　みんな、ぬるま湯なんだよ！　熱湯役の俺がいないと熱くならないんだよね。

――ガハハハハ！　熱湯役（笑）。

**小川**　全日本の大将も「ぬるま湯だ。熱いお湯を入れようか？」って言ったら、「そんな熱いお湯はいらない」って感じじゃない。だって全日本は全面じゃないんだもん！　天龍さんは半分WJに行っちゃってるじゃん。片一方の、しかも社長が「全面戦争だ！」って言ってるのにさ、その前の日にWJでやるんでしょ？　あとは全日本の生き残りも出てこないしさ。

――川田選手はケガしてますからね。

**小川**　でも、天龍さんや全日本の生き残りが出てきてこそ、全面戦争だよ。先行きが見えちゃってるから、ちっちゃく見えちゃうんでしょ。正直言って、ホントに残念だなって思ったよね。俺は俺で作り上げていくしかないのかなって思ったよ。

――猪木さんがバリバリだった頃の新日本なんかは、起こったイレギュラーを見事にドラマに繋げていくプロレスをやってて、それが異様な熱を生んだんですよね。逆に、ひと昔前はアメリカン・プロレスはイメージとして、一から十まで作ってるからリアリティがないって感じだった。でも今や逆ですからね。日本は、なんか談合社会から抜けられない（笑）。ここは熱湯役の出番ですよ！　そろそろマット界に熱湯をブッかけてほしいですね。

**小川**　まずさ、明日の小田原（2・20）に行って、破壊王に「どうするんですか？」

## 『ZERO―ONE vs 全日本負けたら即、解散スペシャル』にしろよ!!

**Naoya Ogawa**

って聞いてきますよ（笑）。一時期は凌げるかもしれないけど、終わりだよね、これで全日本とは。

――ヘタしたら両国で終わり、と。

**小川**　いや、両国で終わらせないと！

――両国に全日本勢が来るのはワクワクしないんですか？

**小川**　ワクワクなんてしないよ。俺なんか最初から言ってたじゃん。「ZERO―ONE vs 全日本プロレス、これで負けたら即、解散スペシャル！」にしろって。

――ダハハハ。

**小川**　ホントにそうなっちゃうんだっていう潰し合いの覚悟でやらないと面白くもなんともない！

――でも、小島選手がそういう小川さんに対して即返答したんですよね。

**小川**　へぇ～。知らない。

――「全日本の名前を出したということは足を突っ込んだと解釈しています。そして俺はあの人の手の内を知っている」と言ってますね。

**小川**　ほぉ～。

――「俺から突っかけたら『小島って誰だ？』って言われるのはわかってる。俺は俺なりの作戦を考えている」だそうです。

**小川**　あちゃ～。うまいこと読むねぇ（笑）。

――「小川さんはスーパースターだから大物らしくデンと構えていればいい。全日本に勇気があるヤツがいない？　勇気があるから対抗戦をやっているんだ。交流戦と思っているなら出てこなくて結構。高見の見物を決めてる人とはやりたくねぇ！」とコメントしてます。

**小川**　……今度の両国って小島は出てくるの？

――……いや、出ないですね。

**小川**　お前、出ねぇんじゃん！！　出るんならいいけど、出ないヤツには言われたくないわなぁ！

――ガハハハハハハハハ！　確かに両国には出ません。現段階では（笑）。

**小川**　大ボケかましてるねぇ！　カッコいいなぁ、小島とやら。出ないでそういうこと言うのは説得力ないなぁ。高見の見物決めてるのはお前じゃないかって！　俺に突っ込ませるところまで考えてるんだよ、きっと。「お前出ねぇじゃねぇか！」って言われることを想定して言ってるんだろうな。

――それだったら、なかなかのテクニシャンですね（笑）。

**小川**　デンと構えてるのは、お前じゃねぇかよ。俺は試合に出るよって。ホントにいまの情けない政治家と一緒だよね。突っ込まれたら、言い返せなくてそのまま逆ギレするような人なんじゃないの？

――某首相のように（笑）。

**小川**　そうそう。ま、小島とやらがそこまで言うなら、高見の見物でもさせてもらうよ。俺も人のこと助けてる場合じゃないからさ。話は変わるけど、中小企業なんかさ、ホントにシビアみたいよ、誰も救ってくれないらしいから。救った人が足を引っ張られちゃうから、いまは見て見ぬフリをするらしいよ。あと、バブル時代にいい思いをしたヤツはシッカリ痛い目にあってるしさ。そういう部分では「神は平等だな」って思ってさ（笑）。いまはだから、ある意味では真面目にやってきたヤツらが報われる時代になってきたなぁって。ホントの意味でバブルが弾けちゃって、おそらくこの業界もバブルが弾けるだろうね。

――もはや弾けきってるかなぁ（笑）。

**小川**　だから、完全に足固めをしてるところが勝ちかなって。俺は幸か不幸か、バブルの時代って知らないからさ（笑）。UFOもこれからが本格的なスタートかなって。

――UFOにも大型新人が加入しましたよね。

**小川**　大型か小型かはわからないよ。

――またそうやって言う（笑）。藤井選手はいいじゃないですか。

**小川**　プロレスラーとしてはまだダメだな。まず、練習についてこれないからね。いっぱいいっぱいだよ。練習についてこれないと、凄みがついてこない！　そういう境遇に遭わないとね。まぁ、前にいた村上の場合はそれ以下の奴だったからね。あれはちょっと齧っただけでやってる状態だから、あれで終わりでしょう。それ以上のレベルは望めませんよ。それに比べると、藤井はそこそこはいけると思うんだけどね。

――体格的にはいいんじゃないですか？

**小川**　いや、あれぐらいじゃダメ。もっとデカくないと。

――マット・ガファリ級の？（笑）。

**小川**　横じゃなくて（笑）。横はガイジンと破壊王に任せとけばいいよ。

――でも新人が入ったことで、UFOもそろそろ本格的に飛ぶんじゃないかという噂もチラホラありますよ。

**小川**　それには、あと1人ぐらい欲しいかなって。

――UFOも、やりたい方向性に向けて着実に地盤を固めてるという感じですか？

**小川**　まぁ、プロレスに理解のある場でやっていきたいなって思ってるよね。

――1・26の博多大会での藤井選手のデビュー戦の後、「今年も『LEGEND』があるみたいだし、両方やっていければいいかな」と小川さんは言ってましたよね。

**小川**　『LEGEND』があればいいかなぁ？っていうぐらい（笑）。『LEGEND』は、驚くことに伝説なんですよ。

――ガハハハ！　いや、直訳してどうするんですか（笑）。

**小川**　いやいや、たま～にやることによって伝説になる。マメにやってたら伝説じゃなくなるんです。ボチボチと楽しみにね。前回とりあえず、打ち上げるだけ打ち上げたけど、興行的に見たら大失敗だから！（キッパリ）。だけどある意味で成功なんですよ。次は成功しかないから。あれ以上の失敗はありえない（笑）。そういう意味でも1回打ち上げることによって軌道は作ったんだから。

――確かに『LEGEND』は完全に人々の記憶の中には埋め込まれましたからね（笑）。ウチの読者が選んだ昨年のワーストバウトは、その『LEGEND』の小川vsガファリ戦でしたね。

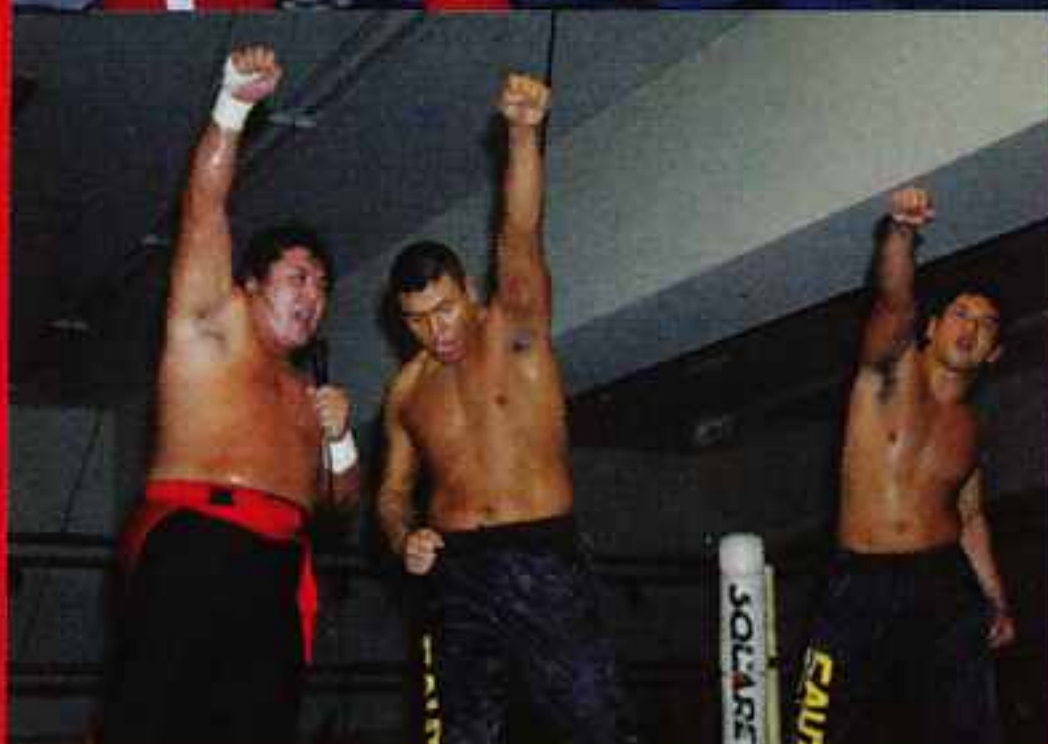
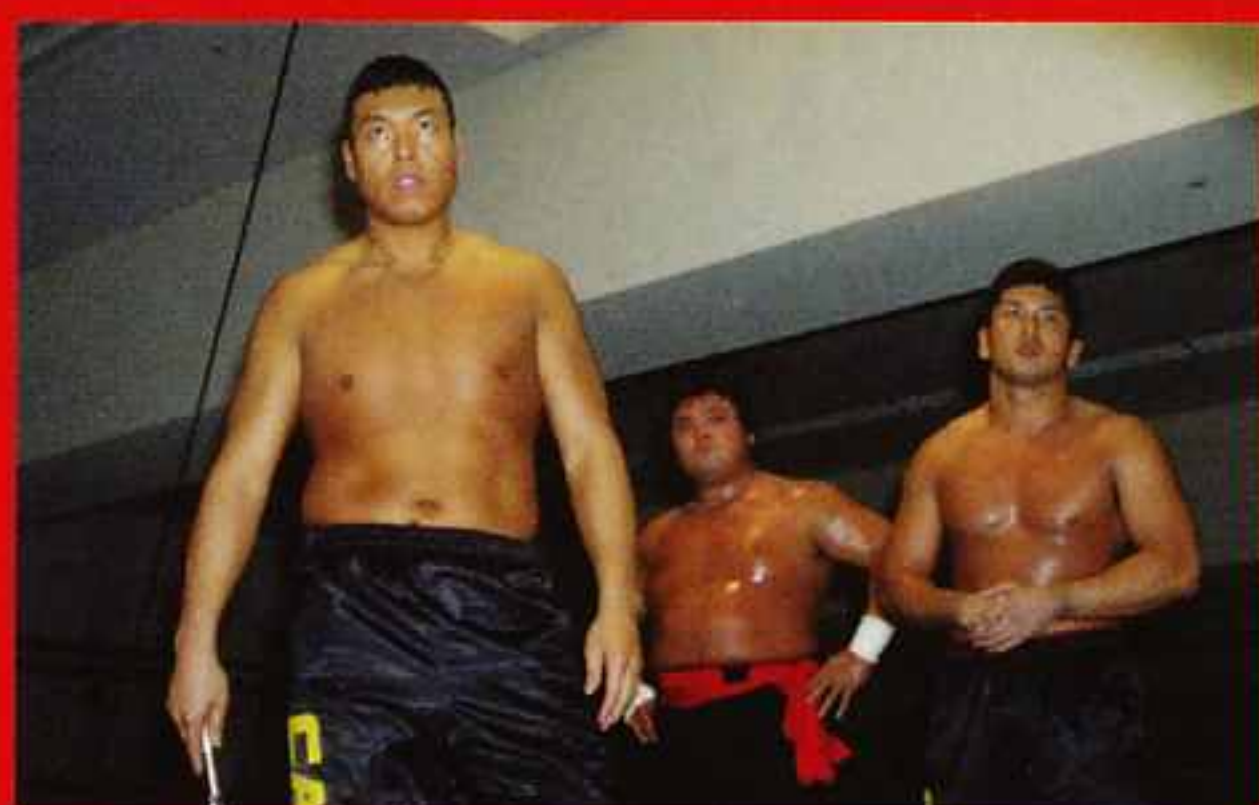
**小川**　逆に俺は好きだね！　悪いほうでも一番を取らないと。ダーッハッハ。

――でも、それぐらい印象深いってことですからね（笑）。ガファリはZERO―ONEでも、ホントに台風並みの大人気ですからね（笑）。

**小川**　やっぱりああいうものを求めてるんだよね。わかりやすいというかさ。

――いま小川さんは、主にZERO―O

# “UFO第2の男”デビュー!! OF砲発進!!

## 1・26 ZERO-ONE博多大会

パンクラス無差別級８位、ヘビー級２位という総合方面でも実績のある藤井克久が“ＵＦＯ第２の男”としてプロレスデビュー。オーちゃんと組み、プレデター＆Ｓ・コリノという超クセ者コンビと対戦した。藤井は、打撃のラッシュ、連携プレーを見せたが後半はスタミナ切れで空回り気味。オーちゃんのアシストで勝利を飾ったＯＦ砲は、メインでガファリ組に圧殺された破壊王組を救出。ZERO-ONEマットに新しい風景を呼び込んだ。

## 1・31 ZERO-ONE広島大会

# 藤井圧死!! ガファリ台風恐るべし!!

新コンビ・ＯＦ砲が、ガファリ＆ハワードのNWAインターコンチタッグ王座に挑戦。藤井はデビュー３戦目での快挙だ。しかしガファリは、尻をペンペン叩く“ガファリ駒”から、コーナーでのガファリプレスで藤井をペシャンコに。オーちゃんには、ジャーマンの態勢でフォローするハワードごと腹で吹っ飛ばす“オレごとガファリ”を決めた。ガファリは変幻自在の腹技でＯＨ砲から奪った王座を初防衛。控え室に引き揚げた小川は「情けなかったよ、今日は……。現状では力の差がある」とつぶやくのが精一杯だった

NEの地方興行を回ってますけど、熱みたいなものはやっぱり感じます？

**小川**　自分が出てて勉強になるなって。もちろんビジョンを持ってやってますから。

──先シリーズも博多、広島、大阪とソールドアウト。パンパンでしたね。

**小川**　徳山もね。熱気は感じるよね、やっぱり。

──で、小川さんとしては東京はどうなんですか？

**小川**　東京は……まだまだだな。

──ガハハハ！　東京でプロレス興しをしなければいけないですよね（笑）。

**小川**　東京は……まだいいかな。東京が俺に追いつくのは、まだ後だろうなって（笑）。

──ガハハハ！　時代がまだ追いついてない！（笑）。

**小川**　やっぱりまだ地方だね。東京はいろいろあるから満足しきってるんじゃない？

──地方は小川さんが出ると、一見さんのファンがドッと押し寄せる現象が続いてるけど、東京だとコア層に向けてのマッチメイクになりますからね。ZERO─ONEだけじゃなく他の団体もそうですけど。

**小川**　去年の夏の両国みたいにわかりやすいのでドカ〜ンとやればいいのになぁ。

──わかりやすいといえば、正月に『ZERO─ONE★U$A』っていうのをやったんですよね（笑）。

**小川**　やってたねぇ。

──破壊王がハシフ・カーンっていうソックリのモンゴル人を呼んだりとか（笑）。翌日は誰を呼んだか知ってます？　破壊王が。

**小川**　……SHOGUNだっけ？　ヒゲ付けたやつ。

──正解です！　試合後にはヒゲが取れてましたけど（笑）。

**小川**　ダーッハッハッハ。

──あれは後楽園だから良かったっていう声もありますけど、思いきって『ZERO─ONE★U$A』を両国あたりで観たかったですね（笑）。

**小川**　ああ。

──スペシャルで、小川さんが別キャラで出てきたりとか（笑）。

**小川**　それはいいな。ハルク・キタオで……ちょっとマニアックかな（笑）。

──面白い！　テーマ曲はもちろん聖飢魔IIで……ちょっとマニアックかな。でも、そういう新しい試みにエネルギーを注ぎ込むっていうのも観たいですね。風穴を開けるためにも。

# それはいいなぁ。『ZERO─ONE★U$A』に別キャラで出ようかなぁ

**Naoya Ogawa**

**小川**　『ZERO─ONE★U$A』はホントにいい意味での実験だよね。

──試金石ですよね。そこで小川&ホーガン組が実現したら最高ですよね（笑）。

**小川**　後楽園じゃもったいなくない？

──当たり前ですよ！　両国でやるとしたらですよ（笑）。

**小川**　じゃあ相手はハシフ・カーン？

──なぜだ！（笑）。

**小川**　そういう部分は橋本さんも頭が切れるんだけど、箱が大きくなるとマニア向けになって弱いんだよなぁ。ここ一番のパンチがないんだよな。

──対抗戦として違う団体がブツかったら安全パイという時代ではないですからね。

**小川**　むしろ危険だよ！　俺は最初から危険だって言ってたんだから。これはZERO─ONEに対して、信頼関係があるから敢えて言えることだけど、自分たちで作ってきたアングルを、全日本ごときで壊すことはない！

──あ、熱い。

**小川**　だって、いきなりヘンなのが入ってきてさぁ。橋本&大谷vs武藤&なんとか組だろ？

──武藤&嵐組ですよ（笑）。

**小川**　橋本と大谷って仲悪いんじゃねぇのかよ？　「ちょっと、待ってくれよ」って。「緊急事態に備えて組んだ」とか言うけどさ、緊急事態に備える相手じゃないじゃん。嵐っていう人には失礼だけど、知らねぇもん！　だったら破壊王だって、ジェットと組んどけばいいじゃん！

──山笠"Z"信介登場！（笑）。

**小川**　そう！

──それ、いいかもなぁ。営業面を考えなければ（笑）。メイン、あの「カキーン、コキーン、ザッザッザッ」っていう『巨人の星』のテーマ曲が流れて、うさぎ跳びをやってくれたら最高だなぁ（笑）。

**小川**　でもね、ジェットはZERO─ONEの若手で一番伸びるかもよ。怪我とかしないでこのまま行けばね。新弟子で一番ギラっとしたものを持ってるんじゃない？　うん、それこそ、橋本&ジェット組だよ！

──なんかゴロもいいもんなぁ。橋本&ジェット組vs武藤&嵐組って（笑）。

**小川**　お互いそういうレベルでしょ？　俺は嵐っていう選手は見たことないからわかんないんだけどさ。

──知名度から言えばそうかもしれないですね（笑）。

**小川**　「ジェットって誰だよ？」って思わせて売り出す大チャンスだったのにね。

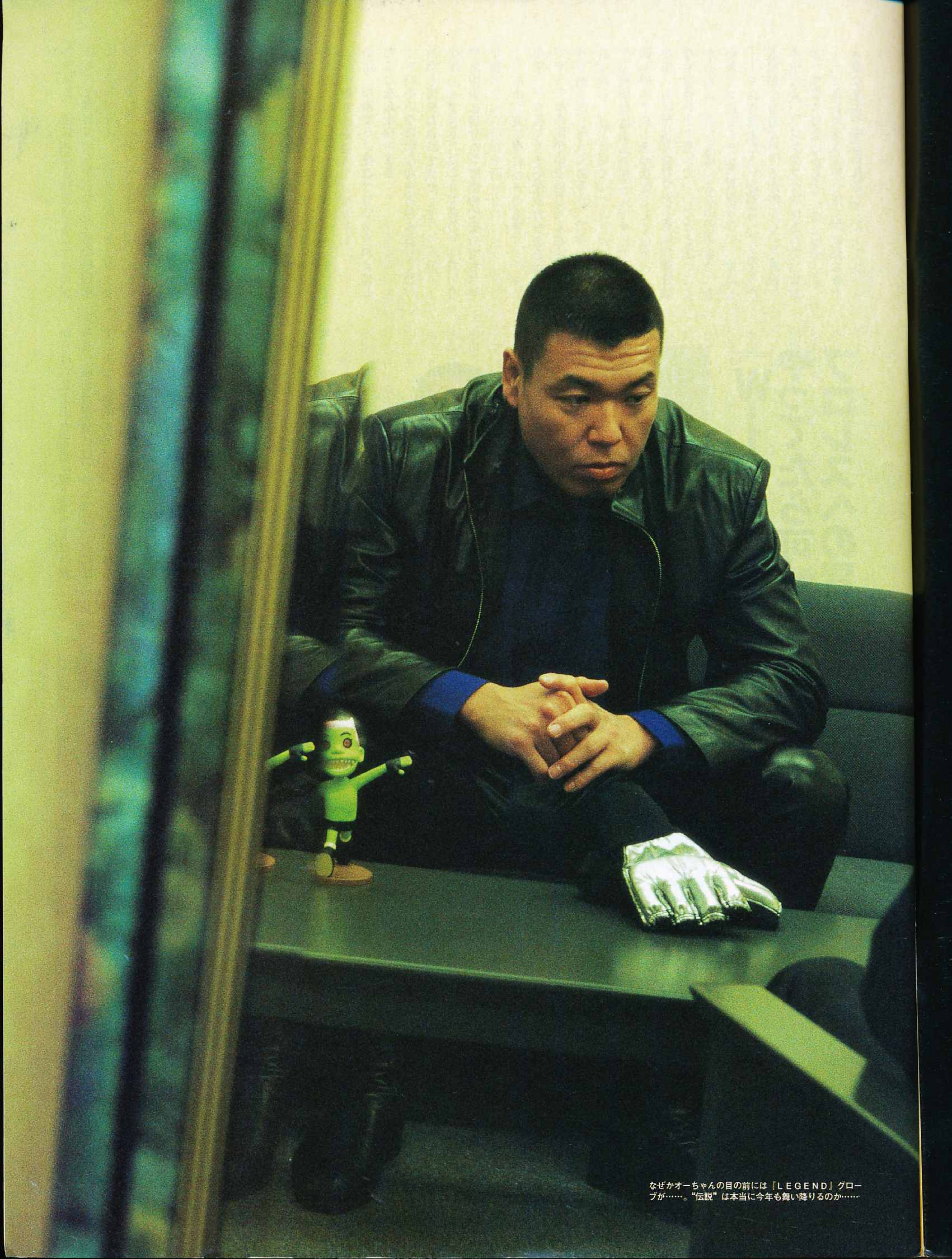
──なるほど。小川さん、マッチメイクのセンスありますねぇ（笑）。

**小川**　（なぜか照れながら）ウチの沢野のほうがもっとあるけどね（笑）。

──ところで、さっき話題に出たWJの長州力が「業界のド真ん中を走る！」と宣言して、その「ド真ん中」っていうのがけっこう流行の言葉になってるんですよ（笑）。

**小川**　いいねぇ、カッコいいねぇ！　でも俺のところには聞こえてこないよ。「ド真ん中」ってどこなんだろうなぁ？　なんの真ん中かわからないんだよ。自分の中での真ん中なのかな？

──だから昔のプロレスが大衆に向けて発信してた頃は、それこそ八百長だなんだと矢のようなツッコミを受けて、まさに血まみれになりながらも、それでもプロレスは世間のド真ん中を歩いてた。でもいまは、プロレス業界のド真ん中が、ド真ん中になっちゃってるんですよね（笑）。

**小川**　困るよねぇ。だから、たとえばテレビに出てプロレスを理解してもらおうとするには、やっぱりプロレスはプロレスじゃないとダメなんだよ。俗に流行ってるK─1だ、『PRIDE』だって、ああいう部類は部類で理解はできるけど、結局それってプロレスが飲み込まれてる状態になってるってことだからね。プロレスに持ち帰ってくるヤツがいないんだよね。行って勝っ

なぜかオーちゃんの目の前には『ＬＥＧＥＮＤ』グローブが……。“伝説”は本当に今年も舞い降りるのか……

ちゃうと、逆に「ここは違うんだ」ってプロレスを離していくからね。なぜか格闘家になっちゃうんだよなぁ。プロレスラーとして活躍して、プロレスはやっぱり正しかったって世間に対して投げかけるものがなきゃいけない。でも、行ったヤツが違う頭になって帰ってきちゃうことが多いからさ。もっとプロレスっていうものを武器に世間に乗り込んでいかないとね。

――それに挑戦したのが『WRESTLE―1』なんですけど。

**小川**　ああ～、あれね。あれはプロレスへの冒涜だよ！

――小川さんが言う！（笑）。

**小川**　なんで？　俺はプロレスをバカにしたことなんかないよ⁉

――いやいや、なんか小川さんらしくない言葉を使うなぁって気がして。

**小川**　「プロレスはこうである」っていう型を勝手に自分たちで決めて走ってるじゃない。

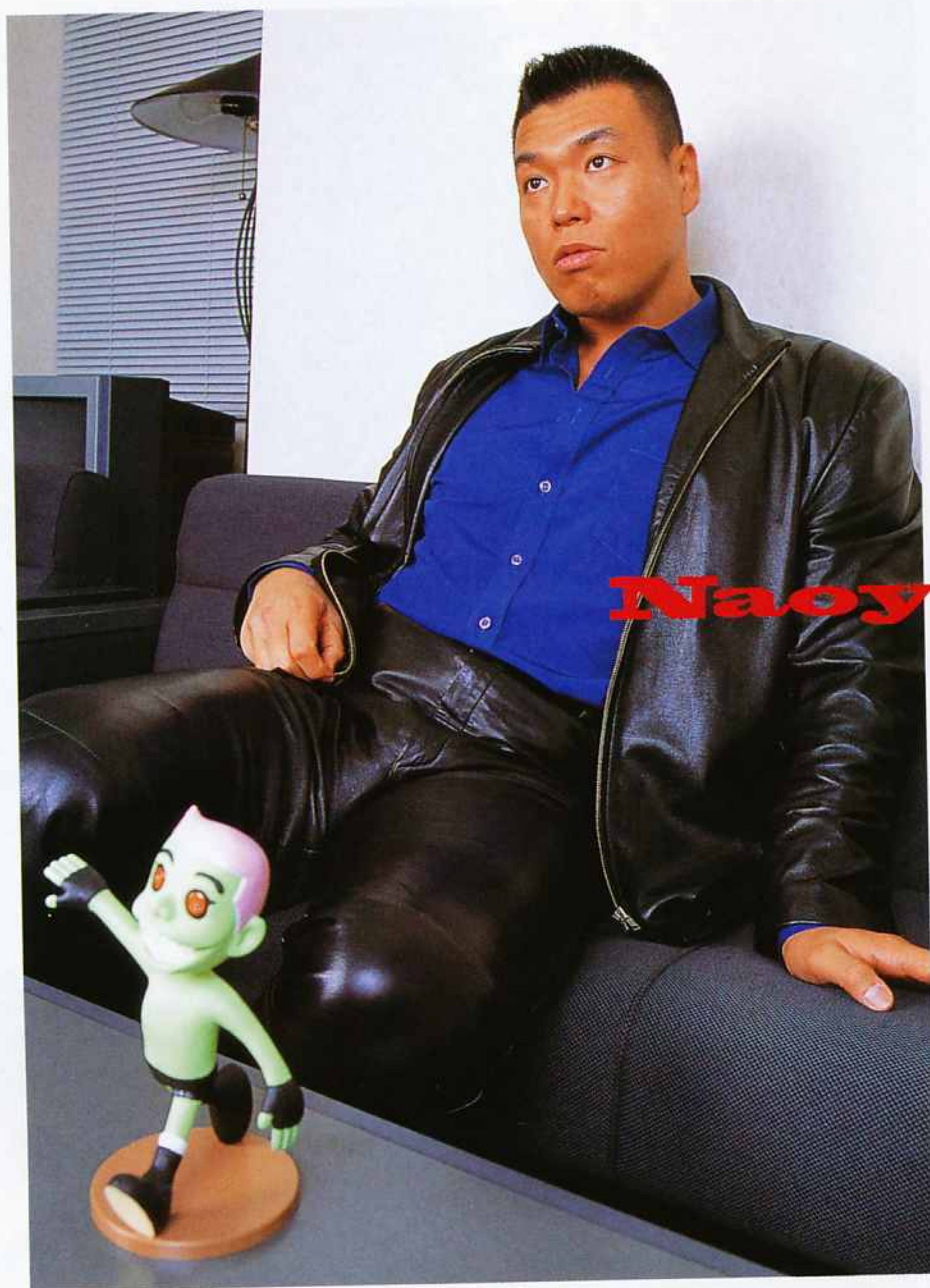
――ああ、逆に型にハメてると。

**小川**　バカにしてるよね。プロレスをわかってやってる人間がいないじゃん。多分〝こうであろう、そうであろう〟でやってるじゃない。

――可能性はあると思うんですけどね。世間へのアプローチの仕方としては。

**小川**　あのやり方をしてたら逆に可能性はなくなるね！　やっていいことと悪いことがあるよ。たとえば、こないだのホーストとサップにしろ、「絶対やらない、俺はK―1ファイターだ！」とか言ってるような人間がやっちゃってるんだから、それはアウトだよ。プロレスファンはあれをプロレスって思ってないから。

――プロレスファンからは「プロレスをナメるな！」って言われるし、K―1ファンからは「K―1をナメるな！」って言われるし、挙句の果てにはプロレスファンにまで「K―1をナメるな！」とまで言われるし、散々ですよ（笑）。

**小川**　ホントにチグハグしてるよね。日頃、「プロレスは弱い」「俺たちはプロレスより全然凄いんだ」「俺たちは真剣勝負だ」とかのキャッチフレーズでやってきたのに、「じゃあ、やるなよ」っていう話だよね。

――個人個人では真剣にプロレスをやりたがってる選手もいますけどね。

**小川**　やりたがってるって言っても、みんながみんなやれないのが、この商売でしょ。誰も彼もがやっちゃったら、真剣に取り組んでるこっちからしたらフザケンな！っていう話だよね。ちゃんとやってくれればいいですよ。「コイツはやるじゃねぇか」とか見せられたら、こっちも頑張んなきゃなって思えるけど、明らかに「プロレスはつまんないんだよ」「プロレスは最悪なんだよ」とアイツらが訴えたくてやってるみたいにしか見えない。まぁ、俺たちがしっかりしなければいけないって言われたらそれまでなんだけどさ。蝶野さんが「アルバイトしに来てるんじゃねぇか」って言ってたけど、あれは的を射てるよ。

――だから、K―1ファイターがプロレスをやったときに、K―1ファンから「プロレスをナメるな！」という声が上がらないとウソなんですよ。

**小川**　演出にしたってなんにしたって中途半端だよね。タイミングとかさ。全選手、全スタッフが一丸となって取り組まないとダメですよ。しかも、キャラクターが確立してないまま演出に頼ってるところがダメ。キャラを確立した上での舞台装置ならいいんだけどね。

――はっは～、なるほど。その『W―1』から声はかからなかったんですか？

**小川**　ないね～。あるわけないじゃん！

――ダハハハ。そう考えると、いろんなものを組み上げていくには、やっぱりプロレスって団体じゃないとダメなのかなって思いますしね。

**小川**　団体というか人選ですよ！　プロレスにまともに取り組む人と、世間に強烈にアピールしたいって言うヤツらが集まらないとダメ。

――なんか、今日の小川さんには「プロレスLOVE」を感じるなぁ（笑）。

**小川**　なにそれ？　流行ってるの？

――いや、いいです（笑）。そうか人選か。

**小川**　だから、いい人選でピラミッドみたいな形を作ってるZERO―ONEだけがいいんじゃない？……でも、俺もそろそろZERO―ONEと違ったプロレスも出していかなきゃいけないしなぁ。

――いろいろ考えてますね、小川さん！

## 『W-1』？　あのやり方でやってたら可能性はなくなるね。プロレスへの冒涜だよ!!

Naoya Ogawa

小川　最近、大変なんですよ。
――ちなみに去年暮れの『猪木祭り』はまったく声がかからなかったんですか？
小川　何にもなかったね！　あれは吉田（秀彦）が出て終わっちゃったんだよね。
――その吉田選手の活躍については？
小川　いいギャラだったね〜。
――ガハハハハハ！　そっちか（笑）。さすが銭ゲバですね。
小川　試合内容に関しては俺の口からは言えないよ……わかるでしょ？　求められてる感覚が違うから。……『LEGEND』の時はしょうがないだろ。あれは測定不可能だったから。
――ガハハハ！　なにも言ってません（笑）。
小川　アクシデントがありますからね。
――そのアクシデントやイレギュラーをどう繋げていくかですからね。
小川　俺とガファリの場合はそれがプロレスで活きてるからね。ZERO―ONEのほうに繋げられたかなって。やっぱりイレギュラーを繋げていかないとね。
――いまは1回イレギュラーや測定不可能なことが起こっちゃうと、それで断ち切っちゃいますからね、プロレス界は。
小川　断ち切らないよ、俺は！　ガファリは最強のプロレスラーになりつつあるんだから。
――なんせ両国で初フォール負けしてしまいましたからね。
小川　ガファリなんて逆に、『LEGEND』とかよりZERO―ONEとかプロレスに一番対応してるよね。誰に教わったわけでもないのに。
――やっぱり小川vsガファリ戦があったからこそ、ですよ。失敗は成功のもとって昔の人はよく言ったもんですね（笑）。ところで最近、猪木さんとは連絡とってないんですか？
小川　明日（2・20）、還暦パーティーだからお祝いに行かないと。間違ってもスネ相撲はやらないけどさ。
――ガハハハ！　レディ、ゴーッ!!（笑）。
小川　猪木会長、ここんとこよくスネるからなぁ……猪木会長のスネ、強そうだからね。5月1日にスネ相撲やるみたいだけどね。いい企画だよね、ドームでスネ相撲だなんてビックリするよね。
――そういえば、5月2日はZERO―ONEと新日本がぶつかるんですよ。
小川　なんで？
――新日本が東京ドームで、ZERO―ONEが後楽園ホールなんですよ。
小川　じゃあそこで『ZERO―ONE★U$A』かなんか？
――いいですねぇ（笑）。
小川　俺もスーパー・キタオで登場かな。あれは黄色い服を着なきゃいけないからなぁ。トゲトゲの付いた鎧みたいのとか。
――ダハハ。でも興行戦争ですからね。5月2日は負けられないですよ。
小川　片や2000人と、片や2万人？
――新日本は2万人しか入らないんですか？（笑）。
小川　知〜らない。
――ホントでも、今年はいろんな動きがありそうですね。言葉の端々からそれが感じられましたよ
小川　あればいいよなぁ……。
――いや、あると言ってください！（笑）。
小川　あると言えば、あるし。ないって言ったら、ないし（笑）。でも今年はいままでトップを張ってきた人がいろんな諸事情が絡んで、戦国時代に突入してるし。そこで誰が飛び出すかだね。

【2月19日／東京・UFO事務所にて収録】

## 2・20小田原に突如、暴走王が!! 破壊王にエール&檄!!

「生きてますかーーッ!! 元気があれば還暦も迎えられる」と、アントン総帥の還暦祝いクルージング・パーティーが都内で開催されたこの日、暴走王がZERO-ONE小田原大会へ突如登場!!　地元出身・星川尚浩とのタッグで、高岩竜一&藤原喜明組に見事勝利した橋本真也の前に、突如、暴走王の姿が!!
「橋本に2つ言いにきました。ひとつは、三冠戦、頑張れよ!!　もうひとつは、OH砲は世界を相手に闘っている。全日本に時間をかけてる場合じゃない!!　そのことを忘れずに!!　以上!!」
――全日本のトップと激突する破壊王への、小川なりの最大のエール。破壊王はこれをしかと受け止め、小田原城とファンに向かって誓った。「三冠をZERO-ONEに持って帰るゾ!!　そして、トム・ハワード&マット・ガファリを倒して、OH砲は日本一、いや世界一のタッグチームを目指します!!」
誓いを受けて、小川が再びマイクを持って吠えた。「もうみんな知ってるよな？いくぞーッ!!オー、エイチ、ホーッ!!」。リング上で両手を高々と突き上げた小川は、言いたいことは言い尽くしたとばかりに、ノーコメントで会場を去った。破壊王は「小川が、こんなところまでわざわざ来てくれるとは思わなかった」と、思わぬ暴走王の檄に笑みをこぼしながらも、「アイツの前でカッコ悪いところは見せられない。アイツに言われたことで、あらためて気が引き締まった。三冠戦は必ず勝つ」と、この号が発売される頃には結果が出ている2・23グレート・ムタとの三冠戦勝利を宣言。最高のパートナーにして最大のライバル・オーちゃんの檄を受け、気合いを入れ直した破壊王だった。
この後2人は、マスコミ非公開のアントン還暦パーティー・夜の部に出席。破壊王は「オレはいまでもアントニオ猪木のファンだから、仁義を通したかっただけ。猪木さんは小川が来てくれて嬉しかったんじゃないの。オレが歓迎されたかどうかはわかんないけど」と、迷う様子もなく語っていた。ビバ、OH砲!!

決とは

さ!!

K-1から
プロレス界へ
またも
果たし状

今号の裏テーマは〝大衆〟である。体臭ではない。締め切り15秒前なので、くだらないことを打ち込んでるなぁというのは重々承知だが、書き直してる時間はない。

で、いまはあまり使わない言葉となった大衆も、コアな格闘技ファンも、あるいはプロレスファンも、誰もが〝頂上対決〟と認める驚ガクのカードが3・30K—1・さいたまスーパーアリーナ大会で実現する。

いまや泣く子も笑う存在となった、ボーダレスに天下無敵のボブ・サップと、あの冷徹無比、鉄面皮の〝プロレスラー・ハンター〟ミルコ・クロコップが激突するのだ。

もちろん、K—1ルールだ。

でも、これはK—1のワクの中の〝頂上対決〟ではない。

〝K—1頂上対決〟ではなく、なんの競技名も付かない〝ザ・頂上対決〟だ。

イメージの中の強者対強者の〝頂上対決〟だ。

サップは競技の壁も、技術の壁もブチ壊すパワーを見せつけ、いまや芸能界の壁をもブチ壊し、突進し続けている。

ミルコは久々のK—1ルールでの試合となるが、総合をやることによって格段の試合度胸を身につけ、試合ごとに進化し続けている。

〝頂上対決〟とは、誰もが「見たい!」と思う対決のことを言う。マニアだけが見たいと思ってもアウト。一般ファンだけが見たいと思ってもバッド。まぁ見てみたいかなぁと思わせるくらいでは、まったくペケ。

強烈に「見たい」と思わせる正体不明の動機の塊のようなものが、人々に芽生える対決のことを言う。

そして、予想がついてしまったら〝頂上対決〟の資格はぜ〜んぜんない。まったく

来まで、みんなのハートを
ちゃうぞ♥

## 3・30 たまアリでサップvsミルコ戦実現!!

# 頂上対

# こういうこと

予測不可能でなければならない。

まったくサップvsミルコは、いくら石井館長が第一線を退いたリスタート時期とはいえ、今後のK―1にこれ以上のタマがあるのか？　と、こっちが心配してしまうような仰天カードだ。

一方、プロレス界の切り札となる〝頂上対決〟というのはなんだろうか？

破壊王vsムタか？　三沢vs蝶野か？　武藤vs蝶野か？　永田vs秋山か？　武藤vs三沢か？

小川vs高山か？　まさか川田vs健介か？

もしこれらが実現すれば、たしかにいいカードだし、大いに盛り上がることは間違いない。

でも、それは現時点では〝プロレスの頂上対決〟というワクの中にスッポリ収まることになる。

つまり、いまは「誰vs誰」ということで攻めるよりも、プロレスの概念と実体を確立し、プロレスそのものを世間に対して突きつけていく時期なのだ。

奇しくも、K―1、『PRIDE』は共に3月からリスタートする。

K―1は、ここまでくるのに10年かかった。

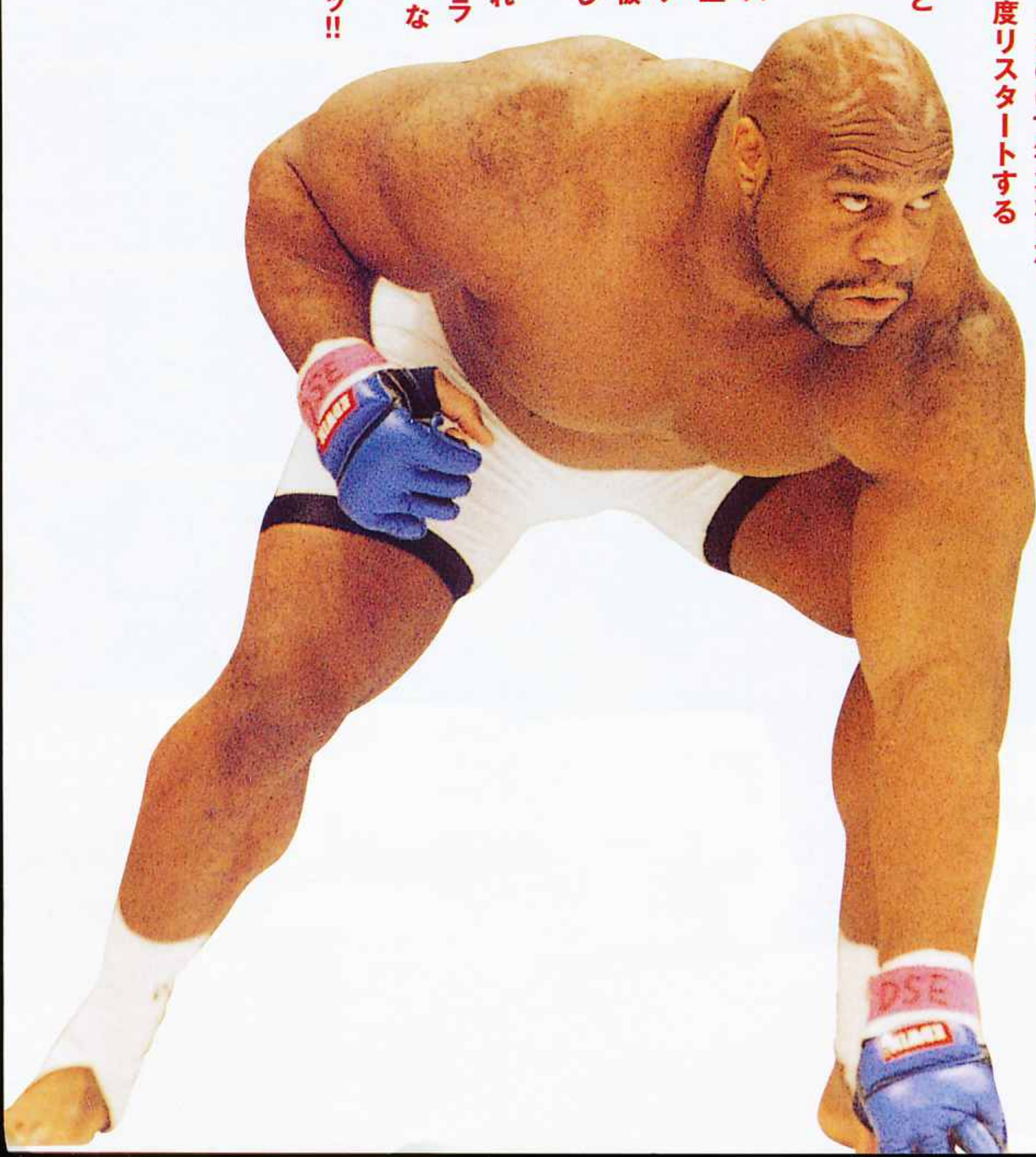
プロレスももう一度リスタートするしかない。

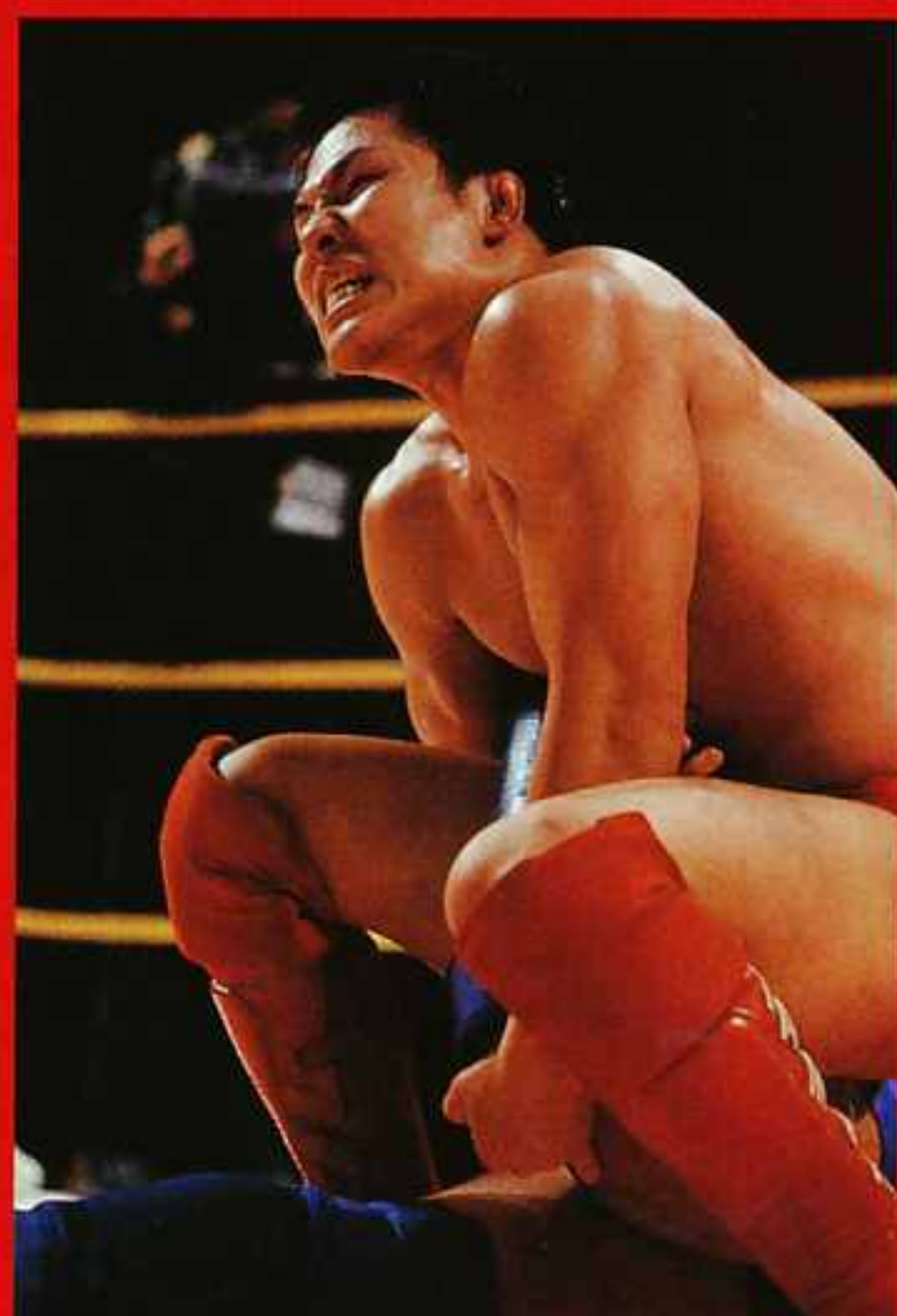
大衆からコソコソと逃げずに、たとえ矢のように突っ込まれて血まみれになりながらも、プロレスは「世間のド真ん中」を目指して歩いていくしかない。〝マナ板の上の鯉〟になるしかないのだ。

そう覚悟しなければ、永久にプロレスラー同士の〝頂上対決〟などはありえない。

生きてますかーーッ!!

## コアファンから大衆ま

# 逮捕しちゃ

## 2003年2月15日　U-STYLE旗揚げ

# 蘇ったUWFの再興と再考

2月15日、遂に旗揚げしたU-STYLE。超満員の観衆が集まり大成功となったが、“VT全盛時代のU”は、やはりいくつかの課題も浮かび上がってきた。大会翌日、パンクラス大阪大会に冨宅の試合を見に行くという田村を新幹線車内で独占キャッチ。U-STYLEの課題と可能性を語ってもらった。


聞き手／堀江ガンツ
試合撮影／平工幸雄
車内撮影／乾晋也
designed by matsu(Two three)


### 旗揚げ戦翌日　独占インタビュー

# 田村潔司

## 全選手入場式で凄い声援をもらった時、「この世界に入ってよかった」という気持ちになった

U-STYLE

Kiyoshi Tamura

――さて、田村さん。昨日は遂に念願のU・STYLEを旗揚げしたわけですけど……って、なんでインタビュー中にメール打ってるんですか！

**田村** いやいや（笑）、ちょっとオタクの編集長にメール打とうと思って。

――何か緊急のご報告ですか？

**田村** いや、昨日はPPVの解説やってもらったんで、「昨日はあれからどうしました？」ってメールを打ったら、「あれから（坂田）亘クンと焼肉を食べに行きました」って返事がきたんで、「なんで俺は誘われてないんですか？」っていうことと、「新幹線が満席で、いまガンツとピッタリ隣の席で気分が悪いです」って（笑）。

――（無視して）さて、旗揚げ戦から一夜明けて、いまの率直な気持ちをお伺いします！

**田村** もうメールの話はいいの？（笑）。う～ん、旗揚げを終えて、どんなもんだろうねぇ。ま、興行っていうのはお客さんがどう思うかがすべてだから、こっちの満足度が低くても、お客さんに喜んでもらえたら、それはそれでOKかな、と。

――では、田村さん的には満足度が低かったんですか？

**田村** 俺的にはあんまり良くなかったかな。多分、相手が悪かったんだろうね（笑）。

――あ、そこで坂田さんのせいにする！酷い男がいたもんだ（笑）。

**田村** でも、ホント昨日はお客さんの雰囲気に助けられましたね。

――確かに昨日の会場の雰囲気は素晴らしかったですね。心からUスタイルの復活を待っていたファンが集まったような、純度の高い客層で。

**田村** うん。見方をわかってるお客さんが多かったよね。だから、これを続けていくことによって、Uスタイルの見方がもっと浸透していって、今以上にいい形になると思うから、これからが大事でしょうね。逆にガンツから見て、昨日はどうだった？

――個人的な感想を言えば、田村さんは満足してないみたいですけど、メインについては文句ナシですね。

**田村** マ、マジで⁉ ありがとう（笑）。

――あと上山（龍紀）vs伊藤（博之）戦もOK。でも、その他の試合に関しては「これがUWF」とはまだ言えない気がしましたね。

**田村** うんうん。俺も上山vs伊藤戦に関しては、技術の攻防も見せられたと思うし、気迫も全面に出てたから、ガンツの言った通り、いい内容の試合だった思うよ。昨日の時点で言えば、全然合格点。

――伊藤選手のデビュー以来のベストバウトという声も多いですよね。

**田村** 伊藤はいいね。後楽園で門馬（秀貴）選手とやった彼のデビュー戦を見てるんだけど、技術はなくても気持ちで前に行ってたから、凄い印象に残ってるんだよね。それこそ今、単純に強い選手っていうのはいると思うけど、そういう気迫を全面に出す選手は少なくなってきてるから、その部分で彼はこのスタイル向きの選手なのかなと思いますね。

――確かに伊藤選手のデビュー戦って、昔のU系団体の新人デビュー戦みたいな、技術よりも気持ちが伝わってくる試合でしたよね。

**田村** そうそう。またちょっと昔とは違うけど、雰囲気的にはそんな感じだよね。あとは彼が向上心を持って練習して、上手さを兼ね備えていけばいい選手になるから、努力してもらいたい選手ですね。ぶっちゃけ、上山とは技術レベルの差があったから、ウチの佐々木（恭介）とかとやらせたら面白い試合になるかなと。

――では、いろいろ課題はあったと思いますけど、とりあえず旗揚げにこぎ着けたということへの達成感や安堵感ってありますか？

**田村** いや、達成感や安堵感よりプレッシャーの方が大きいね。これがゴールじゃなくて、続けていかなければならない立場だから。ただ、全選手入場式で凄い声援をもらった時は、「この世界に入ってよかったな」っていう気持ちにさせてもらったから。あんな気持ちになったのって、パトリック・スミスとやった時（95・12・9名古屋レインボーホール）の入場で感じて以来、2度目ですね。あの体で声援を体感する感じというのはあれ以来。ホントありがたいですよね。

――そして、その大歓声を受けて、田村さんが旗揚げの挨拶に立つのかと思ったら、

2003.2.15 ディファ有明

## U-STYLE 旗揚げ戦 PUTI REVIEW

**●藤井克久vs越後隆×**

［1分33秒、ダブルリストロック］

U-STYLEの記念すべきオープニングマッチは、昨年からUFO所属となり、小川直也のパートナーを努める藤井とU-FILE唯一の“純プロレスラー”越後隆の一戦。藤井は、ゴングと同時に打撃で追いつめ、スープレックスでブン投げ、ガッチリ腕を暴風雨のような完勝劇。その自信満々のふてぶてしさは、VTよりU-STYLEで映える！

**●原学vs木村直生×**

［7分41秒、スリーパーホールド］

パト期待の若手、原学のセコンドは“仕込みの鬼”臼田となぜかあの『LEGEND』で横井と対戦した謎の男ブルドーザー・ジョージ。対するは坂田道場の木村直生。試合は、Uスタイルというより、初期パトラーツを思わせる、ゴツゴツしたと選手の息づかいが聞こえてくるような展開。最後は豪快なジャーマンから裸絞めで原が勝利。

佐伯（繁プロデューサー）さんが出てきてズッコケましたけどね（笑）。

**田村**　好きなんだよ、佐伯さんは前に出るのが（笑）。だからその辺は百獣（kg）の王に全面に出てきてもらって。ただ、前に出るのが好きな割りには上がっちゃって、噛み倒しちゃうのが佐伯繁七不思議の一つなんだけど（笑）。

――また声も上擦っちゃって（笑）。

**田村**　そうそう（笑）。

――体格以外、あんなに貫禄のないプロデューサーもいないですからね（笑）。

**田村**　まぁ、それがいいところじゃないの？（笑）。

――で、試合の話に戻りたいんですけど、田村さん自身は、どの辺りに満足いってないんですか？

**田村**　もうちょっと、強さと上手さを見せたかったんだけど、あんまり見せられなかったんで、その辺だね。

――あのスタイルで闘うのは、KOKの前のヨープ・カステルとのリングス無差別級タイトルマッチ以来だと思うんですけど、その辺のブランクって影響しましたか？

**田村**　いや、俺的にはリングスというより、このスタイルをやるのはUインター以来かなって。

集客が難しいディファで、最大限席数を増やしての超満員（1822人）となったU-STYLE旗揚げ戦。ホントに見たいファンが集まった非常に心地よい空間だった。

――リングスとUスタイルは違うということですか？

**田村**　うん。リングスというのは俺が生き残らなければいけない闘いだったから、Uスタイルっていうものじゃないんだよなぁ。俺が考えるUスタイルっていうのは、一つの団体というか、同じ目的意識を持った人たちが集まって、みんなで一つのものを盛り上げていこうというものだから。でも、リングスの場合、俺は外から来て、リングスに対して喧嘩を売ってたような心境で乗り込んでいったから。どちらかというと、リングスは“スタイル”より“闘い”だったから。

――じゃあ、Uインターの時はスタイルの美しさを追及して、リングスの時は相手を打ち負かすことのほうに重点を置いていた、と。

**田村**　そうそう。Uインターの場合はトップは髙田さんで、参謀は安生さん、宮戸さん、その下に田村、垣原がいて、さらにその下にも若い選手がいたから、そういう図式っていうものが凄いきれいにできてたし、みんなそれぞれの立場の仕事をしっかりこなしていたから、団体レベルでスタイルが完成してたんだよね。それは宮戸さんの戦略であり考えだったから、Uインターの裏MVPは宮戸さんだよね。決して鈴木健じゃないから。あの人がやったように見せてるけど、実際は宮戸さんだから。

――そういう団体レベルではなく、個々の試合内容にしてもUインター時代の試合スタイルっていうのが、U-STYLEってことですか？

**田村**　そうだねぇ。格闘スタイルの幅をUインターみたいなああいうスタイルでもいいし……もう、ガンツはマニアックだなぁ（笑）。

――そういう雑誌なんですよ！（笑）。

**田村**　でも、あんまり細かく言うとややこしくなるし、スタイル的にも向上するものだから。自分の理想に近づけるスタイルに持っていくように努力するよ。

――田村さんが昨日やった、水車落としから立ちアキレスを決めて逆片エビっていうのは、Uインター時代に髙田戦とかで見せていた動きですよね？

**田村**　俺も何気に研究してるんだよ？　U

**●村浜武洋vs大久保一樹×**

[7分13秒、腕ひしぎ十字固め]

いろんな意味で観客に強い印象を残した一戦。U-STYLEを“プロレス”と捉える村浜は、自らロープに走り、ドロップキックを放ち、関節を極められれば、必要以上に苦悶の表情で決死のロープエスケープ。確かにこれはプロレス。しかし、これはUスタイルなのか？「観客の歓声がすべて」という村浜の2戦目に大注目だ。

**●上山龍紀vs伊藤博之×**

[8分47秒、アンクルホールド]

ある意味、U-STYLEの鍵を握る存在ともいえる上山とリングス最後の新人・伊藤の試合は、この日のベストバウトの声も多く聞かれた好勝負に。田村を思わせる見事な動きを見せる上山と、気迫を全面に出し前に前に出ていく伊藤の闘いは、かつての田村vs山本宜久のような闘いに成長する可能性すら感じられた。

**●滑川康仁vs佐々木恭介×**

[9分14秒、腹固め]

黒のショートタイツに黒のレガース姿で登場した滑川と、“U-FILEの鉄人”佐々木の一戦は、滑川のワンサイドになるかとも思われたが、佐々木が飛びつき十字を始めとする多彩な技でエスケープを奪っていく意外な展開。最後は腹固めがズバリ決まり滑川が逆転勝ちしたが、観客に佐々木の名前を刻みつけた試合となった。

インターのDVDを見たりとかして、その時の会場の雰囲気とか、お客さんのツボとか、知識の中で留めておかなければいけないから。まぁ、それが出たんだろうね（笑）。

——田村さんの試合に限らず、昨日の大会は、かつてのUWFの名場面みたいな動きが随所に散りばめられていて、やっぱりそういう場面でお客さんも盛り上がっていましたよね。

**田村**　うん、そういう見方で見てもらってもいいしね。ただ、それは何度も続くものじゃないから。昨日はお客さんの声援に助けられた部分があったけど、今後、選手は今日からでも気持ちを切り替えて、生き残るために頑張らないと、ドンドン自分が消えていく立場になると思うし、もしかして今のメンバーもガラっと変わって新しいのがボンと出てくるかもしれないから。もっともっとこのスタイルにプライドを持って努力をしてほしいなと思うんで。

——現状維持じゃしょうがないですからね。

**田村**　だから、昔でいう俺みたいな存在？　我がままでもいいから、ヘンなヤツに出てきてほしいなって。

——田村二世はなかなか出てこない気がしますね（笑）、出てほしいですけど。現時点で、若い選手の試合について注文はありますか？

**田村**　それは俺自身が満足できる試合をしてないから、大きな立場で言えないんで、あえて伏せておいて、それぞれ各選手に考えてもらいたいかなって。

——じゃあ、ボクから観た感想を言っちゃいますけど、田村選手の試合は緊張感があったんですけど、他の試合にはそれを感じなかったんですよね。

**田村**　ああ、そう！　もっと俺のこと褒めてよ（笑）。

——そういう話じゃないですよ！（笑）。その緊張感を感じなかった原因をボクなりに分析すると、ひとつは、みんなロープエスケープを簡単にし過ぎだと思うんですよね。エスケープは減点なのに、ちっともそれが感じられないというか。それじゃ5ロストポイント制の意味がないですよ。

**田村**　確かにそれはあるね。でも、いまはまだそれでいいんじゃないの？　若い選手はこれから勉強してもらえれば。もう、ガンツは深すぎるから（苦笑）。

——でも、重要なことじゃないですか？

**田村**　まぁ、そういう意見はあると思うんだけど、俺があえて言うんじゃなくて、そういうガンツの意見を聞いて、選手がどんな判断をするかが大事だと思うから。自己満足で終わる奴もいるだろうし、もっともっと自分に課題を課して練習する人もいるだろうし、そこで分かれると思うから。それはどんどん書いてよ。

——あと、格闘技の選手がUスタイルをやる場合、「プロレスだ」と思ってやるんじゃなく、「UWF」という「プロレス」とはまた別のものをやると思わないと、Uスタイルにならない気がするんですよ。

**田村**　そうだね。だから何度も言うけど、そういう意味でも、このスタイルにプライドを持って、練習してほしい。

——宮戸さんなんかもプロレスっていう言葉を真剣勝負の対義語みたいに使ったら烈火のごとく怒るじゃないですか。それが多分、U・STYLEにもあてはまるんじゃないかなと思うんですよ。

**田村**　そうそうそう。いいこと言うねぇ！　座布団あげたいよ（笑）。

——ありがとうございます（笑）。だから田村さんが旗揚げ前に「プロレスリング」っていう宣言をしましたけど、もうこれ以降は一切「プロレス」っていう言葉は使わないほうがいいと思うんです。U・STYLEをいま「プロレスだ」って言うのは、ある意味「格闘技だ」って言う以上に、誤解される気がしますね。

**田村**　なるほど。じゃあ「プロレスリング」っていうのを取る！

——いや、取らなくてもいいと思うんですけど（笑）、それぐらい、いまは「プロレス」という言葉が、「格闘技」からかけ離れすぎてると思うんですよ。U・STYLEは、そういう意味の「プロレス」じゃないですからね。

**田村**　そうねぇ。じゃあ、そのへんをちょっと変えていきますか！

——ゼヒ変えて下さい！　だって、かつてのUインターの選手は、みんな「格闘技」として「プロレス」をやってたんじゃないですか？

**田村**　そうだろうね。ただ目的意識がそれぞれ違うと思うから、もし仮に純プロレスラーがUスタイルをやるとしたら、ホントにUスタイルを勉強しなきゃならないだろうし、逆に格闘技界からUスタイルをやる人も、違う意味で真面目にUスタイルを練習をしなきゃならないと思うから。あとは各選手がいかに自分のスタイルにプライドを持ってやるかっていう問題だから、意識が分かれてもいいんじゃないの？

——でも、Uインターの成功は思想を統一したからじゃないですか？　だからボクは"田村Uスタイル"を築き上げてほしいんですけど、そこで問題提起となるのが、村浜選手の試合とコメントですよ！

**田村**　あ、そこに繋がるんだ。長い前振りだねぇ（笑）。

——はい（笑）。村浜選手の試合後のコメントをプリントしてきたんで、ちょっと読んでもらえますか？

**田村**　ふむふむ。

——で、率直な感想をお聞きしたいんですけど？

**田村**　う～ん、イキがいいよね。

——「これがスタイルです！」っていう発言もしてるんですけど、これについてはどうですか？

**田村**　村浜選手がそう思うんだったらUスタイルなんじゃないの？

——あ、それでいいんですか（笑）。

**田村**　俺はもう広い視野を持ってるから、

## 俺が考えるUスタイルというのは、同じ目的意識を持った人が集って、みんなで作りあげるものだから

リングアナはかつてUインター、キングダムでアナウンスを努めた吉永孝宏氏（左）。PPV実況はリングス中継でお馴染み高柳アナ。ゲスト解説はU-STYLE参戦が期待されるTKと前日まで名前も知らない選手が多数いた本誌鬼畜編集長・山口日昇。後半は三島☆ド根性ノ助も加わった。

# 田村潔司
(U-FILE CAMP.com)

[11分46秒、フロントネックロック]

# 坂田 亘
(EVOLUTION)

彼の発言も全然正論だと思うし、みんなが右に習えで個性もなく育つんだったら、こういう選手は貴重な選手だと思うしね。だから逆に俺が望むのは、こういう発言を聞いて、U・FILEの若い選手がどう思うのか、むしろそっちを聞いてみたい。俺はもう「何言ってんの?」っていう年じゃないから（笑）。俺からしたら、いい投げかけをしてくれてると思うよ。これはまた奥が深くなったねぇ（笑）。

——そういう意味では、村浜発言に反発するような選手がいないと、U・STYLEの未来は暗いと思いますよ。それだけこだわりが希薄だってことですから。

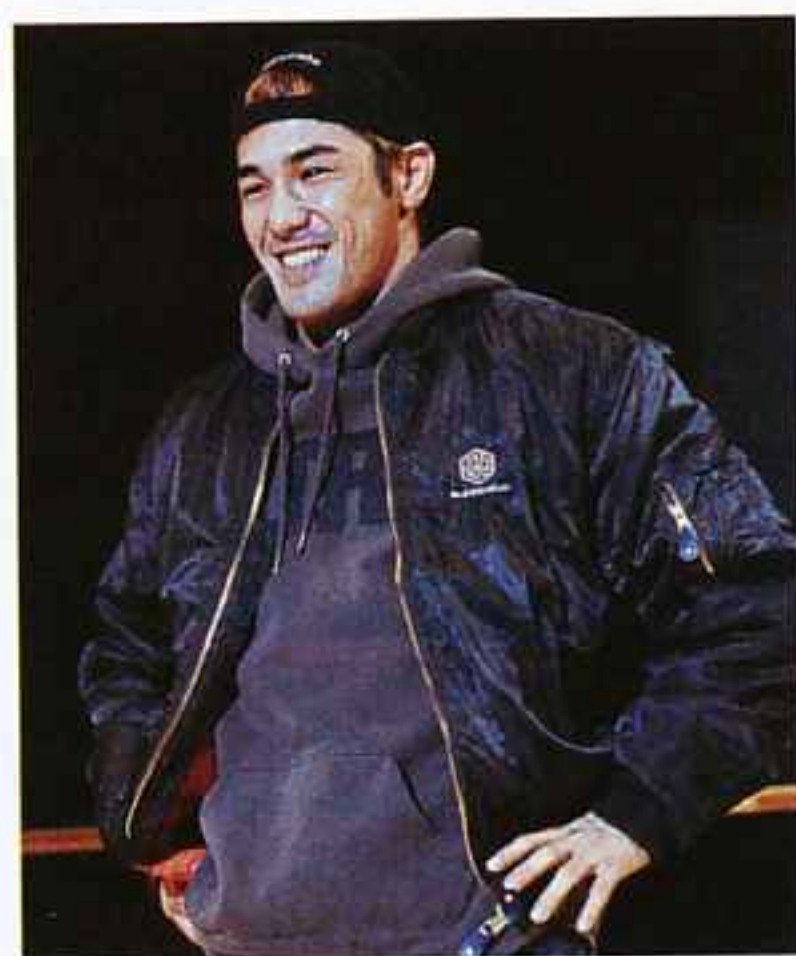
**田村**　だから、U・STYLEっていうはまだ完成されてないから、これから村浜Uスタイル派、田村スタイルE派と分かれてどっちが生き残るのかを考えても面白いと思うよ。俺のスタイルっていうのはガンツが言ってくれたように、緊張感もあり、動きも見せれてっていうスタイルだから。これを俺は変えるつもりはないけど、こういう村浜選手のような発言をする人がいないと、逆に俺のスタイルも光らないと思うから、いいとは思うけどね。実際、昨日の試合でも、村浜選手がやっぱり一部の部分では光ってたと思うし、あの試合と発言によって、ここで話題にもなってるんだし。逆に俺は「じゃあ他の選手は何をしてるんだ」っていう気持ちの方が強いから。俺の意見じゃなくて今後U・STYLEを作り上げていく人間とかがどう感じるのか興味はあるね。ただ、彼に一言あるとしたら、「このスタイルをあまりなめるな」だね。

——ボクもロープに飛ぶとか、そういうことは有効なら全然いいと思うんですよ。桜庭選手が『PRIDE』でモンゴリアン・チョップやるのと一緒ですから。

# U-STYLE Kiyoshi Tamura

**田村**　言いたいことは非常によくわかるよ（笑）。

——ただ、ロープに飛んで帰ってきた村浜選手に、大久保（一樹）ちゃんが2回ラリアット気味の掌抵を空振りしてるんですよね。あれをやったらおしまいだと思うんですよ（笑）。

**田村**　もういいじゃんそれは（笑）。こっから先は非常にマニアックな部分だから。じゃあ、こうしよう！　上山派と村浜派で分けよう。上山がマイクを持って「U・STYLEの〝U〟は、上山の〝U〟だ！　お前はM・STYLEだ！」って言うの。くだらない？（笑）。

旗揚げ第2戦（4・6ディファ）のメインで、いきなり田村と対戦することが発表された三島☆ド根性之助。格闘技のスタートは“リングスごっこ”からというこのシューターはどんな“U”を見せるか?

——気が遠くなるほど、くだらないですねぇ（笑）。じゃあ、そのM・STYLEの村浜選手が「田村潔司、俺と闘え！」ってマイクアピールしてましたけど、それは受けて立ちますか?

**田村**　うん……受けて立つ、受けて立つ…………受けて立ってもいいんだけど……まあ考えとくよ（笑）。

——じゃあ逆に、なんで旗揚げ2戦目で三島☆ド根性ノ助選手とやろうと思ったんですか?

**田村**　う〜ん、なんとなく面白いかなって（笑）。なんか三島選手とやったら予想がつかないでしょ?

——まったくつきません！

**田村**　だから、三島選手がこのスタイルでどういうふうに化けるのかなって。そういう興味。

——その三島選手も村浜選手に「お前、プロレスできんのか?　できるわけないやろ！」って言われて、「ちょっとムカつきました」って言ってましたけどね（笑）。

**田村**　そりゃムカックだろうね（笑）。

——だから正直言って、現時点では「田村vs三島」よりも「村浜vs三島」の方が見たい気もしますけどね。

**田村**　ああ、それはいいねぇ！　やろうか！

——また簡単に言いますね（笑）。

**田村**　だって面白そうじゃん。

——U・STYLEでもいいですけど、DEEPやって、勝った方がU・STYLEで田村戦っていうのが、個人的には一番面白いと思いますけどね。

**田村**　いや、そこはあんまりリンクさせないほうがいいよ。あの選手はプロとしての仕事をまっとうしてるし。

——でも、リングス時代の田村さんは、そんな感じでいろんな試合を勝ち取ってきたじゃないですか。

**田村**　まぁ、そのへんが格闘技でありプロレスでありだから。でも、今後そのへんは結果が出てくるよ。U・STYLEっていう団体は、自分が経験したことを元にやってるから、自ずとそういうスタイルは確立していくと思うから。ただ、あまりお客さんが求めてることをやり過ぎても、「もっともっと」になっちゃうから。それは純プロレスでも同じで、いまは大技が大技でなくなっちゃってるでしょ?　だから村浜選手が次にロープに飛んでもそれはインパクトがないし、そうなった場合どうするの

試合もマイクも問題提起三昧!!

## 村浜武洋は是か非か！「これがUスタイルです！」

**試合では、3度ロープに飛び、悲鳴をあげながらのロープブレイクと、観客を沸かせつつもUスタイルというより、新日ジュニアに近い闘いを見せた村浜。**
**試合後、マイクを握り「三島、お前プロレスできるんか?　田村、逃げるなよ！」と挑発。そしてコメントルームでは、自信満々に独演会を行うなど〝U〟に対する問題提起三昧！　はたして、これは〝Uスタイル〟なのか?　そしてU-STYLEにとって、村浜は是か非か?　以下、控え室コメント(ほぼ)全文を再録する。**

「完璧な仕事でしょ?　完璧でしたよ！　大久保君の良さを引き出して、引き出しすぎて負けそうになりましたけど。相手の力を7、8引き出して勝つ。これがUスタイルですよ。プロレスリングですよ！

次のK－1MAXにも弾みがついたのではないかと思います。(他の試合とは異質でしたが?)これがUスタイルの形です。ボクはUスタイルを貫きます。他の試合は、新生UWFじゃないですか?　昔に遡ってるだけでしたよね?　お客さんの反応がすべてだと思いますよ。他の試合も沸いてたと思いますけど、どうでした、ボクの試合?　ドッカンドッカン沸いてたでしょ?　自分の試合はちゃんとプロレスになってた。ボクがU－STYLEを作っていきます。

(三島は)プロレスのリングに上がるなら、プロレスの技術を覚えてもらわないと。なんで、プロレスデビュー戦で田村さんとできるねん。ボクはプロレス3年間やってきましたよ。今日の田村さんの試合は坂田さんということで、どんな試合になるかわかりますよ。見るべきは次の三島戦ですよね。田村選手の技量をみさせてもらいますよ」

かっていうのもあるから。自分のあるラインを押したり引いたりしないと、お客さんを満足させるのは難しいよね。……ああ、もうマニアック過ぎるなぁ！

――ガハハハ！　では次はライトな質問で（笑）。旗揚げ戦を終えてみて、このスタイルでやっていけるという手応えは感じましたか？

**田村**　ない！

――ないんですか！（笑）。

**田村**　声を大にして「ある！」って言いたいんだけど、「ない」って言っておいて続けていけるように努力するよ。

――では、いま現在、頭の中に描いているもので、U・STYLEをどんな形にしていきたいっていうのはありますか？

## （村浜発言は）全然OK。ただ、彼に一言あるとしたら「Uスタイルをあまりなめるな」だね

**田村**　それは変にこっちが作り上げていくんじゃなくて、やっていけば完成するから。今回だって、そういう村浜選手の発言によって新しい流れが出てきたわけでしょ？　だから選手が自己プロデュースしてU・STYLEをかき回していくようになれば、ドンドン選手も育ってくると思うし。旗揚げメンバー的にパンチはなかったと思うけど、今後作り上げていくうちに「こういうメンバーが出てたんだ」っていうふうに全然違ったものになる可能性もあるから、その部分に関しては続けていけば自然と形になるっていう確信はあるかな。

――そういう意味では、今の田村選手の最大の使命としては、ホントの〝U〟の選手を育てていって欲しいなと思いますし、一方、佐伯さんにはU・STYLEが面白くなる選手をドンドンブッキングしてもらいたいですね。

**田村**　うんうん。佐伯さんって凄いマニアックだから、俺が考えるのと発想が180度違うんだよね。そこが面白いのかもしれないし。俺と佐伯さんっていうのは、水と油っていう表現プラス、お互いないものを持ってるとも言えるから、そういう意味ではいい関係かもしれないね。

――ホントに佐伯さんは発想自体が「なんでもアリ」ですからね。だって、エル・カネックを呼んだかと思えば、この間は「シューティングジム横浜の選手が出るんですよ！」って興奮気味に語ったり、そっちもかい！（笑）。

**田村**　幅広いよね（笑）。でも、佐伯さんの〝凄い〟っていうのは、自分にとって〝凄い〟であって、周りからしたら凄くなかったりするんだよね（笑）。

――そんな、DEEPの核心をつかないでくださいよ！（笑）。

**田村**　ハハハハハ！

――まぁ、佐伯さんはともかく、次回大会は田村選手の頭の中で全部出来上がっているんですか？

**田村**　全然出来てないなぁ。でも、一回目やって流れができたし、動かせるような選手が出てきたから、さっきガンツが言った三島vs村浜っていうのも面白いだろうし、もう一回、伊藤と上山をやらせてもいいだろうし、そのへんは選手に自己アピールをしてもらって、俺が動かすより選手に動かしてもらいたいから、もう適当かな。

――適当ですか！（笑）。

**田村**　考えてるようで考えてないから（笑）。だって今回だってホント適当だからね！

――堂々と言わないでくださいよ！（笑）。

**田村**　ルールにしても、改善する点も多いし、そもそも「全試合15分1本勝負」っていうのも、「15分でいいんじゃないの？」って感じで、ホント適当だったから。まぁ、適当に頑張ります！

――いやいや、田村さんがいくら適当と言っても、こちらはホントの意味での〝U〟を勝手に期待してますから（笑）。

**田村**　そんなプレッシャーかけないでよ！　だからUを復活というよりも、新しく作り上げていけるよう頑張ります。「復活」っていうと、言葉が重いからね。ああ～、『紙プロ』の活字は怖いなぁ～。まぁ、どんな記事になるか期待してます。

――はい。じゃあ、適当にまとめさせていただきます（笑）。

［03年2月16日／大阪へ向かう新幹線「のぞみ」グリーン車にて収録］

PANCRASE 2003 HYBRID TOUR
[2.16 グランキューブ大阪]

構成／堀江ガンツ　撮影／森鷹博
designed by matsu (Two three)

禁オ●ニーで挑むもアルメイダの牙城崩せず!

# 美濃輪、完封負け

「スクワットからやり直します!」

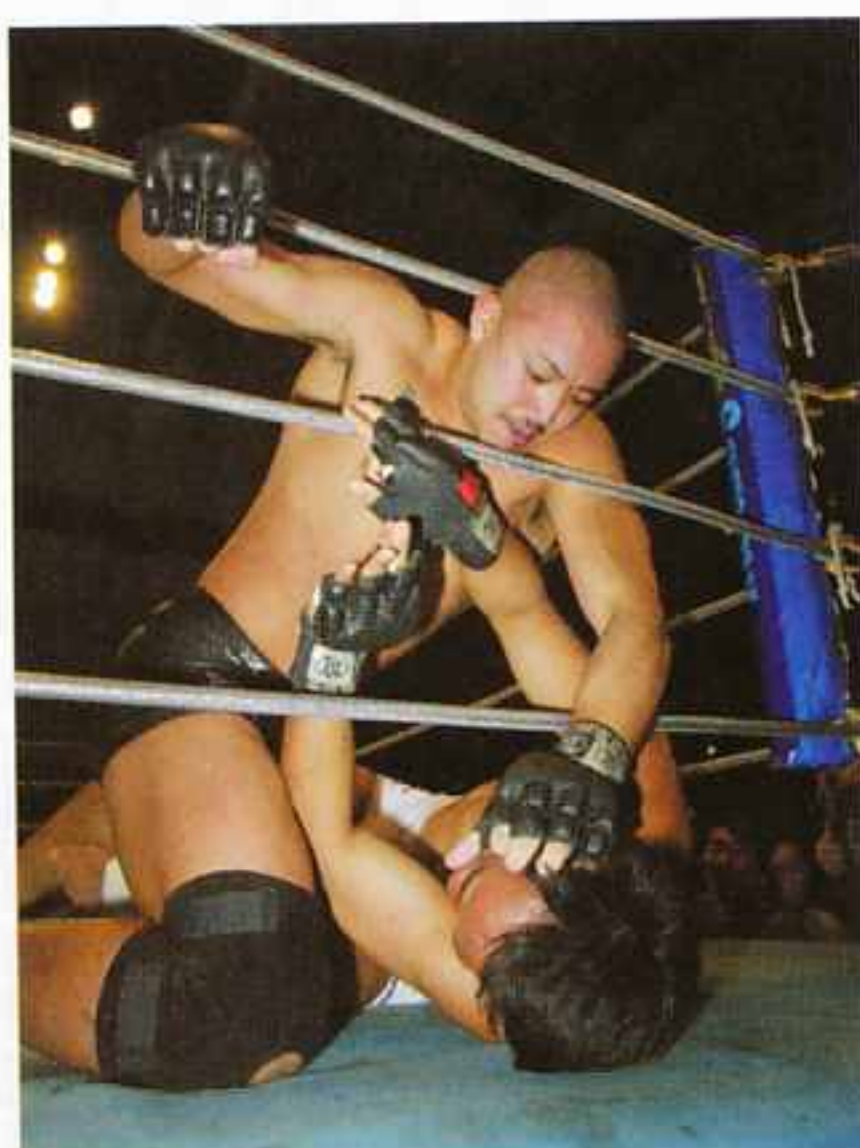
アルメイダのセコンドには師匠である名伯楽ヘンゾ・グレイシーがつき、絶妙のアドバイスで試合を支配。

試合開始早々アルメイダは組み付くと、あっという間にフロントチョーク。美濃輪が「落ちるまで頑張るつもりだった」というほどガッチリ入っていたが、分析不可能な力でなんとか脱出。

判定はもちろん3Rを通じて試合を支配したアルメイダ。敗れた美濃輪は、「もう1回ゼロからやり直したいとおもいます。まずはスクワットから」と試合では見られなかった"らしさ"を爆発させていた。

**ヒカルド・アルメイダ**（ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー）　3R判定 3-0　**美濃輪育久**（パンクラスism）

美濃輪を最も苦しめたのはこのオモプラッタ。美濃輪は北岡とのスパーでオモプラッタ対策は積んでいたが、北岡とアルメイダの足の長さの違いまでは計算に入れておらず大苦戦。

昨年〝マイク〟でパンクラスに問題提起した郷野は、マット・ヒュームタイプのくせ者チェール・シェノンに大苦戦。ヒザ蹴りが金的に入りその減点でドローとなったが、ヘイズマン戦を前に弾みをつけることはできなかった。

謙吾は地元関西の空手家、奥山孝司と対戦。体格差でプレッシャーを掛けていながら自分がダウンを奪われるという謙吾らしさを存分にみせながらも後半押さえ込んで判定勝ち。

パンクラスで最も哀愁が漂う男・冨宅飛駈が久々の試合で星野勇二と対戦。フロントチョークを極めかける場面もあったが、それ以外は防戦一方の判定負け。試合後、リングにオープンフィンガーグローブを置き去りにした冨宅。これは何を意味するのか!?

RJWの芦沢健市はローラン・ファーブルにチョークで一本勝ちすると、マイクを持ち「俺のケンカ買ってくれ!」とウェルター級王者・國奥とランキング1位伊藤への挑戦をブチあげた。

3.16『PRIDE.25』でノゲイラの持つPRIDEヘビー級王座に挑戦

# エメリヤーエンコ・ヒョードル

## 「ヴォルク・ハン格闘術との出会い」

## “狼の伝言”から2年――今、時は来た!

日本デビュー以来、その恐るべき強さで快進撃を続けてきたエメリヤーエンコ・ヒョードルが、遂にノゲイラの持つPRIDEヘビー級王座に挑戦することが決定した。師匠ヴォルク・ハンの悲願でもある打倒・ノゲイラをヒョードルは果たすことができるのか? ハン、ヒョードル、ノゲイラをめぐるドラマをここでは振り返ってみよう。

文／堀江ガンツ　designed by matsu(Two three)

Emelianenko Fedor

*Emelianenko Fedor*

狼からミノタウロへ

優勝おめでとう。
今日は君が最強の男だと認めよう。
私は歳を取りすぎてしまったので、
もう君に逢うことはないかもしれない。
しかし、私の魂を受け継いだ弟子たちが、
近い将来君を困らせるだろうから、
そのときはよろしくたのむ。

ロシアの狼　ヴォルク・ハン

２００１年2月24日。第2回『KOKトーナメント』に見事優勝したアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラは、打ち上げパーティ会場で、彼がこの大会で唯一一本勝ちを奪えなかった相手である老兵ヴォルク・ハンに記念のサインを求めた。そのとき、ハンが書き込んだノゲイラへのメッセージが冒頭の言葉である。

「私はマエダの兵隊だ！」という、リングス史に残る名台詞と共に、39歳でKOKへ最初で最後の出陣をし、そして敗れたハン。リングスの幻想を一身に背負っていた男が最後に残したのがこの言葉だった。

「私の魂を受け継いだ弟子が、近い将来君を困らせるだろうから、そのときはよろしくたのむ」

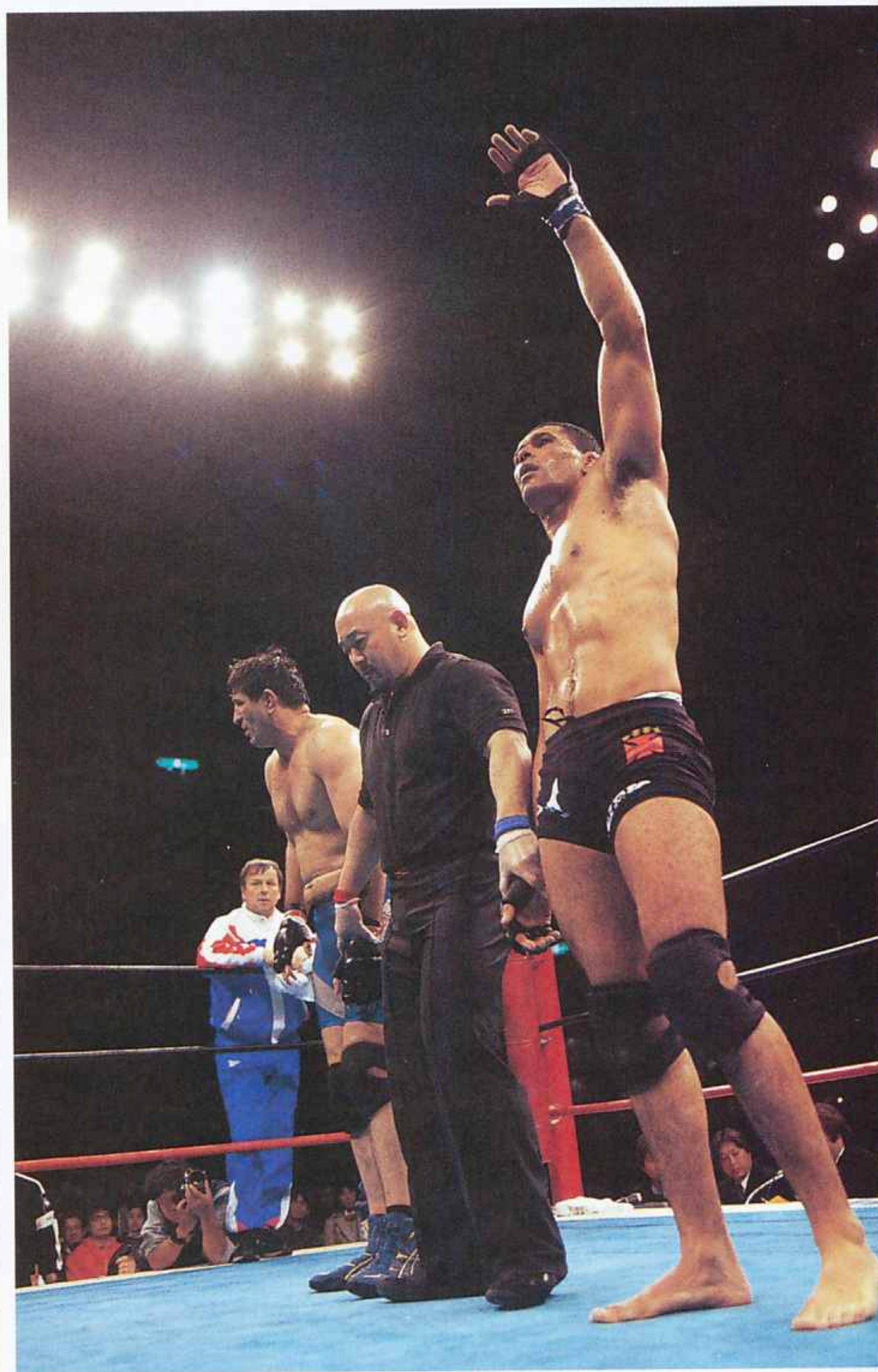
ハンの魂を受け継いだ弟子――その名をエメリヤーエンコ・ヒョードルと言う。

打倒ノゲイラ。それはヴォルク・ハンにとって、第1回『KOKトーナメント』以来の悲願だった。この時期ハンは、長年の激闘で慢性化していたヒザの怪我が悪化、また格闘技以外のビジネスが本格的に忙しくなってきたこともあり、40歳を目前にして新しいルールに挑戦することは困難と考え、後進に道を譲ろうと考えていた。

しかし、欠場の挨拶とロシア・チームのセコンドのために00年2月26日、第1回『KOK』決勝トーナメントが行われていた日本武道館を訪れたことで、ハンの運命は変わった。セコンドについたハンがそこで目の当たりにしたのは、愛弟子イリューヒン・ミーシャと、盟友アンドレィ・コピィロフが若いブラジル人格闘家に敗れるという衝撃的なシーン。特にその実力は誰もが一目置くコピィロフがノゲイラに敗れたことは、ハンに多大なるショックを与えた。

ロシアが、サンボが、そしてリングスが、ブラジリアン柔術に敗れた。そんな中で自分はフェードアウトしていいのか。自分を見いだしてくれた前田日明が、そして長年応援し続けてくれたファンが自分に打倒ノゲイラ、打倒ブラジルを期待している。どうすべきか？

そう悩んでいるとき、リングス・ロシアのボス、パコージン代表から「リングスの新しいルールに挑戦してみないか。ファンはみんなお前がノゲイラに勝つことを期待している」と声を掛けられた。ハンの返事は瞬間的に「よし、やろう！」だった。

「やる」と決めたその日から、ハンはビジネスの時間を大幅に削り、KOKへの準備に取りかかった。まずハンがKOKに向けて最初に行ったことは、チームを組織することだった。現在のブラジリアン・トップチームやシュートボクセを見れば明らかなように、選手を強くするためにはチームの存在が不可欠。ロシアの軍隊でコマンド・サンボの教官を務めていたハンは、そのことを熟知していたため、まず何より先にKOK用の戦闘集団を組織したのだ。

当時、ロシアはソ連時代と違い、国からスポーツ選手への援助がなくなっていたため、若くて才能があるにも関わらず、練習の場、そして闘いの場がない選手がたくさんいた。ハンはそんな彼らの中から、特に才能のある若者を故郷トゥーラにに集め、プロ格闘技集団を組織した。それが「ヴォルク・ハン格闘術」である。

ヴォルク・ハン格闘術は、トゥーラの小さなサンボ練習場でスタートした。サンボの練習場でも、練習内容はサンボに留まらず、コマンド・サンボ、レスリング、そしてムエタイを取り入れていた。それはコピィロフとミーシャが敗れる姿を見たハンが、「KOKで勝つにはボクシングとレスリングが不可欠」と判断したためで、ハンは道場開設と同時にレスリングとムエタイの専任コーチを雇った。このときハンにムエタイとボクシングを教えたコーチ、ニコライ・ペトコフとの出会いがその後の「ヴォルク・ハン格

リングス・ロシア時代にロシアン・トップチーム勢は、アンドレイ・コピィロフ、コーチキン・ユーリーが第1回『KOK』で、ヴォルク・ハンとラバザノフ・アフメッドが第2回『KOK』で、それぞれノゲイラと対戦し、戦績はロシア勢の4戦全敗。コピィロフ、ハンは判定まで持ち込んでいるが、コーチキン、ラバザノフはいずれも秒殺。はたしてRTT5人目にして最後の刺客ヒョードルは悲願の打倒ノゲイラを達成するか!?

狼の魂を受け継ぎし男、3月16日、いざノゲイラ戦へ出陣！

闘術」を大きく変えることとなる。

「若くて才能のある格闘家を知らないか？　いればゼヒ私の弟子としてチームに入れたい」ハンにそう持ちかけられたとき、ペトコフはすぐさま、自分の故郷に住む一人の物静かな柔道家の顔が頭に浮かんだ。それがエメリヤーエンコ・ヒョードルだった。

ヒョードルは76年ウクライナ共和国で生まれ、2歳のときベルボロという、ロシア南方にあるカスピ海と黒海に挟まれた町に移り住み、少年時代から柔道、サンボに熱中。柔道では州を代表し、ロシア選抜チームにも入っていた。このときヒョードルは24歳。いつまでもアマチュア柔道家としてやっていくわけにはいかない。今後の選択を迫られる年齢にきていた。そんなタイミングで知人のペトコフから声をかけられた。

「トゥーラにハンという面白い男が道場をやっているから見に行かないか？」

ヒョードルは「ハン」という男のことは何も知らなかったが、ペトコフに誘われるがままに、軽い気持ちでトゥーラに行くと、いきなりそこでハンの弟子とスパーリングをさせられた。そしてスパー後、道場のボスであるハンがニッコリ笑ってヒョードルに話しかけた。「非常に強いじゃないか。私が日本でプロ格闘家になれるように君を育て上げるから、すぐに引っ越してきなさい」。ヒョードルがヴォルク・ハン格闘術の入門テストに合格した瞬間だった。

ヒョードルは「リングス」という名前こそ聞いたことはあったが、試合はテレビですら見たことがなかった。しかし、ハンに熱心に誘われ、リングス・ロシアの大会を初めて見た瞬間、「これは私の世界だ！」と確信し、間もなくヴォルク・ハン格闘術に入門をはたしたのだった。また、同時期に入門した若者の中には、ロシア国立全寮制格闘技学校『ラ・シュビ』のエリート、ヴァズィキータ・アターエフ。後のヴォルク・アターエフの姿もあった。

こうしてチームが出来上がると、「ヴォルク・ハン格闘術」のメンバーは練習と実戦に明け暮れた。特にヒョードルは打撃とレスリングに非凡なセンスを見せ、メキメキと実力を上げて、入門からわずか半年足らずで初来日。その後、KOKにも抜擢され、1回戦でブラジルの強豪アローナを下す殊勲を挙げるも、2回戦で目尻を切り、不運なTKO負け。満を持してKOKに参戦したハンも1・2回戦は見事に勝ち抜いたが、準々決勝で宿敵ノゲイラに敗れ、悲願を達成することはできなかった。

この試合を最後にノゲイラはリングスを離脱。ハンも最後のチャレンジを終え、一線を立ち退いたが、それと入れ替わるようにヒョードルが躍進。リングスのヘビー級と無差別級の二冠王にまで君臨することとなった。

そして2002年2月15日。リングス活動休止——。活躍の舞台を失ったヒョードルを『PRIDE』が見逃すわけがなく、再び運命はノゲイラとヒョードルを同じ舞台に上げることとなった。ただ、残念なのは、リングスを誰よりも愛したハンは、リングス活動休止後、これまでより一層ビジネスに力を入れるようになり、格闘技からは少し距離を置かざるを得ない状況になってしまったことだ。事実、ヒョードルもハンと練習する機会はめっきりと減り、コピィロフ、ズーエフのいるエカテリンブルグで練習することが多くなった。

しかし、『PRIDE』で猛威を振るうヒョードルの闘いぶりを見て欲しい。あのド迫力の打撃、素早く脇を差してのテイクダウン、そして寝技での無類の強さ。これこそ、サンボをベースにボクシングとレスリングを加えた「ヴォルク・ハン格闘術」の闘い方そのものではないか。

ヒョードルの肉体には、間違いなくハンの魂が宿っている。

ヴォルク・ハンが作り上げた、最強の格闘マシーン、エメリヤーエンコ・ヒョードル。2003年3月16日、ノゲイラ戦へ出陣！

『狼の伝言』から2年——。

遂に、そのときは来たのだ！

# “破壊神”ヒョードル 惨殺者全リスト

『PRIDE』デビューわずか3戦目で、早くもヘビー級タイトルに王手をかけた我らが“皇帝”ヒョードル。あの“荒馬”ヒーリングを半殺しにしたことで、ようやく『PRIDE』ファンにもその強さが浸透してきたが、その桁外れの強さは初来日当初から際だちまくっていたのだ。というわけで、ここでは、日本で行われたヒョードルの全“惨劇”をプレイバックしてみよう。

構成／堀江ガンツ

designed by matsu(Two three)

## #01 ●vs高田浩也

1R 0'12" KO | 00.9.5 | 後楽園ホール

ヒョードル日本デビュー戦はやっぱり型破り! RJWセントラルの高田浩也をなんとわずか12秒でKOしてしまったのだ! しかも、この時点では打撃を習い始めてわずか5ヶ月だったのだから恐ろしい。デビュー戦からその破壊神ぶりの片鱗は見せていたのだ。

## #02 ●vsヒカルド・アローナ

延長R 判定 | 00.12.22 | 大阪府立体育会館

デビュー戦の圧勝が評価され、わずか2戦目で伝説のKOKトーナメントに大抜擢されると、1回戦でいきなりアブダビ王者アローナに大方の予想を裏切り見事な判定勝ち! これがアローナにとってアブダビ～リングス～PRIDEを通して唯一の敗北であることでも、ヒョードルの底知れぬ強さがわかる。

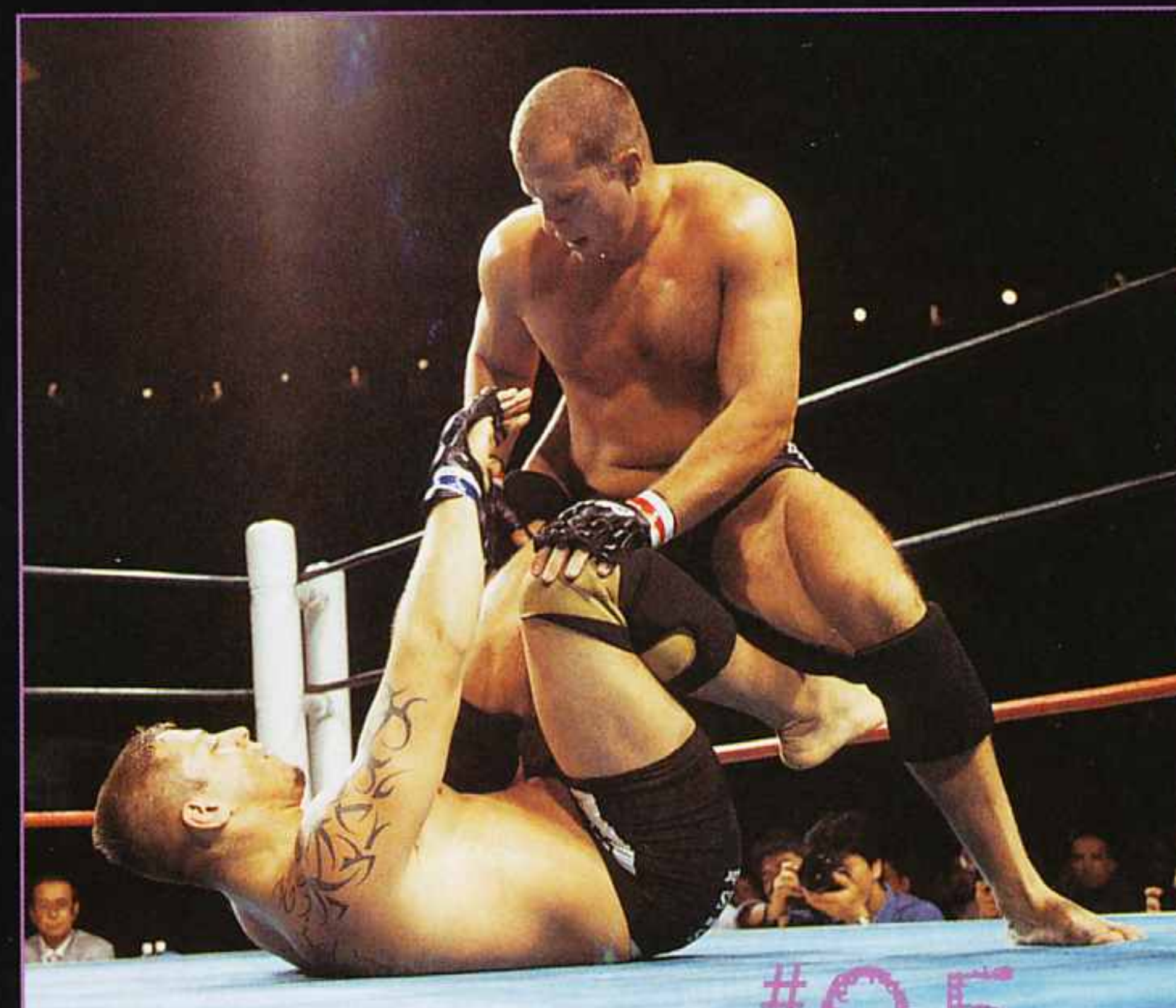
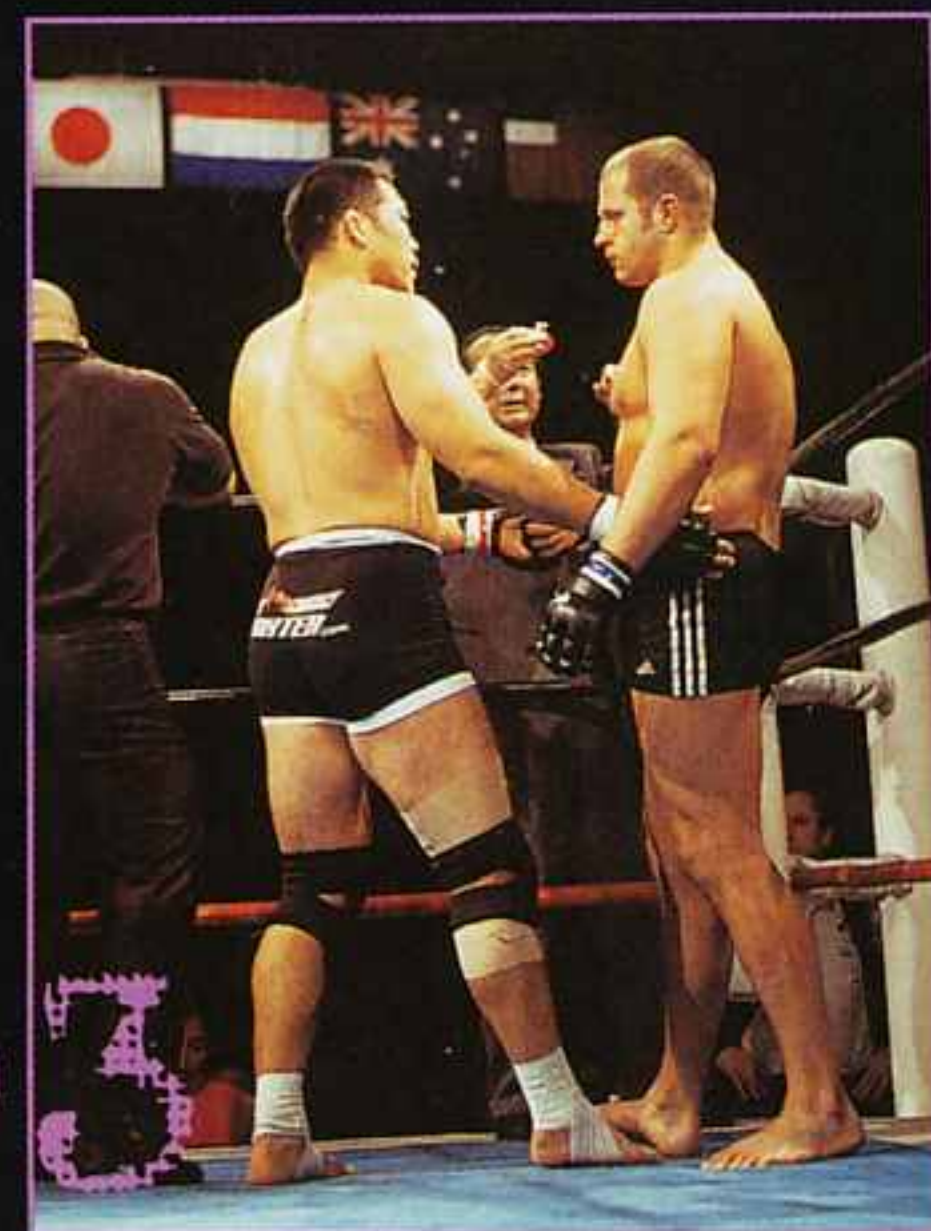
## #03 ×vs髙阪 剛

1R 0'17" TKO | 00.12.22 | 大阪府立体育会館

アローナを1回戦で破り、一躍KOK優勝候補となったヒョードルだが、2回戦のTK戦で試合開始早々TKのパンチが目尻をかすめ出血。不運なドクターストップ負けとなってしまった。これがヒョードルの公式戦唯一の敗北。この時点でリングスでのノゲイラ戦は幻となってしまった。

## #04 ●vsケリー・ショール

1R 1'47" 腕ひしぎ十字固め | 01.4.20 | 代々木第2体育館

リングスヘビー級王座決定トーナメントの1回戦で130キロの巨漢戦士ショールと対戦。ヒョードルは体格差をモノともせず、相手の土俵である打撃で向かっていき、寝技になると一方的にコントロール。ショールにまったく何もさせずに圧勝してしまった。

## #05 ●vsレナート・ババル

2R 判定 | 01.8.11 | 有明コロシアム

ヒョードルの実力がファンにしっかり認知されたのは、この試合から。当時、田村、金原、髙阪のリングス3強を総なめにしてノゲイラに次いで評価の高かったブラジルの強豪ババルを、スタンドでもグラウンドでも殴りまくり終始圧倒するさまは、まさに衝撃的だった。リングス・ロシア念願の“打倒ブラジル”ここに達成!

## #06 ●vsボビー・ホフマン

棄権による不戦勝 | 01.8.11 | 有明コロシアム

記念すべきリングス10周年記念のヘビー級トーナメント決勝だったが、なんと対戦相手棄権のため不戦勝! これはホフマンが試合前に肩の痛みを訴えたためだが、関係者によると真相はババル戦を目の当たりにしたホフマンが「無名のロシア人に負けたくない」と対戦を回避したのだという。強すぎるが故の悲劇だ。

## #07 ●vs柳澤龍志

3R 判定 | 01.10.20 | 代々木第2体育館

ヘビー級王者になったヒョードルは、続けて無差別級王座決定トーナメントにも出場。1回戦で現・魔界倶楽部の柳澤と対戦。ヒョードルは当時K-1にも参戦していた柳澤相手に寝技だけでなく立ち技でも圧倒して判定勝ち。一本負けしなかっただけで柳澤の評価が上がるほどの強さを見せた。

# ノゲイラvsヒョードル
PRIDEヘビー級タイトルマッチ
# ズバリ大予想!!

まぁ、ノゲイラとヒョードル、二人の技量というものを比べてみるとだね、片一方のノゲイラは横綱であり、ヒョードルはハッキリ言って張り出し大関ぐらいですよ。だからヒョードルが勝てるのは、5回やって、よくて1回でしょう。こんなもん五分（ごぶ）じゃありませんよ！　あの二人が五分だと言ったらこれは笑われるんであってね。ただ、ノゲイラがどこまでコンディションを回復しているかという問題もあるけれども、これだけ休むとね、あいつもバカじゃないんだから、ピシーとした身体にしてくるでしょ？　そうなると福岡でやっていた方がむしろヒョードルに可能性があったということになる。しかも、ヒョードルがしこしこやっとる間にノゲイラの方はいわゆる“死線”というものを経験して、そういった経験が上積みされるからね、まず勝てない！　そういった意味では俺はこの試合に興味がないというかね。というよりも、3・16の試合後なにが起こるのが、注目すべきはこっちですよ！

なぜ猪木がパラオ特訓を放ってまで3・16に来ると言いだしたか、その謎の答えがここにありますよ！　おそらく3・16でヒョードルを破ったらノゲイラが「猪木さん、私はこうして防衛しました。つきましては、次の挑戦者に吉田を指名したい」と言い出しますよ。すると猪木が「吉田、上がって来い！」と、そうしてノゲイラと吉田がリング上で対峙する中、猪木が「お前らやれ！　5・2（新日）ドームで！」と対戦へGOサインを出すと、俺はこうなると読んどるんだな。

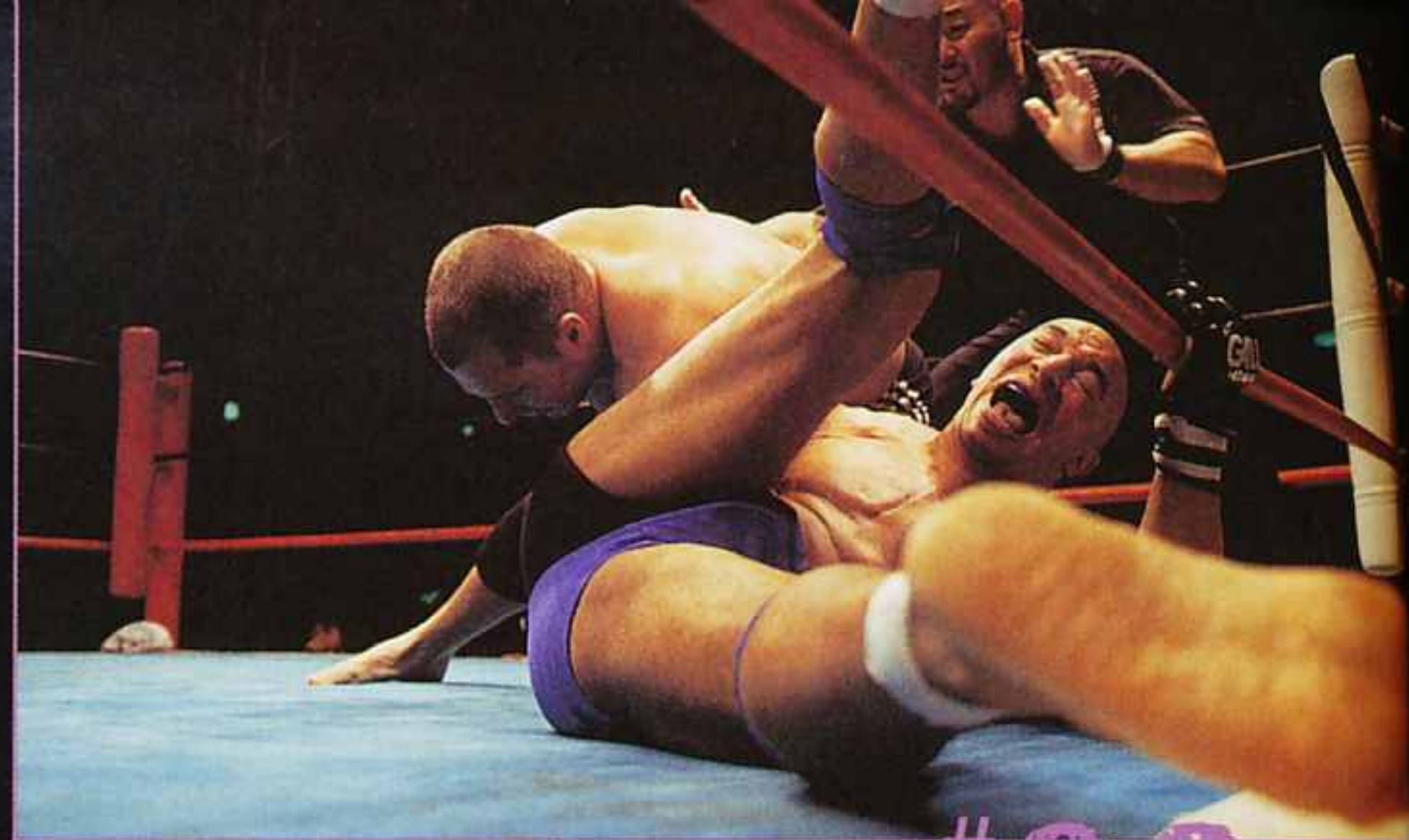
『紙プロHand』iモード版で「喫茶店トーク!モード」絶賛連載中!
## 井上義啓
**どちらが勝つかより、試合後なにが起こるか？　注目すべきはこっちですよ!**

ノゲイラとヒョードルっていうのは、俺から見ても面白そうな試合だよね。どっちが勝つか予想が難しいよ。

ヒョードルって、初めて見たときから「コイツはいい選手だな」と思ったからね。あのパンチの力強さとか当てるタイミングとかいいよね、それからパンチに行った後、必ず差しにいくでしょ？　この辺の闘い方も上手いんだよ。それに加えてあのパワーでしょ？　ロシア人って得体の知れない強さがあるからね。俺さぁ、あの強さって“スケベ”な所から来てるんじゃないかと思うんだよね（笑）。コピィロフとかハンとか見ても、ロシアの選手はみんなホントにスケベだからさぁ。過剰な男性ホルモンが活力になってるんじゃないかと思うんだよ（笑）。あの体毛を見てもわかるよね、それは和田（良覚）さんが強いのも同じ理由だと思うんだけど（笑）。

試合については、ガードからノゲイラの得意技が決まるかどうかが最大のわかれ目になると思うけど、ヒョードルも傾向と対策を練ってそうだしね。ノゲイラの関節を逃れて、殴り勝ちそうな気がするから、ちょっとヒョードルに分があるかな。でも、ほんの僅差だよ。だから結局は当日のコンディション次第でしょう。ノゲイラが、この前のヘンダーソン戦みたいなコンディションでやってたら、かなりヤバいでしょう。どちらか選ぶなら俺は6：4でヒョードルだな。

まぁ、俺も『PRIDE.25』には出たいと思っているから、人の予想してる場合じゃないんだけどね。でも、まだ決まらないんだよなぁ〜。（編集部注：取材後、結局今回の参戦はなくなりました）

『紙プロHand』iモード版で「金ちゃんのなんでそ〜なるの!」絶賛連載中!
## 金原弘光
**ノゲイラがヘンダーソン戦の体調でヒョードルに挑んだら、まず勝てない!**

## #08 ●vsリー・ハスデル
1R 4'10" ネックロック｜01.12.21｜横浜文化体育館

無差別級2回戦でリングスUKを主宰するリー・ハスデルと対戦。ハスデルは“リングスのポリスマン”と呼ばれた男だけに、ヒョードルの実力を知るに最適な男だったが、結果はハスデルが気の毒になるほどの実力差でヒョードルの圧勝。アームロックを極められたときのハスデル断末魔の叫びは今でも耳に残る。

## #09 ●vsクリストファー・ヘイズマン
1R 2'50" ポイントアウト｜02.2.15｜横浜文化体育館

“第1次リングス”最終興行のメインで、リングス功労者であり、“ブラジリアンキラー”と呼ばれた実力者ヘイズマンと対戦し、当時、復活していたロープエスケープとダウンのポイントを次々奪いアッという間のポイント勝ち。リングスは最後の最後にヒョードルという“世界最強の男”を決めた。

## #10 ●vsセーム・シュルト
3R 判定 3-0｜02.6.23｜さいたまスーパーアリーナ

『PRIDE』初参戦は、いきなり大巨人シュルトとのリングスvsパンクラスの現役王者対決。ヒョードルは30cm以上の身長差をモノともせず何度もテイクダウンに成功し、グラウンドでは終始好ポジションをキープして文句ナシの判定勝ち。デビュー戦で『PRIDE』ファンの度肝を抜いてみせた。

## #11 ●vsヒース・ヒーリング
1R終了 ドクターストップ｜02.11.24｜東京ドーム

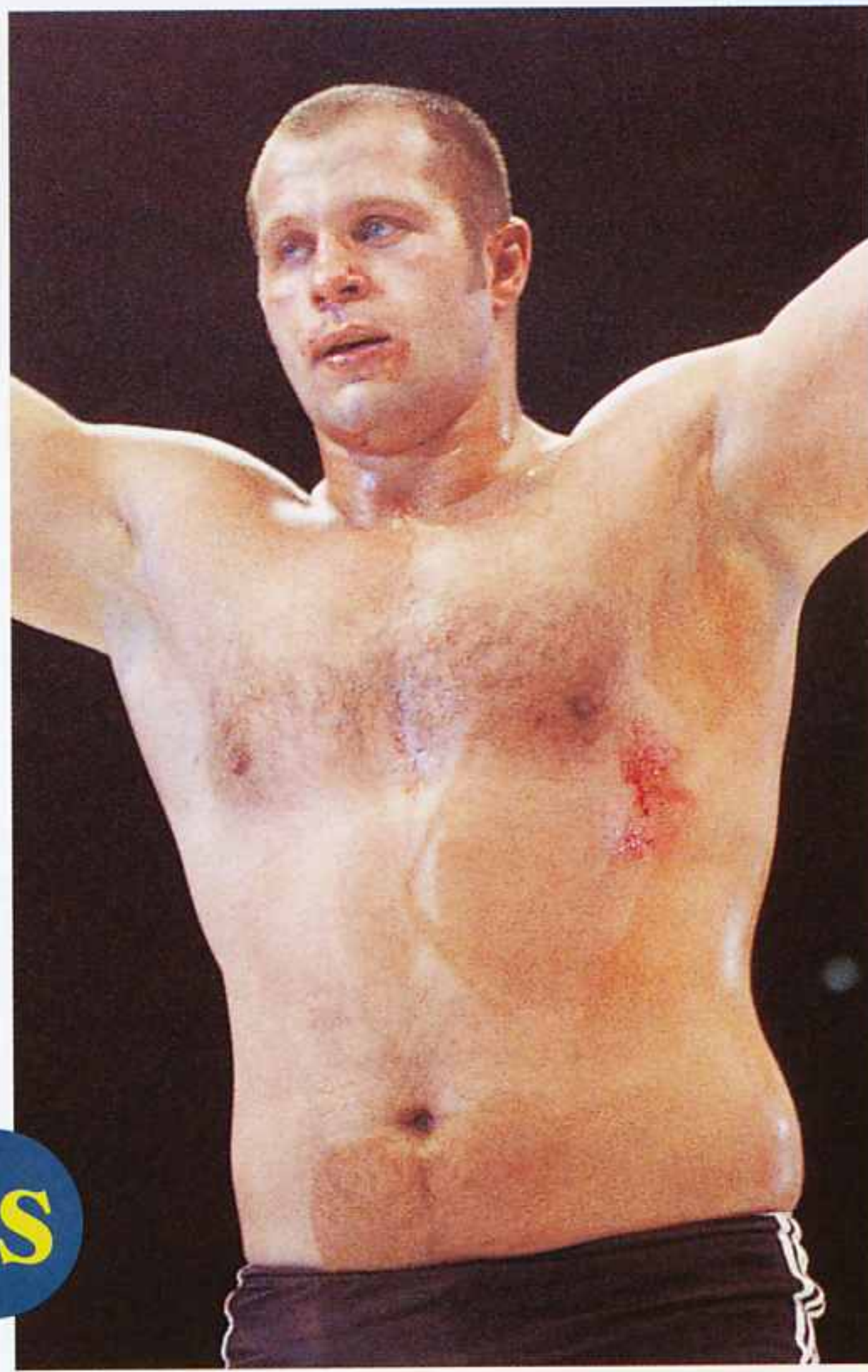
ノゲイラの持つPRIDEヘビー級王座への挑戦者決定戦として行われたこの一戦。ヒョードルは、この前年ノゲイラとの白熱のタイトルマッチを行った『PRIDE』ヘビー級戦線のトップ、ヒーリングを一方的に撲殺!　なんとわずか1Rで戦闘不能に追い込み、「ヒョードル恐るべし!」を強烈に印象づけた。さぁ、次はいよいよノゲイラだ!

# 3.16 PRIDE RESTART!

構成／ジャン斎藤

designed by matsu(Two three)

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
［ブラジル／ブラジリアントップチーム］

VS

エメリヤーエンコ・ヒョードル
［ロシア／ロシアントップチーム］

### 『PRIDE』ヘビー級選手権

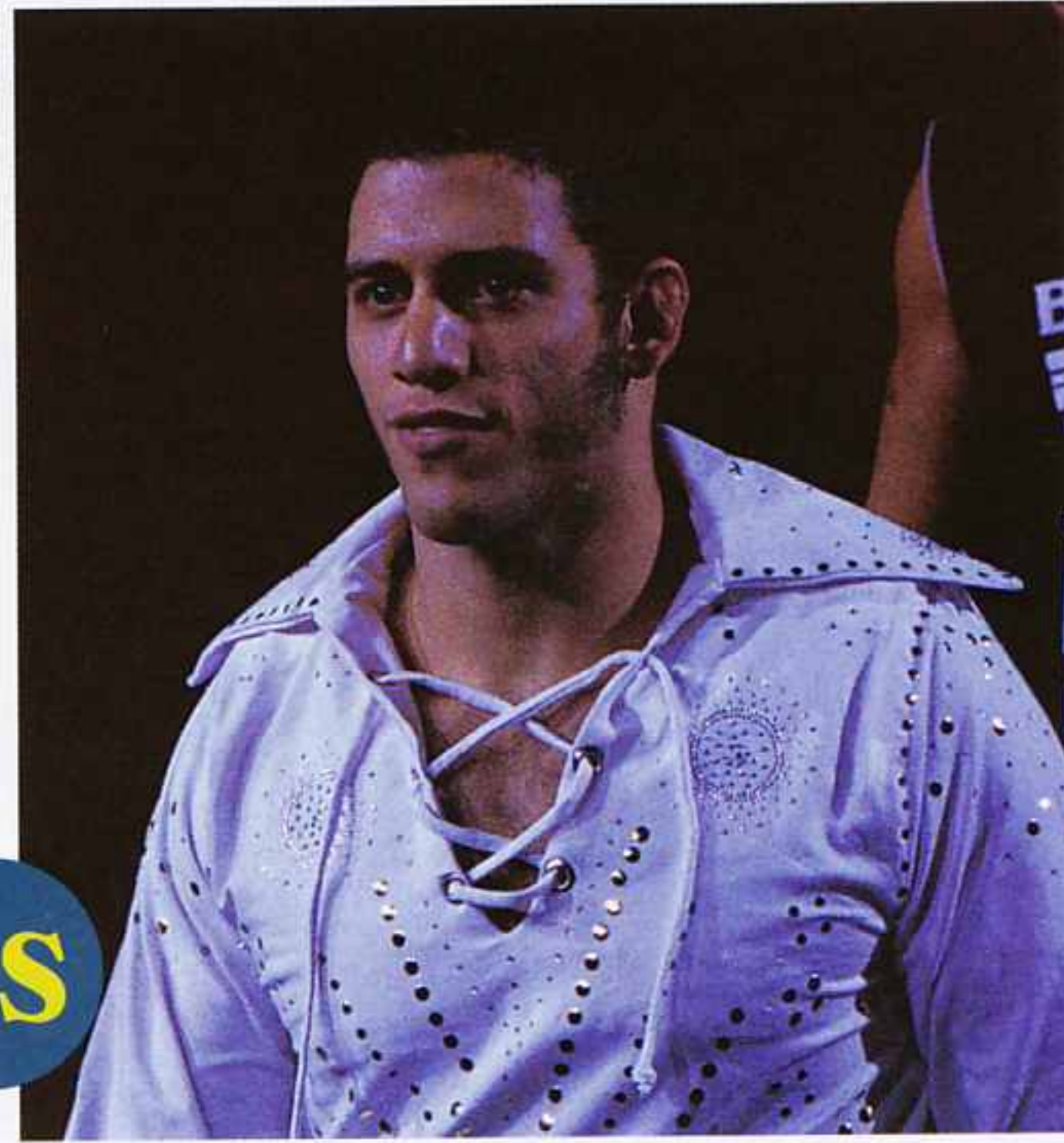
満を持して行われる『PRIDE』ヘビー級王座初防衛戦!! 相手はリングスKOK2冠王、『PRIDE』上陸後はシュルトを完封、ヒーリングを撲殺した"ロシアの皇帝"ヒョードル!! 「もし、ノゲイラがリングスに残っていたら……」とリングス者が夢見た一戦であるが、バード（井上用語＝バーリ・トゥード）最高の舞台『PRIDE』で実現する!! アローナ、ババルと堅い動きのブラジル勢を粉砕してきたヒョードルだが、ノゲイラほどのテクニックを持った柔術家と闘うのは初めてだろう。ノゲイラもヒョードルのようなタイプの破壊力とは向き合ったことはないだろう。どっちが世界最強だ!?

## 最大のピンチは最大のチャンスなり!!

# 『PRIDE』のプライド炸裂!!

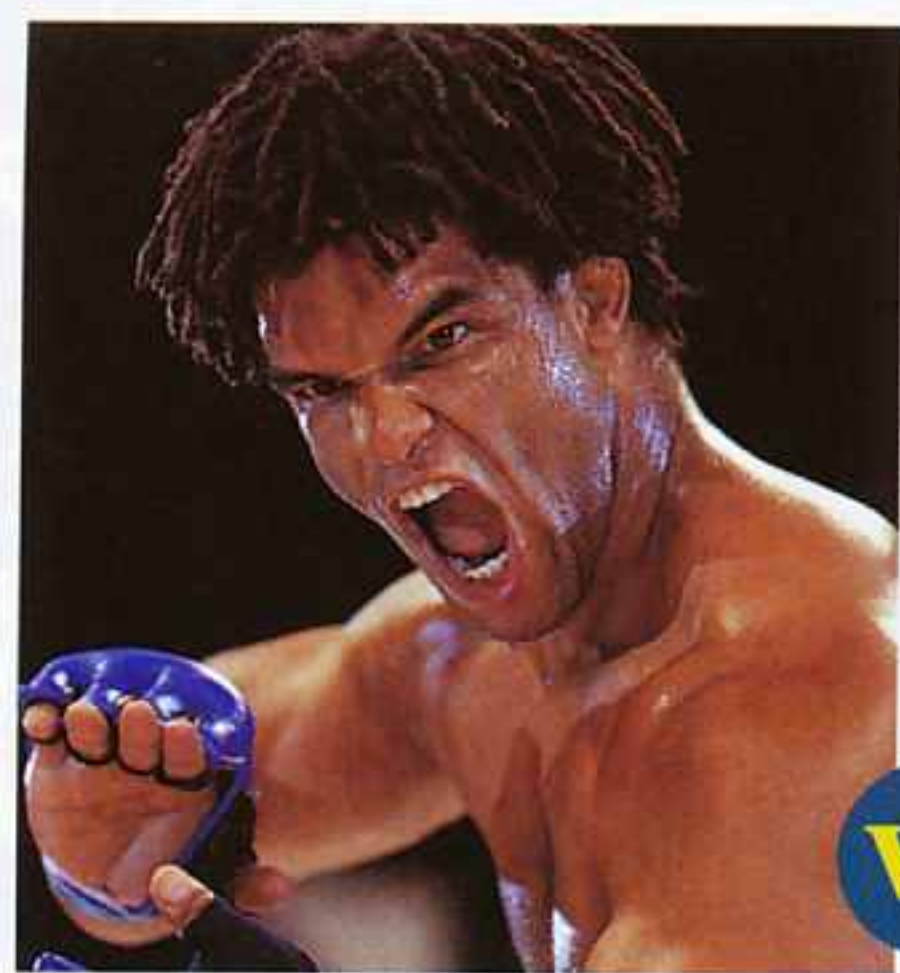
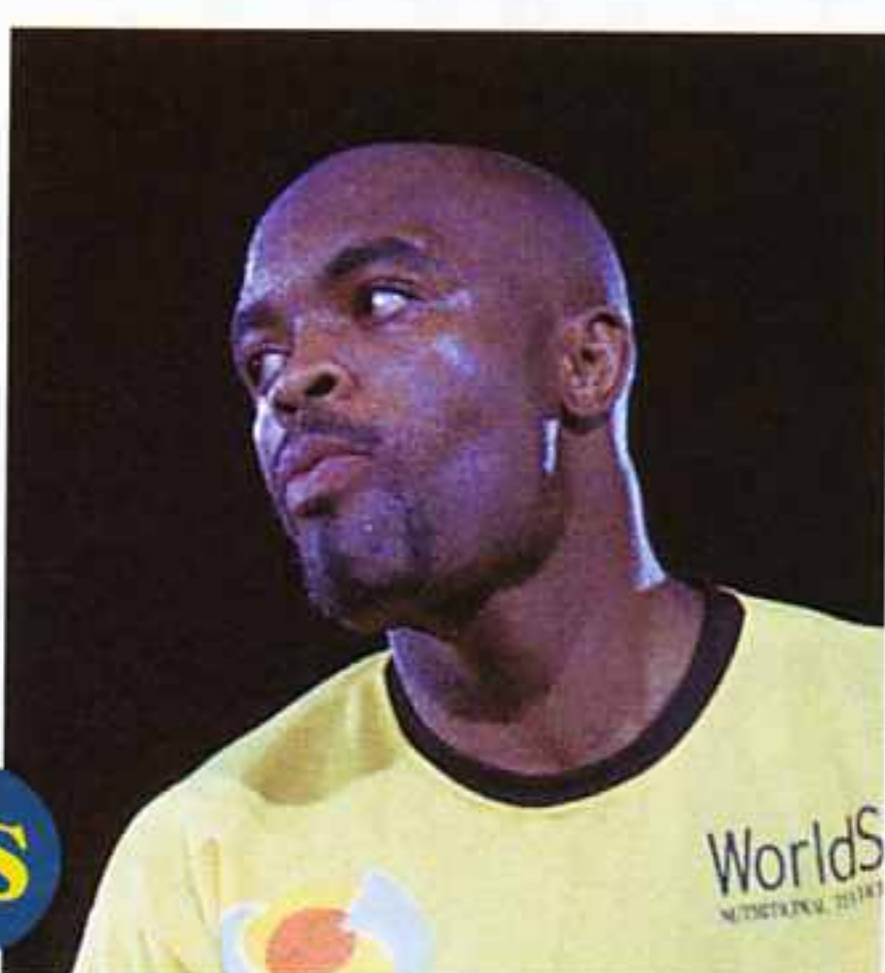
『PRIDE』リスタート!! 事件の暗雲を吹き飛ばす、『PRIDE』のプライドが炸裂した豪華なカード編成となった『PRIDE.25』!! なんとビックリすることに、全カードが出揃う前の先行発売の段階で、通常の1.5倍というチケットの売れ行きをみせたというのだ。事前に発表されてたノゲイラvsヒョードルはたしかに目玉カードだが、この好調ぶりは、『PRIDE』の存続を願って止まないファンの気持ちに他ならない。最大のピンチは最大のチャンスなり!! ファンの間で巻き起こった『PRIDE LOVE』を原動力に『PRIDE』はリスタートすることになった。頑張るファン、恐るべし!

桜庭和志
［日本／高田道場］

VS

ニーノ・"エルビス"・シェンブリ
［ブラジル／グレイシー・バッハ・アカデミー］

### 手負いの桜庭を襲う天才ニーノとは何者か?

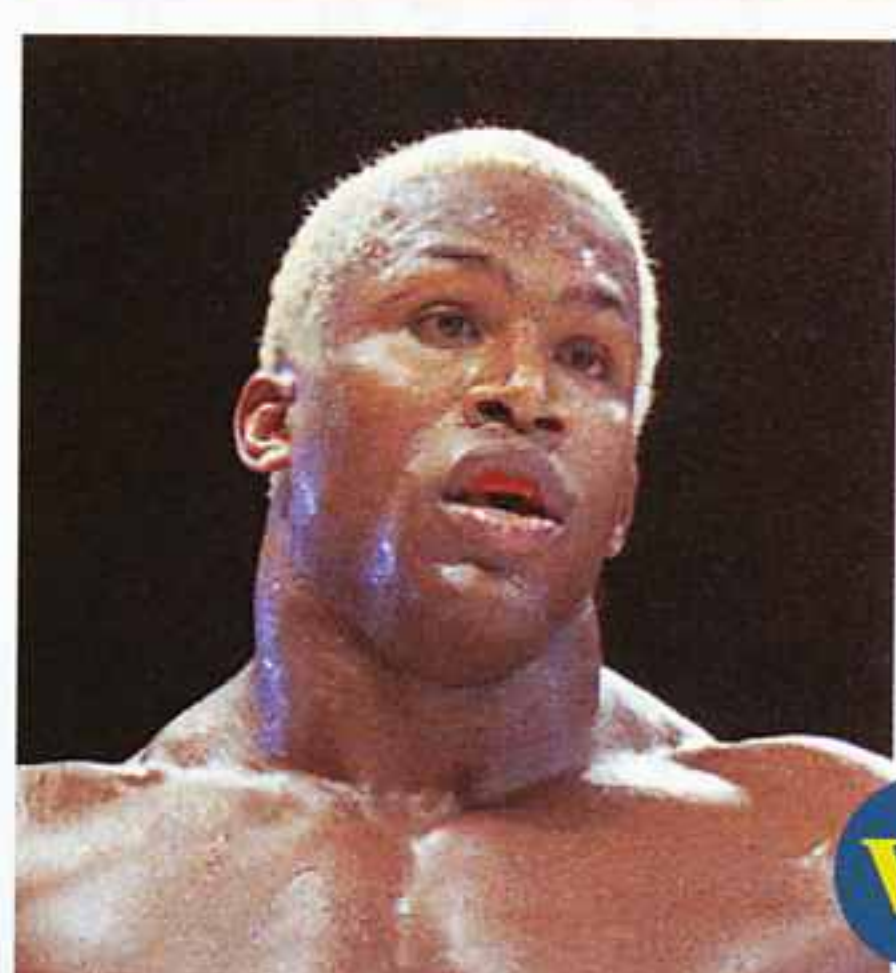
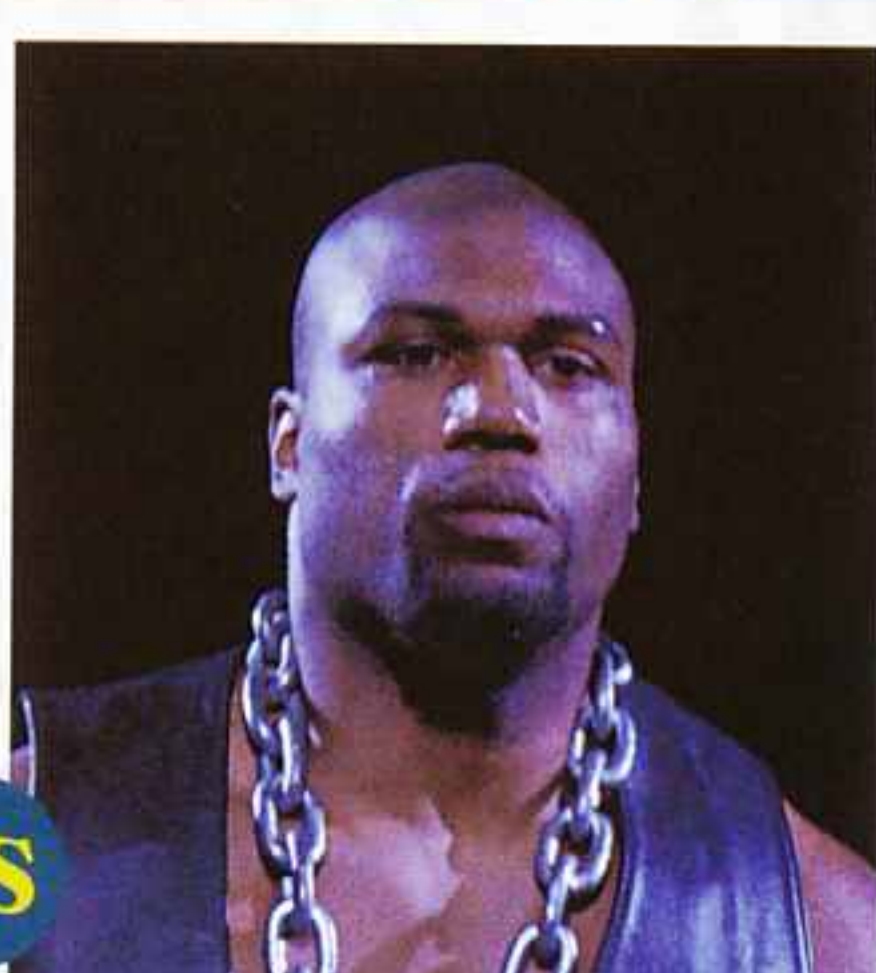
ポイント争いが主流になった現在の柔術で、常に一本勝ちに拘り、その極めの凄さから"ヒクソンの再来"と呼ばれているニーノ。アビダビ王子も魅了したスーパーテクニックに加え、ヘンゾのもとで打撃を習得している強者である。ちなみにニーノは、天才が故にナントカと紙一重な部分があり、エルビス・プレスリーの熱狂的なファンであることから、取材に訪れた記者に「キミはエルビスの偉大さがわからんのか!?」と、こんこんと説教する変人でもある。入場時のハートブレイク・ホテルなパフォーマンスは単なるウケ狙いではなく、エルビスへのリスペクトからなのだ

## 蜘蛛男にカメハメ波が炸裂!?

**カーロス・ニュートン**
[英領バージン諸島/ウォリアー・マーシャルアーツセンター]

VS

**アンデウソン・シウバ**
[ブラジル/シュートボクセ・アカデミー]

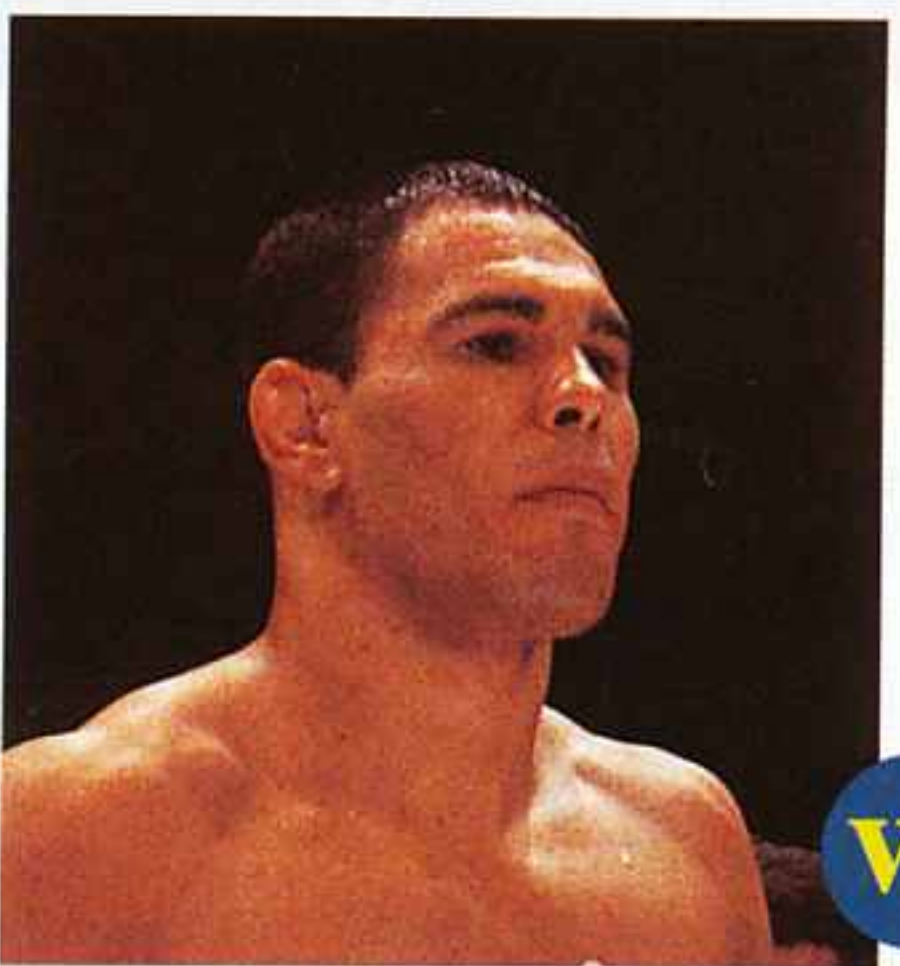
ニュートンが帰ってきた! 観客を魅了する回転体、極めに拘る姿勢、達者な日本語、キメのポーズは「カメハメ波!」と、日本人ウケするキャラクターは、金網でヒューズなんかと闘うのはもったいない。日本に定着すれば、スターの座を十分に掴めるのになぁ。そのニュートンの相手は、桜井"マッハ"速人を破り修斗ミドル級王座を戴冠する実績が持ちながら、『PRIDE』登場時は"シウバ3号"とギャグでしかないキャッチフレーズの持ち主だったアンデウソン。実力を証明することで、いまでは"ブラジリアン・スパイダー"に昇格した曲者だ

## 次期『PRIDE』ミドル級挑戦者決定戦!?

**ケビン・ランデルマン**
[アメリカ/ハンマーハウス]

VS

**クイントン"ランペイジ"ジャクソン**
[アメリカ/チーム・イハ]

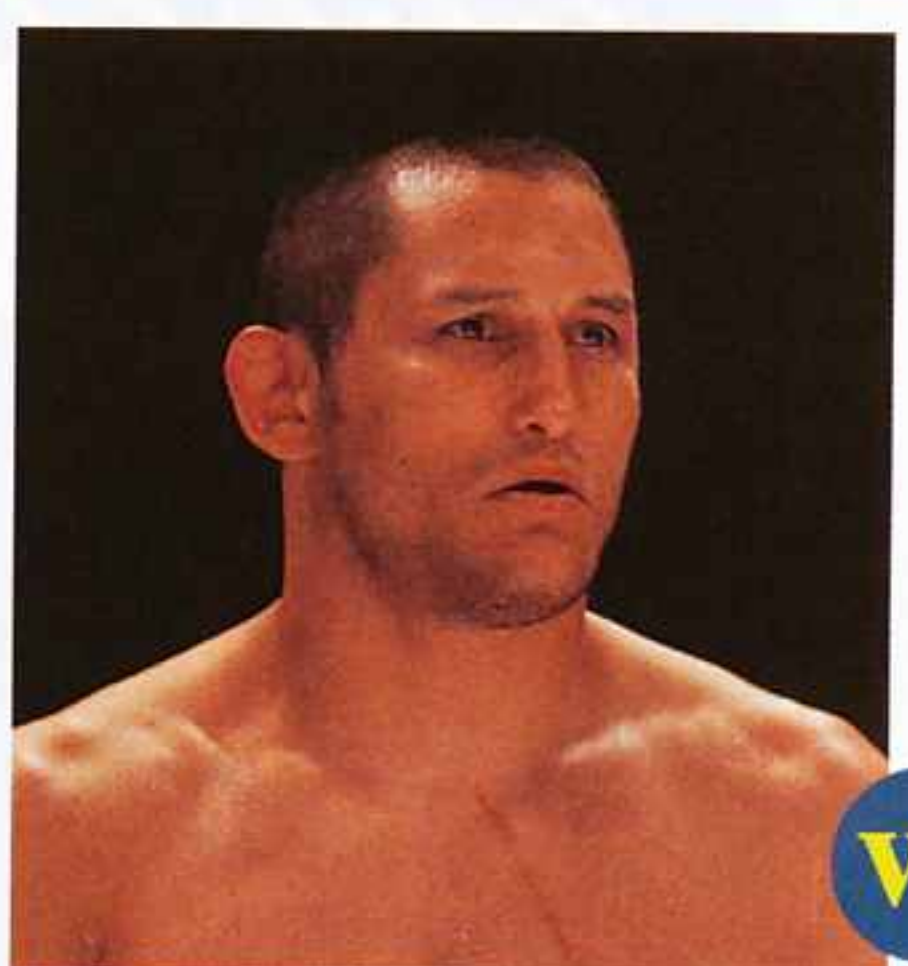
『W-1』で評価を受けたランデルマンと、K-1でもその剛腕を炸裂させたランペイジが、ホームリングの『PRIDE』で黒い対決!! スポーツ力学からは考えられない投げ技を見せるランペイジと、人間とは思えない筋肉を持つランデルマン。刺激的でバイオレンスな試合展開が期待できる。しかし、いつ何時誰でも病院送りにするランペイジはともかく、『PRIDE』3連勝ながらも「跳躍力が凄い人」位の印象しか与えていないランデルマンには、「オレは小原すらKOできなかったぁぁ!」と泣き叫ぶような、異常に高い試合前後のテンションをリングに持ち込んでほしいところだ

## 一流の柔道マンが『PRIDE』に参戦!!

**アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ**
[ブラジル/ブラジリアントップチーム]

VS

**中村和裕**
[日本/吉田道場]

「膠着する方のノゲイラ」とありがたくないニックネームを頂戴しかねない、最近のノゲイラ弟の闘いぶりはどうしたことか! 強豪との連戦が続いていることもあるが、一流柔道マンの実力測定器扱いされている現状を打破してもらいたい。中村に関しては、今号のインタビューを参照すればわかるが、吉田秀彦から一本を極めまくる実力者。VT初挑戦ながら不安を抱かず自信満々と、フィジカル面でも問題なし! ただ、一つ不安を感じさせるとすれば、強烈なお笑い志向が寒いパフォーマンスを呼ばないことの一点のみ! 若くて強くて面白い、待望の日本人スターは誕生するか!?

## 大山、過酷な復帰戦!!

**ダン・ヘンダーソン**
[アメリカ/チームクエスト]

VS

**大山峻護**
[日本/フリー]

『PRIDE.24』のハイアン戦では、試合前に「女みたいだぁ!」と挑発され、試合では腕を折られたあげく、その場で「ざまあみろぉ!」とバカにされるなど(桜金造の「小山遊園地〜♪」みたいなポーズ付き)、散々な闘いとなった大山。実力者・ヘンダーソンを相手に復帰戦となる。ダンヘンは、前回はノゲイラに一本負けを喫したが、体重差のハンディを背負いながらも、『PRIDE』王者を苦しめた闘い振りに、マニアから「パウンド・フォー・パウンドはダンヘン!」の声も挙がるほど。大山の苦戦は免れないだろう。アップセットはあるのか? 大山の意地に期待したい

## 苦労人に勝利を!! 吠えてくれ、小路!!

**アレックス・スティーブリング**
[アメリカ/インテグレイティッド・ファイティングアカデミー]

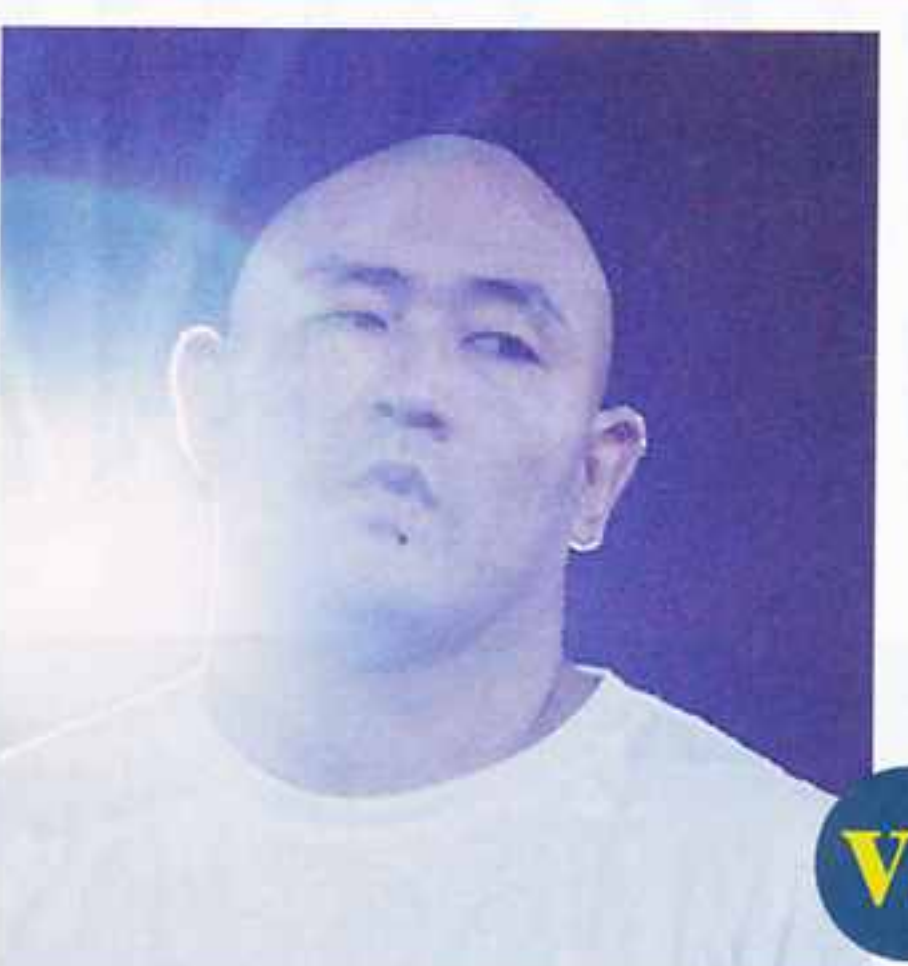
VS

**小路 晃**
[日本/フリー]

アルメイダ、ダンヘン、シュルト、ホーン、パウロ……数え上げたらキリがない!! 誰も闘いたくない厄介な相手を迎え撃つことでおなじみ"『PRIDE』の裏門番"こと小路晃。今回の対戦相手も、ゴエス、イズマイウが圧倒的技術差を見せつけながら、バカ負けというか体力負けしたアレックス・スティーブリング! しかもアレックスは佐々木有生に判定負けしたばかりと、イメージ的にも小路はおいしくない相手なのだ。前回はパウロに一本負けを喫したが、力負けしないなどレベルアップした姿をみせた小路だけに、勝って久々にマイクで吠えてもらいたい!! ヴァーッ!

## 『PRIDE』サバイバルマッチ再び!!

**アレクサンダー大塚**
[日本/AODC]

VS

**山本喧一**
[日本/フリー]

日本人対決＝サバイバルマッチの図式ができつつある『PRIDE』のリングではあるが、不甲斐なければ即座に呼ばれなくなるガイジンよりは救いがあるのは事実。前回のヤマノリ戦が凡戦となったアレクにとっては正念場も正念場。勝利するのはもちろん、どこまで観客に今後の闘いへの期待を持たせることができるかが重要となってくる。とにかく凄ぇ試合をやってくれ!! 一方、前回は突然の参戦にも関わらず、あのランデルマンに挑んだ山喧。ブランク＆体重差があったとはいえ、内容は完敗だっただけに、今回はキッチリ白星を飾りたい。生き残るのはどっちだ!?

# 俺様が語る『PRIDE.25』

島田裕二レフェリー

島田氏が自信を持って指導するBCG「女性痩身コース」ではダイエット成功者が続出ッ！ 次号詳細を待ってね！

（三方を指差し）ジャッジ？ ジャッジ？ ジャッジ？ ん〜ッ、レディッ、『PRIDE.25』！ ということで、世界が恐れるカリスマレフェリーこと島田祐二氏に、間近に迫った『PRIDE.25』をババ〜ンと語っていただいた。今回は島田氏の一人語り形式でお送りするので、読者の皆さん、アナタがインチキな発言に突っ込みを入れてください！ それではイチ、ニーッ、サンッ、シマダーッ!!

◆

**俺様が語るノゲイラvsヒョードル**
**「ヒョードルが勝つとすれば、お客さんの目ん玉が「アッ！」と飛び出るスゲエ結末が見れると思うよ」**

ん〜ッ、ド真ん中ッ！ 暗い話題が続いているけど、どうってことねぇですよ！『PRIDE』には俺様もいるし、ド真ん中を行くよ、ド真ん中を！

なんたって次回の『PRIDE』では、ノゲイラvsヒョードルという総合格闘技の最強決定戦をやるんだからさ。もうファンの心のド真ん中に突き刺さる闘いだよ。

だってノゲイラはサップも破った『PRIDE』のチャンピオンだし、ヒョードルなんて『PRIDE.23』の（ヒース・）ヒーリング戦は凄かったよな。会場は「ヒースが勝つ！」みたいな雰囲気が漂っていたけど、ヒョードルの殺戮パンチにはみんなビックリしたんじゃない？ あのパンチは凄いよ！ ガードポジションの相手に、あんなダメージを与えられるパンチを打てる奴いないよなぁ。俺様もビックリだよ。ヒョードル、サイキョッ！ ノゲイラが「下から極めればいいや」なんていつもの様に思ってたら、2、3発でやられる可能性はあるよ（キッパリ）。だってパンチの風圧だけでも凄くてさぁ、レフェリーしてて吹き飛ばされそうになったからね。この試合を俺様が裁くことになったら、ガファリ・タイフーンじゃないけどヒョードル・タイフーンに吹き飛ばされないようにしたいね。は〜い。

俺様もリングスでもレフェリーやっていたからロシア勢の凄さは知ってるんだけど、結果を出しているのはヒョードルだけなんだよね。だからこそ、ヒョードルは怖いね。最後の砦という立場がわかってると思うしさ、ロシアにいる何万人もの格闘殺戮部隊の連中にも「ヒョードル、わかってんだろうなぁ？」ってプレッシャー掛けられてるだろうからさ。

勝敗予想すれば、ヒョードルが勝つんなら1Rで決まるね。打撃でKOすると思うよ。パンチばっかじゃなくて、怖いのはサイドを取ったときのヒザ蹴り。ヒョードルの馬力だったら、頭蓋骨ぐらい割りそうだからね。ヒョードルが勝つとすれば、お客さんの目ん玉が「アッ！」と飛び出るスゲエ結末が見れると思うな。

ただ、2R以降ならノゲイラ有利だね。勝負が長引けば、ノゲイラは関節をキャッチするチャンスはかなりあると思うんだよ。でも極めきれないと可能性が高いから、ノゲイラが勝つなら判定勝ちになるね。俺様が言うんだから、間違いない。ド真ん中を突く予想ですよ。は〜い。

**突然ですが**
## プ、プ、プ、プライドニュ〜〜ス

東海テレビにて絶賛放映中の『PRIDE』情報番組「PRIDE王（プライド・キング）」（毎週火曜日24:40〜25:10）にて、「第2の高田延彦」を探す活動がスタート!! 第2の島田レフェリーを探す企画はいまのところノースタート

**俺様が語る桜庭vsニーノ**
**「ニーノはアローナより全然、上だよ！ サイキョ！」**

これはねぇ、ニュートンvs桜庭の再来になる！ ニーノが『THE BEST』で高瀬（大樹）選手とやったときは膠着しちゃったけど、ニーノは一本取りにいく選手じゃん。ニーノはアブダビ・コンバットで「モウスト・テクニカル・プレイヤー」に選ばれてぐらいの選手だよ。ポジションキープしてポイント稼いで2階級制覇したアローナより全然、上なんだから。例えるなら、アローナが日本レコード大賞なら、ニーノは有線大賞。有線大賞はファンから支持されないと選ばれないじゃない。ニーノは氷川きよしみたいなもんなんだよ。

だから、桜庭選手との試合はホント、楽しみだよね。桜庭選手は高田道場を背負ってさ、しかも怪我してるのに「試合がしたくてしょうがない」って自分から志願して出場するんでしょ？ 男の中の男ですよ。は〜い。桜庭選手は怪我をしてるけど、「恍惚と不安、2つ我れにあり」の心境で頑張ってほしいね。『PRIDE』がここまで開催できたのは、桜庭選手がド真ん中でやってきたからだからさ、このままド真ん中で支えてほしいからね。

**俺様が語る中村vsノゲイラ弟**
**「中村選手と俺様の福山コンビで『PRIDE』を盛り上げるよ」**

中村選手はやるよ！ 噂では強いと聞くし……なんたって俺様と同郷で広島県福山市出身だもん。それだけで成功間違いなしだよ。それはカリスマレフェリーの俺様を見ればわかることだけどさぁ。

実際、ノゲイラ弟は兄貴と違って極めが弱いから十分勝てると思うよ。テクニックは兄ちゃんとダンチじゃない？ ただ、高阪選手との試合でもそうだけど、ポジション取って逃げちゃうじゃん。ハーフガードでコツコツやられたら厳しいけどさ、中村選手には払い腰からの締めで一本極めてほしいよね。柔道vs柔術という図式は、ハイアンに負けた大山選手の敵討ちもあるからね。柔道は柔術に負けちゃダメ。柔道サイキョ！ですよ。ま、中村選手もサラリーマン辞めてさ、夢に懸けたんだからこれこそ福山イズムですよ。これからは2人で『PRIDE』を盛り上げていくからね。福山コンビがド真ん中を行くよ！

## 3.16 PRIDE RESTART!

### 俺様が語るランペイジvsランデルマン「注目はリング内にあらず！デブに気をつけろ！」

『PRIDE』もアメリカでPPVが始まるからさ、アメリカ人的にはド真ん中のカードですよ！ 俺様としてはランデルマンにあの人間離れした跳躍力をいかんなく発揮してもらいたいけど、ランペイジも成長したからね。一昔前ならランデルマンが勝つと予想するけど、ここまで成長しちゃうとね。ランペイジも腰が重いからランデルマンのタックルじゃ倒れないかもしれないし、K―1でも勝つ打撃力を持ってるからね。

それにランペイジのセコンドがいいんだよな。デブなんだけどさ、俺様も認めるぐらいのコーナーマンですよ。このコーナーマンにも注目だね。デブ、サイキョ！

### 俺様が語る大山vsヘンダーソン「敗者WJ行きマッチ？」

大山選手は森下社長が期待してた選手なんだよね。ダンは強豪だけどさ、桜庭、吉田に続く男は大山ですから、ダングらいには勝たないといけないですよ。負けたらWJ入りするぐらいの覚悟でやったほうがいいね。別にWJに意味はないんだけどさ、要は何かを賭けて切羽詰まらないとダメってことですよ。

大山選手にはキッチリ勝ってもらいたいけど、ノゲイラがダンヘンを極めるのにあれだけ時間が掛かったということは、大山選手が極めるのは難しいよ。そうなると大山選手が勝つにはノックアウトしかないんで、いかにスタンドで有利に立つことが重要なんだけど、ダンヘンもスタンドは強いからね。意外性のある打撃を出すしかないよね。俺様が「七色アッパー」とか伝授できればいいんだけど、俺様も世界のカリスマレフェリーだから忙しいじゃない。自分でリキラリアットを習得して倒すぐらいのさ、ド真ん中な男になってほしいよね。は〜い。

### 俺様が語るアレクvs山喧「アレク参戦の理由は……？」

アレクは「森下社長のために、もう一回『PRIDE』に出たい」ということで、今回参戦することになったんだよ。今回も日本人対決だけど、アレクには合ってるんじゃないの。前回（ヤマノリ戦）はちょっと冷静過ぎたけど、今回は「イコール・ボブチャンチン戦みたいに打ち合いますよぉ」って言ってるからバンバン前に出るんじゃない。ヤマケンとは年も違うから、アレクは「小僧ぉ！」ってムキになると思うし。ま、ヤマケンも「アレクなんかロートルやろぉ」って思ってるだろうけどね。ヤマケンはそつなくこなすんだけど、下のポジションになる傾向が多いよね。髙田さんのとこで練習して、技術や男を磨くのもいいと思うな。

勝敗はわからないなぁ。わかっているのは、アレクも今年は「プロレスをやる」って言ってるんで、アレクが勝ったら晴れてWJ入りすることを願ってるよ。アレクはド真ん中を行く男になるよぉ〜。は〜い。

### 俺様が語る小路vsスティーブリング「小路選手は良い人」

小路選手は俺様と同じ良い人だからねぇ。頑張ってほしいよね。前回は油断しちゃって負けたけど、あのパウロ・フィリオからバックを取ったじゃない。確実に進化してるんだよね。アレックスは佐々木（有生）選手に負けたからさ、小路選手に分があると思う。一本勝ちして『PRIDE』のド真ん中にカムバックしてほしいよ。

### 俺様が語るニュートンvsアンデウソン「日本人よ、ニュートンから学べ！」

これはいい闘いが見れるよ。回転体のニュートンが、手足の長いアンデウソンの身体をどう対処するか見物だよね。たぶん、俺様と同じ方法論を取ると思うんだけど、ニュートンの動きを見て、手足の長い選手の対策を日本人は盗むべきだね。

彼らはミドル級の下の階級になるんだけどさ、ニュートンがアンデウソンを極めてヴァンダレイに挑戦なんてのもいいよね。ニュートンがシウバの猛撃をどう対処するか見たいじゃん？ いやぁ、俺様ってマッチメイクのセンスあるよな。さすが俺様、ド真ん中だよな。

## コンディション調整から様々な格闘技まで……BCG

【アクセス】南北線、大江戸線麻布十番駅、徒歩2分
【開館日】月〜土　11：00〜22：30
【開館日】日　10：00〜17：00
【お問い合わせ】03-3560-7911
【URL】http://www.bcgizm.com/

## 『PRIDE.25』

【日　時】3月16日　17:00〜
【入場料】VIP席￥100,000（特典：専用入場ゲート、グッズ付）
RRS席￥28,000
スタンドS席￥16,000
スタンドA席￥7,000
【会　場】横浜アリーナ
【お問い合わせ】DSE　TEL.03-5775-5700

シェイクタハヌーン王子、ありがとう!
5月17&18アブダビ・コンバット!!　開催地はブラジルだ!!

## 日本予選、選手募集ーッ!

【日　時】3月30日（日）
【会　場】東京・中央区総合体育館
【出場5階級】65.9 kg 以下・66〜76.9 kg以下・77〜87.9 kg以下
88〜98.9 kg以下・99 kg 以上
【出場資格】5月17＆18日（日本出発は5/14頃、帰国は5/21頃）にサンパウロで開催される本戦に出場が確約できること（要パスポート、自己負担）。
【出場費】￥5,000（書類選考あり）
【応募方法】
①HPより応募用紙を印刷し必要事項を記入の上、下記住所に郵送しエントリーします。http://jtc.cside.com/にてご案内いたします。
②実行委員会に連絡し、応募用紙をFAXか郵送で受け取り、下記住所に郵送しエントリーします。
※応募の締め切りは3月15日（土）必着とします。
その後、書類選考の上、ご連絡いたします。
【送り先】〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10　松楠ビル9F
「JTC事務局　ADCC日本予選実行委員会」まで
【お問い合わせ】TEL 03-3538-5822　FAX 03-3538-5802

## ニーノ戦に向け桜庭増量会見

負傷したじん帯の具合が気になるが「試合をしたくてしょうがない」と復帰を決意したという。

これが月刊誌の悲しさ……。締め切り15秒前情報、桜庭和志記者会見！こんなに小さくて正直、スマンね！

3・16『PRIDE.25』横浜アリーナ大会で、ニーノ“エルビス”シェンブリとの対戦が決定した桜庭和志が、髙田道場で会見を行った！

試合に向けて、先々週から練習を開始した桜庭は、先週からは通常と同じ練習メニューを消化。少しふっくらした顔つきで「いまの体重は90キロくらいです。ヘビー級目指そうと思って。……ウソです（笑）」と誰も得をしないウソをつき、「100キロにしてボブ・サップとやるというのはどうですか？」という質問には「また余計なことを……（笑）。イヤですよ。ノゲイラは狙ってますけどね……ウソです（笑）」と桜庭節を全開ッ！ ちなみに太った理由は「暴飲暴食」らしいので、『PRIDE.25』にはベストウエイトに戻して登場するだろう。サク・ガファリは幻に！

肝心の試合に向けては「ニーノ選手は、グラウンドがうまい選手だなと思いました。やっぱり一本勝ちしたいですね。動きのある試合ができればいいなと。いい試合になればいいと思います」と真摯に意気込みを語ったが、「ニーノ選手は……モミアゲが長いなと。ボクも当日までには伸ばしてきます」と再び記者陣を困惑させた桜庭。

ベルト取りに関しての質問が飛ぶと、「いりません。欲しかったらまた作ればいいし」とそういう問題でもない回答で記者陣を煙に巻き、「シウバには、ちょっと興味あるけど」と、3度目の挑戦に意欲を見せたが、「シウバとノゲイラは、『PRIDE』のゲームで倒しちゃったからいいです。それで納得しました」と、桜庭自身がCMモデルを務めるPS2『PRIDE』の宣伝を無意識でするなど、相変わらず掴み所のない桜庭会見を終了！ 『PRIDE.25』でもいつもの桜庭が見れそうだ！（ニコニコ）。

# あの吉田秀彦を極めまくっていたバリバリの現役柔道家が総合進出!!

仮想・吉田vsノゲイラ
3.16『PRIDE.25』
ノゲイラ弟戦決定!!

聞き手／中村カタブツ君
助手／松澤チョロ
撮影／福島俊彦
designed by matsu(Two three)

# 「柔道では“一流”ってとこまでは行ったと思う。ノゲイラ弟？　自信はあります（ニコッ）」

**髙田延彦の引退、相次ぐ日本人選手の敗退……。ここ最近の『PRIDE』マットで待ち望まれているのが日本人スター選手の誕生である。今回『PRIDE.25』でのvsノゲイラ弟戦でプロデビューが決まった中村もその候補の1人。なにしろ、総合の世界でもトップクラスと評される吉田秀彦を極めまくっていた時期があったというからただ事じゃない。果たして、この、つかみどころのない男、が『PRIDE』の救世主となり得るのか？**

## 吉田に続き日本人強豪柔道家が『PRIDE』出陣！

# 中村和裕

Kazuhiro Nakamura

——『PRIDE』デビューが決まった途端、新聞とかネットの記事とかで結構紹介されるようになってきましたね。

**中村**　はい！　光栄ッス！

——気持ちいい返事です。さすがは柔道青年って感じですね（笑）。その記事とかを読むと、実はお笑い芸人になりたかったとか、自分の色を出したいから当日は柔道衣は着ないとか、伸び伸びとしゃべってますね。

**中村**　はい！　だけど、柔道衣は着るかもしれません。まだ決めてないんですよ。

——は？　決めてないってどういうことですか。なんかでハッキリ断言してましたよ、「柔道衣は着ない」って（笑）。

**中村**　いやぁ、実はまだ（笑）。その時はそう答えたんですけど。

——意外といい加減なんですかね（笑）。

**中村**　（必死に手を振って）いやいやいや、そんなことはないですよォ！

——もしかしてお笑いになりたかったって言うのも？

**中村**　それはホントです！　ただ、柔道も好きだったんで、チャンスはなかったんですけど、やりたかったんです。

——ちなみに、どんなお笑い？

**中村**　リアクション系です！　ダチョウ倶楽部とか、松尾伴内みたいな。

——あ、そっち系なんですか（笑）。出川哲朗みたいな？

**中村**　そうです、そうです。ホント、リアクションは自信があるんで（笑）。

——好青年なんだか、いい加減なんだか、微妙な感じの中村さんですが、吉田秀彦さんに続き、彗星のごとく現れた期待の星なんですよね（笑）。

**中村**　そうなんですか？（ニッコリ）。

——そうでしょう。最初に『PRIDE25』のリリースを見た時は、「このノゲイラ弟とやる中村って人は一体誰だろう？」って思ったんだけど、いろんな人に聞いたり、新聞記事とか読んでると、実は日本屈指の柔道家だと。

**中村**　いやぁ、自分ではなんとも言えないですけど。でも、井上康生とか鈴木桂治が超一流と言われるなら、一流ぐらいには入ったんじゃないかなぁ〜って。

——自分で言いますか？（笑）。

**中村**　はい（笑）。

——でも、僕もそう思いますよ。あのズバ抜けた二人がいるから大会でも三位になったりしちゃうわけじゃないですか。

**中村**　だいたい三位ですね。

——つまり、柔道の100キロ級では三本の指に入る男なんですよね。

**中村**　三本の時もありましたけれど、五本ぐらいにしておいてください（笑）。

——全日本強化指定A選手だったわけだし、それにまだ若いし、メチャメチャ期待できる選手だなって思ってますよ。

**中村**　ホントですか！　嬉しいなぁ（ニッコリ）。柔道ではあまり注目されなかったんで嬉しいんですよ、そう言われると。

——分かりやすい人ですね（笑）。いつぐらいから総合の世界に出てみようと思ったんですか。

**中村**　大学の時に恩師の柏崎先生が『PRIDE』とか好きでよく見に行ってて、それでだんだん練習したいなと思って、大学4年の時にグラバカに初めて行ったんですね。大山（峻護）先輩の紹介で。

——その時は菊田（早苗）さんとかいたんですか？

**中村**　いました。あとは佐々木（有生）さんとかですね。菊田さんは強いって大山先輩から聞いてたんですけど、結構やってみたら投げれたりしたんですよ。

ーさすがですねぇ。寝技の方はどうでした？
中村 パスガードはしました。
ーアブダビ・チャンプからパスガードしたんですか！
中村 いや、その時はまだアブダビに行く前です。あと、練習行く数日前にヒールホールドを研究してて、一回、菊田さんがヒールを取りにきたんですけど逃げれたんで、これはイケるなって（笑）。
ーやっぱり凄いじゃないですか。
中村 いや、でもすぐにまたヒールを狙われて一本取られたんですけど（笑）。
ー柔道と違うなって思いました？
中村 似てるんですけど、違うなって。道衣があるとないとじゃ感覚がちょっと違うなって思いましたね。
ーそのちょっとの部分が大きく違うって感じはありますか。
中村 いや、ちょっと違うはちょっと違うですね。柔道をやってきた気持ちとかは活かせると思うんで。
ーでも、吉田さんの闘いっぷりを見てれば柔道は強いなって言うのは感じますよ。
中村 いや、吉田さんはまた別で（笑）。
ーでも、その吉田さんと一緒に練習してるわけですからね。寝技とかやっぱり凄いですか？
中村 でも、一本取れました！（笑）。
ーえ！ ホントに!?
中村 最初に総合の練習を始めた去年の8月ぐらいの時ですけど。その頃は、いまよりもっと一杯取れてたんですよ。
ーガンガン取れてた？
中村 ガンガン取れてたんですよ。
ーハッキリ言いますね（笑）。
中村 はい！ でも、最近じゃあ、全然取れないんですよぉ。
ー当たり前ですよ、世界の吉田秀彦ですからね（笑）。でも、やっぱり柔道界は深いですね。中村さんみたいな実力ある人がまだまだ埋もれてるんでしょ。
中村 いっぱいいますよ。
ーそもそも日本の柔道でトップクラスっていうのは世界でもトップクラスって考えてもいいわけですよね？
中村 はい！ そうですね。
ーだから、日本のベスト3もしくは自称・五本の指に入るってことは世界でも五本の指に入るってことなんでしょう。
中村 う〜ん、どうでしょ？ そこまでは言えないです（笑）。
ー実際、井上康生さんなんてバケモノみたいに強いって言うじゃないですか？
中村 強いッスよ、強い！ もう強い！って感じで、ホント異常ですよ。
ー異常ですか（笑）。
中村 いや、柔道始めた頃から優勝してたみたいですからね、凄かったですよ。
ーでも、世界選手権優勝とか五輪で金メダルを取るような人を相手にシノギを削っていた男が、総合格闘技っていうパンチもある別ルールの世界で可能性を試すっていうのは楽しみですよ。
中村 はい！ そう思います（笑）。
ーで、去年から総合の練習を本格的に始めたようですけど、結構、パンチには自信があるようですね。
中村 はい！ 殴りたいっていうか、殴ることになりますよね。だから、その対処だけ考えて。殴られたら殴れるんじゃないかなって思って。
ーあれ？ でも、「KOしたい」とか、「パンチで勝ちたい」とかあっちこっちの取材で言ってますよね。
中村 い、いや、それは（笑）。
ーさっきの柔道衣の話もあるし、実はかなりいい加減な人でしょ？（笑）。
中村 考えてないだけですね（笑）。

**菊田さんは強いって大山先輩から聞いてたんですけど、やったら投げれたりしたんですよ**

Kazuhiro Nakamura

ーなんか大舞台でもアガらない感じがしますね。
中村 いや、アガるとは思うんですけど、だけど、アップでもすればほぐれるんじゃないかなって思うんですけど。緊張は自分もするでしょうけど、相手もするだろうと思ってリラックスして。はい（笑）。
ーなんか、柔道の人たちって基本的に度胸ありますよね。吉田さんにしても小川（直也）さんにしても、そうですけど。
中村 いやいや、吉田さんたちと自分では全然比べ物にならないんで。
ーそう言えば、明大で練習していた時は小川さんとも練習しました？
中村 してないです。顔とかは会わしたことあるんですけど、「あ！ 小川だ！」って感じで嬉しくて（笑）。
ーでも、呼び捨て？（笑）。
中村 い、いや、心の中でですよぉ！ もう有名人を見るような感じで。
ー髙阪さんとも練習してるんですよね。どうですか、髙阪さんは？
中村 発見の連続ですよ。柔道って投げて抑え込んだら終わりですけど、総合ってそれだけじゃ終わらないんで、技の種類の豊富さっていうのが発見ですね。
ーでも、柔道にも絞めと関節ってあるじゃないですか。
中村 あるんですけど、下から極める技術はあれは別物ですね。
ー髙阪さんからこれから総合に出ていく心構えとか聞きました？
中村 やっぱり気持ちの部分です。気持ちが切れるとやられちゃいますからね。あとは「あんまり手を広げずにやりたいことを決めてやれ」って言われました。
ー相手のノゲイラ弟ですけど、髙阪さんもやったことありますよね。彼についてはなんて言ってました？
中村 最初、力がないって感じたみたいなんですけど、それが切れないらしいんですよ。それが嫌になるって言ってましたね。だから、気持ちが切れないようにだけ気を付けて練習してます。あとは三角絞めを狙ってきたら、一回で終わらなくて3回ぐらいバリエーションを変えて攻めてくるんで気をつけた方がいいって言ってましたね。
ー髙阪さんは、中村さんもノゲイラ弟も両方知ってるわけですから、お前だったら勝てるとか、そういうようなことは言って

## 吉田秀彦も太鼓判!!「カズには勝ってもらわなきゃ困ります！」

カズは期待するとかじゃなくて、やってもらわなきゃ困ります！ 大丈夫でしょう、相当根性あるから。彼のいいとこは稽古してても闘争心剥き出しになるところ。なにしろ、引かないですからね。こういう試合になったら技術は関係ないですから。もっとも、ノゲイラは足が長いから三角（絞め）は気を付けないといけないとは思ってますけど。だから、打撃で勝負でしょう。練習でもカッカッしてやってるんでやってくれますよ（笑）。

ましたか？

**中村** そういうことは高阪さんは言わないですね。技術的なことだけです。実際、弱いじゃないですか、下からとか。

――じゃあ、下になった時とかは、どうしようとか考えてます？

**中村** そうですね。でも、極力、上につこうって思ってますから。

――でも、素人考えなんですけど、なんか、勝てるんじゃないかと思うんですよ。

**中村** ホ、ホントっすか！（笑）。

――ホントっすよ（笑）。自分ではどう思います、ノゲイラ弟の試合はもう見てるでしょ、試合のビデオとかって。

**中村** 打撃がうまいなあって。向こうから組み付く方が多いですけど、それをうまく投げたいですね。投げで勝てるといいなって思ってます。

――投げで勝ってもらいたいですよ。それは見たいなぁ（笑）。で、この試合はアオリ的には"仮想・吉田秀彦vsノゲイラ兄"とも言われてるんですけど、そう言われるのはどうですか。

**中村** いや、別に光栄というか、吉田さんがいなかったら自分は出てないわけですから。だから、ドンドン言ってアオってください（笑）。

――望むところだと（笑）。追いつき追い越せぐらいの勢いで。

**中村** そうなれば嬉しいですけどね。

――吉田さんからは『PRIDE』に出るに当たって、何かアドバイスはもらってるんですか。

**中村** いや、「お前、ビビッてるのか」って言われました（笑）。

――いきなり（笑）。ちょっとビビッてる風だったんですか。

**中村** いや、そんなことないですよ。まあでも、怖いっちゃ怖いですね。

――でも、凄い期待してるんですよ、なんか勝てそうな気がするから。ところで、柔道時代の厳しい稽古のエピソードとかも聞きたいですね。

**中村** 厳しい？ 厳しいって言えば、やっぱり高校時代が一番凄かったですね。

――漫画の『柔道部物語』みたいな？

**中村** あんなもんじゃないですよォ！

――ホォ！ それは面白そうですね。

**中村** 朝6時ぐらいから1時間半ぐらい走って学校に行って、4時ぐらいから7時ぐらいまで練習して、1時間ぐらい休憩して、そこからまた10時ぐらいまで練習するんですよ。ウチの高校、有名なんですよ、厳しいので。

――毎日6時間以上やってたんですね。

**中村** で、気合いが入ってないと竹刀で叩かれたりとかですね。

――気合いが入ってなかったんですか？

**中村** やっぱり、長い時間やってると抜けますねぇ、正直（笑）。

――正直ですね。

**中村** 時間が長いですからねぇ、考えないと。あとはエロ本禁止とか（笑）。

――エロ本禁止!?（笑）。

**中村** いや、見つかったらシバかれますもん（笑）。

――高校時代にエロ本禁止っていうのは厳しいですね（笑）。

**中村** 厳しいッスよ（笑）。私生活がよくないと競技生活も良くないってことで。でも、良かったですね、いま思うと。

――いい話ですけど、なんかもう一つ血が滲むような練習とか、そういう話がほしいとこですね。

**中村** そうかぁ。血が滲んだことあったかなぁ……。あ！ 一個ありました。身体が頑丈だっていうのがありますね。

――それはどういうことですか？

**中村** 昔、車にハネられて頭からフロントドアに突っ込んだことがあって、顔中、血だらけになったんですけど、全然大丈夫だったですよ。

――それはノゲイラ兄も顔負けですねぇ。で、フロントガラスは？

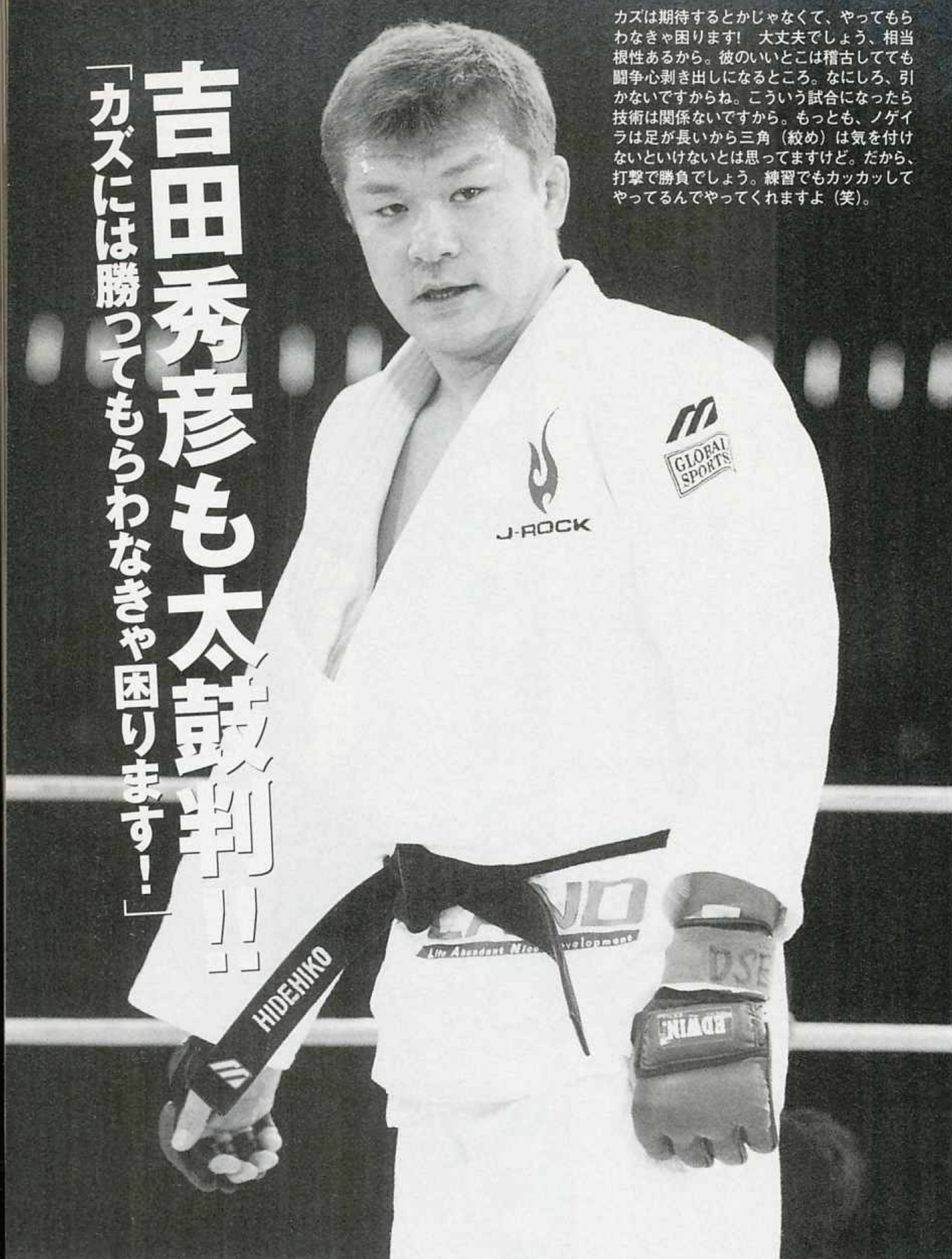
**中村** 割れました。

――でも、中村さんは無傷？

**中村** 血は出たんで病院には行ったんですけど、次の日に家に帰りました。

――それ、いい感じですね（笑）。

**中村** あとで、血の塊が後頭部から出てきて、そこをかいたらガラスの塊がポロポロって出てきて（笑）。

――総合よりデスマッチ向きですね（笑）。まあ、身体は丈夫だったと。

**中村**　身体は丈夫なんですけど、内臓は弱いんですぐに風邪引いたりして。

——どっちなんですか（笑）。先輩からの厳しいシゴキとかはあったんですか。

**中村**　それはなかったですね。尊敬できる先輩ばっかだったんで。高校の時は寮でしたから、先輩から用事を言われてやらないと、その場で殴られましたけど、直接的で良かったですよ、分かりやすくて。これだけやっておけば殴られないって分かるし。カラッとしてましたね。

——なんか、そういう世界が凄い似合ってますね。

**中村**　体育会系好きですから（笑）。

——成績的にはどうだったんですか。

**中村**　国体で優勝ぐらいですかね。自分、副将でした。

——感激ですよね。

**中村**　う～ん、だけど、各校の代表が集まって団体作ってるんで、なんか、仕事したなって感じでしたね（笑）。

——仕事感覚でしたか（笑）。で、その後、国際武道大学を卒業して、大山さんと同じ京葉ガスに入社したんですよね。

**中村**　バリバリ働いてましたね（笑）。

——でも、柔道の人って仕事は午前中で終わりなんじゃないですか。

**中村**　そうです、そうです。そうなんですけど、午前中はバリバリ仕事して（笑）。

——午前中ぐらいバリバリ働きますよ、誰だって（笑）。

**中村**　社会の厳しさを味わって（笑）。

——午前中の厳しさを（笑）。どんな仕事をしてたんですか。

**中村**　人事部です。会社の要ですね（笑）。

——ホント、ふざけてますね（笑）。

**中村**　いえいえいえ（笑）。ユニフォームの発注とかをしてたんですよ。

——ただ、それなりの給料はもらってたわけじゃないですか。だけど、プロの世界に入ったら不安定になるわけだし、結構、葛藤はあったんじゃないですか。

**中村**　いや、自分、なにかあったら、その時に考えればいいやって思うんですね。大学選んだ時も凄く良くしてもらったんで選んだんですけど、不安はなかったわけじゃないんですよ。でも、なにかあったらその時に考えればいいやって。

——なんとかなるさと。じゃあ、いまは給料は吉田道場のインストラクターだけだと。

**中村**　週2回やってるんですけど、ガス時代に比べればそれは厳しいですよ。

——だけど、それでもプロを目指すと。

**中村**　そうですね。ドンドン試合に出れれば希望もあるし、スポットライトも浴びれると思うんで（笑）。

——頑張ってください（笑）。ちなみに誰か目指す選手とかはいますか？　桜庭さんみたいになりたいとか、吉田さんみたいになりたいとか、逆に吉田さんとは違ったものを作っていきたいとか。

**中村**　吉田さんですね。でも、やっぱり、自分の力を確立していきたいですね。

——そうなれば吉田さんみたいにテレビにもバンバン出れるし（笑）。

**中村**　（たまたま別の取材で道場にいた吉田の方を見ながら）いいなぁ。……でも、まず、プロの世界は勝たないと。

——だけど、勝てば勝つで、今度は吉田さんみたいに簡単に勝ちすぎるとか、いろいろと言われるわけですよ。

**中村**　あぁ～。でも、あれはしょうがないと思うんですけど……。期待するところが多いんでしょうね。

——でも、そういった期待感は中村さんにもありますからね。吉田道場所属であり、柔道界から第二の刺客が登場ってことで。実際、これまでの戦績を見ても刺客としての価値は十分にありますから。

**中村**　あります？　そう思います？

——思ってますよ！（笑）。自分ではどう思ってるんですか。

**中村**　パッと出で、いきなり『プライド』に上がらせてもらえて光栄ですよ。

——やっぱり、それは実績ももちろんですけど、吉田道場所属っていうのも大きいんじゃないですか？

**中村**　ですよね。で、吉田道場所属になったのは、自分、柔道が好きなんで、100％柔道から離れるのが嫌だったんですよ。その気持ちが大きいですね。

——ともかく、ノゲイラ弟戦ではかなり期待してるんで、必ず勝ってください！

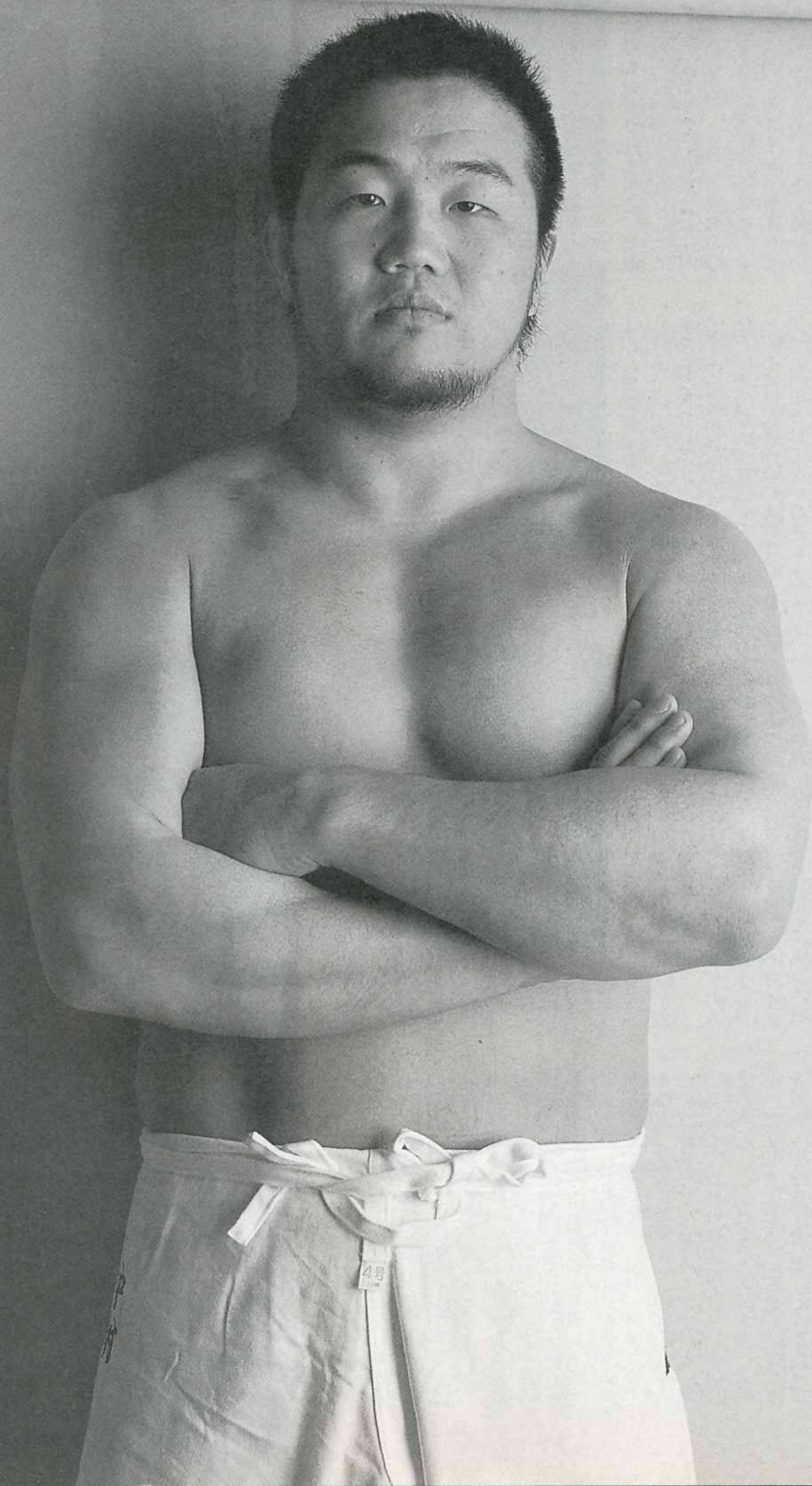
**中村**　はい！　なんか自信はあるんで、応援お願いします！

**【03年2月8日／吉田道場にて収録】**

Kazuhiro Nakamura

リアクション系のお笑い芸人を目指していただけあって、中村の表情は実に豊か。案外、こんな男が日本マットの救世主になるのかも

吉田道場

# なんか自信はあるんで、応援よろしくお願いします！

【なかむら・かずひろ】ニックネーム＝カズ
1979年2月21日、広島県福山市出身（島田レフェリーと同郷）。178cm100kg。10歳から柔道を始め、柔道の名門・近畿大学福山高校を卒業し、これまた名門・国際武道大学へ進学。柔道では2000年正力杯全日本体重別100キロ級2位、講道館杯日本体重別2位、2001年全日本選抜体重別3位、2002年全日本実業個人優勝、ドイツ国際優勝等々の実績を持つ。さらに2001年には全日本サンボ体重別でも優勝。昨年、吉田秀彦の影響を受けプロ格闘家になることを決意し、親にも内緒で勤めていた京葉ガスを退社し、その後、吉田道場入り。ちなみに、中村のヘアースタイルは新日本の蝶野正洋を意識しているものだという。

リングス活動休止から1年——
その遺伝子は『ZST』へ受け継がれ
さらに成長し続けていた!

『ZST』事務局 広報

# 上原 譲

Jo Uehara

## 「リングスから生まれた『ZST』を前田さんに見ていただきたい」

**昨年11月23日、リングスの『バトルジェネシス』を継承する形で、KoKルールを採用したMMAイベントとして旗揚げした『ZST』。3・9Zepp Tokyoでの第2回大会を控え、ヘイズマンvs郷野実現、前田日明PPV改札で登場(?)など話題も豊富だ。このいま注目すべき『ZST』をより深く知るために、元リングス社員であり、現在『ZST』で広報を努める上原譲氏に話を伺ってみた。**

取材／堀江ガンツ　designed by Tani-Yan (Two Three)

### リングス解散で幻になった軽量級KoKトーナメント

——さて、リングスが活動休止して丸1年ということで、今日はリングスの『バトルジェネシス』を受け継いだ形で誕生した『ZST』とは、どんなイベントなのか、ということを改めて伺いたいに来ました!

**上原**　『紙プロ』さん的には、『ZST』より前田（日明）さんについての話が聞きたいんじゃないですか?（笑）。

——いやいや、まぁそれも込みということで（笑）。ではまず、初歩的な質問なんですけど、どういった経緯で『ZST』は設立されたんですか?

**上原**　まず元を辿るとですね、リングスは昨年の2月15日で活動休止となりましたけど、ホントはその直後の3月に後楽園ホールを押さえてあって、そこでライト級の賞金トーナメントを予定していたんですよ。

——ライト級KoKですか?

**上原**　そうですね。その大会はボクが中心になって動いていたんですけど、その準備の最中にリングスの活動休止が決定してしまったんです。それで自動的に後楽園も中止となったんですけど、スポンサーの方から「リングスはこういった状況で、本戦はできないけど、中軽量級の大会は予定通りやりませんか?」というお話をいただいたんですよ。

——2月で活動は休止するけど、軽量級の大会だけは予定通りやろう、と。

**上原**　ところが前田さんの答えは「NO」だったんですね。でも、ボク自身はやりたい気持ちがあったし、小谷（直之）選手や所（英男）選手という軽量級で「KoKルールをやりたい」というい い選手もいて、スポンサーさんも協力してくれるということで「小さい会場で大会をやってみよう」と、そうして始まったのが『ZST』なんですよ。

——ではホントに「リングス中軽量級を受け継いだ」という表現がピッタリなわけですね。

**上原**　そうです。だから『ZST』は昨年11月に旗揚げ戦を行って、次に3月9日にも大会をやりますけど、本当にやるべきことは、今年11月に予定している『ZST』の賞金トーナメントなんですよ。だからいまは、その大会に向けての体制作りですよね。

——ちなみに、そのトーナメントの賞金はどれくらいなんですか?

**上原**　優勝賞金500万です。

——500万! あの階級じゃ相当破格なんじゃないですか!? だって、あのK-1中量級が優勝600万ですからね。

**上原**　そうなんですよ。ただ、その割には、あまり反応がないんですけどね（苦笑）。信用されてないのかなぁ。まぁ、当日は現ナマで500万用意する予定ですから。それを小谷選手なり、今成選手なりがホントに手にしてるところを見たら、他団体選手とかからも第2回への参戦希望が殺到するような気もするんですけどね（笑）。

——え!? もう第2回大会も考えているんですか?

**上原**　ええ、考えてますよ。毎年は難しいでしょうけど、2、3年に1回とかやりたいと思いますから。そのためにもいまは、長期的なプランに基づいて、着実にやっていきたいですね。

### 前田日明が遂に3月から『ZST』の顧問に就任?

——『ZST』は選手以外のスタッフもリングスを受け継いでますよね?

**上原**　裏方のスタッフで元リングスの人間はボクだけですけど、レフェリー、リングアナ、ジャッジなどリングサイドスタッフは、リングスと同様ですね。それはただ単に、ボクにルートがなかっただけなんですけど（笑）。それ以外にもパンクラスの梅木レフェリーなんかにも協力していただいたので、パンクラスさんには感謝してますね。リングスとパンクラスはいい関係とは言えませんでしたけど、『ZST』は違いますんで（笑）。

——リングスのそういう点は受け継がない、と（笑）。それ以外にも、演出面では質素なリングス時代とは打って変わって、映像やライティングなどに凝ってますよね?

**上原**　それは演出をやってくださっている方が、凄く理解のある方で、新しい形をやっていくということに賛同していただいて、あの規模であれだけの演出が実現できたんですよ。まぁ、本来であれば前田さんが「ああいうのはちょっと」という考えだったと思うんですけど、実際見ていただければ素晴らしい演出だとわかっていただけると思うんで。そう思って前田さんにも旗揚げ戦のビデオを渡しているんですけど、どうやら見てないみたいなんですよね（笑）。

——忙しいんですかね（笑）。

**上原**　どうなんでしょう? 去年は釣りに連れていって頂きましたけど、最近はわからないです。

——上原さんはリングス末期は前田さ

んの側近だったわけですけど、それ以降も連絡をとっているわけですよね？

**上原** そうですね。たまに連絡をいただいたり、こちらから連絡したりしてますね。直接会ったりもしているんですけど、前田さんがいまなにをしているかとか、あまりそういった話はしないんですよ。裁判も知らぬ間に進んでいるみたいですけど、ボクから聞くのもなんですし（笑）、そういった話もしてないですね。

——前田さんは、格闘技は見ているんですか？

**上原** たまに見てはいるみたいですけど、細かくは見ていないようですね。ボクが話した感じでは、いま格闘技関係の人とはあまり関係を持ちたくないみたいなんですよ。元リングスの各選手が、試合が決まったら電話で報告しているみたいですけど、それ以外では、格闘技界についてはあえて考えないようにしている様子ですね。

——では、第2次リングス興行を考えている感じではないわけですね？

**上原** そういう感じではないですね。具体的に聞いたわけではないですけど、ジムの設立みたいな方向で動いているんじゃないですかね。格闘技を見ていないというのではなくて、自分のやってきたことをうまく利用して、うまく考えて、何か違うことに繋げようとしている感じですね。

——一部では、『ZST』の顧問に就任という噂も流れていますけど、そういう可能性はないんですか？

**上原** 顧問就任という話はないですね。それはないですけど、『ZST』としては、前田さんに新しくできたこの大会を見ていただきたいという気持ちは強いですね。

——前田さんが作ったリングスから生まれた格闘イベントですからね。

**上原** はい。ボク自身も前田さんからいろいろ教えていただいて、その経験でやっているのが『ZST』なんで。ゼヒ会場で実際に見ていただいて、評価をしていただきたいと思っているんですよ。ただ、ビデオすら見てないようなんで、道のりは遠そうですけど（笑）。

## 4月にリトアニアで『ZST』の"ダブルバウト"を開催

——では、前田さんはともかく、他国のリングス・ネットワークと『ZST』はどのような関係なんですか？

**上原** それは前田さんに許可を得て、それぞれの代表にも許可を得てKoKルールを使った大会を開いていますから。リングス時代からの良好な関係を受け継がせていただいています。リトアニアとオーストラリアからは選手を派遣してもらいましたし、いまは「ロシアン・トップチーム」となっている、リングス・ロシアのパコージン代表には旗揚げ大会を見ていただきましたしね。

——パコージンさんはなんと言ってました？

**上原** 「10年ぐらい前から軽量級、軽量級とリングス・ジャパンは言っていたのに、一度もロシアの選手を呼んでくれなかったので、日本は軽量級選手を必要としていないと思っていた。こんな大会があるなら、どんどん育てたのに」と言ってましたね（笑）。だから、今後問題がなければ、ロシアの選手も呼びたいですね。

——そのときは「ロシアン・トップチーム」ではなく、「リングス・ロシア」として（笑）。

**上原** もちろんそうですね。あとは、各ネットワークの大会があるんで、そこにも協力していこうと思っています。近いところでは、4月にリトアニアで興行があって、そこで『ZST』の試合を組みたい」という話をいただきまして、チーム・イリホリ（今成正和&矢野卓見）がリトアニアに行って、日本vsリトアニアの対抗戦を予定しているんですよ。

——それは見たいですね！ イリホリはリトアニア側から「ゼヒあの二人を」という話だったんですか？

**上原** そうですね。前回の『ZST』で負けたのが凄く悔しかったらしくて、特に最後に負けた選手が「ヤノは逃げてばかりで許せない」と言ってるらしいんですよ（笑）。だから対戦相手はもしかしたら変わるかもしれませんけど、タッグマッチが組まれるようです。

——リトアニアでタッグですか!?

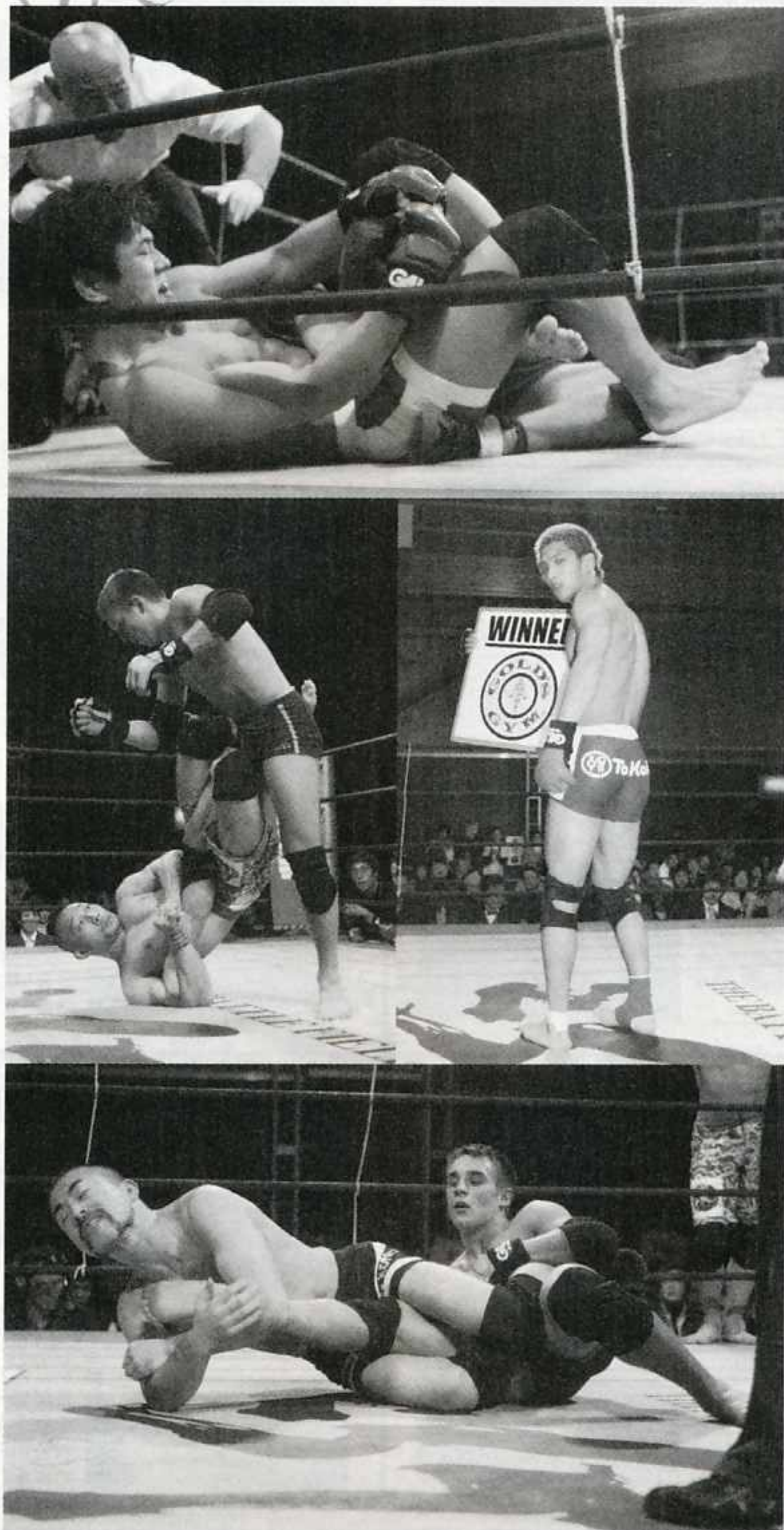
**上原** 向こうはもともと『BUSHIDO（武士道）』の名前でUインターが人気あったじゃないですか。だから"ダブルバウト"が受け入れられる土壌があるんですよ。実際、前回の『ZST』終了時もリトアニアの代表が「ダブルバウトが一番面白かった」と言ってましたからね。だからイリホリの二人と武士道レフェリーのリトアニア行きはほぼ決まっています（笑）。

——あ、和田良覚レフェリーも決まってますか（笑）。

**上原** リトアニアで一番有名なレフェリーですからね（笑）。

——逆に『ZST』に呼びたい選手とかはいますか？

**上原** やっぱり、さっき言ったロシアとか、グルジアなんかからも呼びたいですよね。あの辺にはまだまだ強い奴が埋もれていると思いますから。実際、ヒョードルなんていまでこそ『PRIDE』のトップにまでの上がりましたけど、来日前は全然期待されてなかったんですよ。

——あ、そうなんですか（笑）。

上から、"ZSTライト級のエース"小谷直之、"小さなヴォルク・ハン"所英男（右）、"足関十段"今成正和（左）、そして"東洋の神秘"矢野卓見。いずれも中軽量級では、日本を代表する選手であり、常に一本勝ちを目指し抜群に面白い試合をする"プロ"の筆頭格。この階級は『ZST』の独壇場だ。

**上原** 実は最初にロシアからプロフィール資料が届いたとき、第2回KoKに参戦したサンボの世界王者バラチンスキー・スレンとヒョードルの2人が一緒に載ってたんですよ。それでバラチンスキーは「ロシアで一番強い新人だ」ということでイチオシだったんですけど、ヒョードルは、プロフィールを見るとバラチンスキーよりずいぶん劣るので、「本戦では通用しないだろうから、とりあえず後楽園に出してみよう」となったんですけど、いざ来てみたら、メチャクチャ強かったんですよね。

——ヒョードルはバラチンスキーのオマケだったんですか（笑）。

**上原** だから、いまあそこまでヒョードルが大物になったのは嬉しいですよね。

——他に例えばブラジル人を呼ぼうとは思わないんですか？

**上原** いやぁ、ブラジル人は勝ちにこだわる試合をするじゃないですか。『ZST』は格闘技のプロレスですから。面白い試合をしてもらいたいからKoKルールなんですから、ただ勝つだけの選手はいらないんですよ。だから、1Rである程度押したから、あとは押さえ込んで時間切れを待つような選手は2度と使いませんから。逆に結果的に一本負けを喫してしまっても、それが積極的に攻めた結果だとしたら、その選手はどんどん使い続けます。

——そこまで方針がハッキリしているといいですね。

**上原** ウチは格闘技が好きな方はもちろんですけど、格闘技観戦が初めての方にも楽しんでいただけるイベントがコンセプトですから。そういった意味で、まだ『ZST』をご覧になったことのない人は、ゼヒ3月9日ZeppTokyoに足を運んでいただきたいですね。それからPPVも決まりましたんで、ゼヒ多くのみなさんに楽しんでいただけたらと思ってます。

——わかりました。では、3・9『ZST2』に期待してます！

【03年2月10日／『ZST』事務所にて収録】

# KoKルールで"リングス"とGRABAKAが激突!
# 3・9『ZST2』Zepp Tokyo見どころ大解剖!!

**『ZST』のエースが、UFC戦士を迎え撃つ!**

**小谷直之** ロデオ・スタイル vs **リッチ・クレメンティ** チーム・エクストリーム

KoKルール無敗を誇る"『ZST』ライト級のエース"小谷は今回もメインに登場。デビュー以来最強の相手と言っても過言ではない、2・28『UFC41』への参戦も決定している強豪・クレメンティを迎え撃つことになった。両者共に一本、KO勝ちを信条としているだけに、好勝負は必至だ。

**ヘイズマンの相手"X"は、なんと郷野だった!**

**クリストファー・ヘイズマン** リングス・オーストラリア vs **郷野聡寛** パンクラスGRABAKA

第1次リングスラストマッチのメインをヒョードルと共に努めたヘイズマンが『ZST』に参戦! その相手はなんと、"グラバカの火薬庫"郷野に決定した! KoKルールは初となる郷野だが、打撃と関節技を得意とするだけに、このルールに打ってつけの選手と言えるだろう。"リングスvsパンクラス"という勝敗以上に内容が楽しみな一戦だ!

**"エセ骨法"と"エセ・ヤノタク"魅惑の初遭遇**

**矢野卓見** 烏合会 vs **梅木繁之** SKアブソリュート

"エセ骨法"が、"エセ・ヤノタク"と対戦!? 矢野卓見の相手は2・16パンクラスにも参戦した梅木に決定。梅木はヤノタクばりに半身に構えた体勢からトリッキーな動きを見せる選手で、"本家"ヤノタクとの対戦は、どんな試合になるのかまったく予想がつかない!

**"リングス・リトアニア"が連続参戦**

**レミギウス・モリカビュチス** リングス・リトアニア vs **坪井淳浩** フリー

リングス・リトアニア軽量級の雄が旗揚げ戦に続き連続参戦。前回は今成の足関に苦杯をなめたが、今回は魔裟斗との対戦経験もある"グラップリングシュートボクサー"が相手だけに、リトアニアのムエタイ&サンボJr.王者の実力を大いに発揮しそうだ。

**"元・ゴロツキ"が"格闘エリート"とタイマン勝負**

**梁正基** スタンド vs **小野瀬哲也** ストライプル

かつてヤマケンの一番弟子だった「第1回タイタンファイト」王者・梁正基が『ZST』初参戦! 『ZST』旗揚げ戦でU-FILEの佐々木恭介を下した小野瀬と対戦することとなった。街のゴロツキ上がりとレスリング・エリートのタイマン勝負、はたして結果はいかに!

**"小さなV・ハン"がサンボ王者と"回転体"を披露!**

**所英男** チームPOD vs **松本秀彦** SKアブソリュート

その観客を魅了する多彩なグラップリング技術から"小さなヴォルク・ハン"の異名を持ち、どの大会に出てもベストバウトをやってのける所英男。今回は"日本サンボ界最強"の呼び声もある松本が相手だけに、寝技でU-STYLEを超える"回転体"が見られるか!

**"足関十段"今成、『ZST』に再登場!**

**今成正和** TEAM ROKEN vs **X**

?

『ZST』旗揚げ戦では、ヤノタクと組んだ"チーム・イリホリ"として、リトアニアチームとタッグマッチ3本勝負で対戦。得意の足関節で鮮やかに2本連取し、その"足関十段"ぶりをまざまざと見せつけた今成。対戦相手は未定だが、今回も大注目の選手であることは間違いない。

THE BATTLE FIELD ZST 2 [zεst]

## 2003・3・9(日) 開場16:00 開始17:00
## Zepp Tokyo

★入場料金 VIP(最前列/1ドリンク付)15,000円/SRS(2列目)8,000円
S席 6,000円/A席 4,000円/自由席 3,000円
※当日購入は、一律1000円増し。 ※自由席は、「チケットぴあ」のみで取り扱い。

★発売場所 チケットぴあ:03-5237-9999/
チケットぴあ Pコード予約:0570-029-999 Pコード:594-770
後楽園ホール:03-5800-9999/書泉ブックマート:03-3294-0011/
ビデオショップ・チャンピオン:03-3221-6237
ZSTオンラインショップ http://www.zst.jp/shop/
★お問合せ:ZST 事務局 03-5321-9595 info@zst.jp

**3・9『ZST2』PPV生中継決定!**

★タイトル THE BATTLE FIELD『ZST2』
★Ch番号 Ch.122
★日 時 2003年3月9日(日) 17:00より完全生放送
※事前番組16:30～(ノースクランブル)放送予定
★視聴料金 1,500円/回
※再放送アリ!
★お問合せ スカイパーフェクTV! カスタマーセンター
Tel:0570-039-888 045-339-0202
スカイパーフェクTV! オンラインカスタマーセンター
http://www.customer.skyperfectv.co.jp/

## Main-Event

# 吹けよ、風! 呼べよ、嵐!!

「世界最強」の交代劇を巻き起こせ!!

今月もM8（マグニチュード）クラスの
大事件勃発!!

山口日昇&吉田 豪

# 月刊Y2談 VOL.03

構成／ジャン斎藤

designed by matsu（Two three）

## 毒舌&無責任トークで この1ケ月のマット界を ぶった斬り!!

月刊Y2談

# こういう事態になっても、ここ10年間の館長の功績はホント凄いと思うよ［山口］

**本誌鬼畜編集長・山口日昇のサイパン特訓（つまり失踪）により、連載2回目にして終了の危機に見舞われた前号の『月刊Y2談』。今号も失踪しようものならば、吉田秀彦を起用して『月刊吉田2談』でもやろうかと検討されたが、なんとか山口を捕獲！ タイタニック級の事件が起こった、ここ1ヶ月のマット界をビッシビシぶった斬った!!**

●

**吉田** 先月は会長（山口日昇のアダ名）が失踪したおかげで、前号の「月刊Y2談」は大変でしたよ！

**山口** （悪びれた様子もなく）俺だって出る気満々だったんだよ！ それなのに、いつの間にか収録が終わってたんだよなぁ。

**吉田** それで結局、Y繋がりでターザンが登場したんですけど、そしたら大騒ぎになっちゃったし。

**山口** なんで？ 森下社長の件で暴走してたから？

**吉田** いや、そういう舞台裏での大変さもあったみたいですけど、読者からの「ターザンを出すな！」って声がとにかく大量に届いてるんです（笑）。

**山口** （ハガキを見て）うわ、ホントだ！ ほとんどターザン・バッシングばっかりじゃん（笑）。

**吉田** しかも「ターザンの顔が気持ち悪い」とか、内容とは無関係の批判ばかりで（笑）。

**山口** ガハハハハ！ 気持ち悪いのは、いまに始まったことじゃないけどね。

**吉田** ダハハ。ターザンが突然『PRIDE』と『K―1』にダメ出ししてノアを絶賛したことについても「あれはヒドイ！」とか叩かれてたんですけど、あのオヤジの手の平返しもいまに始まったことじゃないですからね（笑）。

**山口** ターザンが2階にかけたハシゴを外すって言われて久しいけど、あのオヤジは気分でしゃべってるだけだもんね（笑）。

**吉田** しかも、それだけノアを褒めちぎっておきながら、『月曜生ゴン』（2月10日放送分）で三沢の会見を見ながら「知り合いの記者にしか話しかけないのは失礼ですよぉぉ！ だからノアはマイナーなんだよぉ」って言ったせいで、今度はノアから『サムライTV』側に圧力がかかって『生ゴン』降板が電撃決定したそうです（笑）。

**山口** ガハハハハ！ いいぞ、仲田龍！

**吉田** ターザンは『マイナーパワー』（ターザン主筆の有料HP）のトップページのコピーに、「生ゴン降板させられちゃいました。俺は悪くない。間違っていない。いったいこれから俺はどうすればいいんだよぉ～」と打って精一杯の抵抗をしていたのに、数日後には「どいつもこいつも、しょっぱすぎるよぉぉ！」に代わってて、HPにまで圧力が及んだという（笑）。

**山口** やるなぁ、仲田龍……さんは！

**吉田** 藤波辰爾といえば〝ドラゴンの呪い〟ですけど、〝仲田龍版・ドラゴンの呪い〟も相当恐ろしいですよ（笑）。

**山口** 仲田龍さんって、それで何がやりたいの？ なんかターザンの気持ち悪さとは別種の気持ち悪さを感じるけどね（笑）。

**吉田** ま、こうしてノアのガチっぷりを痛感させられたところで、とっとと本題に入りましょう！

**山口** オーケイッ！ ……って、俺はこのコーナーをどう呼ぶかもわかってないんだけど、これは「わいわいだん」でいいの？

**吉田** この連載を企画したチョロが言うには「わいだん」らしいんですけど、だったら「2」は何だよって話なんですよね（笑）。

**山口** 相変わらず弱火だね、チョロは（冷たく）。

**吉田** まあ、二乗の「2」ってことで「Y談の事情」みたいな感じでいいんじゃないですか？

**山口** まぁ、どうでもいいや（笑）。え～、全国1千万人の『紙プロ』読者の皆様、スタート3ヶ月目にして「Y2談」の正式な読み方が決定いたしました！ これからは「Y談の事情」とお読みください。

**吉田** ここ1ヶ月というと話題は一つしかないですよね。

**山口** 一番大きかったのは石井館長の逮捕ってことになるよなぁ。

**吉田** ターザンはこの事件について「タイタニック級ですよぉぉ！」って炎上してましたけど、『K―1』という豪華客船は沈没したってことでいいんですか？

**山口** ……しかし、いいよなぁ。ターザンは呑気にそんな発言ばっかりできて（笑）。

**吉田** ここでは会長も呑気な発言をして下さいよ（笑）。実際、館長の件が逮捕まで発展するとは誰も思ってなかったんじゃないですか？

**山口** 周囲も在宅起訴で済むと思ってた人は多いんじゃない？ 「まさか！」っていう驚きはあっただろうね。館長本人も、逮捕の前日か前々日は映画の試写会に行ってたらしいから晴天の霹靂だったんじゃないかな。

**吉田** とりあえず、「タイソンの代理人であるバングラディッシュ人との交渉で違約金を取られて赤字だから、税金は払わなかった」って発言が逮捕の引き金になったわけですよね。

**山口** そのバングラディッシュのムハマドさんだっけ？ あの人、猪木さんとも繋がりがある人物でしょ（笑）。

**吉田** ダハハ！ タイソンと言えばやっぱり猪木さんですからね（笑）。最近の館長は、猪木さんを意識し過ぎた部分があると思うんですよ。

**山口** つまり、税金を払わない猪木さんを館長が意識したってこと？

**吉田** そうは言ってないですよ（笑）。ただ、猪木さんが「タイソンの来日が遂に決まりました！」といくら言ったところで誰も信用しないですけど、館長はタイソン戦争奪マッチをやったりで下手にリアリティを持たせちゃったのが失敗だったというか。

**山口** 〝スポーツ〟というイメージの哀し

先月の森下社長の自殺に続きマット界震撼!! 昨年の12月に脱税の容疑で在宅起訴されたた石井前館長が2月3日、タイソン招請失敗で10億円債務は「虚偽」と判断され、法人税法違反の容疑で逮捕された。逮捕は関係者も寝耳に水だったという

さでもあるよね。格闘技の場合、スポーツというイメージの他に興行という現実があるから。プロレスは純スポーツというイメージで売ってないからアドバルーンで許される部分もあるけど、K—1というソフトには興行というイメージが張り付いてなかったから、世間にとっては余計、あの言い訳はおかしく聞こえちゃったでしょう。

**吉田**　全てにおいてガチンコじゃなきゃいけないわけですね（笑）。

**山口**　でもね、俺はこういう事態になっても、ここ10年間の石井館長の功績はホントに凄いと思ってるんだよ。プロレスのビジネスやいい部分を全部持っていかれた云々っていうのは抜きにして、格闘技というソフトを武器にテレビ局との信頼関係を築き上げた功績は、今回の件とは別にキチンと伝えなきゃいけないよね。

**吉田**　ビジネスマンとしての手腕は凄いですからね。

**山口**　でも、だからこそ、違約金云々の言い訳はないだろうとも思うんだよ（笑）。ニュースでも「K—1関係者は『タイソン招聘は知らなかった』と証言してます」ってやってたけど（笑）。

**吉田**　「知ってた」と言えば偽証になるとはいえ、冷たいもんですよね（笑）。まあ、こうして芦原会館でサバキを学んできた館長が、違う裁きを受ける羽目になったわけですけど。

**山口**　ウマいね、どうも（笑）。

**吉田**　今回、一連の報道でビックリしたのは、テレビのニュースで館長がK—1のリングで挨拶する映像が流れたとき、背後にいる選手全員の顔にモザイクが入ってたことなんですよ（笑）。

**山口**　ガハハハ！　でもさ、ズバリ言って、脱税なんてどうってことない……っていう発言はオトナとしてしちゃいけないよ、豪ちゃん！

## せ　ないといけない［山口］

**吉田**　何も言ってませんよ！　ウチの編集部も最近、館長ばりに脱税してると疑われて査察が入ったぐらいですからね（笑）。

**山口**　大げさだよ！（笑）。それは普通に税務署が調べに来ただけ。でね、今回の館長の逮捕劇の裏で、プロレス村から「あんなことやっていたらダメだよね。やっぱり地道に行くのが一番」みたいなことを言っているのがチラホラ聞こえてくるわけ。でもそっちのほうがチャンチャラおかしいというかさ（笑）。地道に行くのは全然構わないけど、向こうが失速したからこっちが上がれる、みたいな考え方は何も生まないよね。まぁ、そういったこととは別にプロレスがチャンスなのは間違いないんだけど。

**吉田**　やっぱりビジネス的には脱税できるぐらいにならないといけないって言ったらアレですけど、現状のプロレス界には税金払えない人しかいないですからね（笑）。

**山口**　やっぱり今回の件は少なからずK—1には影響があると思うけど、館長がK—1を波及させるためのこの10年間の努力っていうのは、プロレス界にはまったく見えてないと思うなぁ。

**吉田**　豊富な資金によって、民放各局やバーニング・プロにも食い込んだりってことですか？

**山口**　いや、だからそういうイメージというか「金があるからあれができるんだ」「ウチらにも金があれば負けない」っていう妬みしか出てこないじゃない、プロレス界って。金を生み出そうという努力がないっていうかさ。「これだけ働いてる」っていう一所懸命さや努力を売りにしてる人はプロレス界にもいるけど、実際に勉強してる人は少ないよねぇ。

**吉田**　と、中卒の会長が言うわけですね（笑）。

**山口**　（ムキになって）俺、学歴はないけど勉強家だもん！　今回の件があっても、K—1というソフトは残したいとテレビ局側が思うぐらいの実績を残してるのは確かだよ。プロレスは、いまだに一個の会社と局のつき合いなんだけど、K—1はソフトと局の関係を築いてる。そこは学ぶべきだってことも、俺にはわかってるんだから！

**吉田**　ああ、はいはい（興味なさそうに）。あと、やっぱり館長はマスコミへのアメとムチの使い分けがウマかったわけじゃないですか。ターザンなんか、いきなり仕立屋を連れてこられて高額な背広をプレゼントされたみたいだし。

**山口**　あのオヤジは、他にもいろいろごっつぁんされてたんじゃないのぉ？（ニヤリ）。

**吉田**　ターザンが離婚もせず、まだ『週プロ』編集長のままだったとしたら今回一緒に捕まってたんじゃないかって噂も一部で流れてるぐらいですからね（笑）。

**山口**　今回、館長と一緒に捕まったのはターザンの有料HPを立ち上げた人らしいから、そういう噂が出るのも仕方ないね。

**吉田**　しかも、それだけ館長から世話になっておいて今回の事件が発覚するなり、ターザンは館長からもらった背広を証拠隠滅のため捨てたらしいです（笑）。

**山口**　ガハハハハ！　ひどいことするなぁ（笑）。ホントに保身に走るとエゲツないよなぁ、ターザンは。手段を選ばない（笑）。

**吉田**　しかし、こうして話してみてもわかりますけど、「バングラディッシュ人」って微妙なディテールとか「田舎から出てきて学歴もなく、（税金について）勉強不足だった」って発言も含めて館長の事件は失礼だけど笑えるじゃないですか。

---

ノア・仲田龍氏、読者から苦情が殺到したターザン

**前**号の『Y2談』で「ホントに賢いのは君たちだぁぁぁ！」と突如ノアを絶賛したターザン。しかし、本文中でも触れられているように、ノアのフロントである仲田龍氏からの「ターザン出すな！」圧力により月曜『生ゴン』が降板になりました。そして、ターザンが代打を務めた前号の『Y2談』にも「ターザン出すな！」ハガキが殺到！　ここは仲田龍氏の男気溢れるやり方に敬意を表して、そのハガキの一部を公開させていただきます。

◆　◆　◆

●ターザン山本さん、自分の姿を押しつけないで!!　（大分・後藤さん・女）

●意味がわからない　（東京・大澤さん・男）

●ターザン山本がいらない　（神奈川・佐藤さん・男）

●ターザンがいつものごとく手の平返して「プロレス万歳」とか言うから〈中略〉自分は人に甘えたがるのに他人にはてんで冷たいターザンはろくな女にモテないと思う　（和歌山・山田さん・男）

●ターザンの顔が気持ち悪すぎる　（東京・橋本さん・男）

●ターザンが出ているページ全て読んでません……ムカつくから！　（大阪・山崎さん・女）

●ターザンの写真が気持ち悪い　（兵庫・木元さん・男）

●ターザンは格闘技を語る資格なし。井上義啓氏は格闘技の見方を知っている　（愛知・植田さん・女）

●会長の失踪は致仕方なしだが代打のターザンというところが×　（北海道・佐藤さん・女）

●自分の過去における責任を持てない人間は最低です。あんな大人にはなりたくない　（兵庫・阿部さん・男）

●ターザン山本の記事は不快　（神奈川・笠原さん・男）

山口　そのお前の発言が俺には笑えないよ（笑）……いや、でも笑うしか手だてがないもんなぁ、俺たちには。

吉田　それとK―1にはボブ・サップ効果もあるのかもしれないですけど、結果的に犯罪じゃなかったはずの『PRIDE』の方が黒いイメージに包まれてるのが不思議ですよね。

山口　森下社長の自殺が、一部マスコミを始めとした人々の妄想の中に黒い影がチラついてるってことでしょ?……って、お前、これ『噂の真相』じゃないんだから、もっと明るいネタにしようよ！　そういう格闘技界の暗い話題に隠れて、WWE再襲来という波も押し寄せたわけだけど、観に行ったの？

吉田　初日だけですけど、『W―1』の直後だったこともあって圧倒的に面白かったですよ。

山口　『W―1』と比べたら大抵は面白く見れちゃうよ（笑）。俺は2日目に行ったんだけど、初日より評判は良かったね。

吉田　初日はちょっとダレましたからね。ただ、ダレてる試合でも観客が「面白くしよう！」みたいに声援を送って盛り上げようとするんですよ。

山口　ああ、ファンが頑張ってるよね。地熱がある。興行で一番大事なのは、そういう地熱だからなぁ。

吉田　日本のプロレス界でそういうファンを育てているのはノアとか闘龍門ぐらいだと思うんですけど、その2団体とWWEと共通してるのは試合レベルの高さとマスクのいい選手を揃えているってことでしょうね。

山口　WWEで面白かったのは、俺の隣の席で小学3年生ぐらいの男の子とそのお母さんが観戦してたの。スーパースターズが出てくるたびに熱狂してさ。男の子が

## WWEでさえ演出を剝ぎ取ったらプロレスを見せ　な

「ジェリコ、カッケー！」とか騒いで、そのうち調子に乗って「ジェリコ、結婚してぇ！」って絶叫してんだよ。男の子が（笑）。するとお母さんが、「バカ！　なんであんたが結婚できんのよ！　お母さんが結婚したいわよ！」って、その子の頭をパシンと叩いてんの（笑）。プロレスを通じた家庭平和を見たね。

吉田　いまの日本のプロレス会場では絶対に見られない光景ですよね（笑）。

山口　昔は、率先して子供が行きたがるジャンルだったんだけどなぁ……。

吉田　いまはプロレスファンの親が嫌がる子供に無理矢理見せてるような状態ですからね（笑）。

山口　CSを中心としたプロモーションであそこまでの〝頑張るファン〟を作れたんだから、WWEというソフトの持つパワーは凄いよね、やっぱり。

吉田　諸事情で終わっちゃいましたけど、テレ東の深夜枠だったとはいえ地上波で毎週放送してきたのはやっぱり大きいですよ。

山口　でも、同じように地上波で毎週やってる新日本やノアと比べると、その届き方が違うからね（笑）。一時期の流行かどうかはまだわからないけど、WWEは少なくともノアや新日本よりも時代とリンクしてるってことでしょ。

吉田　やっぱり、TVでただ試合をそのまま放送したところで限界がありますからね。マスコミは『W―1』を「プロレスごっこ！」とか叩いてましたけど、批判できるだけの試合レベルをいまも保ってる団体がどれだけあるのかとも正直思いますよ。

山口　最近、テレ朝の『ワールド・プロレスリング』で放送されてる昔の映像を見て思ったけど、プロレスがヘタと言われていた昔の新日本での星野総裁vs前田日明の映像なんかバツグンに面白いよね。ファンに熱を持たせるエネルギーが渦巻いてる。

新年から暗い影が差した日本マット界を、海の向こうからやってきたWWEが陽を照らした!!　2夜連続興行となった日本ツアーは両日ソールドアウトで年内の再上陸が検討される盛況振り！　本場のエンターテインメント空間に観客はすっかり魅了されたのだ。ステイシーの笑顔＆迫力ボディにずっと満たされていたい！

吉田　ホント、いまとは当たりの強さもスピードも必死さも観客の熱も全然違うから、わけのわからないリアリティが感じられるんですよね。

山口　わけのわからないリアリティっていうのは、結局技術論じゃないってことだよね。でも、『W―1』みたいに一足飛びに「プロレスは技術論じゃないで〜す！」ってやるのも確かに無理がある。そういう点では、こないだのWWEはハウスショーだから試合で見せてたでしょ。WWEでさえ演出を剝ぎ取ったらプロレスを見せないといけないっていう事実はけっこう面白かったよね。で、俺はそのWWEに〝馬場さん〟を見たよ！

吉田　それって「ノアに馬場さんを見ましたよォ！」と言ったターザンみたいなもんですか？（笑）。

山口　ターザンがどういうつもりで言ったか知らないけど、馬場さんがノアにいるわけないじゃん（笑）。

吉田　胎内回帰願望の強いターザンにとって、自分を温かく迎えてくれる場所イコール馬場さんなんですよ。まあ、ノアには再び閉め出されちゃいましたけどね（笑）。

山口　今度は田村潔司の赤いパンツに目を付けたみたいだけど、田村もついでに締め出しちゃった方がいいね（笑）。で、俺がWWEに馬場さんを見たというのは、ハウスショーでしっかり試合を見せるということもそうだし、ウィリアム・リーガルなんかの試合の組み立て方は、オーソドックスなプロレスじゃない？　腕を攻めたら腕を攻め続けるとかに代表される、いわゆる

# WJは「裏を取るな！」という世界の復活かぁ。そう考えるとスッキリするなぁ（笑）［山口］

〃馬場理論〃の基本を持ってる選手が意外に多いってことだよね。

**吉田**　要するに、馬場さんがアメリカで学んできた黄金時代のアメリカン・プロレスってことですね。

**山口**　そういうこと。〃馬場プロレス〃は〃間のプロレス〃という言い方もできるけど、それをWWE勢がしっかりできるのがこないだのハウスショーで非常によくわかったよね。

**吉田**　テレビマッチではあまり見せない部分ですからね。最近、WWEでも活躍したペリー・サタンが新日本に上がってますけど、ホントにウマいんですよ。特に、タッグパートナーがジョシュ・バーネットだったりするから、それと比べちゃうと（笑）。

**山口**　ジョシュは、まだ微妙だよね（笑）。

**吉田**　人間的には面白いんですけどね。この前、『Ｎｕｍｂｅｒ』でインタビューしたんですけど、猪木さんに「やれんのか！」って言われた藤波が前髪を切り出す飛龍革命のやり取りを見て「ボクもあの中に入りたいよ！」と思ったらしいし（笑）。

**山口**　ガハハハ！　ジョシュって何者なんだよ（笑）。

**吉田**　しかも、いまの新日本の問題点をわかりすぎるぐらいわかっているから、辻アナとしゃべってる錯覚に陥りましたからね（笑）。ただ、そこまでわかっている辻アナの実況がイマイチ届かないのと同じで、バーネットにも同じ歯がゆさを感じるんですよ。でも、猪木さんや新間（寿）さんの発言に「まったくその通りだ！」っていちいち感銘を受けたりしてるから、ちょっと期待したいんですけどね。

**山口**　いまの新日本で、猪木さんのやってきたことや言ってることを、芯で捉えてる人間はいないからね（笑）。

**吉田**　それと、〃猪木プロレス〃って手取り足取り教えていくものじゃなくて、「勝手に盗めや！」みたいな感じじゃないですか。言ってることも抽象的だし。

**山口**　だから、こと純プロレスの基礎っていうことでいうと、馳先生が言ってるようにすべては馬場理論に通じるんだよね。武藤や馳は、馬場理論を基に純プロレスを広げていきたいんでしょ。『Ｗ—１』では馳が格闘家にプロレスを教えているけど、馳は馬場さんから学んだ馬場理論で教えてるよね。俺は馳先生が一番、馬場プロレスを継承してると思うよ。

**吉田**　おそらく、猪木さんが馳先生を毛嫌いする理由はそこにあるんでしょうね（笑）。

**山口**　でね、現状の『Ｗ—１』にはボブ・サップを宙づりにしたりとかトップの格闘家をバンバン上げたりとか、「人をビックリさせる」っていう〃猪木哲学〃が根っこにあると思うんだ。だから、現状の『Ｗ—１』は猪木プロレスの系譜なんだよね。目の前に提示されたもののレベルはともかく（笑）。

**吉田**　現時点では猪木プロレスすらできてないから、出来の悪い海賊亡霊を見せられてるわけですよね（笑）。

**山口**　でも今後の『Ｗ—１』は、バッシングの根幹になってる試合のクオリティーを上げていくことも必要になってくる。そうなると、純プロレスの基本である馬場プロレスがもっと必要になってくると思うよ。猪木プロレスと馬場プロレスが共存していかないと『Ｗ—１』はウマく転がらないと思う。〃猪木的世界〃と〃馬場的世界〃って言ったほうがいいのかな。

**吉田**　確かに、いままで格闘家をプロレスのリングに上げるのは猪木さん的なピンポイントで使い捨てていくやり方しかなかったわけじゃないですか。そこで馬場さん的なやり方で選手を育てるのはいいことだと思うんですけど、それって結局はアントン・ヘーシンクの失敗を繰り返しそうな気もするんですよ（笑）。

**山口**　それはでも、プロレスのリングに上がる格闘家の覚悟の問題でしょ。ＷＷＥは、今回の日本巡業では馬場的世界を見せたよね。演出やサイドストーリーに頼らず、シッカリ試合そのもののクオリティーで勝負するっていう〃馬場哲学〃の根っこにあったものを見せた。イザとなったら

見てみ、この顔！　この艶！　この日焼け具合！（ってモノクロだが）。同じ「W」ながらも『W-1』やWWEが構築する世界とは一切無縁のWJだが、失われた80年代的仕掛けである種、違ったプロレス・ファンタジーを与えてくれる。この暑苦しさはクセになる！

## 長州が言う「ド真ん中」の意味は「突っ込むなよ！」ってことですよ［吉田］

余計なものに頼らずに、パンツ一丁で見せるという哲学ね。そういう馬場哲学をハウスショーで見せながら、世界に発信させるPPVになると、「人をビックリさせること」しか考えてないビンス親分が猛烈に絡んでくるわけでしょ。マクマホン一家は、見事に猪木的価値観の人たちだもんね。だから、WWEは猪木的世界と馬場的世界がもの凄いスケールで回転してるから面白いんだよ。『W—1』も続けるんだったら、そこを目指さないと続かないと思う。

**吉田**　そして、DVで警察沙汰になったストーンコールドをWWE復帰させたように、館長もミリオンダラーマンとして復帰すればいいわけですか（笑）。

**山口**　ガハハハ！「国に払うぐらいなら選手に払う！」とか金をバラまいてほしいなぁ、館長に（笑）。

**吉田**　これはギャグでも何でもなくて、館長の復帰の舞台は『W—1』しかないと思いますよ。ああいう事件すらも取り込んでいけるのは、やっぱりプロレスだけでしょうからね。

**山口**　それってプロレスはすべてのことをギャグに変換させる装置だってこと？（笑）。

**吉田**　懐が深いと言ってほしいですね（笑）。

**山口**　たしかにプロレスのパワーは、イレギュラーで起こったことを、表舞台で繋いでいくっていうパワーだからね。ビンスとホーガンなんて、地球規模で仲違いした2人がいまは同じ舞台に立ってる。そういうビジネスへの昇華のさせ方はプロレスしかできないよね。

**吉田**　新間さんなんか、剛竜馬を復帰させたくて拘置所まで面会に行くらしいですよ。

**山口**　ガハハハ！　その行動力は大したもんだなぁ（笑）。

**吉田**　だから、ボクも「もう一度、プロレスバカvsドラゴンが観たいです」とお願いしておきましたけどね（笑）。テリー伊藤も剛竜馬に会いに行くって話だし、いまはプロレスバカの争奪戦になってますよ！

**山口**　凄いね（笑）。そういうタフさがプロレスの根幹にはあるはずなんだけど、いまそれをやってるのはインディーだけだよね？

**吉田**　実際、IWAぐらいですよね。

**山口**　メジャーは、あっちとは仕事したくない、あいつとは絡みたくないっていう、プライドなんだかスネてるんだかわからないミミっちぃ話ばっかだから。ダイナミックに、起きたイレギュラーを表舞台で繋いでいってほしいなぁ。

**吉田**　もう、普通にプロレスをやるだけじゃゴールデンタイムには対応できないのは事実なんだから、なんでも取り込んでいくべきなんですけどね。

**山口**　でも、ギャグといえばあれは面白かったね。新日本の長尾（浩志）のデビュー戦。

**吉田**　デビュー前に挨拶したときリング上から飛び降りて怪我するだけでも凄いのに、デビュー戦でも村上のパンチを受けてわずか数秒で崩れ落ちるっていう（笑）。

**山口**　「あ、ヒットしちゃった！」って感じでね（笑）。大化けしてほしいな、長尾には。でも、『ワールド・プロレスリング』を見てて思ったのは、道場で新人のアナウンサーにスクワットとかウエイトトレーニングとかやらせていたコーナーがあったじゃない？

**吉田**　あれって絶対、新間さんに「道場を公開しろ！」って言われたからやっただけですよね（笑）。

**山口**　でもさ、いつまでたってもプロレスのハードさを打ち出す武器がスクワットとウェイトなんだよね。プロレスの練習って、スパーリングにしても、受け身一つ取ってみても、みんなが思うほど簡単なものじゃないんだから、どうせ見せるなら、そっちもドンドン公開すべきだよ。

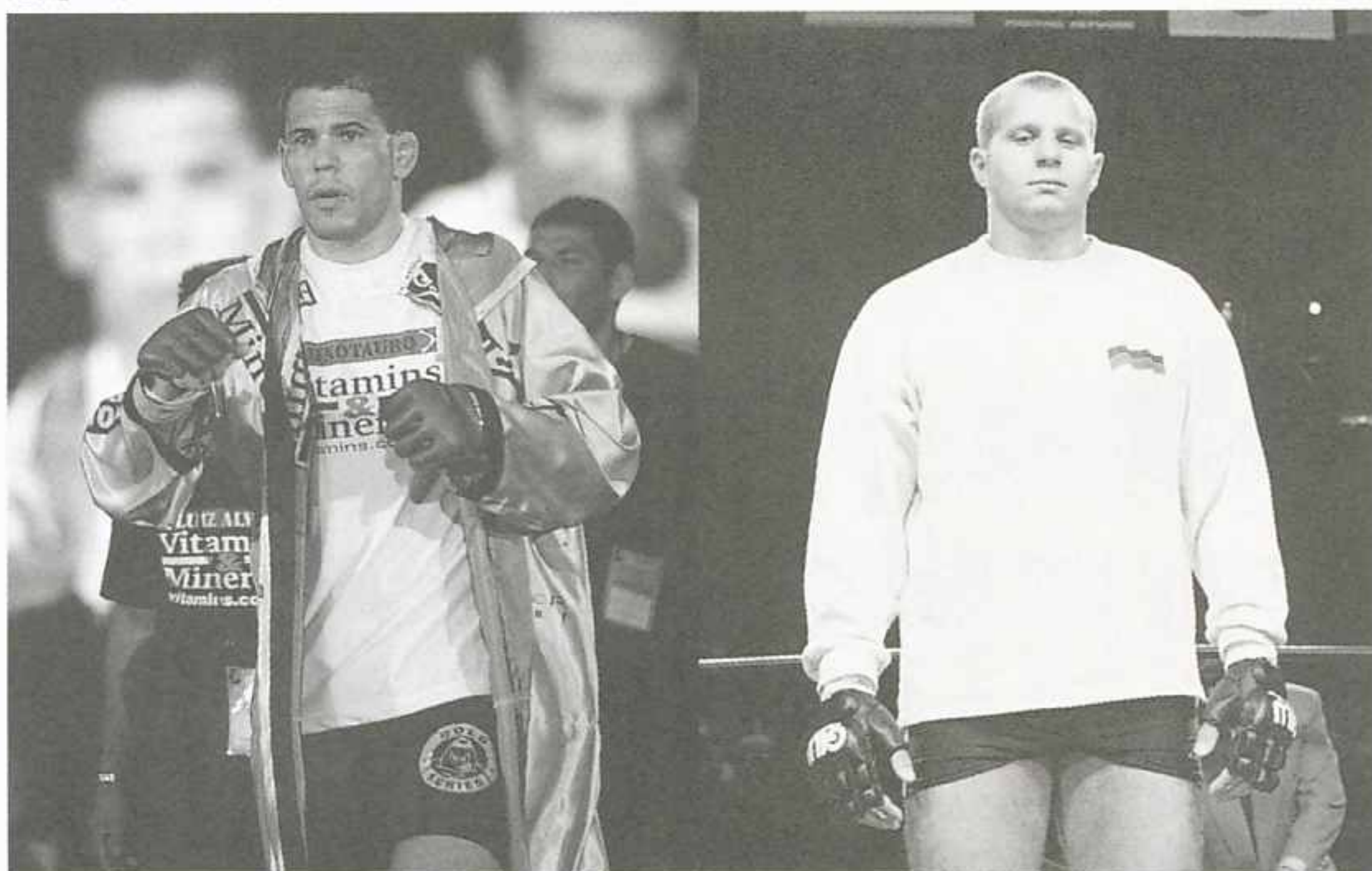
**吉田**　結局、根性論止まりなんですよね。会長は、もっと込み入った技の練習まで公開すべきだと思うんですか？

**山口**　全然、見せちゃっていいと思うよ。

**吉田**　かつて馬場さんが輪島に教えて関係者に衝撃を与えた〝表情の作り方〟とかも含めて見せるべきなんですね（笑）。

**山口**　全然OKですよ！　見せ方の問題はあるけど、実際に高度なことやってるんだから、自信持って見せればいいんだよ。プロレスなんて簡単にできると勘違いしてる人はいるだろうけど、できるわけないっつーの（笑）。ガチンコより痛い技の組み立てだってあるんだから。格闘家にプロレスを教え込んでいくドキュメントを『W—1』の深夜放送で連続で見せていったら

面白いよ。本業以外に格闘家がそこまでプロレスに打ち込めるのか？っていうのは、交渉力の問題だったりプロデューサーの役割になってくるけどね。
吉田　いま、そういう「プロレスの凄さ」を前面に打ち出そうとしてるのはWJぐらいですよね。
山口　WJはビッグハートだからウチにもリリースを送ってきてくれるんだけど、すでにチョロは「『紙プロ』はウチを茶化し過ぎだ！」って2回ぐらい怒られたらしいね（笑）。
吉田　ただ、いつも標的になってる健介自身は気にしてないらしいって聞いてボクもシビレましたよ（笑）。
山口　さらにビックハートだなぁ、健介は。ただ、旗揚げ前にこんなこと言うのもなんだけど、俺はすでにお腹いっぱい（笑）。
吉田　ホント、スポーツ新聞を読んでるだけで満足できちゃうんですよね（笑）。連日、すごく小さなマグマが紙面を騒がせてるから。
山口　WJのターゲットって、いまのとこスポーツ新聞と『サムライTV』だけなんだよなぁ（笑）。昔は確かにプロレスの情報なんてテレビ以外では『東スポ』でしか得られなかったから、日刊紙にドラマを展開していくことで求心力も付いたけど、いまは時代が違うと思うんだけどなぁ（笑）。
吉田　永島さんは当時の記者だから、そのつもりで発信してるんでしょうけどね。ただ、実際に戦争が起きるかもしれないこの時期に、安生vs谷津の試合に〝究極のテロリスト対決〟ってタイトルを付ける呑気さは凄いですよ（笑）。
山口　健介のタッグマッチも「ノールールにする！」とか言ってるんでしょ？
吉田　相手はドン・フライと「アルティメットのチャンピオン」という触れ込みだったキング・オブ・ザ・ケージのチャンピオンだから、I編集長も「これはバード（井上用語でのバーリ・トゥード）になりますよ！」って興奮してますね（笑）。
山口　ガハハハ！　大変な騒ぎになってるんだなぁ、WJは（笑）。まぁ、永島のオヤジの時代は、プロレスって裏を取っちゃいけない世界だったでしょ。妄想と空想でいかに突っ走れるかというかさ。
吉田　「巌流島に底なし沼はなかった！」なんて暴露するのは野暮だっていう世界ですよね。だから、長州力の言う「ド真ん中」ってそういう意味だと思うんですよ。「お前ら、突っ込むなよ！」っていう。ヘタに突っ込んだらカチ喰らわされる古き良きプロレスの復活ですよね。
山口　なるほど、「裏を取るな！」という世界の復活かぁ。そう考えるとスッキリするなぁ（笑）。
吉田　「横から茶々入れるなよ！　俺たちはド真ん中を歩いているんだから！」ってことですよ。あんまり堂々と歩いているもんだから突っ込みづらい世界をWJは作ろうとしてるんじゃないんですかね。いわば、「このはしわたるべからず」と書かれた橋のド真ん中を突き進んだ一休さんみたいな感じで（笑）。
山口　でも、『ひょうきん族』以降、いまや素人でもボケやツッコミを日常会話に取り入れてるからねぇ（笑）。
吉田　だから、「アックスボンバーの使い手・大森もノアから引き抜いて、これこそまさにビッグ・ラリアート・フェスティバル！」とか突っ込むのは、もうやめにしましょうよ！
山口　いいや、やめない！（笑）。だって、破壊王なんて突っ込まれようがなんだろうが、堂々と「ド真ん中」を歩いてるじゃない。
吉田　長州力が「突っ込むな！」って恫喝しながら歩いているとすれば、破壊王はその逆で「お前ら、もっと突っ込んで来い！」って言ってると思うんですよ（笑）。
山口　突っ込まれながらも、なおかつ「ド真ん中」を歩けるタフさが橋本にはあるね。つまり、その「ド真ん中」っていうのは、世間の「ド真ん中」っていう意味だよ。プロレスの魅力って、昔から「八百長」だとか「なんでロープに振ったら戻ってくるの？」とかのツッコミをそれこそ矢のように浴びながら、それでも世間の「ド真ん中」を歩こうとしたエネルギーでしょ。それを「闘魂」と言うんじゃないの？　敢えて突っ込まないプロレス村の「ド真ん中」を歩いたって仕方ない。世間に討って出れば、それこそ突っ込まれまくるわけだから。矢のように突っ込まれても、それでも世間の「ド真ん中」を歩くエネルギーがある人をファンは待ってるんだよ。
吉田　いや、確かに破壊王も最高ですけど、業界のド真ん中を突き進むWJのことも気になってしょうがないですよ！
山口　確かに、WJには期待できそうだけどね。長州のインタビューの行間から読む限りでは、将来的にバーリ・トゥード方面にも進出しそうだし。長州力のやる気は見てとれるよね。
吉田　長州時代の新日本でも、そっち系の外人選手をコーチ役にして道場ではそういう練習をさせてたわけですからね。それに長州自身、健介をブレイクさせるのはバーリ・トゥードしかないと思ってるんじゃないですか？　正直言い過ぎちゃってスマンって感じですけど、健介はプロレスでブレイクすることはもうないだろうし、猪木

『PRIDE.25』で実現するノゲイラvsヒョードルの『PRIDE』ヘビー級チャンピオンシップ。森下社長の追悼興行となる大会のメインは、背景に流れるリングスストーリーを知らない『PRIDE』ファンでも興味を引く切り札的カードである「世界最強決定戦」が飾ることになる。加えて桜庭も満身創痍ながら復帰戦を行うなど、『PRIDE』のプライドが見えるカード編成となった

## 『PRIDE』のリスタートは、“頑張るファン”の肩にかかってる［山口］

さん的に言えば「ベルトを締めて客を呼べないようでは、これはプロじゃないよ」って選手でしたからね。

**山口**　猪木さんの言ってることは正しいよ。興行に付加価値を付けられないんだったら、ベルトを巻く資格はないもん。

**吉田**　猪木さんは永田に対してそう言ってたわけですけど、最近画期的だったのは「（いまの新日本は）つまんねえな、全然。だから俺はこないだ（1・4ドーム）も試合見ないで帰ってきちゃった」とか、そんな発言が『ワールド・プロレスリング』で流れたことなんですよね（笑）。

**山口**　猪木さんはいつ何時でもトバすよなぁ（笑）。

**吉田**　敬礼ポーズをやりながら「これはなんなの？　こないだも本人に質問したけど答えは返ってこない」ってボヤいたりで、現IWGPチャンピオンの永田をとことんクサすし（笑）。

**山口**　「そのポーズで何を表現したいんだい？」ってことには、まったく同感だよ。こないだ馳先生が「新日本がゴールデンタイムで流れたら、永田なんか大スターだよ」って言うんだよ。永田はホントいいレスラーだけど、その発言には首を傾げるな（笑）。

**吉田**　そもそも、あのまま永田の試合をゴールデンタイムで流せるわけがないですからね（笑）。

**山口**　確かに永田はプロレスもウマいし、迫力もあるし、コメントもウマいいし、頭もいいわけ。プロレスのことも一生懸命考えてるんだけど、何が足りないかといえば……顔なんだよなぁ。

**吉田**　顔が足りなくても、カッコ良く見せる術はあるはずですよね。たとえばDDTのMIKAMIなんかその典型だと思うし。だから、永田にしても何かしら表現の仕方はあると思うんですよ。

**山口**　だけど、永田はもっと根っこの部分で顔が悪いって気がするな。

**吉田**　会長、それはただの悪口です（笑）。

**山口**　いや、ブサイクだとかそういう意味で言ってるんじゃないよ（笑）。なんていうか、トップのプロレスラーの顔に見えないんだよ。

**吉田**　それはジャンボ鶴田もそうだったし、永田は技からスタイルからジャンボを意識してると思うんですけど、ジャンボほどの説得力がまったく感じられないわけですよね。ジャンボの場合はガタイもデカかったし、本気でやったら怖いという幻想があったから、どんなに呑気な顔でもよかったわけですけど。

**山口**　しかもジャンボはあの顔の通り、『呑気が一番』という人生観が試合からでも伝わってきたからね（笑）。永田はどう生きたいのかという〝サマ〟が顔から伝わってこないんだよなぁ。

**吉田**　どうせジャンボを意識するんだったら、永田にはフォーク・リサイタルを開催するぐらい呑気になってほしいんですよ（笑）。だけど、永田には長州力に「カチ喰らわすぞ！」的なプロレスラーの在り方を教えられちゃってるから、そのジャンボ的な部分との食い合わせが悪すぎるというか。そもそも、永田の顔は全然カチ喰らわせる顔じゃないですからね（笑）。

**山口**　長州力はカチ喰らわす顔してるもんね。

**吉田**　WJは「目ん玉が飛び出るようなストロング・スタイル」らしいですけど、そういう顔もしてますからね（笑）。

**山口**　それこそ、お前、悪口じゃないのか？（笑）。

**吉田**　（無視して）しかし、永田には器用貧乏って言葉が誰よりも似合いますよねぇ。

**山口**　永田はもっと不完全な姿を晒す勇気を持ってほしいなぁ。ジャンボだって、決して常に完璧なモノを見せていたわけじゃないからね。

**吉田**　完璧なモノを見せたのは、デビューして20年ぐらい経ってからですからね（笑）。

**山口**　やっぱり、完璧と不完全なものがクルクル回ってる人の方がズーッと見ていたいと思うじゃない。

**吉田**　永田は長州力じゃなくて、藤波辰爾の不完全さに学んでれば良かったんですかね（笑）。

**山口**　ガハハハ！　ドラゴンと言えば肉体改造を始めたらしいけど、エアロバイクを漕いでる写真を見たらリハビリにしか見えなかったね……って、これも悪口？（笑）。

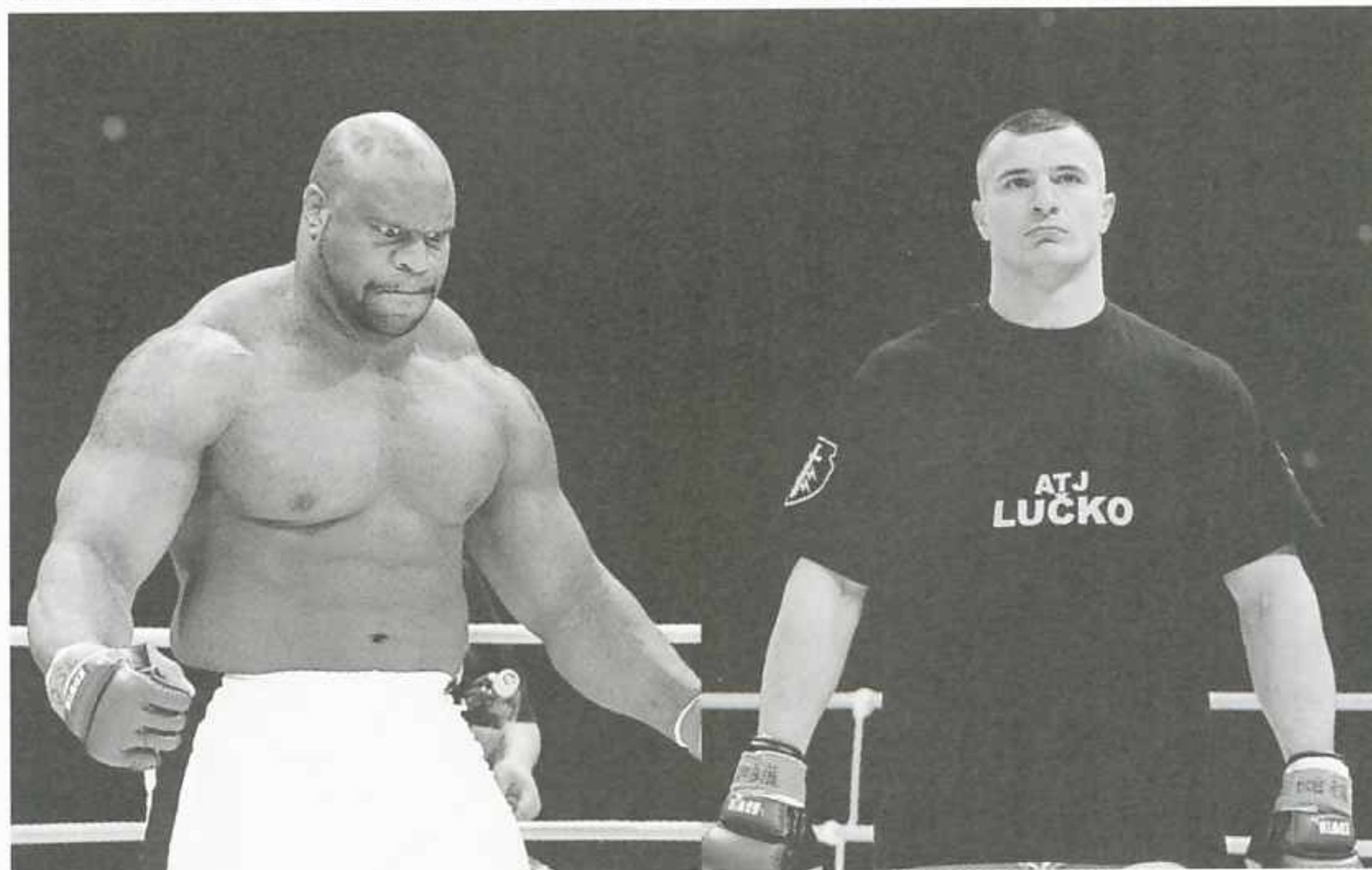
**吉田**　ついでに言うと、こないだ昼のワイドショー番組で藤波家の料理風景が流れてたんですけど、かおり夫人が「我が家ではニンニクを剥くとき電子レンジを使います。軽く温めるとと簡単に剥けるんです」と言ってるそばから藤波が勝手にレンジにニンニクを入れてスイッチ押したら、中でニンニクが爆発しちゃって（笑）。

**山口**　ガハハハ！　MAGMAを爆発させると息巻く長州に対抗して、ドラゴンはニンニクを爆発させちゃったんだ（笑）。

**吉田**　かおり夫人に「もう！　何をやってるのッ！　お掃除大変なんだからッ！」って叱られてたらしいんですけど、そういう呑気さも永田には学んでほしいですね（笑）。

**山口**　ムリヤリ話を戻すね（笑）。

**吉田**　新日本といえば今度の5・2ドームでガチンコのトーナメントをやるって噂ですけど、ありえるんですかね？　バーネットが言うには「選手たちは準備ができている。あとはプロモーターの心ひとつだよ。

バーリ・トゥードも見たいがK-1ルールでもまったくノー問題！　ワンマッチ興行で超満員札止めになってもおかしくないミルコvsサップの超ド級カード実現!!　スキャンダラスな事件がリング外を騒がしているが、その暗雲を吹き飛ばす一戦をボンと実現するK-1の底力は凄まじい。対決の機運なしで、ここまで求心力を持たせるスターの登場をプロレス界に期待したい

## K-1も先のことは考えず、暗いムードを吹き飛ばそうとしてますね［吉田］

月刊$Y^2$談

# どんなに突っ込まれても「世間のド真ん中」を歩くエネルギーが必要［山口］

もしそうなったらクールだね！」って言ってたんですけど（笑）。

**山口**　でもさ、もしそれをやったとしたら受け入れられるんだろうか？

**吉田**　I編集長の妄想が現実化するんだから、ボクは大賛成ですよ！　ただ、猪木さんは蝶野が提唱したプロレスと格闘技の2部構成について、「そうなった時点でプロレスは闘いじゃなくなる」ってことで反対してますよね。

**山口**　やっぱり、いまの時代は1〜2年前と違って、ZERO―ONEやWJのように「どプロレス」を真剣にやったほうが受ける気がするけどなぁ。

**吉田**　新日本がガチンコやったら客が戻ってくるかといったら、そうでもないでしょうからね。同じリングでガチンコと比較されることによって、プロレスとは何なのかがハッキリしちゃうとも思うし。

**山口**　将来的な構想としてはいいと思うけどね。これ3〜4年前からウチが言ってることだけど、選手の希望や適性によってバーリ・トゥードに出ていく選手、エンタメに出ていく選手、その両方に出ていく選手。いろんな道を選べるシッカリとした太い幹を新日本はつくるべきだと思うしね。

**吉田**　だけど、いまの新日本はバーリ・トゥードの選手にエンタメをやらせるっていう、違う幹を作っちゃってるわけですね（笑）。

**山口**　でも、テレビも興行も面白くなってきてるんじゃない？　エンセンが狂犬軍団のボスだったというのが2・16両国で発覚したけど、新日本はいまいろんな意味で前田日明を引っ張り上げたいだろうね。

**吉田**　最近になって前田日明絡みの映像をバンバン流してるから、使いたいんだとは思いますよ。星野総裁は破壊王に電話をしたらしいし、前から「魔界に前田を入れたい！」って公言しているんだから、電話ぐらいしてるだろうし。破壊王もきっと魔界に入れたいんですよ。

**山口**　破壊王を魔界にしたら、白覆面以上にバレバレだよ（笑）。

**吉田**　でも、いまの破壊王の良さは新日本じゃ出せないと思いますよ。ZERO―ONEみたいな野放しな場所じゃないと。

**山口**　選手が光れる舞台としては、いまはZERO―ONEのほうが上だからね。ZERO―ONEは4月ぐらいから地上波での放映も検討されてるらしいし、今年は勝負の年になるんじゃない？

**吉田**　ZERO―ONEが地上波で毎週流れたら、『W―1』はもういらないですよね（笑）。ところで『PRIDE』の今後はどうなりそうなんですか？　百瀬（博教）さんに取材したら「続けていく」って言ってましたけど。

**山口**　3・16『PRIDE．25』の先行発売は、いつもより1・5倍くらい伸びたらしいね。「頑張れ、『PRIDE』」っていう機運は感じるもん。『PRIDE』は遠心力にしか目にいかない時期もあったけど、さっきのWWEの話じゃないけどさ、やっぱり〝頑張るファン〟を育ててきてるよね。今回のリスタートが成功するかしないかは、その〝頑張るファン〟の肩にかかってる部分もあるかもしれない。ノゲイラvsヒョードルも実現するし、サクも出てくるし、俺は大いに期待してるけどね。

**吉田**　K―1も次の大会はミルコvsサップが決定したし、どっちも切り札を出してきましたよね。先のことは考えず、いまの暗いムードを吹き飛ばそうって感じで。

**山口**　ミルコvsサップっていうのは凄いよなぁ。単純に試合として見たいもんね。ただ、K―1の物語自体には俺、あんまり興味ないんだよ。さっきの「ド真ん中」の話じゃないけど、館長が第一線を退く今後、K―1が世間の「ド真ん中」をどうやって歩いて行くかのほうが興味あるっていうか。

**吉田**　もともとヒールキャラだったサッチーや安岡力也があっさり復帰できたのとは違って、館長の復帰はかなり難しいと思いますからね。この前、田代まさしのインタビューもしてきたんですけど、「もともと不良キャラだったのに、真面目ないいお父さんみたいなキャラになってきてたから復帰が難しくなった」って反省してたし。

**山口**　善良なイメージを打ち出しすぎるとマイナスになるってことか。その辺りは、ノアも考えた方がいいと思うよ（笑）。

**吉田**　いや、考えてるからこそ仲田ドラゴンがヒールキャラに徹してるんじゃないですか？

**山口**　なるほどね。だけど、いまのプロレス界が行き詰まってる原因は、フロントも選手も不要な人間が多すぎるってことだと思うんだよ。

**吉田**　具体的に言うと誰ですか⁉

**山口**　たとえば……って、そんなこと言えるかよ！　だけど、猪木さんが一線を退いて長州やビッグ・サカ体制になってた頃の新日本に行くと、関係者なんか試合を何一つ見てないでくっちゃべってたからね。それって人が余ってるってことでしょ？　ハッキリ言って、いまも昔もゴルフやることしか考えてない関係者だっていっぱいいるから（笑）。

**吉田**　永島さんなんか、ゴルフをやりながら対抗戦の交渉をしてきたわけですからね（笑）。

**山口**　永島さんは、いまはもうゴルフどころじゃないだろうけどね（ニヤリ）。

**吉田**　ゴルフと言えば、カネやん（金田正一）なんかゴルフに行く途中に交通事故に遭ったって、血まみれのままゴルフに行ったらしいですからね。どうせゴルフやるなら、それぐらいの覚悟でやってほしいですよ（笑）。

**山口**　ガハハハ！　ゴルフもやるんだったら、レジャーじゃない覚悟でやれってことね（笑）。

**吉田**　この前、念願叶ってそんなカネやんの取材が実現したんですけど、力道山の思い出について聞いたら、「昔、道玄坂から赤坂のホテルまで競争したんだよ。リキさんがキャデラックで、ワシがロールスでね。アッと言う間に着いたけど、あの頃は人をハネてもハネられた方が悪かったから。大らかな時代だった！」って感じで（笑）。そういう不謹慎かつデタラメなパワーが、いまは猪木さんや百瀬さん、あと石井館長や川村社長といった人にしかないんですかね。

**山口**　いや、破壊王にはその、いい意味でのデタラメパワーがあるから大丈夫だよ！　とにかく突っ込まれて血だらけになっても、世間の「ド真ん中」を歩くエネルギー、これが必要ですよ、プロレスには。どこかのようにターザンの発言なんて気にしてる場合じゃない！　以上！（笑）。

【03年2月10日／編集部にて収録】

●マット界の1ケ月丸わかり●

# 紙の新聞

## 1/14➡2/16

いったい何発のラリアットが飛び出すのか楽しみでしかたないWJ旗揚げ戦は、もう目前。「業界のど真ん中」を突っ走るべく、やたらと記者会見を乱発して情報量で他団体を圧倒する永島イズムは正直、大歓迎！ なぜなら、当『紙の新聞』看板選手・佐々木健介の出番が増えるから。負けじとドラゴンもトンチンカンな方向に暴走再開して、今月はスペースが足りないくらい。さっそく今月も目ン玉の飛び出るような『紙の新聞』をお届け！

編集長／スモーノブ
文／堀江ガンツ、ささきぃ

### 1/14

【WJプロレス】

**長州「天龍とシングル70連戦だ」**

当初、WJ旗揚げ戦出場の条件に掲げていた「長州との電流爆破」は永島専務の説得により取り下げたものの、「旗揚げ戦と3月シリーズ全戦でのシングル」とまたもや強烈な代替案を突き付けていた天龍源一郎。こちらも永島専務が断りを入れるかと思いきや、意外にも長州は了承！ さらに「頭から天龍が離れない」と乙女のようなセリフとともに、年内に予定されている70大会すべてでシングルマッチを行う用意があることを明らかにした。もはやチキンレースの様相を呈してきた長州vs天龍だが、こんな素敵なやりとりが続くなら再来年あたりまでシングルマッチを続けて頂きたいものだ。

### 1/15

【新日本プロレス】

**ドラゴンが大胆提案！「新日で猪木祭りを」**

新日事務所で会見を行ったドラゴンは、ZERO-ONEと全日本の接近に「我々が予想した通りです」と誰もが予想できることを得意げに語った。この言葉がそのまま自分に跳ね返ってくることも知らずに……。予想が的中して調子に乗ったドラゴンは、勝手にノアとの連帯強化をブチ挙げた。周知の通り、1/10ノア武道館大会に出た蝶野は自分が窓口となって交渉をしている。にもかかわらず、ここぞとばかりに「ノアは馬場さんの遺伝子を一番受け継いでる」と見え透いたヨイショを始めるドラゴン。あわよくば、今度は自分が交渉役を、とでも思ったのだろうか？ さらに5・2東京ドーム大会では、新日と『猪木祭』の合体興行案までブチ上げたから、さあ大変。プロレスとバーリ・トゥードの2本立てプランは受け入れられるのか!?

### 1/17

【プロレスリング・ノア】

**三沢、藤波案を拒否！**

この日、三沢がドラゴン案を一蹴した！ あまりにも唐突なドラゴンのゴマすり提案は、わずか2日で「我々が予想した通りです！」としか言いようがない結末を迎えた。

【WJプロレス】

**正直、健介が帰国！**

アメリカで生まれ変わって、おまけに日焼けしてゴツくなって帰ってきた健介が成田空港で会見を開き、「ヴァーっと、クァーッと暴れたい」とWJ入団の意気込みを豪快に語った。

### 1/20

【WJプロレス】

**健介＆マサが入団！**

「目ン玉が飛び出るようなストロング・スタイル」という福田社長の仰天発言が飛び出した健介＆マサ斉藤の入団会見。強面の男たちが握手を交わすと、飛びっきりの笑顔がこぼれた。

### 1/21

【参議院】

**大仁田が場外乱闘！**

自由民主党所属の国会議員・大仁田厚が民主党・小林憲司氏のパーティーで関係者の頭を叩いてしまった。関係者の仕切りの悪さに激怒した大仁田は、乾杯の音頭を取った直後に殴打した模様。

【K－1】

**サップ、CDデビュー**

この日、ボブ・サップのCDデビューが発表された。3月5日発売予定のシングルでタイトルは「SAPP Time!」。サップは日本語ラップにまで挑戦しており、ファンキーな仕上がりだ。必聴！

### 1/22

【魔界倶楽部】

**魔界軍さらに増強！**

この日、星野総裁がロス道場を視察した。"神" 猪木と会談した総裁は、早くも外人選手を魔界倶楽部へスカウトすべく直談判を開始。さっそくシャムロックの魔界入りが明らかになった。

### 1/27

【WJプロレス】

**安生が永島を急襲！**

サムライTV!の生放送出演中の背広レスラーをラッパ先生が襲撃！ 「3・1で俺の試合を用意しろ！」と迫る安生に「お前、ヒットマンか!?」と永島専務は絶妙の切り返しで応戦した。

### 1/29

マッチョ・ドラゴン

藤波辰巳

【新日本プロレス】

**肉体改造でマッチョ・ドラゴンに変身宣言！**

ドラゴンが、突如、新日道場で公開練習！「もう1回闘える体をつくりたい」と、仲山啓之介コーチの指導のもと1時間以上に渡りトレーニングを行った。ドラゴンはこの練習を始める際「ここ数年、闘いと言えるかわからない闘いをしてきた」と、いきなりとんでもないことを赤裸々に懺悔。そんな体調で「G1」「IWGP挑戦」「KOKルールでやってもいい」などと言っていたこと自体が大問題だが、「ネバーギブアップ精神でチャレンジしたい」と、改めて、恒例の現役続行をアピールし、「110kgの身体を98kgまで絞る」と、マッチョ・ドラゴンへの変身を宣言！ この調子で、テーマ曲まで戻しかねないドラゴンであった。

### 1/30

【新日本プロレス】

**大型新人・長尾コケる！**

デビューを3日後に控えた長尾がトップロープ越しにリングから飛び降りた瞬間、右足を負傷！ 情けない伝説を作ってしまった長尾に対して、高山も「かっこつけるな」とあきれ返った。

## 2/6

【新日本プロレス】
### 木村健悟が引退表明「引退試合は藤波と」

1・30の後楽園大会で行われた『新日版ロイヤルランブル』で、久々にハツラツとしたファイトを披露した木村健悟。今シリーズは久々に試合に出場しているが、ついに「もうそろそろケジメをつけなければ」と語り、レスラー生活30周年の今年中には現役にピリオドを打つことを表明した。「お世話になった方々に、お礼奉公じゃないけど、試合をみてもらいたい」とシリーズ出場を決意したのだという。気になる引退試合の相手だが、ケンゴは期待通りに永遠のライバル「藤波辰爾」の名前を挙げた！ そんなケンゴの思いに対して、当然ドラゴンが応えるものとばかり思っていたら……。

## 2/3

【WJプロレス】
### 超筋肉双子タッグ、WJに登場!!

長州&永島専務絶賛!! これがアニマル&ホークの対戦相手、ザ・クラッシャーズ（トッド&マイク）だ!! 一見、おとぼけ双子風のクラッシャーズは共に192センチ、136キロの巨体で、永島専務によると「このチームは、これまで裏街道を渡り歩いてきたタッグなんですが、皆さんにビデオを見せてあげたいぐらい凄いチームです！ おそらくタッグ戦の歴史が変わるんじゃないかなと思うぐらい大変期待してます」とのこと。長州も「とにかく凄い選手ですよ!! ボクはもうフィルム見ましたからね。これは見応えがあるんじゃないかなと思います」と、14歳の空手少年・中嶋君に続いて激賞。見た目よりもスゴイ選手らしいクラッシャーズの初来日を見逃すな!!

## 2/3

【池上本門寺】
### 高山&サップ組が誕生!?

池上本門寺恒例の節分会でサップと顔を合わせた高山が、横にいた秋山の持つGHCタッグ王座をエサに「2人でベルトをとっちまおうぜ」とタッグ結成を申し入れた。どうするサップ!?

【UFO】
### 暴走王、鬼退治！

八王子の宝生寺で行われた豆まきに、今年も小川直也が参加。「直也さ〜ん、こっちに投げてぇ」と、なぜか下の名前で呼ぶ地元のおばちゃんらに豆を投げまくっていた。福は〜内!

## 1/31

【新日本プロレス】
### ドラゴン「長州vs天龍を見届けたい」

肉体改造に取り組んだ途端、すっかり気持ちだけは現役バリバリに戻ってしまったのか、やたらと呑気なスキだらけの発言を連発しだしたドラゴン。「あれだけ何も知らない代表取締役はいない」「社員に全く信用されていない」などと長州に痛烈に批判されたことも忘れてしまったのか、いきなり長州vs天龍戦を見届けたいと言い出した。「同じ時代を生きた者として、興味があるし、見てみたい」と、さらに社員の信用を失ってしまいそうな爆弾発言。この暴走は、もはや誰にも止められないのか!? 3・1、ドラゴンはどこへ……？

## 2/7

【新日本プロレス】
### ドラゴン、キムケンのラブコールを「断る!」

「引退するとプロレスファンがCDを買ってくれなくなるから」という、とんでもない理由をモチベーションに現役を続けてきた木村健悟が、遂に引退を表明。その相手に、かつてのライバル・ドラゴンを指名したが、当のドラゴンは、「彼には悪いけど、目指しているものが違ってきている。断りたい」と、アッサリ拒否！ これまで散々「ジャンボとやりたい」「俺だって三沢とやりたい」「前田とKOKルールでやってもいい」など、勝手な対戦をブチ挙げ続けた挙げ句、逆の立場になるとこの仕打ち。まさか自分が猪木引退試合の相手に名乗り出ながら、アッサリ拒否された同じことをキムケンに味わせているのか……。

## 2/4

【東京地裁】
### 罰金30万円を求刑

パンクラスの尾崎社長を殴打、ケガをさせたとして傷害罪で訴えられていた前田日明被告に対して、検察側は罰金30万円を求刑した。前田被告は「事実無根」と従来どおり主張した。

【WJプロレス】
### 健想・越中が入団！袴姿で「夢はWWE」

「闘う軍団」ことWJプロレスが、新日本を退団していた鈴木健想の入団を発表！ あわせて越中詩郎、保永レフェリーの入団も発表された。衝撃の「明るい未来が見えませ〜ん」発言から1年、晴れ晴れとした表情で会見に臨んだ健想は、こんな席で「WWEに行きたい」と衝撃発言!「明るい未来」はとっくに見つかっていたようだ。しかし、そんな健想に対しても「WJで自分の価値を高めてほしい」と、福田社長はまたもや懐の深さを見せ付けた。VIVA!! 福田社長!!

東京スポーツ
崩壊大危機 K-1 石井館長逮捕 脱退続出

【K－1】
### 石井元館長、逮捕

K-1を主催する興行会社「ケイ・ワン」の法人税約1億7000万円を脱税したとして、東京地検特捜部は、法人税法違反の疑いで元・正道会館館長の石井和義容疑者らを逮捕した。

【成田空港】
### 藤波案、またも却下

この日、ロスへ帰国したアントン総帥は、藤波が提唱した新日版『猪木祭』のプランを一刀両断で却下した。というわけで、いま一度藤波にこの言葉を贈りたい。「我々が予想した通りです!」。

## 2/2

モナ王
食べごたえBIG!!

【K－1】
### サップ、CMにも登場!

ロッテのアイス『モナ王』のCMで眞鍋かをりと共演したサップ。学生服にビン底メガネという姿でIQ300の天才転校生役を熱演！ 3月より全国でオンエア開始だ。サップ旋風、やまず!

【新日本プロレス】
### 長尾、凄惨デビュー

ズッコケ伝説を作った長尾が足の負傷をおして強行出場！ しかし村上のワンパンチでグロッキー状態に陥り、わずか3分でKO負け。むごたらしさでは谷津のデビュー戦を上回った!?

## 2/7

【WJプロレス】

### 「お前たちの方を終わらせてやる」

2・8付の『東京スポーツ』でインタビューに答えたプロレス部屋親方（by週刊ファイト）。裏一面の「ど真ん中」に登場して、「ロートル集団と批判する奴ら」に向けて、「お前たちの方こそ終わらしてやる」と目ン玉の飛び出るようなメッセージをぶっ放した。さらに新日円満退社をアピールしながら、WJ旗揚げ戦の実況アナウンサーについて横槍が入ったことまで暴露！「長州vs天龍を見たい」とのドラゴン発言にも、「上がってみたいと言ってほしかったね」と、社長までも引き抜きかねない余裕を見せ付ける。WJで毎日会見をするドラゴンなんて夢も見てみたい気はする。

## 2/8

【全日本プロレス】

### 石川、全日本に登場

バトラーツの石川雄規が、突如全日本マットに登場!! 元バトラーツの土方隆司に余計な刺激を与えた上、熱くスパイスの効いた軍団・ターメリックに電撃加入を宣言した。どうなる全日本!!

## 2/10

【プロレスリング・ノア】

### 大森、NOAH退団!!

アメリカ修行に出ていた大森隆男が、NOAHを退団。三沢社長は「『自分の力でいろいろやりたい』ということでした。ウチに上がることはもうないでしょう」とコメント。

## 2/11

【アルシオン】

### 大向、電撃退団

後楽園大会のメイン終了後、現クィーン・オブ・アルシオンの大向美智子が、突如退団を表明した。衝撃退団の背景には、金銭的な事情があったことをロッシー小川社長も認めている。

## 2/12

【WJプロレス】

### 大森、WJ参戦!!

バクダン追加!! 大森隆男vs鈴木健想決定!!「自分の要望が、NOAHでは叶えられないとわかった。WJの前へ前へと出る攻撃的な姿勢、ど真ん中を行こうとするエネルギーに共鳴した」という大森。永島取締役は「うちとしても、キケンな爆弾を抱えたなというのはある」と、マグマ級の選手を迎え入れることの不安と喜びを表現していた。

【WJプロレス】

### 驚愕!! この男が健介の敵“X”だ

ヴァーッ!! この、すさまじいマッチョバディの男こそが、3月1日のWJ旗揚げ戦に参戦する“超大物・VT戦士”ダン・ボビッシュだ!! 日本マット初登場のボビッシュは、『キング・オブ・ケイジ』のヘビー級チャンピオン。マイク・タイソンのボディーガード兼スパーリングパートナーを務め、150キロの巨体で“猛牛”と称される強豪が、あのドン・フライとタッグを組む!! 2人は、タッグマッチなのに健介狙いうちを堂々と宣言!! 健介は「オレの首を取れるもんなら取ってみろ!! オレはそんなにヤワな首じゃないぞ!!」と早くも闘志をヴァーッとクァーッとマグマのように燃え上がらせている。健介、危うし!!

## 2/13

【WJプロレス】

### 「日本中の爆弾を集めてこいって！」

3・1のWJ旗揚げ戦で大仁田と史上最大の電流爆破マッチを行うことになった越中が鎌倉で合宿に入った。この日、わざわざ鎌倉に出向いた大仁田は、越中のランニングコースで待ち伏せして爆破実験を行った。爆弾ひとつでパイナップルを粉砕する超強力弾だが、当日はこの20倍の威力の爆弾を用意すると宣言! 対する越中は「小学生の爆竹の方が凄い」「パイナップル飛ばそうが、スイカ飛ばそうが関係ないって!」などなど、まるで平成維震軍時代のように“やるって節”全開で猛アピール! WJになっても維震軍は維震軍だよ。ずっと維震していくわけだよ（越中調）。

【新日本プロレス】

### ドラゴン、突如「0-40リーグ」を提唱!

棚橋弘至が開催を提唱している「U-30リーグ（30歳以下の選手で争うリーグ）」。そこになぜか50歳を間近にして、つい最近まで「闘いと言えないような闘いをしていた」と衝撃カミングアウトをしたドラゴンが過剰反応! なんと「0-40（オーバー40）をやってもいいんじゃないか」と仰天プランをブチ挙げた! 棚橋が新日本活性化のためにせっかく提唱した案を、自らの居場所確保のために利用するという、社長とは到底思えないエゴ丸出しのダーク・ドラゴン。この男のおかげで、吉江豊も「0-130（オーバー130キロ）でどうだ?」と悪ノリ。またしても、ドラゴンの勝手な発言によって、迷走状態に陥る新日本プロレスであった。

## 2/16

【新日本プロレス】

### 狂犬軍団のボス・エンセン井上が登場!

総合格闘技の試合からは遠ざかっているエンセンが、なんと新日・両国国技館のリングに乱入した! 魔界倶楽部と敵対するクレイジー・ドッグスのボスとして、小原にスカウトされてやってきたエンセン。乱闘中にリングに上がり、いきなり星野総裁をチョーク・スリーパーで締め落としてしまった! 失神した星野総裁を担ぎ上げた狂犬軍団は、小原が用意した制作費50万円の巨大犬小屋に放り込んでしまった。水面下でWJと取り合いになったというだけあって、一瞬の登場でも存在感は抜群。3月シリーズにもスポット参戦して、いよいよ試合に登場するエンセンに注目だ!

## 追悼

### 火の玉小僧、逝く 吉村道明さん死去

「火の玉小僧」の異名で活躍していた“名脇役”吉村道明さんが、2月15日の午前6時35分、神戸市内の病院で、呼吸不全のため死去していたことがわかった。享年76歳。『紙プロ』NO.9ではOB座談会に参加してくださった吉村さん。心よりご冥福をお祈りいたします。

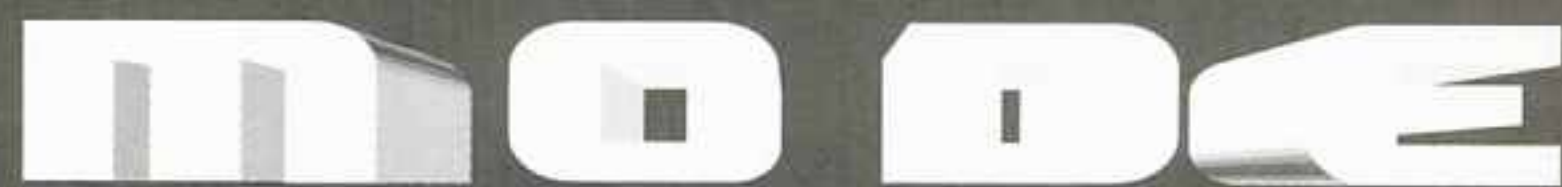
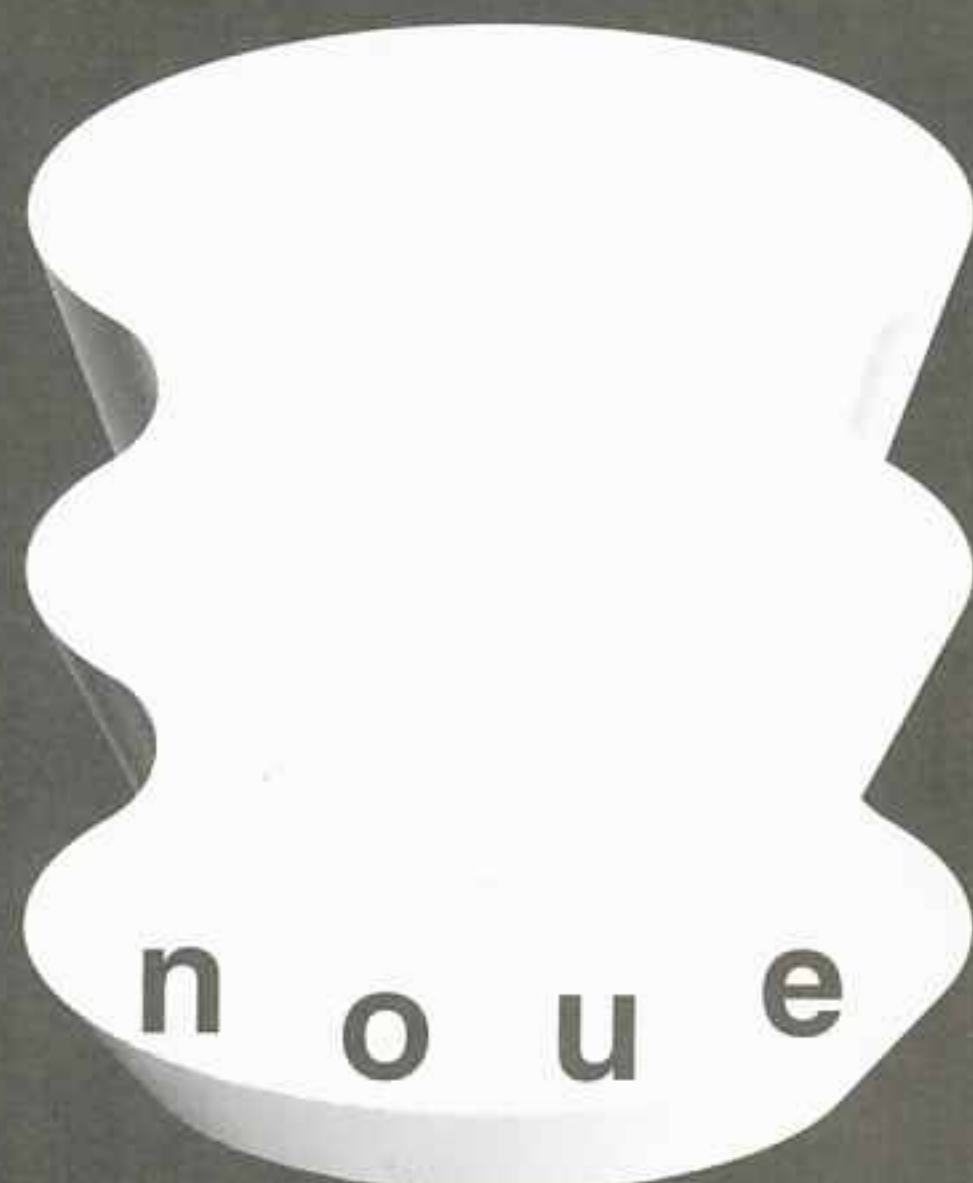
## 追悼

### カート・ヘニング突然の死

“Mr.パーフェクト”カート・ヘニングが2月10日（現地時間）フロリダ州のホテルで死亡しているのをホテル従業員が発見した。享年44歳。AWA、WWF（当時）、WCW、WWEを股にかけて活躍したヘニング。もうフィッシャーマンズ・ブレイスは見られない……。合掌。

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
**井上義啓氏**
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

# 喫茶店トーク

Inoue mode

——さて、井上さん、今日は3・1横浜アリーナで旗揚げする〃マグマ級〃の新団体WJプロレスについて、井上さんがどう捉えているか伺いに来ました！

**井上**　まぁ、WJというのは、やっぱり長州がやる軍団なんだからね、これはハッキリ言ってガチガチのストプロ（ストロング・スタイルのプロレス）なんですよ！　もうバード（＝バーリ・トゥード）に近いと！

——ほ～う、WJは限りなくバーリ・トゥードに近いストロングスタイルですか！

**井上**　おそらくそういったものを目指しますよ。だから3・1横アリというのは、必ずそういった風景が出てくる！（キッパリ）。3・1のキーワードのひとつはこれですよ。そしてもうひとつは言うまでもなく、イデオロギー闘争！

——イ、イデオロギー闘争ですか！

**井上**　やっぱりプロレスというのは、各団体によってイデオロギーの違いというものがあるんですよ。それを否応なしに思い出させるのが長州という男ですよ。だからこれは間違いなくイデオロギー闘争になる（キッパリ）。言うちゃ悪いけど、イデオロギーというのは、コオロギの親分とかそんなんと違うんだから！

——コオロギの親分じゃない！　そりゃそうですよ！（笑）。

**井上**　昔、藤原（組長）が「イデオロギー？　コオロギの親分か？」と言っとったんだから！　そんなもんと違うんだよ！　だからWJというのは、〃土の匂いのする原始的なプロレス〃というのを打ち出してくると思いますよ。「これが長州イズムだ！」というね。だからそういったものだろうと思ってカードが発表されてみたら、やっぱりそうや！　あのカードを見たらバードマッチがあるで！

——え！　3・1にバーリ・トゥードがあるんですか!?　僕が見た限り、見あたりませんでしたが……。

**井上**　そんなもんアンタ、健介あたりの試合は、あれバードマッチだろう！　だってUFCの連中が出てくるわけでしょ？

——確かにフライのパートナー〃X〃は、「アルティメット王者だ」と会見で言ってましたね。

**井上**　とにかくそういったモノを持ってきて、UFCの闘いをやろうと、ハッキリ謳ってるんだな！　だからルールがプロレスルールじゃなくて、バードのルールになるという可能性もある！（その後、ホントに「3カウントなし」のルールを発表。井上予言的中!?）

——でも、馳先生が入ってるのが気になりますけどね（笑）。

**井上**　そりゃ当然、馳もやるでしょう（アッサリ）。

——国会議員のバーリ・トゥードですか！（笑）。

**井上**　そんなもんアンタ、それぐらいやる男ですよ！　だからそういったことで、WJプロというのは、バード的な匂いのするガチガチのストプロをするというね、これがキーワードですよ。まぁ、ここまでは一応読めるんだけど、問題はこれがどういった波及効果を及ぼしたかってことですよ。

——WJが早くも波及効果を及ぼしているんですか？

**井上**　及ぼしてますよ！　だからここでこのインタビューは終わってもいいんだけど、ここで終わったらプロレス者は「編集長、これは前文じゃないか」「これから本文じゃないか」とカンカンに怒りますよ。だから「本文はなにか？」というのがこれからの話になってくる。

——ゼヒ聞かせてください！

**井上**　まぁ、WJというのは長州火山が爆発するわけだからね、「マグマ」と言ってるぐらいだから、これは必ずマグニチュード5、6、7といったモノが出てくるわけですよ。まぁ、3で終わるかもわからんけどね。少なくとも、地震が起きて、マグマが流れて、津波が起こると、それは予測しなくちゃいけない！　それをピーンと感じたのは誰だと思う？

——誰でしょう？　いきなり練習を再開した藤波社長ですか？（笑）。

**井上**　そんなもんアンタ、藤波は見に行きたいだけですよ！

——ドラゴンは単に見に行きたいだけ（笑）。

**井上**　そんな藤波なんかじゃなくてね、ピーンと感じたのは猪木ですよ！

——ほ～、猪木さんが長州マグマを感じ取りましたか。

**井上**　他の連中は感じてないと思うんだよな。でも、猪木はそういったバードに近いストプロというものをずーとやってきたからね、直接言わなくても、長州が言おうとしていることは、ピーンとわかるのよ。そこでや！　この前、5・2（新日・東京ドーム）について猪木が変なこと言いだしただろう？

——ああ、猪木さんの還暦祭なのに、「ドームに行く気はない」とか、「前日の5・1にイベントをやる」とか言ってますね。

**井上**　そう！「お前らは一部・二部にわけてやろうとしているけど、プロ

今月のお題

# 目ン玉が飛び出るようなストロング・スタイルとは何か？

『紙プロHand』iモード版の連載も大好評！ ますます熱く燃える井上さんの『喫茶店トーク』。今月はいよいよ目前に迫った、目ン玉が飛び出るストプロ団体・WJプロレスをマグマ級に熱く語ります！

聞き手／堀江ガンツ

レスと格闘技はどこが違うんだ」とかそんなこと言っとるわけだ。だけれども、「だったらあなたがやってきた、『猪木祭り』、あれはプロレスですか？」という声が当然、プロレス者からも出てくる。

——出てきますね。

**井上** そりゃそうですすよ！ 『猪木祭り』はプロレスじゃないじゃないか！ 最初はプロ格的なところがあったけれど、去年のなんか純然たるバードですよ！ そういった『猪木祭り』をやった当の本人がやね、「プロレスとバードとはどう違うんだ」と言い出したら、プロレス者は「どういう意味でんねん？」って聞いてきよるわ。言ってることとやってることが違うわけだからね。

——そうなりますね。

**井上** だからその答えっていうのを言ってしまうと、長州がやろうとしていることを猪木がピーンと感じてね、じーと考えて考えた結果、やはり猪木もイデオロギーに突き当たったということですよ！

——猪木さんまでイデオロギーに突き当たりましたか！

**井上** ようするに、限りなく近いガチガチのストプロで来るんだから、そんなときに「5・2」は第1部を純然たるエンタメ・プロレスで、第2部はバードで行きます」なんて甘いこと言ってたら、「お前ら、大笑いされるぞ！」ということを猪木は言いたかったんですよ！

——長州がガチガチにやってるときに、エンタメやってる場合か、と。

**井上** そうじゃなかったら、あんなわけのわからないことを猪木が言うはずがない！ だから猪木はWJにピーンときてから、ず〜〜と考えて考えて考えて、イデオロギーを考えて、猪木イズムを考えて、ゴッチイズムを考えてね、ずーと考えた結果、「キチっとした凄い試合をやれ！」という意味のことを言おうとしたのが、あの「プロレスと格闘技のどこが違うんだ」という発言の真意ですよ。

——ほ〜、考えに考えたのは猪木じゃなくて、井上さんのような気もしますけど（笑）。

**井上** （無視して）だから猪木の発言とWJは関係ないようでね、俺に言わせればキッチリリンクしてますよ。それからシャムロックが魔界倶楽部に入るという話があるだろう、あれだってWJに関係がある！

——シャムロックまでそうですか！

**井上** ドン・フライが今度WJに連れてこようとしている元UFCのチャンピオンというのは、〝X〟となっておったけれど、これは当初ケン・シャムロックを連れてこようと思ったに違いない。というのも、前に『PRIDE』でやったフライvsシャムロックというのが、アメリカでワンマッチPPVで放映されて非常に評判がよかったわけですよ。だから、よいよいの仲で呼ぼうとしたんだけど、「ここで取られてしまっては困る」となったのが新日本ですよ。特に猪木は、アメリカで人気のあるシャムロックをジョーニー・ローラーと一緒に押し立ててね、アメリカで興行を打とうと、それぐらいのことを考えたに違いない。そういうことで「これはアカン、引き留めろ」と。それでLAまで呼び出されたのが星野総裁だろう。

——は〜、なるほどなるほど。

**井上** 星野総裁がこの時期に自分の意志でLAまで行って、猪木に「魔界倶楽部のタイトルを作りたい。よろしくお願いします」なんて言うか！ これは猪木が呼び出したんですよ。そして「ケン・シャムロックを魔界倶楽部に入れろ」と言ったわけ。だから帰ってきてすぐに「ケン・シャムロックが魔界倶楽部に入った」ということを発表しているじゃないか。あれを見たら一目瞭然！ 星野がLAに行った理由というのはそれですよ。ということは、長州の方に持っていかれたらたまらんと、これはアメリカ進出の切り札のひとつです、と。そういうことですよ！

——そんな水面下でも、3・1WJと5・2新日ドームは密接に交わっていたんですね。

**井上** そりゃそうですよ！ だから3・1をボーッと考えとったらダメなんだよ！ いろんなところに飛び火してリンクしてるんだから。あれがなかったら猪木はあんなこと言わな

言うちゃ悪いけど今日の結論

# 猪木がWJにピーンときて、5・2ドームはバードに限りなく近いガチガチのストプロになる!

かったハズですよ。

——5・2も、そのまま蝶野案が通っていた可能性があるわけですね。

**井上**　ただ、一部を純プロレスにして、二部をバードにして『イノキ・ボンバイエ』というようなことは絶対許さなかったと思う。ハッキリ言って当たり前の話であってね、そんなもんアンタTBSの登録商標やないかアレ。それをやろうとしたところに猪木は呆れ返ったと思うよ。だから俺が言いたいのは、『イノキ・ボンバイエ』なんかじゃなくて、名称は『イノキ・フェスティバル』ですよ!

——『イノキ・フェスティバル』!　それも、まんま『猪木祭り』ですけど（笑）。

**井上**　（聞かずに）その後に『THE KANREKI』と入れると。無論、英字ですよ!　カタカナや漢字じゃないんだから!　それを小さく入れるわけ。だから〝還暦祭〟なんて謳わんでもいいわけよ。みんなそんなことは知っとるんだから!　還暦なんてのが珍しいことでも、おめでたいことでも、立派なことでも何でもないんだよ。そんなもん、還暦なんて俺でもなれるんだから!

——ガハハハ!　井上さんの還暦祭はゼヒやりたかったですけどね（笑）。

**井上**　だから名称は『イノキ・フェスティバル』これでいいんですよ。そしてテレ朝が放映していた「異種格闘技戦」という名称を使うべきですよ。これはレスラーと他の格闘技が闘うだけじゃないからね。「異種」だから、K-1の選手とPRIDEの選手が闘ってもいいわけよ。ハッキリ言って、中西とミルコ辺りが壮絶なバードマッチをやったらいいんだよ。それで第一部は小川vsハルク・ホーガンに任せておくと。

——実に贅沢な第一部ですね（笑）。

**井上**　そんなもん、本人がやりたいと言ってるわけだから、やればいいんですよ。ただ、まぁやらんわな。『W-1』のギャラでも来ないんだから。この間もホーガンがある記者に「（W-1）ドタキャンの理由はギャラじゃない」なんてことを言っとったようだけど、そんなもんあり得ない!（ドンッ）。

——ありえませんか（笑）。

**井上**　いらんこと言うけど、ホーガンというのは昔っからエエカッコするのよ!　そんな闘いの方向がどうとかね、小川と高山に1vs1で教えてやるとかね、本音では一言も言わない男ですよ。ぜ〜んぶギャラ!

——本音は全部ギャラですか（笑）。

**井上**　だからホーガンは来んとしても、いまの流れだったら5・2は面白いことになりそうですよ。『PRIDE』やK-1の選手が恐らく出てきそうですからね。そうしたら凄いことになる!　いまK-1や『PRIDE』があぁいう状況だから、行くとこなくなって「5・2出させてください」とわんさか申し込みが来てるんじゃないの?　どっちみちK-1や『PRIDE』でギャラ下げられるんだったらね、そんなもん「プロレスやっとった方がいい」となりますよ。プロレスは試合数で稼げますからね。

——プロレスは試合数で稼げますからね。

**井上**　しかも、「プロレスもやってみたら面白い」という奴も多いんじゃないかと思う。ホースト辺りなんかは「面白い」「クセになりそう」と思ったんじゃないの?

——『W-1』でもノリノリでしたからね（笑）。

**井上**　あの男は器用だしね。『W-1』でも、卍固めこそ様になってなかったけど、最初のスライディング・レッグシザース（カニ挟み）なんて、そこらのレスラーじゃできませんよ!　ただもんじゃないでアレ!　だから、ホーストvsサップを見てね、「プロレスごっこ」とか言うたらダメですよ!　あれだけの技ができる男なんだから。

——運動神経もズバ抜けてますからね。

**井上**　ただ、俺が言ってるのは、1ヶ月前からプロレスの練習をさせなさい、と。そうしたら凄い試合になるけれど、2、3日やってポッと出したんじゃ、イスで殴るくらいが関の山ですよ。だからホーストなんていうのは、1ヶ月練習させたら、アッという間に名レスラーになりますよ。

——ほ〜、そこまで好評価ですか。

**井上**　あのスライディング・レッグシザースを見たら、すべての答えが出てますよ!　あれができるんだったら、どんなことでもできる!（キッパリ）。ジョニー・バレンタインぐらいの試合は十分しますよ!

——アッという間にジョニー・バレンタイン!（笑）。

**井上**　ジョニー・バレンタインなんて何もなかったんだから!　技なんてヒジ打ちだけだからね。それでも凄い試合をやったんだから、プロレスというのは技じゃないのよ。ましてやホーストみたいな器用な選手だったら、ゴッチの域には達しないにしても、そこそこのレスラーのレベルはアッという間に超えますよ。だからそういったことも、『W-1』というのは教えてくれるハズなんだよな、本当は。

——いろいろバッシングされてますけど、可能性はありますからね。

**井上**　だから『W-1』をムチャクチャにけなすだけじゃ脳がないんだよ。いいところもあるし、駄目なところもある。「K-1の選手がプロレスやってなにが悪い!」俺だったらそう言いますよ。ただ、茶番だったからダメ、一夜漬けだからダメなんですよ。それを俺は言いたいんだな!

——わかりました!　では、iモードのコラム共々、来月もよろしくお願いします!

いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。「週刊ファイト」の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミで一編集長に影響を受けた人間は数知れない。

ZERO-ONE、
U-STYLE、総合

リン
去年

# DESTROY? CREATOR?

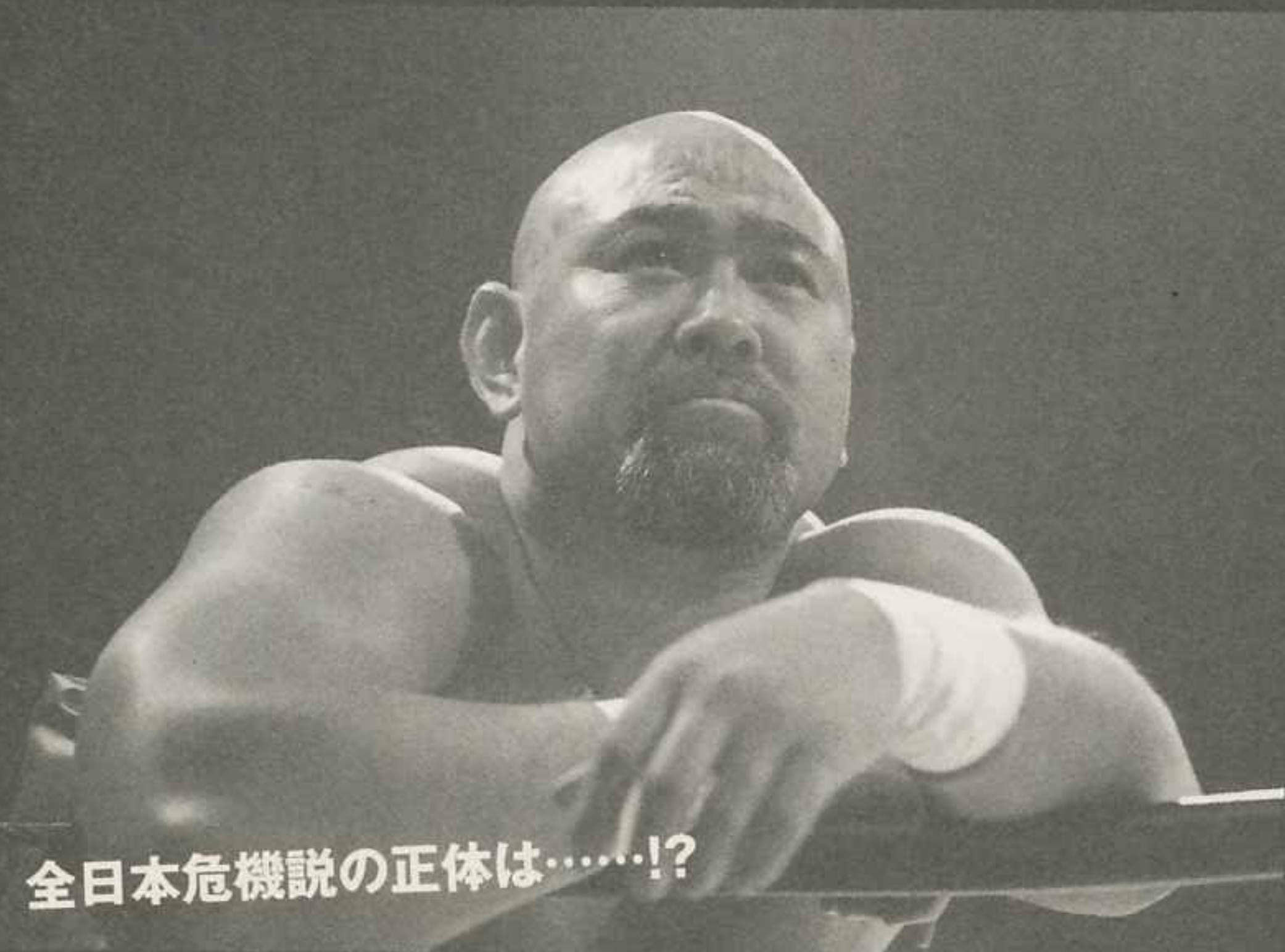
# WRESTLE-1

『W-1』はK-1のエンターテインメント部門!?

山口日昇
&吉田豪
月刊Y²談 増刊号

## 『W-1』のキーマンがすべてを答える!!

### 大バッシングを受けたスーパーイベントに未来はあるのか!?

開催2回目にして、プロレス業界から大バッシングを受けた、ん〜ッ、『W-1』!
当初はプロレス復興&世間へのアクセスを担う役割を大いに期待されたが、
批判の嵐の前にプロジェクトそのものが窮地に立たされてしまった。
この未曾有のスーパーイベントはSWS同様、某専門誌に滅ぼされてしまうのか?
本誌鬼畜編集長&毒舌スーパーバイザーが、
『W-1』の事情通・武田有弘氏と徹底検証&未来を探る!

全日本危機説の正体は……!?

構成／ジャン斉藤　designed by matsu(Two three)

かったハ
—5・
っていた
井上 た
て、二部
ボンバイ
許さなか
て当たり
もんアン
かアレ。
猪木は呆
俺が言い
イエ』な
ノキ・フ
—『イ
それも、
ど(笑)。
井上 (聞
KANR
英字です
ないんだ
るわけ。
わんでも

**どうなる? どうする!?『W—1』! 今回、お話を伺うことなった『W—1』のキーマンである武田氏は、以前は新日本プロレスに在籍し、昨年、武藤、小島らと共に全日本に移籍したフロントマン。移籍後はテレビ中継獲得に向け奔走する一方で、『W—1』プロジェクトを推進することでマット界に一石を投じたが、先日、全日本プロレスを退職——。しかし今後も『W—1』には関わっていくとのことなので、変わらず『W—1』の鍵を握る人物なのだ。ちなみに『週プロ』で『W—1』批判の反論をした関係者X氏(のちに「ミスターX」とタイガーマスク的名称に変更)とは別人物である。**

●

**山口** さぁ、武田さん。今日は『W—1』の明るい未来と、そして1・19ドームでの失速の責任は誰にあるのか、大いに語り合いましょう(笑)。

**武田** (人ごとのように)誰のせいなんだろうなぁ……皆さんはどう思います?

**山口** 武田さんに責任があります!(笑)。

**武田** い、いや、そうズバリ言われても……(笑)。

**吉田** まず、『W—1』に関して言えば、『週プロ』を筆頭に各地で叩かれまくってるわけですよね。「これだけ批判されれば大成功」みたいな歪んだ意見もよく聞きますけど、あのSWS以来の大バッシングは当事者としてどう思います?

**武田** う~ん、リング上のことを「つまらない」とか書くのは構わないんですけど、『週プロ』は余計な部分で、もっともらしく書いてるじゃないですか。まぁ、みんなに共通してるのは「佐藤さんだけには言われたくない!」ってことですけどね!(真顔で)。

**吉田** とにかくあの人に文句を言われるのだけはハラが立つ、と(笑)。

**山口** 専門誌の編集長に文句を言われたくないっていうのも凄いなぁ(笑)。そういえば、こないだのZERO—ONEのディファ有明大会(2・2)に全日本勢が乗り込んだ後で、全日本勢の決起集会があったんですよね? 佐藤大編集長もあとから駆けつけたらしいけど、カシンにビールを頭からぶっかけられたらしいね(笑)。

**武田** ムリヤリ焼酎をイッキさせられたりしてイジメられてましたよ(笑)。

**山口** ビバ、カシン!(笑)。

**吉田** しかも、『週プロ』の編集後記では「酔った勢いとはいえ冗談じゃないよ、まったくもう。私が責任のない立場だったらキレていただろう。しかし、今回は編集長だからこそグッとこらえた」とか、「私が矢面に立つことで少しでも本人の気が済み、場が盛り上がるならそう思い、甘んじて受け身をとった」とか、陰湿な恨み節をきかせてましたね(笑)。

**山口** 「甘んじて受け身をとった」って、そんな大層なこと?(笑)。

**吉田** でも、そんな恨みを買うぐらい『週プロ』の『W—1』バッシングは珍しく執拗でしたよね。

**山口** でもさ、高山を始めとした選手が批判するのは理解できるんだけど、専門誌や関係者がバッシングしてる根本は『W—1』の方向性がダメというより、『W—1』の中心にいると思われている、"プロレス村"の住民票を持たない人たちが嫌ってのことじゃないの?

**吉田** それが、ビッグ・サカ(坂口征二・新日本会長)の、「『W—1』はローデス(雑誌『SRS・DX』の発行元)って会社がやってるんでしょ?」って発言に繋がるんでしょうね(笑)。

**山口** しかし、天下のビッグ・サカが、ローデスの名を出すなんて、時代も変わったよなぁ(笑)。

**武田** そういえば光栄なことに新日本の会議で『W—1』の議題が挙がったらしいですよ。坂口会長が「あれに比べたら、新日本もまだまだ安泰だよぉ」と『週プロ』で出てましたね。

**山口** 新日本には、もっと上を見ていてほしいよなぁ(笑)。

**吉田** 下に照準合わせてどうすんだってことですよね(笑)。

**武田** 『W—1』は別に、ソフトの部分をローデスさんが組み上げてるわけでもなく、テレビがやってるわけでもなくて、渡辺(秀幸=全日本取締役)が中心にやってるんですけどね。

**山口** つまり、渡辺さんが全面的に悪くて、武田さんは悪くないと(笑)。

**武田** いや、ボクも悪いんですけど(苦笑)。ただ、周りから言われるままにボクらはやってるわけじゃないってことは、この場でハッキリ言っておきたいですね。

**吉田** 実際、ローデスはマッチメイクに関わってるわけですか?

**武田** サップvsホーストには関わってるっていうか、あれはK—1サイドの要請で、ローデスさんに間に入ってもらいましたけど、一番評判が悪かった武藤&ゴーバー(ゴールドバーグ)vsクロニックを組んだのは渡辺とボクです。ローデスさんは悪くないですね。

**吉田** あの日のワーストはメインじゃなくてセミだったはずですからね。

**武田** だから、武藤、ゴールドバーグ、クロニック、渡辺、ボクの6人が悪い……のかなぁ?

**山口** 「かなぁ」って曖昧だなぁ(笑)。でもね、こっちから話を振っておいてなんだけど、誰が悪いとかじゃなく、一番ダメなのは、『W—1』が"頑張ってくれるファン"を作ろうとしてないところだと思うんだよね。

**武田** たしかに1回目よりはお客さんの熱気はなかったですね。

**山口** 熱を生むためには"頑張るファン"が必要だからね。ノアには「ノアが最高!」っていうファンがいるし、ZERO—ONEには「頑張れZERO—ONE!」っていうファンがいるし、K—1や『PRIDE』にもやっぱりいる。それぞれのレベルや周波数でそういうファンがいるわけだよね。

**吉田** 「ノアだけはガチ!」っていうファンまで生んでますからね(笑)。

**山口** 『W—1』はまだ歴史が浅いから、そういうファンがいないのはしょうがないけど、その"頑張るファン"を作っていくサポートをするのは専門誌の仕事でもあるでしょ。その専門誌との協力体制がまったく敷けてない。専門誌をムゲにし過ぎてる(笑)。それだとテレビ局側と専門誌側の無意識の連携みたいなものも生まれにくいし、結果的に"頑張るファン"を作れないでしょ。

**武田** 「『W—1』かわいそう! 頑張れ!」ってファンは生まれてないんですか?(笑)。

**吉田** 「武藤、かわいそう!」とは思うでしょうけどね(笑)。やっぱり『ゴング』でGK(週刊『ゴング』金沢編集長)が「実体の見えない実行委員グループをきちんと組織化して表に出さないとマスコミの反感を買うだけ」って書いてましたけど、ローデス以外の業界内で反発を買わない人たちが前面に出ない限りはこの状態が続くと思いますよ。

**武田** 武藤選手や渡辺にしても、みんな表に出るの嫌がってるからなぁ……。でも、新聞さんや(新日本の)上井さんは前に出ま



いまから探して購入を勧めたいほど、『週プロ』の『W-1』大バッシングはとにかく必見。佐藤編集長の巻頭原稿では「通訳が脳天気」「『PRIDE』の石黒広報的人物が『W-1』にもほしい」とリング外にも牙を剥けられるのだから、その容赦のなさがわかるだろう。「なめんなよ、武藤!!」と破壊王のマイクを引用した『ゴング』は、批判気味ながらも『週プロ』ほどの暴走は見られず。ターザンと解説を務めたGKが「ディレクターの狙いは私をジム・ロス、ターザン山本氏をジェリー・ローラーにしたかったのだ」と余裕で書きつづる編集後記が面白かったぐらいだ

ZERO-ONE、

すからね。

**山口** フロントが表に顔を出すのは、必要悪みたいなもんだからね（笑）。

**武田** だから関係者の顔を出すためにも、次回から『W―1』の事務局を作ろうという話があるんですよ。

**吉田** その事務局っていうのは誰がやるんですか？

**武田** う〜〜ん……ボクと渡辺がやるしかないのかなぁ……。

**山口** ガハハハ！　また「かなぁ」だ（笑）。でもね、『W―1』は、『ボブ・サップのバトル・エンターテインメント』っていう地上波の番組制作を中心に据えて、そこから可能性を広げていこうとしてるイベントでしょ。中継では「プロレス」っていう言葉は御法度だとかいろいろあるけど、まだプロレスを題材に扱ってくれてるうちはいいよ。

**武田** そうなんですよね。

**山口** だって、テレビ側はプロレスである必要はないんだもん、極端な話。サップが相撲をやろうがアメフトやろうが、『バトル・エンターテインメント』だったら何でもいいわけだよね。例えばサップと若乃花が相撲取って、それを演出していけば数字は絶対取れるし、客だって入るでしょ？　テレビ側はプロレスを題材にして数字が取れなかったら、それは切る。当たり前の話だよね。

**吉田** テレビ局側にしてみれば、視聴率さえ取れればいいんですからね。

**山口** つまり、大局的に言えば、まだプロレスを題材にしてくれるうちは、プロレス界にとってはチャンスがあるからね。プロレス業界内的に批判されるのはわかるし、「あんなもんをプロレスと思われたら困る」という気持ちもわかるわけ。でも、「あんなもん」を喰うくらいのエネルギーをプロレス側が見せれなかったのも事実なわけだから。

**武田** だから今回の番組内容に関しては、批判される筋合いはないと思うんですよね。

**吉田** プロレスじゃなくて、とことんバラエティ番組に徹してましたからね。ただ、一つだけ不満があるのは、バラエティとしてのレベルが致命的に低かったことなんですよ（笑）。合い間にコントを入れるのはいいけど、ガレッジセールのゴリとサップの絡みはサップのバラエティ仕事の中でもズバ抜けてつまらなかったし。ボクはホーストとサップの〝プロレスごっこ〟じゃなくて、ガレッジセールの〝バラエティごっこ〟に対して本気で腹が立ちましたよ！

当初、噂があったホーガン＆高山と比べるとインパクトに欠ける対戦相手（クロニック）を迎えた武藤＆ゴーバーのスーパースターズ。試合もインパクト不足に欠けるアチャーな内容なためTVでは試合模様はほとんどカット。JRに乗ってやってきた、ゴーバーの登場シーン（クイズ付き）の方が長くオンエアされる編集となった

## 今回はプロレス側の失敗なんです。格闘家たちは別に悪くなかったですから［武田］

**武田** あれってK―1の映像を使うはずが使えなくなって、急遽差し替えた映像らしいんですよね。

**吉田** あ、そういうことだったんですか！　大会直前になってフジのバラエティ部とスポーツ部の軋轢が激しくなったのは聞いてましたけど。

**山口** その軋轢ができたのは、K―1の番組プロデューサーのK氏がサップvsホーストをやることにメチャクチャ怒ったからでしょ。K氏は〝K―1村〟というか〝K―1LOVE〟の人だから、ホーストをあの場で使うなんて「とんでもない！」ってなったわけでしょ。

**吉田** まあ、K―1はK氏のKでもありますからね。

**山口** 館長のKでもあるし。

**吉田** 検察のKでもあるし。

**山口** いい加減やめろよ、お前（笑）。

**武田** でも、あのカードはボクらが「やってくれ」って頼んだカードじゃないんですよね……。

**吉田** K―1側から頼まれたカードをフジテレビの興行に組んだだけなのに、そこで怒られても困るってわけですね（笑）。

**武田** いや、向こうから持ってきたカードだけにK―1とテレビ側の間で話がついてると思うじゃないですか？

**吉田** ところがまったく話がついてなかったせいで、局のスポーツ部は激怒するし、ついでにマスコミも激怒するし、猪木さんまで「『W―1』はテレビ局のオモチャになってる！」って激怒しちゃったわけですよね。

**武田** 全然、オモチャになってるつもりはないんですけどねぇ……。

**山口** こないだ日本で一番インチキ臭い政治家として有名な馳浩先生とも話したんだけど、逆にバラエティ色を捨てて試合のクオリティーを上げたところで、現状のプロレスがゴールデンタイムを取れるのかっていったら絶対に取れないでしょう。結局、ゴールデンで流せたのはボブ・サップという大スターがいたからであり、それを生み出したK―1という土壌が時代性とリンクしてるってことに尽きるんですよ。だから、プロレス界も世間に打って出れるスターを生み出さなきゃならないんだけど。

**吉田** スターのはずのゴールドバーグも、入場以外ではまったく光れないですからね。どうせゴールドバーグを使うんだったら、いっそゴー繋がりで剛竜馬と絡ませればいいと思うんですよ（笑）。

**山口** よくわからないけど、剛竜馬が鼻の穴から煙を出しながら入場してきたら笑えるだろうなぁ（笑）。

**吉田** いや、そうじゃなくて電車で移動してきたゴールドバーグから、なぜか剛竜馬が財布を奪って逃げるんですよ（笑）。

**山口** それをミルコが逮捕したりするわけ？（笑）。

**武田** 武藤選手も「剛竜馬vsビック・ボスマンはやりたい」とは言ってましたね（笑）。

**山口** ビバ、武藤敬司（笑）。

**吉田** ただ、そういう妄想と現実とのギャップがあまりにも大きすぎたわけですよね。今回の『W―1』でも直前まで参戦候補に挙がっていたホーガンが、『W―1』との交渉内容を『週プロ』増刊の『アメリカーナ』で暴露してたじゃないですか。「これだけのスケールのイベントをプロデュースするには最低でも3カ月、ふつうは6カ月ぐらいの準備期間が必要」「ミーティングのテーブルについたのはTVピープルで、レスリング・ピープルではなかった」「向こうの提示するタッグマッチを拒否したら、シングルマッチを提示してきた。それがプロレスに対する侮辱、プロレスラーに対する侮辱というんだ」とか筋の通った批判を繰り返してましたけど、あれについて武田さんはどう思います？

**武田** 言ってることはわかるんですけど……ホーガンは職人がたきのレスラーですからね。

**山口** そうだね。昔気質のレスラーだよね。

**武田** それに、『W―1』参戦を見送ったのもWWEのギャラを釣り上げるという狙いもあったんではないでしょうかね？　参戦の見送りと『W―1』の方向性とは関係ないと思いますよ。

**吉田** まぁ、I編集長（井上義啓氏）も「ホーガンはカッコつけてるだけ。これまで何度もギャラで揉めてきたし、あいつの考えてることは全部銭や！」って

## サップ、ホースト、ヒーリング、みんなプロレスLOVEはありますよ［武田］

言ってましたからね（笑）。『W—1』はTシャツもパンフもホーガン対応で作ったりで、今回はすっかり踊らされた結果になりましたけど、実際のところ本当に参戦すると思ってたんですか？

**武田**　……「9割9分、参戦」って聞いてました。

**山口**　残り1分で外したのか！　凄いなぁ（笑）。

**武田**　まぁ、いいんじゃないですか。ホーガンがK—1のカンパニーよりWWEを選んだことで、プロレスの方が上だったというプロレス界の優越感に浸れれば。

**山口**　そんなんでどうして優越感に浸れるの？（笑）。WWEはたしかに凄いけどさ。

**吉田**　そのWWEが日本巡業を『W—1』の直後に開催したことで、同じエンターテインメントのイベントとして余計に比較されちゃった面もありますよね。武田さんはWWEの日本公演は観たんですか？

**武田**　はい。思うにWWEって、試合自体は90年代中期の日本のプロレスなんですよね。それでレスラーの顔も身体もみんなカッコイイっていう。

**吉田**　そこが、日本のプロレスとの決定的な違いなんですけどね（笑）。

**山口**　あと、〝頑張るファン〟が試合を盛り上げてたでしょ。『W—1』とWWEの違いは、試合のクオリティよりもライブの熱の差に尽きますよ。

**武田**　う〜ん。ただ、試合のクオリティに関してはレスラーの力量に任せるしかないんですよ。でも、ライブに関してはボクらも責任を感じてるんですけどね。

**山口**　どの辺に？

**武田**　まぁ、東京ドームを使った時点で失敗でしたかねぇ……。

**山口**　つまり、やる前から負けてたんだ（笑）。

**吉田**　ただ、使わざるを得なかったんですよね？

**武田**　そうです。最初は全日本で使う予定で押さえていたんですけど、いまの全日本じゃドームではリスクが大きすぎるんですよ。だったら『W—1』をやろうという話になったんですけど、ちょっと安易でしたねぇ……。

**山口**　しかし、ホントに東京ドームはプロレス会場に向いてないよね。WWEを観て思ったけど、代々木第一ぐらいの規模が熱が届きやすくて一番いいと思うよ。

**吉田**　プロレスっていうソフト自体が、もうドームに見合わなくなっちゃってますからね。スタンド席なんか完全にシラケきってたし。ただ、『W—1』をアリーナのタダ券で観たボクの知り合いとかはみんな「サーカスみたいで楽しかった」って喜んでたから、もっと規模を小さくしてたら良かったはずなんですよ。

**武田**　リングサイドで観たNIGOさんにも喜んでいただいてましたね。

**吉田**　ターザンも解説席で観たらメチャクチャ楽しかったってことで、スタンド席で見て文句を言ってた一揆塾の塾生に「オマエら、たまには高い席で観戦しろ！」って一喝したらしいですけど（笑）。

**山口**　相変わらず面白いなぁ、ターザンは（笑）。

**武田**　じゃあ、結論としてはドームがダメでいいんですかねぇ？

**山口**　ダハハハ。俺が武田さんに聞きたいのは、いまの『W—1』の方向性って〝K—1のエンターテインメント部門としての『W—1』〟と、〝プロレス活性化のための『W—1』〟という2つに分かれてるでしょ。武田さん的にはそれでいいの？

**武田**　それが共存していいかどうかは、ボクが言える立場じゃないけど……ハッキリ言って共存しないほうがいい感じはしますよね。

**吉田**　吹っ切ったほうがいいとは思うんですよ。K—1のエンターテイメント部門ならそれでいいし。

**武田**　ボクもそうしたほうがいいと思います。実際、今回はプロレス側の失敗なんですよ。ホーストたちは別に悪くなかったですし、武藤選手も「どんなプロレスのデビュー戦より凄かった」って誉めてましたから。

**吉田**　実際、今回は格闘家たちのモチベーションの方が明らかに高かったですからね。

**山口**　巧拙は別にして、それは俺も感じたね。一番感心したのは、サップは高所恐怖症で宙吊りになるのがイヤだったらしいんだよね。で、怯えながら「グッバイ！」ってスタッフに嫌味で手を振りながら宙に上がったんだけど、観客の前では「ニコニコッ」とエンジェル・サップスマイルで飛んできた。エンターテインメントを標榜するなら、日本のプロレスラーにあんなことできる人間がいるかって話でしょ（笑）。

**吉田**　あの表情は完璧でしたよね！

**武田**　ホーストだって、いきなりデビュー戦であんなマイクアピールできないですよ。武藤選手のマイクの方がしょっぱいぐらいですから（笑）。

**吉田**　そんなにホーストを叩くんだったら、新日本でよくやってる緊張感のない格闘技まがいのプロレスも、プロレスデビュー戦のバーネットをいきなりIWGPに挑戦させたことも同じように叩かなきゃおかしいんですよね。

**武田**　絶対にそうなんですけど、『週プロ』の人たちは「『W—1』の格闘家たちには〝プロレスLOVE〟がない」とか言うと思いますよ。

**吉田**　それなら「バーネットにはプロレスLOVEこそあるけれど、プロレスセンスがない」って言い返すべきですね（笑）。

**武田**　サップ、ホースト、ヒーリング、みんなプロレスLOVEはあるはずなんだけどなぁ。

**吉田**　ヨハン・ボスにだって絶対ありますよ（笑）。

**武田**　（つぶやくように）俺が一番ないぐらいかなぁ……。

**山口**　ガハハハ！　自虐的だなぁ（笑）。マジメな話、プロレス村の住人たちが『W—1』を認めたくないのは、認めたら自分たちの居場所がなくなるかもしれないっていう不安も大きいでしょ？

**武田**　だから、矛盾が出てくるんですよ。だって、『週プロ』が金村キンタロー選手に『W—1』についていろいろ言わせてましたけど、彼の団体ってAV女優が上がってるんでしょ？　AV女優こそ〝プロレスごっこ〟じゃないのかぁって思うんですよ。ボクはAV嬢がリングに上がることはなんとも思わないんだけど、なぜ『週プロ』はそういう人を焚きつけてそういうことを言わせるのかっていうのが不思議なんですよね。

**山口**　〝こっち〟に入ってくるんだったら、みそぎを受けなさいってことなんじゃないの？

**武田**　（つぶやくように）でも、みそぎを受けてるはずの全日本にまで『週プロ』はあることないこと書くんですよねぇ……。

**吉田**　それってヤスカク（安田拡了）が新日本に深く食い込んでから突然全日本の内部事情をエゲツないまでに暴露するようになった、一部で話題の連載『ヤスカクの今週の事件簿』のことですか？

**武田**　全日本に関して言えば、あの拡了さんの自称・社会派の記事は間違いが多いですね！

ZERO-ONE、

物議を醸したホーストvsサップのド素人メインイベントだが、スーパースターズが冷えまくらせたドームの空気を吹っ飛ばしたからプロレスって難しい。試合前、出場拒否アングルをカマしていたホースト＆ヨハン・ボスは、試合後「メインに出たのはホーストではないよ。あれは別人物！」と最後までノリノリでなりきるから最高だ

（怒）。

**吉田**　ダハハハハ！　あと、一部マスコミではゴールドバーグ招聘が原因で全日本は借金を抱えただの、武藤さんが元子さんにお金を借りただのって書かれてますけど、本当のところはどうなんですか？

**武田**　ゴールドバーグにかかった経費はほぼペイできてますよ。ビデオ化権、ＰＰＶ収入、ゲート収入、ゴーバーが出たから減るってことはないですから。社長就任以来、武藤さんは元子さんには金を借りてないです。

**山口**　『Ｗ―１』絡みの招聘だからね、ゴーバーは。

**吉田**　もともと館長がプロデュースしていくって方向で、『Ｗ―１』が契約してたんですよね。じゃあ、『Ｗ―１』で多額な借金を背負ったなんてとんでもない、と。

**武田**　売り興行で損するわけないじゃないですか（笑）。

**吉田**　もともと、武藤さんが来た時点で全日本には借金があったということなんですよね？

**武田**　というか、移籍したときに、個人保証で借金してます。

**山口**　まあ、普通に考えればわかることだよね。結論としては、プロレスマスコミは社会をあまりにも知らないってことでいいですか？（笑）。

**武田**　ホント、冷静に考えればわかるんですよ！　いまの全日本って三沢さんたちが離れる前と同じくらい興行やってるんです。それで集客が落ちて地上波の放送もなくなって放映権料が入らないんですから、このままじゃ経営が苦しいのはわかるじゃないですか。それをゴールドバーグがどうのとか『Ｗ―１』がどうのとか、まったく関係ないですよ！

**吉田**　そのままだと儲からないから、『Ｗ―１』で穴埋めしようとしたはずなんでしょうけどね。要は、みんな疑心暗鬼になってるだけだと思うんですよ。自分たちは儲かってないけど、あいつらは儲かってるんじゃないかっていう感じで。

**山口**　断言するけど、『Ｗ―１』は儲かってないよ（笑）。

**吉田**　そもそも、いまのプロレスなんて思ったより金を生まない世界ですからね。そんな中でバブル臭漂う団体が登場したから、「金をかけてこの程度かよ！」って思いで反発も強まったと思うし。そういう意味でもバブル期を象徴するＳＷＳとそっくりだと思うんですけど、この不況下に訪れた数少ないチャンスを業界ぐるみで潰してどうするんだって。

**山口**　破壊王もＳＷＳのときに言ってたよね。「お金を出してくれる人のことを悪く言うな！　スポンサーが付かなくなる！」って。

**吉田**　だから、『Ｗ―１』が評価されるのはＳＷＳと同じで、団体がなくなってからだと思いますよ。「あれは10年早かった！」って感じで（笑）。

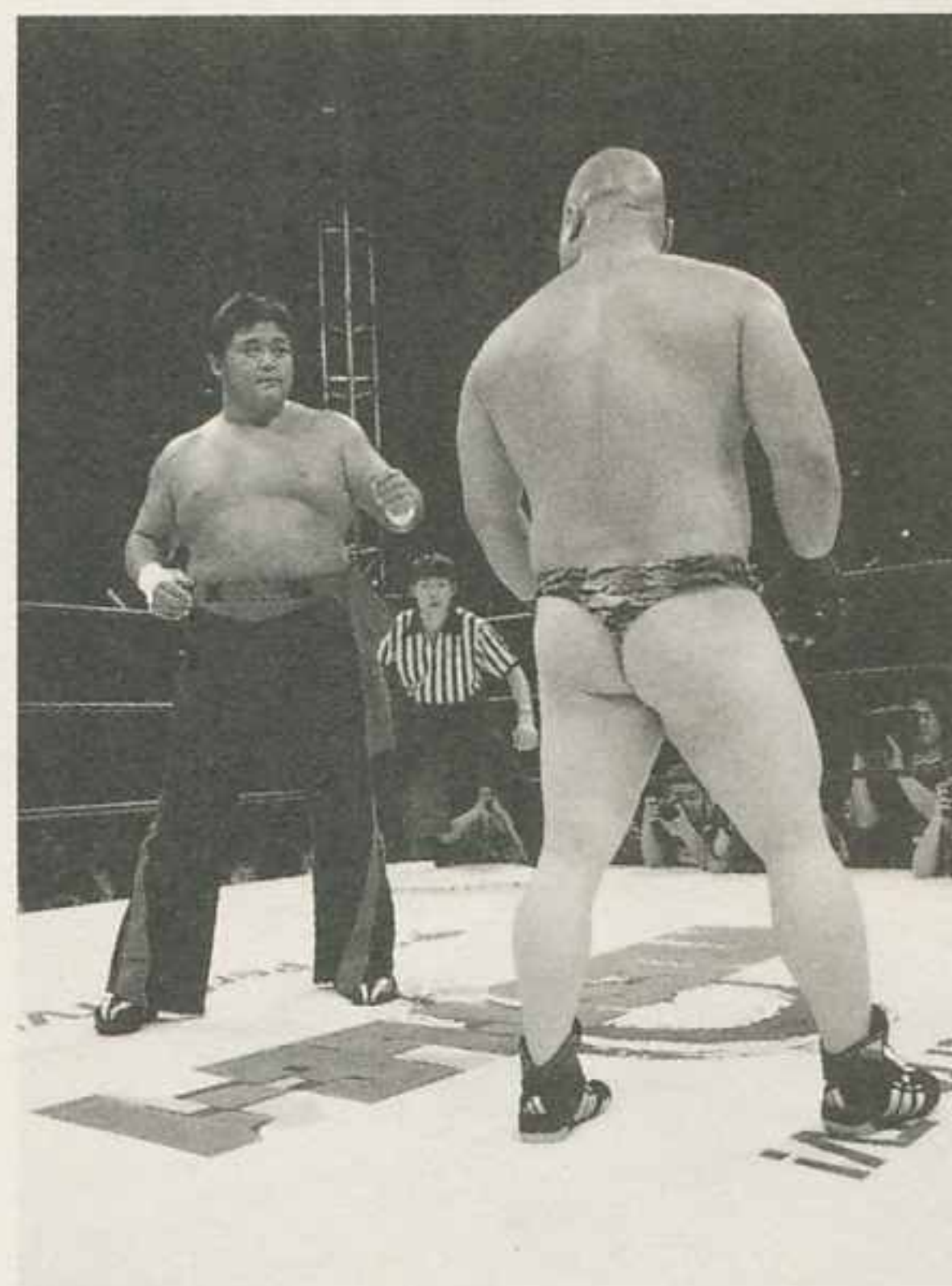
**武田**　そ、それじゃ遅すぎますよ！　まぁ、嫉妬って意味でいえば、佐藤さんはＧＫが解説をやったのが気に入らなかったのかなって思うんですよね（笑）。

**吉田**　なるほど！　2人は本当に仲が悪いから有り得ますよ（笑）。

**山口**　佐藤大編集長も出たがり

だからなぁ。そういえば、1回目の『W—1』のとき「解説、サトちゃんに決まったらしいよ」ってウソ教えたことがあったんだけどさ（笑）。
**武田**　（思い出したように）あ！　それで佐藤さんからボクに「……解説、俺に決まったんだってぇ？」って電話があったんですか！　やけに嬉しそうで何のこっちゃわからなかったんですけど……ヒドイですねぇ（笑）。
**山口**　最初、なぜか俺に解説を頼むって話があって、俺がバックレてる間にターザンに決まったんだよね。でも、ちょっとサトちゃんとコミュニケーション取ろうと思って「解説、サトちゃんらしいよ」って言ったら本気にしちゃったんだ（笑）。
**吉田**　その恨みだと考えれば合点がいくなぁ（笑）。
**武田**　でも、聞くところによると、こないだのターザンさんの解説は良かったらしいですしね。
**吉田**　凄かったんですよ！　ヒーリングとか闘龍門を観ながら「カワイイ！　変声期前のウィーン少年合唱団みたいだよぉ！」「あの白い肌！」とか言いまくってて。このプロレス・格闘技を〝カワイイ〟というキーワードで括るスタイルを、ボクは「キュート活字」と命名したんですけどね（笑）。
**山口**　ガハハハ！　ターザンにはキュートの「キ」の字もないけどね（笑）。
**吉田**　だけど、格闘家のプロレスをしょっぱいかどうかで判断しないでキュートかどうかで判断するターザンの見方は、あの時間帯にテレビを見ている主婦層の見方と重なるからいいと思うんですよ。引っ掛かるのは、ターザンとGKがいるのを「ファンタジー・ブース」と表現したりするセンスだけで（笑）。
**山口**　ターザンはファンタジーっていうよりホラーだしなぁ（笑）。
**武田**　ファンタジー云々で言えば、「ファンタジー・ファイト」って言葉も武藤さんが思いつきで言ったのをテレビ局が使ってるだけなので、別に次回から「プロレス」って言葉を解禁してもいいと思うんですけど……「プロレス」って名称だと視聴率下がったりするんですかね？　お母さんが子供に「プロレスはダメよ！」とか言ったりして。
**吉田**　だからといって、「ファンタジー・ファイトだったらいいわよ！」とはならないですよ（笑）。
**山口**　だから、さっきの話じゃないけど、「プロレス」だろうが「ファンタジー・ファイト」だろうが、大衆と繋がる装置としてのテレビ的には、サップ頼みなんだから、現状は。
**武田**　サップは子供からお年寄りまで誰でも知ってますからねぇ……。この間、池上本門寺で豆まきがありましたけど、武藤選手や高山選手もいたんですよね。でもみんなサップの周りに集まって、他のレスラーには誰も寄りつかないんですよ。
**山口**　でもね、初代タイガーマスクなんていまのサップと同等かそれ以上の存在だったでしょ。こないだ日本で一番インチキな政治家の馳浩先生が珍しくいいこと言ってたんだけど、昔、新日本がゴールデンタイムをやっていたときに何が一番大事だったかというとタイガーマスクの存在だと。「タイガーマスクがいたから、長州力も前田日明もスターになれたかもしれない。タイガーマスクという入り口がなかったら、もしかしたら長州力や前田日明に目がいかなかったかもしれない」って。つまり、プロレスというジャンルを大衆に繋げる役目がタイガーマスクだったってことだよね。実際、タイガーマスクを入り口にプロレスファンになった人は腐るほどいるわけでしょ。

## 橋本選手、いい顔してましたよね！『W-1』から離れてほしくないですよ［武田］

**武田**　それは武藤選手も言ってましたね。
**山口**　力道山時代はプロレスは大衆のものだったけど、もっと身近な時代のタイガーマスクの時代でも、プロレスは大衆のものだったんですよ。だから、『W—1』というイベントは、プロレスを大衆に戻す作業をしてると俺は認識してるんだけどね。でも、実際は「ファンタジー・ファイト」であり、「バトル・エンターテインメント」でしょ。そこにプロレス村の人たちは、なんていうか違和感というか置き去りにされてる感覚があると思う。
**武田**　いや、ボクもさっきは、K—1のエンターテインメント部門に振り切ったほうがいいと言ったけど、個人的にはプロレスをベースに置きたいのが本心なんですよねぇ。
**山口**　じゃあ、『W—1』が、K—1のエンターテインメント部門としてやっていくとハッキリ打ち出したら、武田さんや渡辺さんは手を引くわけ？
**武田**　いや、そうなってもボクはやりますし、全日本という会社自体の関わり合いはわからないですけど、武藤個人としては続けるでしょうね。武藤敬司は、K—1の中で一人プロレスの試合をやれって言われてもやれる人ですから。武藤はこないだは自分の試合が良くなかったことで自信喪失してますけど、次に自分がいい試合をすればすぐ自信を回復できますよ。
**吉田**　武藤さんが満足いく試合をできる状況は、土壇場になって試合が組まれたりするいまの『W—1』で作れるんですか？

入場からフィニッシュまで抜群に面白かった破壊王vsジョー・サン‼　その出で立ちや振る舞いのすべてが異形であるジョー・サンに、「立ってこいコラァ‼」と真摯に怒鳴れる破壊王はステキの一言！　『真撃』チックな攻防で不評を買った前回の『W-1』に比べ、大いに株を上昇させたのだ

**武田**　う〜ん……ちょっと無責任な言い方ですけど、どんな状況でも対応するのがプロじゃないですか。あと、日本のプロレス界に高山選手みたいなフリーの大物が増えれば『W—1』も成功すると思うんですよ。格闘家はフリーだからブッキングしやすいけど、プロレスラーはみんなどこかに所属してるから。
**山口**　そこでズバリ言うと、そのフリーの大物の先駆けになるべきなのが武藤さんだと思うんですよ！
**武田**　む、武藤選手ですか⁉
**山口**　これは戯れ言として聞いてほしいけど、武藤さんは全日本の社長なんてとっとと辞めちゃえばいいんだよね（笑）。
**吉田**　また無責任なこと言いますねぇ（笑）。
**山口**　もし武藤さんがフリーになって新日本でもZERO—ONEでもどこにでも出ていく体勢が取れたら、プロレス界も変わりますよ。昔、武藤さんはアメリカでフリーダムな空気を感じて、「アメリカっていいなぁ」って思ったんでしょ？　その空気を武藤さんが日本で体現していくパイオニアになればいいと思う。それが図らずも社長なんていう、一番向かないことやってるんだからもったいないですよ（笑）。
**吉田**　明るさと悩まないことが売りだった人が、どんどん暗くなってきてますからね（笑）。『SPA！』での武藤さんの連載にしても、大きいことを言えば言うほど現状とのギャップが出てきてるし。
**武田**　た、たしかにそうなんで

格闘家の中で一番期待がもてるランデルマンはプロレス2戦目となった今回も、ポテンシャルの高さを十分に発揮！　ドロップキック一つで銭が取れる選手になるのは時間の問題なのだ

すけど……。

**山口**　声を大にして、武藤さんには全日本を辞めろと言いたいな。……これは妄想だけどね（笑）。

**武田**　そ、それができたらボクたちも苦労しないですよ！（逆ギレ気味に）。でも「全日本は絶対になくさない」というのは、武藤本人の意思なんです。武藤選手も、全日本に情が入ってますからね。そのかわり昔みたいな大きなことはできないんで、もうちょっと規模を小さくしていきたいらしいですけど。

**吉田**　でも、規模を小さくしてまで全日本を続ける意味ってあるんですか？　昔から残ってるのは渕さんと川田さんの2人だけだし、しかも川田さんには全日本への愛着があまり感じられないし（笑）。

増刊号 月刊Y2談 WRESTLE-1

**武田**　でも、内部は内部で捉え方が違うんですよ。やっぱり社会主義と資本主義じゃ話が違う部分もあるじゃないですか？

**山口**　ちなみにどっちが社会主義なの？（笑）。

**武田**　全日本ですね！（キッパリ）。新日本では資本主義、全日本では社会主義を学びました（笑）。

**吉田**　新日本は、資本がない資本主義って感じですけどねぇ（笑）。

**武田**　まぁ、やっぱり新日本と全日本じゃ宗教が違うんで話し合いにならないし、後から入ったボクらが退散するしかないんですよ。

**吉田**　宗教戦争はできない、と。

**武田**　とにかく全日本は変わらないですし、潰れないですよ。全日本はＮＨＫみたいなもんですから。

**吉田**　でも、さっき読んだ『週刊プレイボーイ』情報だと、川田さんや天龍さんがＷＪに移籍しやすいように元子さんがＷＪに移るらしいですよ（笑）。

**武田**　そんなのありえないとは思うけど、いいアイディアですよね。ＷＪには大森選手も入ったことですし（笑）。

**吉田**　ちなみに、元子さんって『Ｗ－１』を観てどういう感想を抱いてるんですか？

**武田**　元子さんは観てもないと思いますよ。ただ、元子さんはいろんな人から話を聞いてると思うんですけど、その聞く人間たちが偏ってるんです。

**吉田**　「ふざけんな、『Ｗ－１』！」って言う方々ばかりに聞いちゃうわけですか（笑）。

**武田**　だから、元子さんもきっと『Ｗ－１』？　ふざけなさんな」でしょうね（笑）。武藤さんが『Ｗ－１』をやることによって望んでいるのは、『Ｗ－１』から全日本にお金が入ることですし、『Ｗ－１』で生まれた新しいスターが全日本に上がることですから、全日本のためにやってるんですけどねぇ。

**吉田**　当初はサップを全日本に出そうぐらいの勢いがあったのに、いまやその気配すらないのはなぜなんですか？

**武田**　全日本の人が、なぜかサップがダメなんですよねぇ……。

**吉田**　偏った方々が、あんなのはプロレスラーじゃない、と。

**山口**　大変だなぁ（笑）。

**武田**　だから……ホントは俺たちが一番かわいそうなんですよ！（再び逆ギレ気味に）。

**山口**　ガハハハ！　パチパチ（拍手）。

**武田**　全日本の人に怒られ、『Ｗ－１』の人に怒られ、ファン、マスコミに怒られ……ハッキリ言って武藤選手にも怒られましたから！

**吉田**　なんて怒られたんですか？（笑）。

**武田**　「俺を広告塔にして、こんなしょっぱいイベントにしやがって！」って……。

**山口**　ガハハハ！　いいぞ、シャイニング・ウィザード！（笑）。

**武田**　（救いを求めるような目で）……俺と渡辺さん、かわいそうでしょ？

**山口**　いや、全然（冷たく）。ズバリ言って、新日本でさんざんバブルを味わったツケがきたんですよ（笑）。

**吉田**　昨年の横アリのときは盛り上がっていたのに、どうしてこうなっちゃったんですかねぇ？（笑）。

**武田**　横アリが終わったときは、「俺たちがやりたかったのはこれだ！」って盛り上がっていたんですけどねぇ……（遠い目をしながら）。

**山口**　でも、Ｋ－１だって一足飛びでここまできたわけじゃないし、初期の『ＰＲＩＤＥ』なんて、武道館がスカスカだったんだから。

**吉田**　髙田vsヒクソンにしたって、ドームは全然埋まってなかったですからね。

**武田**　それはそうなんですけど……。今回、ちょっと考えたんですけど、プロレス界の良いとこでもあり悪いところでもあるのは、周りの言うこと聞かなかったり学ばなかったり、頼らなかったりするとこだと思うんですよね。『紙プロ』（前号）にも「冷蔵庫を探すな」っていういい話が書いてありましたけど、ああいう柔軟な姿勢はプロレス界にはないんですよ。

**山口**　わかってるじゃないですか、武田さん（笑）。あの冷蔵庫の話は単なる引用で俺が考えたわけじゃないですけどね（笑）。

**吉田**　でも、今回の失敗は聞きすぎたり学びすぎたり頼りすぎたりしたことなんですよ。

**武田**　どっちにしてもダメだった、と（笑）。ただ、ボクが『Ｗ－１』に望むことだけは聞いてほしいですけどね。

**武田**　どんなことですか？

**吉田**　やっぱり館長がいなくなったことでゴタゴタが起きている

以上、『W―1』の生き残る道は石井館長の事件をエンターテインメントとして使うしかないと思うんですよ。
**武田**　う～ん。本当は1回目の『W―1』にも館長が上がる話はあったんですよね。
**吉田**　だったら、いまこそ引っ張り出すべきですよ！　あと、武田さんの元上司である藤波さんなんかも『W―1』には合うと思うんですよね。
**武田**　（目を輝かせて）藤波社長は欲しいです！　ホントいい味出してますからねぇ。武藤選手もあれくらい社長としての味が出ればいいんですけど（笑）。
**吉田**　マジメな話、藤波さんはエンターテインメントにも対応できるし、サップ相手でもギリギリの試合をやってくれると思うんですよ。ホーストがスクールボーイでサップに勝ったことに怒るファンがいても、藤波さんが逆さ押さえ込みで勝つなら問題はないと思うし（笑）。
**武田**　ホント、そうですよね！
**山口**　ドラゴンもかつては大衆のものだったからなぁ（笑）。だから戦後の歌謡曲って、輸入した専門的な音楽を「なんとかマンボ」とか「なんとかジルバ」とか1回歌謡曲に変換して、それをスターというフィルターを通して普及させていったでしょう。俺はもともとプロレスというのは歌謡曲だと思うんだよね。つまり、いろんな格闘技の変換装置。力道山時代から横綱の東富士や柔道の遠藤幸吉をプロレスラーに仕立て上げていったでしょ。
**吉田**　木村政彦さん然りですね。
**山口**　歌謡曲が大衆のものであるように、もともとプロレスも大衆のものなんですよ。だから、武田さん、『W―1』でもなんでもいいから、早いとこプロレスを歌謡曲に戻して大衆に返しましょう。そのためには圧倒的なスターが必要。スターというのは大衆と向き合わないと生まれないわけだから、『W―1』の方向性は間違ってないです。中身はともかく（笑）。
**武田**　わ、わかりました！
**山口**　ただ、その変換装置としての役割をK―1や『PRIDE』がやっちゃったから、いまプロレスがその役割に戻るにはどうしたらいいかっていう方法論が問われてるんだけどね（笑）。
**武田**　大衆がプロレスを手放したから、プロレスがマニアのモノになっちゃったんですかねぇ？
**山口**　いや、逆。プロレスが大衆を手放したんですよ。それは時代の流れもあるし、UWFが出現した時代性っていうのも大きく関わってくるんだけど。UWFというのは「俺たちと歌謡曲を一緒にするな」って歌い始めたわけでしょ？

4・19さいたまスーパーアリーナでの開催が噂されている『W-1』次回大会。もし実現すればプロレス興行の会場使用は初めてとなる。たまアリの空間なら、広すぎるドームでは届かなかった演出も効果的となるだろう。もっとも、問題は演出効果だけではないが……

## キッチリやったらウマくいく実感あります。次回は絶対に成功させます！［武田］

**吉田**　でも、実際にはUWFもニューミュージックでしかなかったから、歌謡曲と大差ないんですけどね。ニューミュージックの人たちが「俺たちはテレビに出ない」とか言ってるだけでホンモノに見えたのと一緒だったんですよ（笑）。
**武田**　UWFは吉田拓郎ですか（笑）。
**吉田**　でも、いまのプロレスはマニア受けする世界にすらなってないから、ビジネス的には演歌だと思うんですよ。それも、巡業に弱い演歌というか（笑）。
**山口**　そんなプロレス界で希望が見えるとすれば、ZERO―ONEでしょう。ZERO―ONEというか破壊王には、歌謡曲として大衆と向き合うというエネルギーは感じるもんなぁ。
**武田**　ボクもそう思います。現に、あるイベント会社がZERO―ONEと全日本を両方観て、ZERO―ONEを選んだんですよね。
**山口**　ZERO―ONEを『W―1』並の演出の中で見たらワクワクするだろうなぁ。
**武田**　ただ、橋本選手のポリシーに合わないのか、残念なことに『W―1』と距離を置きそうなんですよね。
**吉田**　もったいないなあ、ジョー・サンとの絡みは最高だったのに（笑）。
**武田**　ホントに橋本選手、いい顔してましたよね！　だから、橋本選手には『W―1』から離れてほしくないんですよ。
**山口**　だったら、そうさせないのが武田さんの仕事じゃないですか（笑）。
**武田**　そうですね……。いままではビジネスが大きいこともあって人に頼りすぎたけど、これからは一緒にリスクを背負ってやるしかないんですよね。
**山口**　そういう覚悟があれば、絶対に成功しますよ。
**吉田**　絶対なんですか？　こないだ百瀬（博教）さんにインタビューしたら「W―1は成功しないだろうね」ってあっさり言われちゃいましたけど（笑）。
**武田**　……いや、でも絶対に成功させます！　いまはちょっとまだデタラメなところもあるんで、これをキッチリやったらウマくいくなっていう実感はありますし。
**山口**　『週プロ』のバッシングのおかげで逆にいいプロモーションになったじゃないですか。プロレスファンに対しては（笑）。俺も次は何をやるのか余計楽しみになったし。
**武田**　『週プロ』万歳！……なんですかねぇ？？（笑）。
**山口**　佐藤大編集長も、そこまで考えて戦略的にバッシングしてるなら凄いけどね（笑）。
**吉田**　で、次回の『W―1』は何をやるか決まってるんですか？
**武田**　早ければ4月、遅くても6月にはやる予定です。もちろん内容は何も決まってないですけど……。
**吉田**　相変わらずデタラメなんじゃないですか（笑）。
**山口**　ダメだ、こりゃ。次行ってみよー！

【03年3月10日／新宿某所にて収録】

ZERO-ONE、
U-STYLE、総合、
そして小池栄子——

リング内でもリング外でも
去年以上の話題を提供するよ！

第一回天下一Jr.チャンピオン

# 坂田亘

［EVOLUTION］

昨年暮れの『天下一Jr.トーナメント』で星川尚浩を倒し初代天下一Jr.王者に輝いた坂田亘。
大会前10人の参加選手に1つずつ渡された水晶玉は全て坂田の手に。水晶を10個集めれば願い事が
叶うという特典付きのこのトーナメントを制した坂田はロウ・キーとの統一戦を口にしたのだが……。
いまだ願いは叶えられていない坂田に、ZERO-ONE、U-STYLE、総合、そして彼女のことを直撃！

聞き手／松澤チョロ　撮影／福島俊彦　designed by hisa（Two Three）

——昨年末の両国大会で見事、水晶を10個集めてチャンピオンになったわけですが。

**坂田**　なんかドラゴンボールって言っちゃダメみたいだからな（笑）。

——某有名先生のところから、案の定クレームが来たみたいですからね（笑）。

**坂田**　さすが、ＺＥＲＯ—ＯＮＥだな（笑）。そういえば俺、『紙プロ』の携帯のヤツ入ってやったよ。

——そ、それはありがとうございます！

**坂田**　全然見てないけどな（笑）。

——アラッ。まあ、登録料だけ払ってくれればオッケーです！（笑）。彼女にも是非勧めてくださいよ。

**坂田**　いや、アイツも入ったみたいだよ。

——えっ⁉　あの小池栄子さんも会員になってくれたんですか⁉

**坂田**　でも、コラムかなんかで山口さんのプロフィールが書いてあって、それを読んだら、「こういう人とはゼッタイ会いたくない」って言ってたけどな（笑）。

——アハハハ！　昔の犬殺しの話とか書いてありますからね。でも、ほとんど事実なんで、会わない方がいいと思います（笑）。

**坂田**　あっそう。そう言っとくよ（笑）。

——で、坂田さんにとって昨年一年間ってどんな年でした？　まあプライベートでもいろいろとあった一年でしたけど（笑）。

**坂田**　お前もしつこいな（笑）。

——いやいや（笑）。

**坂田**　最後にチャンピオンになったけど、ベルトがまだ来てないから実感わかないし、周りの人も単なるトーナメントを制覇したぐらいにしか思ってないんじゃない？

——そうかもしれませんね。ＺＥＲＯ—ＯＮＥの広報もベルトを作ってること自体知らなかったぐらいですから（笑）。

**坂田**　ホント、ＺＥＲＯ—ＯＮＥらしいな（笑）。まあプロレスっていう、枠の中だけでは良かったと思うよ。ただ、いまの自分は、いわゆる純プロレスも総合も全部をひっくるめてプロレスみたいに考えてるんだけど、いまの時代って、やっぱり総合は避けて通れないじゃない？　純粋なプロレスラーでもバックボーンにアマレスがあったりとかする人は特にそうだと思うし。

——マット界のど真ん中を歩きたいっていう人は避けられないって感じですけど、避けてる人も実際多いじゃないですか？

**坂田**　でも、どっちかじゃない？　やらなくても説得力がある人っているけど、そこそこ自信もあって評価も得たいって思ってる人は、やった方が手っ取り早いっていう人の方が多いと思うんだよ。

——藤田さんや、最近新日でデビューした中邑さんとかもそうですけど、一気に名前を上げるチャンスではありますからね。

**坂田**　そうそう。そういう意味で純プロレスの中だけで考えると、終わりが良かったから良かったと思うけど、総合の方は3月に『ＤＥＥＰ』に出て、その後は『ＬＥＧＥＮＤ』以来出てないからさ。

——いや、その間に『ｃｌｕｂ ＤＥＥＰ』でタッグマッチやってますよ！（笑）。

**坂田**　あっそっか。でもあれは別だな（笑）。

——別でしたか（笑）。

**坂田**　ホントはもう一試合ぐらいやりたかったんだけど、暇が全然なかったんだよね。

——何回か話はあったみたいですからね。彼女つながりの大会とか（笑）。

**坂田**　大きなお世話だよ！（笑）。まあ、そういう話もあるにはあったけど、なかなかタイミングが合わなかったんだよ。ＺＥＲＯ—ＯＮＥと重なってたりで日程的にもそうだったし。やっぱり先に決まってた話を断るのもイヤだからな。まあでも振り返ってみて昨年は良かったと思うよ。

——ただ、坂田さんの宿敵というか因縁の

扉の写真を見て気づいた人もいると思うが、上の写真のとおり会場では10個の水晶玉をゲットした坂田。あまりの重さに坂田は水晶をZERO-ONEに預けていたが……なんと現在５個の水晶が行方不明中だという。VIVA ZERO-ONE!?

小笠原先生がプロレス大賞の新人賞を取っちゃったじゃないですか（笑）。

**坂田**　（真顔で）あれはムカツク！　なんでジジイのクセに新人賞なんだよって。

——ジジイのクセに（笑）。でもプロレスでのキャリアを考えると、一応、小笠原先生は新人ですから。坂田さんからすれば「ジジイが取るんだったら俺じゃねぇのか」ぐらいのものは当然あったんでしょうね。

**坂田**　それもあったし、あと、やっぱりリングスはプロレスだったのかって思っちゃったよ（笑）。

——リングス時代もプロレスキャリアに入れられちゃったってことですか（笑）。まあ、その辺は『東スポ』大賞の選考委員に聞かないとわからないですけど。

**坂田**　でもやっぱ、どう考えてもジジイより俺の方が活躍してるでしょ。

# 最初の頃みたいな充実感が最近得られないんだよ

**Wataru Sakata**

——話題では坂田さんの方が全然上でしたけどね（笑）。

**坂田**　まあ話題では棚橋（弘至）クンに最後の最後で持っていかれたかな（笑）。

——そうですよね。坂田さんの方は順調にいってると思っていいわけですか？

**坂田**　この間、一緒にテレビ見てたら乙葉が出てて、「乙葉カワイイな」って言ったら半日口聞いてもらえなかったよ（笑）。

——そんなことがありましたか（笑）。

**坂田**　でも全然うまくいってるよ。悔しいだろ？（笑）。

——いや、ホント、心からうまくいってほしいと思ってますよ（笑）。で、話は戻りますが、総合は『LEGEND』以来ご無沙汰で、プロレスが中心になってますけど、最近試合後のコメントとか聞いてもちょっと悩んでるんじゃないかなって感じるんですよ。

**坂田**　最初の頃の勢いが、ちょっと弱まっちゃってるかなっていうか。

**坂田**　そんな他の選手ほど考えてないと思うけど、試合数をこなせば、いろんな知識がついてきて、それが逆に足を引っ張ってる部分はあると思うよ。自分の考えたものと違うなっていうのはあるな。

——もちろん対戦相手云々っていうのもあるんでしょうけどね。

**坂田**　それもあるんだろうけど、最初の頃みたいな充実感っていうのが最近得られないからどうすればいいのかなって。……やっぱプロレスって難しいよ。お客が見慣れてきたっていうのもあるんだろうけど。

——そんな悩ませるつもりはなかったんですけど（笑）。でもZERO—ONEにはいろんなスタイルの選手がいるし、それこそ毎回毎回充実感を得られる試合をするっていうのも難しいとこなんでしょうね。

**坂田**　それでも大谷選手みたいに、どんな相手でもお客さんを満足させる人もいるわけじゃん。俺もチャンピオンになったわけだし、相手がどうだからとかっていうのは言い訳にしかならないからな。

——小笠原先生との絡みは面白いんですけど、坂田さん的には充実感は得られてないみたいですからね（笑）。

**坂田**　あのジジイの場合は、確かに一昔前にしろ極真の頃の実績って凄いんだろうけど、じゃあいま、まともな目で見て、俺もまだ20代だし、バリバリで張り合ってやるのは普通に考えておかしいと思うでしょ。

——ミスター高橋さんも「50歳を過ぎた藤波がデビューしたての若い選手に勝つのはおかしい」とかって書いてましたね（笑）。

**坂田**　そんなことを言ったらはじまらないんだけど、そういう相手にどういう試合をすればいいのかとか……まあ俺がちょっと慣れちゃったのかもしれないな。たいしていまも昔もやってることは変わらないんだけど、いい意味でも悪い意味でも慣れちゃったところはあるんじゃないの？

——それこそ小笠原先生とかにしてもZERO—ONEに参戦したての頃は、かなり刺激がありましたけど、最近はちょっと落ち着いちゃったかなって感じますし。まあ、見てる方は、「もっともっと」ってどうしても求めちゃいますからね。

**坂田**　そうだ！　俺らは悪くなくてお客さんが悪い！（笑）。何でも、「もっともっと」だから見る方は簡単じゃない？

——お前もやってみろと？（笑）。

**坂田**　そうは言わないけど、人間がやることだから限界があるからね。俺だって身体はそんな大きくないけどさ、言っちゃ悪い

けど、そこら辺の兄ちゃんみたいなのがプロレスラーって言ってやっていける時代だからな。どれぐらいの報酬があるか、ないかっていうのは別にして、そいつらの方がお客を喜ばしたりする場合もあるわけだし、そういう意味ではホントに技術だけでは食っていけないんだなって、ここ最近あらためて思ったよね。

――もちろん、技術的な強さは必要なんでしょうけど、それだけではトップにはなれないですからね。

**坂田**　他を見てないから言えないけど、ZERO―ONEに限って言っても、いろんな選手が上がってる中で、コイツはダメだなっていうのはいっぱいいるからね。

――ZERO―ONEにもいますか。ちなみに坂田さんは金村さんとかはレスラーとしてどう評価してます？

**坂田**　いや、あの人は凄いよ。黒田選手とかもそうだけど、あの人たちは、うまさっていう部分での説得力があるじゃない？　闘いっていう意味ではあまり説得力はないかもしれないし、技の強さとか当たりの強さとかは俺とかの方が圧倒的に強いんだけど、横井とタッグでやった時もどっちが試合をリードしてるかって言ったら俺らが翻弄されてたような感じだったし。

――そう思いますね。でもリングス時代の坂田さんだったら、ああいうスタイルは頭ごなしに認めないっていう感じだったと思うんですよ。

**坂田**　そうだね。やっぱ、やらないとわかんないよね。じゃあ聞くけどさ、全日本は見た目にどう思う？

――ZERO―ONEと対抗戦の真っ只中ということで気になるんですか？

**坂田**　いや別に（アッサリと）。

――いろいろと事情もあるんでしょうけど、盛り上げようと思って、いろいろやろうっていうのは最近かなり感じますね。

**坂田**　そうなんだ。俺なんかは見てないから言えるのかもしれないけど、あれはねえだろって思うよね。

――見てないクセにダメ出しですか（笑）。

**坂田**　やっぱ、武藤さん、天龍（源一郎）さん、小島（聡）さん、（ケンドー・）カシン、それから誰だっけ？　川田（利明）さんの試合とか、それほど見たことはないけど、その人たちは名前だけで説得力があるし、その場にいても雰囲気が違うじゃない？　そういうのは同じ職業だからわかるんだよ。でも、それ以外の人って同じような意味で瞬間的に感じるもので「良く思おう」って見ても、そう思えないよな。

# 全日本？喧嘩する気にもならないよね。……潰れるんじゃない？

1・6ZERO-ONE★USAでは伝説の男SHOGUNとタッグを結成しハワード＆ロウ・キー組と対戦した坂田。「坂田、成敗!」というSHOGUNの抜群のアピールにも動じず（＆笑わず）、試合後は近い将来Jr.ベルトを賭け対決するであろうロウ・キーと互いに挑発しあった。そして、この本の発売時には、すでに決着は付いてしまっているが、坂田とは、どこまでいっても水と油の関係なのが"空手ジジイ"こと小笠原和彦。2・21後楽園大会での一騎打ち後の展開も気になるところだ。

――さっき挙げた選手以外はですか。

**坂田**　そうだね。ちょっと前の俺だったらZERO―ONEと全日本が対抗戦やるってなったら、カシンとかとやったら面白いと感じると思うんだけど、いまは思わないんだよな。あまりにも良くないって思う選手が多過ぎるから、いい選手まで覆ってしまうというか、なんか全日本ってみんなが暗く見えちゃうよね。

――見る側からすれば、坂田さんは喧嘩っ早いタイプだし、ホントに対抗戦をやるんだったら出てほしい選手ですけどね。

**坂田**　それはわかるんだけど、喧嘩する気にもならないよね。ギラついた目をしてるヤツもいないし。やるならやるでいいんだけど、付いてこれないんじゃない？

――また言いますね（笑）。

**坂田**　別に挑発して煽ってるわけじゃないんだけど、やっぱZERO―ONEの人間は楽しそうにやってるなって思う部分もあるけど、感じるものはあるからね。

――ギラついた目をしてる選手もいると？

**坂田**　そうそう。全日本の一部は、「コイツら本気でプロレスで食っていこう」と思ってるふうには見えないよな。本人たちが聞いたらムカツクかもしれないけど、ムカつくんなら頑張ればいいんだし。いまの感じだとZERO―ONEも結して楽じゃないんだろうけど、どう見たって全日本の方が「お願いします」って言ってきてる感じにしか見えないよ。

――小川さんも言ってますし、ファンとかも「対抗戦じゃなくて交流戦じゃないの」って思って見てる人も多いですからね。

**坂田**　そうでしょ。これだけ情報化社会になってくると、そういうのも難しいんじゃない？（笑）。

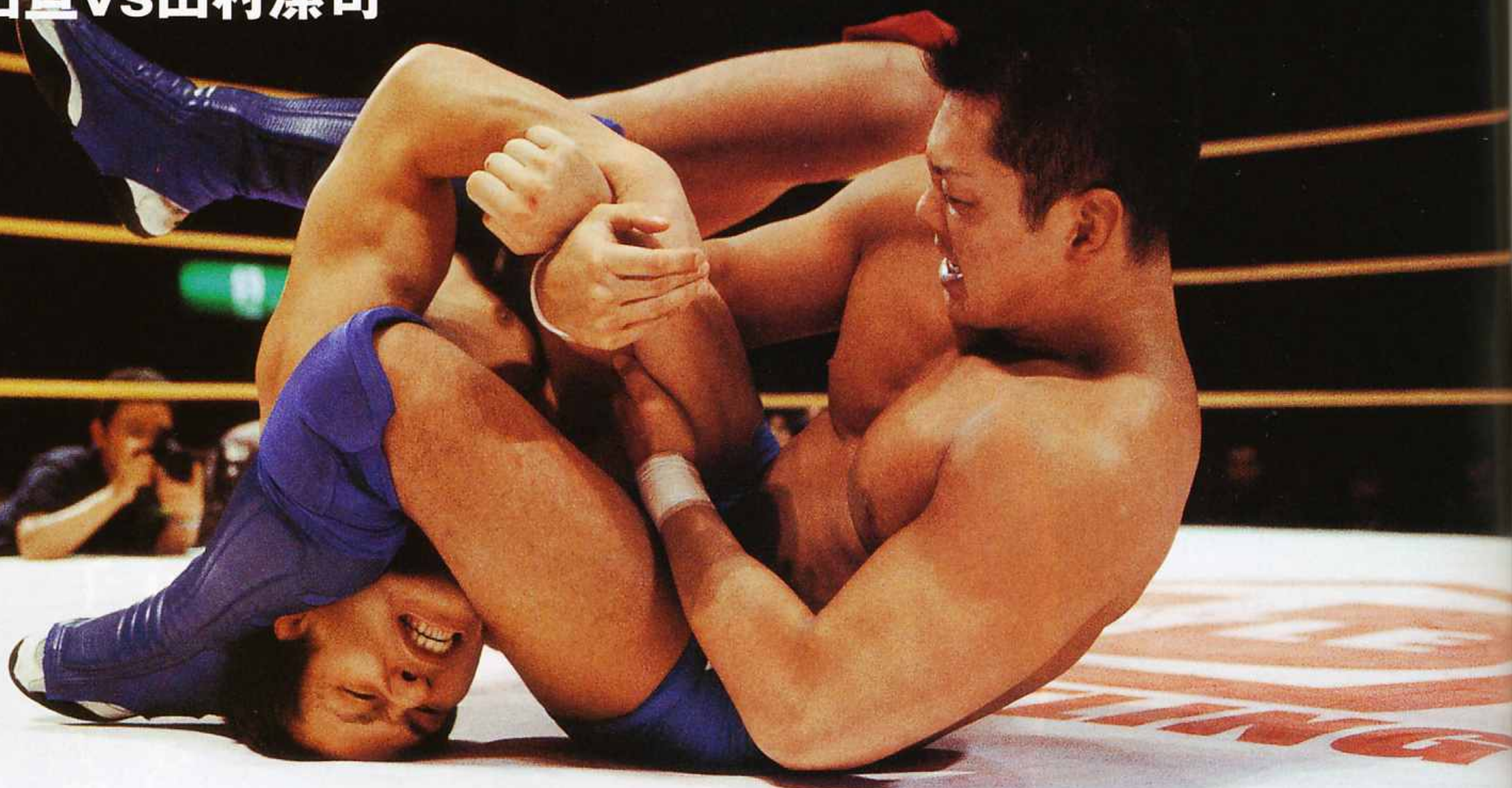
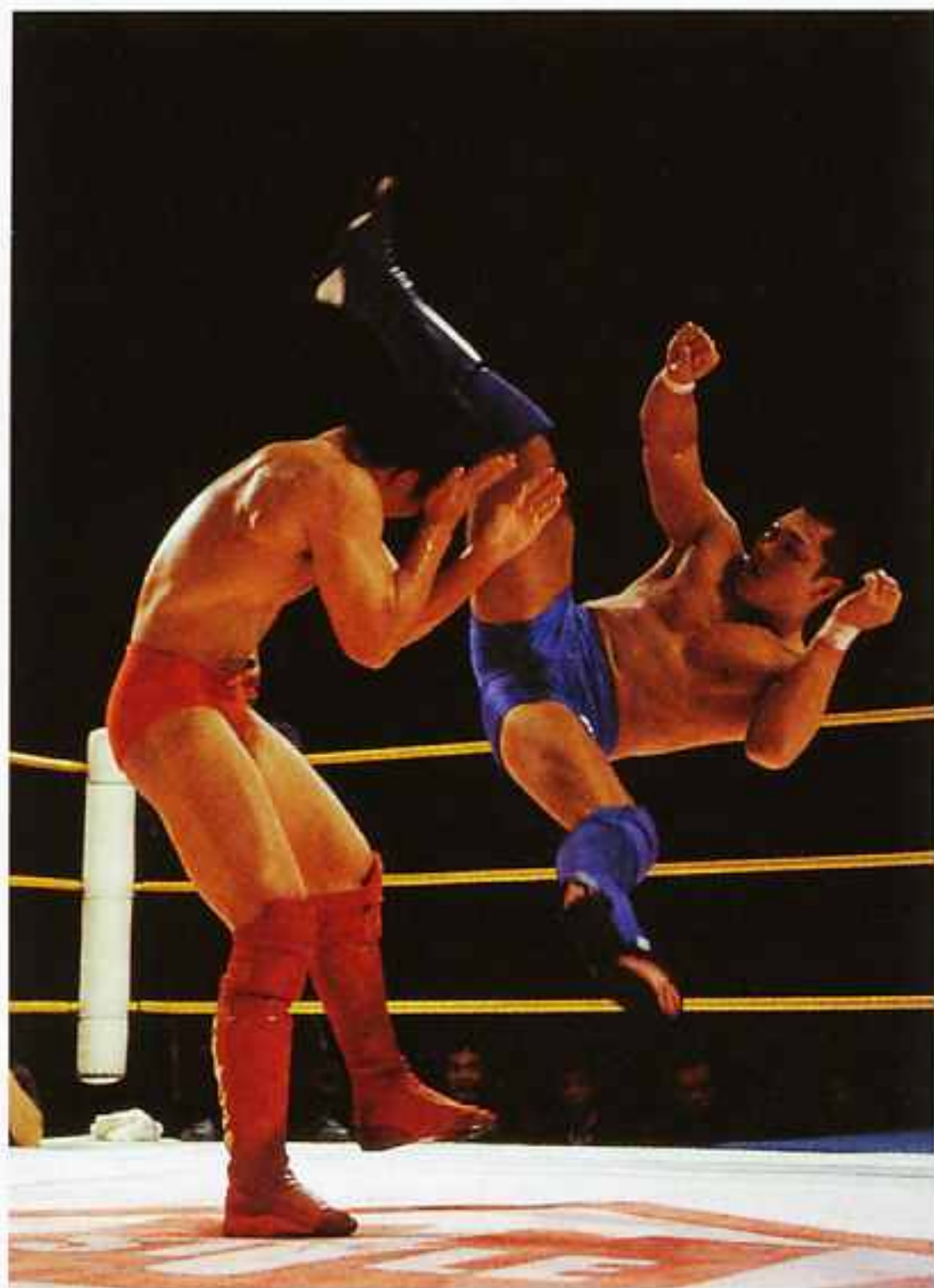
――そうかもしれませんね（笑）。

**坂田**　本気に戦争するつもりでやるんだったら、もっと違う見せ方ってあるだろうし。俺には喧嘩をやるようには見えないよね。まあ全日本は……潰れるんじゃない？

――そ、そんな身も蓋もないことを（笑）。

**坂田**　このままでいったらね。何をやりたいのか俺にはよくわからないし、あの流れに乗る気にはならないね。

――対全日本に対してはホントに興味がないみたいですが、新日本とかも同じような感じで興味はないんですか。

PRO-WRESTLING
# 2.15 U-STYLE 坂田亘vs田村潔司

## Wataru Sakata

2・15U-STYLE旗揚げ戦のメインで田村と対戦した坂田はZERO-ONEマットでフィニッシュ技として多用している飛びヒザから豪快なニールキックを狙うなど、あと一歩のところまで田村を追い込んだが、最後はフロントチョークで無念のタップ。試合後、坂田は「後悔はないけど、そろそろ田村さんに勝たないと駄目だなという気持ちが負けたらいっそう強くなった。でも村浜選手にしろ三島選手にしろ『田村さんとやりたい』って言うのは分かるけど、俺はまだ彼らでは田村さんの相手がつとまらないと思う」とコメント。

**坂田**　いや、こないだ久しぶりにテレビを見たら面白かったよ。試合はあまり映してなかったけど、星野（勘太郎）さんの特集みたいなヤツは最高に面白かったな（笑）。

――船木さんも言ってましたけど、星野総裁はホント評判いいですよね（笑）。

**坂田**　その時に星野さんと前田さんが絡んでる映像が流れてたんだけど、前田さんを知ってるからっていうのを抜きにしても、やっぱり、いま見ても面白いんだよな。

――それこそ緊張感とかビッシビシ伝わってきますよね。

**坂田**　ただ、いまの時代にそういうのができるかっていったら難しいと思うんだよな。だけど、あのVTRで見た感じで言うと試合もそうだし、観客から伝わってくる熱みたいなのがZERO―ONEで地方に行った感じに似てるよね。

――ZERO―ONEの地方大会って実際行ってみないとわからないですけど、ホント地方であれだけ盛り上がってる団体ってなかなかないですからね。

**坂田**　でもZERO―ONEは東京がダメじゃん（笑）。

――ディファとかは苦戦してますからね（笑）。新日本の1・4ドームのテレビ中継なんかでも前田vsアンドレとか（ドン・中矢）ニールセン戦なんかは、いま見ても全然色あせないですからね。

**坂田**　やっぱり前田さんは凄い！（笑）。

――そうですね（笑）。

**坂田**　前田さんもそうだけど、総合格闘技とかがなかった時代っていうのは、プロレスの中にそういう要素が入ってたんだって思えるよね。

――そういう時代を経て、今度U―STYLEで田村さんと闘うっていうのは、ど

うなんですか？（※ちなみにこの取材は田村戦直前の2月12日に行いました）

坂田　まあフタを開けてみないとわからないところもあるけど、例えば猪木さんが新日本とか従来のプロレスに闘いとか殺気とかを求めようとしても、なかなか現場はそうはいかないっていうもどかしい部分もあるわけでしょ。そういう意味ではU―STYLEは従来のプロレスとはまた違った可能性を求められるだろうし、逆にチャンスだと思うけどね。ただ昔と同じことをやるんじゃダメだと思うし。

――村浜（武洋）さんなんかも「昔のUWFをそのままやったら誰も見向きもしない」って言ってましたけど。

坂田　そんなもん見たくもないでしょ？　やっぱ古き良きものっていうのは胸の中にしまっとけばいいんだから、自分が夢中になってた頃を思い出させるものをやればいいと思うんだよ。

――具体的に言うとどういうことですか？

坂田　いや、それっていうのは具体的なものじゃなくて感じるものだから難しいよね。ホントに会場に来て見てもらうしかないよ。とにかく会場に来い！（笑）。

――まあそうですね（笑）。実際、田村さんとは感情的に闘いづらいって部分も少なからずあるんじゃないですか？

坂田　いや、バーリ・トゥードだったら、また違うんだろうけどそれは関係ない。それに俺と田村さんっていうのは他から嫌われてるだけで、決して仲良しっていうわけじゃないからね（笑）。

――他から嫌われてるだけですか（笑）。

坂田　そうそう（笑）。ただ他の人間よりはしゃべるっていうだけだから。それにファンの人も大体気づいてきてると思うけど、アニキっていうのは思ってる以上に意地の悪い人だからな（笑）。

――アハハハハ！　でも田村さんの坂田評を聞くと、先輩に対して横柄というか凄い人だなって感じるんですけどね（笑）。

坂田　そう？　でも別にアニキって言っても、一生一緒にいなければいけない兄弟とかではなくて、義兄弟だからな（笑）。

――それは知りませんでした（笑）。

坂田　でもU―STYLEっていうのは時間はかかると思うけど確実にいいものだって思うから、それがどういうふうに伝わるかだよね。そのスタイルをこれまで見てないファンとかが、いきなりバッと食いつくってことはいまの時代はないと思うけど。

――『PRIDE』やバーリ・トゥードから入ったファンの目にどう映るかは興味深いですけどね。

坂田　ホントいまは見るものがあり過ぎるから難しいよ。最近特にそう思うね。

――で、ここ最近は『WRESTLE―1』が雑誌やレスラー間でも非難轟々なんですが、坂田さんはどう思います？

Wataru Sakata

坂田　文句ばっかりかもしれないけど、何も言われないよりいいんじゃない。それだけ話題になってるんだから。それに、やっぱりキャリアのある選手とかは、いかなる場合でもしっかりお客を沸かせたりする技術を持ってるわけじゃない？　だから批判している人は、みんな自分がやればっていう目で見てるんだと思うよ。

――「俺だったらもっと、いい試合ができるのに」って？（笑）。

坂田　と思うよ。だって演出の金のかけ方とか見ても舞台としては最高でしょ。それに最初からうまくいくもんなんてないよ。『PRIDE』だって最初は全然ダメだったわけだし、『DEEP』はいまもあんな感じだけど（笑）、今度の後楽園とかは売れてるわけでしょ？　だから最初は何を言われてもしょうがないよ。

――産みの苦しみってことですね。

坂田　そうそう。でも格闘家のプロレスっていう部分で言えば、自分のプロレスに自信を持ってる選手とかは、試合の中に欠けてるものがたくさん見えるんだろうな。演出とかに金がかかってる分、それに見合ったものが出せてないというか。例えば、新日本とか選手層の厚いところが同じことやったら、あれよりは良くなるでしょ。

――その新日本の中にも「格闘家のプロレスごっこ」って批判してる人もいましたけど、それを言うんだったらジョシュ・バーネットだってプロレスおたくとは言え、デビュー戦でいきなりIWGPに挑戦してるわけですからね（笑）。

坂田　そんなこと言い出したら元も子もないけどな（笑）。大体、格闘家のプロレスって新日本が始めたんだろって。まあ、『W―1』は難しいと思うけど時間をかけてやっていくしかないだろうね。話を聞いてると坂田さんは全日本には興味がないみたいですけど、例えば新日本の選手と闘いたいという気持ちはないんですか。

坂田　いや、選手一人一人魅力のある人は多いし、新日本に俺が行ってやるシチュエーションっていうのはいいんだけど、その風景に馴染んでしまうのはイヤだね。まあ、具体的に誰とっていうのはないんだけど、総合やるにしても、あまりテーマのない相手とやるよりは新日本の選手とかとバーリ・トゥードをやる方が面白いんじゃないかなと思うんだよ。

――いまは欠場中ですけど成瀬さんもいるし、ライガーさんもパンクラスで総合デビューしましたからね。それだったら対抗戦に見えますよ（笑）。

坂田　だろ？　対抗戦っていうか潰し合いだよな。全日本では相手が思い浮かばないけど、新日本だったらいると思うし、刺激もあるし、それは全然やりたいね。

――でも、新日本の●●選手が「半年ぐらい練習すれば総合でも対応できる」みたいなことを紙面で言って田村さんが怒ったことありましたよね。

坂田　アニキが激怒したヤツでしょ。それは勘違いだし言っちゃイカンよ。そんなことを言ったらやってやるぞって。（急に丁寧口調で）……ジュニアのトップを張る選手が軽率な発言ですよね。

――その対戦も見たいですけど、具体的に

# テーマのない相手とVTやるんだったら
# 新日本の選手とVTでやってみたい

# 成瀬さん？ プロレスの方でも負けない自信はあるよ

言えば、成瀬さんなんかは坂田さんと同じようにリングス出身だし、向こうもジュニアのチャンピオンにもなりましたから、いま闘ったら面白いと思うんですよね。

**坂田**　ふ～ん。でもどっちで？

――いや、契約更改の時に、今年は総合の方も考えてるってこと言ってましたから、どっちでもありかなとは思うんですけど。

**坂田**　あぁ、それは人づてに聞いたけど、成瀬さんが総合やるのを誰か待ってるの？

――新日系の選手が総合に出ると、いつもセコンドに付いてるし、リングス時代からのファンだけじゃなくて、新日からのファンでも見たいと思ってる人は多いと思いますよ。

**坂田**　他の選手よりは慣れてると思うけど、別に挑発してるわけでも何でもなくて、「いまさらどうしたの？」って感じだよね。それだったら、せっかく俺もチャンピオンになったんだからプロレスでもいいし、もちろんバーリ・トゥードでもいいから俺とやれば面白いんじゃないの？

――あえてプロレスルールでっていうのも面白いと思いますけどね。

**坂田**　プロレスの方でも負けない自信はあるよ（キッパリ）。でも、より刺激的なものをって言ったら、成瀬さんよりもっと新日本の匂いがする選手とバーリ・トゥードをやった方が面白いんじゃないかなって思うんだけどね。

――もっと新日本の匂いがする選手というと、永田さんとか？

**坂田**　いや、永田さんに限らず。でも体重とかそういうこと言い出したらきりがないよ。だってヘビー級の選手とかそんなことを言ったらかわいそうじゃん。ノゲイラとサップにしたってエライ体重差があるわけだし、だからやってる人がどういうふうに見てるかだよ。競技としてやってる人は体重にこだわるだろうし、その中でもU－STYLEじゃないけど、技術の攻防とか見せたい人は自分より10キロも重たい人に押さえ込まれたら終わりなんだから。

――そう言いますよね。

**坂田**　逆に競技にこだわるヤツと、プロとして魅せたいってヤツと、考え方の違うもん同士がやった方が面白いでしょ。

――そうですね。立場的には坂田さんはZERO－ONEに継続参戦してるわけですけど、話があれば他団体に参戦っていうのも可能はあるんですか。

**坂田**　笑い話だけど、せっかくチャンピオンになったのにベルトも来てないから防衛戦もできないでしょ。もし、このまま俺が新日本に入っちゃったらどうなるんだろうって、そういう意地の悪い考えがチラチラと浮かんできたりするよね（笑）。

――そうなんですか（笑）。

**坂田**　そんな話はないんだけど（笑）。

――ちなみに、成瀬さんは5・2の東京ドームで復活する予定みたいですけどね。

**坂田**　5・2って、確かZERO－ONEも後楽園であるじゃん。

――そうですね。興行戦争ですよ。

**坂田**　成瀬さんに、「5・2後楽園で待ってる。俺と闘え！」とか言ったら盛り上がるのかな？（笑）

――それは盛り上がると思いますよ。

**坂田**　でも「今年は総合も」とか言って、いま休んでんの？

――手術してリハビリ中みたいですから。

**坂田**　まあ、成瀬さんは自分の中でプランがあるんだろ。あの人は、いい意味でクレバーだから、人生設計っていうか、見る人が見たらイヤらしく見えるかもしれないけど、総合で勝って一気に駆け抜けたいんだと思うよ。いいことじゃない！

――すぐには無理でしょうけど実現を期待してます。まあ、新人賞は無理でしたけど、今年も昨年以上に頑張ってください！

**坂田**　今年は、違う話題でもっとビックリさせてやるよ。

――それはリング上でってことですか？

**坂田**　もちろん。まあリング外でも話題を提供してやるよ（笑）。

――大丈夫だとは思いますけど、背中を刺されないように気をつけてください（笑）。

**坂田**　いや、「私は刺さない」って言ってたから（笑）。

――それは安心です（笑）。今年はリング上でも、プライベート以上のいい出会いがあるといいですね。

**坂田**　それはそうだな。リング上でのいい出会いも欲しいね。

――リング上では恋人募集中と。とりあえず、ZERO－ONEに言って、とっととベルトを作ってもらってください！（笑）。

**坂田**　ホントそうだよ。ベルトがないから、俺もモチベーションが上がんないんだよ。みんなZERO－ONEが悪い！（笑）。

――アハハ。いい締めになりました（笑）。

【03年2月12日／麻布スタジオにて収録】

**Wataru Sakata**

【さかた・わたる】昭和48年3月11日、愛知県出身／175cm、88kg。アニマル浜口ジムでトレーニングを積み、その後、前田道場に入門。平成6年11月19日、有明コロシアムでの鶴巻伸洋戦でデビュー。リングス離脱後は、ZERO-ONEマットを中心に総合やU-STYLEでも活躍中。現在は地元・名古屋で総合格闘技ジム『EVOLUTION』を主宰。【問い合せ】TEL.052-339-3090

# 『紙プロ』発ZERO-ONEオフィシャルグッズ

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈イエロー〉
¥3,800　S or M or L or XL

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉
¥3,800　S or M or L or XL

ハシフ・カーンパーカー『破不可』
¥6,000　M or L or XL

ロウ・キーTシャツ
¥3,000　S or M or L

今回、大好評のロウ・キーTシャツのモデルになってくれたのは女子プロレスラー坂井澄江。彼女はZERO-ONEにも通いつめ「ロウ・キーと結婚した～い」というほどの筋金入りのロウ・キーファンなのだ。

## 『ロウ・キーと結婚した～い♥』

女子プロレスラー坂井澄江も愛用

ロウ・キーTシャツはいかがでしょう!?

SHOGUNも太鼓判！

買わない奴は成敗!!

Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈カーキ〉
¥3,800　S or M or L or XL

Mr.フレッド『TWOOO』パーカー
¥6,000　M or L or XL

Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800　S or M or L or XL

Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800　S or M or L or XL

## 「代引き」を開始!!『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

**代引き**

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
**kapra@kamipro.com** まで、お送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

**現金書留**

希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を現金書留で
**〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702**
**（株）ダブルクロス**
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

**郵便振替**

希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。
**郵便振替の宛先は00130-3-769154（株）ダブルクロス**
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

# マッハ選手に勝って田村さん、桜庭さんに挑戦したい!!

知ってるつもり?

## 上山龍紀

**3・4DEEPであのマッハと激突!! Uインターイズム最後の継承者**

U-FILE CAMP.com

**3・4DEEPでのマッハ戦を目前に控え、いま格闘技ファン注目の上山龍紀。Uインター最後の新人としてデビューし、田村潔司をして「我慢強い」と言わせる男の歩みを、今こそ振り返ってみたい。**

聞き手／堀江ガンツ
撮影／吉場正和
designed by matsu（Two three）

―マッハ戦が決まって、空前の取材ラッシュじゃないですか?

**上山** 取材ラッシュですね（笑）。

―そんな感じでマッハ戦については、もうそんなにしゃべることもないと思うんで、今回は『知ってるつもり? 上山龍紀』と題して、いま注目のファイターである上山選手の〝忍耐の歴史〟を振り返りたいと思います（笑）。

**上山** 忍耐の歴史ですか（笑）。ということは、Uインターの話とかになるわけですね?

―そういうことです（笑）。上山選手は、そのUインターに入る前に高校時代レスリングをやっていたんですよね? それは、もともとプロレスラーになるためですか?

**上山** はい。中学3年のとき、プロレスラーになろうと決めたんで、基礎を作っておこうって感じですね。それまで格闘技は全然、詳しくもなく好きでもなかったんですけど、中学のときの友達が大好きで、「見に行こうよ」って言われて、断りきれずに会場に連れていかれたんですよ（笑）。

―あ、そのころから断れない性格（笑）。

**上山** はい（笑）。で、行ってみたら凄い緊張感で、自分が思っていたようなプロレスとは全然違って、「これは凄い!」と思ったのがUインターだったんですよ。

―プロレスファンになるきっかけがUインターだったんですか。

**上山** そこでもう、プロレスラーになろうと決意して。でも、自分は高校1年で体重が45キロしかなかったんですよ（笑）。

――45キロ！　ボクサーでもキツイですよ！（笑）。

上山　だから高校3年間、誰にも言わずに水面下でプロレスラーを目指して練習してましたね。結局、高校3年になっても体重は60キロぐらいにしかならなかったんですけど、身長が180ぐらいになったんで、それでなんとかUインターに入門できたんです。

――入門テストを受けたのはUインターだけだったんですか？

上山　はい。Uインターだけです。いろいろ迷ったんですけどね。ぶっちゃけ履歴書を2つ作っていたんですよ。

――もう一つはどこですか？

上山　パンクラスです。ギリギリまで迷ったんですけど、やっぱり最初に見たあの緊張感が忘れられなかったんで、ポストに入れたのはUインターでしたね。

――ここから耐え難きを耐え、忍び難きを忍ぶ新弟子生活がスタートするわけですね（笑）。

上山　はい。大変貴重な時間を過ごさせていただきました（笑）。

――上山さんが入門したときのUインターは、どんなメンバーだったんですか？

上山　その頃は、ギリギリまだ皆さん揃ってたんですよ。上から髙田さん、山崎さん。それから中野さん、宮戸さん、安生さん、佐野さん、高山さん、田村さん、桜庭さん、垣原さん、山本さん、金原さん、そして大江さんとボーウィーさんもいましたね。

――名前を聞くだけでただ事じゃない、見事なフルメンバーですね（笑）。

上山　シャレにならないほど、ムチャクチャ怖かったです！　宮戸さんもいらした時代ですから、道場の緊張感も凄かったですね。道場のドアの開く音がカチャとなるだけで心臓が飛び出しそうでしたから。それで先輩が何十人もいたんで、毎日何十回も心臓が飛び出しそうになってました（笑）。

――一番怖かったのは誰ですか？

上山　やっぱり宮戸さんが一番怖かったですね。でも、ほんの僅差で全員同じくらい怖かったですから（笑）。

――ちなみに新弟子時代、高山さんに怒られて、前蹴りで壁まで5メートルぐらい吹っ飛ばされたという伝説は本当なんですか？

上山　本当です（笑）。金原さんが『紙プロ』で、「ジャッキーチェンの映画みたいだった」って言ってましたけど、ホントにいまで言う『少林サッカー』みたいでしたね（笑）。

――アハハハ！　そういう話を聞くと、前号の『紙プロ』で、宮戸さんと安生さんが「金原や高山の後輩だけにはなりたくない」と言っていた意味がわかる気がしますね（笑）。当時はもちろん合宿所住まいですよね？

上山　はい。

――寮長は誰だったんですか？

上山　自分が入ったときは金原さんが寮長でした。それでしばらくして高山さん、その後が桜庭さんでしたね。

――これまた先ほどの宮戸&安生発言を思い出さずにはいられませんね（笑）。

RYUKI UEYAMA
U-FILE CAMP.com

## 高山さんに蹴られて 道場の壁まで吹っ飛んだ 噂は本当です（笑）

上山　だから当時、自分の時間なんてまったくなかったですからね。外の空気を吸えるのは寮と道場の行き来だけなんですよ。もう監禁されてるみたいですから（笑）。

――シャバの空気は吸わせない、と（笑）。

上山　テレビも見れませんでしたから、当時、総理大臣がかわったり、オウムの麻原彰晃が捕まったり、大ニュースがあったんですけど、まったく知りませんでしたからね。

――では、あのころは髙田さんの出馬に始まって、新日本との対抗戦スタート、そして宮戸さんや田村さんの離脱などUインターが大変な時期でしたけど、新弟子はそれどころじゃない。

上山　全然それどころじゃなかったですね。とにかく一日一日どうにかして生き抜こう、と。それだけでしたね。だから毎日布団に入ると満足感があったんですよ。「今日も一日生きていられた」って（笑）。

――まさに、「明日また生きるぞ！」（笑）。

上山　でも、寝たら、すぐ朝なんですよね。雑用が夜遅くまであるんで、睡眠時間があまりないんですよ。早朝から雑用があって、道場の掃除がありましたし。

――そして練習もいまの科学的な練習とは、ちょっと違うわけですよね？

上山　はい。ちょっとというか、かなり（笑）。限界までやるというか、限界を超えてからが練習でしたね。

――その練習の内容ですけど、当時のUインターは、新日本との対抗戦に始まり、WAR、さらに東京プロレスと、UWFからはかなりかけ離れた、思いっきり純プロレスに足を踏み入れてましたけど、練習内容もプロレス用に変わったりしたんですか？

上山　まったく変わりませんでした。もともと受け身はたっぷりとやらされてたんですけど、いわゆるプロレスの練習は一切なかったですね。普段どおり練習して、普段どおりしごかれて、普段どおり怒られて（笑）。

――そしてリング上だけがどんどん変わっていく、と（笑）。

上山　髙田さんとブッチャーがやってましたからね（笑）。自分は髙田さんの付き人をやらせていただいてたんですけど、そのころはどうしてこうなるのか不思議でしたね。

――上山選手はそんな最中にデビューしたんですよね。調べてみたら96年9月30日、岩手県営体育館でデビュー。U系の選手で地方巡業先でデビューというのもこの時期ならではですね（笑）。

上山　そうなんですよね（笑）。結局、デビューまで1年半かかったんですよ。自分は全然、体重が増えなくて。それで毎食ちゃんこ5杯、どんぶり飯を5杯食べさせられて。それも凄く苦しかったですね。

――練習も地獄、喰うのも地獄だったと（笑）。

上山　「何日までに何キロまで増やせ」って言われるんですけど、食べても食べても、それ以上に練習が激しいんで、全部カロリーは消費されちゃうんですよね（笑）。でも、言われた日までには絶対に増やさないといけないので、体重を量る日にとりあえず一時的にでも増えるように、一日で6、

97年5月4日、代々木第2体育館■キングダム旗揚げ戦。この時期、ヒクソン戦実現が濃厚となっていた髙田は試合には出場せず、バーリ・トゥード形式のエキジビションを披露。その相手を努めたのが当時の付き人・上山だった。上山はこれを最後にキングダムを退団。

7キロ分食って増やしたこともありましたよ（笑）。

――『大食い選手権』ばりですね（笑）。

**上山**　あのノルマは大変でしたね。いまは階級制ですから、ホントに幸せです。

――そういったものすべてが、プロになるための通過儀礼みたいなもんだったんでしょうね。それに耐えられない人はなれないという。

**上山**　確かにセンスがあって、いまの状況だったら凄い選手になれたような人がデビュー前に挫折するようなことも多かったんで、もったいないですよね。でも、ああいうしごきとか上下関係も必要だと思うんですよ。あんまりやりすぎもどうかと思いますけど（笑）。あれを経験してないと、試合で心が折れちゃうんですよね。

――経験してる人は、あの新弟子時代を思えば、試合のキツさなんてどうってことないと思えるわけですね。

**上山**　あれを思えばなんでも耐えられますよ（笑）。だからある程度、厳しいのも必要だと思うんですよ。いまはもう、誰でもデビューできるじゃないですか？　いまはあんまり厳しくないですよね。

――いまUインターで『PRIDE』で活躍してる選手は、「あのときがあったから」って言ってますからね。

**上山**　自分もそうですから。あのときがあったから、いまベルトを巻けてるんですから。Uインターで試合数ってのはそんなにやってないんですけど、いまとなっては感謝してます。

――そんな苦しい新弟子時代を耐え抜いて、ようやくデビューしたのに、その3ヶ月後にはUインターは解散してしまうんですよね？

**上山**　あのときは、もの凄く気が抜けましたね。いままでやってきたことがすべて無になってしまったような……。練習は相変わらずキツかったんですけど、やる気がどうしてもなくなってしまったんですよ。

――でも、キングダムに移ることは決まっていたんですよね？

**上山**　はい。でも、自分はUインターが終わった時点で気が抜けてたんです。いまだから言えますけど、「キングダムで頑張ろう」という気にはなれなかったですね。自分はUインターに骨を埋めるつもりでしたから。凄いガッカリして……、しかも誰とは言わないですけど「キングダムもそのうち潰れる」って聞いてましたし（笑）。

――ワハハハ！　そんな情報が（笑）。

**上山**　「そのうち潰れる」って聞いたあと、髙田さんもキングダムには上がらないって聞いたんで、「もうダメだ」と（笑）。それで、ちょうどそのとき自分も大怪我しちゃったんで試合に出れなくなって。そのときに田村さんが心配の電話を掛けてきて下さって、いろいろ相談に乗ってもらって、まず身体をしっかり治してから田村さんと一緒にやっていこうと思ったんです。

――田村さんとは新弟子時代から特別な

リングス時代、"何気に"強豪との対戦も経験している上山。2000年6月にはのちのUFC世界ミドル級王者デイブ・メネーともフルラウンド闘い引き分けている。

接点はあったんですか？

**上山**　田村さんがリングスに行く前に、田村さんの荷物がロッカーに残っていたんですよ。それで自分が荷物をどうするか連絡を取っていたんで、その流れです（笑）。

――でも、田村選手というのは非常に個性的というか……変わってるというか……。

**上山**　何が言いたいんですか（笑）。

――まぁ、ぶっちゃけて言えば、よくついて行ったなと（笑）。

**上山**　それはいろんな人から言われますね。田村さんも気難しい方ですから。「よく辞めようと思わないな」とか、いろんな人から言われます（笑）。でも、Uインター時代から、U・FILEになってからも技術的にも精神的なことも教わることが多いんで。そういうのがあったから、すごく感謝してます。それをどう恩返しするかっていうのは、自分が知名度が上がって強くなることですから。

――そしてU・FILE所属となって、主戦場がリングスに移るわけですけど、ここではいろんなタイプの選手とやりましたよね？

**上山**　イヤでしたね（笑）。

――リングスは嫌だった（笑）。

**上山**　単純に身体がデカいじゃないですか。余裕で20、30キロ差の試合が普通に組まれてましたから。いまじゃ考えられないですよね。しかもリングスの外人は無名でメチャクチャ強い人ばかりだし。だから前田さんには会うたびに「体重増やせ」って言われてましたね（笑）。

――田村さんも退団するまで言われ続けてましたからね。「あと10キロ！」って（笑）。

**上山**　自分も「体重何キロや？」って聞かれた次の日にまた「何キロになった？」とか言われてました（笑）。

――ガハハハ！　実に前田さんらしいですね（笑）。

**上山**　でも、さっきのUインターでの練習じゃないですけど、リングスで強い外人とか体重差のある選手と闘わせていただいたおかげで、いま動けるんだと思いますね。ちょっと相手が重くても「なんだ軽いじゃん」って（笑）。Uインターのときから自分が同じくらいの体重の選手とやったのって、一昨年、國奥選手とやったときが初めてぐらいでしたから。軽すぎて闘い方がわからなかったぐらいでしたからね。だからいま國奥選手とやったら違う展開になると思いますね。ホントにリングスではいい経験させてもらいました。怖い外人とやってきたんで、いまはビビることもないですしね。

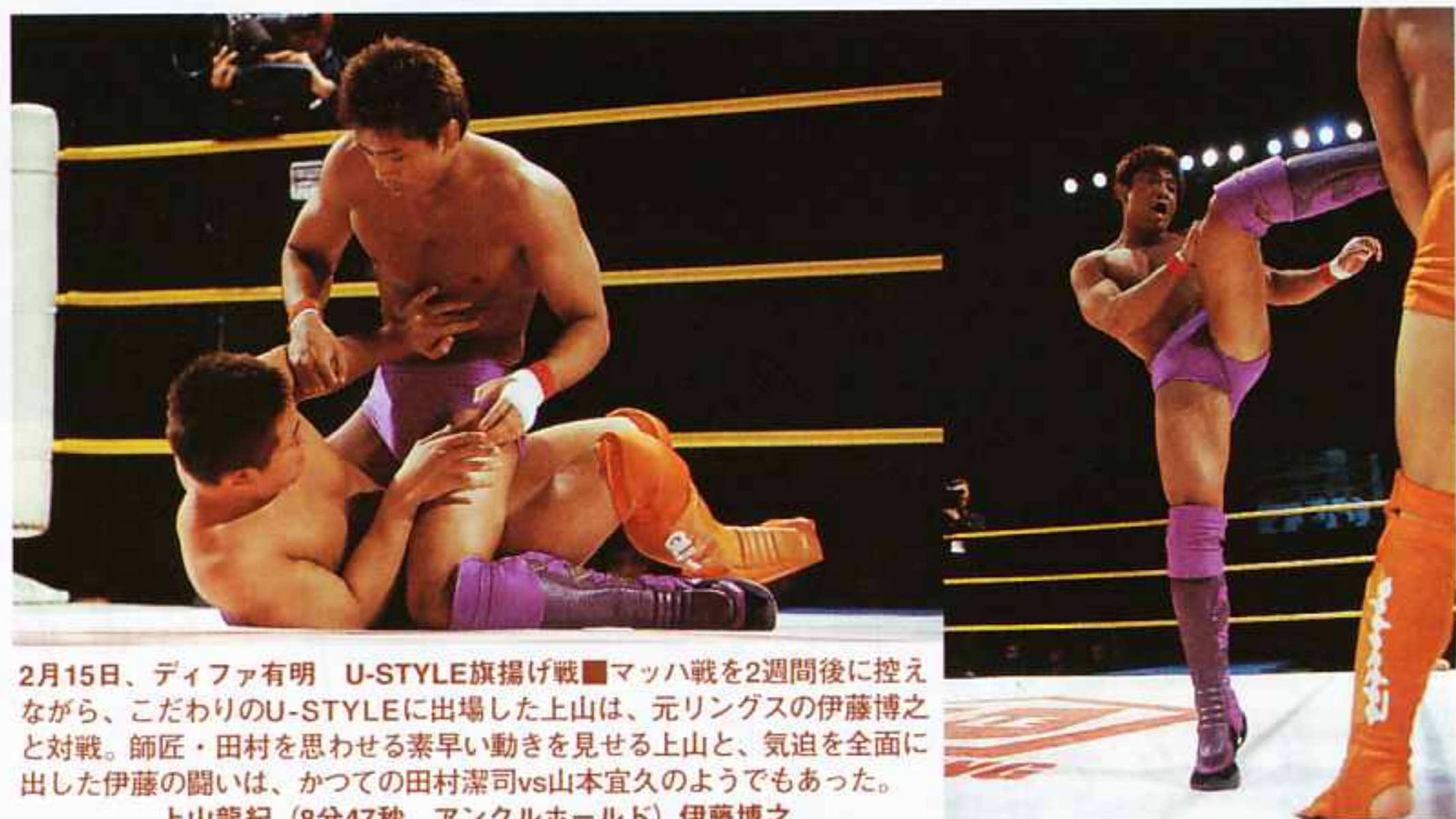
――あの喧嘩屋ピータースにも勝ってますからね。

**上山**　何気に勝ってるんですよね（笑）。

――そして元UFC王者デイブ・メネーとも引き分けているし。

**上山**　これまた何気にそうなんですよ（笑）。

――上山さんって、昔からなかなか負けないイメージがありますよね。なかなか一本勝ちもありませんでしたけど（笑）。

**上山**　ガードは堅いんですよ。デビュー以来、一本負け、KO負けは一度もないですから。

**RYUKI UEYAMA**
**U-FILE CAMP.com**

2月15日、ディファ有明　U-STYLE旗揚げ戦■マッハ戦を2週間後に控えながら、こだわりのU-STYLEに出場した上山は、元リングスの伊藤博之と対戦。師匠・田村を思わせる素早い動きを見せる上山と、気迫を全面に出した伊藤の闘いは、かつての田村潔司vs山本宜久のようでもあった。
上山龍紀（8分47秒、アンクルホールド）伊藤博之

――あ、そう言われてみればそうですね！

**上山**　このガードの堅さは、Uインター時代に先輩とのスパーリングで覚えたんですよ。

――Uインター名物の"ラッパ地獄"で覚えましたか（笑）。

**上山**　はい（笑）。

――だから上山選手って、昨年急に伸びたように見られますけど、技術自体は昔からあったんですよね。

**上山**　技自体はあんまり変わってないと思います。いまは体重差がない選手とやれるのと、試合経験をつんで自分の力の出し方がわかったのが大きいと思いますね。

――ちょっと前までは、窪田選手辺りと抗争をしていたのが、いまやブラジリアン・トップチームを下して、マッハを迎えうつまでになったんですからね。しかも、「上山有利」と言ってる関係者も少なくないですよ。

**上山**　ホントですか⁉　でも、普通に考えたらマッハ選手ですよね。ネームバリューも実績も違いますから。上山が勝つと思うのは少人数だと思いますよ（笑）。

――少なくともボクは判定勝ちで上山さんに札を置いてますよ（笑）。

**上山**　あ、判定勝ちですか（笑）。でも、判定までいったら自分が負けますね。自分が勝つなら一本。いや……やってみないとわかんないですね（笑）。

――他誌のインタビューでは、「マッハ選手のビデオはまだ見てない」と言ってましたけど、さすがにもう見ましたよね？

**上山**　いや、まだ見てないです。

――まだ見てないんですか！　早く見た方がいいですよ（笑）。

**上山**　来週、U・STYLEもあるじゃないですか。だからUインターとか昔のリングスのビデオは毎日のように見て、どんな動きをすればいいのかって研究してるんですけど、マッハ戦の研究って何にもしてないんですよ（笑）。もちろん練習は普通にしてるんですけどね。一つ一つ処理してないといけないんで、次はU・STYLE。それが終わったらマッハ選手。

――でも、普通はマッハ戦を二週間後に控えて試合に出ませんよね？　せっかくの旗揚げではありますけど、怪我したら大変だし、欠場は考えなかったんですか？

**上山**　いや、自分はどうしてもU・STYLEに出たかったんですよ。こんなこと言うと佐伯代表に悪いし、マッハ選手にも失礼なんですけど、マッハ戦よりも出たかったですから。U・STYLEに出ないくらいなら、マッハ戦をお断りしていると思います。それぐらい自分の中ではU・STYLEが一番なんですよ。

――それはUインターが崩壊したときの喪失感から続いていたわけですか？

**上山**　はい。いつかは復活してほしいと思ってましたし、がむしゃらに追いかけていたころに戻れるような気がするんです。自分はUスタイルがやりたくてUインターに入りましたから、バーリ・トゥードをやるためじゃないですから。いまはバーリ・トゥードも大切で、凄く素晴らしいと思って

**U-STYLEを欠場するくらいならマッハ戦を断ってます**

## マッハ戦が終わったら言いたいことがあるんで、いまは追いつめられています

いますけど、その上にUスタイルがあるんです。だからホントは2月15日は第1試合に出たかったんですよね。一発目って大事じゃないですか。自分が第1試合で「これがU-STYLEだ」というものを見せたかったんですけどね。

――藤井選手じゃUスタイルというより、UFOスタイルですからね（笑）。

**上山** ホントは自分が一発目でメインを田村さんに締めてほしかったんですけど、自分はあまり発言権がないんで（笑）。

――いまだに発言権ありませんか（笑）。

**上山** あ、発言権と言えば、ちょっと違う話になりますけど、マッハ戦が終わったら言いたいことがあるんですよ。

――ほう、師匠田村さんばりですね（笑）。それはマッハ戦に勝たないと言えないことなんですか？

**上山** いや、負けても取材にきてください（笑）。

――その辺のちゃっかりぶりも師匠譲りですね（笑）。

**上山** とりあえず、3月4日に集中して、U-STYLEが終わったら、試合後に言いたいことがあるんで。だからいろんな意味で、肉体的にも精神的にもマッハ選手より自分の方が追いつめられてると思いますね。早く3月5日を迎えたい（笑）。

――マッハ戦は自分の中での勝算はどのくらいですか？

**上山** 勝算？ う～ん、三通りあるんですけど。盛り上げるなら100%と言うし、普段通りの力が出せたら五分五分だと思いますけど、ぶっちゃけて言ったら2割ぐらいかな（笑）。

――いやぁ、そんなこと言って、実は自信があるような気がするなぁ（笑）。

**上山** でも、マッハ選手って強いらしいじゃないですか、話を聞くと。ビデオを観てないからあれですけど、噂によると桜庭さんとそんなに差がないとか聞くんで、凄い選手なんだろうなって。だからやれるのは光栄だし、楽しみですね。秒殺されるかもしれないですけど、どんだけ差があるのか、どっちが勝つのかって。

――では、ちょっと気が早いですけど、今後、闘いたい相手とかいますか？

**上山** 今後ですか？ マッハ戦で大きく変わりますからね。マッハ選手に負けたら「もう一度マッハ選手」と言います。勝ったら、どうしても闘いたい相手がミドル級で二人いるんですよ。

――誰ですか？

**上山** おこがましいですけど、マッハ選手を超えたら、田村さんと桜庭さんを目標していきます。

――おぉ～、それはいいですね！

**上山** ちょっと失礼ですかね？

――いや、確かにマッハ選手に勝ったら、85キロ以下ぐらいでそれ以上のビッグネームと言えば、その二人ぐらいですもんね。おかしくないですよ。

**上山** 田村さんと桜庭さんは昔からの目標なんで、ゼヒ胸を借りて挑戦してみたいですね。実は自分、新弟子時代に田村さんに聞かれたことがあるんですよ。「デビュー戦の相手って誰とやりたい？」って。そのとき「できるなら田村さんとやらさせていただきたい」と言ってしまったんです（笑）。

――ガハハハハ！ 新弟子の分際で大胆不敵ですね（笑）。

**上山** 田村さんは笑ってましたけどね（笑）。いまなら、U-STYLEのリングでやってみたいです。あと、桜庭さんとは、Uインター時代によくスパーリングをやらせていただいたんですよ。自分がキングダムを辞めてからは一度もやってませんけど、自分も強くなったと思うんで、桜庭さんにちょっとでも上山が強くなったと肌で感じてほしいんです。何年後になるかわからないですけど、舞台はどこでもいいんで、ゼヒやらせていただきたいですね。

――では、そのためにも3月4日のマッハ戦は負けられませんね。

**上山** はい！ マッハ選手が勝ったら当たり前すぎてつまらないと思うんで、自分が勝って格闘技界を面白くします！

――期待してます！

【03年2月9日／川崎市『カラオケ館・ベイブリッジ』にて収録】

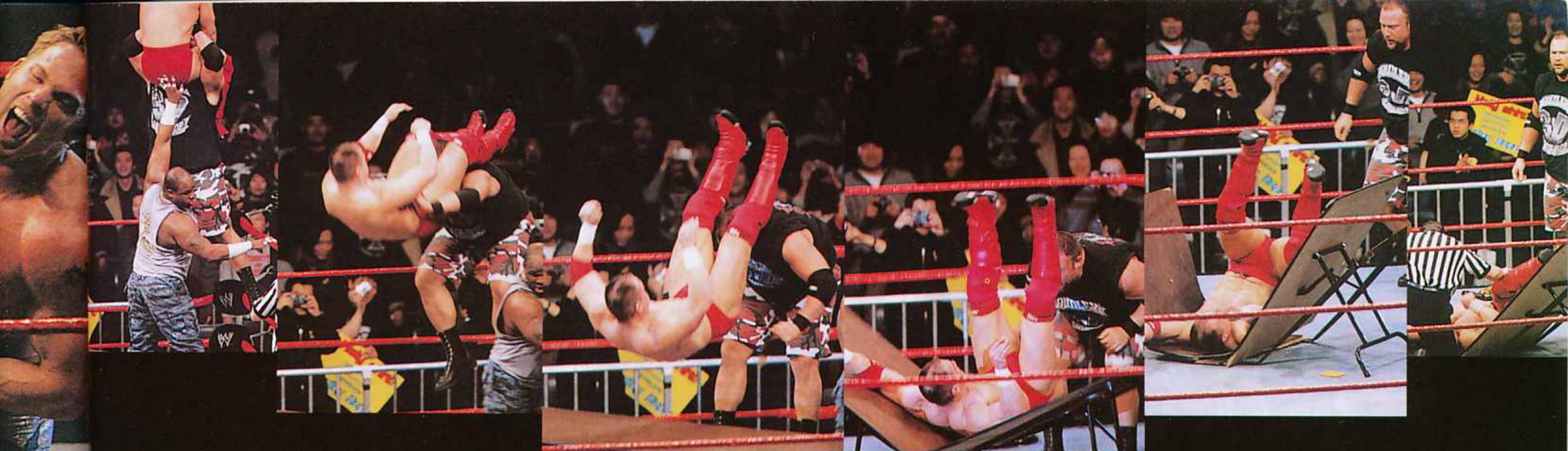
うえやま・りゅうき■1976年4月17日、東京都町田市出身。95年にUWFインターナショナルに入門。97年に田村と行動を共にし、「U-FILE CAMP」所属となる。昨年、6月DEEPジャパンミドル級トーナメントに見事優勝。181cm、81kg。

RYUKI UEYAMA
U-FILE CAMP.com

# WWE再爆発!!

## 1.24&25日本上陸大成功&新たなる伝説が生まれる予感を追え!!

今回の日本大会は、初日(24日)のしょっぱなから「ブッカーT欠場」という非常にいただけないアナウンスで幕を開けた。最も生で見たかった選手のひとりだけに落胆の声も多かったが、事情が事情（P88参照）だけに仕方がない。それでも日本大会の2日間は「大成功!!」のひと言に尽きる。そして、再びアメリカに帰っていったWWEはいきなり“ストーンコールド”スティーブ・オースチン、ハルク・ホーガン、ザ・ロックといった超ド級のスーパースターズを相次いで投入!! 史上最大のプロレス祭典『レッスルマニア19』へ向けて爆走を開始した。一時期の人気下降から立ち直り、いままた爆発しようとするWWEを今号でも大特集だ!!

構成／スモーノブ
試合写真／乾 晋也

1.24&25 Yuke's PRESENTS WWE FAR EAST TOUR '03 January

# WE WANT WWE!!

## 人気下降説をブッ飛ばした超満員×2日間の総括

約11ヶ月ぶりのWWE日本上陸は、またしても大成功に終わった。今回も客席に集まった人たちの多くはWWEの楽しみ方を目と耳で知っている人たちばかり。飛び交うチャントも現地のまんまだし、ボードを使った様々な応援も（前回大会の方が明らかに多かったが）あったし、コスプレしたファンも目に付いた。日本のプロレス会場の雰囲気とは異質だ。

一部では、賛否両論で評価が割れたようだが、ここでは「大成功でした!!」と声を大にして言いたい。一説によれば、今回のツアーでWWEは400万ドル（約4億8000万円）を売り上げたという話もあるが、売上高以上に大きいのは「試合で酔わせた」という点だ。

「酔わせた」といっても、この大会がTV同様にテンポよく進行すると思っていた人や本場のWWE直輸入を望んでいた人にとっては「悪酔い」だったかもしれない。あるいは初日だけを見て、「大成功!!」という言葉に違和感を持った人もいるかもしれない。おそらく、今号のクロス・レビュー（P112）でも初日だけ会場に行った編集部の人間が批判的に書いているはずだ。しかし、2日間とも見に行かない方が悪い。WWEは、女子王座や『RAW』世界ヘビー級のベルトをめぐる闘いについては2日間でひとつとなる流れを用意していたフシがある。1日だけ見て物足りなさを感じるのは当たり前といえば、当たり前。なぜなら、この2日間のクライマックスは25日のメインイベント、つまりトリプルH vs TAJIRIだったのだから。

この試合は、WWEの番組上ではまず実現しない奇跡的なマッチメイクでありながら、20分以上に渡る名勝負となった。世界中のどこでも見ることが出来ない、まさに日本だけの試合である。

おかげで、僕らはTAJIRIという

再爆発!!

以前日本で決して大きな評価を受けていたわけではない選手が、〝本物〟であることを知った。ＴＡＪＩＲＩの実力が、現在の番組（『ＳＭＡＣＫ　ＤＯＷＮ』）上で反映されているかというと、必ずしもそうではないことも知った。突然、日本マット界から姿を消してしまったＴＡＪＩＲＩという存在は、気がついたら日本のプロレスファンやＷＷＥ視聴者の想像を遥かに超えていた。花道でステフと抱き合うシーンも、タランチュラでトリプルＨが悶絶するという素晴らしい瞬間も、あと一歩まで追い詰めながらバズソーキックをかわされてペディグリーに散るという展開も、日本のファンの目にはクッキリと目に焼きついている。

今回の日本大会では日本の目の肥えたファンには退屈に映る試合も多かったが、この試合は格別！　アメリカン・スタイルで日本の観客に勝負を挑み、強烈なインパクトを刻み付けた。前回のロック様のような千両役者はいなくても試合でキッチリ締めるという、いま日本のプロレス団体が一番やらなきゃいけないことをＴＡＪＩＲＩがやってしまったわけだ。

もちろん、心に何かを刻んでくれたのはＴＡＪＩＲＩだけではない。トリプルＨの入場シーンはカッコよすぎて鳥肌が立ったし、リーガル＆ストームのタッグ王者チームも絶妙な試合運びで唸らせてくれた。ダッドリーズの必殺技「３Ｄ」や「テーブル・ボム」には、シビレまくった人が続出！　初めて生で拝むステファニーやメチャメチャ元気に花道をダッシュしてくるトリッシュの色気にやられた人も多いはず。もちろん、ステーシーに悩殺された男はそれ以上だ。

普段、日本でプロレスを観戦していてもどこか冷めた目で見ているような人たちが、思わず試合や入場に参加してしまう。そんな不思議な熱がこの大会には働いていた。それだけでも「大成功!!」と言えるはずだ。

直撃インタビュー

## WWE日本上陸の仕掛人

# 谷口行規

### 株式会社ユークス代表取締役CEO

**前号から引き続き、1月に行われたWWE極東ツアーの冠スポンサーとして我々の目の前にスーパースターズを呼んでくれた、株式会社ユークスの谷口社長が登場だ！ 今回はPS2ソフト『エキサイティング・プロレス4』を発売したばかりの同社のこと、さらには社長自身のプロレス体験について掘り下げて聞いてみた。**

聞き手／阿部タケシ　構成／スモーノブ　撮影／松本崇

——プロレスのゲームをずっと作ってらっしゃるユークスさんから見て、ゲームファンとプロレスファンはリンクしていると思いますか？

**谷口** う〜ん。昔からそれは、よく考えるんですよ。僕はプロレスゲーム好きなんですけど、実際のプロレスはそんなに見なかったりするんで。「純粋なゲーム好きでもない、純粋なプロレス好きでもない、でもプロレスゲームは好き」っていう層が確実にいるんじゃないかなと思うんですね。

——社長自身、まさにそうだったと？

**谷口** そうです。

——それは、自分でプロレスラーを動かすことによって……。

**谷口** 派手な技を自分で出したい!!

——アハハハハ！ つまり形を変えたプロレスごっこみたいな？

**谷口** そうですね。グリグリ絞めて「オリャ、オリャ！」って（笑）。ゲームをやるときは声出して、一種のストレス発散みたいな感じですね。

——なるほど（笑）。現在はさほど見ていなくても、やはり子供の頃はプロレスが好きだったわけですよね？

**谷口** ああ、好きでしたよ。僕が小学生の頃は、猪木・藤波が全盛期でしたから。TV見ながら、親父とプロレスやってました（笑）。

——ちなみに、その頃からTVゲームにも興味はあったんですか？

**谷口** ええ、TVゲームが出始めた初期の頃からはまりましたねぇ、『インベーダー』とか『ブロック崩し』とか。

——TVゲーム好きが高じて、ゲーム開発の仕事を始めたわけですか？

**谷口** 子供の頃は小遣いも限られてるじゃないですか？ 月に300円もらっても、ゲームが1回100円だったら20分で使い切っちゃうんですよね。「タダで出来る方法はないかなぁ？……自分で作ればタダじゃん!!」っていうのがもともとの発想なんです。

——はぁ〜、その動機は素晴らしい！

**谷口** 僕なんか、母親の財布からお金を盗んで遊んでたクチなんで（笑）。

——ゲームセンターとかで遊んでたんですか？

**谷口** どっちかというと、僕はお金を取られる側でしたね（笑）。当時のゲームセンターは不良の溜まり場みたいな感じだったじゃないですか？

——あ、カツアゲされてましたか（笑）。

**谷口** 怖いお兄さんに囲まれて、「お金持ってません」とか言うんだけど、「その場でジャンプしてみろ」って（笑）。でも、100円玉ひとつしか持ってないから音がしなかったり（笑）。

——アハハハハ！ そこがユークスの原点（笑）。でも、社長は高校生の頃からゲームソフト開発の仕事をしてたんですよね？

**谷口** はい。15歳頃から業務委託契約をゲーム会社と結んでました。

——ものすごい早熟ですよね！ ということは、小さい頃からコンピューターで遊んだりしてたわけですか？

**谷口** いや、パソコンを初めて触ったのは中学生になってからです。

——ということは、パソコンを始めてから約3年間で業務委託契約ですか!?

**谷口** 小学生の頃から電子工作は好きで、ひたすら半田ごてで遊んでましたから。小学3年生の頃に電気屋の裏から拾ってきたTVをバラバラにして、針金でいろんなところを結んでラジオを作ったら鳴っちゃったんですよね。

——TVでラジオを!?

**谷口** そこから一気に電子工作にはまっちゃって、5年生の頃にはデジタル回路を自分で一から設計して電子ルーレットとか作ってましたね。

——はぁ〜、凄い（笑）

**谷口** ゲームを自分で作り始めたのは、パソコンを触り始めて1年くらい経った頃で、そのへんからはゲームで遊ぶよりも自分で作ってる方が面白くなっていきましたね。

——その頃ってゲームを一緒に作るような仲間はいたんですか？

**谷口** ええ、いましたよ。その人たちは、いまでもゲーム業界で社長をやったりしてますね。

——その世代の方というと日本のゲーム業界のパイオニアじゃないですか。

**谷口** そうですね。その頃、社会人としてゲームを商売としてやりはじめたのが、●●●さんだったり、●●●さんだったりするんですよね。最初のファミコン・ブームの頃に凄くおいしい思いをして、大きくなった会社ですよ。

——そんなにおいしかったんですか？

**谷口** ソフトを作れば何でも売れたんです。どんなに売れないソフトでも最低で30万本とかいう世界ですから。

——今回ユークスさんが出した『エキプロ4』が10万本目標ですよね？ それを考えたら桁違いじゃないですか。

**谷口** いまのゲームって制作費に2〜3億円かけて「10万本しか売れないの？」って感じですけど、当時のゲームなんて制作費3〜500万円で30万本以上は売れてますからね。しかもゲームの単価はいまよりも高い（笑）。そういうボロい商売をしてたのが、いまの大きなゲームの会社です。

——なるほど。ちょっと話がそれちゃったんで戻しましょうか。社長は、業務委託契約を結んで働きながら、普通に高校生活は送れていたんですか？

**谷口** 普通に部活でバレーボールとかやってましたよ。

——意外と普通の高校生活ですね。

**谷口** ええ。ただ、もともと大学に行く気はなかったんですけど、親の希望もあって受験することになって。でも、僕は意地でも大学に行きたくなかったから、親に宿泊代と受験料をもらって、その金で志賀高原まで遊びに行ってスキーしてました（笑）。

——アハハハハ！ むしろ普通の高校生よりタチ悪いじゃないですか（笑）。

**谷口** それで、もう働こうと思ってたんですけど、親は「浪人してでも大学に行け!!」って言うんですよ。仕方ないから予備校に行くフリして、予備校の隣にあった会社でずっと仕事してましたね（笑）。親に内緒で免許を取って、車も買って。

——要領がいいというか（笑）。

**谷口** ただ、夏休みになると大学行ってた高校の同級生が地元の広島に帰ってきて、夜な夜な遊ぶんですよね。そうするとコンパの自慢話をするんですよ！ それを聞いてたら「いいなぁ、コンパしたいなぁ」と思って（笑）。ちょうど大阪の大学に地元のかわいい女の子が行ってるということもあって、「俺も大阪の大学に行こう」って。

——アハハハハ！ そんな理由で大学

プロフィール■1968年9月27日、広島県出身。平成5年2月、大阪府堺市に有限会社ユークスを設立。「ゲームの宣伝もWWEを日本に広めるところから」と、昨年と今年のWWE日本大会では冠スポンサーとなった。最近はカーレースにはまって、鈴鹿サーキットを220キロで爆走！　ノーマル・エンジンのシビックでポルシェやフェラーリを豪快に抜き去ったりもしている。そのために約1ヶ月で12キロもの過酷な減量にも挑戦したA級ライセンスのドライバー。

再爆発!!

を決めたんですか（笑）。

**谷口**　ええ、そこからずっと大阪にいるんですよ。大学3年で自分の会社を作りましたね。僕が大学を卒業する頃には、すでに社員が15人はいたかな？

――それがユークスの立ち上げだったんですね。ちょっと話は変わりますけど、世の中不況じゃないですか？　このご時世では社長業も決して楽ではないと思うんですけど。

**谷口**　いや、楽してますけどね（笑）。最近、「仕事してるんだか遊んでるんだか分からない」って思ってんだろ？（と同席した広報担当者にツッコミ）

**広報担当**　いえいえ（苦笑）。

――社員の立場にしてみたら理想的な社長ですよね。

**谷口**　そりゃそうだよな!?（さらにツッコミ）。

**広報担当**　いえ、素敵な……社長です。

――返答に困ってるじゃないですか（笑）。「素敵な社長」って大きく書いておきましょう！　で、社長としては、WWEの大会をスポンサードすることによって最終的にはゲームの売り上げにつなげたいということですよね？

**谷口**　そうですね。

――たとえば、WWEの日本大会を本格的にプロモートするような方向にシフト・チェンジすることは？

**谷口**　それはないです（笑）。

――じゃあ、WWEを日本に広めようとしているのと同じ手法で、たとえば日本にアメリカンフットボールを広めてゲームを売ろうとか、そういう展開も考えられるわけですか？

**谷口**　ああ、別の分野で同じような手法を用いる可能性はありますけどね。ただ、WWEという世界一のコンテンツを日本に持ってきてもジワジワと広まってる感じなんで、まだ勉強中です。

――WWEは世界一のコンテンツだと思いますか？

**谷口**　バスケ、野球、アメフトなんかよりもアメリカではTV視聴率を取ってたりするんですよね。実際、WWE以上にインパクトのあるコンテンツはなかなかないんですよね。

――やはりWWEの面白さをダイレクトに伝えるTV媒体は重要ですよね。そういえば、昨年の日本大会のときに、TV放送を予定していたテレビ東京とJスカイスポーツが試合映像をほとんど使えなくなってしまうという事態がありましたけど、あれはどういうトラブルだったんですか？

**谷口**　あれはTV局とWWE側……というかいろんな部分でいい加減なところがありまして、大変なことになっちゃったんですけどね。

――なるほど。日本だとプロレスはわりとマニアックなものに思われがちで、それこそTVで放送される機会もほとんどないのが現状で世間的には肩身の狭いジャンルですよね。WWEはプロレスを一気にマスに広げて、アメリカだけではなく全世界に届かせてしまいました。ユークスさんも、プロレスゲームをマニアックな層に限らず世間一般に広く浸透させていきたいと？

**谷口**　そうですね。プロレス自体はすごく面白いものだと思うんですよ。日本だとイメージ的に暗い感じがしてるんで、それがなくなれば普通の女の子もプロレスゲームで遊んでくれるようになると思うんですけどね。「このゲームをやってみたいなぁ」というイメージには変えていきたいと思います。

――ということは、いまのところ『エキプロ』ユーザーは男性が多いんですか？

**谷口**　圧倒的に多いですね。年齢的には、小・中・高・大学生を中心にいろんな層がいて、バラバラなんですが。

――なるほどなぁ。いま、プロレス会場にはホントにちびっ子がいないんで、いま、子供が見ても面白いプロレスって大事なテーマじゃないですか？

**谷口**　それには分かりやすくないと。だから、スペシウム光線を打ったら終わらないとダメなんですよ!!

# 子供が見ても面白い
# プロレスというのは
# 分かりやすくないと

――そういうことですよね（笑）。

**谷口**　たとえ、それがしょぼいエルボーでも……あっ、言っちゃった（笑）。

――さあ、誰のことを言ってるんでしょうか？（笑）。その選手は今回のツアーには来ないですけど、ユークスさんの方から「この選手を呼んで欲しい」みたいなリクエストは出すんですか？

**谷口**　基本的に大会の内容に関して口を挟むのは「無理だろう」と、こっちが先に思ってしまうんでリクエストは出してないですね。ゲームを作ってる時もWWEは相当うるさいんで（笑）。

――たしかにWWEとの交渉は大変そうなイメージがありますね。

**谷口**　ディズニーもうるさいですけど、WWEは同じくらいうるさいです。

――WWEはそれだけイメージを大事にしてるってことなんでしょうけど。

**谷口**　「日本の団体のレスラーも『エキプロ』に出せないの？」っていろんな人から聞かれるんですけど、「無理だと思う」って答えてますよ（笑）。そんなことを聞いたら「ウチと何年付き合ってんだ？」って言われそうだし。

――「わかってんだろう？」と（笑）。WWE同様、『エキプロ』も世界的に売れてるわけですよね。たとえば、インターネットを使って世界中のファンが『エキプロ』で対戦できるような環境づくりも視野に入ってますか？

**谷口**　ええ、いろいろ考えているところです。幸い、このゲームは毎年リリースしていく感じになってますので、「ここで止めておかないと間に合わないかな」っていうところで発売してるんですよね。「やりたいことをやり切ってない」っていうストレスを次のゲームにぶつけて作り込んでると、さらにやりたいことが出てきて、毎年進化してます。いま『エキプロ5』を製作中ですね。それまでは『エキプロ4』で遊んでもらって（笑）。

――ドンドン新しいことをやっていきたいという考えはずっと持っていらっしゃるわけですよね？　それは社長ご自身の生き方にも繋がってるという。

**谷口**　そうですね。

――今日はお忙しいところ、ありがとうございました！

【1月17日、神奈川・ユークス横浜開発室にて収録】

WWEスーパースターズ来日記念スペシャル企画

# "WWEおっかけ王"決定戦

慢のツーショット写真とエピソードを持ち寄って大勝負!!　果たしてWWEおっかけ王の栄冠はどちらの頭上に輝くか!?

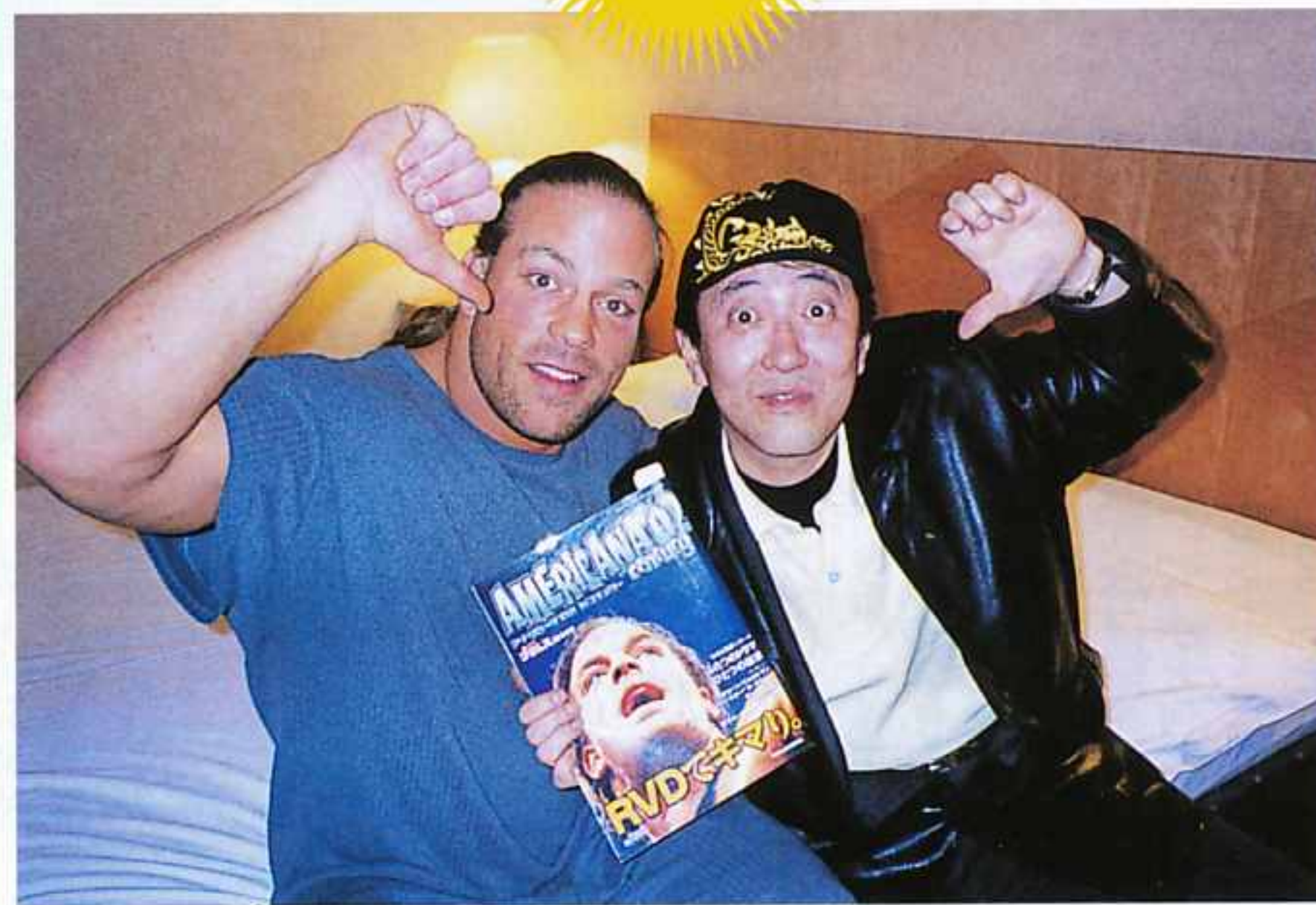
## WWEをこよなく愛する芸人 ハチミツ二郎

## VS

## 『FRIDAY』編集次長 仙波久幸

「今回は来日経験の多いタレントが多かったこともあって完全にディーバ狙いでしたね。1月22日にボクらがやってる東京ダイナマイトの単独ライブがあったんで、それ用にいろんなTシャツをバンバンビガロで作ってもらったんですよ。<恐竜>は今回の単独ライブのタイトルなんですけど、そのTシャツを渡そうってことで。ステイシーは24日に、トリッシュとリコは25日にハードロック・カフェで撮りました」

### 1st BOUT

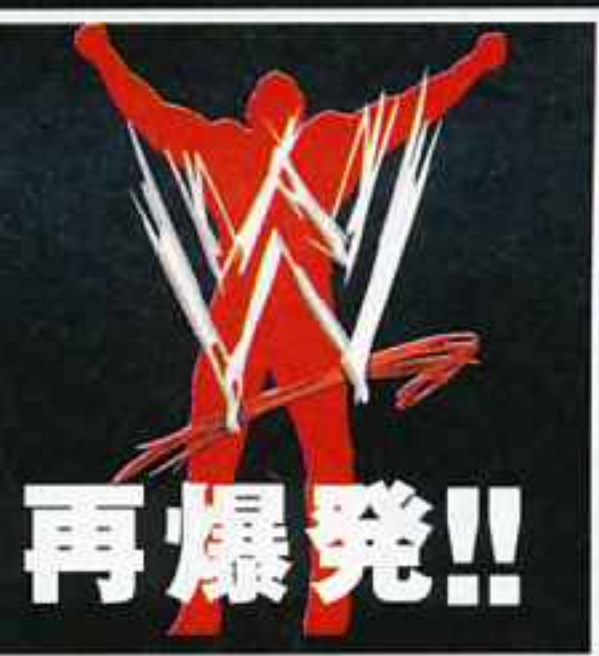
「じつは、最初ステイシーはツンケンしてたんですよ。で、Tシャツを差し出したら『これにサインするの?』って結構お高い感じで言われて。『ノー、ノー、プレゼント』って言ったら、抱きついてくれたんですけど（笑)。（プライベートでもつきあってる）テストのガードが固かったですねぇ。2日目はテストがステイシーにベッタリだったんで、こういうのは撮れなかったはずなんですよ。この日は、テストが先に店を出たんで、その直後に撮りました」

「これは24日の試合後、スーパースターズが泊まっている新宿の某ホテルを訪れたんですよ。で、追っかけ仲間にRVDと仲のいい人がいて、部屋まで入れてくれたんだよね。ホントだったらSPのガードがきついから絶対に入れないはずなんだけど。RVDが表紙になった昨年のアメリカーナを持って、一緒に記念撮影をしましたよ。彼はすごくハートがいいね。この後は、一旦別れて食事をして、また六本木で合流して3時頃まで一緒に飲みましたよ」

### 2nd BOUT

「店にはいろんなスーパースターズがいましたけど、その中で一番ナイスガイだったのが意外にもリコだったんですよね。向こうから両手で握手してきて、『どうもありがとう！』ってキッチリ言うところにみんな感激して、初めは渡すつもりじゃなかったのにTシャツを渡したら頭上に掲げて帰っていきましたね。どこまで京都をわかってるかどうかはわからないですけど、キョウトっていう街のTシャツだっていうことは認識して持って帰りましたよ。ディーバ狙い？　まあ、リコも一応ディーバですから（笑)」

「で、ホントは翌日の25日も大会を見に行くはずだったんだけど、親戚に不幸があってさ。ちょうど大会の時間とお通夜が重なってしまったんで、泣く泣くキャンセルしましたよ。5000円のチケットがパァ～!!　ま、そんなことがあったんで追っかけも自粛しようかと思ったんですけどね、スーパースターズが六本木のハードロック・カフェにいるという情報が入ってきたら、いてもたってもいられなくなってね。結局、この日も追っかけてしまったんですよ。（左の写真に続く)」

「今回は昨年11月NYまで行ったのにクリス・ジェリコに会えなかったから、昨年のWWE横浜大会以来の再会を果たすのが最大の目的だったんだけどね。そもそも、あのとき顔に落書きされて『ユー・アー・ペイントマン』って命名されたのが因縁のはじまりなんだけど。ちなみに、この写真は1月にホーガンが来た時に、一緒に食事をして撮ったんだけど、めったに書かないと言われている『HULKSTAR』の文字を書いてくれたんだよ!　いやぁ、他の選手とはオーラが違ったね（しみじみ)」

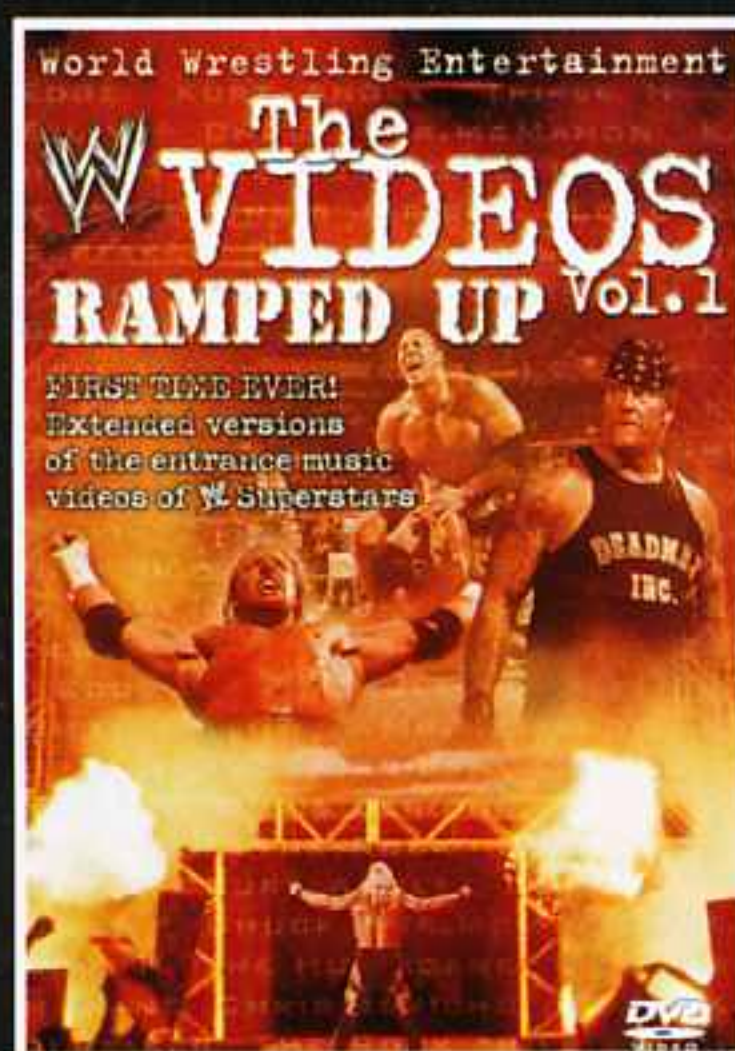
再爆発!!

## 月に一度の特番がPPV化!! 『タフイナフIII』放送開始!!

すでにカート・アングルが出演しているCMなどが流れているが、2月から「WWEスペシャル」(いわゆる特番)が一回1500円でPPV放送となった。詳しくはスカイパーフェクTV!のHP(http://www.skyperfectv.co.jp/)を参照!! Jスカイスポーツでは WWEのオーディション番組『タフイナフIII』を3月から放送開始となる。未来のスーパースター誕生を見逃すな!! こちらはJスカイスポーツのHP(http://www.jskysports.com)を参照!!

## 『エキプロ4』非売品ストラップをプレゼント

プレイステーション2用ソフト『エキサイティングプロレス4』を絶賛発売中の株式会社ユークスさんのご好意により、予約特典(非売品)の携帯ストラップを1名様にプレゼント!! 『SMACK DOWN』色のブルーが非常にかっこいい逸品だ。応募方法はP159を参照!!【提供 ユークス】

## 絶賛発売中! WWEの最新作DVDをプレゼント

毎月リリースされるWWEの日本語版DVDの2月発売のタイトルはこちら! これを流せば、たちまち部屋がアリーナになる! この最新作DVDを1名様にプレゼント! 応募方法はP159参照。なお、2月発売予定だったDVD『ノー・マーシー』『アンフォーギヴェン』は諸事情により発売が延期(VHSは絶賛発売中)。近日発売!【提供 ユークス】

選手入場時のエントランス映像にハイライトシーンが加わった超絶クリップ集だ。トリプルエ、ハリケーン、アンダーテイカー、ロック、ビンス、ジェリコ、アングル、エッジらを収録!(DVD、VHSともに¥2800・税別)

**RULE** いい歳になっても、中学生マインドを心に抱き続け、今回来日したWWEスーパースターズをおっかけずにはいられなかった男2人が誌上でバトル! 自慢の2ショット写真3枚とエピソードを披露して、どっちが「おっかけ王」にふさわしいか読者投票によって決定したいと思います。詳細はP89を参照してください。

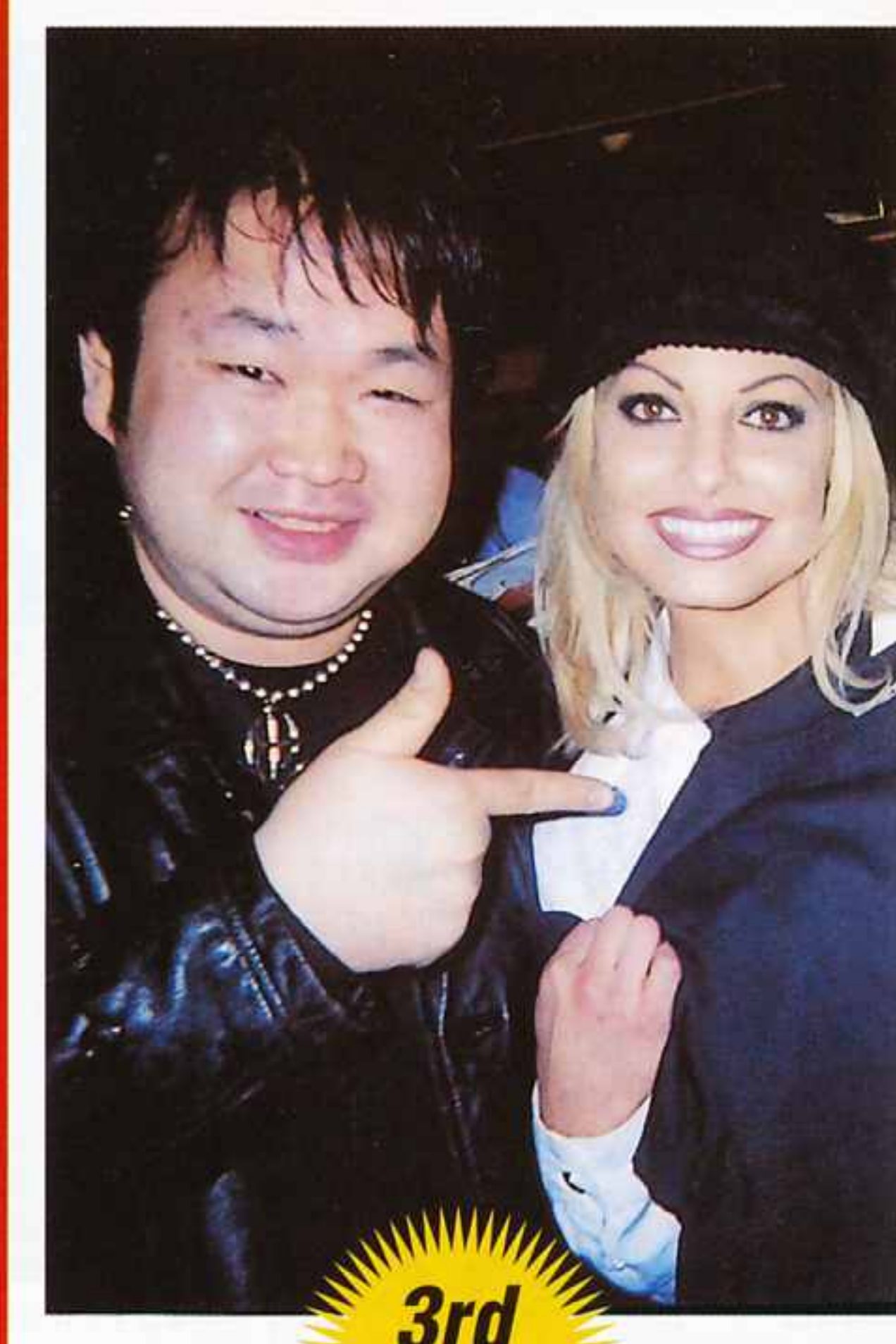
# 紙プロ認定

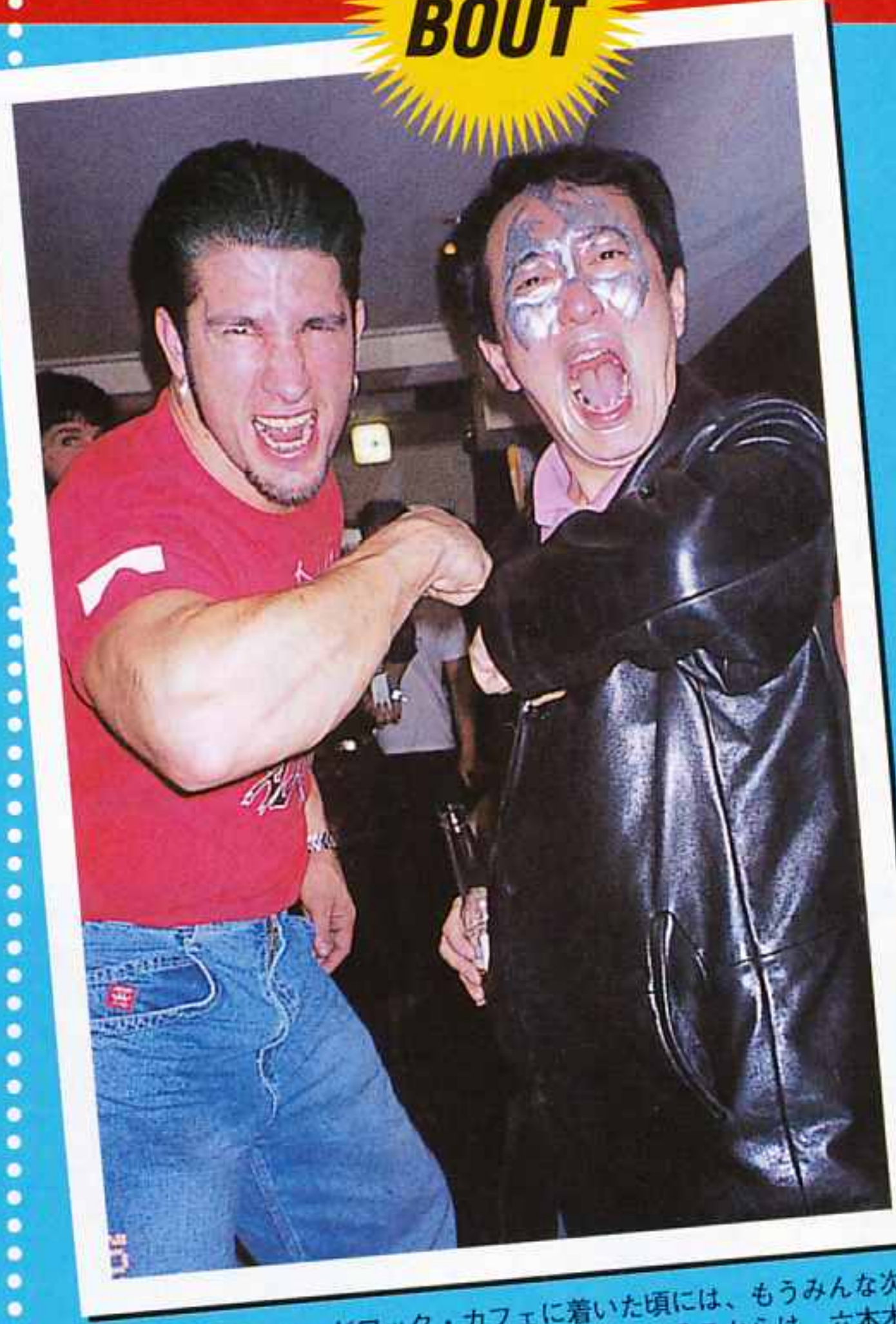
お互いのプライドをかけて、それぞれが自

## ハチミツ二郎かく語りき

「生で見たディーバは2人ともビックリするぐらいの美しさでしたよ。(あえて甲乙つけるとすると?)この写真を撮った後抱きつかれてっていうのも込みで、やっぱりステイシーですね。性格はトリッシュのほうが全然いいんですよ。ステイシーはほとんど冷たかったんですけど、追っかけなんでハードルは高い方が乗り越えたような感じがしていいですね。ただ、俺の中でのMVPは、一緒に写真は撮れなかったんですけど、ゴールダストなんですよ。スーパースターズはみんなVIPルームにいたんですけど、なぜかゴールダストだけは一人でバーの前で、立ったままガンガン飲みまくってるんですよ。いい飲み方でしたね。あの飲み方はまさにローデスJrでしたよ(笑)。ファンともフレンドリーに交流して、サインを差し出したら『Jericho SUCK』って書いてるし(笑)。ジェリコはファンに肘打ち喰らわしたり、『FUCKIN' JAP』って言ってきたりとか、一切写真もサインも応じないんで、ファンはみんな怒ってましたよ。日本人のイメージってあまり良くないのかなって思いましたね。ボクもイメージを悪くしないように心掛けてたんですけど、何も言わずにバシャバシャ撮るグループとかいましたから。ジェリコはいまヒールだから、っていうのもあるのかもしれないですけど」

「トリッシュには、英語が出来る友達に『彼は日本のコメディアンで、彼がデザインしたTシャツだよ』って紹介してもらって。それで<京都>って書いてあるTシャツを渡して『着てくれ』って言ったら、それはもうすごい感激してくれましたよ。『Tシャツに書いてある言葉の意味は?』って聞かれたんですけど、『ジャパニーズ・キョウト・シティだ』って言ってるのに、何回も『トウキョウ?』って聞かれましたけどね。トウキョウって思ったまま帰ったんじゃないですか(笑)」

3rd BOUT

## 仙波久幸かく語りき

「Paintman has come back to Roppongi!! というわけで、ジェリコとはようやく再会できたんですけど、また今回も顔面にペイントされてしまったね。前回のペイントはKISSのポール・スタンレーのペイントだったんだけど、今回は『ジーン・シモンズにしてやる』って言われてさ。こっちはKISSのことをよく知らないから『オーケー、オーケー』って言ってたんだけど。遊んでるうちにペイントが剥げてくると、またジェリコが銀マジックで塗り直すんだよ(笑)。で、朝4時にバスが迎えに来て、スーパースターズを全員乗せてホテルに帰って行ったんだけど、それを見送った後は急いで六本木のドンキホーテに行って洗顔剤を買ってきてペイント落としたよ。さすがに、その日も親戚の告別式があったからさ、ペイントマンのまま出席するわけにはいかないじゃない? 結局、その日は家に帰って着替えてから、告別式には寝ないで行きましたよ。もう葬式の最中は眠くてしょうがなかったけど(笑)。またジェリコと飲んだ時には、きっとKISSの別のメンバーのペイントをされるんだろうね。目標? そりゃKISSのペイントを全員制覇することでしょ!!」

「で、ハードロック・カフェに着いた頃には、もうみんな次の店に移動するって時だったんだよね。そこからは、六本木のクラブをあっちこっち転々としながら、クラブのVIPルームにいたジェリコのグループと合流してね。またしても顔面にペイントされてしまったわけなんだけど。ハリケーンとも写真を一緒に撮ったよ。ステイシーはずっとテストと一緒だったけど、すぐ『他の店に行きたーい』ってどっか行っちゃうんだよね。あんまり感じ良くなかったかな」

## 画面からは読めない裏ネタ、先取り情報、ウワサ満載のWWEゴシップ対談！

# ネタバレ通信 vol.1

**まず最初にお断りしなければならないのは、このページにはJスカイスポーツで放送される前のWWE情報も載っている、ということだ。「別に気にしないよ」という心の広い方だけお読み下さい！ 実際「※ネタバレ注意」と書かずに放送前のネタを書いたら、「殺す」とかいうハガキが来たこともありますし。というわけで、『レッスルマニア』大爆発の予感を分析する、取り扱い注意のネタバレ情報密売人・2P警告隊が登場!!**

## ブッカーT欠場のホントの理由とは？

**蛇丸** 早速、WWE日本大会から振り返ってみたいんですが、何といっても残念だったのはブッカーTの欠場ですよね。「個人的な理由により欠場」って発表されてましたけど、ようするにビザがおりなかったんですよね？

**老爺** そうみたいです。いわゆる、「名前に傷がついてた」というか、犯罪歴があったようで。

**蛇丸** でも、犯罪歴があっても来日してる選手なんかいくらでもいますよ。

**老爺** おそらく日本で罪を犯したんじゃないですか？ インディー団体に来てた頃のことなんでしょうけど。

**蛇丸** スピン・ルーニーは日本じゃ見られないのかなぁ……そういえば、ジェフ・ハーディーも今回は来日しませんでしたね。

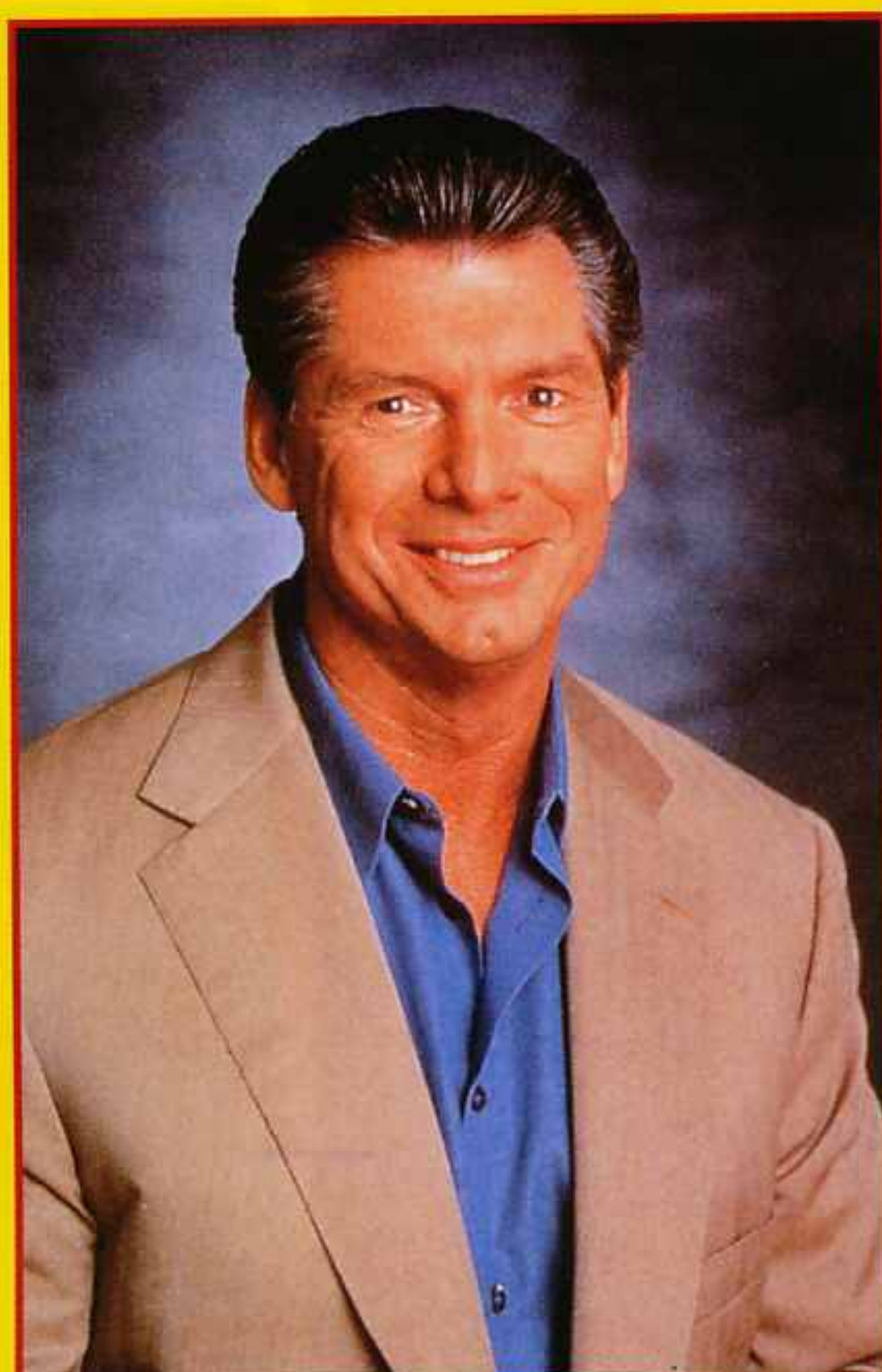
**老爺** ジェフは遅刻の常習犯なんで、いま「ハウスショー出場停止」というペナルティが課せられてるそうです。

**蛇丸** 日本大会もハウスショーの一環だから来なかったわけですね。

**老爺** 本人はもうミュージシャンになりたいみたいで、かなりプロレスやる気を失ってるという話ですよ。だいたい『RAW』は現地で夜7時開始なんですけど、7時になっても会場入りしてなかったり。そんなことばっかりしてるからハウスショーの試合でビッグ・ショーにシュートを仕掛けられたりしてるらしいです（笑）。

## 『レッスルマニア』の対戦カードは？

**老爺** いま、いろんなところで「WWEが停滞してる」って言われてるじゃないですか？ 実際に現地のハウスショーも8000人収容のアリーナで4000人ぐらいしか埋まってなかったりするケースもあったんですけど、昨年末にビンス（・マクマホン）とか副社長のJR（ジム・ロス）がいろんな媒体のインタビューで自信満々のコメントを連発してたんですよ。特にビンスは「『レッスルマニア』までに業績は回復する」「『レッスルマニア』以降も、間違いなく今までにない盛り上がりとなるだろう」って半年前から断言してましたから。

**蛇丸** ビンスがTV画面の中から姿を消していたのは、水面下の交渉でいろいろ動いてたからなんですね。

恩讐を超えてビンス vs ホーガンという、プロレスラー界における「究極 vs 至高」の対決が実現する!? 『レッスルマニア』後のオースチンとの絡みもいまから楽しみだ!! 大物を次々カムバックさせたビンスの手腕はさすが。

**老爺** そうだと思いますよ。アメリカのサイトでゴールドバーグやスティングの最近のインタビューが読めるんですけど、だいたいみんなビンスと直接会ってるんですよ（笑）。

**蛇丸** あっ、ビンスは直接交渉しに行ってるんですか？ 実際『ロイヤルランブル』後から、大物が続々と戻ってきてますよね。『RAW』にはストーンコールド、『SMACK DOWN』にはホーガンとロックが組み込まれてますけど。

**老爺** いまやロックが完全にヒールですから。ヒールになった最大の理由は昨年8月の特番『サマースラム』でレズナーに完敗したからなんですけど。両者はあそこが転機でしたね。レズナーも評価が上がってるし。

**蛇丸** せっかく復帰したのはいいんですけど、ロックはすでに5月から別の映画の撮影に入る予定なんですよね？

**老爺** そうなんですよ（笑）。一説によると「ザ・ロック」という名前をロック自身がWWEから買い取ろうとしてる動きもあるみたいですね。

**蛇丸** ほう！ でも、名前を買い取ると何がどう変わるんですか？

**老爺** ロックには映画の出演とかもWWE主導じゃなくて自分でコントロールしていろいろ展開していきたいという希望があるみたいなんですね。ということは、あんまりプロレスに戻るつもりはないのかな、と（笑）。

**蛇丸** でも、一時期のホーガンも「このまま俳優に専念するのかな？」って勢いで映画に出てたけど、結局プロレスに戻ってきましたからね。

**老爺** 映画『マイホーム・コマンドー』とかに出てた頃でしょ？ 結局、映画に主演するのって、若くてのってる時しか出来ないですからね。

**蛇丸** 特にプロレスラーが主演するようなアクション映画の場合は若くて動けないとダメだろうし。

**老爺** よっぽど俳優として成功しない限りは、プロレスラーの方が息は長いですからね。ロックもまだ30歳ぐらいだし、映画には出演できるうちに出ておけばいいんじゃないですか？

**蛇丸** 一方、当初『レッスルマニア』でロックとの対戦が噂されていたゴールドバーグはどうなったんですか？

**老爺** ゴールドバーグが提示したの条件が「1ヶ月10試合（そのうち4試合はPPVとTVマッチ）」というものだったとか。対するWWE側はTVマッチもハウスショーも全試合出場してほしいっていうことでぶつかって、結局白紙になったみたいですね。おそらく、『レッスルマニア』はストーンコールドvsロックでしょう。

**蛇丸** ストーンコールドの復帰は嬉しいなぁ。ようやく主人公が帰ってきたって感じですよ。

**老爺** 昨年6月に無断欠場で解雇されて、酒を飲んでドメスティック・バイオレンスに走って、結局逮捕されちゃったんですよね。で、裁判になったんですけど判決が凄いんですよ「リングの上でのみ飲酒を許可する」って（笑）。早速ストーンコールドは今月復帰して、いきなり『RAW』マガジンの表紙にもなってますよ。

**蛇丸** ホント、この復帰はWWEファンが一番望んでましたからね。

**老爺** その他に現時点で『レッスルマニア』で噂されているカードがアングルvsレズナーとビンスvsホーガン！

**蛇丸** これは見たい！

**老爺** あとはジェリコvsショーン・マイケルズ。それと、僕が大注目してるのはシェイン・マクマホンvsエリック・ビショフの「『RAW』争奪マッチ」ですね！ どうやら『RAW』のGMの座を賭けて闘うみたいです。

**蛇丸** へぇ～。シェインは並みのレスラー以上に体を張って素晴らしい試合をしてきましたけど、ビショフはプロレスできるんですか？

**老爺** 空手をやってたんで、回し蹴りぐらいは使えるみたいなんですけど。

2P警告隊（にぺーじけいこくたい）とは？■WWE『RAW』の用心棒タッグ・3分警告隊（ロージー＆ジャマール）にあやかり命名。あらゆる手段でWWE情報を漁る「老爺」（ろうじい）と、プロレス業界の末端に潜伏する「蛇丸」（じゃまーる）のコンビで、『東スポ』名物企画「スポーツ情報局」の記者とデスクのやりとりような合体殺法を繰り出すらしい。

再爆発!!

おそらくビショフの良さをシェインが引き出すんじゃないですか？　シェインは、多分ホウキ相手にもレスリングが出来るぐらいの実力はありますから（笑）。もう、フレアーの領域に入ってるんじゃないかなと思うんですよ。

**蛇丸**　そういえば、ストーンコールドのDVDを見てたら、その中でフレアーがいいこと言ってましたよ。「相手を格好よく見せられる奴が格好いいんだ」って。

**老爺**　あれはいい言葉ですよねぇ。実際、いまのWWEって受けが出来る人が多いんですよ。

**蛇丸**　『レッスルマニア』のカードにも反映されてますよね。カート、マイケルズ、ストーンコールド、シェインって受けの達人たちが、ちゃんと相手を光らせるようなカードになってますから。ただ、ホーガンvsビンスだけは……。

**老爺**　これだけは両方ともエゴのかたまりじゃないですか（笑）。

**蛇丸**　でも、このカードが一番楽しみだなぁ。

## ZERO-ONEの外人が大活躍中!!

**蛇丸**　ここ最近、ZERO-ONEに来てたネイサン・ジョーンズが凄い勢いで売り出しかかってますよ。

**老爺**　『SMACK DOWN』でもガンガンCMが流れてますよね。オーストラリアの刑務所に10年間入ってたという設定で、どうやらベビー・フェイスで登場するらしいです。

# ネイサン・ジョーンズが激白!!「俺の胸からミルクは出ない!!」

**蛇丸**　10年間刑務所にいたって、ZERO-ONEは「なかったこと」になってるんですか（笑）。

**老爺**　WWE公式サイトにインタビューが載ってたんですけど、それはキャラに徹したインタビューでしたね。刑務所時代のエピソードを語ってて、「タスマニアにいたときは10人ぐらいの看守に捕まって催涙ガスを食らったが、ヤツらはガリガリだから大したことはなかった」「牢獄のドアをブチ壊して、隣のヤツのメシを奪ったこともある」と豪語してましたね。

**蛇丸**　そんなパワーがあるなら10年も刑務所に入ってないで、さっさと脱獄すればよかったのに（笑）。

**老爺**　あと、アメリカのファンの間では「ネイサン・ジョーンズの乳首からミルクが出る」っていう噂が流れてたみたいで、それに対する返答もしてましたよ。

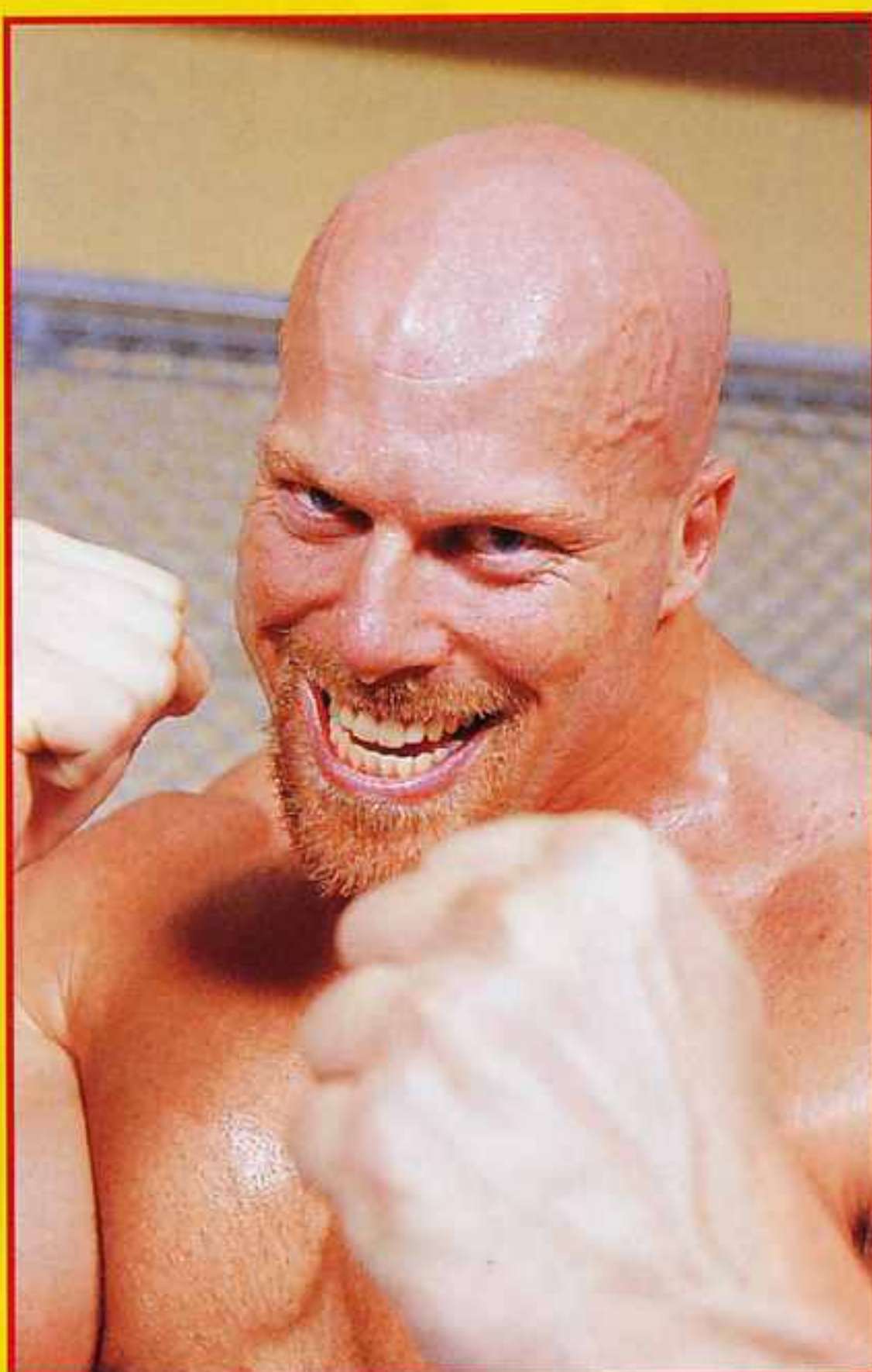
**蛇丸**　何ですか、その噂!?

**阿部**　子供の頃、胸にしこりがあって、それが「胸からミルクが出る」って噂にネジ曲がったみたいなんですが、「そんなものはとっくに除去したし、変な噂を流すんじゃねぇ」ってマジメに語ってました（笑）。

**蛇丸**　銀行強盗を8回やって、牢屋の壁はブチ破ったけど、ミルクは出ないと（笑）。凄いインタビューだなぁ。

**老爺**　実際にオーストラリアでは禁固刑を食らってたらしいんですけど、WWEはそれをしきりにプロモーションしてるんですよ。ただ、捕まえたオーストラリア側は激怒してるんです。「犯罪を助長するな」って。いま流れてるネイサンのCMがCNNとかCBSとかのニュース映像をコラージュして、実際にネイサンが捕まったようなプロモ映像を流してるんですけど、それが凄くかっこいいんですよ。

**蛇丸**　デビューはまだなんですか？

**老爺**　いや、もうデビューしてますね。

『ロイヤルランブル』前後から、WWE番組中に格好いいプロモ映像（監獄内での独白）がバンバン流れ、大プッシュを受けているネイサン。決して器用な選手ではないが、身体もでかいし、キャラもキャラだけに大ブレークするか!?

いきなりマット・ハーディーとハウスショーでシングルマッチを闘ったんですけど、その試合で負傷欠場に追い込んだらしいです。破壊王イズムを継承してますよね（笑）。アンダーテイカーとも組んだりして、まだ負けなしで勝ち続けてますね。あと、スパンキーもブライアン・ケンドリックという名前で『SMACK DOWN』デビューしましたね。

**蛇丸**　なんだか、ZERO-ONE外人部隊がどんどんWWEに羽ばたいていっちゃいますねぇ。

**老爺**　ZERO-ONEを応援してる僕としては悲しいですけど、選手自身のことを考えれば世界的な大舞台で活躍するのはいいことですから。

**蛇丸**　そうだ、この写真を見てくださいよ（と左下の写真を見せる）。

**老爺**　うわっ、どうしたんですか？

**蛇丸**　1月25日の夜に六本木で偶然にも遭遇して撮った写真らしいですよ。RVDとトム・ハワードって昔からの知り合いらしいですね。

**老爺**　あ、ロウ・キーもいる！

**蛇丸**　そうなんですよ。じつはこれはロウ・キーのおっかけの坂井澄江さんが撮った写真なんですけど。

**老爺**　P86～87の「おっかけ王決定戦」の仙波さんの表情も凄いですけどね（笑）。この写真もいいなぁ。

**蛇丸**　凄いですよねぇ？　ホントは読者投票で「おっかけ王」を決めようかと思ったんですけど、なんか実際にアメリカまで追っかけるって言ってるし（笑）、この写真もインパクト強いんで「おっかけ王」の称号は坂井澄江さんに差し上げたいと思います！

【2月某日、都内某所にて収録】

おっかけ王

坂井澄江に決定!

アメリカ遠征が決まっている坂井澄江選手（フリー）提供の衝撃写真!! う〜ん、RVDとロウ・キーの試合なんて見てみたいなぁ。とはいえ、ロウ・キーがZERO-ONEからいなくなったら嫌だしなぁ。

ターザン山本、月曜『生ゴン』緊急降板記念(!?)

# 恐ろしいほどプロレスがわかる対談

〈闘龍門校長〉ウルティモ・ドラゴン × 〈一揆塾塾長〉ターザン山本

## プロレス解剖学講座

いま最もプロレスの話ができる男と言えば、闘龍門校長ウルティモ・ドラゴンに他ならない。日本、アメリカ、メキシコでトップを取り、闘龍門を人気団体に育てあげた手腕は、その蓄積されたプロレス哲学の賜物なのだ。そんなウルティモ校長とターザンがプロレスを大解剖！　これを読めば、『W－1』、ディファ杯、そしてWJまですべてがわかる！

構成＆撮影／堀江ガンツ
試合撮影／平工幸雄
designed by さおとめの事務所

**ターザン**　浅井さーん！　復帰してから、そっちの活躍は凄いねぇ！『WRESTLE―1』（以下『W―1』）にも出て、ディファカップ（5団体参加Jrタッグトーナメント）では優勝までするんだから、ムチャですよォォ！

**ドラゴン**　いやぁ、確かに先日の『W―1』とディファカップは選手としては非常に良かったと思うんですよ。というのはもちろん自分の待遇が良かったし、バックステージの雰囲気も素晴らしかったんです。でもレスラーが満足してる興行っていうのはお客さんから見てダメな場合が多いんですよね。

**ターザン**　ああ、そう！　それはレスラーの自己満足と観客の満足は違うってこと？　普通、レスラーは自分からそんなこと言いませんよォォ！

**ドラゴン**　でも、そうじゃないですか？　レスラー間では「あれだけ長く闘って、いい試合だった」って言っても、お客さんからしたらたいした試合じゃなかったり、逆にレスラー側が「ダメだった」って感じた試合の方が、お客さんの印象に残ってることって多くないですか？

**ターザン**　あるねぇ。そのズレっていうのはどこから来るの？

**ドラゴン**　それは単純に見る側とやる側の違いじゃないですか。だからボクもファンの時は、見る側にとってのいい興行、ダメな興行っていうのが当然わかったんですけど、いまは自分がレスラーなんで難しいですね。

**ターザン**　じゃあ、浅井さんですら、いまのファンのニーズは読みにくいというか、多様性にして複雑だということなの？

**ドラゴン**　だからホントに興行っていうのは最初にやりだした頃より、いまの方が難しく感じてますね。特にウチは若いファンが多いじゃないですか。そうなると、レスラー側も若い選手が必要だし、若い頭が必要になってくるんですよ。

**ターザン**　そこですよォ！　プロレス界は頭の中が、いまやファンから周回遅れをとってますよォ！

**ドラゴン**　だから今度、WJの旗揚げ戦で天龍さんと長州さんがメインでやりますよね？　この二人の試合って、ボクが日本で試合をガンガンやってた頃のメインなんで自分としては凄く思い入れがあるカードなんですけど、いまのお客さんがどう思うか考えると疑問ですよね。もちろん、WJとしては最高級のカードだと思いますけど、お二人が5年、10年前の試合が出来るかって言ったら、お互い体力も落ちてるし、絶対できないと思うんですよ。だから何であのカードなのかなって。もうちょっと無難にタッグで若いのとやってもいいんじゃないのかなって。

**ターザン**　天龍さんと長州さんっていうのは、いまのファンより、僕らにとって凄く気になる存在なんだよね。

**ドラゴン**　もちろんボクにとっても影響力は凄いですよ。でも、自分だったら、大森（隆男）っていうタマがあるなら、隠しておいて、いきなり乱入させちゃいますよね（笑）。

**ターザン**　パチパチパチ！（拍手）。

**ドラゴン**　その方がサプライズがあるじゃないですか。ただ単に出るって言ってもそんなにインパクトがないと思うし、彼はこれからビッグネームになるんだから、もう少し上手い使い方ってあったと思うんですよ。「X」にしておいてテーマ曲で初めてわかったりね。ボクはサプライズを大事にしたいんですよね。

## レスラーが満足してる興行ってお客さんから見てダメな場合が多いんですよ

**ターザン**　いやぁ、もうね、プロレス界を再生するには、浅井さんがメジャー団体のマッチメーカーになるしかないと思うんだよね（笑）。ボクが指名しますよォォォ！

**ドラゴン**　でも、なったらなったでボクはヘビー級の選手は動かしたことはないんで、どういう絵が描けるかなっていうのはありますけどね（笑）。

**ターザン**　興行にJrヘビーもヘビーも関係ありませんよォ！

**ドラゴン**　それに、もの凄い奇抜なことをやると思うんで、凄い反発されるでしょうね。でも、1年ぐらいあれば結果が出ると思うんですよ。ホントは3年ぐらい時間をいただけるのがいいんですけどね。

**ターザン**　浅井さんでも3年もかかるの？

**ドラゴン**　かかりますよ。闘龍門もメキシコで旗揚げしてから3年かかったじゃないですか。ボクは選手を育てようっていう考えなんで、既存の選手を使ってどうのこうのっていうのはあまりないんですよ。

**ターザン**　育てるっていうことは、教育しながら擦り込むってこと？

**ドラゴン**　もちろんそうですよ。いまの若手でそこそこいい選手も最初から教えて。時間がかかるようでいて、実はそれが一番の近道なんですよね。

**ターザン**　それがかつての新日本プロレスですよォ！　次から次へと新しいスターが生まれるというね。

**ドラゴン**　だから、この間ディファカップに出て、初めて見る若い選手がたくさんいたんですけど、やっぱりいいところもありましたけど、指摘したいところもたくさんあったんですよ。ボクは他団体の立場だから言いませんでしたけど、いろんなレスラーを見て思ったのは、みんなプロレスの一番基本的なことを理解してないんですよね。

**ターザン**　それは大事なことだねぇ！　そのプロレスの一番ベーシックなことって何なんですか？　それはもう言わなきゃいけませんよォ！

**ドラゴン**　まずボクが感じたのは、試合の組み立てですよね。昔から名レスラーの得意技って、なかなか決まらないんだけど、最後に決まれば必ず1、2、3だったじゃないですか。そのあたりの考え方を最近の若いレスラーはわかってないから、試合の組み方も良くないんですよ。

**ターザン**　いや、浅井さん！　今の若い選手は試合の組み方にもなってないよ！　組み立てっていったらやっぱり最初があって、中があって終わりというものがあるんですよ。

**ドラゴン**　だから昔のプロレスってオーソドックスな技から始まって、お客さんはシーンとしてるけど、ちゃんと観てるんですよね。でも、いまの若いレスラーっていうのは、客席が静かだと〝沸いてない〟って感じてしまうんですよ。お客さんがつまらないと思って黙ってるのと、真剣に観て黙ってるのとはまた別なんですけどね。

**ターザン**　だからいまのレスラーで「レスラーらしいな」と思うのは武藤選手。彼は最初の10分間はジワジワと腕を取ったり脚を取ったり、離れたり、引っ付いたりしながら、リングの中で上手いこと時間稼ぎをやってるわけですよ。それで10分ほど経ってはじめて動き出すから映えるんだよね。

**ドラゴン**　そのいい例が何回目かの橋本vs小川戦ですよ。

**ターザン**　え！　橋本vs小川!?

## ディファ杯では、「プロレスの基本がわかってないな」と思いましたね

**ドラゴン**　あの時、二人とも倒そうとしながらずっと倒れなかったじゃないですか。だから初めてＳＴＯが決まって、バーンと倒れると「ワー！」っとなる。でも最初からドタドタ倒れてたら、いざ倒れた時のインパクトがないんですよね。

**ターザン**　確かにそうだねぇ。

**ドラゴン**　それはジュニアでも同じだと思うんですよ。だから今回、ボクはディファカップでも序盤は極力バンプをとらないで、中盤ぐらいで大きいバンプをとったら「ワー！」って沸いたんです。でも、そんなこと考えたら当たり前のことなんですよね。いまはみんな技をかけ過ぎなんですよ。

**ターザン**　その技の組み立てのなさが女子プロに似てるんだよね。

**ドラゴン**　似てますね。ただ、これを軌道修正していくにはかなり時間が掛かるでしょうね。

**ターザン**　気が遠くなりますよォ！　まず、緩急をつけられないでしょ？

**ドラゴン**　だから闘龍門の試合って日本で3〜4年やってますよね。すべての試合がいい試合なんですけど、「特に一つだけあげてみろ」って言われても、あまりにも試合の流れが早くて印象に残らないんですよ。

**ターザン**　それは90年代の（全日本）四天王プロレスと一緒ですよォ！　全部名勝負に見えるんだけど、「どれか一つあげてみろ」って言われたら、これが出てこないんですよ。

**ドラゴン**　だったら猪木vsドリー・ファンクJrの60分フルタイムのほうが印象に残ってるじゃないですか。何でそれを継承する人が出てこなかったんですかね？

**ターザン**　静止している時に目の動きとか指先とか体の線とか後ろ姿で、闘いの雰囲気や意志を伝える事が出来ないから、動くしかないんだよね。だって考えてくださいよ、浅井さん！　馬場さんと猪木さんと比べたら明らかに馬場さんのほうが技が少なくて、おっとりしてるわけですよ。でも、よーく見たらどっちのほうが格上に見えるかって言ったら、動かない馬場さんのほうなんだよね。違う？

**ドラゴン**　それは（ハルク・）ホーガンにも言えることなんですよ。ホーガンって何もやらないですよね？

**ターザン**　やらないねぇ！（笑）。

**ドラゴン**　だからよくウチのレスラーに言ってるのは、「いいレスラーほど技が少ないよ」って、「猪木さん、馬場さんを見てみろよ」って。ウチのレスラーはいつも違う動きをしなきゃいけないっていう頭があるんで「アホかお前！」って言うんです。例えば落語にしても、（三遊亭）楽太郎師匠って『笑点』でいつも紫の着物着てるじゃないですか。それで地方に違う着物で出るとお客さんが怒るらしいんですよ。「いつも紫なのに今日は違うじゃねぇか！」って。みんなテレビで見たものを実際見てみたいんですよね。だからボクが地方興行なんかで選手にアドバイスしてるのは、ウチは地上波のテレビがないですから、『週刊プロレス』、『週刊ゴング』に出た内容をそのままやればいいよって。

**ターザン**　ハハハハハ、テレビや雑誌で観たものが来てくれたと思うわけですね！

**ドラゴン**　でも、すべて同じだとマズイから、例えばマグナム（ＴＯＫＹＯ）、堀口（元気）、横須賀（享）のトリオを横須賀と斉藤了を入れ替えたりとか、そうやればいくらでも組み替えができるじゃないですか。それでいいんですよね。でも、選手は一生懸命だから、ボクが「同じことでいいよ」って言う意味がわかってないんですよ。そこでお客さんが見たいものとレスラーが見せたいもののズレが生じるんですよね。

**ターザン**　難しいところだねぇ！

**ドラゴン**　その点でサスケと俺っていうのは意見が正反対なんですよ。「例えお客さんが一人でも飛びまくって全力ファイトをしろ」っていうのがサスケなんです。でも、俺は「お客さんがいないなら、いないような試合をしろ」って言うんですよ（笑）。

**ターザン**　それは面白いねぇ！（笑）。

**ドラゴン**　「どうせ死ぬんだったら5万人の前で死ね！」って言うんですよ。もし死ぬとしたら東京ドームみたいな会場だったら価値はあるけど、10人や20人しかいない所でそんなことをやったって誰も認めてくれないよって（笑）。

**ターザン**　でも、日本人の美意識からすると、例えお客が一人であろうと二人であろうと、一生懸命全力でファイトするっていう価値観があるでしょ？

**ドラゴン**　だから要は「手を抜け」って言うんじゃなくて、お客さんの空気を見抜けということなんですよ。

**ターザン**　ということは状況と場に応じた対応力が必要ってことだよね？

**ドラゴン**　だからこの間のディファの試合でもそうですけど、サル（葛西純）とカニ（愚乱・浪花）がボクらとやりましたけど、サル・カニとやる時はそれに合わせてやらなければならないんですよ。自分のスタイルを通したら相手のいいところが出ませんから。それで、次にやったノアさんの若手とはそれはそれでいいところを出してあげなきゃいけないし、メインはメインで高岩（竜一）選手だからガッチリやらなきゃいけないですよね。それぞれすべて試合のスタイルを変えなきゃいけないんですよ。

**ターザン**　そこまで考えてやれば優勝する資格がありますよォォォ！

**ドラゴン**　あのメンバーですからね（笑）。でも（パートナーの）ＹＯＳＳＩＮＯは他団体とやるのは初めてだったんで、凄くいい経験になったんじゃないですか？

**ターザン**　今回、ディファカップに出たっていうのは、「ＹＯＳＳＩＮＯを売り出したい」という、浅井さんの戦略、計画、策略じゃないの？（笑）。

**ドラゴン**　もちろんもちろん（笑）。あの状況でミラノ（コレクションＡＴ）とＹＯＳＳＩＮＯが行ってもどうかなっていうのがあったんですよ。だけど、自分とＹＯＳＳＩＮＯだったら文句を言う人はいないじゃないですか（笑）。

**ターザン**　パチパチパチ（拍手）。あそこに浅井さんが出て行ったってことはボクからしたら反則なんだよね。格の違いを見せつけるわけじゃないですか。格の違いが抑止力になったと言うか、有無を言わさないというか、そういうドラゴンの印籠を使うしかないって意味で出て行ったでしょ？　違う？

**ドラゴン**　そうですね（笑）。

**ターザン**　でも、浅井さんとしてはあそこで優勝しても、もう一つハジけ方が不満なわけでしょ？　優勝したことはいいんだけど、優勝したことによって加速したり転がっていくモノが欲しいんだけれど、それがいまの業界ではないということでしょ？

**ドラゴン**　だって、そういうことをやるんだったら、先がないと意味がないじゃないですか。ただ、ああいう対抗戦は本来成り立たないんですよね。だからボクは個人的には賛成じゃないんですよ。どちらかと言うと自分らの団体で底上げして、昔の馬場さん、猪木さんがやってた頃みたいに冷戦みたい

2・9ディファ有明■5団体共催のJr.タッグトーナメント『ディファカップ』。ドラゴンは当初、若手中心のこの大会に難色を示していたが、YOSSINOを引き連れて自らが参戦を決意。サル・カニ、ノア、そして決勝で高岩＆佐々木を破り、見事優勝を飾った。

なことをやってて、ホント何年かに一回、夢のオールスター戦をやるのが一番いいんですよ。いまなんかすぐ「交流しましょう」「乗り込んでやりましょう」で、二ヶ月ぐらいで抗争なんか終っちゃうじゃないですか。

**ターザン** だから馬場さん、猪木さんというのは、まったく交流しないで半永久的に喧嘩していたから、それが奇跡的に交わったときにもの凄くハジけちゃうんだよね！

**ドラゴン** それは、いまの外人の使い方にしてもそうなんですけど、昔ってアンドレ・ザ・ジャイアントの不敗神話みたいなものがあったじゃないですか。国際プロレスに行こうが、WWFに行こうが、それぞれの団体がケアして、価値を守って、それで何年もかけて商売してたじゃないですか。

**ターザン** してた、してた！

**ドラゴン** それで「この人はもうダメだな」って思った時に猪木さんが（ギブアップ）獲ったりなんかしてね。いまの外人でそういう人はいないじゃないですか。だからいまはプロレス界全体が長いスパンで考えてないですよね。

**ターザン** アンドレがフォール負けしないってことと、NWA世界チャンピオンのベルトが獲れないってことで、俺たちはどれだけジラされて、待たされて、憧れて、欲しがったか。それで何年間も俺たちファンは翻弄されたんだよォ！（笑）。

**ドラゴン** ハーリー・レイスは絶対負けないですしね（笑）。

**ターザン** そうそう！（笑）。

**ドラゴン** でも、あれはあれで面白かったじゃないですか。ハーリー・レイスが来たらTVの解説も「世界で一番強い男！」とか言ってるのに、いつもやられてるんですよね（笑）。

**ターザン** リングアウトか反則でね（笑）。

**ドラゴン** それが毎年毎年来て防衛戦して、絶対に格付けっていうのが崩れなかったじゃないですか。そういう業界内での共通の財産って昔はあったんですよね。

**ターザン** 二大権威と二大幻想がアンドレとNWAですよ！　そういう幻想を作ったこと自体が美しいんだから！

**ドラゴン** それができたのは、業界全体で「この人を盛り立てて商売していこう」みたいなものがあったからですよ。

**ターザン** ということは、浅井さんの考え方は、闘龍門という独立王国の中では俺は好きなことをやるという形になるよね。ところが他団体と絡んだ場合にはややこしい事があり過ぎる、限界があるんだと。でもディファカップの場合は偶然的にいい形に仕上がったというか、だから企画物として及第点はあげれるんじゃないの？

**ドラゴン** そうですね。大会自体も良かったですし、他団体の選手を見られたことで、個人的にはプロモーターとして刺激になりましたよね。あと、レスラーとしては高岩選手があんな上手い選手だとは思いませんでしたね。ボ

# プロレス再生には浅井さんをマッチメーカーにするしかないですよォ！

クの中ではパワー一辺倒で不器用ってイメージがあったんですけど、とんでもない。彼はテクニシャンですよ！

**ターザン** 高岩竜一がテクニシャン⁉ それは初耳ですよォ！

**ドラゴン** メチャメチャ上手いですよ。彼だったら、誰とでも試合ができるんじゃないですか？ だから大谷選手に近いものを持ってますよ。地味なイメージに映るかもしれませんけど。

**ターザン** だって頭がハゲてるから！

**ドラゴン** 意外とセンスとかもいいですよ。頭が薄くて、無精ヒゲも生やしてて俺は男から見ても格好良いなと思いますよ。

**ターザン** た、高岩が、格好良いィィ⁉ 初めて聞きましたよォ！

**ドラゴン** お世辞抜きにホントそう思いましたよ。もの凄い自信持ってやってますし、新日本で見た時の彼とは違いますよ。

**ターザン** 新日本の時はイジメられてたから！ とにかくああいうビジュアルでちっちゃいでしょ？ だから辞めさせるために「お前は才能がない」って言われ続けたんですよォ！

**ドラゴン** 長州さんにですか？

**ターザン** みんなに言われたんですよ。

それを努力、努力で周回遅れにならないようにひたすら食らいついて行ったんですよ。

**ドラゴン** なるほど。あと、面白かったのは、決勝戦で彼と当たって、俺は俺でYOSSINOを売り出そうとして必死だったんですけど、彼も佐々木クンを売り出そうとして必死だったんですよ（笑）。自分が目立とうというよりは若いのにチャンスをあげてっていう感じでしたよね。

**ターザン** リングインしただけで浅井さんはそれをキャッチしたわけ？ 0・1秒で？

**ドラゴン** 「俺が目立とう」っていうのは立ち姿でわかるじゃないですか。そういう意味でもコイツはイケるなと思いましたよ。

**ターザン** へぇ、どこで目覚めたんでしょうねぇ。あのイジけたオッサンが！（笑）。

**ドラゴン** 多分、ボクが思うのはZERO—ONEに入って、新日本っていう看板がなくなったので、お客さんを自分らの力で呼ばなくちゃいけない、良い試合しなきゃいけないって目覚めたのかなって思いましたね。

**ターザン** きっとそうだろうね。

**ドラゴン** だから試合が終わってからコイツとは勝ち負けを抜きに試合したいなって思いましたよ。そんなにやりたいヤツっていないんですけど、久しぶりに好敵手に出会えて良かったですよ。

**ターザン** 浅井さんがリングに上がって試合をすると意外な収穫があるねぇ。

**ドラゴン** そのためにやってるんですよ。レスラーって進化し続けるじゃないですか。何でもいいから一つだけ発見して一つだけ新しいことやればいいんですよ。だから毎日毎日やってて楽しいですよ。昔みたいなメインイベンターじゃないですし、プレッシャーもないから、『W—1』の時も素直にプロレスっていうものを楽しめましたよ。逆にボクが緊張したのは石森（太二）たちが出た試合。そっちのほうが気になってずっとモニター見てましたよ。だからアイツの技が最後に決まった時はガッツポーズでしたね。

**ターザン** 自分の試合は自分で責任持てるけど、人の試合は気になるよねぇ。

**ドラゴン** 子供の試合を見てて、お父さんが「ヤッター」って喜ぶのと一緒ですよ。

**ターザン** 参観日と一緒か！（笑）。

**ドラゴン** だから、そういう目でプロレスを見れるようになったっていう意味でも良かったのかなって。

**ターザン** いま、マット界へ『W—1』といういままでないものが押し寄せてきて、『週プロ』とかもの凄いバッシングしたじゃないですか。ああいう専門誌の動きなんかは浅井さんどう思いました？

**ドラゴン** 専門誌がどうというよりも、個人的に言うと、『W—1』はプロレスっていうものをもう一回世間にアピールするいい機会だと思うんですよ。

**ターザン** テレビが付いてるから！

**ドラゴン** だけどテレビってまず視聴率を考えるから、番組名が「ボブ・サップのバトルエンターテインメント」になったっていうのは当然だと思うんですよね。それでテレビ主導になるのも仕方がないことだと思うんですけど、問題はレスラーで現場を仕切る人がいないことだと思うんですよ。WWEのジョニー・エースみたいな裏方で試合も全部統括してる人がいなかったのが原因かなって。

**ターザン** でもゴールデンタイムで放送されるっていうのは、世間に対してアプローチしたり、ファンを獲得する入口としてはこれ以上のものはないですよ。

**ドラゴン** だから悪くはないんですよ。今回だって僕らにとって一番重要なのは、ゴールデンタイムに映ったという事実ですからね。だからどうレスラー側がテレビ局に上手く歩みよるかですよね。

**ターザン** その時にテレビ局側はプロレスをバラエティとして番組を作ろうとし、一方、レスラーは試合を見せようとする。これの衝突だと思いますよ。

# 『W－1』はWWEのJ・エースのような統括責任者がいないことが問題

**ドラゴン**　ただテレビ番組の作りとしてはもっと面白くできるのになって思いましたね。

**ターザン**　あれより面白くできる？

**ドラゴン**　あれだったら結局、ボブ・サップとお笑いタレントのコントのついでにプロレスをやってたっていう感じじゃないですか。逆にプロレスのついでにああいうコミックみたいなことをやるのはいいと思うんですよ。あまりにもお笑いの比重が大きくて、逆じゃないかなと思いましたね。

**ターザン**　もう浅井さんを『W―1』のスーパーバイザーとして招かなければならないですよ！

**ドラゴン**　ただ、これはカズ（・ハヤシ）も言ってたんですけど、選手はみんな「一生懸命やる」っていう気持ちが凄くあったんですけど、あまりにも準備期間が短すぎたんですよ。だから逆にボクらは彼らを責められないですよね。もうちょっと時間をかけてちゃんと教えたら、全然違ったと思いますから。だって素材としては凄いじゃないですか。

**ターザン**　メチャクチャ凄いですよ！

**ドラゴン**　でも、練習しないとプロレスはできないんです。ヒース・ヒーリングって前方回転すらできないんですよ。それでプロレスなんてできるわけがないじゃないですか（笑）。

**ターザン**　もう、浅井さんが直に教えたらどうですか？

**ドラゴン**　あの時も少し教えたんですよ。最初の頃、カズが教えてたらしいんですけど、自分も教える性みたいなものがあるから、見てて「いや、これはこう！」って通訳の人に言ってもらったら、彼らはすぐにスパーンとできたんですよ。やっぱりタイミングとかコツを言えばすぐにできるんですよね。

**ターザン**　それだけの素質はあるよね。

**ドラゴン**　半年で出来ますよ。教える人たちも相手が一流の格闘家なんで「ガーッ」と言えないと思うんですよね。でも、彼らは格闘技では一流ですけど、プロレスラーとしては新人ですから、ボクは言うことは言いますよ。

**ターザン**　彼らはそれがビジネスだと思ったら聞きますよォ！

**ドラゴン**　さたやんとかでも、ちゃんと教えれば、できるはずなんですよね。

**ターザン**　あれはプロレスを何もやってませんよォ！　一番ダメなパフォーマンスですよ。あれでもできますか？

**ドラゴン**　もちろんやれば出来ますよ。プロレスラーとして、ずっと練習してキャリア積んでもショッパイ人っていますけど、あの人は明らかにやってなくて出来ない人なんですよ。だから教える側から見て非常にもったいないですよね。ヘンな話、彼らにプロレスを教えるっていうのは、料理で言えばあと最後の仕上げの隠し味を入れるぐらいじゃないですか。ウチの選手なんていうのは最初から何もクッキングしてない状態で、それを調理して美味しくするわけでしょ？　それを考えれば、あとはもうコショウを振り掛ける程度じゃないですか。ただ、そのちょっとしたアドバイスを強く言わないといけないですけどね。

**ターザン**　「ガーッ」と言うわけ？

**ドラゴン**　権限が無い人間が言っても「何だ、コイツ？」ってなりますから、『W―1』だったらそういう権限をいただいたら、もっともっと面白いものができますよ。

**ターザン**　マッチメークも試合も面白くなる？

**ドラゴン**　なりますよ。だってボクとったら面白いと思いません？

**ターザン**　ラ、ランデルマン!?　あれはゴツイですよ？

**ドラゴン**　でもタッパがないですよ。ランデルマンとなら組んでもいいでしょうね。普通の『ＰＲＩＤＥ』でボクがコールマンやランデルマンとやったら殺されちゃいますけど、プロレスの試合だったら切り返しとかも出来ますし、絶対面白いですよ。

**ターザン**　じゃあ、浅井さんは『W―1』を一試合目から見ていて、こんなこともできるあんなこともできるって全部イメージが膨らんでたわけ？

**ドラゴン**　ランデルマンなんかにしても、「この人はこういう技を使ったらいい」とか考えてましたよ（笑）。

**ターザン**　それはランデルマンが喜びますよォ！

**ドラゴン**　コールマンにしてもあの人に合った技があるはずなんですよね。ウラカン・ラナで取ってましたけど、彼がウラカン・ラナをやったらダメなんですよ。彼はカート・アングルみたいな試合をしたほうがいいんですよね。

**ターザン**　なるほどねぇ。

**ドラゴン**　あの人たちはプロレスだからプロレスの技で取らなきゃいけないと思ってるじゃないですか。でも、フィニッシュは格闘技でいいと思うんですよ。その間にプロレスをやればいいんですよね。そのへんの意識が違いますけど、もっともっと面白くできますよ。だって、あんなジャンプ力がある人見たことないじゃないですか。あの人は凄いことができますよ。

**ターザン**　ということは浅井さんの中では、将来ダイヤモンドになりそうな人がゴロゴロいたってことだね！

# 今のプロレスは若いスターを作らないからダメなんですよ（ドラゴン）

**ドラゴン**　ウチなんてみんなダメで、お金を払って「プロレスを教えてください！」って入って来ている子たちですよ。それを考えれば、全員が全員成功するかっていうのは、プロの世界だからわかりませんけど、いい素材はたくさんいますよね。

**ターザン**　じゃあ、いまんところは宝の持ち腐れなんだ！

**ドラゴン**　何でももっと商品を高くして売らないのかなって思いますね。だから、しっかり教えて、才能がある選手はどんどん売り出すべきだと思うんですよ。プロレスは試合運びとかはキャリアを積まなければならないのは確かですけど、いろんな業界を見渡してキャリアを10年ぐらい積まないとトップを取れないのはプロレスぐらいですよ。

**ターザン**　悪い形の伝統芸能ですよォ！

**ドラゴン**　それじゃダメだと思うんですよね。芸能界でもそうですけど、「この人だ」っていうのは最初からいるじゃないですか。そういう人はデビューした時から売り出せばいいんですよ。それなのに、いまの日本のプロレス界は、怪我をして旬を過ぎたぐらいにトップを取るからダメなんですよ。昔だったら、猪木さんは二十歳ぐらいでスターだったし、タイガーマスクだって藤波さんだってスターになったのは22、3じゃないですか。いま日本でそのぐらいの年でスターの人間っています？　誰もいないでしょ？　だからダメなんですよ。

**ターザン**　男は高齢化で女は熟女ですよ！　熟女レスラーの天下ですよ。熟女ビデオを見てるみたいですよォ！

**ドラゴン**　もっと若い時に最高の舞台を用意してやれば、もっといい仕事ができると思うんですよ。じゃあウチのCIMAとかあのへんなんて自分の昔の試合を越えてますよ。それはまだ若いからできるんですよ。あれが30を越えたらできなくなりますよ。だから自分なんかも若いときに最高の舞台を用意してやるのがプロモーターとして賢いかなって思うんですよ。WWEの選手なんかみんな若いじゃないですか。若い方がルックスもよくて動けるんだから、人気もでますよね。

**ターザン**　今日わかった！　闘龍門っていうのは団体じゃなくて考え方がプロモーションなんですよォ！

**ドラゴン**　でも、商売って考えたらそういうふうにしないですか？　年功序列で若い選手は金は稼げない、上にはいけないじゃ腐るでしょ。夢がないですよね。だから、ウチになぜ若い練習生がたくさん入って来てるっていうと、若い選手が活躍してるからですよ。「どうしてウチに応募したの？」って聞いたら「若い選手が多いから、ここだったらすぐに上げてもらえると思ったんで」とか言うのがいるんですよ（笑）。

**ターザン**　パチパチパチ！　でも校長ほど厳しい人はいませんよ！

**ドラゴン**　だから、その代わり入って実力のある子は上げるけど、ダメな子はダメなんですよ。

**ターザン**　実力主義なんだよね。いやぁ、浅井さん、次の後楽園は行くよ！

**ドラゴン**　自分的には後楽園より次のディファ有明（3・9）でいろいろ面白いことを考えてるんですよ。その後、代々木第二（4・22）のビッグマッチはエル・ヌメロ・ウノの決勝戦で、ある程度読めてるんであそこは超満員になると思いますよ。

**ターザン**　もう、いろいろ考えてるんだ！

**ドラゴン**　それで王者が誕生したら、また新しい流れも考えてるんで、ゼヒ見に来てください（ニッコリ）。

**ターザン**　やっぱり浅井さんは凄いよぉ！

**【03年2月13日／都内・某ホテルにて収録】**

一昨年11月、ミラノコレクションＡＴをエースに闘龍門の６期生以降、若い選手だけで旗揚げした実験的団体Ｔ２Ｐは、１・27後楽園で一応のピリオドを迎えた。しかし、今年は間髪入れずに、Ｔ２Ｐよりさらに若い選手を集めた「闘龍門Ｘ」の逆上陸が控えている。ウルティモ・ドラゴンの目は常に未来を見ているのだ。

## 闘龍門JAPAN　3月スケジュール

| 日付 | 会場 |
|---|---|
| 8日（土） | 群馬・群馬県総合スポーツセンター サブアリーナ 開始／17：30 |
| 9日（日） | 東京・ディファ有明 開始／18：30 |
| 15日（土） | 長野・長野運動公園総合体育館 開始／18：30 |
| 16日（日） | 愛知・東海市民体育館 開始／18：00 |
| 17日（月） | 神戸・チキンジョージ 開始／19：00 |
| 21日（祝・金） | 北海道・札幌テイセンホール 開始／18：00 |
| 22日（土） | 北海道・札幌テイセンホール 開始／18：00 |
| 24日（月） | 青森・弘前市河西体育センター 開始／18：30 |
| 25日（火） | 青森・青森産業会館 開始／18：30 |
| 26日（水） | 青森・むつ市民体育館 開始／18：30 |
| 27日（木） | 秋田・大館市民体育館 開始／18：30 |
| 28日（金） | 岩手・北上市和賀多目的催事場 開始／18：30 |
| 29日（土） | 岩手・一関文化センター体育館 開始／18：30 |
| 30日（日） | 宮城・Zepp Sendai 開始／18：00 |

## 闘龍門ナンバー1決定戦「EL NUMERO UNO2003」プレビューイベント開催決定！

**「どうなる!?　闘龍門　EL NUMERO UNO 2003」**

日時：3月10日（日）　18：00開場／19：00開演
会場：青山ベルコモンズ９Ｆ「クレイドル・ホール」
　※地下鉄銀座線「外苑前」下車徒歩２分
料金：2,500円　※全席自由
【出演予定選手】
マグナムTOKYO（前年度優勝者）／望月成晃（第１回優勝者）
ＣＩＭＡ／ＳＵＷＡ／ミラノコレクションＡＴ
【問い合わせ】
チケットぴあ　0570-02-9977

## 闘龍門13期生募集！

闘龍門の「13期生募集」問い合わせ多いため期日を延長している。プロレスラーを目指す人はまだ間に合う、いますぐ連絡を！
応募資格■やる気がある男子なら年齢、身長問わず。
応募要項■履歴書に、全身および上半身裸の写真を１枚ずつ同封の上、下記までお送り下さい。面接日は追って連絡いたします。
送り先＆問い合わせ■
〒650-0022　神戸市中央区元町通3-17-8TOWA神戸元町ビル901
闘龍門ジャパン「13期生募集」係まで
電話　078-333-9797

PROFILE

**ウルティモ・ドラゴン**■本名・浅井嘉浩。S41年12月12日、名古屋市出身。新日本道場に入門後、単身メキシコに渡り、日本では90年にユニバーサルでデビュー。その後、Ｕ・ドラゴンに変身。現在は闘龍門の総帥。

アダルトビデオメーカー
ソフト・オン・デマンドが女子格闘技界に本格参入！

# 僕は女子格闘技界の石井館長になりたい！

（※石井館長、逮捕前の1／12取材）

# 高橋がなり【前編】

人気TV番組『¥マネーの虎』でお馴染みのAVメーカー「ソフト・オン・デマンド」社長の高橋がなりが『紙プロ』2度目の登場！（過去『エロ・サムライ』に登場済み）。今年から女子格闘技道場を立ち上げマット界に参入したがなり社長に、その野望から、自身が熱望している神取忍戦への意気込みを語った！

聞き手／大坪ケムタ&ささきぃ　撮影／松澤チョロ　designed by matsu（Two three）

――昨年フォーミュラ・ニッポン（カーレース）に挑戦したら全部ビリだったり、代官山にオープンしたアパレルもダメだったりと、投資には縁がないソフトオンデマンド（以下SOD）さんなんですが（笑）、今回、女子の格闘技道場の経営と大きく出られましたね。

**がなり**　これがもし成功すれば、フォーミュラニッポンも代官山の店も全てこのためだったんだって言えるんで。まあ、これが失敗したらなんか違うことやります（笑）。

――全女や高橋洋子選手・藪下めぐみ選手のスポンサーなど長く女子プロレスや総合など関わってきた集大成って感じですか？

**がなり**　そんなことは全く考えてなかったですね。特に去年はあらゆるものに失敗して「俺は貧乏人なんか相手にしないんだ」って言い切ってたんですよ。

――貧乏人は相手にしませんか（笑）。

**がなり**　貧乏人なんか、温情かけると裏切るんだって（笑）。「俺はもう弱者とは手を組まない」って言い切ってたんですよ！　なんでなんだろう……（考え込む）。運命なんですよね。

――気づくとやらされてる（笑）

**がなり**　そうとしか考えようがないんですよ。やろうと思って動いたことは一回もないし、なんか知らないうちに挨拶に来られて、リップサービスで「道場とか出来たらいいね」って言ってしまって、本当に探されちゃった（苦笑）。「えっ⁉　あったの？」みたいな。

――言葉だけのつもりが。

**がなり**　一回目はケチつけてやったんですよ、「場所が悪い」って。これで懲りただろうと思ったら、またここがみつかったって言って。「周りに迷惑がかかるから、音がしないかチェックしなさい」って言い返したら「音がしてダメだ」ってんで「じゃあしょうがないね」って言ったんですよ。そしたら「大家さんが、上の階を貸してくれる」って言ってきて、こりゃもう逃げれないわと（苦笑）。

――外堀を勝手に埋められていったと（笑）。

**がなり**　そう。ウチの社員達が人の金だからと思って、人の金で弱者を救済しようっていう、気持ちいいことをしたがるんですよ。

――自分のお金じゃなくて。

## リップサービスで「道場できたらいいね」って言って、本当に探されちゃった（苦笑）

現在『SOD女子格闘技道場』所属は上の藪下めぐみと高橋洋子の2人。キミも女子総合のトップクラスの2人の指導を受け、近い将来行われるであろう賞金総額5000万円（⁉）のSOD興行へ出場しろ！

GANARI TAKAHASHI

**がなり**　会社の金で。「金は一杯あるんだから」って。がなりに使われるんだったら俺たちも少し使ってやろうみたいな（笑）。ウチの子たちも不器用で、俺にバカバカやられてるもんで、同じような子見ると親近感沸くんですよね。力ないくせに応援したがるんですよ。

――同じ境遇の人に（笑）。

**がなり**　でもそういうヤツほど自分の金になったときに応援しないんですよ(笑)。気持ちはあるんだけどさぁ～、みたいな形でそういうもんなんですよ。弱者ってズルいもんでね、弱者同士は応援し合わないんですよ。強者になって弱者をいじめるってことはあっても助けるってことはメッタにないんですよ。「俺は弱者を応援するんだ」って普段から社内でハッタリ吹いてるもんで、「がなりさん、助けてあげるんでしょ」って言われたら「俺は助けるよ！」って（言わなくちゃいけない）。利用されちゃってるんですよ。

――社長もツラいですねぇ。

**がなり**　ただね『￥マネーの虎』みたいなので、わけのわかんないヤツに金出すんだったら、まだベースが見える子を応援してる方が失敗しても諦めつくかなって。

――弱者の中でも、まだ見どころがある方に賭けたいと。

**がなり**　そうなんです。「金儲けします」って言うヤツで失敗したら何も残らないんですけど、彼女らの場合、金儲けじゃなくて「強くなりたい」とか「これで食っていきたいんだ」っていう夢があるじゃないですか。それで食っていきたいんだと。で、「食っていくためにはどのくらい必要なの？」って高橋と藪下に聞いたら「月20万円」って、そのくらいなんですよ（笑）。

――20万でいいんですか？（笑）。

**がなり**　非常に可愛げありますよねぇ……。それだったら面倒見てあげてもいいかなと。目的が金じゃないもんで、失敗しても何か得られるものがあるんじゃないっていう意味では、非常に出しやすいんですよねぇ。

――『￥マネーの虎』で「1千万ください」っていう話よりは（笑）。

**がなり**　AVと同じで「売れなかったけど面白かったよね」っていう言い訳ができるんですよ。こういうもんには。だけど金儲けの場合には当たるかハズレるしかないですから。

――最初から趣味と割り切ってる感じなんですか？

**がなり**　自分の代わりに頑張ってくれる人にお金を出して、疑似体験をさせてもらうっていう。なかなか、いまの僕の地位になっちゃうと、昔みたいにイチかバチかっていう勝負賭けて、「みんなゴメン」とは言えなくなっちゃうんですよ（苦笑）。

――まあそうでしょうね。

**がなり**　会社の経営者って、みんな同じだと思うんですけど、最初はイチかバチかっていうのはあると思うんで。そういうところを潜り抜けてきたもんで、ある程度余裕が出てくると、またしたくなるんですよ。あの時の興奮が欲しいみたいな（笑）。

――ギャンブルの快感ですね。

**がなり**　ところがそんなことしちゃいけないんですよ。失敗は許されませんから。社内の人間には高橋の言うことを聞いてれば、俺たちは必ず成功するんだっていう、ひとつの暗示をかけちゃってるんですよ(笑)。だから「ゴメン、失敗しちゃった」とは言えないんですよ……だけどしたいんですよ。

――なんとなくわかります。

**がなり**　僕の代わりに高橋（洋子）にやらせて、アイツらが成功したときには、「なぁ！　俺がお前らを！」って言いたくて（笑）。失敗した時は「俺は前から分かってたんだけど、ついつい同情したのがいけなかった」っていう逃げ道を作りながらも、チャレンジしてみたいっていうね。

――ちょっとしたギャンブルだと満足できないんでしょうね？

**がなり**　努力のし甲斐のないギャンブルはつまんないんですよ。貧しい時はパチンコでもなんでも面白かったんですけど、僕が金が無かった時の3万円当たったときの嬉しさとか悔しさを、いま体験しようと思うと、少なくとも百倍ぐらいかかるだろうし。

――ケタが違ってくると。

**がなり**　何千万単位じゃないとあの感覚は二度と味わえないんですけど、そんな金額を努力の余地のないところで賭けたくないんですよねぇ。だったら努力して当たるかもしれないギャンブルで。馬をやるんであるならばオーナー、馬主になるべきなんですよ。いい馬を見つけて、それをいいジョッキーや調教師に預けてとかなら、自分の努力によって勝てる確率をあげられるから。

――なるほどですねぇ。

**がなり**　そういう意味では、こ

れ（女子格闘技）は馬を買ってる感覚で応援しがいがあるんですよ。勝つ可能性を増やせますから。

――その道場なんですが、オープン1週目で100人近くの女性が見学に来たりと出だし好調みたいですね。

**がなり** いや、まだ商売でいう街角でティッシュ配ってっていう段階ですよね。体験練習っていうのはまだティッシュ配りと一緒ですよ。

――でも正会員もポチポチ入ってるみたいじゃないですか。

**がなり** 僕はそれもさっき聞いたばっかりで、全然聞かないことにしてるんです。聞いてちょっとでも期待したら、自分が悲しくなるから（笑）。期待しなければ長く面倒見てあげることができるでしょうし、期待するとね、ヤんなっちゃうと思うんですよねぇ。

――じゃあ道場には関知しないっていう感じですか？

**がなり** 全くしないです。逆に言うならば、僕を引っ込めるような結果を出してくれると嬉しいです。ずるいですけど良くなってきたら出てきます。悪くなったら知らん振りしてる（笑）。

――わかりやすいですね（笑）。

**がなり** でもそういうもんですよ。これで僕が思い入れいれると、彼女たち（藪下＆高橋）は甘えるはずですよ。しょっちゅう来て「頑張れ」なんてしてたら「何かあったら、がなりさん助けてくれるんじゃないか」みたいな。それが全然来やしない、話題も乗らないと危機感を持つ筈なんですよ。なんで思い入れしないように（笑）。

――なるべく関わらないようにするわけですね（笑）。

**がなり** だから「フォーミュラ・ニッポン」も全く見に行きませんでしたね。あ、でも一回だけ「￥マネーの虎」で撮影させてくれないかって言われて見に行ったんですよ。本戦前に帰ってきたんですけど、オーナー用のテントがあって、そこにお茶とか、いろいろと用意してあって、ここは金持ちっていう匂いだなぁとか思って（笑）。

――アハハハ！

**がなり** 観客からも「がなりだよ！」とか言われて、なんか俺、偉い人みたいだなとか（笑）。こんなところに来てたら、成績悪くても「来年も金出します」とか言っちゃいそうだよなとか思って。

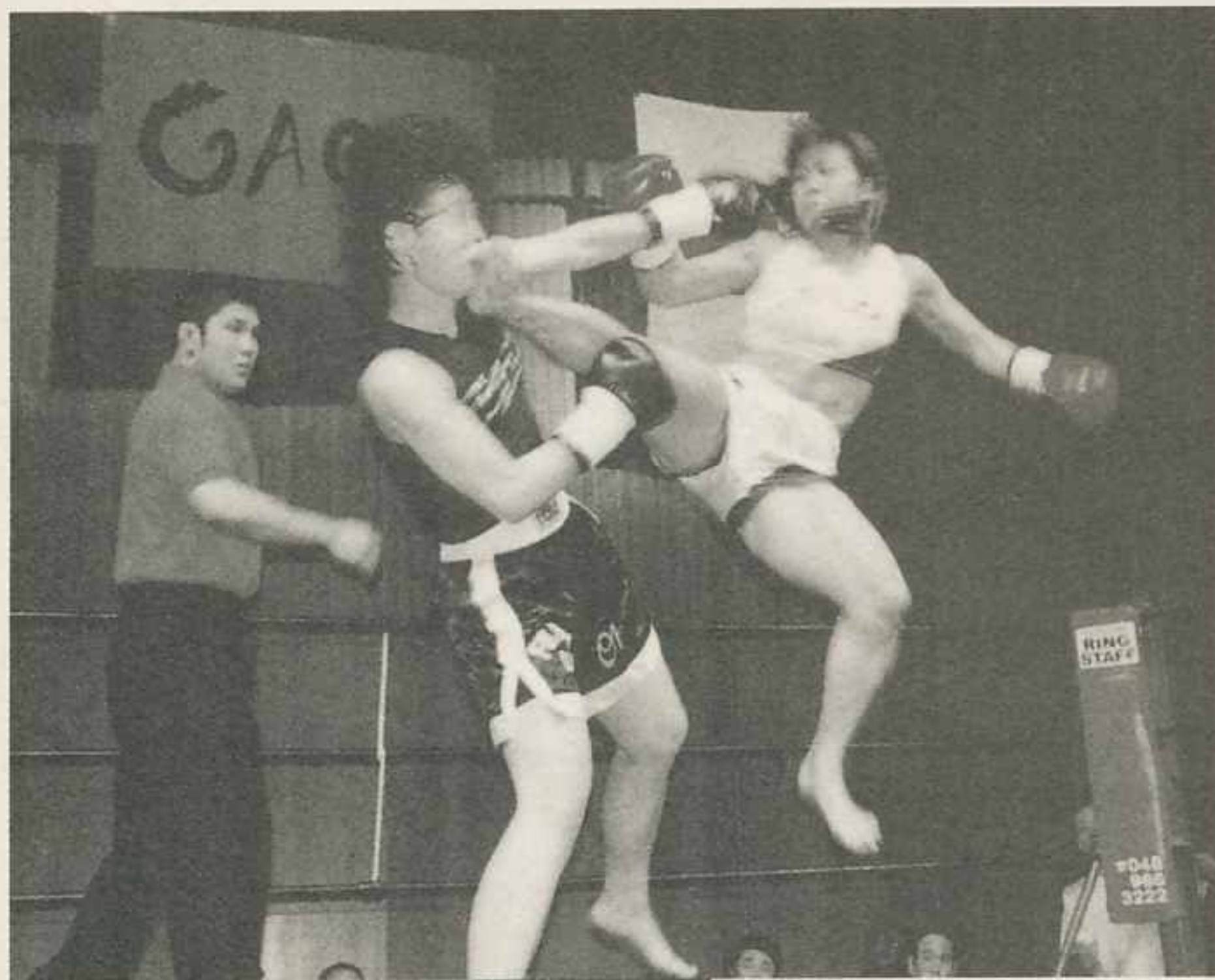
――気持ち良くなっちゃったわけですね（笑）。

**がなり** そうなんですよ。まあ気持ち良くさせようと思って、ああいうようなものを用意するんでしょうけど、自分はタッチしないです。乗せられないようにする（笑）。

――では道場の方も同様に。

**がなり** そういうもんだと思いますよ。ウチの子会社なんかもそうですけど、最初の1年間だけは、自転車でいうと後ろのタイヤを持って走らせてやるからと。でも1年経ったらお前らポーンと離すよ、そのときに「もう絶対助けないからね」って。子会社のAVメーカーが、いま10個くらい出来てるんですけど、最初「苦しい」って言ったら金貸してあげるし、「先に金払ってください」って言われたら払ってあげる。いろんな意味で甘やかしたり応援するんですけど、1年経

## SOD女子格闘技道場所属、藪下めぐみ　キックデビュー！

全日本キック
**Girls SHOCK!**
［1.26　北沢タウンホール］

➡韓国の美少女キックボクサーに圧勝したWINDY智美。がなり社長が女子格闘家の重要なポイントとしてあげている「怖さ」を現在の日本人女子格闘家の中で一番感じさせる選手である。

⬆年末のスマックライト級トーナメント準優勝の渡邊久江は意外にもこの日がキックデビュー戦。キャリアで上回る大島椿相手に手こずったが、結局判定3-0で白星デビュー！

➡藪下にも勝利を収め、総合でも無敗を誇るキックボクサー彩丘亜紗子は対戦相手のケガにより急遽、同門の男子選手とエキシビジョンで対戦。彩丘は3月に日本人最強の石原美和子と総合ルールでの対戦が決定！

⬆⬅がなり社長率いる『SOD女子格闘技道場』所属の藪下めぐみは、この日がキックデビュー戦。ケガのため、ほとんど練習はしていなかったというものの、藪下は2R開始のゴングと同時にジャンピングキックを放ち見事にダウンを奪うなど大健闘！　しかし、2R終了時、左肩のケガの再発でタオル投入となりTKO負け！

⬆ドラえもんの四次元ポケット付きのコスチュームで登場したのは、総合でもお馴染みのジェット・イズミ（ちなみにテーマ曲はキン肉マン）。この日がデビュー戦のASAMIに粘られたが、判定でジェットの勝利！

ってからは絶対に助けないっていう主義なんで。

——その考えはAVメーカーじゃなくても？

**がなり**　自分が成功した要因のひとつに、後がないっていうのがあると思うんですよ。僕の場合で言うと、4千万円の資本金でウチの会社を始めたわけですけど、最初に1千万円を隠したんですよ。ウチの人間に、「この金は最初からないもんだと思え」って。それを俺は忘れちゃうから、「もうダメだ……潰そう」っていうときに「高橋さん、1千万円隠してあります」とか教えてくれるの（笑）。

——1千万隠してるのを忘れるってのも凄いですよね（笑）。

**がなり**　見事に忘れちゃってね（苦笑）。でも、それから始めたんですよ。会社2個潰した時の経験から自分を追い込ませる方法として。

——そうしないと気合いが入らないっていうのもあるんでしょうね。

**がなり**　「気合い」っていうものを信じない方がいっぱいいらっしゃるんだけど、人間って動物ですから第六感や気合いっていう目に見えない物があるんですよ。同じ人間なのに気合いの入り方で力の入り具合も変わるでしょ。だから、それが出る環境を与えてあげたい。そのためには僕っていう人間が優しくしないことが一番重要じゃないかと思うんですよねぇ～。

——こういう道場を作ったことで選手へのプレッシャーにはなりますよね？

**がなり**　ならない（キッパリ）。あのね、与えられたものはダメ。

## 石井館長は、人としては嫌いだけど、プロデューサーとしては大好き

GANARI TAKAHASHI

——甘えちゃいますかね？

**がなり**　与えられた人間は「もっとくれ」って言うだけで、そこからプレッシャーなんてないですね、いままでいろんなことやってきた結果。ここから彼女らが会員50名集めてとかは彼女らが作ったものなんですよ。それを守ろうと思ったらプレッシャーがかかって来るはずなんですけど、いまはプレッシャーは何もないはずですよ。

——確かに守る物が出来れば変わりますよね。

**がなり**　会員が増えるまではウチの社員を一人つけて、いろんなアドバイスをさせて応援させてあげてるんですけども、でも守るものが出来たら離してあげて、失うことの怖さを感じさせてあげたい。与えられた物を失うことは怖がらないです、人間って。自分の足で一歩歩いた時に「戻りたくない」と思うんであって、押されて一歩なんて何とも思わないですよね。

——まだこれからですからね。

**がなり**　あとね、基本的には彼女らに最終的には経営もまかせるって言ってるんですよ。「応援はするけど独立しなよ」って。演出の世界でも言えてるんですけど、これからはディレクターじゃないとダメですね。「僕は演出バカですから」「格闘家バカですから」っていうのは何事も成し得ないですね。

——ひとつ飛び出てるだけではダメですか。

**がなり**　結果から言うならば、いろいろ言われるけども、猪木さんにしたって馬場さんにしたって経営者としてちゃんとやったわけですよね。やっぱり両方持ってないと、特にこういう世界は興行でお金を儲けないとダメなわけですから。絵描きさんのように絵描いてあとは金になるだけみたいな商売と違いますから。画商まで自分でやらなきゃいけない。いまはその才能もなくちゃいけないですし。

——なかなか、そんな才能を持った人もいないでしょうけど。

**がなり**　でも才能じゃないんですよ、やる気さえあればある程度できるんですよ。やらなくていいと思ってるからできないんであって。

——やる気があればなんでもできると（笑）。でも意外なのが、興行とかイベントよりも道場を作ることを先にやったという点なんですが。

**がなり**　それは意地の部分なんですけど、自分は器用なもんで、そういうイベントとか、やれば出来るんですよ（あっさりと）。

——ですよね（笑）。

**がなり**　絶対に出来ちゃうんですよ。でも僕は器用なヤツ嫌いなんですよ。要は自分と似たような人間を見ると、すげえ悔しいっていうか、嫌いになるんですよ。だから僕は石井館長が大嫌いなんだけど、大好きなんですよ（笑）。

——どっちなんですか？（笑）。

**がなり**　人としては嫌いだなっていうのがあるんだけど、プロデューサーとしては大好きで、尊敬できるし。

——アハハハ！　複雑ですね。

**がなり**　ここは女子総合界の石井館長になろうっていうことで、まずは道場を持つべきだ、と。まずは根っこになる地味なところを。氷山で言うと海に沈んでる部分を作ってから、上を固めていくべきなんだって思いまして。別に焦ってやる問題じゃないし、まずはベースを作ろうかなって方法論は正しいと思うんですよねぇ。

——バーンといきなり大会なりをブチ上げるんじゃなくて。

**がなり**　あとやっぱりAV屋っていう冠があるわけですよ。「AV屋がなんか盛り上がってると思って、入って来やがったな」って言われるというところを上手く感じとって、上手く伏線張っておくっていうのが上手いもんで。（聞き手の大坪を指して）こういう人たちにAVを「がなりは商売人で上手いわ」って言われますから（笑）。

——いやいやいや！（笑）。

**がなり**　昔、AV始めた時、売れなくていいから話題のある作品を作ってたんです。そうすると雑誌広告買わなくていいんですよ。バカな作品を作ると雑誌は「バカなことやってるぞ」って、バーッと載るんですよ。広告としてそのページ数買うといくらかかって言うと、1億分くらいの価値あるんです。そういうのを（再び大坪を指して）この人たちが見抜いて、「パブリ（シティ）のデマンド」って言われたんですよ（笑）。

——いやぁ、事実、上手かったですから（笑）

**がなり**　だから今度はヒネって地味なところから入ってやるっていうね。そして、大会開くときには「僕は大会なんかする気なかったんです」とか言って（笑）。

——「周りがやれやれ言ってくるもんで」って（笑）。

**がなり**　そうそう（笑）。でね、「地味なことだけじゃいけない。彼女たちにスポットが当たる場所を作ってあげようと思って、やることにしました」って言うと、格闘技ファンたちが「おぉ、いいヤツじゃないか」って言うんですよ（笑）。

——その辺は上手いですよねぇ（笑）。でも、いま大会をやったら周りから反発を買うだろうなとかは考えてなかったですか？

**がなり**　いや、反発来ても押し切っちゃう方法ってあるんですよ。成功させてしまえば、お客さんたちは気に入らないけど見に行こうっていう考え方してくれますんで。ただ、2年か3年前に大会を開こうと思って失敗しちゃったから（苦笑）。

——女子プロレス最強トーナメントをやろうとして頓挫した話ですね。しかも上海で（笑）。

**がなり**　でも不思議なもんですよね。この道場持ったら、その時に一番最初に嫌だって言った

神取さんが手伝ってくれて。だからこれが僕が言ってるんですけど、「急がば回れ、遠回りをしろ」って。何かおのずと出来ちゃったなっていう。ここでもう少し努力して地道にやってると、多分格闘家の方々とコネクションもできてくる。で、大会なりをやろうとしたときに集まってくださるんじゃないかなっていう。

――地道にやってたら、いずれは好機が自然と来る、と。

**がなり**　ただ本当に、これで儲けようと思ってないですから。「AV屋が何が出来るか」だけなんで。全てAV屋の地位を上げるためにこういうことやりたいんですよ。

――全ての道はAVに続いているわけですね（笑）。

**がなり**　AV屋はAVしかできないから、「アイツら」っていう風に言われてるんだなっていうことを入ってきて凄く感じたんですよ。AV屋がいろんなことできると、AVの評価も上がるんだと。上がるとバカにして見なかった奴らが見るようになって、それが市場拡大に繋がるんだと。全ての目標がAVのためなんですよ。

――この道場もAVのため！

**がなり**　全部そうなんですよ。俺がテレビに出るのも雑誌に出るのも全部AVを伸ばすためなんですよ。何でかっていうと、AVで初めて僕は市民権得たんですよ。初めて一人前になった。これは自分の故郷であり親である、ここで恩返しせずにいられないじゃないかっていうそれが目標なもんで。一番適任者だと思うんですけどね。利害関係がバチバチしてる膠着化しちゃってるプロレスとか格闘技業界を柔らかくするのには、俺みたいな人間が一番いいんじゃないかと思ってるんですよね。僕は宣伝のためと思ってますから、お金使うためにやるんですよ。

――お金を使うためにやるってのも凄いですけど（笑）。

**がなり**　僕が大会やるならデッカイ賞金をかけますよ。

――景気いい発言ですね（笑）

**がなり**　僕がAV界入ってきた時と、いまのプロレス界って凄く似てる感じがするんですよ。同じ匂いを感じるんですよ。要は「プロレスはマニアな人間たちが見てるんであって努力しなくてもマニアたちは逃げない。それに努力したってプロレス嫌いは見ないんだよ」って言ってるように聞こえるんですよ。

――ファン・作り手に閉鎖的な匂いはどちらもしますよね。

**がなり**　そうでしょ。でも違うんだよ、と。みんな絶対にプロレスって見てるはずなんですよ。僕もプロレス好きじゃないですけど、ビル・ロビンソンの時代は大好きでしたから（笑）。

――そうでしたか（笑）。

**がなり**　だけど段々と興味なくなっちゃった。でもK—1みたいなのがあると、面白いじゃないかって見てる。だからやり方によっては、もう一回客は帰ってくるはずなんですよ。

――やり方次第、と。

**がなり**　その時に何がいいかって言うと、僕が好きな地味に努力してる人間に少し結果を出してあげられる。知り合ってみると本当に安いんですよ、女子プロレスラーって。

――女子プロは安い？（笑）。

**がなり**　「こんな値段でスポンサー出来るの？」みたいな。凄く有名な割に、お金かかんないんですよ。僕が立川にビデオ店出した時、駐車場でプロレスやってもらったんですけど「キッスの世界」の子たちが来てギャラいくらかかるんだろうと思ったら、リング設営まで含めて20万。リング設営代含めてそんなもんなの？と。

――それで呼べるんなら。

**がなり**　仮にも名前知られてる全女のスターがですよ。リング代だけで20万かかっても仕方ないよなぁって思ってたのに。

――デパート屋上の戦隊ショーより安いですよ（笑）。

**がなり**　っていうことは、あのコらの給料っていうのは想像がつくでしょ。藪下とか聞いてみたら「月5万円でも出してくれたらなんでもやりますから」って言われて「いいのぉ？」って（笑）。俺、彼女のコスチュームに「ソフト・オン・デマンド」って入れるのは余りに露骨過ぎるんで「SOD」にしてあげてるって自分から自粛したんですから。50万出すなら『ソフト・オン・デマンド』って入れさせましたけど、5万円じゃ可哀相だなっていう。

――逆に申し訳ないって（笑）

**がなり**　そういう状況を見てもプロレスとAVが凄く似ているという部分が凄くあって。同じ道理でプロレス界も少しは変えられるかもしれないなって。

――いろんな意味で資質は似てますよね、作る側もファンも。

**がなり**　ファンも純粋な人だけだとプロレスラーもAV監督もダメになるんです。根っから支えるファンがいると、彼ら（レスラーや監督）はそれを失うまでは言うことを聞いてくれないんですよ。

――周辺のファンは何やってもウケちゃいますからね。

**がなり**　熱狂的なファンが付いているんで。お笑い芸人さんで言うと、小さな劇場でやって、若い子たちが笑いに来てるもんで勘違いし始めちゃう。「俺たち面白いじゃん」みたいな。

――インディーズの勘違いみたいな。

**がなり**　勘違いしますよね。音楽で言うならば、ライブハウスで何百人でも勘違いしますよ。よく僕がテレビ製作している時にタレントってバカだなって言ってたんですよ。自分が落ち目になってファンが減ってるのに気づかないんですね。段々減ってきても、自分の周りは変わらないから、しばらくはその減りが見えない。周りが居なくなって初めて自分は人気がなくなったって初めて気づく。その時にはガラガラですよ。そのくらい勘違いしてる人間がいっぱいいいんですよ。いつも背伸びして、実際はどのくらい自分の周りにいるかを見なきゃいけないんです。

――周りにいる人間は熱狂的ですもんね。

**がなり**　重要なのはサイレント・マジョリティ。それが大切なんですよ。口うるさいコアなファンの声で動いたらいけないよ、って。何にも言わずにじーっと見てる人がいるんですよ、この人たちの行動が一番怖い。僕、中華料理店やってたもんで分かるんですよ。怒ってくれる客は凄い楽なんです、フォロー出来るから。お金払うときに不満そうな顔で「ありがとうございました」って言ってもムスーッとしてる客。なんか怒らしたんだろうな、あの人。二度と来ないな、みたいな。

TBSで毎週火曜午後11時50分から放送中の『サイボーグ魂』内の企画で2月25日にZepp Tokyoで女子総合の大会が開催された。船木がスーパーバイザー、ルールディレクターは島田裕二レフェリーという実にスリリングなこの大会。なんと言っても注目は、グラバカで特訓を積む人気タレント水野裕子の出場だ。結果はどうなった？

そういう人たちがほとんどなんですよ。怒ってくれる人たちは楽なんですよね。

――わかりやすいですよね。じゃあどうすればいいかっていう。

**がなり**　「プロレスとか格闘技はつまんないから見てない」ってゾーンをいかに掴まえられるかですよ。ただ、元々いる女子格闘技ファンを捨てず、両方にいい顔をしてはいけない。新しいこっちの顔（見てない層）にいい顔したいんだったら、こっち側（従来のファン層）に貶されなければいけない。でも従来のファンは成功するなら付いてくるし、成功しなくてもまた付いてくるんですよ。だから一回裏切ってみる必要はあるんじゃないかな。

――まだまだ女子格闘技はマーケットとしては小さいですから冒険出来ると思いますよ。ちなみに格闘技は、いまどのくらい見てるんですか？

**がなり**　ほとんど見ないです。プロレスは全然見てないですね。でも僕はK―1や『PRIDE』とかガチンコは好きで見てると凄い燃えるんですよ。

――誰かお気に入りの選手とかはいるんですか？

**がなり**　やっぱり大きい人がやるのが面白い。ボブ・サップとか凄いわかるんですよねぇ。やっぱりリングに上がった姿を見て「怖ぇ」と思う人を見るのは面白いんだけど、申し訳ないけど女子は見ても怖くないんですよ。プロボクサーもウェルター級あたりだと俺の方が強いんじゃないかと思ったりするし。

――凄い自信ですね（笑）。

**がなり**　だって具志堅（用高）のとき思いましたもん。俺、絶対に具志堅に勝てるって（笑）。

――アハハハ！

**がなり**　いや、本気で。だからつまんないんですよ。でもK―1みたいなヘビー級になると怖さを感じるもんで見れるんですよ。K―1でも「フグには勝てる」って言ってましたもん（笑）。

――フグにも勝てますか（笑）。

**がなり**　『PRIDE』ルールとかだったらアンディ・フグは僕と同じ身長なんで、寝技に持っていけば俺は勝てると言ってたんですけど、やっぱりボブ・サップは嫌だなって。

――あれぐらいデカイと迫力が伝わりやすいですからね。

**がなり**　そうなんです。やっぱり「怖い」っていうのが一番客に伝わっていくと思うんですよ。格闘技は「怖さを感じる」それがポイントですよね。

――「怖さ」が重要ですか？

**がなり**　昔、タレントショップやってた時に、その商品が売れるかどうかを判断する簡単な方法があって。それは田舎の女の子に商品を見せて「このタオルどう思う？」って聞くんですよ。それで「キャ～可愛い」って言うか言わないか。「キャ～可愛い」なんですよ、売れるものは。「オシャレじゃない？」「いいわね」って言った物は売れないんです。見た瞬間に「可愛い！」って言わせる物が売れるんですよ。それと同じで、格闘技を流行らせるキーワードは「怖い」かどうか。

――直感での反応を求めてるんですか。

**がなり**　はい。そう思えるものを演出できるかどうかですね。

――逆に言えば、いまの女子格闘技は「怖い」と思わせるものが足りないってことですか？

**がなり**　そう思うんです。要はマニア化しすぎちゃったと。さっき言った離れないファンは、それを望んでるもんで。

## 神取さんと最初会った時、こっちの方が目線高いもんで怖くないなと思ったんです

GANARI TAKAHASHI

――むしろ、いまは「格闘家なのに可愛い」っていう方で話題になってる状況なんですけど、この女には勝てないっていう選手が出てきた方がいいっていうことですか？

**がなり**　だから僕はブル中野とかアジャ・コングさんとかは面白いなと思ってましたけど、いまはそういう人が少なすぎるでしょ。明らかに「この人強そうだわ」っていうのがいないと。アイドル化し過ぎてると思うんですよねぇ～。

――モー娘。みたいに「普通に可愛い」っていうのがアイドルでは売れてるわけじゃないですか。芸能界は盛り上がってるからいいけど、いまから成長するような女子格闘技界においてはそれではダメだと。

**がなり**　モー娘。っていうのはあくまでもアイドルとしての世界ですから。アイドルは「可愛い」っていうことが重要なんですから、プロレス界のアイドルは「可愛い」って部分ではモー娘。には勝てないんです。

――勝てないでしょうね。

**がなり**　絶対に「怖い」の方が勝てるわけですよ。それをやらないと一般の客は来ないですよね。分けてますもん。だってモー娘。がいいっていう人間が同じぐらいミホカヨも可愛いとは言わないですから。

――そうですよねぇ。

**がなり**　それはさっき言ったAV界と凄く似てるんですよ。以前は「可愛いじゃん、このコ」みたいなAV女優が普通のセックスしてるだけのが横行してたわけですよ。でも「AV界では可愛いけど、そこまで可愛くないよね」レベルなんですよ。それが「だったらこの子がザーメン百発飲んだら勝てるよね」という方に押していった結果、インディーズAVがシェアを伸ばしてるんですよ。いる客たちに合わせたらいけない、逃げた客をどうやって取り戻すかなんです。周りにいる人間たちは同じ人たちばっかりなんですよ。中に入っちゃうと気がつかなくなっちゃうんです。だから僕はアダルトにおいても張り切らないんです、いつも外から見てるんですよ。

――どの点だったら相手に勝てるかっていう。

**がなり**　ライバルをモー娘。にすべきなんですよ。レコード界にしろ、視点を変えるべきなんですよね。やるんだったら、あらゆる興行の中の一番になりたいですよ。いまプロレスっていうのは完全に負けてますよね。でもK―1なんかはある意味勝ってると思うし、イノキ・ボンバイエは他の番組に勝ったわけですからね。

――紅白には負けたけど、それ以外には勝ちましたからね。

**がなり**　ねえ。あんな数字取れるとは思いませんでしたもんね。矢沢とかB'zとか、ドームクラスのコンサートだってあんなに取れないですよね。格闘技がある意味勝ったんですよね、そういうのに。

――では女子総合で「怖い」を見せつける秘策は何か具体的に考えているんですか？

**がなり**　僕の戦略としてはそのために神取さんと闘うんです。

――道場開きの時にも言ってま

柔道経験者のがなり社長に撮影用に柔道衣を着てもらったところ、格闘本能が自然とうずきだしたのか、頼んでもいないのに高橋洋子（※ちなみに血縁関係はない）と必要以上に激しいスパーリングを披露。さすがに寝技はお手のものだが、神取戦の秘策として考えているという跳び蹴りも凄いぞ！

したね。神取さんと闘いたいって。しかもガチンコで（笑）。

**がなり** そこで僕が神取さんに腕を折られるべきなんですよ。

――そこまでやりますか（笑）。

**がなり** で、女でも強いんだっていうとこを見せると。

――自分がいま持ってる偏見を世間に見せつけるってワケですね。「女でも怖い」って。

**がなり** そうなんですよね。普通の男じゃ勝てないんだっていうのを見せつけた方がいいんですよ。それでエキシビジョンマッチとして俺が折られるのが一番いいんじゃないかなっていう。

――理想としては（笑）。

**がなり** で、ここの道場開きのときに「それは、ここのエキシビジョンでやりましょう」って言うから、「俺だって腕折られる覚悟でやるんだから、そんな人数じゃやんねえよ！」って。「せめて1万人集めてくれよ」って言って（笑）。

――骨折られるんだったら、せめてそれぐらいの前でやりたいですよね（笑）。

**がなり** 1万人に見られてたら痛くないと思うんですよ。でも、ここ（道場）で折られたら相当痛いと思うんですよね。

――そりゃ痛いですよ（笑）。

**がなり** 1万人いてくれたら「痛いけど我慢するかぁー！」って言える。それプラスやっつけてくれないと困っちゃうもんで。神取さんと最初会った時、こっちの方が目線高いもんで怖くないなと思ったんです。

――これなら勝てると？（笑）。

**がなり** それで俺は「神取さんやめてグンダレンコにしよう」って言ってたんですけど、この間の記者会見の時に、ちょっと首絞められたら、もう男の力だったんですよねぇ。しかもチョークスリーパーかけるんですよ、スリーパーホールドじゃなくて。それでコレはやられるわっていう確信持てましたんで、あらためて闘いたいなっていう（笑）。

――神取さんで十分でしたか（笑）。

**がなり** すぐやられちゃうと俺が弱いだけだろうってなるもん

ドラゴン　お金を払っ
さい！」っ
すよ。それ
功するかっ
からわかり
くさんいま
ターザン　の持ち腐れ
ドラゴン　売らないの
ら、しっか
はどんどん
すよ。プロ
リアを積ま
ですけど、
ヤリアを10
を取れないの
ターザン　オ！
ドラゴン　すよね。
「この人だ」
るじゃない
ユーした時
よ。それな
ス界は、怪
にトップを
昔だったら
でスターだ
って藤波さ
は22、3じ
そのぐらい
ます？　誰
ダメなんで

今の
ない

## 神取戦は勝ちそうなところまで持っていきたい。多分、勝てないはずなんですけど

で、鍛えて俺の強いところをアタマ3分間くらいは見せられるようにしたいんですよねぇ。

――3分間ですか（笑）。

**がなり**　それぐらいは、いい所を見せたいなっていう。勝ちそうなところまで持っていきたいなって。でも多分、神取さんには勝てないはずなんですけど、さっき言った見えない「気合い」で闘おうかなと。

――かなり真剣みたいですね。

**がなり**　でもやっぱり格闘界を背負ってる神取さんとやって、AV界背負ってる俺は勝っちゃいけないんだよ（笑）。

――まずいでしょうね（笑）。

**がなり**　勝てないだろうけど、この人だったらガッとやって平気だなと思ったんで。あとはいかに無様に負けるかっていう。

――笑われて終われば（笑）。

**がなり**　その変わり、無様に負けるためには本気で向かっていかないと申し訳ないしね。

――真剣にやればやるほど無様だっていうのありますよね。

**がなり**　そうなんですよ。「アイツ、本気で勝ちにいってるよ！」って（笑）。だからやる前には目いっぱい大ボラ吹いて、好き勝手なこと言って挑発しますから。それでゴングがなる前に、さっきも見せてしまったんですけど、ジャンピングキックを1発おみまいしてから、スタート（笑）

――興行が楽しみです（笑）。でも最初の頃のK―1・空手界の状況と、今の女子総合って似てると思うんです。そういう意味では当時の石井館長みたいに成り得ると思うんですよ。

**がなり**　館長みたいなプロデューサーは絶対に必要。僕じゃなくてもいいんですけど、プロデューサーが、いかに中を見ないで外を向いて仕掛けが出来ていくか。だからこの間来た……『レディースゴング』さんか、「こんなの出ても何の意味もない」って取材の時、言っちゃったんですけど。

――それは、そのまま思いっきり書かれてましたね（笑）。

**がなり**　書いてました？　嫌な顔されたんですけども（笑）。

――そうでしょうね（笑）。でもいまの女子プロファンっていうのは、ほとんど男ですからね。一部クラッシュ時代から残ってる人とかもいますけど。

**がなり**　その子たちが道場に来るといいですよねぇ。そのための仕掛けっていうのは、まずは強い。その次に賞金をでっかくして、カッコいい生活させる。プロレスの知名度のないところは、興行が当たらないもんで数多く試合をする。だから毎回本気で出来ないっていう。これはインディーズのダメなAVメーカーにも共通するんですけどね。

――薄利多売じゃダメってことですね。

**がなり**　そう。まずは試合数を減らすべき。そのためには一回の賞金をいっぱい出せるようにすべきですよね。それをやらないと、本気出せないですもん。地方廻りながらリング抱えてってのを何とか変えてあげたいんですよねぇ。一番いいのは3ヶ月に一回とか、それでメシ食っていけるかどうか。さらに怪我しても、一年は生活が大丈夫かどうかみたいなのが大切なんで、俺は1千万以上の賞金を絶対に用意します。

――1千万ですか!?

**がなり**　総額で5千万円は用意しますよ。それを出せるようにしたいなっていう。

――5千万！　それはK―1級ですね。でも、そういった大きな興行を打つことでテレビ放映とかの話も来ると思うんですよね。

**がなり**　そうなんですよ。

――それでSODって過去にテレビCM出そうとして打てなかったことあったじゃないですか。『PRIDE』にも広告出そうとしたら一週間前に中止喰らったと聞いてますが。

**がなり**　『PRIDE』は悔しかったよねぇ〜。

――そのダメ出ししたとされる森下社長は亡くなってしまいましたけど。

**がなり**　あれは俺の●●だもん。「アイツだったのか、パンフに入れる広告の原稿まで出来てたのに一週間前にドタキャンしたヤツは！」って。直前になって、いきなり「代表のツルの一声でダメになりました」っていうことで、どんな人なのかと思ってたんですけど、亡くなっちゃいましたからね（苦笑）。

――……。とにかく、興行全てがSODの宣伝になると思うし、そういう部分を見込んで総合とかに目をつけてる部分もあるのかなと思えるとこもあるんですが。なんと言っても「パブリのデマンド」ですから（笑）

**がなり**　でもそうなんですよ、絶対に。テレビにCMを打てないっていうことをマイナスと考えない人間なんですよ。だから僕はどうすればCMを打てるようになれるか、っていうのを考えた結果が今回の総合や自分のTV出演とかなんですよ。そういう形でそこからいろんな所に手をかけていって、そこからAV以上のものも得られるといいなと思うんであって。

――マイナスを遠回りする時点でプラスにしていくんですね。

**がなり**　でもアレはダメなんですかね、ビデオでしか出さないっていう試合は。AVが一万本売れたっていうのは、いまは「ああ売れた」程度なんですよ。だけど考えてみれば武道館一杯ってことじゃないですか（笑）。すげえありがたいよな、と。自分が儲かっている理由がわかるわっていう（笑）。

【03年1月12日／東京・豊島区『SOD女子格闘技道場』にて収録】

**※誌面の都合により今回はここまで。次号では、がなり社長の武勇伝から破壊王主演の映画製作話まで、再び、がなり説法が炸裂します！　期待して待て!!**

【たかはし・がなり＝ソフト・オン・デマンド代表取締役】本名・高橋雅也。1958年神奈川県横浜市出身。ビジネス系専門学校を卒業。その後、佐川急便のサービスドライバーを経て、テレビ制作会社IVSに入社。テリー伊藤の下で『元気が出るテレビ』などの番組製作を担当。その後、独立・起業するもあえなく失敗。95年、アダルトビデオ会社のSODを設立。『地上20m空中ファック』や『50人全裸オーディション』など、奇抜な企画作品を次々とヒットさせ、一躍業界トップへ躍り出て、アダルトビデオ会社として初めて『会社四季報』に掲載される。現在は人気番組『￥マネーの虎』への出演や初の著作本『がなり説法』（インフォバーン社）も出版されるなど、幅広い支持を集めている。

GANARI TAKAHASHI

### SOD道場へカモン!

女の子による女の子のための道場（もちろん、熟女やおばさんも可）それが『SOD女子格闘技道場』だ。できたてホヤホヤのこの道場は「広い・キレイ・駅から近い」と三拍子揃っており、「格闘技を習ってみたいけど道場に通うのはちょっと」と二の足を踏んでいた女の子にもオススメの道場なのだ。日本人初の女子総合格闘家・高橋洋子と、がなり社長より先にグンダレンコを破っている藪下めぐみの指導でキミも強くてセクシーな女になろう。　ダイエットや運動不足解消にも最適です!!

★営業時間 AM10：00〜PM10：00
★住所：東京都豊島区要町1-1-11
要町KTビル5F（営団地下鉄有楽町線・要町駅下車、4番出口より徒歩0分！）
★問い合わせ　TEL.03-5917-0026

# The American Dream

# ダスティ・ローデス

Dusty Rhodes

## ショーマンスタイルの元祖が語る
## 「古き良き時代のこと」
## 「息子・ゴールダストのこと」
## 「いまは亡き友・ディック・マードックのこと」

NWAが栄華を極めていた80年代の全米マットにおいて、"アメリカン・ドリーム"と崇められていたスーパースター、ダスティ・ローデスをフィラデルフィアにて直撃取材した。最近ではWWEのリングで活躍中のゴールダストの父親と言えばとおりがいいローデスであるが、そのショーアップされたファイトスタイルは、当時の日本では忌み嫌われていたものである。今回のインタビューでは、ローデスが現代でも通じるプロレス観を基に闘っていたことを読みとってほしい。

構成／ジャン斉藤　協力／コーチャン氏

designed by matsu(Two three)

――いやあ〜、今日はローデスさんに御会いできて光栄です!!

**ローデス** ガッハッハッ！ そう言われてオレも光栄だよ。で、オレにインタビューしたいんだって？

――はい！ ローデスさんの華やかな昔話を中心にいろいろお聞きしたいんですよ。

**ローデス** う〜ん、昔話かぁ……。オレも歳も歳だから、忘れちまったことも多いけどなぁ。まぁ、覚えてる範囲でならいくらでも喋るよ（ニッコリ）。

――ありがとうございます！

**ローデス** さぁ、早くやってさっさと終わらせようぜ。このあと（ケビン・）サリバンの野郎と試合があるし、それが終わったらビールを浴びるほど飲む予定だからな。ガッハッハッ！

――しかし、いまでもローデスさんがリングで活躍してるとはビックリですよ！

**ローデス** オイオイ、見くびってもらっちゃ困るよ！ モンローウォークやヒップダンスもいまだ健在なんだぜ（笑）。

――あ、いまでもやってますか！（笑）。失礼ですけど、いまおいくつなんですか？

**ローデス** 1945年の生まれだから、もう56歳になったよ。だいぶ歳を取ってシワも増えたけど、昔はもっとハンサムだったんだぜ（笑）。

――それではそのハンサムだった時代のお話から（笑）。まずはプロレスの接点からお伺いしたいんですけど、ローデスさんは、もともとプロレスラーになろうと思っていたんですか？

**ローデス** いや、ガキのころはベースボールに夢中だったから、メジャーリーガーになりたかったんだよ。でも、大学のときにアメリカン・フッドボールを始めて、そのままプロのプレイヤーになった。花形といえば花形の職業だよな。

――資料によると67年にプロレス入りとなってますけど、どういうきっかけだったんですか？

**ローデス** （頭をかしげて）う〜〜ん、なんだっけかなぁ？

――覚えてないんですか（笑）。

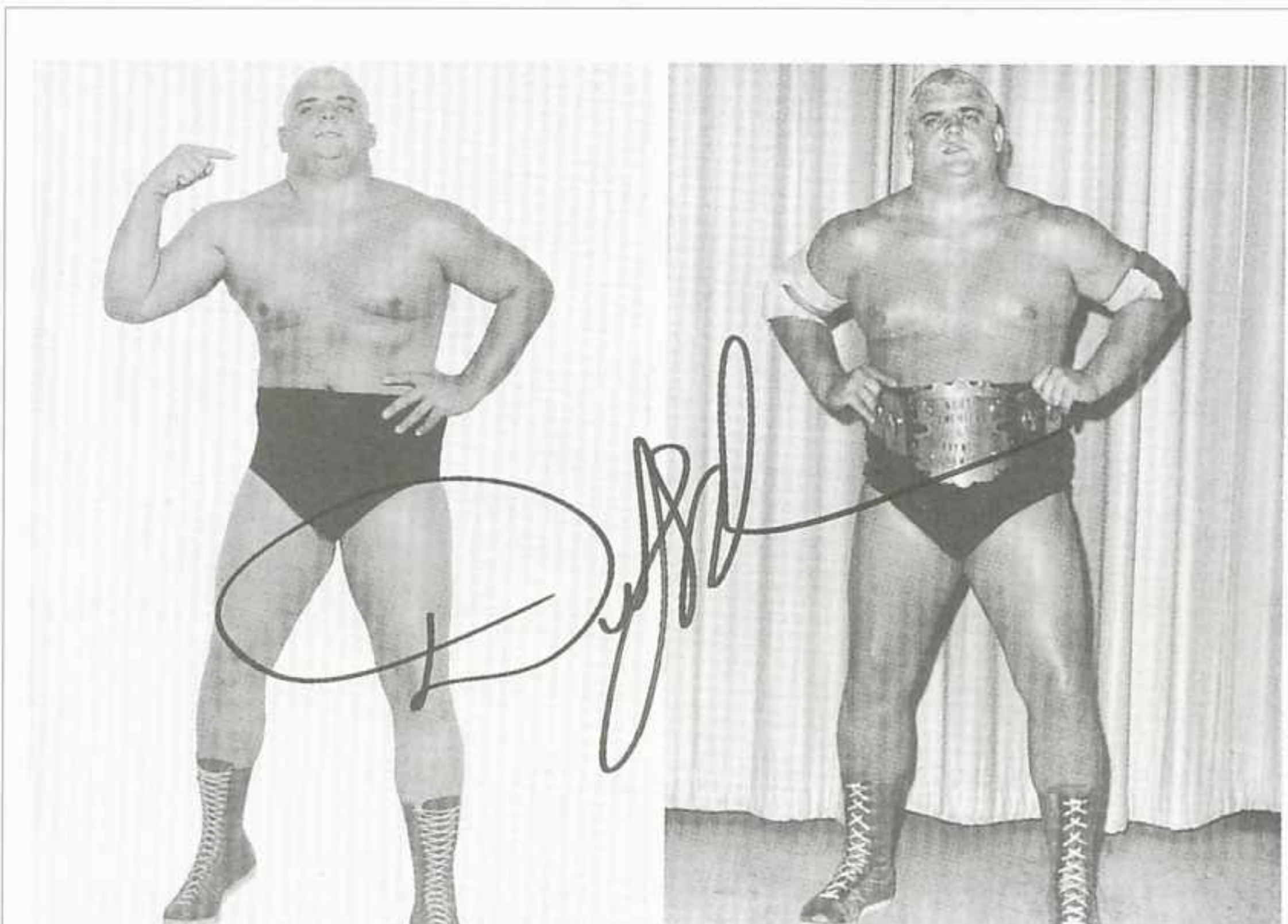
**ローデス** いや、覚えてないわけじゃないよ。オレは本格的にやる前から、アルバイトでちょくちょくリングに上がっていたからなぁ。だから、理由や正式なデビュー日時なんてあってないようなもんなんだよ。

――気が付いたらデビューしていたと（笑）。アルバイト的にとはいえプロレスをやられてみて、フットボールとどちらが自分に合ってると思いましたか？

**ローデス** それはプロレスだよ。なんたって合法的に相手を殴ってマネーを貰えるんだから、こりゃいい商売だと思ったよ（笑）。

――どうやらそれが一番の転向理由みたいですね（笑）。

"The American Dream"
**Dusty Rhodes**

The American Dream
Dusty Rhodes
TURNBUCKLE ENTERTAINMENT
dustyrhodes.net

ローデス本人から頂いたサイン入りポートレート。全日本や新日本で活躍していたときはダブついた身体をさらしていたローデスだが、若かりしの頃は見事にビルドアップされており、顔つきも憎たらしいほど精悍!!

**ローデス** オレも若かったし血の気が多かったからなぁ。それにオレはすぐ太りやすい体質だから、プロレスの方がヘビー級の身体を生かせると思ったんだよな。

――プロレスの基礎は誰に教わったんですか？

**ローデス** 最初はテキサスでジョー・ブランチャードの親父さんに基礎を習ったよ。でも、ホンモノのプロレスラーとして形成したのは（フィリッツ・フォン・）エリックの親父のとこでだな。

――ダラスで一時代を築いた鉄の爪王国ですね。

**ローデス** そう。当時、エリックのマーケットは強大だったから、有名レスラーが何人も来てたし、イキのいいグリーンボーイも集っていたんだ。オレはエリック・ボーイズと呼ばれていたもんさ（自慢げに）。

――そんな呼ばれ方するんだから、将来を期待される若手のホープだったんですね。ローデスさんの同期のレスラーっていうと誰になるんですか？

**ローデス** ファンクスやジャック・ブリスコといった連中だよ。でも、やっぱりオレの同期といえば、アイツだなぁ……。あのとんでもない荒くれ野郎さ。誰かわかるかい？

――もちろんですよ！ ローデスさんとテキサス・アウトローズを結成して一世を風靡した、ディック・マードックですよね。

**ローデス** （頷きながら）ディッキーは最高のパートナーだったよ！ その分かなり手を焼いたけどな。ガッハッハッ！

――やっぱりプライベートでも、リング上さながらの暴れ振りだったんですか？

**ローデス** ディッキーと暴れまわったエピソードは腐るほどあるなぁ（懐かしそうに）。酒場に行けば必ずケンカだし、ポリスに追っかけ回されるのはしょっちゅうだったしな（笑）。

――ホントのアウトローでしたか（笑）。

**ローデス** ボボ・ブラジルにココバットをやられた仕返しに、アイツの頭をスパナで叩き割ったときはプロモーターのシークにクレームをつけられたもんさ（笑）。

――ワハハハ！ 無茶苦茶ですね！

**ローデス** そんなことばっかやってハメを外し過ぎたから、周りから「正統派のレスリングをマスターしろ！」ってアドバイスされて、バーン・ガニアのとこ（AWA）に飛ばされたんだよな。

――若手のホープから無法者へ、そして厄介者になりましたか（笑）。

**ローデス** でも、AWAに行ったら行ったで、とんでもないジジイたちが暴れていたんだよ。あの（ディック・）ブルーザーとクラッシャー（・リソワスキー）のブルクラコンビさ。

――希代の悪役コンビですね。当時のブルクラは、かなり歳がいってたと思いますけどいまだに凄かったんですか？

**ローデス** 歳を取ってるぶんガンコだから余計厄介だったよ。とにかくタフで、とに

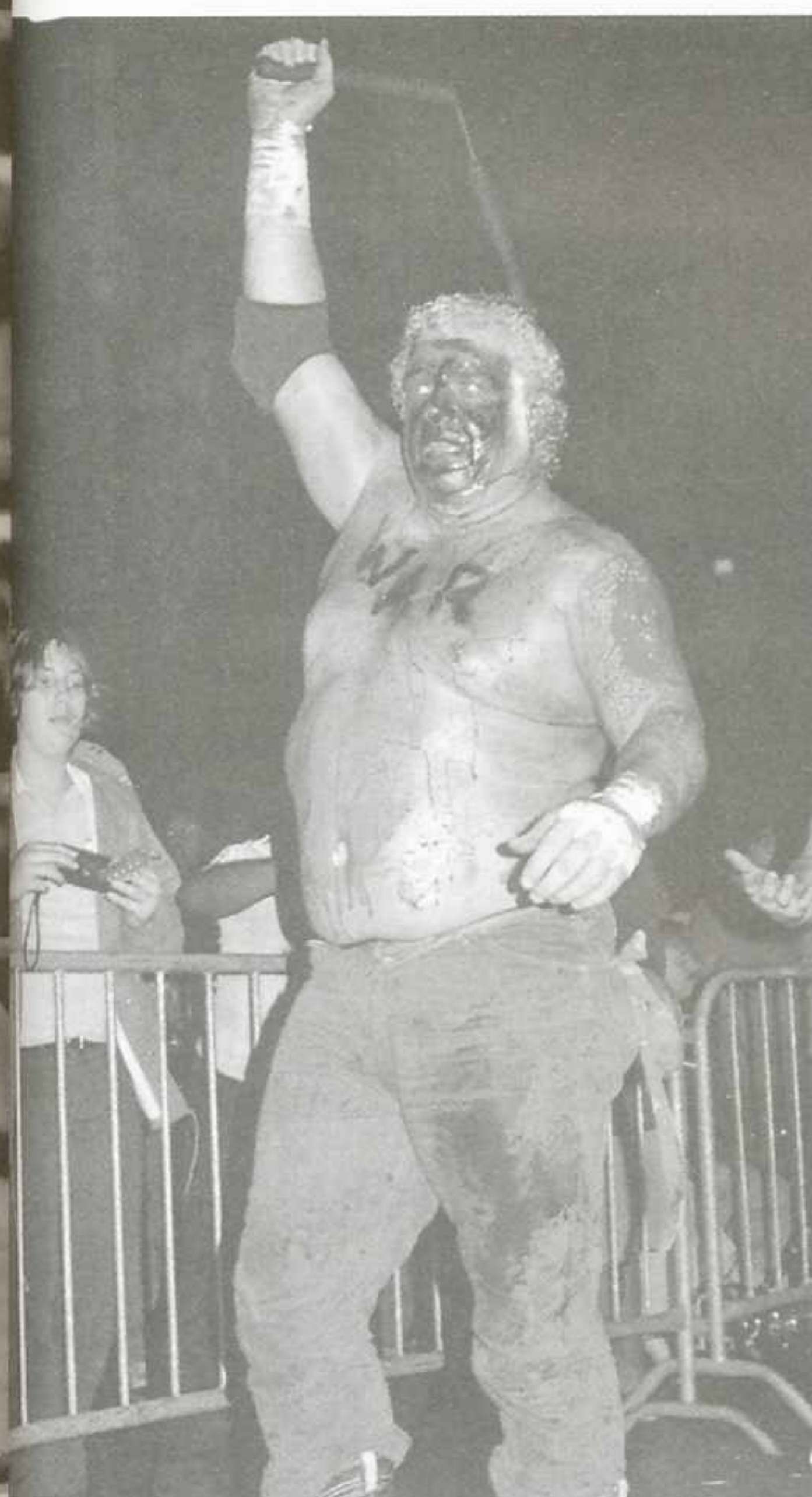
ディッキーとはしょっちゅう暴れたな。
リング外でもアウトローズだったよ

"THE TEXAS OUTLAWS"

Dick Murdoch & Dusty Rohdes

かく酒好きで、とにかくケンカ好きなジジイだったなぁ（笑）。
――とんでもない年寄りですね（笑）。
**ローデス**　ホントに手を焼いたよ。口を開けば「この若僧がぁ」って怒鳴っていたからね（笑）。そんなわけだから、正統派のレスリングを習うはずなのにブルクラとことんやり合うことになって、その抗争が一段落したあとディッキーと別れたんだ。
――シングルプレイヤーとして確立しようと思った理由は何かあったんですか？
**ローデス**　お互いに一本立ちしたかっただけだよ。その後もアウトローズとして組む機会はあったし、ディッキーとの絆に変わりはなかったけどね。それはアイツが天国に行こうが同じだよ（しみじみと）。
――想い入れは深いんですね。で、マードックとのコンビ解消をきっかけに、ローデスさんは"アメリカン・ドリーム"というキャラクターにチェンジして、スーパースターの道を歩むことになりましたよね。
**ローデス**　まぁな（照れながら）。オレにとってラッキーだったのは、ブッチャーやキング・イヤウケアとの抗争が始まったことなんだよ。大ヒールと抗争することによって、ベビーフェイスのキャラを確立していったわけだからね。
――そして、遂には当時の最高峰

漫画「プロレススーパースター列伝」にてご存じの読者もいるだろうローデスのペイント姿！　3万人の大観衆を集めたビックイベントのメインを張ったファンタジーファイトだ!!

## とは言えないよ（苦笑）。

"The American Dream"
Dusty Rhodes

であるNWA王座にまで登り詰めるまでに至ったんですね。
**ローデス**　そのころは「オレたちの時代」になった実感が湧いたもんさ。同期のテリーもNWA王座に就いたし、とにかくプロモーターがオレたち若い世代をプッシュしてくれたからね。
――ローデスさんは3度もNWA王座に就いてますけど、ハーリー・レイスから2度奪ってますよね。
**ローデス**　レイスとはよく闘ったなぁ。フロリダだけで200回は闘って500万人は動員してるよ。
――500万人！　レイスとの絡みは超黄金カードだったんですね！
**ローデス**　やれば必ずソールドアウトだったしね。レイスと連戦したのは誇りに思ってるよ。レイスはタフ&ストロングの言葉がピッタリ当てはまる尊敬できるレスラーだったからね。
――レイスはリング外でもダーティー・チャンプだったって聞きますけど、事実なんですか？
**ローデス**　（急に小声で）レイスはギャングと渡り合うワイルドな人だったからな。誰にでもケンカを売ったし、プロモーターだったときもかなりヤバいことをやっていたなぁ。あんまり詳しくは言えないけどね（笑）。
――あのタトゥーもファッションじゃなかったんですね（笑）。そんなレイスを破って王座に就くには、人気&実力だけじゃなくドレッシングルームでの力もないとダメじゃないですか。やっぱりローデスさんは凄いですよ！
**ローデス**　一度目は短命で終わってしまったけどね（笑）。タイトルを長く守ると全米をサーキットするからフロリダを留守にするし、いろいろと制約があるんだよ。ハッキリ言って、面倒なんだよな、NWA王者って。ガッハッハッ！
――NWA王者は面倒（笑）。たしかにNWA王者になると全米を回るので忙しくて家庭が崩壊したりするケースが多々ありますからね。ローデスさんの場合はどうでしたか？　息子さんもレスラーになって、いまではWWEで活躍してますけど。
**ローデス**　……息子のことはノーコメントだな。
――やっぱり「ゴールダスト」なるゲイキャラが気に入らないんですか？
**ローデス**　（不機嫌そうに）ノーコメント。それだけだよ。息子に関しては何も話すことはないよ。
――わ、わかりました……。それでは話題を変えて、当時の日本マットの印象をお聞きしたいんですけど。
**ローデス**　（表情を一転させて）それならいくらでも答えるよ。日本については正直言って、狭い島国なのにどうして猪木と馬場は無益な争いを止めないのか理解に苦しんだよ。でも、2人のカリスマ振りを見て、狭い国に2人のカリスマは必要ないから争っているんだと思ったね。
――猪木、馬場の両巨頭は、ローデスさんから見てもスターだったんですね。藤波さんや鶴田さんといった若手のエースの印象はどうでしたか？
**ローデス**　う～～ん（しばらく考え込んで）。何もないなぁ。ビッグサカのことは覚えているけどね。
――あ、坂口さんは覚えてる。
**ローデス**　（懐かしそうに）ビッグサカとはデトロイトでよく飲み比べをしたからなぁ。アイツはかなり酒が強いし、リングでも相当強かったよ。ここだけの話、日本で一番強いと思ったレスラーは、猪木でも馬場で

息子ダスティンは親の七光りを脱するべくゴールダストに変身!! 払拭し過ぎるイメージチェンジとなった。ローデス親子のタッグは新日本プロレスのリングでも実現しているが、再び結成する可能性はあるのか？

## オレも昔はリングでケツ振っていたからな。息子に「ゴールダストなんかやめろ!」とは

もなくビッグサカなんだ。

――ビックサカ最強説はけっこう根強いんですよ。坂口さんは柔道日本一でしたし、親指をペロリと舐めたらヤバイって言われてましたからね（笑）。

**ローデス**　あとはカブキかな。あのペイントギミックは、ジミー・ハート（カブキのマネージャー）とオレのアイデアなんだよ。

――そういえば、ローデスさんもカブキさんに対抗してペイントして闘ったりしてましたね（笑）。

**ローデス**　ガッハッハッ！　ミストは上手く吹けなかったけどな（笑）。まぁ、日本人で覚えてるのは、それくらいだなぁ。

――あれだけ来日してたの（笑）。ちなみにNWAのラインが強いローデスさんが、NWAから敵視されていた新日本プロレスに度々来日してたのはどういう理由からなんですか？

**ローデス**　それはそのころのNWA総会で「そろそろ日本の対立に終止符を打つべきだ」ってことで和解の方向で話し合いが進んでいたんだ。そのため両方に顔が効くエディ・グラハムが調停に乗り出して、エディ派のオレがニュージャパンへ参加することが決まったみたいなんだ。

――政治的色合いが強い来日だったんですね。

**ローデス**　そういう事情もあったんだけど、NWA系のレスラーはほとんどオールジャパンに上がっていただろ？　だったら、ニュージャパンに上がった方が良い扱いをされるという計算もあったんだよな（笑）。

――でも、当時アメリカンプロレスの象徴と言われていたローデスさんのファイトスタイルからすると、新日本より全日本が合っていたとは思うんですよ。

**ローデス**　いま考えるとそうだよなぁ。オレがニュージャパンに行かなくなった理由も、一番の原因は猪木とオレのファイトスタイルに隔たりがあったからだと思うしね。猪木から「頼むから、試合中に尻を振るのはやめてくれ！」と言われていたし（笑）。

――猪木さんはいまでも「ケツにキスするプロレスなんか！」って怒ってますよ（笑）。

**ローデス**　まぁ、オレは絶対にやめなかったけどね（笑）。別に猪木のことを見下していたわけじゃないよ。さっきも言ったけどカリスマがあるレスラーだし、肉体的な圧力はなかったけども、スピードのある動きとマーシャルアーツキックは凄かった。猪木は一流のレスラーだったよ。ただ、なぜそんな優れたレスラーがNWAから無視されたかというと、猪木がシューターだからだったんだよ。

――つまり、猪木さんはいつ試合を壊すかわからない危険人物のレッテルを張られていたんですね。

**ローデス**　そういうことだ。シューターとはビジネスはできない。シューターはどうしてもお客さんを楽しませる術に欠けるから興行には不向きなんだよ。シューターがビックマネーは稼げないのは、（カール・）ゴッチを見れば理解できるだろうしな。

――たしかにゴッチさんのレスラー人生は不遇でしたね。

**ローデス**　でも、ゴッチは日本では「神様」とか呼ばれているんだろ？　そんなの冗談じゃないね！　そりゃあゴッチは（ルー・）テーズより強かったかもしれない。けど、彼はアメリカではエンターテインメントスタイルでファイトしてたこともあったし、シューターだけでは貫けなかったんだよ。

――ローデスさん的には、プロレスラーにはシューターの技量は必要ないと思っているのですか？

**ローデス**　いや、シューターとしての技量も、もちろん必要だよ。昔はよく「プロレスなんてショーだ！」とか騒ぐバカを、賞金をエサにリングに上げたんだよ。コンボイトラックのアンちゃんや、アームレスリングのチャンピオン、街のゴロツキとか、そんな連中をブッ飛ばせば、そんなこと騒ぐバカがいなくなるからね。

――昔はそんなアトラクションが頻繁に行われていて、油断したミスター・レスリングが指を食いちぎられたって物騒な話を聞いてますよ。

**ローデス**　アトラクションの割にはデンジャラスだよな（笑）。だからこそ、シューターの技量がないといけないんだよ。

――ローデスさんも当然、挑戦を受けたんですか？

**ローデス**　オレもよくやったもんさ。やんなかったら客だけじゃくて、他のレスラーにもなめられるからな。なめられたらこの商売はおしまいなんだよ（キッパリ）。オレが覚えてる限りでは、そんなことやった最後のシューターはアドリアン・アドニス（故人）じゃないかな。

――しかし、シュートの話になってから、ガ然テンションが上がってますね（笑）。

**ローデス**　ガッハッハッ！　どうしても血が騒いじゃうんだよなぁ（笑）。

――昔を思い出しますか（笑）。いまではUFCなどのシュート興行がアメリカでは行われてますけど、ローデスさんは御覧になってるんですか？

**ローデス**　最初はたまに見てたよ。個人的な感情で言うと、レスラーが出て負けると気分が悪かったな。だったら「出るな！」って言いたいね！

――負けるなら出るな！　ごもっともです（笑）。ちなみにローデスさんが知る限り、UFCでも通用した当時のレスラーって誰になりますか？

**ローデス**　（即座に）それはレイスだろ！　UFCなんかにレイスが出たら大変なことになるだろうな！

――殺人パンチと呼ばれたレイスの拳は、UFCでも通用しましたか！

**ローデス**　いや、勝つか負けるかはわからないよ。

――微妙な言い回しですね（笑）。

**ローデス**　というか、さっきも言ったけどレイスは本当にヤバい人だったから、試合の枠を越えて暴走するのは間違いない。だから、大変なことになると言ってるんだよ（不気味に笑って）。

――シュートを越えたファイトなんて、興行として成立しないですよ（笑）。

**ローデス**　まぁ、もともとシュートファイトなんてのはお客を楽しませる要素が薄いから、興行として成立しにくいもんだと思うよ。だからこそ、プロレスに取り入れるのは余計に難しいと思うんだよな。

インタビュー終了後、ローデスは185センチ、135キロの巨体を揺るがせケビン・サリバンとブルロープ・デスマッチで対戦した！　ローデスは流血を強いられたが、最後は必殺のエルボードロップでサリバンを撃沈ッ！　試合終了後、余韻を楽しむかのようにしばらくエプロンで佇んでいた。ん〜ッ、アメリカン・ドリームッ！

"The American Dream"
**Dusty Rhodes**

――ローデスさんが考えるプロレスラーという職業は、強さを追求するのはもちろんだけど、大前提にお客を楽しませるエンターテインメントなハートがあるのが理想像なんですね。

**ローデス**　ただ、勘違いしてほしくないのは、リングだけに専念されても困るんだよ。いまの日本はどうかは知らんが、アメリカではいまも昔もテレビがパブリシティのすべてと言っても過言じゃないほど大切なんだ。リングでパフォーマンスをする前に、自分で考えたセリフを限られた時間内にカメラに喋って試合に火を付けないといけない。喋れんレスラーは、リングでどんなにいいファイトをしても真のスターにはなれない。だから、頭の悪いやつは一生かかってもスターにはなれないんだ（キッパリ）。

――ローデスさんもトークがうまかったからスターになれた部分がありましたよね。

**ローデス**　オレはホントに喋りまくったからなぁ（笑）。

――「ローデスはレスラーとして恥ずかしい」とか批判も多かったらしいですけど（笑）。

**ローデス**　でもな、実際、WWEの現状を見てみればわかるとおり、トークやギミックにしたって体裁を捨ててないとやってられないだろ？　「こんなことできない」「本当のレスリングにトークはいらない」とか言ってる奴は、この稼業から足を洗ったほうがいい。ビジネスにならないからな。

――さっきはノーコメントでしたけど……息子さんのギミックもビジネスのために体裁を捨ててやってるわけですよね。

**ローデス**　……ゴールダストだっけ？　まぁ、オレも昔はリングでケツを振っていたわけだしな（笑）。

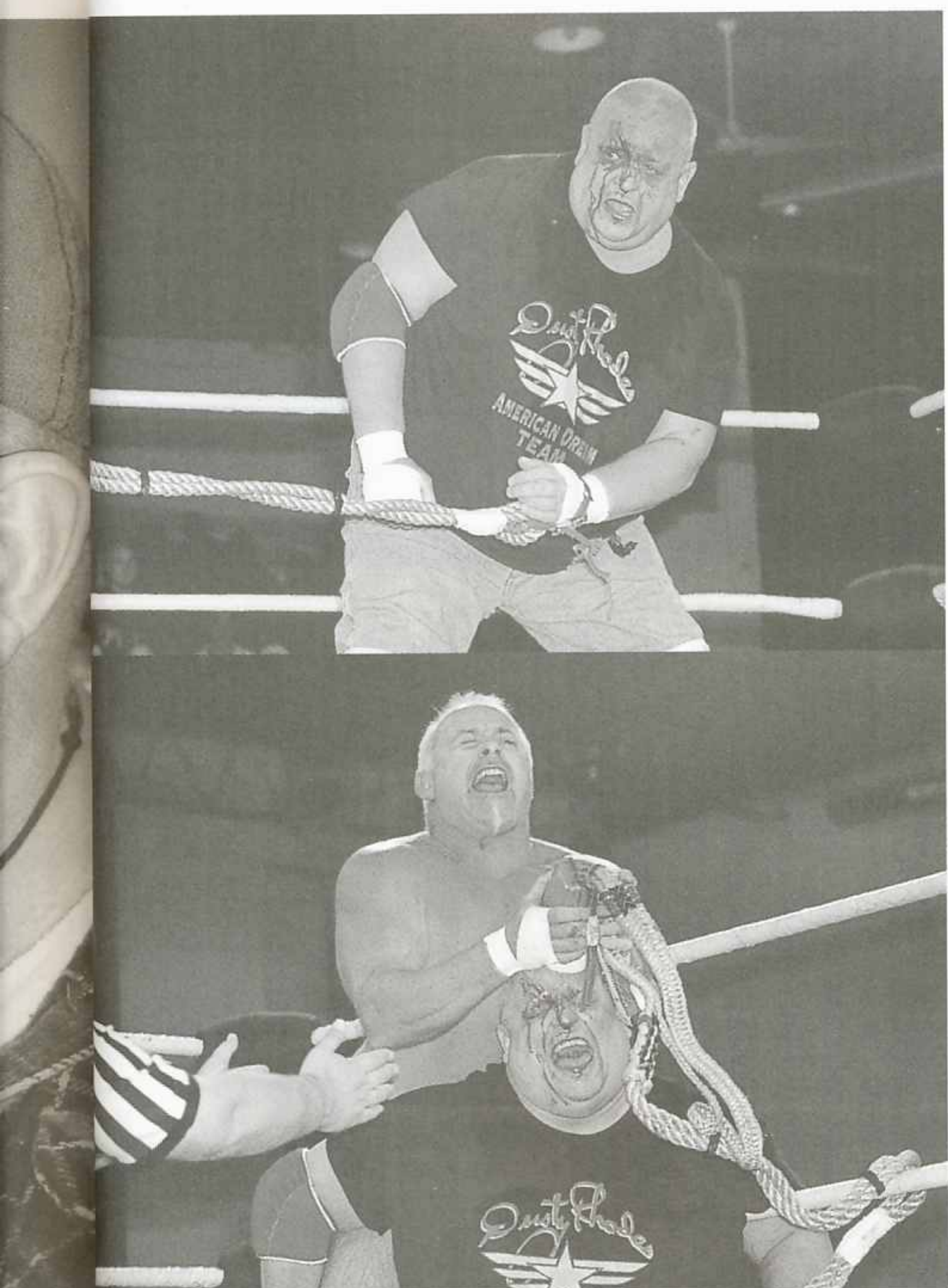
――カブキさんに対抗してペイントしたりしてますもんね（笑）。

**ローデス**　う〜ん、だから、オレも息子には「やめろ」とは強くは言えないんだよなぁ（苦笑）。ホントにゲイになっちまったら、ブン殴って止めようとは思うけど。ガッハッハッ！

――ローデスさんが「息子よ！　目を覚ませ！」ってゴールダストに殴りかかるシーンも見てみたいですよ（笑）。昔はローデスさんもWWFで活躍されてましたけど、またの登場はないんですか？

**ローデス**　どうだろうなぁ……。まぁ、メジャーに上がるといったら、もうWWEしかない状況は状況だよな。

――WWEが全米を制覇しちゃいましたからね。

**ローデス**　ビンスは全米全土に流れるテレビのネットワーク力を丹念にリサーチして、ケーブルテレビに注目していたからね。し

かもビンスは日本に来たときに、日本の全国サーキットのシステムを学習していた。WWEが地区だけに収まらない全米制覇が実行できたのは、その2つの要素があったからだと思うね。

——NWA側の対抗策はなかったんですか？

**ローデス** NWAは各地区を束ねていた組織だったけど、その各プロモーターが団結しなかったんだよな。ビンスの侵攻にプロモーターたちは自分のマーケットを守るだけで精一杯だったし、隣が攻められても対岸の火事だったんだよ。

——WWFvsNWAと言うよりは、WWFvs各地区みたいな対決図式だったんですね。

**ローデス** でも、たとえWWFの侵攻がなくても、古い世代のプロモーターは新しい時代の波に乗り切れてなかったし、昔の因習にとらわれて斬新な企画を興行会社として実行していなかったから、シーンの変化は確実に訪れていたと思うよ。なんとかなりそうだったのはクロケットプロだけだったけど、クロケット・ジュニアには具体的なビジョンに欠けていた。だったらミスター馬場にNWAを託した方がいいとオレは思っていたんだ。

——馬場NWAが最後の切り札だったんですか!?

**ローデス** ミスター馬場はマネーも持っていたからね。だけど、プエルトリコのサンファンで開催された最後のNWA総会で、ミスター馬場に「ローデス、NWAの運営を頼む」って言われてしまってな（笑）。

——馬場さんも見切ってしまったんですね（笑）。

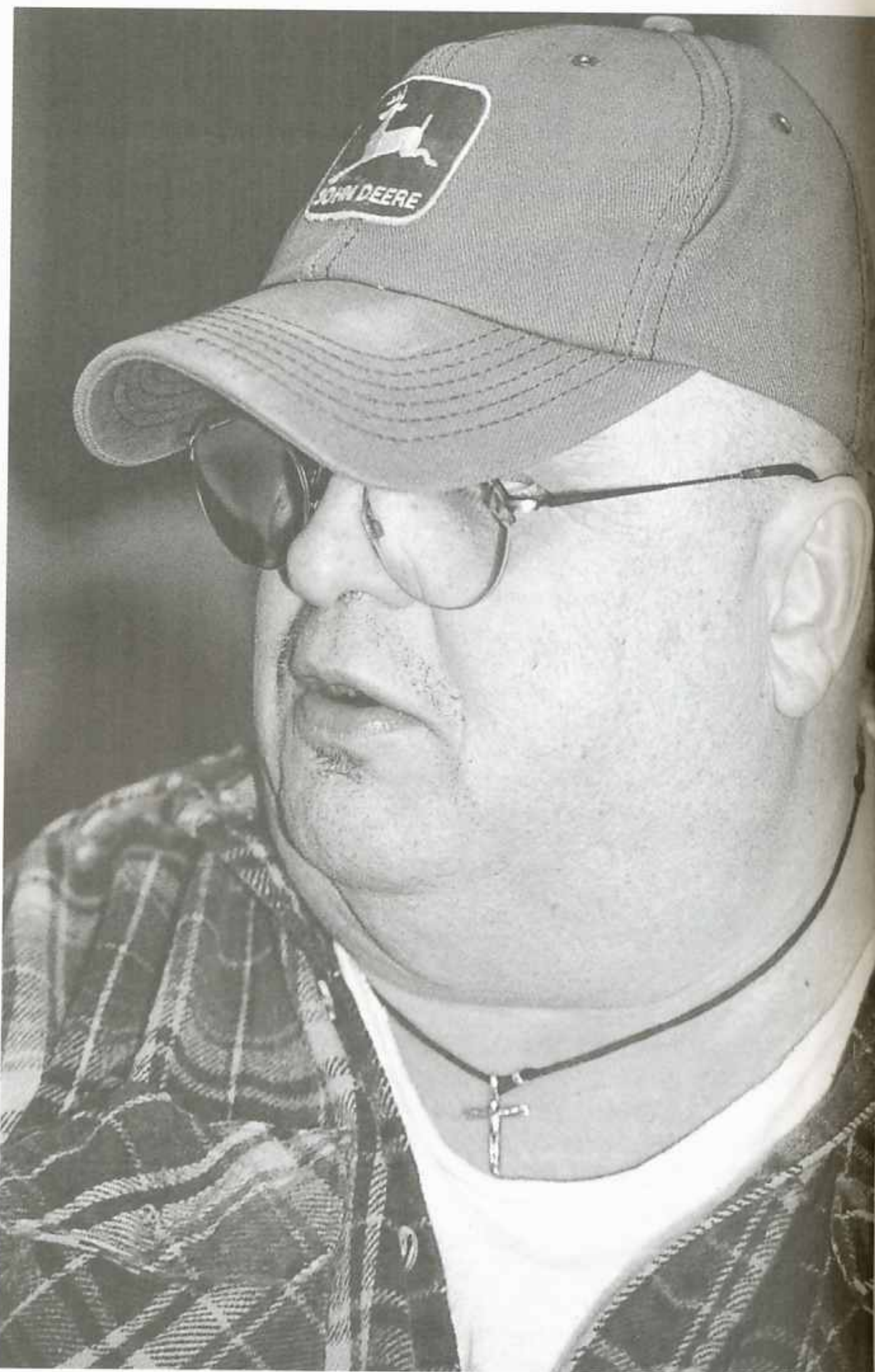
**ローデス** ちなみにそのときの総会に集まったメンバーは、地元のカルロス・コロン、ミスター馬場、そしてオレ。3人だけだったよ。

——たった3人！ 寂しい話ですねぇ。

**ローデス** 結局、最後の砦だったクロケットプロも、テッド・タナーに買収されてWCWになっちまったからな。

——ローデスさんが副社長を務めたこともあるWCWは一時期、WWEを圧倒していた時期がありましたよね。

**ローデス** （不機嫌そうに）WCWは最悪だったよ。レスリングを知らない連中が仕切っていたし、レスラーもやりたい放題だったしね。あれは潰れても仕方ないよ。

## オレは生涯プロレスに携わっていく。オレがリングで動くたびに、いまは亡き友ディック・マードックが語り継がれるからね

インディーながら自ら団体を主宰するローデスおじさんは昨年、ZERO-ONEに挑戦状を送りつけていたことも。元アメリカン・ヒーローのガファリとの肉弾タッグは見たい！ ちなみにスティーブ・コリノと接点があるからか、ローデスのHPにはコリノのコラムがアップされている。内容は各自翻訳！

——今後、たとえば他の団体が台頭したりして、WWE一色の現状が覆される可能性はあると思います？

**ローデス** それはゼロだね（キッパリ）。WWEのビジネスが下向きになることはあると思うが、他の団体が取って変わるということは永久にないだろうな。

——ゼロ！ 永久にない！

**ローデス** もしあるとすれば……政府が介入したときだな。

——法律で制御しないとダメですか（笑）。

**ローデス** けして大げさじゃない。それくらいのモンスターになってしまったんだよ。

——そんなアメリカのレスリングビジネスの状況を、ローデスさんから見てどう思いますか？

**ローデス** 良い事も悪い事もあるな。ビンスが高額なギャラで引き抜いてくれたおかげで、レスラーの年収も大幅にアップしたのは嬉しいことだよ。しかし、その反面、WWEのサーキットが過酷なため離婚したり、ドラッグに手を出してボロボロになったレスラーも多いからな。複雑な心境だよな（しんみりと）。

——光と影があるんですね。ローデスさんはまだまだ現役で頑張るおつもりですか？

**ローデス** 引退のテンカウントゴングを聞きながら涙を流すなんて、オレには似合わないよ。しかもどっかの誰かみたいに平然とまたカムバックすることもな（笑）。

——それは誰への嫌味なんですか（笑）。

**ローデス** ガッハッハッ！ まぁ、オレのいまのテーマは生涯プロレスに携わっていくこと。オレがリングで動くたびにかつてのプロレスが語られ、そしていまは亡き友ディック・マードックも語り継がれるだろうからな。

——素晴らしいテーマですよ、ローデスさん！ 最後に日本のファンへのメッセージをお願いします！

**ローデス** そうだなぁ……。いまを大切にして、夢をいくつになっても持つことだな。そうすればきっとハッピーになれるさ。

——アメリカン・ドリームからのメッセージは、夢を持て、と。

**ローデス** それと、最近はヒップダンスをするレスラーが多いだろ？ オレが本家だってことを日本の新しいファンにも教えてあげてくれ（笑）。

——わかりました（笑）。再び日本での活躍を期待してます！

**【02年11月／アメリカ・フィラデルフィアにて収録】**

1/15~2/15
紙プロ編集部

# マット界×クロスレビュー

CROSS REVIEW

『紙プロ』編集部には3人の鬼がおりました……というわけで、今月も星の数ほどあったプロレスの大会の中から5つを厳選してお届け！ それぞれの視点で各大会を語ることによって、立体的な誌面に出来たらと思います。届け、僕らのこの思い!!

## 今回のレビュアー

### ♠松澤チョロ

いま現在、2月20日の午後11時50分。ハッキリ言って締切はとっくに過ぎてます。しかしながら、まだまだ書いてない原稿は盛り沢山。この本が2月27日に書店に並んでいたら、それはミラクル。もし並んでいなかったら……って、また同じだよッ!!

### ◆堀江ガンツ

前号で掲載した、ボクのライフワークとなりつつある『紙の新聞・語録シリーズ』が好評で嬉しい限り。今号から『紙の新聞』の構成から外れますが、ドラゴンネタだけは担当し続けるので、みなさんこれからもヨロシク。

### ♥ささきぃ

テメェの見る目のなさが露呈しちゃうので、レビューを書くのはしんどいです。そんな時「うちの娘は、ささきぃさんと同じ名前です。大成してください」というおハガキが。頑張って大成して、立派なまな板の上の鯉になります。

## 1.26 パンクラス

『PANCRASE 2003 HYBRIB TOUR』
東京・後楽園ホール
観衆　2300人（超満員札止め）
△近藤有己［2R 判定 1-0］ガブリエル・ベラ△
○三崎和雄［2R 4:51 TKO］ジョー・ダース●
○渡辺大介［1R 4:18 KO］入江秀忠●
○石川英司［2R 判定 3-0］金井一朗●
○大石幸史［2R 判定 3-0］和田拓也●

**大会MVP**
**入江秀忠（もう一丁）**
**個人的満足度**
♠♠

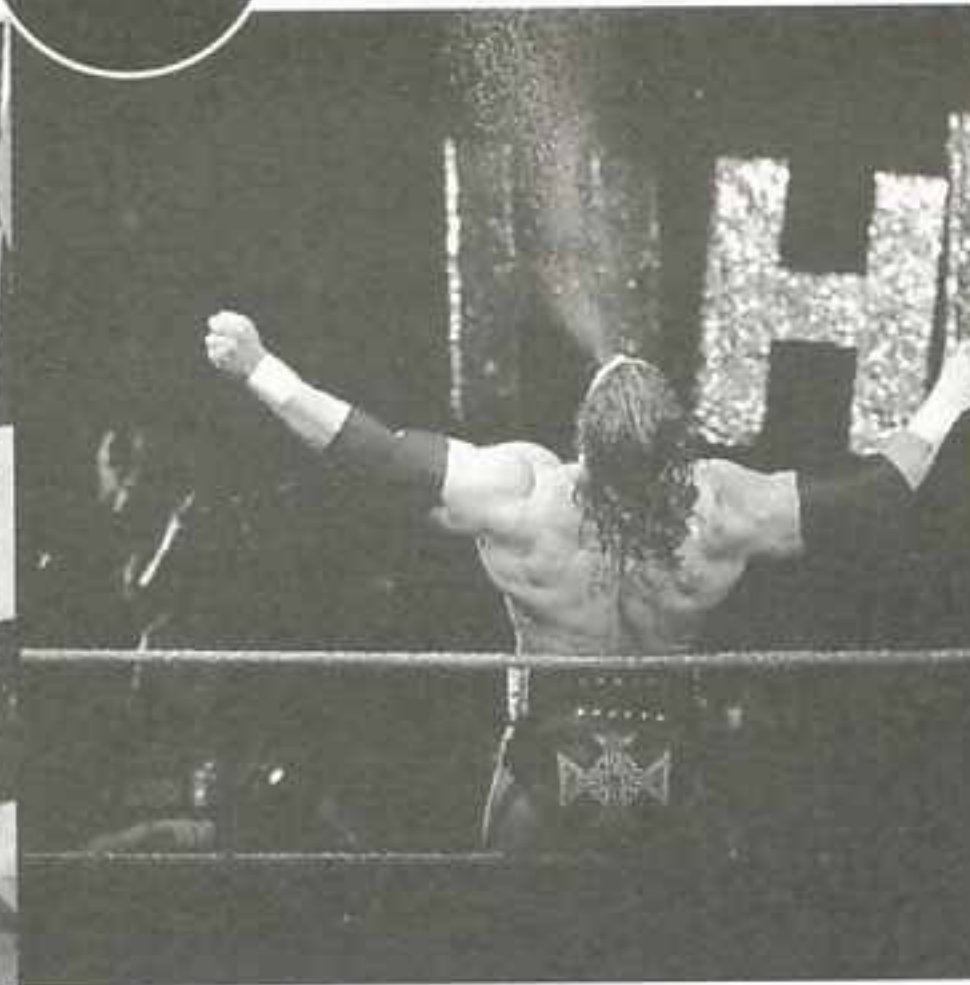
会場の都合とか初参戦だからとか、いろいろあるらしいが最近のパンクラスは何故だか5分2Rの嵐!「ど〜せ判定だろ!?」とか思ってみてると見事にそのとおりなんだから、もう大変! そんな中、なんといっても注目はパンクラス初参戦キングダムエルガイツの入江秀忠。対パンクラスでは自主興行での稲垣戦で勝利を収め、一部（っていうか自称?）で囁かれる寝技最強説を実証して欲しかったところだが、渡辺大介の前にあえなく玉砕。あ〜、ヒクソン戦が見たいよぉ〜（絶叫）。

**大会MVP**
**該当者なし**
**個人的満足度**
◆◆

どんな選手と闘っても勝ってしまいそうな底知れぬ強さと、どんな選手と闘っても負けそうな危うさを併せ持つ、それがボクの近藤に対するイメージ。この日もVT初心者とはいえ、現役バリバリの柔術世界王者より近藤の方が強く見えたのは確かなのだから、もっともっと価値ある試合の近藤が見たいとは誰もが思っていることだろう。しかし、3・8ディファの相手は、パンクラス本戦はまだ2戦目の小谷野に決定……。なんでそ〜なるの!?

**大会MVP**
**判定できず**
**個人的満足度**
**判定できず**

この日は女子キックの大会があったので、そちらへ。勝手な印象ではありますが、同じ女子でも、スマックやAXのリングは、まだ普通の女の子の世界と地続きな感があるのですが、女子キックは、確実に一歩踏み越えた感がありました。ターザン山本氏ではないですが、彼女たちは何を手にしようとしているのだろうと考える中、そのラインを飛び蹴りで超えていった藪下めぐみは鮮やかでした。文句ナシのMVP……パンクラスじゃないですね、はい。

## 1.24 WWE

『Yuke's PRESENTS WWE FAR EAST TOUR JANUARY 03』
東京・国立代々木競技場　第一体育館
観衆　13000人（超満員札止め）
○トリプルH＆バティスタ［19:47　片エビ固め］スコット・スタイナー＆ケイン●
○TAJIRI［16:35　ジャックナイフ式エビ固め］クリス・ジェリコ●

**大会MVP**
**ステイシー**
**個人的満足度**
♠♠

ステイシーなんてナンボのもんじゃい!?なんて思ってたんですが、ごめんなさい。やっぱ生ステイシーは最高！　いくら裏側で選手とイチャついてようが本物のステイシーが美脚を披露しつつロープをまたいだ日にゃ、股間はワールドMAX状態（意味不明）。いくら日本の女子選手が頑張って気合い入れたところで、あれにはかないっこない。ハッキリ言って、ディーバの皆さんが日本マットに大集結してくれたら、黒船どころか、こっちはもう白旗！　赤玉も飛び出すってもんです！

**大会MVP**
**ステファニー・マクマホン**
**個人的満足度**
◆

WWEに◆一つというのは、見る目がないみたいでつけたくないが、普段J-SKY見てない人間が2連戦初日を見たらこんなもんでしょう。ただ、面白かったと言われる2日目を見たとしても、選手のキャラも決め台詞も知らないのだから、感想に大差はなかったと思う。やはりプロレスに予習は必要。ある意味、生観戦というのは、見にくさをテレビで見た記憶と想像力によって補っているのだ。だからターザンの言う「特リンで見ろ」も一理ある。

**大会MVP**
**該当者なし**
**個人的満足度**
♥

非常に眠かったです。予備知識が必要なWWEに、前回に続き全く予習ナシで出かけていった私が悪いのでしょうが、正直あっても評価は変わらなかったと思います。2日目は行く気をなくしてプロレス東西決戦へ行き、小島聡vs金村キンタロー戦にいたく感動。金村の机攻撃を見て「We want table！」コールを起こしていたWWEのお客さんを思いだし「みんなこっちへ来ればいいのに」と思いましたが、どうもそういうものじゃないようです。

# CROSS REVIEW 総評

## 2.15 U-STYLE

『PRO-WRESTLING U-STYLE 旗揚げ興行』
東京・ディファ有明
観衆 1822人（超満員札止め）
○田村潔司［11:46 フロントチョーク］坂田亘●
○村浜武洋［7:13 腕ひしぎ逆十字固め］大久保一樹●
○上山龍紀［8:47 アンクルホールド］伊藤博之●
○滑川康仁［9:14 腹固め］佐々木恭介●
○原学［7:41 チョークスリーパー］木村直生●

## 2.8 全日本プロレス

『2003エキサイトシリーズ』<開幕戦>
東京・後楽園ホール
観衆　2100人（超満員）
【MLW世界ヘビー級選手権】
○小島聡［9:19 片エビ固め］ビッグ・ジョン・テンタ●
○天龍源一郎［5:14 片エビ固め］荒谷信孝●
○ギガンテス&ザ・グラジエーター&嵐［11:50 体固め］武藤敬司&渕正信&ジミー・ヤン●
※メイン後、ZERO-ONE勢が乱入

## 2.2 ZERO-ONE

『GHAFFARY TYPHOON』
東京・ディファ有明
観衆　1800人（超満員札止め）
○橋本真也＆テングカイザー［9:22 体固め］金村キンタロー＆黒田哲広●＋冬木弘道
○トム・ハワード＆キング・アダモ［10:22 片エビ固め］大谷晋二郎＆崔リョウジ●
○KENTA＆ロウ・キー［17:28 片エビ固め］高岩竜一＆佐々木義人●
○ザ・プレデター［6:10 片エビ固め］横井宏考●
※メイン終了後、武藤敬司率いる全日本プロレス四十七士が乱入。これを受けて両団体は全面戦争突入。

---

### チョロ的!! 月間MVP トム・ハワード

この本が書店に並ぶ頃にもZERO-ONEvs全日本の全面戦争は継続中だと思うが、全日本側が嵐という全日本NO.1ガチンコ戦士を投入するなら、ゼロワンも"元グリーンベレー"ハワードを戦地に送り込むべき!(もちろんゴルドー&デンプシーも)。両国のカードが、ああなってしまった以上"ガファリの調教師"ハワード先生の必殺仕事人っぷりに注目!

**U-STYLE**
大会MVP
伊藤博之
個人的満足度
♠♠♠♠

この日はUのテーマでの入場式から観客は何をやっても大盛り上がり。もちろん、メインの田村vs坂田も素晴らしかったが、個人的には上山vs伊藤戦がベストバウト。デビュー以来、いまだ未勝利の伊藤は結果的に見れば、またもや敗戦。ナナチャンチンばりに連敗街道まっしぐらなのだが、上山戦では、その精悍な顔つき、最近自信をつけているキック、そして最近のナナチャンチンに欠け気味の勝利への執着心とともに、これまでの試合の中で文句なしでベスト!　次こそ初勝利だ!!

**全日本プロレス**
大会MVP
土方隆司
個人的満足度
♠♠

中堅どころに活を入れるという名目で結成された本間朋晃&宮本和志のターメリック。それよりなにより、全日本側の土方隆司が相手側のセコンドについた石川雄規に試合の流れを無視して突っかかっていったもんだからビックリ。バト離脱時に石川から届いた破門状、さらには、その際に受けた「侮辱・屈辱・怒り」を全てぶつけ、ドラゴンばりに「許さん!!」と、もの凄い怒りっぷりを見せた土方。全面戦争云々より、この日は2人のドロドロとした生々しいモメ事が一番!!

**ZERO-ONE**
大会MVP
ロウ・キー
個人的満足度
♠♠♠♠

前日の大阪大会から直接向かった『ガファリ・タイフーン』最終戦（主役のガファリは機上の人）のディファ大会。最終的には全日本勢47人登場で乱闘好きのZERO-ONEでも最大規模の争いが見られ満足したが、前日の大阪大会に比べるとその魅力は半減。会場がディファということもあるが、それだけ地方のZERO-ONEは面白すぎるのだ。で、この日の一等賞はロウ・キー。「KENTA、ロウ・キーと代われ!」とのブーイングに応え、一瞬に声援に変えるその動きは、やっぱり絶品!

---

### ガンツ的!! 月間MVP 田村潔司

ボクは格闘家がUWFをやるのは、ある意味、純プロレスをやるより難しいと思っているのだが、この日の大会を見て、改めてその思いを強くした。それぐらいメインとそれ以外の差は歴然。「格闘技＆プロレスができる」のではなく、「格闘技としてプロレスができる」のがU。すなわちそれが「選ばれし者」なのだ。

**U-STYLE**
大会MVP
田村潔司
個人的満足度
♦♦♦♦

この日のハイライトはやはり『UWFメインテーマ』が流れる全選手入場式だった。そこで驚いたのは、客の歓声とムードがU全盛当時と全くと言っていいほど同じだったこと。10年間、地下に潜伏していた"隠れU信者"が、全国から"密航"してきた、そんな表現がピッタリなのだ。冷めていたり、斜に構えていたり、一見さんばかりだったりという会場だらけの現在でこの雰囲気は貴重。燃える2・15、U-STYLEは"密教徒の祭り"だった！

**全日本プロレス**
大会MVP
ギガンテス
個人的満足度
♦♦

新外人ギガンテスやDDT勢＆石川社長の参戦。メインは武藤でも天龍でもなく小島のシングル。そして最後はZERO-ONE三銃士の乱入と、新しい風景が見えたこの日の後楽園。初参戦選手が多かったため技のミスがやたら目立つ格好となったが、こういった姿勢は歓迎すべきこと。試合内容なんて巡業中に練り上げていけばいいのだ。特にギガンテスやスプリガンは拾いモノ。こういう新顔が最終戦で化けるなら巡業形態も悪くない。

**ZERO-ONE**
大会MVP
ロウ・キー
個人的満足度
♦♦♦

毎度集客に苦戦しているディファだが、この日はゼロ族大集合！　となると会場には大槻ケンヂさん言うところの"モテないオーラ"が充満しプロレスファン的には実に心地よい雰囲気。今回、そのモテないパワーの餌食となったのが、ノアのモテ男KENTA。彼に容赦なく浴びせられた野次とブーイングは、「他団体だから」というより、明らかに存在自体を嫌悪してのもの。このKENTAイジメがまた実に"村"っぽくて、実に素敵だった。

---

### ささきぃ的!! 月間MVP 伊藤博之

ゴング直後のラッシュ、というありふれた闘志の表現ながら、非常に説得力があり、他の試合と比べて、決まったラインから逸脱しているような伊藤の闘いぶりが、かえって表現すべき本質を浮き立たせているように思いました。伊藤に絡みつく上山の長い足も美しくて、見ていて気持ちのいい試合でした。伊藤の試合はまた見たいです。

**U-STYLE**
大会MVP
伊藤博之
個人的満足度
♥

ワク線の中にきれいにおさまった、UWFそっくりさん大会にしか感じられませんでした。元ネタを知っている人には、ああこうだったそっくりそっくり、と喜べるのかも知れませんが、UWFをリアルで経験していない自分にとっては、楽しみにしていた観光地が写真よりショボかったみたいな、もの悲しい気分でした。個人的には全く入りこめなかった大会でしたが、伊藤博之vs上山龍紀戦は、今月一番印象に残った試合でした。詳しくは別枠で。

**全日本プロレス**
大会MVP
石川雄規
個人的満足度
♥♥♥

一番驚いたのはやっぱり石川社長の登場。土方隆司との因縁など、2人が向かい合うまですっかり忘れていました（第一因縁なのだろうか？）。必要以上にヒートする2人の対決は、今後も楽しみで、そして、他団体の中に混じると、石川雄規という人の変人ぶりが際だっていました。考えていたよりもずっと面白かった開幕戦。でも、ジミー・ヤンがギガンテス＆グラジエーター＆嵐と闘うのは、仕方ないかもしれないけど、ちょっと気の毒でした。

**ZERO-ONE**
大会MVP
ドン荒川
個人的満足度
♥♥

全日本だよ全員集合！　にはやっぱり驚きました。一本取られたという気分で嬉しくなったのですが、後の報道ではなぜか47人ということになっているのを見て、しらけた気持ちになりました。どう見ても47人はいなかったし、増やすこともないし、強引に四十七士にしなくてもいいのでは。MVPは、この日スティーブ・コリノとの夢の対戦が実現したドン荒川さんに。全日本勢が乗り込んできた時にも、気合いで対抗している姿がステキでした。

# 半額 紙のプロレス 本誌 Back Number

### 第8号 1994年1月号
**特集 さらば新日本プロレス**

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス&天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

¥700 ⇒ ¥350

### 第16号 1995年6月号
**特集 新日本凸凹大学校**

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斎藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

¥780 ⇒ ¥390

### 2000年4月
**情念～夢一途なり～石川雄規**

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。

¥2100（送料込み）

### 第13号 1995年3月号
**特集 道場破りとは何か？**

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄&上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

¥780 ⇒ ¥390

### 第17号 1995年7月号
**特集 実況パワフル北朝鮮**

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木&永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

¥780 ⇒ ¥390

### みんなで遊べる付録付き!!
**さくぼん**

総238ページ

サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集! 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか! とばかりに付いています!

01年4月 ¥1500（送料込み）

### 第14号 1995年4月号
**特集 神秘とは何か？**

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

¥780 ⇒ ¥390

### 第19号 1995年9月号
**特集 さようなら紙のプロレス**

『紙プロ』を偲んで…ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ&高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

¥780 ⇒ ¥390

### パンクラス公式読本[矛]

9 7年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！ 鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！

¥1260 ⇒ ¥630

### 第15号 1995年5月号
**特集 インディペンデントの逆襲**

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

¥780 ⇒ ¥390

### 極真魂溢れる16人を直撃!
**極真とは何か？**

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／盧山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

¥1530 ⇒ ¥800

### パンクラス公式読本[盾]

9 7年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！ 船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！

¥1260 ⇒ ¥630

---

### No.50
**早く試合がしたい!! サクが笑えば、世界が笑う!!**

●「地方初世界」開始! 小川直也&橋本真也
●充電完了! 桜庭和志が久々の登場!
●パンクラス取材解禁! “尾崎の野郎”も初登場!
●I編集長が新日本に三くだり半!
菊田早苗／大仁田厚／小島聡&NIGO／アレクサンダー大塚／リングスロシア軍団の軌跡

02年5月 ¥880

### No.51
**ZERO-ONEに願いを! 7・7決戦迫る!**

●両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
●『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
●天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
●“男の中の男“が本誌初登場! 謙吾
小川直也／プレデター／田村潔司／鈴木健／小笠原和彦／ZERO-ONE中村部長／I編集長

02年6月 ¥880

### No.52
**見えない鎖を引きちぎれ! 行けーッ、小川アアアッ!**

●全身プロレスラー・高山善廣
●「トゥーッ!」の素顔を暴露! Mr.フレッド
●USAの渡世人 ドン・フライ
●田村潔司「美濃輪戦を決めた3つの理由」
小川直也／橋本真也／武藤敬司／ロシアン・トップチーム／ブラジリアン・トップチーム

02年7月 ¥880

### No.53
**灼熱の格闘技ダイナマイト! 世紀のビッグイベント『Dynamite!』を直前大解剖!!**

●夢の対談が実現! 高山善廣×美濃輪育久
●独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
●爆裂!! 川村龍夫UFO社長語録
桜庭和志／小川直也／武藤敬司／高阪剛／クレージーMAX／サムソン・クツワダ／一宮章一／トム・ハワード／スティーブ・コリノ

02年8月 ¥880

### No.54
**ノゲイラ表紙初奪取! 不平等の時代を克服した者こそ英雄になれる!!**

●“ミスジャッジ”に猛抗議! ホイス&エリオグレイシー
●“青い目のケンシロウ” ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
●OHビーム発射! 橋本真也×小笠原和彦
ゴールドバーグ／ボブ・サップ／マリオ・スペーヒー／田村潔司／坂田亘／小原道由／猪木快守

02年9月 ¥880

### No.55
**高田が“最後”に選んだのは田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!**

●「真剣勝負」発言から7年…運命の男が独白!! 田村潔司
●最後の実力者が遂に『PRIDE』参戦! 金原
●メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
●初冬のドームにサクラは咲くか!? 桜庭和志
橋本真也／大谷晋二郎／ノゲイラ&スペーヒー／A・コピィロフ／サスケ&TAKA／佐山聡

02年10月 ¥880

### No.56
**愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!**

●田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け! 高田延彦
●蘇れ!Uインター伝説!! 安生洋二&金原&高山善廣
●高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
●『紙プロ』に風がふくぜぇ～! 鈴木みのる
ニック・ボックウインクル／大谷晋二郎／N・ジョーンズ／TAKAみちのく×カズ・ハヤシ／鈴木健

02年11月 ¥840

### No.57
**一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!**

●サップと地峡規模のタイマン勝負!! 高山善廣
●新たなる“U”が始動!! 田村潔司
●悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
●“北尾戦・セメントマッチの真実” ジョン・テンタ
ハシフ・カーン／武藤敬司&関係者X／ターザン山本×鈴木健／マチダリョウト／佐伯『DEEP』代表

02年12月 ¥840

### No.58
**新春特大号!! 「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!**

●夢幻のファンタジー対談実現!! 武藤敬司×船木誠勝
●Uスタイルって何なのさ? 田村潔司×高阪剛
●Uインター取締役トリオが再集結!! 宮戸×安生×鈴木健
●カルガリー発トンパチ師弟! ハシフ・カーン×ミスター・ヒト
TAJIRI／CIMA／ヴォルク・アターエフ／三島☆ド根性ノ助／語録で振り返るマット世界2002

03年1月 ¥880

---

### 通販申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

**【郵便振替】**
**00130-3-769154**
**（株）ダブルクロス**
**【現金書留】**
**〒151-0051**
**東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス**

●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

**※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。**

●送 料
1冊＝310円、2冊＝380円
3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

※代引きを開始しました。詳しくはP160を参照してください。

### 紙のプロレス 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■リングスパレス
■バディスラム
■タコシェ
■レッスル渋谷
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■ワールドスポーツプラザKINGS
・池袋 ・大阪
・渋谷WEST ・札幌
・新宿 ・福岡
・名古屋
■グレートアントニオ
■東京イサミ

★『紙のプロレス』 NO.1～NO.7／NO.9～NO.12／NO.18／NO.21～NO.22 『猪木とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』『大山倍達とは何か?』は完売!!

# 紙のプロレス RADICAL Back Number

contents

『紙プロ』、『リンタマ』、『RADICAL』誌上で展開された前田日明の怒濤のインタビュー集!! 養老孟司、イエローキャブ野田義治、撃墜王・坂井三郎、エンセン井上とのスペシャル対談も収録!! 日明兄さんがブレーキの壊れたダンプカーの如く放たれる言霊はエネルギー満点です

前田日明復活を願う読者の皆様
## "インタビューという名の鉄拳史"をお読みになってお待ちください

¥2000（税込み・送料込み）

**No.5** 97年8月 ¥680
高田延彦、樹海へ……初めてのヒクソン戦直前大特集!
●ドン荒川vs藤原喜明"昭和新日対談"
●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
●世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡
長与千種＆ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー

**No.10** 98年6月 ¥680 完売間近
大和魂は連鎖する―前田日明vsエンセン井上 各方面に波紋を投げかけたスクープ対談!
●松永高司vsザ・グレート・サスケ夢の経営者対談
●冬木弘道「プロレスを進化させるとWWFだ」
●元リングスレフェリー北沢幹之引退記念
谷津嘉章／桜庭和志／前田日明／ダイアナ／宮内美穂

**No.15** 99年2月 ¥780
目を覚ましてください!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!
●A級戦犯か、それとも真の革命児か!? 佐山聡
●前田日明inUSA カレリン戦前のシアトル特訓！浅草キッドの熱烈応援文
●S多重アリバイ・佐野なおき／Mr.K
A・カレリン／高阪剛／馬場さん追悼／語ろうマサ・サイトー／A・浜口親娘／北原光騎

**No.16** 99年3月 ¥780
格闘ノストラダムス'99 エンセン井上のプロレス雑誌表紙奪取記念号
●環境問題を『紙プロ』で語る!?―アントニオ猪木
●語ろうジャンボ鶴田
●相撲多重アリバイ・石川孝志
前田日明／高阪剛／坂田亘／M・コールマン／石川雄規／村上一成

**No.24** 00年2月 ¥840 完売間近
頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE.GP』特集
●田村潔司がグレイシー討伐を公約!
●船木vsヒクソン座談会
●WWF大検証!
猪木・鶴田・前田・高田らが黒船を語る!
●サスケ×矢追純一UFO超私極宇宙対談!
桜庭和志／堀辺正史／守山竜介／太刀光／嵐／中西百恵

**No.29** 00年7月 ¥840
「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア解禁! 方舟の舵を取るのは誰だ!? 秋山準初登場!
●今度はホイス戦! 桜庭和志
●プロレススーパースター列伝・仲野信市
●本誌独占ジャンボ鶴田夫人真実を語る!!
三沢光晴／ノア勢フルメンバー／村上一成／ボビー・ホフマン／TKおかん／里村明衣子

**No.31** 00年9月 ¥840 完売間近
真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!! 歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
●桜庭和志×高阪剛のトークバトル中継!レフェリーは浅草キッドだ!!
●川田利明語録
●プロレスという物語について・ダン・スバーン
小川直也／高山善廣／谷津嘉章／堀辺正史／永源遙／ユセフ・トルコ／島田裕二／田村潔司

**No.32** 00年10月 ¥840
本誌は"新プロレス"を独占します!! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
●田村潔司に快勝!―A・ホドリゴ・ノゲイラ
●打倒プロレス同盟結成!? 青柳政司×小路晃
●藤波辰爾語録
●プロレススーパースター列伝
前田日明／桜庭和志／山本喧一／金原弘光×滑川康仁／本田多聞

**No.34** 01年1月 ¥840
プロレスは「闘い」を忘れた時に老いてゆく!!「猪木祭り」「長州vs橋本戦」をまくり!
●UFCミドル級王者ティト・オーティズ
●プロレススーパースター列伝・ミスターヒト
●修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
小川直也／高田延彦／桜庭和志／薮下めぐみ／ボブチャンチン&オバチャンチン／田中正志／紙プロ大賞2000

**No.35** 01年2月 ¥840
ジャングルを守るだけじゃなくジャングルをつくれ!!「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
●ZERO-ONE始動!橋本真也×アレクサンダー大塚
●プロレス界統一コミッショナー(就任予定)馳浩が爆弾発言!!
●プロレススーパースター列伝・ジョー樋口
坂田亘／成瀬昌由／滑川康仁／大仁田厚／小路晃／杉浦貴／堀辺正史／田中正志

**No.36** 01年3月 ¥840 完売間近
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!! 面白くなきを面白く! 純プロレス復興記念号
●ノアから独立『PRIDE』参戦!高山善廣を確認せよ!!
●桜庭和志初のシウバ戦ド直前!!
●KOKをしゃぶりつくせ! 5大企画で大総括!!
金原弘光／ノゲイラ／ヴォルク・ハン／レナート・ババル／TK／田村潔司
三沢光晴／橋本真也／前田日明／大山峻護／W☆ING／ザンディグ／ジニアス×ハリー・レイス／鋼野ゆき江

**No.37** 01年4月 ¥840 完売間近
長州!! 本性出せんのかオラッ!! 小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
●アブダビコンバット2001―大探検記! 菊田早苗／田村潔司×ヘンゾ・グレイシー／シェイク・タルヌーン王子
小川直也／橋本真也／桜庭和志／成瀬昌由×山本憲尚／村上一成×小路晃／堀辺正史／石川雄規

**No.38** 01年5月 ¥840 完売間近
高田の"忘れ物"は小川!!ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」 5・5小川と長州はどちらが孤独だったのか!?
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子エメリヤーエンコ・ヒョードル
●プロレススーパースター列伝・阿修羅原
●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー
高田延彦／グンダレンコ・スベトラーナ／力皇猛／杉浦貴／佐藤正道／谷津嘉章／ジミー鈴木／高山善廣

**No.39** 01年6月 ¥840
どうなるんだ、リングス! 前田isデッド!? すべての"騒動"に前田日明総帥が答えた!
●選手離脱後の前田道場新エース・金原弘光／滑川康仁
●怪物か!? それとも……藤田和之座談会
●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
秋山準／山本憲尚／小川直也／成瀬昌由／田上明／石川×臼田×島田／DEEPとは何か

**No.40** 01年7月 ¥880
開戦間近! 猪木軍vsK―1に見たいものは"地上最強のプロレス"
●蘇れ! Uインター&キングダム伝説!高山善廣×金原弘光[前編]
●本当か? 本当なのか!? この叫びを聞け! 大谷晋二郎
●プロレススーパースター列伝・グラン浜田
小川直也／三沢光晴／橋本真也／サスケ／郷野聡寛／坂田亘／上山龍紀

**No.41** 01年8月 ¥880
Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来! どうする「日本のプロレス」!!
●リングス10周年大会! ハンがリングスを振り返る
●真樹日佐夫×三池崇史巨頭対談が実現!
●W☆INGの真実・茨城清志
小川直也／高山善廣×金原弘光／／WWF座談会／辻よしなり／秋山準語録

**No.42** 01年9月 ¥880 完売間近
猪木なら何をやっても許されるのか!? アントン総帥の言葉はマット界にとって"福音書"か? "テロ行為"か!?
●失われた"新日本"がここにある!ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
●大反響!"ヒャッホー"辻よしなり
●蘇れ! UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
高田延彦／谷津嘉章／カト・クンリー／マァ☆ティン／WWF上陸直前特集

**No.43** 01年10月 ¥880
サクと『PRIDE』のケツに火がついた!! 10・8猪木と小川が「純プロレス」と「純K-1」にリンクを張った!!
●ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー
●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
小川直也／桜庭和志／谷津×グッドリッジ／中野巽耀／須藤元気

**No.44** 01年11月 ¥880
ノーモアBADアングル!! サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
●プロレススーパースター列伝・グレート小鹿
●その修羅場の数々! シーザー武志
●怪物伝承! 高山善廣&杉浦貴
ハンス・ナイマン&ディック・フライ／田村潔司／闘龍門大特集／E・ヴァラビーチェス

**No.45** 01年12月 ¥880
「K-1vs猪木軍」は命懸けのエンターテインメントだ!!『紙プロ』旗揚げ10周年&RADICAL創刊5周年記念号
●『ケーフェイ』以来の爆弾本投下!ミスター高橋本特集!
ミスター高橋独占インタビュー／前田日明、ミスター・ヒト、佐山聡が「悪魔の書」を語る!
●ジェラルド・ゴルドー人生相談
●葛西純／ウルティモ・ドラゴン／望月成晃／A大塚／金原弘光／矢野×須藤／グレート小鹿／語録で振り返るマット界2001

**No.46** 02年1月 ¥880 完売間近
PRIDE.LOVEをぶち壊す男!! 時は来た! 田村潔司、『PRIDE』へいざ討ち入り!!
●さらばリングス! 金原弘光／浅草キッドの「おつかれさんでした!」
●"ならず者"がDEEPで快勝!―エル・カネック
●プロレススーパースター列伝・キラー・カン
●金メダルを落とした男・小林孝至

**No.47** 02年2月 ¥880
WWF日本侵攻5秒前! 激動の新日本、怒りの急展開を読む!!
●"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
●第一次リングス閉幕特集
●プロレススーパースター列伝・ストロング金剛
大谷晋二郎／小笠原和彦／葛西純／K-1中量級／サスケ／ミスフィッツ

**No.48** 02年3月 ¥880
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
●奇跡のメガトン対談実現! 小川直也vsノゲイラ
●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
小川直也／武藤敬司／ミスター・ポーゴ／ウォーリー山口／ジョシー・デンプシー

**No.49** 02年4月 ¥880
この夏に究極の格闘技大戦争勃発!? マット界灼熱の噂!
●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
●凄! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行! 破壊王も火のヤリ特訓だ!
レッスルマニア座談会／CIMAvsドス・カラスJr.／ウォーリー山口／小畑千代

★『紙のプロレスRADICAL』 NO.1～NO.4／NO.6～NO.9／NO.11～NO.14／NO.17～NO.23／NO.25～28／NO.30／NO.33は完売!!

# リング内・リング外の情報を読者にお届けする RADICAL情報局

## 大会★GUIDE

### >>>ミルコvsサップ決定!! "新体制"K-1が超ド級のカードを放つ!!

K-1、2003年一発目の大会メインは……ボブ・サップvsミルコ・クロコップ!! 2月14日、都内ホテルで会見が開かれ、3月30日のさいたまスーパーアリーナ大会カードが発表となり、ボブ・サップvsミルコ・クロコップという、超ド級のカードが正式決定したことが明らかとなった。その他対戦カードは右の通り。大会詳細は次号!!
★問：K-1事務局 03-3796-2977
※チケットは2月15日より各プレイガイドにて絶賛発売中!!

**アルゼK-1 WORLD GP 2003 in さいたま**

**3月30日（日） 試合開始 16:00**
**会場：埼玉・さいたまスーパーアリーナ**

1.ヤン"ザ・ジャイアント"ノルキヤ VS エヴジェニー・オルロフ
2.レミー・ボンヤスキー VS ビヨン・ブレギー
3.レイ・セフォー VS ペレ・リード
4.ピーター・アーツ VS ステファン"ブリッツ"レコ
5.アーネスト・ホースト VS "X"
6.ボブ・サップ VS ミルコ・クロコップ

### >>>三沢vs小橋実現!! NOAHはこのカードで勝負に出る!!

大会同日、同じ首都圏でＷＪ旗揚げ戦、K-1 WORLD MAXが開催される3月1日。翌日はZERO-ONEの両国大会も控えているという、このマット界を揺るがす興行戦争に、NOAHは三沢光晴vs小橋建太というNOAHの"王道"カードで勝負に出る!! ＧＨＣヘビー級ベルトの行方は!?
★問：プロレスリングNOAH 03-3527-5311

**3月1日（土） 試合開始 18:00 会場：東京・日本武道館**

| | |
|---|---|
| GHCヘビー級選手権 | ★（王者）三沢光晴 VS 小橋建太（挑戦者） |
| 現在発表済みカード | ★秋山準&斎藤彰俊 VS 本田多聞&杉浦貴<br>★高山善廣 VS 井上雅央<br>★小川良成 VS スコーピオ |

### >>>スマックガール、六本木ベルファーレに殴り込み!!

昨年末、ライト＆ミドル級トーナメントを大好評のうちに終えたスマックガール。2003年より『Third Season』として、あらたにスマックガール第3章がスタートする。会場も六本木ベルファーレに移した今大会……久保田有希VSエリン・トーヒルが決定ッ!! 前回スマックでは、復帰第一戦で思うような闘いが出来ず涙を流した久保田。強豪トーヒル相手に勝利をおさめることが出来るか!? また、今大会試合前＆休憩時に、ミドル級チャンピオン・辻ちゃんこと辻結花のサイン会を開催!! Ｔシャツ・DVD等の購入者が対象となる。

**決定対戦カード**

| | |
|---|---|
| SGSルール | ★久保田有希（荒武者総合格闘術） VS エリン・トーヒル（米国） |
| SGGルール | ★薮下めぐみ（SOD女子格闘技道場） VS 真武和恵（和術慧舟會） |
| SGSルール | ★玉井 敬子（SOD女子格闘技道場） VS 照井和瑛（フリー） |
| SGSルール | ★坂口一美（GF2） VS 酒井真紀（チームアトラス） |
| スペシャルマッチ | ★ナナチャンチン（チーム南部） VS X |

**SMACKGIRL Third Season-I**

**3月3日（月） 試合開始:19:30 東京・六本木 ベルファーレ**
（営団地下鉄日比谷線・都営地下鉄大江戸線「六本木」駅下車徒歩1分）
◇ベルファーレHPアドレス:http://velfarre.avex.co.jp/
◇チケット料金:ロイヤル VIP指定席:20,000円（食事付き）
VIP指定席:10,000円 SRS指定席:5,000円（当日500円増）
スタンディング:2,500円（当日500円増）
◇問:スマックガール実行委員会Tel:03-5545-4766

次回は4月2日（水）、同じ六本木ベルファーレで開催予定。

スマックガールの新しい試みとして、アマチュア大会が開催されることが決定。明日のヒロインを目指す女子が気軽に試合を経験できる場所として、広く参加を募集している。出場資格は18歳以上の感染症のない健康な女性であれば、プロアマを問わない。今後は、スマックガール本戦の行われない奇数月（5・7・9・11）の土日・祝に開催予定。3月大会の参加はすでに締め切っているが、大会は無料で見学できる。

**『SMACKGIRL－F』 3月1日（土） 18:30開始**
※Fはfirst-step, fresh, future, fortune, fight 等の略
会場:東京武道館・第二武道場（東京都足立区綾瀬3－20－1）
（営団地下鉄千代田線「綾瀬」駅下車 徒歩五分）
問:スマックガール実行委員会（Tel:03-5545-4766）

## セミナー★GUIDE

### >>>塩崎レフェリーのカリスマテクニックセミナー開催!

PRIDE・リングス・コロシアム・DEEP・LEGEND等、様々なリングで裁いてきたカリスマレフェリー・塩崎啓示氏がテクニックセミナー＆トークショーを行う。世界の一流選手が実際に駆使する高度な技のあらゆる極め方を伝授してくれる。格闘技初心者からプロ選手、またはレフェリーを目指す人……どんな人が受講しても、格闘技について新たな発見が出来るセミナーになること間違いナシだ。

**『第7回 田道場サブミッションレスリング大会』**

| 3月1日（土） | 3月2日（日） | 3月9日（日） | 3月21日（金・祝） | 3月30日（日） |
|---|---|---|---|---|
| 18:00～22:00 | 13:00～17:00 | 13:00～17:00 | 13:00～17:00 | 13:00～17:00 |
| ◇会場:慧舟會西道場九州本部 | ◇会場:広島市・安佐南区スポーツセンター柔道場 | ◇会場:総合格闘技道場コブラ会 | ◇会場:秋田県立スポーツ会館4F柔道場 | ◇会場:愛知県岡崎市体育館柔道場 |
| ◇住所:福岡市東区馬出2－2－33 ルポ馬出1F | ◇住所:広島市安佐南区沼田町伴4720－1 | ◇住所:大阪市福島区吉野4丁目26－8 | ◇住所:秋田市八橋運動公園1－5 | ◇住所:愛知県岡崎市六名本町7 |

★申込方法:現金書留にて前もってC.F.C.事務局まで申し込むこと。当日受付も行うが、各セミナーは30名を越えると募集締切となる。セミナーへは軽く運動できるような服を持参しよう。
★料金:4000円 ★申込・問:C.F.C.事務局 〒444－0835 愛知県岡崎市城南町3－2－26 TEL 0564-51-2055

また、3月8日（土）にはJR長野駅東口すぐの「ドリーム・コロッセオ」にて19時よりトークショーが行われる。トークショーについての問合せはファイティングワールド（TEL：0265-34-2170）まで。

こんにちは。薄着になる春先を前に激太り中の情報ページ担当・ささきぃです。今年の3月は大会やイベントがたくさん。プロレスファン・格闘技ファンともに大忙しになりそうです。情報はこのページでチェックして、会場へノリ込め～。では、よろしくです。

## ブッコミ ノリノリ★NEWS

### ■ZERO-ONEが、社員・練習生を募集!

破壊王のもとで働くまたとないチャンス到来! そして練習生も募集、プロレスラーになるチャンス! 君も山笠Z"信介に続け!
★社員は18歳〜30歳くらいまでの心身ともに健康な男女。詳細は面接にて、普通免許所有者優遇。
★練習生は身長175センチ以上、体重は不問。年齢24歳以下の心身共に健康な男子。社員・練習生ともに希望者は電話連絡をした後、写真貼付の履歴書を以下の住所に郵送のこと。(練習生希望者は上半身及び全身写真も同封)
★郵送先:東京都港区芝2-30-11 コトブキビル6F ZERO-ONE事務所「社員・練習生募集」係
★問:ZERO-ONE 03-5730-3401

### ■髙田道場がサブミッションレスリング大会開催!

回を重ねるごとに問い合わせ・参加者も増えている、髙田道場主催のサブミッションレスリング大会。申込〆切は3月3日(月)!!
『第8回髙田道場サブミッションレスリング大会』
★日時:3月9日(日)
★受付・計量13:00〜/試合開始14:00〜
★会場:株式会社 髙田道場(東急目黒線「武蔵小山駅」下車 徒歩3分)
★参加資格:❶高校生以上の頭部に障害、及び感染症のない健康な男女 ❷格闘技歴1年以上の方 ❸週2回以上、練習をしている方 ❹格闘技歴をきちんと明記している方
★参加費:登録料(初回のみ。髙田道場生は除く)1000円 一般・外部道場生1500円 髙田道場生1000円
★申込・問 株式会社 髙田道場 〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 03-5749-5030

### ■IWAジャパン8周年記念代々木大会、ビデオ&DVD発売!

『松野レスラーデビュー会見』から『大会前日、狂虎シンが花園神社で浅野社長襲撃!!』まで、約半年間に渡る記者会見(二丁目劇場)の数々を織りまぜながら、10月1日8周年大会の主要カードを収録!! また、10月18日後楽園ホール大会(新ゴージャス松野登場、MAYA引退式)、12月1日後楽園ホール大会(一宮VS松野シングル決着戦)なども収録。
『I.W.Aジャパンプロレス8周年記念 嵐の10・1代々木大会!?』
★価格:(DVD・VHSともに)¥3810(税抜)
★問:IWAジャパンプロレス 03-3352-3366

### ■和田良覚&平直行のスペシャルトークライブ!

平直行と和田"最強"良覚の2人がトークイベントを行う。この2人によって行われるジムトレーニング「ピース」とは何か!? そして「U.W.F」とは何か!? ナマの和田さんトークを聞きにいこう!
『ピースがピークにやってくる! スペシャルトークライブ』
★日時:3月7日(金) 20:00〜
★場所:スポーツコミュニケーションバー「ピーク」(東京都港区六本木3-10-4 六本木パークビル4F ※ステーキハウス瀬里奈本店前)
★入場料金:3500円(ワンドリンク付)
★問:ピーク 03-5785-0868 (19:00〜5:00)
★「ピーク」HPアドレス http://peak_tokyo.tripod.co.jp/

## イベント★GUIDE

### >>>夢の顔合わせが実現!! 浅草キッドと佐山聡、4代目タイガーマスク、勝間田具治がHMV渋谷で超豪華トークイベント開催!!

『タイガーマスクDVDBOX』の発売を記念して、ドえらい組み合わせのトークイベントがHMV渋谷で行われる。ゲストは、タイガーマスクといえばこの人、初代タイガーマスク・佐山聡、現在の4代目タイガーマスク、そしてTVアニメ「タイガーマスク」の演出家、勝間田具治の3人。司会はなんと……浅草キッド!! しかも、トークショー閲覧は**無料ッ!!** これは行くしかない!!

このイベントに先駆けて発売された『タイガーマスクDVDBOX1』(第1話〜36話収録)をイベント開催日までに渋谷HMVで購入し、当該DVDに封入されている特典引換券を持参の上イベントに参加すると、佐山聡&四代目タイガーマスクのサイン入りポスターがもらえてしまう!! DVDを購入して、3月2日はHMVへレッツゴー!!

**3月2日(日) 15時〜**
◇場所:HMV渋谷 6Fイベントステージ ※トークショーは閲覧自由
◇出演者:初代タイガーマスク・佐山聡、4代目タイガーマスク、アニメ「タイガーマスク」の演出家・勝間田具治、浅草キッド(MC)

## ピリリとスパイス効いてる読者ページ

# 紙プロ元気大学

ターメリックって、和名で「うこん」って言うんですね。いきなり微妙なマメ知識を披露してしまいました、読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。熱くてスパイスの効いた、ターメリックのような読者ページを目指して頑張ろうと思いますが「オレの目にはしょっぱい塩水にしか写ってない（by荒谷）」と言われないように気を付けます。全日本は面白いなぁ。それでは、はじまりはじまり。

獣神 in 熱湯CM

（大阪府・松浦伸宏）
「先月号を買う前に本屋で中身をチェックしていたら、ガファリのネタがかぶってるのを知って、はずかしかった。ささきぃさんに、はずかしめを受けているようでした。カワイイ顔してSですか？」➡さぁどっちでしょう。ふふ。いつでも真っ赤に燃えるライガー選手。真霜拳號戦は見たかった。熱湯ぐらいザブンと行ってくれそうですね。

## 校内巡回

【『紙プロ』58号・面白かった記事】

◎語録で振り返るマット界2002◎
★あれだけ『紙プロ』に貢献している代表取締役はいない！（長州力風）
（栃木県・横田貴之・25歳・会社員）
★これを見る限り昨年のMVPはサップじゃなくて、ドラゴンでしょ？ でもそうすると永遠にドラゴンがMVPか。
（東京都・八武崎貴広・19歳・大学生）
➡年が変わっても、突然肉体改造をブチかましてくれたり、木村健悟の引退試合の相手を務めるのを拒否したりと、どうにも止まらないステキなドラゴン。そんなドラゴン（と、健介選手）の魅力あふれる「語録で振り返るマット界2002」が、前号の一位でした。以下、どれも人気だったイリュージョン対談への感想を中心に、順不同でお送りします。

◎船木誠勝×武藤敬司対談◎
★楽しく、夢のある、またプロレスの醍醐味を伝えていただきありがとうございます。今回の対談は普段聞くことのできない昔の裏話などや2人のプロレスに対する思いを知ることができたので、とても読みごたえがあり、魅力溢れる対談でした。
（鹿児島県・中村光輝・25歳・会社員）
➡「船木の表紙だけで買った」など、船木選手の『紙プロ』登場を待ち望んでいた方からのご意見がたくさん届きました。船木選手のヒゲは役作りのためだったそうです。

◎宮戸×安生×鈴木健対談「Uインター、もう一丁！」◎
★めちゃめちゃ面白い。この特集だけで本を出して欲しい。まさにUインターの人間が今の日本を救うと言っても過言ではない。
（大阪府・山内義久・34歳・自営業）
➡格闘技・プロレス界を救うって言うならともかく、さすがに過言ではないでしょうか。でもまぁいいや。夢はでっかく（？）。

◎田村潔司×高阪剛「TK・対談」◎
★田村さんのインタビュー記事などを読む度に、ストイックで格好良いイメージが田村さん自身の発言によってどんどん壊されていくのですが、それすらも愛しく思えるようになりました。今後もどんどん田村さんの記事を載せて下さい。
（東京都・佐々木恵美子・22歳・フリーター）
➡格好良いところだけを見ていた恋の時代が終わって、何を見ても愛しく思える愛の時代に突入したんでしょうか。田村選手は、アンナミラーズが結構好きという噂をキャッチしたのですが、それを知っても愛しいですか？

◎ハシフカーン×ミスター・ヒト対談◎
★面白かった記事は「ハシフ×ヒト」対談。理由は、渕と川田があらためて「●な奴」だとわかったから。
（和歌山県・山田雅巳・37歳・会社員）
➡面白かったと言っていただけるのは嬉しいんですが、もうちょっと遠回しに表現してくれないと、さすがにそのまま載せるのに気がひけます。

◎掟ポルシェ『業☆勝ちます』◎
★テレショップ辻も良かったけど今号は掟ポルシェの『業☆勝ちます』がベストでした。トイレット博士の例え話がとてもいいですよ。モテる・モテないはその人次第ですよ。「バイクとメタルと長州力」？？？ そんなものよりも三度三度のごはんをキチンと食べようよ！ つうかそんなヒトいるの？
（熊本県・松本卓・26歳・元少年警察官）
➡じゃあ、調べてみよう！ ということで、週プロのバックナンバーをチェックしてみたところ、本当に「三度のメシよりプロレスに興味のある方、一度語り合いしましょう（206号※この人は男女問わずでした）」「新日プロのファンの方、手紙をヨロシク（202号）」「U系が好きで、全女について いろいろと教えてくださる女性の方、文通しましょう（男性が教わる立場なのがスゴイ。584号）」など、コクの深いメッセージが溢れかえっていました。が、某シッシーの「もっとも私は年齢こそ31になるが、外見的にはまず若く見られるから、知らない人は20代なかばぐらいだと思うはず」（210号）と、代は現代国語も古典も通信簿では5をマーク」「高校時余計な己語り満載のメッセージに気を取られてしまい、仕事が見事中断してしまいました。掟さんのコラムは、非常に説得力のある内容&畳み掛けるようなテンポがとっても心地よかったです。

【『紙プロ』58号・つまらなかった記事】

◎田村×TK対談◎
★なんで横並びなんよ。目ぇ合わせたないがんか。
（富山県・林政弘・36歳・会社員）
➡「目を合わせたくないのか」という意味でいいのでしょうか？ 田村選手とTKが、互いのオデコとオデコを合わせてニッコリしてるような写真が見たいか！（なぜか逆上） まぁ、ある意味見たいんですけども。

★昔、エロビデオや使用済み下着の懸賞は絶対に当たらないようになっていると、いつも言われていましたので、ぜひ「ディーバアンドレスト」を私に当ててください。その事によって、この説が打ち砕かれると思います。
（埼玉県・深田康弘・31歳・会社員）
➡そんな説を打ち砕くために当選させるのはイヤですし、一緒にするのはディーバにもエロビデオにも失礼な気がします。ちなみに、前号のプレゼント一番人気はやっぱりデジカメでした。

★プロレスバカ・剛竜馬エピソード。パイオニア興行の際、剛にサインを求め「パイオニア魂と書いてください」という と「俺のサインは決まっている」と言って、「Do my best」と書いてくれた。が、数年後のオリプロ時代に再び剛にサインを求め「『オリエンタルプロレス』と書いてください」と言うと、何を思ったか英語で書き出して途中で「スペルどうだったっけ？」と聞いていました。頑張れ!!
（神奈川県・佐々木学・37歳・会社員）
➡財布ショアッ！ 業界を揺るがせた剛竜馬のニュース。いくらプロレスバカでも、PBと略するのは、何かが間違っているような気がしました。

★紙プロ58号見てビックリしました。ささきぃさんと高橋がなり社長が一緒の写真に写っていたので、ささきぃさんがAVに進出するのかと思ったら、がなり社長がマット界に進出するんですね。安心しました。おんなのこのいちばん大切なものを守り続けてください。
（i-モード投稿・高屋 秀匡）
➡心配してくれてありがとう。当面、出演の予定はないですし、多分、ニーズもないです。ていうか、世の中、いろんな物事の見方をする人がいるんだなぁと感心しました。

東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』
「たまにはエンターティナー」係

（東京都・進藤央司）➡11歳からのおたよりです。ノゲイラの首がちょっと怖い&宛名が少し違っていますが「『紙のプロレス』大好き」と書いてあるのでノー問題。次回はチャンピオンシップだ、ノゲイラ。

### 今月の 紙プロ元気大学調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位 ボブ・サップ
2位 田村潔司
3位 桜庭和志
4位 高山善廣
5位 ケンドー・カシン

新年一発目のランキングはCDもCMも絶好調のボブ・サップが第1位。田村潔司、桜庭和志、高山善廣と続いた後、小笠原先生劇場、ぬるま湯Tシャツとヒットが続くケンドー・カシン選手がランクイン。『紙プロ』インタビューに出てきたことないのにスゴイ。6位には、前号インタビューが評判良しの辻ちゃんこと辻結花選手がランクインしてるんですよ。女性としては大快挙です。嫌いな選手はヴァーッて感じなんですが（？）、強力ライバルに某『W-1』の主力選手が登場しました。いやーん。
（1/28～2/12到着分調べ）

### 紙プロ58号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 語録で振り返る2002マット界
2位 武藤敬司×船木誠勝対談
3位 Uインターもう一丁！ 宮戸×安生×鈴木健対談
4位 田村潔司×高阪剛"TK"対談
5位 月刊Y2談（ターザン山本×吉田豪）

「この企画を1年待っていた」という気の長い感想も届いたドラゴン語録、じゃない、語録で振り返るマット界2002がトップ。続いて、古き良き新日本話爆裂の武藤×船木対談、ラッパ先生がややおとなしめのUインター対談、ダブルTK対談と続きました。5位にランクインの月刊Y2談は、なぜかブッチギリでワースト1位に。理由&おもな感想は、今月のY2談のページをご参照ください。

### 今月の 今日の日はさようなら～

紙プロは読者をののしる珍らしい雑誌だ。ある意味面白いが、マゾではないので、買うのはやめた。自分の中で面白さと不快さのバランスが逆転したので。900円も払うのアホらしくなった。さようなら。

（魔界村3丁目・日昇の隠し子1号）➡失礼があったらいけないので、隠し子がいるかどうか、会長（山口日昇のあだ名）に聞いてみたところ、思い当たるフシはないそうです。買うのをやめればすむことなのにわざわざ絶縁状。最後の「でも今まで楽しませてくれてありがとう」が、いい人っぽい&別れて意地を張る女性のようでちょっとナイスでしたので、掲載しました。

## 『紙プロ』58号アンケート
## あなたは『WRESTLE-1』をどう評価しますか？

◎◎◎前号のアンケートハガキで募集した『W-1』への感想です◎◎◎

**★TVで放送していたら観るが、お金を払って観に行こうとは思わない。**
（東京都・蝦名憲幸・31歳・アルバイト）

**★ホーストなどのK-1戦士が出るのはいやだが、みんなもり上がっているのでいいんじゃないかと思う。**
（鹿児島県・節政徹也・14歳・学生）

**★マスコミを読む限り「三振」だったみたいだけど、あれは空振り三振でしょうな。少なくとも新日ドームみたいな見送り三振ではない。同じ三振でもホームラン狙いのフルスイングだったらそれ自体が絵になる。次回、半端にヒット狙いしないことを願う。**
（青森県・青木雄大）

**★TVで観る分にはいいと思うけどな～。なんで悪者にするんだろ？　プロレスにお金出してくれる人を悪く言うな。（破壊王調）**
（東京都・平岡肉仙・49歳・宮大工）

**★よしもと新喜劇みたいだった。**
（兵庫県・中田智子・26歳・主婦）

**★明るい未来が見えません。**
（石川県・浅田浩伸・32歳・団体職員）

**★試合がダメすぎる。考え方は良い。**
（藤沢市・野村直人・34歳・会社員）

**★もうやらない方がいいかも。**
（東京都・仲山勉・30歳・会社員）

**★TVで観ましたが、その辺のバラエティ番組と一緒でした。**
（神奈川県・甲下雅也・33歳・犬の散歩）

**★いいよ！　いいよ！　その調子でガンバレ！って感じ！（よそ見）。**
（大阪府・千本一博・20歳・自由業）

**★闘龍門の時間がTVでもっと長くあればよかったのに。**
（岩手県・内田一郎・30歳・会社員）

**★一般の人が面白けりゃ、それでいい。マニアはカンケーないよ。**
（静岡県・森上訓行・31歳・会社員）

**★雑誌に載せてもらいない事を書かせて頂きます。今日の東スポで、紙プロの広告を見ました。一番上の「プロレス村よ、『WRESTLE-1』を笑えるのか？」には、笑ってしまいました。プロレスに対する姿勢は、貴紙もレッスル1と同じです。編集内容も興業内容も子供だましで低俗ですね。素人が編集者をしたり、試合に参加してますよね。プロレスファン、関係者は、紙プロとレッスル1を同列項だと考え、大笑いしてます。自分のフリを見てから、他者を批判して下さい。そうすれば他者から、マスコミもどき、とは言われませんよ。**
（ｉモード投稿・罵紙のプロレス）

**★メイン以外は楽しかったが、メインのサップVSホーストは、プロレスではなくK-1ルールでやるべきだったと思います。**
（群馬県・柳田和久・37歳・会社員）

（埼玉県・三瓶学）

➲前号の武藤インタビューの後のせいか、おおむね好評、というか「姿勢は買う」というような意見が多かったです。ダメな人は「×」とか「最低」とかだけで短く、コメントもしたくないような感じの感想だったのが印象的でした。さて、アナタにとっての『W-1』は、どんな感じでしたか？

（大阪府・英加直純）➲英加画伯のステキな切り絵です。ヨダレがたれている、リアルなアントン総帥。還暦なのにいまだアントン衰えず。どうなる新日本、そしてどうなる5・2ドーム。まぁ、ホントは別に心配してないですけど。

（埼玉県・中川雅博）「この絵は『猪木祭り』で猪木にスネ相撲で勝った山本梓さんという方がフラビージョを演じていらっしゃるという意味であります」➲これまたえらくマニアックな。ダニエルがあとでサインを求めていたりするシーンがあったかもしれません。ちょっといい話（なのか？）。

（神奈川県・大谷琴音）➲これまた若い12歳の女子からのイラストです。おコジが好きなんですね。よかよか。鉛筆描きだとかすれてしまうがある＆印刷でうまく出ないことがあるので、ペン描きを奨励します。また送ってね。

（愛媛県・鈴木ユージ）➲見てすぐ誰かわかるアナタはかなりの闘龍門ファン。12月の後楽園大会で明らかになった、しゃちほこマシーン参号＆四号の中身です。美形双子がしゃちほこマシーン。なんてゼイタクな……。

## ほんとにジョーク？

（静岡県・目ガ覚メタロウ）➲これまた実は「ほんとにジョーク」あてのおハガキ。このテングがちょっと気に入ったのでこちらに掲載。意味のわからない若者はムリしてわかることもありません。

（埼玉県・立川談スパーン）➲「保田圭TシャツのＸＬ希望」だそうです。やさぐれ外人2人。絵であからさまにバレバレだとは思いますが、埼玉県の立川談スパーンさんからのおハガキです。……ま、本人がそう言うなら私もそれで通します。残念ながら、『紙プロ元気大学』に奪われてしまったので、また送って下さい。

## お詫び中

●『紙プロ』58号のクロスレビュー内において「ニッカンスポーツの丸井乙生さん」という記述がありましたが、これは「スポーツニッポンの美人記者・丸井乙生さん」の間違いでした。丸井さんおよび関係者の皆様に深くお詫びします。スンマセンでした。

●同じく前号の読者ページで内で「K-DOJOからの年賀状が3枚届いた」という記述がありましたが、実は4枚、藤田ミノル選手も所属するF-wordsさんからも年賀状が届いておりました。仰天かつ深くお詫びさせていただくと共に、こちらに掲載させていただきます。1団体から4枚。うーむ。

## 衣料部・Tシャツ 自慢コーナー

（静岡県・目ガ覚メタロウ）「中川画伯特製『村上和成Tシャツ』＆『魔界倶楽部トレーナー』を村上和成選手、柳澤龍志選手に見ていただきました。柳澤選手は『かっこいいトレーナーだねぇ』とのお言葉。村上選手は『うおっ！』と感嘆の声。村上選手、柳澤選手、そして中川画伯、誠にありがとうござい魔す」➲初登場の柳澤選手。次はやっぱりあのちっちゃい人登場でしょうか？（ガード固そうだな）しかし、もうすっかり目ガ覚メタロウ氏の顔は覚えられているのだろうなぁ。魔界マスクの男として。いつもありがとう＆ｉモード加入ありがとう。

## 追悼　ザ・シーク

➲アラビアの怪人ザ・シーク。またひとり、マット界は貴重な人材を失ってしまいました。鈴木さんのイラストはずっと前に届いていたものなのですが、いまあらためて掲載です。合掌。

（東京都・いしどやじゅん）　（愛媛県・鈴木ユージ）

（愛知県・たっつぁん）『ほんとにジョーク』記念すべき第20回は私がもらいます。私のイラストが何度『元気大学』に回されてもあきらめません。アイ・ネバー・ギブアップ」➲気合いもむなしく回され（というか私に強奪され）……と思いきや実はとんでもないことに！（いわゆるバラエティ番組風）見事達成しても、投稿はやめないで下さい。

## おハガキ・お便り・メール大募集!!

**あなたは「ぬるま湯軍団の大ボス」に向かって「熱いじゃねーか」とつぶやいてしまったことはありますか？　私はありません。さて、青木雄大画伯は「ネタ切れのため」お休みでした。私も大変残念です。画伯～、ファイッファイッファイッ。毎号、イラスト多めの月と文章ばっかの月とバラバラの読者ページは、いつでもアナタのハガキがたよりです。次回は3月1日＆2日の興行戦争の感想など聞きたいものですね。このへんの大会のイラストなどあると嬉しいです。その他、すべての宛先は、**
**メールは radical@kamipro.com**
**〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス**
**紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「うこん竜巻」係まで。**

（本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと）

中川雅博 爆笑連載!?

# ほんとにジョーク

第20回

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

## 愛知県春日井市　たっつぁん

★たっつぁんさん、採用オメデトーッ!!　御希望の「タイガー・ジェット・シン」Tシャツ（L）、お楽しみに!!
★1月13日に愛犬、華子（柴犬メス16才）が老齢性突発性抹消性前庭疾患になりました。死んでしまうと思って、とても落ち込みました。ヤケ酒ならぬ（お酒が苦手なので）ヤケ“カプチーノ”です。もう元気になったので一安心ですが、お仕事を頑張って治療費を稼ぎたいと思います。モチベーションがあがっております。良い絵をビッシビシ描きたいと思っております。皆さん、ハガキをビッシビシ送ってチョーダイ!!　ハガキが欲しいのよ。お願いしま〜す。
★抽選で5名様に「中川雅博手づくりステッカー」を、採用された方にはTシャツをプレゼント!!　いつ何時、誰のTシャツでもつくるぞコノヤロー!!　どーですか？　お客さーん!!

➡前号のTシャツ 星野総裁

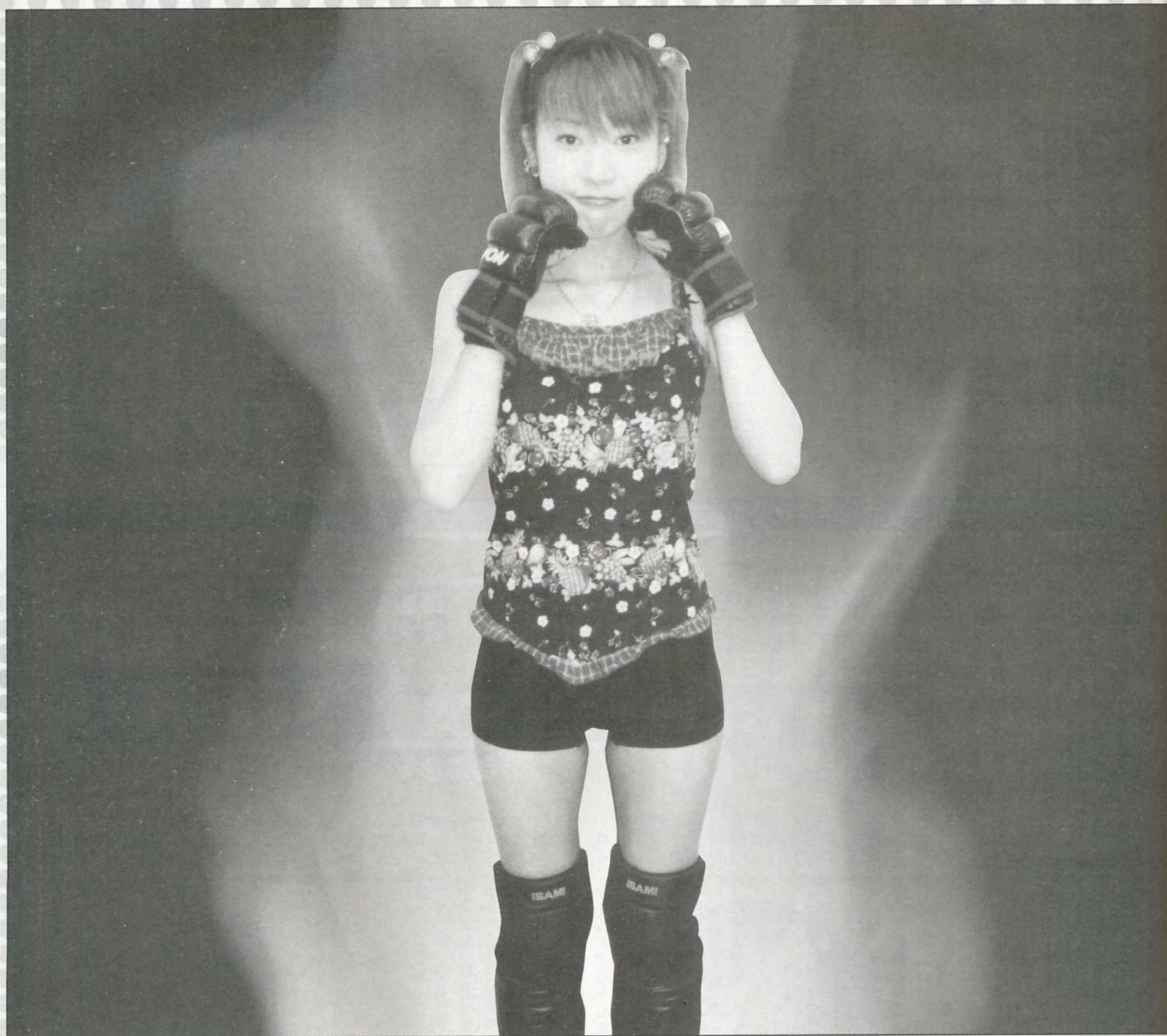
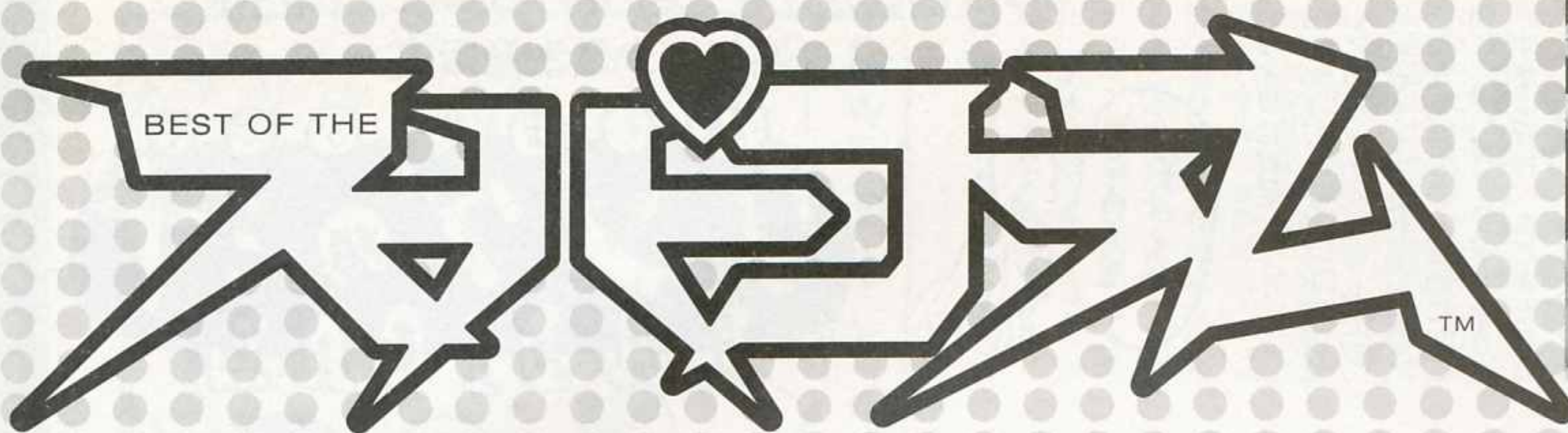
Governor
HOSHINO Kantaro

**応募方法**

プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。
毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。
原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S･M･L･XL）をハガキに書いて下さい。　〈例〉シュガー佐藤のS

コラム担当チョロの職権乱用＆熱烈応援ページ

# BEST OF THE スパコラム™

かつて本誌チョロも完敗!!

『紙プロ』や『生ゴン』でもおなじみの

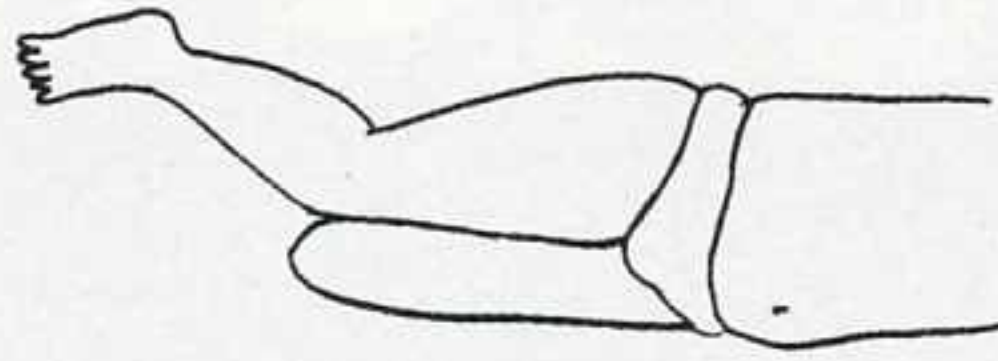
元・“実力派キャットファイター”PP-7

## 坂本菜緒子がついにプロデビュー!!

かつて“実力派キャットファイター”PP-7として『紙プロ』にも何度か登場し、後にサムライTVの『生ゴン』ギャルとして活躍していた坂本菜緒子ちゃんが、ついにプロデビュー！ デビューの舞台はスマックガールでも、TBSの『サイボーグ魂』の格闘技大会でもなく“新感覚の打撃格闘技”R.I.S.E。残念ながら試合は、この本の発売時には終わってしまっているが、ノアヲタの菜緒子ちゃんらしく三沢ばりのエルボーでKO勝ち間違いなし！……えっ!? エルボー禁止なの？

## 「ダメ人間にだけ見えるパートナー」フィギュア、スパ写にて少量生産販売

# 花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

「タイツに裸足」――。ここ数年バーリ・トゥードで見なれてるはずのスタイルだが、西村がやるとなにかが違う。新鮮な気持ちで、画面に、紙面に、吸い寄せられてしまう。さすがは西村、まだまだこれからも西村から目が離せない。サップ、イズマイウ、ジョシュらと西村が絡んだ時（試合外でのやりとり）、どんな空間ができあがるんだろう？ サップのメリハリのあるアジテーションに、何も動じず西村ワールドで受ける西村。イズに哲学を語る西村。ジョシュに「オマエハ　モウ　シンデイル」と言われても、きっと絶妙な返しのコメントを西村は言ってくれるだろう。

花粉症で一日中セキこんでウンザリな今日この頃ですが、楽しみは3つある。ひとつは、いよいよのオースチン復帰。これでしばらくごぶさたしてたWWF（いまはEか）をまた見なくては。

WWFにハマったきっかけは、オースチンとビンスの抗争。はじめは「シャムロックがWWFでどんなプロレスしてるんだろう？」ぐらいの動機でWWFを見てみたのだが、目につくのは、いつもリング上で長々としゃべりまくるビンス。そしてそのビンスと抗争してるらしい、自由を感じさせる暴れん坊キャラのオースチン。何の予備知識もなく見始めたので、他のキャラや話の流れなどわからないのだが、この二人の抗争だけは単純にわかりやすくて面白くすぐに食いついた（外国人が日本にきて、まずは志村けんに食いつくように）。とにかくビンスが面白く、オースチンと闘うことを決意したビンスが『ロッキー』のBGMで特訓してる模様のプロモみたいなの最高だった（その後のWWFのハチャメチャ度UPに比べればおとなしいもんだが、当時はあれぐらいでも十分面白かった）。そしてオースチン、毎週大観衆の前に立ち、豪傑で自由を感じさせるそのキャラは即、私の憧れの男ベスト1に輝いた。ある週の『ロウ』のラストで、会場のあのでかいスクリーンを切り裂いてたあの後ろ姿には、おもわず「ストーンコールドは美しい。」と自分が内館牧子化してしまい、うっとりしちゃったっけ。あれからもう何年も経つが、いまもオースチンは35才の私を無心でミーハーにさせてくれるスーパースターなので、復帰はうれしい。いちど本場で見てえもんです（他に本場で見たいのは、NYの松井と、NBAのでかい中国人ヤオミン）。

ふたつめの楽しみは、3月の『DEEP』。ほんと久々

---

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

# 業☆勝ちます

## 『喫茶店モートーク'03』の巻

超法規的ウルトラ反則技である藤本美貴電撃加入発表、歌えない踊れない以前に挨拶が出来ないニコパチ知らずの問題児軍団6期メン誕生、最早ダン池田とニューブリードの総員数すら凌駕する16人の大所帯でよもやの2分割が決定し、この秋からは『おとめ組』と『さくら組』に別れて2リーグ制活動を展開。21世紀の暴走戦士・モーニング娘。は、遂に狂い咲きの青写真を世間の眉間につきつけてきた。

だが、アレレ？？？　まだなんか、忘れているような……。カントリー娘。の新メンバー募集＆半農半芸の半農の方終止宣言？　りんねはいないわ野良仕事ホッポリ出して東京にホイホイ出て来ちゃうわじゃあそんなの全然カントリーじゃねぇな、それじゃただのローカル出身朴訥娘。だな。そういえばりんねの顔って、バイト先の友達の部屋を不意に訪ねて玄関チャイム鳴らしたらドア越しに顔出して「まぁく～ん（彼氏の名前）、お客さんきた～」とか言いそうな顔だよな。俺は『同棲面』って呼んでるけど。一回ヤッた瞬間から男の家を一歩も出なくなってそのまま棲みついちゃうのが似合う顔っつーか。……いや、そんなことじゃなくてまだなにか大事なことが……あ！　メロン記念日『赤いフリージア』オリコン初登場10位獲得おめでとう！　初回盤が握手券付きで早々にソールドアウトしたから、もっと枚数刷ってりゃ軽く5位以内入ってたよね！……握手会ですか？　ハイ、平日の午前中から寒空の下素人丸出しで並んでましたが、何か!?（半ギレ気味）。

もちろんここで問題なのは、昨年夏の後藤真希脱退報道の陰に隠れて誰もがいい感じに忘れてしまっている、保田圭今春モー娘。卒業のことである。この世の終わりのような後藤ラスト曲『Do It Now』とは打って変わって『ひょっこりひょうたん島』でライトな感じ100％に送り出される保田……って、そんなとこまでオチつけんのかよ！　しかし、保田クビ切りの真意とは一体何なのだろうか？

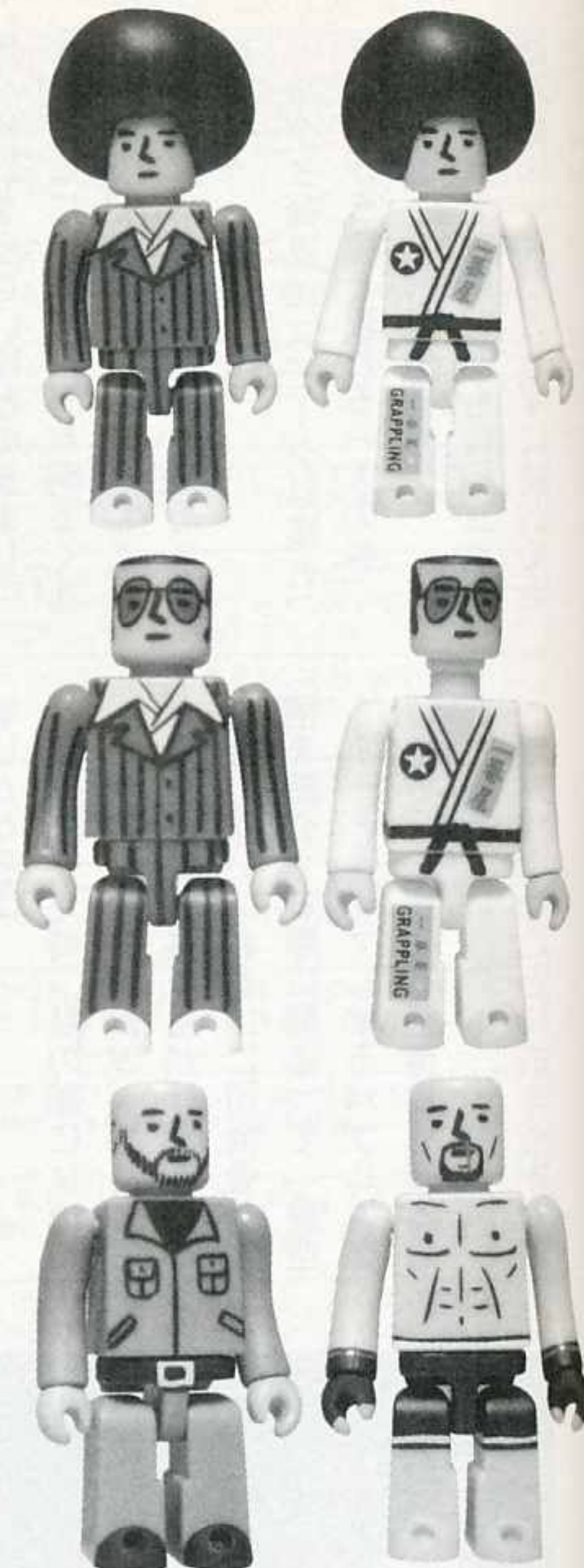
そんなもん、【モーニング娘。とは史上最狂のプロレス団体である】という間違った定理を未だに提唱し続ける『モー格。』者からすれば、答などスッキリサッパリ自明に決まっとるじゃあないの！　モー娘。とプロレスは合わせ鏡のメタモルフォーゼを成すものとして読み解くのが真のモー格。者なのである。

まずは保田圭を＝Yとして娘。の総数（12＋a）を2分割する連立方程式を立ててみよう。昨年7・31に戻って保田が卒業する理由を考える場合、6期メンの人数＝aに代入される値はそれほど重要ではなく、既に大所帯になりすぎて個人が歌いきる分量が減少していき、歌謡曲を「聴かせる」グループとして成立しづらくなったが故に編み出された方策、「2分割制」というアイデアに着目することが解法への近道である。モーニング娘。にはリーダー・飯田とサブリーダー・保田というポジションが既に存在しているのだからして、「飯田チーム」「保田チーム」に分割されるのが順当なはずだが、実際に発表された新編成では保田に代わって「安倍チーム」が誕生。「別々に全国ツアーを行う予定」もあることから考慮して、モー娘。の象徴天皇であるなっちが遂に一国一城の主となる案は納得がいくが、対して娘。のオチを一手に担ってきた保田がリーダーであるチームが地方巡業に来た場合、「B組がドサまわりに来た感」はどうしても否めない。実際、ハロプロコンサートでの保田人気はハー

に即前売り買っちゃった。これはとにかくマッハvs上山に尽きる。こんな刺激的な日本人対決めったにない。ルミナvs今成以来かな。このカード一本で後楽園埋まったようなもんですね。おかげ（？）で修斗も後楽園で昔のようにルミナとか出るようになってよかった。あと木村浩一郎出場には驚き。どうせならスペルなんとかでなく宇宙パワーで出て欲しかった。こうなると、宇宙パワーに入江と、今後の謙吾の相手はたくさんいるね。純パンクラス路線、鈴木＆ライガー＆健介路線、謙吾路線とパンクラスは三本立てメニューのできあがり。

みっつめの楽しみは、イズマイウ魔界入り。よかったね、イズマイウ。これでバンバン毎週テレビ出てくれ。そしてフィギュアができるまでの成り上がりしてね。そしたら、パッケージ破り手にして遊ぶ用と、そのまま保存用にふたつは絶対買うよ。これは俺だけじゃないよ、きっと。直接イズと接触はしたくないけど遠くから見ていたい、イズの人形は欲しい、こんな人、世の中にはたくさんいるよ（たぶん）。

●はなくま・ゆうさく●
BOYCOTTというパルコや丸井によく入ってる店でTシャツ作りました。

ドコアなモーヲタ中心に非常に高いものがあるが、地域産業活性化の観点で一見さんや子供人気を興行成立の第一条件に考えると、大将・保田チームを地元のプロモーターは呼びづらいだろう。

ここでモー格。者ならばプロレス史に既に答が存在していたことに気付かねばならない……「保田圭とは越中詩郎である」ことを！ モー娘。2リーグ制は、明らかに新日本プロレスにおける平成維新軍の失敗を反面教師として分割・組閣されたものである。大所帯になりすぎた新日が越中を大将とした男臭い軍団・平成維新軍を本隊に対する仮想的として創設・分割させたまでは良かったが、大将のここ一番での必殺技が「ケツ」であったりしたため、マニア人気は絶大に獲得しても地方興行での集客アピール力はサッパリ無く、さすがに独立したビジネス組織として成立させることは出来なかった。この故事に依拠すれば、【二つに分けたときに保田がいるチーム＝本隊じゃない＝ヤバい】という評価が衆目一致するところとなる前に、保田を卒業させてしまおうとなったことが推測される。不景気故に時代がお一層オチを否定しシリアスばかりを求めるというなら、なんとも世知辛い話ではある。

保田圭は今後どうなってしまうのか？ Y＝越中であるならば、当然これからWJというかつての盟友・長州の団体に下駄を預けることになる。保田の盟友にして娘。を先に卒業した者のグループといえば……市井紗耶香のキュービック・クロスに加入!? 保田の行く手には暗雲がモックモクと立ちこめているようである。

保田圭

イラスト/中川画伯

●おきて・ぽるしぇ●
ロマンポルシェ。の新曲『下半身警察』を収録したラブソング・オムニバスCD『友達以上恋人未満TV以下』（レスザンTV・￥2500）発売中！ 2月28日には新宿ロフトでCD発売記念ライブやるから来いって！

# ザ・検証

マット界のど真ん中を目ン玉が飛び出るようなストロングスタイルで突き進むマグマ級のプロレス団体と言えばWJ。そしてWJと言えば越中詩郎。越中と言えば『ザ・検証』。と言うわけで次号で越中取材を試みようと動き出そうとしたのだが、背広レスラーからの「『紙プロ』は茶化しすぎるから」とのお達しがあり、あえなく断念……無念。覇ッ!!

## 今月の検証 ――2002年版――
## 木村健悟はなぜ紅白に出場できなかったか？

by せき詩郎

場内の照明が落ちる。何事かとざわめく観客席。しかしすぐにその喧騒はかき消される。耳をつんざくような稲妻の轟音に。

稲妻が光る時だけ見えるステージ。誰かがいる！　しかし一瞬の閃光だけではそれが誰なのかわからない。相変わらず低く、時に高く雷鳴が続く。

その時だった。いままでとは比べ物にならないほどの凄まじい音とともに、ステージが明るくなる。まるで稲妻がそこに落ちたかのようにスモークが立ち込めている。

やがて徐々にスモークは晴れ、その中から姿を現れる一人の男。健悟だ！　木村健悟だ！

場内は大歓声とともに総立ちになった！　間髪入れずに流れるお馴染みのイントロ。そう『らしくもないぜ』だ。

♪そしてあいつと～秋に別れたよ～やけに枯葉が～窓を叩いてた～

健悟と観客の大合唱が始まる。それはいつまでもいつまでも終わることがなかった……。

もし木村健悟が紅白歌合戦に出場したならば。

そう考えた時、私の頭にはいつもこんな光景が浮かぶ。きっと紅白史上最高の盛り上がりをみせるに違いない。おまけに司会者が健悟を紹介する際に間違って「美空……」と言ってしまうハプニング付きで、記録にも記憶にも残ることだろう。

だが残念なことに去年も木村健悟が紅白に出場することはなかった。お馴染みのセリフ「12月31日のスケジュールは空けてあります」。去年もまたそのセリフは紅白に出場するためではなく、ただ家の大掃除をするためだけのものになってしまった。

そういうわけで今回はなぜ木村健悟は紅白に出場できないのかを検証してみよう。それには去年の出場者と出場できなかった健悟を比較するのが一番だ。両者の違いを明らかにすることによって自然と答えがでるのではないだろうか。

検証結果はあえて書かない。答えは表をみながら、あなた自身で探してもらいたい。それじゃあ、私はポケモンやらないといけないので、さようなら！

## 去年の白組出場者と木村健悟の比較表

| 紅白出場者名 | 木村健悟との違い |
|---|---|
| w-inds『NEW PARADISE』 | w-indsって誰なのかよく知らないのだが、いろいろ情報を集めてみるとどうやら若者、特に女性に人気のある人たちらしい。健悟が女性に人気があるかと言えば残念だが少々疑問符がつく。よって彼らの代わりに健悟が出るということは考えにくい。まずは女性ファンを増やすことが紅白出場への近道か。 |
| RAG FAIR『恋のマイレージ』 | この人たちってアカペラだよね？　だよねって誰に訊いてるんだかわからないが、口で楽器の音だしたり、口をすぼめて手を叩きつけ、鼓の音出したり、鈴虫の鳴き声をまねしたり、喉元をチョップして宇宙人みたいな声だしたりするんだよね？　維震軍全員でアカペラ、なんてことは考えにくい。健悟が選ばれなかったのは当然だ。 |
| キンモクセイ『二人のアカボシ』 | これまたよく知らないのだが、そんなことばかり言ってられないので知ってる振りをする。爆音ギターと地を這う様なリズム、そのノイジーな不協和音に絡みつくデスボイス、そんなバンドだ。ところで健悟はバンドではなくソロ。よって彼らの代わりに健悟という考えは選考委員の頭に一瞬ともよぎらなかったに違いない。 |
| 山本譲二『おまえと生きる』 | 甲子園出場経験がある山本譲二。一方健悟には経験がない。歌唱力はひけをとらないのに、健悟にはそういうキャッチーな経歴がないのだ。甲子園ではなくとも国立、花園、ウルトラクイズでアメリカに、仮装大賞、鳥人間、ホットドック早食い、元たけし軍団、などの経歴があればもしかしたら譲二の代わりに!?　……惜しまれる。 |
| 堀内孝雄『かくれんぼ』 | アリスでのちょっとしたロックから、歌謡曲、そして演歌までジャンルを越え幅広く歌う堀内孝雄。日本が生んだオルタナ＆ミクスチャー系の歌手である。健悟も今のジャンルを打ち破り、突然レゲエなど取り入れたりすれば堀内孝雄の代わりに出場ということも考えられるが、現在その気配はなし。 |
| TOKIO『花唄』 | 残念ながらジャニーズにはどう頑張っても人気面ではかなわないだろう。ジャニーズ運動会でドームは埋まるが、新日本プロレス選手の運動会でドームが埋まるであろうか？……いやまてよ、埋まる埋まらないは別としてそんな運動会があったら是非みてみたい。石原軍団運動会でも良い。橋田壽賀子のは気分と体調による。 |
| KICK THE CAN CREW『マルシェ』 | 今やヒップホップ・シーンを代表する存在として君臨するKICK THE CAN CREW。片や健悟はスカウト部長として君臨するもヒップホップとは無縁。あの竹原慎二でさえラップのCD出してるし、橋本の歌もラップといえばラップだ。いまこそ健悟もラップであろう。ラップを身につければ紅白出場が近づくかもしれない。 |
| DA PUMP『RAIN OF PAIN』 | ダンスと歌で見る者を魅了するDA PUMP。果たして健悟にあの踊りができるであろうか？　健悟の試合を見る限り不可能に近いと思われる。よってDA PUMPの代わりに健悟というのは考えにくい。しかし落胆することはない。今日から健悟がダンスを特訓すればよいだけだ（健悟のロボットダンスを想像しながら） |
| ジョン健ヌッツォ東京『マリア』 | また知らない名前がでてきたが、調べるのもいい加減面倒だ。こうなったらまたしても得意の知ったかぶりで逃げるしかない。彼らはジョン健＆ヌッツォ東京という若手芸人だ。NHKのオンエアするやつにも出てた。テレビ演芸ではやすしに酷評もされていた。芸人ではない健悟が彼らの代理として出場することは無理であろう。 |
| Gackt『12月のLove song』 | Gacktといえばクールさが売り物なのだが、健悟にクールさを求めるのは難しい。逆に顔を真っ赤にして蝶野を張り手し維震入りするGackt、後藤、小原の控え室に殴りこんでＴシャツを破られるGackt、Gacktのイナズマレッグラリアート……も考えられない。やはりGacktはGackt、健悟は健悟。Gacktの代わりに健悟は出場できないだろう。 |

| 紅白出場者名 | 木村健悟との違い |
|---|---|
| **鳥羽一郎**<br>『海よ海よ』 | 弟である山川豊に触発され、カツオを片手に上京し、船村徹氏の門を叩いた鳥羽一郎。大阪百万円のように「三重カツオ」という芸名をつけられてもおかしくないほどのエピソードである。大漁旗と維震の旗、鳥羽一郎と健悟に共通点がないともいえないが、カツオの差で鳥羽が選出されたに違いない。 |
| **BEGIN**<br>『島人ぬ宝』 | NHKの朝ドラで沖縄のドラマをやったためか、沖縄出身の彼らが選出された。健悟は愛媛県新居浜市出身。もしも沖縄出身だったら……!? 健悟が出場していた可能性大であっただろう。まったく惜しいチャンスを逃してしまった。悔やまれる。こうなればNHKが新居浜市を舞台にしたドラマを製作するのを待つしかない。 |
| **森進一**<br>『運河』 | 森進一ほどモノマネされる演歌歌手はいないであろう。本人を知らなくてもモノマネは知ってるという人も多いはずだ。そんな知名度が健悟にはない。健悟のモノマネが普及し、「マリオネットの動きの健悟」や「もし健悟が救急車だったら!?」などのアレンジが施されるまでになれば、健悟の出場もあり得なくはない。 |
| **氷川きよし**<br>『きよしのズンドコ節』 | 演歌界のプリンスとして大人気のビジュアル系演歌歌手、氷川きよし。 幅広い年齢層から愛され、特に奥様層からの人気が高い。健悟にないものをすべて持ち合わせている氷川きよしが選出され、健悟落選は当然の結果であろう。しかし幅が狭くて、しかも奥様層以外のファンが健悟にはいる。今こそファンが団結し健悟に力を！ |
| **ポルノグラフィティ**<br>『Mugen2』 | NHKのW杯テーマ曲を歌ったポルノグラフィティ。そんな強力なバックボーンを持った彼らが選ばれないわけがない。一方プロレス界でW杯になんとか関わったのは蝶野のみ。残念なことに健悟は全く無関係であった。もし嘘でもいいからサッカーファンの振りをしていれば、ポルノグラフィティの代わりに健悟がステージに立っていったかもしれない。そんな夢を見てもいいのではないだろうか。 |
| **ゴスペラーズ**<br>『星屑の街』 | RAG FAIRのところでも触れたが、維震軍メンバーが見事なハーモニーを奏でるとは想像できない。例え奏でられたとしても、それはそれでおもしろすぎるというものだ。最高の宴会芸になるだろう。アカペラに限らずバンドでもダンスグループでも維震軍がやることを想像すると、ただただ面白い。改めて凄い軍団だと知る。 |
| **アルフレド・カセーロ&THE BOOM**<br>『島唄』 | これまた沖縄関係！ しかもW杯アルゼンチンチームの公式サポートソングだというのだから、今出場しなくていつ出場するのかというタイミングだったのだ。これに健悟が勝てるわけがない。河島英五のカバーは絶妙のタイミングであったが、島唄のカバーまではしていなかった健悟。残念で仕方ない。 |
| **前川清**<br>『ひまわり』 | なぜ前川清なのか。誰もが疑問を抱いたであろう。もしかしたら前川清クラスの演歌歌手が毎年ローテーションで出場しているのかもしれない。そのローテーションに健悟が組み込まれれば出場チャンスを得ることができるだろう。クールファイブ代わりの維震メンバーを引き連れ、健悟が歌う日は近いかもしれない。 |
| **美川憲一**<br>『湯沢の女』 | 美川憲一といえば小林幸子との衣装対決である。毎回派手な衣装で観客を沸かせている。一方健悟といえば黒いタイツにジャンパー、もしくは袴。健悟がこの二人の間に入りこむことは無理だろう。今すぐイナズマをイメージさせるド派手な衣装を発注して（間に合わなければドリフの雷様の衣装でも良い）関係者にアピールだ！ |
| **平井堅**<br>『大きな古時計』 | 童謡を歌い、それが大ヒットとなった平井堅。この手法を健悟も見習うべきだ！「北風小僧の寒太郎」をムードいっぱいに歌う健悟、「かわいいかくれんぼ」を甘く囁くように歌う健悟、「汽車ぽっぽ」をワイングラス片手に大人の魅力を振りまきながら歌う健悟……そんな健悟にもうすぐ会えるかもしれない。 |
| **CHEMISTRY**<br>『My Gift to You』 | アサヤン出身と新日本プロレス出身。一見さほど差がないように見えるが、紅白出場に関しては大きな差があるようだ。しかもCHEMISTRYにはW杯前夜祭で熱唱という2002年の紅白に持って来いの実績があるのだ。健悟もせめて2002年にタッグのベルトでもとっていれば……それでもCHEMISTRYが選ばれただろう。 |
| **SMAP**<br>『freebird'02』 | 押しも押されぬ人気のSMAP。老若男女、彼らのことを知らない人はいないだろう。彼らがいなければ健悟にももしかしたらチャンスがあったかもしれない!? ……と無理矢理思ってみたりもするが、確か一昨年だかにSMAP出場辞退した時も健悟が出れなかったのだからやはり無理矢理過ぎる。 |
| **谷村新司**<br>『昴』 | 出場理由が「1月に芸能生活30周年記念アルバムをだした」かららしいが、なぜ健悟はこのやり方に気がつかなかったのか！ これは完全に健悟の戦略ミスだ（突然真剣に）。レスラー生活○周年とか、イナズマレッグラリアート○発記念とか、適当に理由をつけたアルバムさえ発売しておけば、谷村ではなく健悟がステージにいたものを。 |
| **細川たかし**<br>『津軽山唄』 | 昨年表立った活動をしていないと思われる細川たかしがなぜ選ばれるのか？ それなら健悟でも良いのではないか？ そう思った人はまだ細川たかしを知らなすぎる（知らなくても良い）。細川たかしは昨年なんと「あーしょっぱい！」が流行語大賞に、じゃなくて日本スキー連盟アドバイザーになったのだから。 |
| **さだまさし**<br>『精霊流し』 | 芸能活動30周年、しかも昨年ツアー3000回という記録をうち立てた、さだまさし。健悟ももしかしたら3000回くらいツアー（巡業）してるかもしれない。しかもバイクで。ただ、さだと決定的に違うのはトーク力の差である。健悟も紅白に出場したいのならば、さだ並みのトークを身につける必要があるかもしれない。 |
| **北島三郎**<br>『帰ろかな』 | 彼の人気を決定付けたのはなんと言っても鮭茶漬けのCMであろう。コミカルな歌とセリフで人気を博し、続いて放映されたすし太郎のCMでその人気は爆発した！ なんていうほとんど嘘に近い経歴はさておき、CMでの知名度アップも紅白出場には不可欠かもしれない健悟が。オートバックス辺りのCMに起用されることを望もう。 |
| **五木ひろし**<br>『おふくろの子守歌』 | 昨年母親が死去した五木ひろし。その悲しみを乗り越え、歌うは「おふくろの子守歌」。トリとして完璧すぎる。ケンシロウ並みの悲しみを身につけている。これにはいくら健悟といえども対抗できないだろう。いつまでも紅白出場できない悲しみをもっと背負った時、やっと健悟は五木ひろしに追いつけるかもしれない。 |

## 今月の検証 by 椎名基樹

# 格闘穴埋めテスト

今回、わたくし椎名基樹は、書くネタもなく、時間もないので、こういうことを思いつきました。題して「ザ・検証 格闘穴埋めテスト」。さあ、みんなも答えて、切り取って送ろう。最高点の人には、わたくし個人から、何か賞品をあげるかもしれないし、あげないかもしれません！

✂ キリトリ

**問1 プロレスとは、（　　　　　　）だ。**

→解答例　プロレスとはゴールのないマラソンだ。（武藤敬司）

**問2 アントニオ猪木は、（　　　　　　）である。**

→解答例①　アントニオ猪木は神である。（石橋貴明 or 蝶野正洋）

→解答例②　アントニオ猪木は狂っていて手がつけられない。（ミスター高橋）

**問3 猪木イズムとは、（　　　　　　）である。**

→解答例　猪木イズムとは逆ギレである。（椎名基樹）

**問4 藤波辰爾は、（　　　　　　）である。**

→解答例　藤波辰爾は何も知らない代表取締役である。（長州力）

**問5 藤波イズムとは、（　　　　　　）である。**

→解答例　藤波イズムとはドラゴンイズムである。（椎名基樹）

**応募方法**

みなさん、難問だらけの今回の「格闘穴埋めテスト」いかがでしたか？ 答えを書き込んだら切り取って、いますぐ、〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 (株)ダブルクロス『紙のプロレス』編集部「ザ・検証」係まで送ってちょ！

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

# 書評の星座

**3月6日（木）、お洒落スポット『三宿WEB』で行われる格闘DJイベントにボクも出演することが緊急決定！　スタイリストの伊賀大介君や音楽ライターの土屋恵介君といった面々と、たまにはターザンから離れて女子にモテそうな活動に挑んでやるって！　……と計画していたところ、WEBの店員から「ターザン山本さんの大ファンなんで、次回のゲストにお願いします！」と頼まれたので、ついでにターザンの来場も緊急決定しちゃいました（涙）。なんでだよ！　料金は500円で夜11時スタートなので、三宿のクラブにターザンがいるというミスマッチぶりを味わいたい方は是非どうぞ。そんな、決して切れない絆の存在に嫌でも気付かされた書評コーナー。　〈e-mail:go@kamipro.com〉**

**『鎮魂歌　FMWはなぜ倒産したのか』**（冬木弘道／碧天舎／1500円）

ここ日本では亡くなった人についてコメントする場合、たとえその内容が真実だとしても故人の不利益になることを口にでもしたなら容赦なく人間失格の烙印を押されがちなものである。

それは、もちろんFMW・荒井社長やPRIDE・森下社長のように「自殺」という形で試合放棄の道を選んだ相手の場合であろうと決して例外ではない。

だからこそ、荒井社長の『倒産！　FMW』（徳間書店）をボクが書評するときも「冷たいようだが、この人はプロレス業界にも社長業に向いていなかった」と書くのにはかなりの覚悟が必要だったし、あれだけでも相当言葉を選んだつもりだが、理不尽大王は**「故人のことを今さら暴き立てるのもどうかとは思った」**と言いながらも、言葉すら選ぶことなく故人を斬って捨てていくのであった。

**「あいつが最終的にとった手段にしたって、結局逃げたのと変わりない。他にいくらでも方法はあったはずだよ。まあ、結局ああして善人のイメージのまま選手たちに慕われて逝ったんだから、ある意味あいつの目論見通りだったのかもしれないけどさ……。ご遺族には不愉快な思いをさせちまうかもしれないけど、経営者としての責任を果たさなかったことは事実だ」**

さすがは、『週プロ』特別編集『翼をください　FMW・荒井昌一さんの証』（ベースボール・マガジン社）の時点で「俺からすれば、ほかのヤツらがきれいごとを言いすぎてるんだよ」と公言し、荒井社長の追悼興業すらも「仕事だよ、ビジネス。1人でも2人でも客を入れるためだよ」とうそぶいていた男・冬木！

**「あいつが死んでから出た本とか記事を見ても『荒井さんはいい人だった』って話しか聞けないのは、逆にいえばいい人って以外の個性がなかったということなんだよ。だってなんにもないんだもん本当に」**

つまり、帯には**「あいつがいい奴だったなんて、大嘘だ」**とあるが、これは**「いい人」**であるが故にどれだけ荒井社長が**『経営者』のうつわじゃなかった」**のかについて、とことん理詰めで暴露していく本だったわけなのだ。

**「あいつは何事も『揉めないように』って気を遣ってた。その『揉めないように』のために、誰かが言った話を当たり障りなく作り変えて俺に伝えるんだよな。それがかえって悪い結果を生むことになってたんだけど」**

こうして普段は無駄に気を遣ったりしながらも、FMW川崎大会のメインで冬木の相手が決まらず、**「みんなで相談して、大仁田を呼ぼうってことになった」**りするときに限って、珍しく自分の意志を剥き出しにしてきたそうである。

**「絶対にイヤです！　大仁田さんを呼ぶならFMWを潰します！」**

そこで荒井社長は代わりに天龍戦を提案し、交渉も冬木に任せようとするが、当の冬木はなんと**「その時、WAR時代のいざこざでWARに訴えられてた」**のであった……。

**「……あんたの大仁田はモメただけだけど、俺と天龍さんは今裁判やってんだよ。それを承知の上で、俺に『試合してください』って交渉もやれっていうの？」**

そう聞いても当然のように頷くほど無責任極まりない荒井社長に対して、冬木が**「荒井は本当に汚ねえ野郎」**だの**「卑怯」**だのと毒づきたくなる気持ちはボクにも痛いほどわかる。

……というか、そんな洒落にならない状況下で頭を下げに行く冬木も、そこでキッチリ試合を受ける天龍も狂おしいまでに男だって！　冬木こそいい奴！

正直、大仁田の極悪さをさんざん訴えている荒井社長の本にこのエピソードが出ていたら読者の受け取り方もまだ違うだろうが、これは**「FMWでの大仁田厚の罪？　うーん……実は何も思い浮かばない」「大仁田の金の汚さとか女の問題とか、どうでもいいと思うよ。そんなのもっと酷い奴はプロレス界にいっぱいいるんだから」**と言い切る冬木の本であり、そもそも荒井社長と冬木とでは発言の説得力がケタ違いなのであった。

この勢いで、あいつは**「経営が火の車」**だったときにも**「家族で海外旅行に年二回行って」**ただの、**「あいつは心底FMWの社長でいることにこだわりを持っていた」**が、わかりやすく言うと**「ただ固執していただけ」**だのと、荒井社長を全面否定！　さらには、**「FMWの後期に現れた有象無象の男たちのひとり」**だという**「Yは詐欺師」**で、**「いろんな奴から金を騙し取って適当なこと言うだけ言って、荒井が死んでから姿をくらましやがった」**だのと、吉田専務らしき男についても噛み付いていくのであった。

そんな物騒極まりないエピソードだけではなく、**「結局は騙しのテクニックなんだ。ロープワークひとつとっても、どうやれば早く走っているように見えるかってことだ」**といったプロレスの技術論部分もかなりの面白さ。要するに、**「俺は足が遅い」**から、**「早く走ってるように見せればいい」**。だったら**「たくさん足を動かせばいい」**ので、**「俺も突進する前にステップを踏む」**などと告白していくわけなのである。……あれは地団太じゃなくてステップだったのかよ！　この話、荒井社長の裏話より衝撃的だって！

FMWはなぜ倒産したのか
鎮魂歌
冬木弘道

「あいつがいい奴だったなんて、大嘘だ」
内部にいたからこそ話せなかった……。
倒産後半年を経て、いまようやく明かされる
「インディーの雄」の真実！

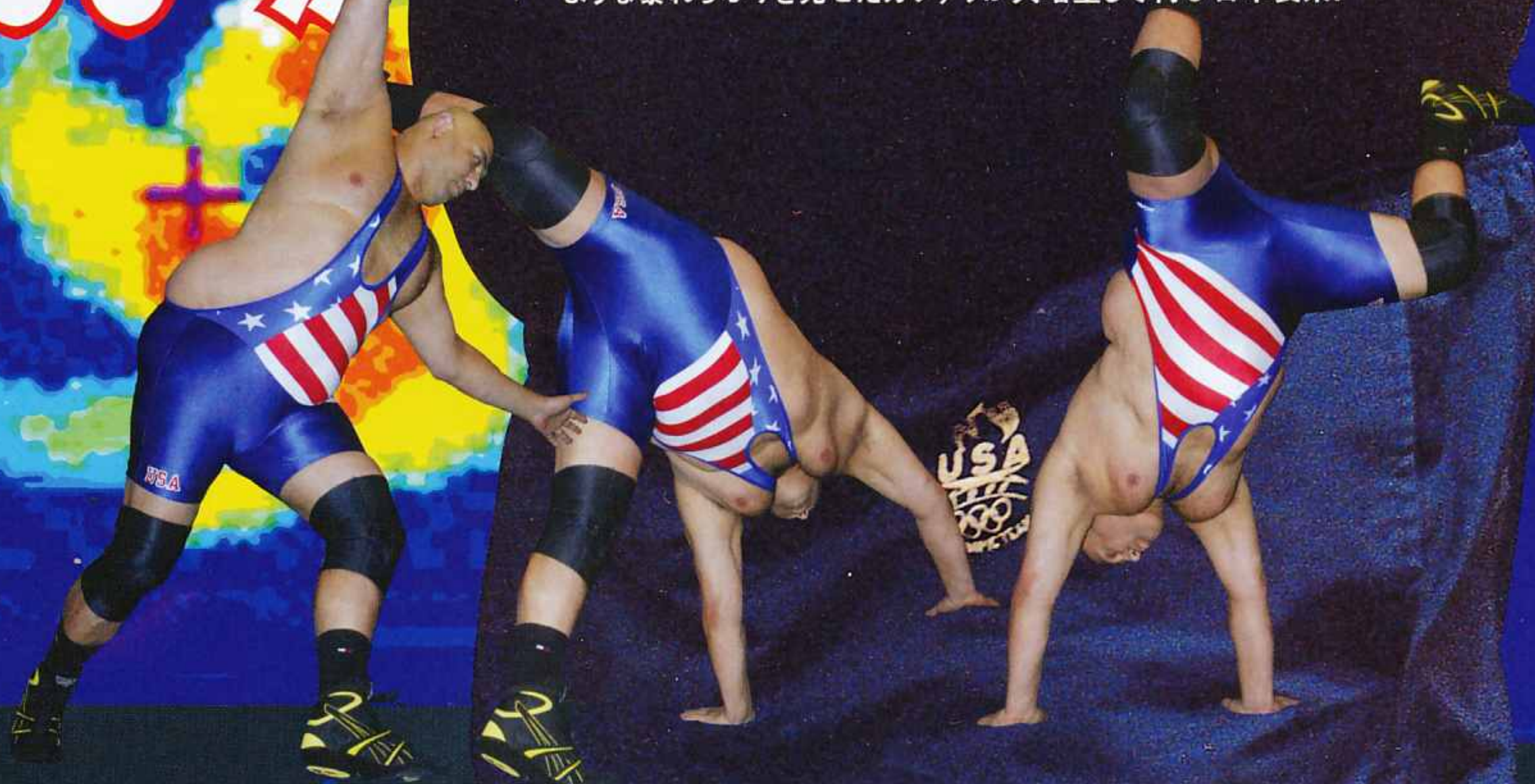
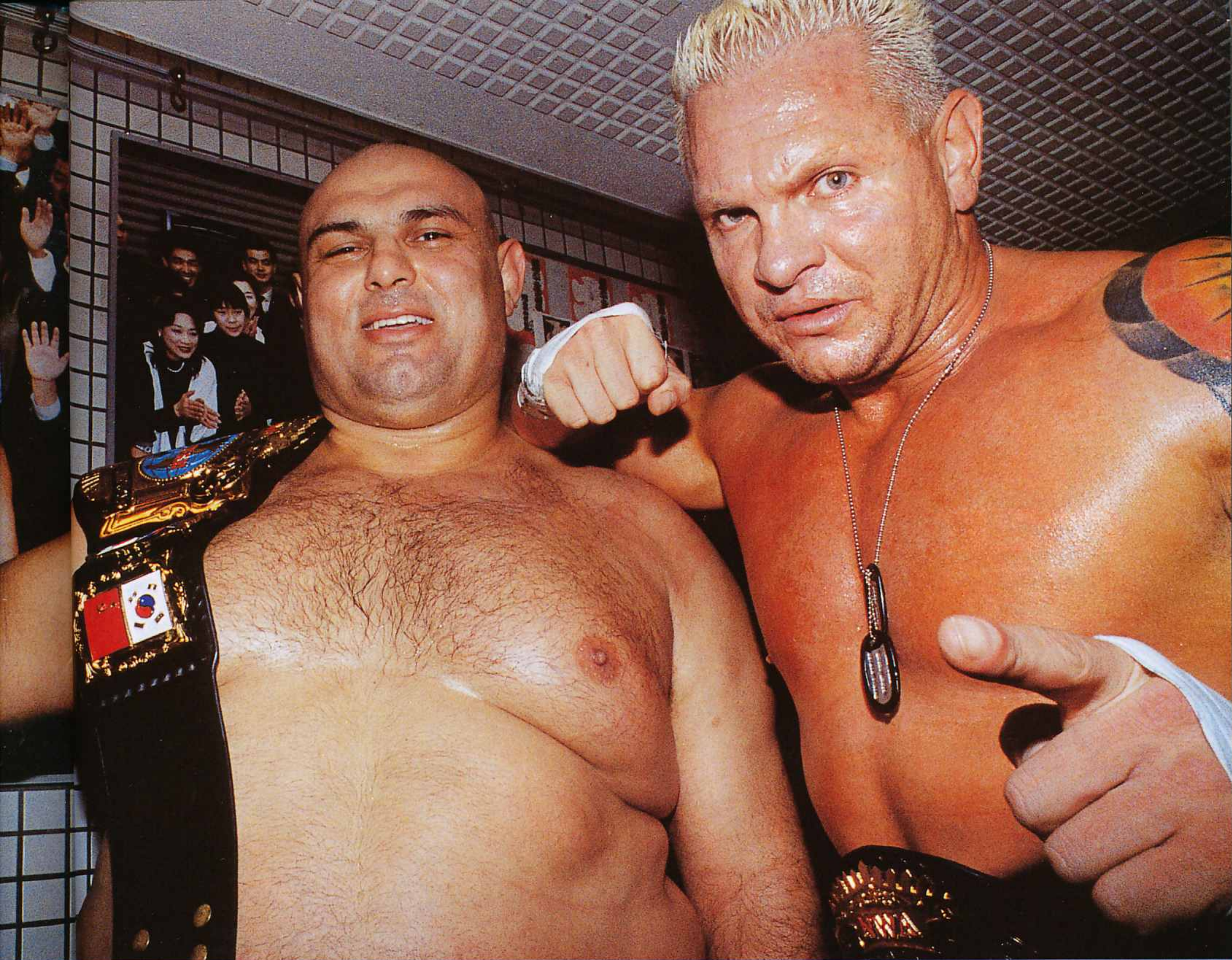
『紙のプロレス』RADICAL特製

# 〈求人広告付メモ帳〉

※メモとして御自由にお使い下さい〈編集部より〉

# "ガファリ・タイフーン"日本侵食!!

最大風速
180kg!?

季節外れの超大型台風が日本上陸!　凄まじい勢いで吹き荒れた、その台風の正体はマット・ガファリだった。『LEGEND』での小川戦で我々に巨大なインパクトとコンタクト伝説を残し、アメリカへ帰国したガファリ。虎視眈々と小川へのリベンジを狙っていたガファリは昨年12月、ZERO-ONEのリングへ登場。『LEGEND』とは別人のような暴れっぷりを見せたガファリが大増量して再び日本襲来!

## 第5代 NWA世界インターコンチネンタルタッグ王者

"五輪銀メダリスト&腹魔神"

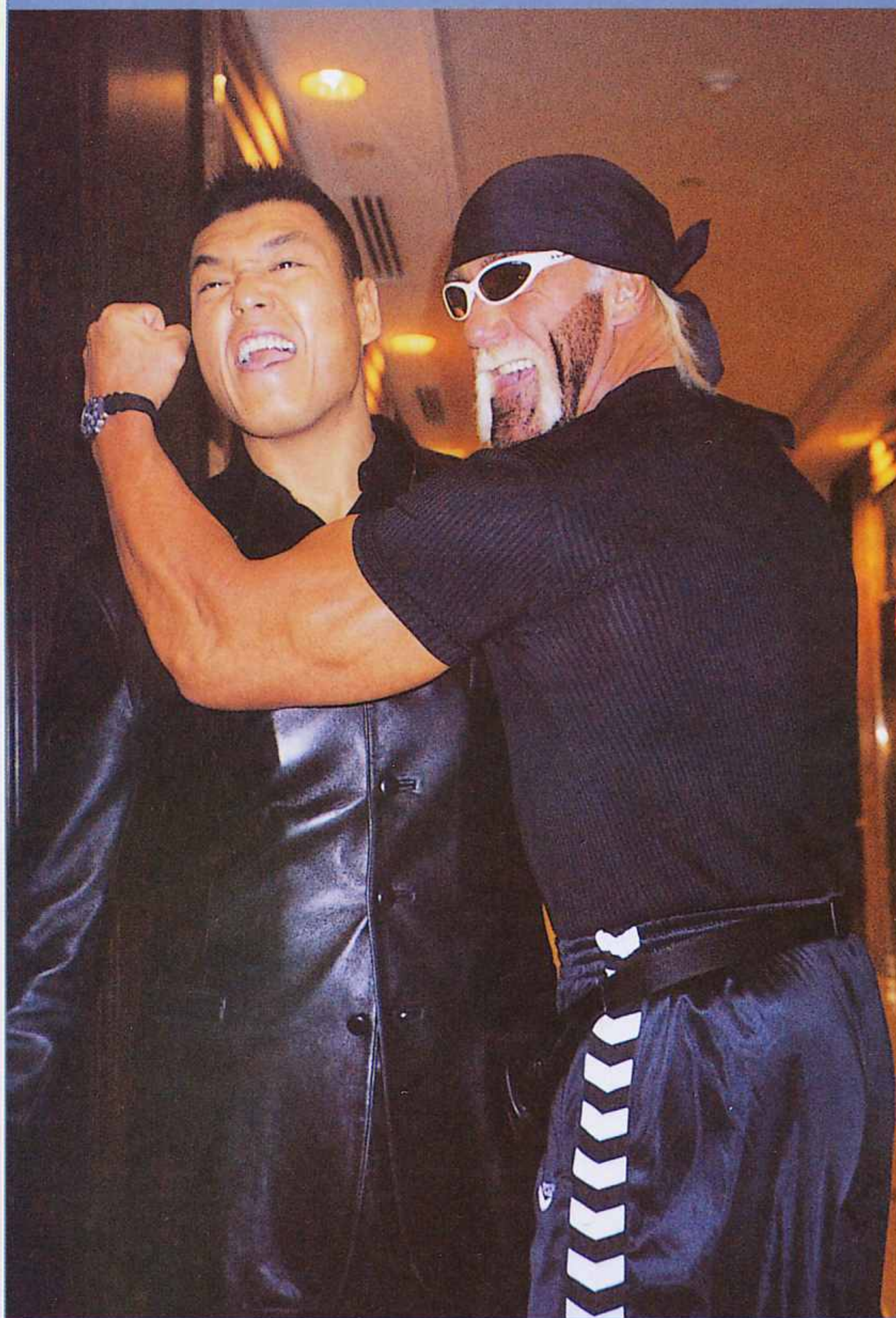
# マット・ガファリ
# MATT GHAFFARI

# &

"ガファリのプロレスの先生"

# トム・ハワード
# THOMAS HAWARD

昨年の12・15両国大会でOH砲を破り、NWAインタコンチのタッグ王者に輝いたマット・ガファリとトム・ハワード。宿敵の小川から見事フォールを奪ったガファリだったが、それだけでは満足できず、自らがシリーズ名となった『ガファリ・タイフーン』に再上陸。小川組を相手に防衛記録を伸ばした現在のZERO-ONE最強タッグを直撃!

聞き手/松澤チョロ
取材協力/YOSSY SATO
撮影/吉場正和
designed by matsu (Two three)

# 小川&ホーガン組？全く問題ないね。いつだってやってやるよ！（巨腹をさすりながら）

——ガファリさん、ハワードさん、NWAインターコンチ・タッグベルト防衛おめでとうございます！

**ガファリ&トム**　センキュー！

**ガファリ**　ただ本音を言わせてもらえば、もっともっとオガワ（直也）とやりあいたかったね。ちょっと時間が短すぎたよ。

——たしかに試合時間は7分ちょっとと短かったですからね。

**ガファリ**　まだ他にも披露したい技があったんだけどなぁ。でも、これはトム先生の指示どおり闘った結果だと思うよ（ニッコリ）。

——でもガファリさん、残念ながら、いまだにその腰というかお腹にベルトは巻けてないですよね。

**ガファリ**　（お腹をさすりながら）ちょっと無理なんだよねぇ。

——ちょっとどころじゃないような気がするんですが（笑）。

**ガファリ**　頭にだったら巻けるんだけどね（笑）。

——そりゃそうですよ！（笑）。

**ガファリ**　まぁベルトもオリンピックのメダルも、あくまでも私にとっては結果にすぎないんだよ。大事なのは心の中にある闘いだからね。私は常に自分がベストであるということを言い聞かせながら闘っているんだ。それにZERO-ONEにはオガワだけじゃなく、ハシモト（真也）、オオタニ（晋二郎）、タナカ（将斗）はもちろん、ヤングボーイたちも優秀な選手が揃っているけど、私はそういう連中を吹っ飛ばすためにやってきたんだ。なんたって『ガファリ・タイフーン』ってシリーズ名が付けられたわけだしね（ニッコリ）。

——2人のタッグは12月に続いて2シリーズ目になるわけですけど、連係プレーも見事でしたね。

**ガファリ**　まあね。トム先生と私は夫婦みたいなもんだから（笑）。

**ハワード**　フッフッフ（笑）。

**ガファリ**　控室では言い合いになったりもするんだけど、いざ試合になると私はトム先生の指示に素直に従ってるからね（笑）。

**ハワード**　彼はプロレスラーにナチュラルに向いてるタイプだと思うよ。それに、以前から自分は彼の偉大さをよく理解していたんだ。なんと言ってもレスリング界の伝説のひとりだからね（笑）。

**ガファリ**　うんうん（と満足そうにうなずく）。

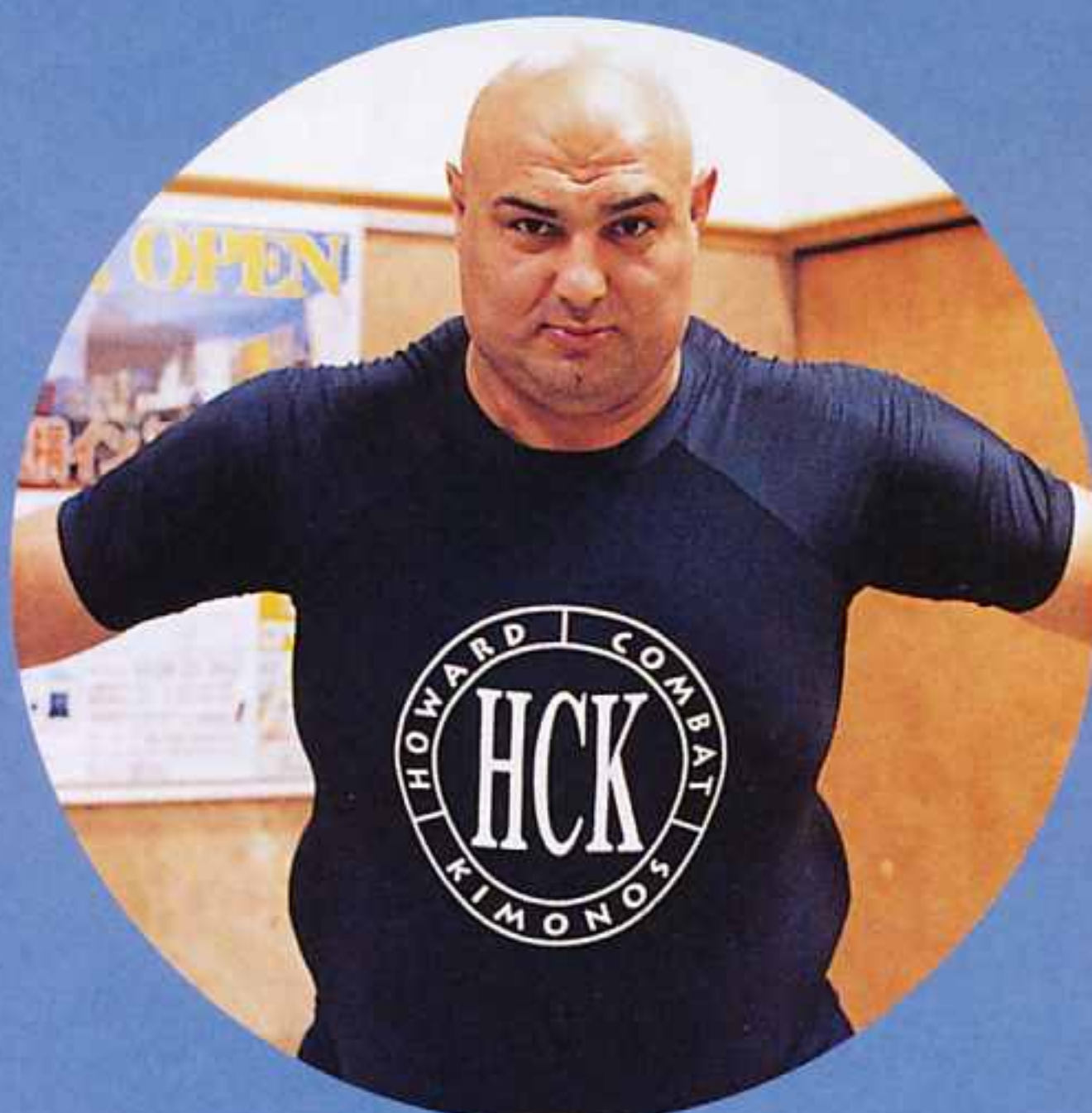
**ハワード**　実際、彼にプロレスを教えることになって驚いたのは、とにかく飲み込みが早いってことなんだ。これまでも自分はいろんな格闘家に教えてきたんだけど、彼なら、ある程度教えれば、自ら次のステップに進めるだろうなと思ったよ。

**ガファリ**　いやいや、すべてトム先生のおかげだよ（笑）。

——でも、トム先生の力だけじゃなく、やっぱりガファリさんの努力も大きいんじゃないですか？

## コンタクトのことは頭の片隅から離れないよ（ガファリ）

**ガファリ**　そうだね（アッサリと）。トム先生の教えももちろんだけど、やっぱり私の強みは五輪レスラーであることだから。グラップリングで組み付いて相手をガッチリ固めてしまうこともできるし、スープレックスでボンボン投げることもできる。それにレスリングでもプロレスでもそうだけど、私が相手の上になったらオシマイでしょ（笑）。

——それは言えてますね（笑）。実際、プロレスを体験してみてどんな感想を持ちましたか？　レスリングの世界とは、また違った厳しさもあると思うんですが。

**ガファリ**　オオタニとタナカと闘った時は攻撃があまりにも激しすぎるんでまいったよ（苦笑）。オオタニのドロップキックも強烈だったし、タナカからはチョップチョップとやられて、最後に顔面エルボー。それも血が出るまでやられたからね。

——レスリングでは、あまり味わえない痛みなんでしょうね。

**ガファリ**　そうだね。プロレスの洗礼をされたなって思ったよ（苦笑）。（突然、プロレスラーモードになり）覚えてやがれ！　アイツらはオレに借りを作ったんだ。次やる時はただじゃおかないぞ!!

——アハハハハ！　アピールも抜群ですね（笑）。で、ガファリさんというと、残念ながら負けてしまいましたけど『LEGEND』での小川戦で、かなりのインパクトを残したわけですが。

**ガファリ**　（急に神妙な顔つきになり）私はあの試合でオガワに負けるというミスを犯してしまった。そのことは毎日忘れてないよ。

——例のコンタクトの件ですよね？

**ガファリ**　そうさ。いつだって、コンタクトレンズのことが頭の片隅から離れたことはないよ。

——そうですか。プロレスルールではタッグとはいえ小川さんから一度フォールを奪ってるわけですけど、やっぱり総合のルールでのリベンジも狙ってるわけですね。

**ガファリ**　もちろん！　いまでも私は一日に6時間のトレーニングは欠かしてないし、その上、コーチもしてるんだよ。オガワは毎日そんなにやってないだろう？　それだけ私はやる気になってるんだよ。あの試合以来、私は毎日がオガワへのチャンレンジだと思っている。

——そこまで思ってましたか！

**ガファリ**　『LEGEND』はいまでも続いてるんだよ。オガワと私にはそれほど差はないと思ってるし、…ライバル心というか競争だね。…でもコンタクトがなぁ。

——やっぱり問題はコンタクトですか（笑）。ちなみに、コンタクトはソフトとハードどっちなんですか？

**ガファリ**　当然ソフトさ。それでも小川戦ではパンチでグシャっとなってしまったけどね。あの時は医者に行って取ってもらわなければならなかったんだよ。まあ何事も経験さ。

——『LEGEND』の時はランディー・クートゥアーやダン・ヘンダーソンといったチーム・クエストのメンバーと練習してたみたいですけど、いまでも総合の練習は続けているんですか？

**ガファリ**　当然さ。いまのところ弱点を挙げるなら柔術かな？　でもパンチやキックのレベルは合格してると思うんだ。ダンが（『PRIDE』で）ヘンゾ・グレイシーを失神させたパンチがあるだろ？

——はい。ありましたね。

**ガファリ**　ああいうパンチも教わったしね。レスリング以外にも私には

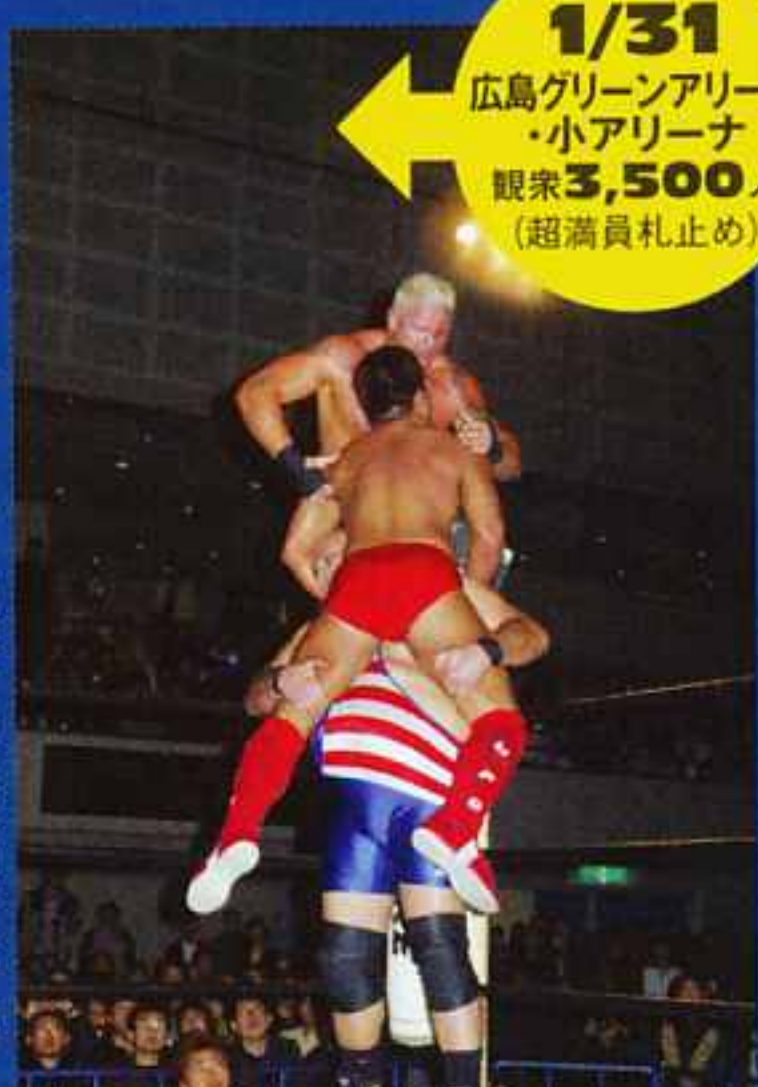
体重のことを聞くと「確かにお腹には、たくさん肉が付いているよ。でも、それ以外は全て筋肉なんだ!」とマッスルポーズを連発!

## ハラショー！ガファリ&トム大進撃!!

**1/26 博多スターレーン** 観衆2,800人（超満員札止め）

来日する度に体重をアップさせ対戦相手を圧殺しまくるガファリ。開幕戦ではトム先生とアダモちゃんとタッグを結成し破壊王組と激突。豪快なスープレックスで橋本の巨体をブン投げる!

最後は180キロのガファリ・プレスで耕平を圧殺。リング上で勝利を喜ぶガファリ組の前に小川直也が立ちはだかった!　Tシャツを脱ぎ捨て臨戦体勢の小川とガファリは激しく睨み合う

**1/31 広島グリーンアリーナ・小アリーナ** 観衆3,500人（超満員札止め）

今シリーズ、ガファリと小川の唯一の直接対決はタッグ王座が賭けられた。ガファリ組は小川に"オレごとガファリ"を喰らわせ、さらにデビュー間もない藤井には脅威の合体技タイフーン・ロールを炸裂させた!

武器があるんだよ（ニヤッ）。ダンのとこだけじゃなく私にはRAWチームも付いているしね。マネージャーのリコ、ヴァリッジ・イズマイウ、ウラジミール・マティシェンコとかもスパーリングパートナーになってくれてるんだ。

――あ、イズマイウもですか（笑）。でも総合の世界では一流どころの選手ばっかりですね。

**ガファリ**　総合だけじゃなく、私はブロック・レスナーやカート・アングルといったところとも交流があるからね。スタイナーズとは昔、レスリングで闘ったこともあるし。トム先生もそうだけど、いろんなつながりがあるんだよ。

――そう言えば、この間WWEが日本に来た時、ハワードさんとかZERO-ONEの外人勢と六本木で合流したみたいですね。

**ハワード**　RVDとは久々の再会だったよ。昔、ラスベガスにあったNWCっていうインディー団体に一緒に出ていたんだけど、それ以来の彼とは友達だからね。それに、その時は女子プロレスラーのサカイ（澄江）も一緒だったよ。

――ホント、2人とも交流関係は幅広いんですね（笑）。ところでハワードさん、今回の巡業で、何かガファリさんの素敵なエピソードがあれば聞かせてください！　広島では大会終了後の深夜にサウナに行って、体重計を見事破壊してしまったっていう話を聞きましたけど（笑）。

**ガファリ**　（恥ずかしそうに）あれにはビックリしたよ（苦笑）。でも私のエピソードを話すと、ほとんど食い物の話ばっかりだよ。

――やっぱりそうですか（笑）。

**ガファリ**　私が一番興味のあることとは食べ物の話題だから（笑）。

――関係者に聞くと、ガファリさんの姿を見かける度に必ず何か食べてるらしいですからね（笑）。

**ガファリ**　それは間違ってないね（笑）。私は大体2時間ごとに何か食べるようにしているから。

**ハワード**　それもちゃんと理由があって、日本食っていうのはプロテインにあたるものが少ないから、我々は2時間ごとに栄養補給することを勧めているんだ。

**ガファリ**　みんな気をつかってくれるのは嬉しいんだけど、ホントのことを言うと、ケンタッキーとかダブルチーズバーガーとか毎日のように試合前に食べてたんだ。牛丼も大好きだしね。2時間ごとに食べるにはちょうどいいよ（ニッコリ）。

――さすがです（笑）。でも牛丼というと、キング・アダモちゃんっていう20杯ぐらいペロッと食べる大食いがいるんですけど、ガファリさんは勝てますか？

**ガファリ**　（自信満々の表情で）悪いけど楽勝だね！

――じゃあ、近いうちに大食い対決でもやりましょうか（笑）。

**ガファリ**　いつでもいいよ（笑）。でも日本でももっと仕事して稼がないと、自分で食べただけの食事代が払えないからなぁ（笑）。

**私が一番興味のあることは食べ物の話題だから（笑）**

**そういえば、彼はいつも何かを食べている印象があるね（笑）**

**2/1**
**大阪府立体育館第二競技場**
**観衆1,800人**
（超満員札止め）

今シリーズのガファリは、以前にもまして飛んで飛んで飛びまくり！もちろんスカされることも多いのだが、その前へ前への姿勢は大いに評価できる。コール時の側転も見逃せないぞ！

大阪大会ではタッグ王者のガファリ＆ハワードとZERO-ONE認定USヘビー級王者のコリノというチャンピオントリオが破壊王＆横井＆テングカイザー組と激突。ZERO-ONEにしか実現できない異色の6人タッグだ。

異例のプロレスデビュー2戦目でのタッグ王座挑戦となった藤井だが、最後はハワードがしっかり足をロックしたところに180キロの全体重が乗ったガファリ・プレスを浴びジ・エンド。

――そんな食べるんですか（笑）。

**ガファリ**　この身体を維持するためにはしょうがないよ（笑）。それでね、トム先生なんかはサーキットは慣れたもんで、5時間連続再生可能のDVDを持ってきて『グラジエーター』とか映画を見てたよ。マジメな話をすると、どうしたらプロレスの試合が良くなるかトム先生と毎日のように議論したな。

**ハワード**　たとえば、彼はまだ6人タッグの経験が少ないから、そういった試合形式では何をすればいいのか、どう動けばいいのかとかアドバイスしたよ。彼は向上心を持っているし、すぐにこっちの言うことを理解してくれるんだけどね。ちゃんとそういう話もしてるし、食べ物のネタばかりじゃないよ（笑）。

――ちょっと安心しました（笑）。そういえばタッグ王座を防衛したあとガファリさんが「いつ何時、誰の挑戦でも受ける！」って言ったって新聞に載ってましたけど、それはやはり猪木さんの台詞からなんでしょうか？

**ガファリ**　（またもやプロレスラーモードで）エニィタイム・エニィウエイ・エニィバディ！　誰でもかかってこい!!　カモンッ!!

**ハワード**　いやいや、オレたちはチャンピオンなんだから、ゲームプランとして「いつ何時、誰の挑戦でも受ける！」じゃダメなんだ。もう少しスマートにならないと（笑）。相手も日時もこっちで選ぶ。それが王者の特権なんだよ。

**ガファリ**　（耳に入らず）オガワとハシモトにも、いまのメッセージをそっくり返してやるぜ！　レストランだろうがシュートだろうが、いつだってやってやるさ！

――わ、わかりました。今シリーズではガファリさんのお腹を使った攻撃のレパートリーが増えてましたけど、ああいった技もハワードさんが提案してるんですか？

**ハワード**　私はあくまでもプロレスのテクニックを教えているだけだよ（苦笑）。まあでも彼はプロとしてのパフォーマンス能力が優れているんで、どうすれば観客が喜ぶのかとか、自然に身についているんだよ。

**ガファリ**　うんうん（満足気に）。

**ハワード**　どちらかというと、私は「もっとシリアスにやった方がいい」って試合前にアドバイスしてるんだけど、彼はどうしても観客を楽しませようとするんだよ（苦笑）。

## モンゴリアンでもSHOGUNでも、ベルトに挑戦したいんだったら問題ないよ

**MATT GHAFFARI**

【まっと・がふぁり】1961年、イラン出身。レスリングではグレコで96年アトランタ五輪で銀メダルを獲得。パンアメリカン選手権7回優勝、ワールドカップ4回優勝。さらにフリーでもパンアメリカン選手権で2度優勝。昨年、行われた『LEGEND』では小川直也のパンチでコンタクトがずれ無念のTKO負けを喫す。その後、ZERO-ONEに参戦、現NWA世界インタコンチタッグ王者。193cm、180kg。

**ガファリ**　初めてプロレスを経験して「ガファリ、ガファリ！」っていう声援を聞いたら「オォ！　オレにも声援があるんだ」って嬉しくなって、俄然やる気が起こったんだよ。こんなに応援してくれるんだったら喜ばせないといけないだろ？

――ホントにプロフェッショナルなんですねぇ（笑）。そういえば、前回のインタビューでは、次に来日する時は、必ずダイエットしてくると宣言してましたけど、むしろ体重は増えちゃってますよね（笑）。

**ガファリ**　（お腹をさすりながら）そうだったねぇ（笑）。今度こそ約束するよ。日本に来る度に私はドンドン、スマートになるはずさ。

――本当ですかぁ（笑）。ダイエットするつもりはあるんですか？

**ガファリ**　そうだね。9月から1日2回のトレーニングに変えてるんだけど、最初の月は7キロ、12月からいままでの間だけで3キロ痩せてるんだから（得意げに）。

――た、たった3キロ！……が、頑張ってください（笑）。そういえば、小川さんが、ハルク・ホーガンと密会したらしいんですけど、もし小川＆ホーガン組がベルトに挑戦してきたら受けて立ちますか？

**ガファリ**　ホーガンの偉大さは私は十分理解しているよ。ただし、試合になったらそれは別さ。（プロレスラーモードに突入）エニィタイム・エニィウエイ・エニィバディ！　相手にとって不足はないな、うん。

――やっぱり、自信満々なんです

れからもトム先生の指示に従って

ね（笑）。そういえばハワードさんは、新年早々、ロウ・キーとのタッグでSHOGUNと対戦したわけですけど、いかがでしたか？

**ガファリ**　SHOGUN？　見た見た見た（笑）。ビデオで見たんだけど、最高だったね。

**ハワード**　（笑いをかみ殺しながら）ハシモトはSHOGUNになると普段よりハンサムに変身するね（笑）。ニールキックもいつもより打点が高くなっていたし、チョップの威力も一段とアップしていたし、かなりの強敵だよ。

**ガファリ**　モンゴリアン（ハシフ・カーン）も良かったよ。ハシモトじゃなくて、モンゴリアンでもSHOGUNでも、ベルトに挑戦したいんだったら問題ないよ。

――それも楽しみですねぇ（笑）。あと、先日『W―1』という大会があって、賛否両論話題になってるんですけど、ご存知ですか？

**ガファリ**　ん？　私は知らない。

**ハワード**　私は見たよ。コンセプトは理解できるんだけど、ブッキングがうまくいっていないと思う。コンセプト自体は悪くはないと思うし、マッチメイク次第では、いいイベントになる可能性はあると思うよ。

――ハワードさんは格闘家のプロレスの先生という一面も持ってるわけですけど、少ない練習期間で格闘家がプロレスデビューすることに対してはどう思います？

**ハワード**　まず言っておきたいのは、世間の人はどれだけプロレスラーになるってことが大変なことかをわかっていないんだ。本物のプロレスラーになるまでどれだけキツイ訓練を必要とすることかは口では説明しきれないよ（苦笑）。

――ご苦労様です！（笑）。

**ハワード**　それに、いくら付きっきりで教えたところで、教わる側がプロレスに対するリスペクトがなければ、まったく意味のないものになってしまうからね。リングに上がってプロレスの技を出して、プロレスの試合っぽいことをするのは誰でもできるんだよ。でもプロレスラーとして〝プロレス〟をするっていうのは、簡単なものじゃないよ。コールマンとかは、昔からよく知ってるし、前からプロレスの練習をやっていたから、あの中では良かった方だとは思うけど、他の格闘技系の選手は、まだまだグリーンボーイって感じだね。

## ハシモトはSHOGUNになると普段より ハンサムに変身するね（笑）。かなりの強敵だよ

**THOMAS HAWARD**

【とむ・はわーど】1970年5月15日、ロサンゼルス出身。10代の頃からサンボ、コマンド・サンボを修得。米軍入隊後は特殊部隊にて数々の修羅場をくぐり抜けてきたリアル・グリーンベレー。現在はルチャリブレからNHBまで幅広い知識を活かして、UPWプロレススクールの師範を務めるガファリのプロレスの先生。189cm、114kg。

**ガファリ**　（かしこまって）私は、これからもトム先生の指示に従って頑張ります！（笑）。

**ハワード**　ハッハッハッ。

――いま日本ではボブ・サップの人気が凄いんですよ。試合だけじゃなくて、バラエティー番組からCMまでとにかく大活躍で。

**ガファリ**　ふ〜ん。でもいくら日本で人気があるっていっても、私はオリンピックで何度も活躍しているし、全世界という枠で考えれば私の方が有名だと思うよ。

――全世界ですか！（笑）。

**ガファリ**　アンケートでも取ってみな（笑）。でもチャンスがあれば、そのサップっていう選手と闘ってもいいし、CMだって私がやった方が売れるんじゃない？

――かもしれませんね（笑）。

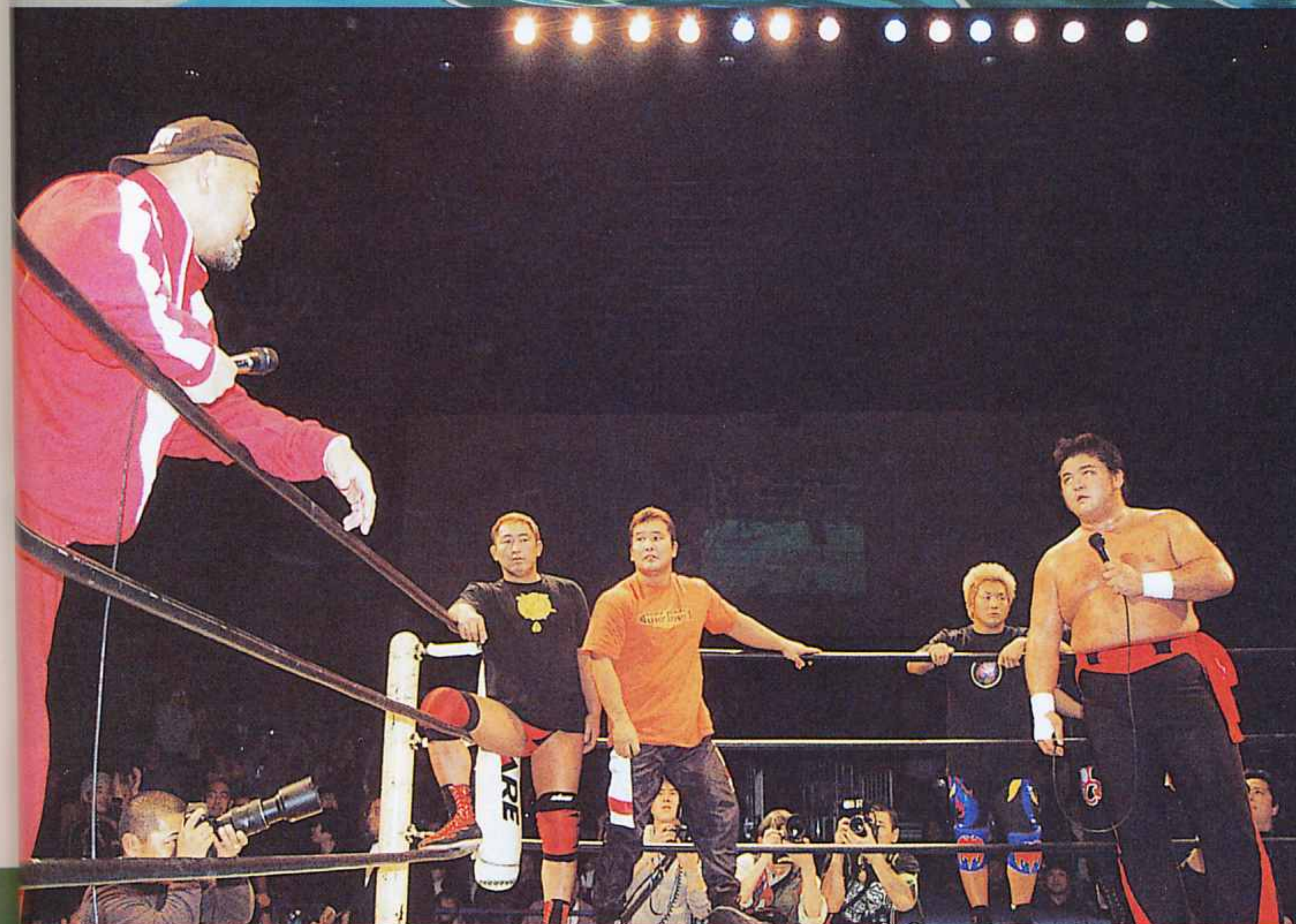
**ガファリ**　私は明日帰国するけど、すぐに日本に戻ってくるよ。日本のファンが世界で最高のファンだと思ってるからね（ニコッ）。

――台風は台風でも、ガファリ・タイフーンなら日本上陸は大歓迎ですよ！　試合前の忙しいところ、ありがとうございました!!

**【2月1日、大阪某ホテルロビーにて収録】**

この取材後、ガファリは小川戦後のインタビューが載った『紙プロ』の自分の写真の上へ、なぜか本誌・チョロのサインを要求。ワケのわからぬままサインをするとガファリはニッコリ

『ガファリ・タイフーン』から全日本との対抗戦まで

# ZERO-ONEネタはこのお姉さんに聞け!!

"ZERO-ONEに一番近い女性記者"

# 丸井乙生

スポーツニッポン
プロレス担当

構成／松澤チョロ
撮影／丸山剛史
試合撮影／乾晋也
designed by matsu(Two three)

『ガファリ・タイフーン』というシリーズ名どおり180キロ級の大暴れを見せたマット・ガファリ！　京都の鞍馬山から謎に包まれたテングカイザー見参！　遂に始まってしまったZERO-ONE対全日本の全面戦争！
ここにきて大きく揺れ動くZERO-ONEは一体どこへ向かうのか？
ZERO-ONEのPPV中継の解説や、ファンタジー溢れる新聞記事で、ゼロ族からも注目を集めている〝ZERO-ONEに一番近い女性記者〟スポーツニッポンの丸井乙生さんに、あらためてZERO-ONEの魅力、全日本との対抗戦の意義、さらには3・2両国大会の見どころまで、たっぷりと語ってもらいました。
ZERO-ONEネタはこのお姉さんに聞け!!

――ZERO―ONEのとんちの効いた記事や、PPV解説でお馴染みの『スポニチ』の丸井さんですが、今日はZERO―ONEの両国大会の見どころを中心に、全日本との対抗戦や、この間の『ガファリ・タイフーン』の話を聞かせてもらえればと思ってます！

**丸井**　よろしくお願いします。

――丸井さんは美人記者ということでプロレスファンの間でも、かなり有名みたいですが。

**丸井**　そういう声を聞くと社内の人間は怒ってますけどね（笑）。「ふざけんな、コラッ！」って。

――そうなんですか（笑）。

**丸井**　それに私はそういう売りじゃなくて、体力で入ってきてるんで。入社の時の面接も酒はどれぐらい飲めるかとか、そういうことしか聞かれてないですし。

――それも凄い面接ですね（笑）。で、丸井さんは現在はどこの団体の担当になるんですか？

**丸井**　いまは一応、ZERO―ONE、全日本、NOAH、その他……って感じです（笑）。

――その中でもZERO―ONE絡みの記事が一部で「ファンタジー活字」とか言われて評価されてるみたいですけど、やっぱりZERO―ONEは他団体より書きやすいっていうのはあるんですか？

**丸井**　ていうか、私、プロレス全然知らないんですよ。

――いや、全然知らないってことないでしょう？（笑）。

**丸井**　いや、いまでも知らないんですけど。プロレス担当になる前はプロレスを見たこともないですから。まあハッキリ言うと嫌いだったんですよ（笑）。

――そうだったんですか（笑）。

**丸井**　なんでかって言うと、自分は剣道を中学から大学までやってたんで、有り得ない間合いってわかるじゃないですか？

――わかるんでしょうね（笑）。

**丸井**　だから、見る必要のないものって思ってたし、必要性が全くなかったんですよ。最初はホントに嫌いでしたね。

――いまも嫌いなのかもしれませんけど、仕事として接して多少好きになったとかはないんですか？

**丸井**　プロレスっていうより、やっぱり人ですよね。最初、私にプロレスを教育してくれたのは天龍さんなんですよ。

――それはどういう教育を？

**丸井**　何もわかんないじゃないですか？　技の名前ひとつもわかんないし、「なんとかをブチ上げた」って言われても（笑）。そういうところから始まって。選手にとりあえず知らないことを聞かないと何もわかんないんで、天龍さんにいろいろ聞いたんですよ。怖いんですけどね（笑）。

――イメージ的には一番答えてくれなさそうじゃないですか？

**丸井**　でも試合見てて、なんかこの人面白そうだなって思ったのもあったんですけど、そしたら話を聞きに行く度に凄い怒られて、「『東スポ』にこんなの載ってたんですけど、これはどうなんですか？」とか聞いたら「お前のネタ元は『東スポ』か!?」って（笑）。もっともな意見だなぁって思ったんですけど。
……それで私が書くZERO―ONEの記事があるじゃないですか？　ああいう記事を新聞で書くようになったのは天龍さんの原稿からなんですよ。

――え？　ファンタジーあふれる丸井さんの原稿の原点は天龍さんの記事だったんですか!?

**丸井**　ZERO―ONEで、ああいう記事を書くようになる前から私は天龍さんでずっとあれやってるんですよ。誰も読んでないから知らないと思いますけど（笑）。

**最初、私にプロレスを教育してくれたのは天龍さんなんですよ**

――それは初耳でしたね。

**丸井**　天龍さんって例え話とかトンチの効いてること言うじゃないですか。「（天龍口調で）なんとかみたいで」とか。前に天龍さんが5・5で冬木さんと遺恨凄惨マッチやった時ありましたよね？

――はい。ありましたね。

**丸井**　あん時に、天龍さんは5月は、その一試合しかなかったんですよ。で、全日本出ないんで、「他に予定あるんですか？」って聞いたら「5月は俺は田植えで忙しいんだ」って（笑）。

――アハハハハ！

**丸井**　「福井県に八町歩の田んぼがあって田植えで忙しいんだ。冬木との試合も10分で終わらせて、そのまま車で福井へ帰る」って言ってたんで、田んぼの規模とか、「そこは何俵取れるんですか？」とか電話で全部聞いて、それを書いたんですよ（笑）。それが分岐点というかポイントっていうのはホントなので、だからZERO―ONEが発端じゃなくて、天龍さんが最初で、あと藤波さんでもたまにやってましたね（笑）。

――藤波さんはウチでもやらせてもらってますけど（笑）。

**丸井**　他にもいろいろやってたんですけど、でもやりすぎると、やっぱデスク通らないんですよ。「有り得ない」って言われて（笑）。

日本各地で大盛況！

## ガファリ以外も大暴れ『ガファリ・タイフーン』プチリポート

1/26 博多スターレーン 観衆2,200人（超満員札止め）

ついにZERO―ONE初参戦となった葛西純。チーフデザイナーとして後楽園では毎回Tシャツを売りまくっていたが、本当の意味でZERO―ONEの仲間に

数百年の眠りから覚め京都の鞍馬山からやってきたテングカイザー。デビュー戦では炎武連夢の田中を相手に、どこかで見たようなテングトルネードで大金星!?

メインの破壊王組vsガファリ組の試合後、小川が藤井を引き連れ乱入し、ガファリを追い払うと、久々の「O・H・砲！」（with藤井）

—「有り得ない」ですか（笑）。

**丸井**　だけど、やり続けるとわかるっていうか、向こうが根負けしちゃうんですよね。で、ZERO―ONEと天龍さんに関しては、直しが入らないようになったんですよ。デスクから「お前は治外法権になったから好きにやれ」っていうことで、そのまま好きにやってて、こうなっちゃったんですよ（笑）。

—こうなっちゃいましたか（笑）。でも、同じ対象のネタを書くにしても、明らかに他の人とは違うなっていうのは感じますよね？

**丸井**　いや、意識して変えて書こうとは思ってないですよ。スポーツ新聞なんだから、私の基本スタンスとしては面白いモノを集めて、その中で一番面白いモノを拾って書かなきゃいけないっていうのが基本なんですよ。メジャーだから面白くないけど載せて、面白いのにインディーだから小さくっていうんじゃなくて、一日に上がってくるネタの中で一番面白いのはどれだろうって拾った結果、やっぱZERO―ONEが面白いっていう（笑）。

—やっぱり、ZERO―ONEなんですね（笑）。

**丸井**　私にとってはそれだけの話なんですよ。でも『紙プロ』さんもZERO―ONEをいっぱい載っけてるから、同じなんじゃないですか？

—そうですね。でも、さすがに最近は『週プロ』や『ゴング』も目を通してるんじゃないですか？

**丸井**　そうですね。『東スポ』だったら私、高木さんと平塚さんの原稿が好きですね。あと発想は楠崎さんが好きです。「小橋がサウナで猛特訓」とか（笑）。

—あぁ、ありましたね（笑）。

**丸井**　あと、安心して見れるのが『ゴング』ですね。ワクワクは『紙プロ』さんですかね。

—あ、ありがとうございます。

**丸井**　『紙プロ』は好きですよ。

—ちなみに『週プロ』はどうなんでしょうか？

**丸井**　なんて言えばいいんですか？（笑）。

—答えづらいと？（笑）。

**丸井**　まあ、私のわからない世界ということで。

—わ、わかりました（笑）。それで、丸井さんは「闘い」と「感動」と「笑い」の3つの要素が詰まった興行が最高の興行だとZERO―ONEの解説をやってる時に言ってましたよね。

**丸井**　そう思いますね。私みたいにプロレス嫌いな人がプロレス業界に入ってきて、それで面白かったものは、たぶん一般の人が見ても面白いはずなんですよ。だから、ZERO―ONEはもうちょっと地位が上がってもいいと思うんですけどね（笑）。

## ZERO-ONEには有り得ない人がいっぱいいるじゃないですか？

『スポーツニッポン』丸井乙生（まるい・いつき）青森県出身の30歳。1996年スポーツニッポン新聞入社。一般スポーツ部でのオリンピック取材、仙台支局に移ってからは大学＆高校野球を担当。趣味はドライブで「車を買った日に0泊2日で四国に行きました。あと出張も大体、車で行っちゃうんですよ」。ちなみに、レスラーと結婚する可能性は？と聞いてみると「ないです！」とキッパリ。他には時代劇が好きとのことで「池波正太郎とか全部持ってますし、勧善懲悪、人情もの、浪花節が大好きです」。この辺はZERO-ONE担当だけに破壊王に通じるものが。気になるお酒の量は「そこそこ飲みます。レスラーと飲んで潰れない程度に」。それって、かなりの酒豪じゃないですかね？

—それは同感です（笑）。で、話題満載だった『ガファリ・タイフーン』の話を聞きたいんですけど。ウチは新日本とか全日本の地方大会へほとんど行けてないんですが、他団体に比べてもやっぱりZERO―ONEの地方興行は熱いんですか？

**丸井**　盛り上がってますねぇ。それこそ『ガファリ・タイフーン』なんて凄かったですよ。お客さんがホント並んでて。開場待ちのお客さんと当日券のお客さんの行列が凄かったですよ！

—広島大会とかは特に凄いことになってたみたいですからね。

**丸井**　「一時期、勢いのある時の新日本みたいだ」って（中村）祥之さんが言ってましたね（笑）。

—それは実体験として感じてるんでしょうね。

**丸井**　でも口コミでよくここまで来たなと思いますね。で、他の団体に比べて子供も多いし、あと老夫婦も多いんですよ。

—老夫婦ですか（笑）。

**丸井**　いるんですよ。年齢層が凄く幅広いんですよ。プレデターから逃げるのを楽しみにしてたり、見ててわかりやすいと思うんですよね。「凄い」っていうのが。アダモちゃんに「は〜い」ってやられた日には『ひょうきん族』を見てればわかるみたいなのがあるじゃないですか？

—プレデターにしろ、アダモちゃんにしろ街角ですれ違うような人種じゃないですからね（笑）。

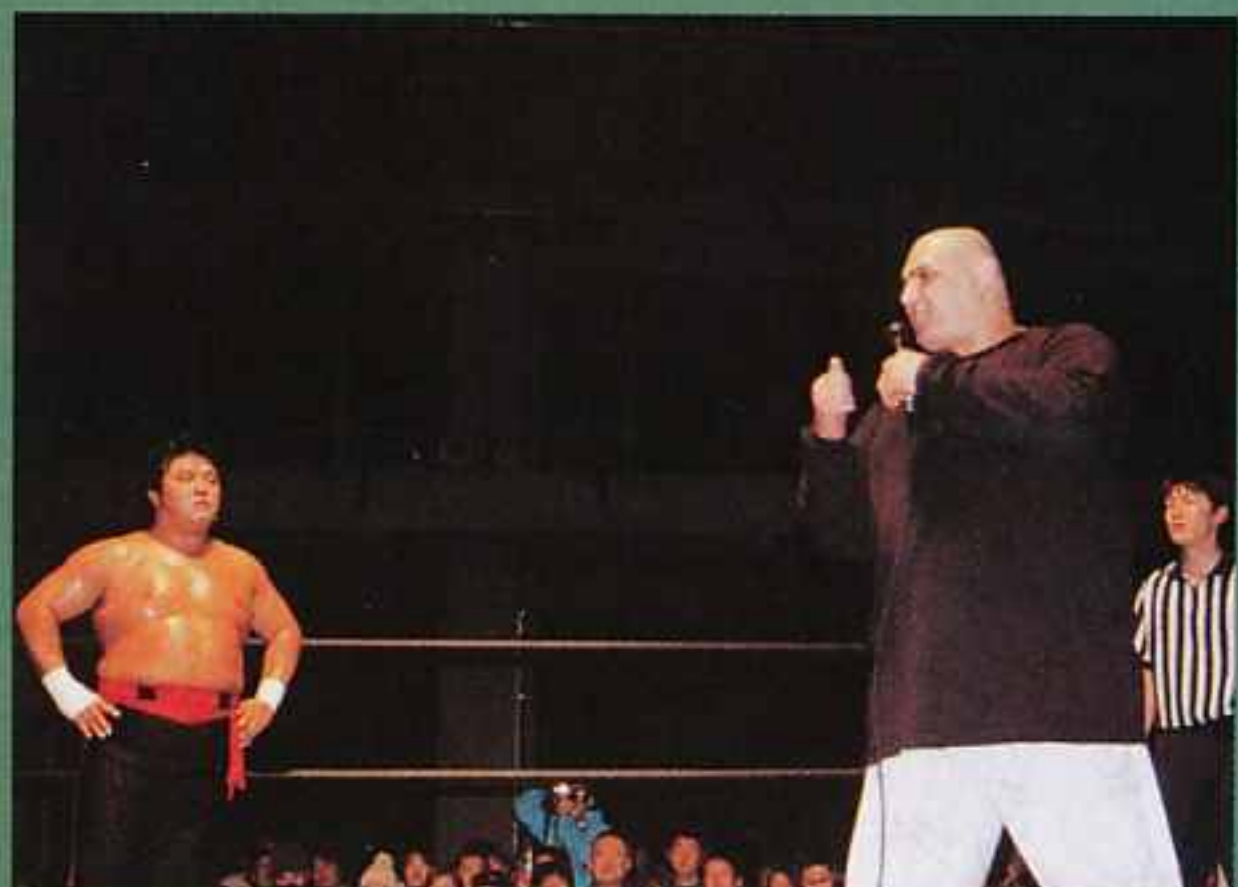
**丸井**　そうそうそう。有り得ない人がいっぱいいるじゃないですか？　いろんな人がいるっていうのは凄い大事ですよね。新日で有り得ないのは中西（学）さんだけですからね（笑）。

—アハハハハ！

**丸井**　だから一試合目からメインまで見て、「なんか一緒だったね」っていうのは、もうダメなんだと思いますよ。それか意固地になってずっと貫くかどっちかだと思いますね。中途半端はよくないと思いますよ。

1/30 徳山市総合スポーツセンター 観衆2,800人（超満員札止め）

大会前の「就活革命」トークショー後、袈裟斬りチョップで学生たちに気合いを入れまくっていた破壊王。最終日の広島大会では、本誌電気部・ささきぃが気合いを入れられるハメに。なぜだ!?

地元・山口で大谷がガイジントリオ相手に大熱戦を繰り広げるも、ガファリの脂肪を燃やすことは出来なかった。田中は激戦で肩を負傷（写真は広島大会後、吠えまくる大谷＆田中＆和牛太）

OH砲、新技"DDO"披露!!　試合後、掴みかかってきた小川に「私はスポーツマンとして握手しようと思ったのに許せない」と、激怒するガファリ（訳：崔リョウジ）。怒りで腹が揺れていた

『ガファリ・タイフーン』で一番目立った男といえば、やはりシリーズ名にもなったマット・ガファリ。その立派すぎるお腹を最大限に利用した攻撃は圧巻の一言。そして、今シリーズより参戦となったテングカイザーも田中将斗や藤原組長からシングルで勝利を収め、結果だけ見れば大活躍！

――ホントどっちかでしょうね。

**丸井**　でも、両国のカードを見ても、ここまでバラエティーに富んだメンバーを集めるのはZERO―ONE以外にはないですからね。牛がいてサルがいて、天狗がいてアダモがいて、クソデブ2号がいて、超獣にグリーン・ベレーがいて、柔道銀メダリストがいて、ノーフィアーがいて、怪物がいて。

――小池栄子の彼氏までいますからね（笑）。

**丸井**　有り得ないですね（笑）。「ZERO―ONEはプロレスのデパート」って前にテレビで言ったんですけど、「よろず屋」みたいな雰囲気もありますよね。それに、マニア対応も細かいとこでやってるじゃないですか。

――どういうとこですか?

**丸井**　例えばプレデターが去年の3・2に変身して、いまのスタイルになったじゃないですか。その時にちゃんとブロディのテーマのベートーベンの「運命」を使ったのはマニア対応ですよね。

――芸が細かいというか、痒いとこに手が届くというか（笑）。

**丸井**　ポール・ロンドンとかロウ・キーにしても、アメリカのインディーファンにとっても凄い有名な選手だったし、それに単純に「見て凄い」ってのがわかりやすいと思うし、一言さんからマニアまで両方にちゃんと対応できてるっていうのが凄いですよね。普通アンダーカードだと、ボーッと見てるお客さんも多いですよね。ZERO―ONEだとアンダーカードでも安心して見れますよね。

――それは大きいですよね。

**丸井**　それぞれの楽しみ方が絶対あるからっていうことで。

――それに地方興行での小川さんや橋本さんの入場時の歓声なんてモノ凄いですからね。

**丸井**　凄いですよね。やっぱり、オラが村に大スターが来たべさっていうような感じで（笑）。

――アハハハ。それで、最後に「オーッ・エイチ・ホーッ!」でもやられた時にゃ、お客さんも大満足で帰りますよね（笑）。

**丸井**　「3・2・1・ゼロワン!」ですからね（笑）。あれも橋本さんだから出来ることであって、例えば蝶野さんが「3・2・1・新日!」って言ったら「エッ?」ってなるじゃないですか?（笑）。

――破壊王は「俺だって恥ずかしいんや!」って言ってましたけどね（笑）。ではそろそろ、3・2両国大会の見所について語ってもらいたいんですが。

**丸井**　難しい質問ですねぇ（笑）。

――どうなんでしょうか、全対戦カードが発表されましたけど。

**丸井**　早く全日本とZERO―ONEの対抗戦終わって欲しいですね（笑）。

――いきなり結論ですか（笑）。でも、全カードを冷静に見るとぶっちゃけ両国大会としては弱いですよね。

**丸井**　そうですね。う～ん、ZERO―ONEワールドを微妙に守りながら、やっぱり対抗戦をやってるっていうのが噛み合うのが難しかったと思うんですよね。ただ、ZERO―ONEにしてはカード発表が早すぎる。変更の可能性もあると思います。

――可能性はあるでしょうね。

**丸井**　今のカードで、いい材料を探すんだったら、ガファリが6試合目に入ったっていうことはもうZERO―ONE外国人チームの一員になってるってことですよ。メインだと、いつまでもお客さん的な感じがしますけど、6試合目っていうことは、もう完全に一員かっていう。馴染んじゃったっていう（笑）。

――それは、ある意味喜ばしいことですけどね（笑）。

**1/31**
広島グリーンアリーナ・小アリーナ
観衆3,500人
（超満員札止め）

「アダモちゃーん」「ハーイ」の掛け合いで、すっかり人気者になったキング・アダモ。毎度披露しているサモアンダンス、この日はコリノにも腰ミノを渡してダンシング！　試合もキッチリ勝利

炎武連夢入りを志願する和牛太がメインに登場。和牛太の必死の攻めにもビクともしない破壊王。組長＆テングとともに容赦なく田中の負傷した肩を攻め、最後はDDTで和牛太をマットに沈めた

昨年夏の"火祭り革命"以来、冷戦状態の破壊王と大谷が、久々に激突!!　バチバチの殴り合い後も大谷はへこたれず吠えまくり。「ビッグネームの皆さんよ、完全燃焼の試合しましょうや!!」

**丸井**　あとはガファリの弟がセコンドに付くかもしれないとか。

――噂ではガファリよりもデカイとか言われてますよね（笑）。

**丸井**　あんなデカイのが2人並ぶだけでいいじゃんって（笑）。その試合まではZERO―ONEワールドっていうのがしっかりしてるから、ZERO―ONEワールドを守ってるっていうのは、たぶん大会を通しで見たら出ると思うんですよね。

――第1試合目から6試合目まではZERO―ONEワールドって感じですよね。

**丸井**　そうなんですよ。でも、なんだかんだ言っても、絶対第3試合でお客さんを満足させるはずなんですよ。ロウ・キーが出て、ポール・ロンドンがいてっていう。

――普通にいったらロウ・キーvs坂田のジュニア統一戦かと思われてたんですけど、中村部長によると坂田さんのベルトが間に合わなかって言ってましたけど（笑）。

**丸井**　いまのZERO―ONEにはテングカイザーのクルクル回るベルトしかないっていう（笑）。

――アハハハハ！

**丸井**　これ言っていいのかわかんないですけど、言ったら全日本怒りそうですけど、8試合目までホントにZERO―ONEワールドで来たら食いますよ、たぶん。

――というと？

**丸井**　8試合目までZERO―ONEワールドで全部作っちゃって、ボーナストラックでメインだけ、こ

2/1
大阪府立体育館
第二競技場
観衆1,800人
（超満員札止め）

『ガファリ・タイフーン』最終戦を待たずして帰国してしまう今シリーズの主役ガファリ。この日は破壊王に見事に投げられてました

原因不明の病気で欠場を続けていた崔リョウジが地元・大阪で復帰。コールと同時に崔ファンから大量の紙テープが宙を舞った

超ミニスカの花束嬢が日本人チームにしか花を贈呈しないことに怒ったコリノ。それに対しポーズをキメ、身構えるテングカイザー。

れだったら絶対食われると思うんですよ。終わったあとに「メイン？ ふ～ん」って帰るハメになるんじゃないかなって、私はそんなような気がするんですよね。点、点、点と参加選手だけ見ると豪華なんですけど、それがどう線になるかっていうのを見に行くっていうのは価値有りますよね。それに小川さん自体、久しぶりのシングルだし、『真撃』なんて大嫌いだ」って叫んだ高山さんがZERO―ONEのプロレスに旗揚げ戦以来帰って来るという……なんか難しいなぁ（苦笑）。

――まあ実際、難しいカードではありますからね（笑）。でも当日になったら、このカード以外にも、それこそボーナストラックは期待できますよね。

**丸井**　そうですね。橋本さんも絶対お楽しみ袋が付いてますって言う人ですから。でも早く対抗戦は終わらせた方がいいですね。

――結局はそこですか（笑）。

**丸井**　全面戦争をホントにやるんだったら、ホントに全面戦争をしなきゃいけないと思うんですよ。

――全然、全面戦争にはなってないですからね（笑）。

**丸井**　なってないですよね（笑）。だって、生え抜きの人間が1人もいない全面戦争ってありますか？

――全日本側は、元新日本と元WARですからね（笑）。まあ嵐さんは全日本出身ですけど。

**丸井**　そうなんですけど、武藤さんも気概を持って移籍してきたと思うんですけども、生え抜きの人間がいない。そこはどうなのかなっていう疑問はありますね。もっと全日本色の強い人……まあ川田さんも復帰することだし、天龍さんだって気にしてないわけじゃない……っていうとこを考えると、これからヒートアップしていく可能性もあるかもしれないけども。「全日本です」っていう人がどっかで入らないとちょっとツライですよね。

――全日本とZERO―ONEの交渉がうまくいってないのは表に出てる部分だけ見てもわかるんですけど、やっぱり、全日出身と新日出身は水と油なんでしょうか？

**丸井**　でしょうね。全日本さんは

### 旗揚げ2周年記念興行
## 『真世紀創造。'03』全対戦カード

**3月2日（日）東京・両国国技館（16:00）**

**［第10試合］**
橋本真也&大谷晋二郎vs
武藤敬司（全日本プロレス）&嵐（全日本プロレス）

**［第9試合］**
小川直也（UFO）vsトム・ハワード

**［第8試合］**
高山善廣&横井宏考vsザ・プレデター&J・スヌーカJr.

**［第7試合］**
田中将斗&佐藤耕平vs池田大輔（NOAH）&杉浦貴（NOAH）

**［第6試合］**
藤井克久（UFO）vsマット・ガファリ

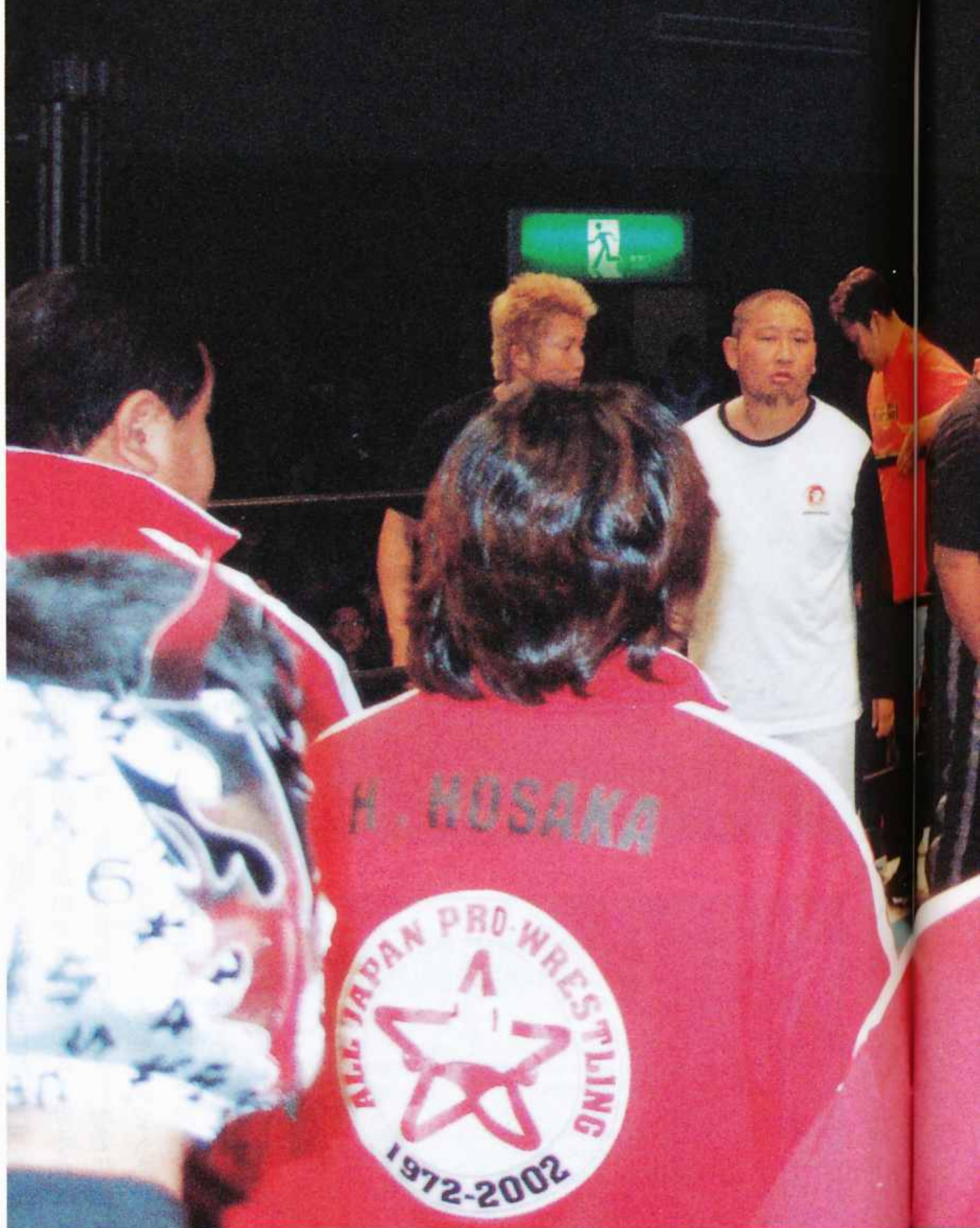
**［第5試合］**
藤原喜明&テングカイザーvs
スティーブ・コリノ&キング・アダモ

**［第4試合］**
坂田亘（EVOLUTION）vs崔リョウジ

**［第3試合］**
高岩竜一&星川尚浩&日高郁人vs
ロウ・キー&ポール・ロンドン&ペンタゴン

**［第2試合］**
ドン荒川&葛西純vs高橋冬樹&山笠Z"信介

**［第1試合］**
佐々木義人vs黒毛和牛太

※試合はすべて30分1本勝負　※特別レフェリー　Mr.フレッド

この後の全日本勢の乱入にかき消されてしまったが、メイン後、破壊王に電流爆破マッチを再要求した冬木。5・5川崎大会で実現!?

プレデターに破れた横井は「プレデターに対抗できるタッグパートナーを考えてる」と発言。後にその男の名は高山善廣と判明

2/2
ディファ有明
観衆1,800人
（超満員札止め）

NOAHファンからは大歓声、ゼロ中からは大ブーイングを浴びながら登場したKENTA。ロウ・キーとの越境タッグで高岩組と激突！

全日本さんの都合があるし、ZERO—ONEにはZERO—ONEの考えがあるし……で、ホントにピンチに立ってるところと、いま勢いに乗ってるところの意識の差っていうか、そういうのが出てくるとは思うんですけど……。でも対抗戦は2・2のディファ有明にバスで突入した時は最高だったんですけどねぇ。

——すでに過去形ですか（笑）。でも、その時乱入した全日本の47人に対抗してZERO—ONEでも対抗策を考えてるんですよね。

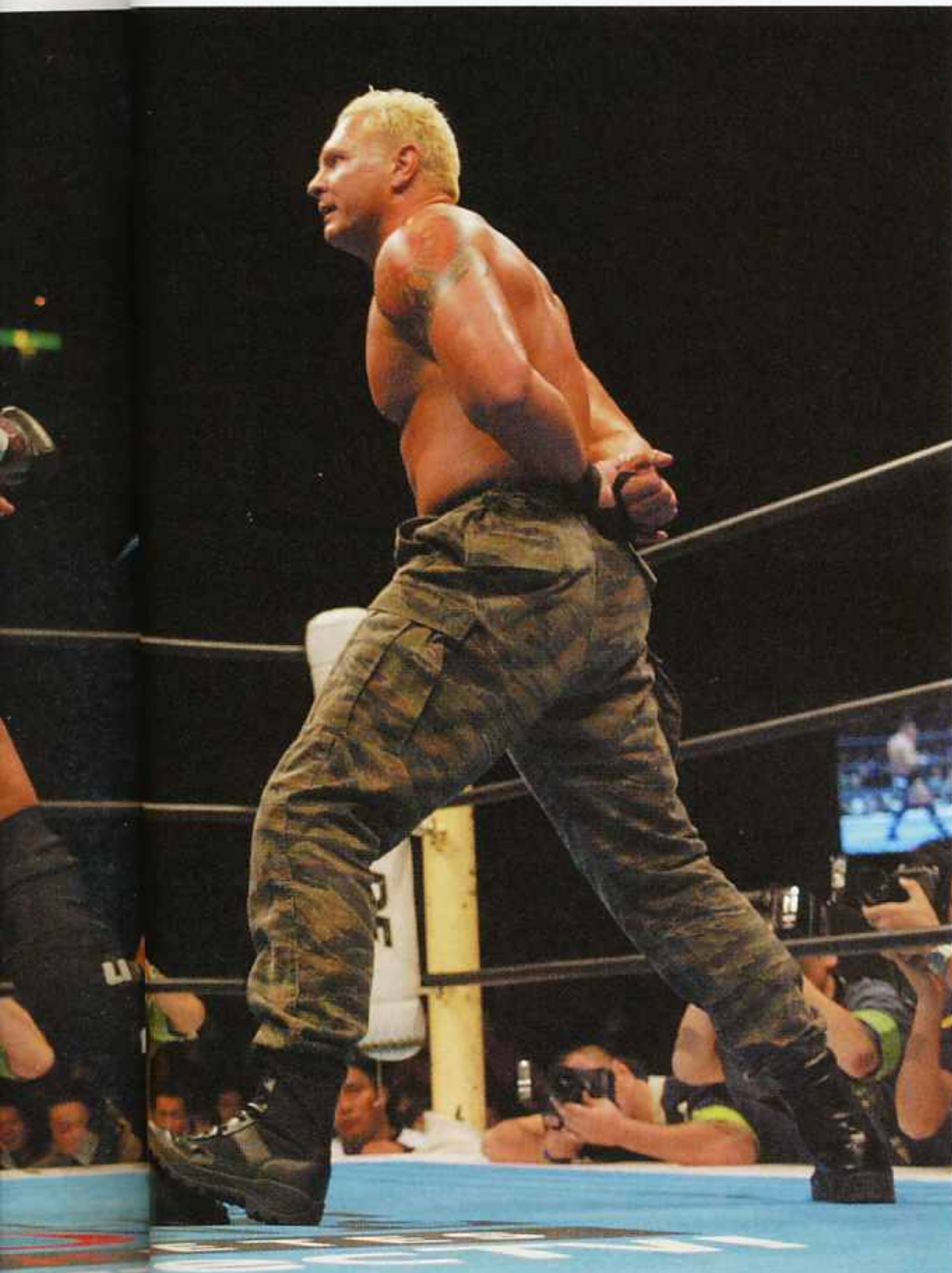
**丸井**　今度、ZERO—ONEの方は武道館で倍返しするって息巻いてますからね。

——言ってましたね（笑）。UPW勢が60人にゴルドーやデンプシーまで総勢80人とかで乗り込むって言ってましたからね（笑）。

**丸井**　そうそうそう（笑）。

——その記事も丸井さんが書いてましたけど、ゴルドーが「サミングで良かったら」って（笑）。

**丸井**　書きましたね（笑）。ゴルドーは「『サミングで良かったら』と無表情で挙手」って書いて、デンプシーは「『オレはジャパンって付くものは嫌いだ。オール・ジャパンもブッ潰す！』と息巻いたと言う」って伝聞系にしてありますから、ちゃんと（笑）。

——抜かりはないんですね（笑）。でもホントに戦争って言って、デンプシーやゴルドー、ハワードっていうところが出ていったら、どこも敵わないですからね（笑）。

**丸井**　そうなんですよね（笑）。だから、橋本さんが三沢さんに「まず自分のところの足元を固めるのが先決」って言われてから、『真撃』でちょっと失敗しましたけど、約2年でここまできたわけじゃないですか？　じゃあ、全面戦争だってなった時に、いま外国人をこんなにうまく使えてる団体ってないじゃないですか？

——ないですよね。

**丸井**　で、全面戦争でコマを出しましょうってなったら、ZERO—ONEより人材豊富なとこはないんで、今回の両国も見なれたカードに見えるかもしれないけども、それは物足りないカードっていうことじゃなくて、見なれただけっていうのはあると思うんですよ。祥之さんも間違いなくそれはわかってると思うんで、より質の高いものが見られるかもしれないっていう。で、最後から3つ目までに大物が集中してるっていうことは、どういうことなのかなと？

——それこそZERO—ONEらしいイリュージョンが見られるかもしれないですからね（笑）。

**丸井**　そうですね。

——橋本さんは「全日本はホントに一枚岩なのか？」って言ってましたけど、ZERO—ONEは一枚岩ってことでいいんですかね？

**丸井**　まあ大谷さんは別働隊ですけど、橋本さんと大谷さんの選手間の軋轢とかは、まず置いといたとして、団体として一枚岩かってと言われたら一枚岩ですよね。

——細かいところでは内部での対立もありますけど、それはどの団体でもあることですからね。

**丸井**　ZERO—ONEワールドってあるじゃないですか？　それを侵されたくない、崩されたくないっていう想いはあると思います。だから、「対全日本は早く終わらせたい」って祥之さんが言ってるんだと思いますよ。

——それが本音なんでしょうね。

**丸井**　でも、ZERO—ONEはホントに安心して見られるようになってきたんじゃないですか。両国大会っていうと、いままでファンも「お客さんの入りはどうなるんだろう」みたいな心配をしてたと思うんですよ。

——それはありますよね（笑）。安心して見れるっていっても、ZERO—ONEだけに安心だけでは終らないと思うし(笑)。

**丸井**　試合として安心して観られるけども、何かが起こるでしょうっていう。8試合目は高山選手が、久々に出てきてくれましたけど、高山選手が出てきたってことはそれほど今のZERO—ONEが美味しくなってきたってことの証でもあると思うんで。高山選手とプレデターの絡みは見たいですね。

——二人が立ってる絵を想像しただけでいいですよね。

**丸井**　プレデターのチェーン攻撃に真顔で耐える高山選手とか見たいですね。試合後の高山選手のコメントも気になりますし。

——それも楽しみですね。あとはやっぱり小川vsハワードですか。

**丸井**　でもよく考えたらシングル初対決なんですけど、ガファリがいない時代、これって凄いいいカードだったと思うんですよ。いままではハワードが外人の急先鋒だったわけじゃないですか。それを思い出すと凄くいいカードなんですよね。コーナーから落ちていくフライングニールキックはタッグだと危ないですけど、シングルだと大胆に飛べるかもしれないし（笑）。でもメインはねぇ……。

——そんなに困らないでください（笑）。ちなみにメインを裁くのはフレッドになるんですかね？

プロレス業界初!　武藤敬司が仕掛ける新しき戦略
## 『全日本プロレス劇場』公開決定!
■2003年3月8日（土）～21日（木）

●劇場　シネマ下北沢（定員75名）TEL.03-5452-1400
（世田谷区北沢1-45-15スズナリ横町2F／下北沢南口、北沢タウンホール斜め向かい）
●日程　3／8（土）～3／21（金）
●参戦　武藤敬司、川田利明、小島聡、カズ・ハヤシ、渕正信ほか全日本プロレス所属選手（予定）
●料金　1,300円（前売り）　1,500円（当日）
イベント付き上映2,000円（当日のみ）
●主催　シネマ下北沢・全日本プロレス

全日本プロレスシリーズ日程「2003チャンピオン・カーニバル」
3月22日（土）東京・後楽園ホール（18:30）
3月23日（日）東京・後楽園ホール（12:30）
3月25日（火）岩手・岩手県営体育館（18:30）
3月28日（金）北海道・北海道立総合体育センター（18:30）
3月31日（月）北海道・函館市民体育館（18:30）
4月3日（木）福島・富岡町総合体育館（18:30）
4月4日（金）福島・ビッグパレットふくしま（18:30）
4月5日（土）新潟・長岡厚生会館（18:30）
4月7日（月）富山・富山産業展示館テクノホール（18:00）
4月8日（火）岐阜・岐阜産業会館（18:30）
4月9日（水）大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）
4月10日（木）広島・広島グリーンアリーナ（18:30）
4月12日（土）東京・日本武道館（18:00）

★お問い合せ　全日本プロレス　03-3403-7344

**丸井**　フレッドはやらないんじゃないですか。逆にフレッドがどこを裁くかっていうのも3・2までの楽しみの一つじゃないですか。まぁでもZERO―ONEワールドと対抗戦っていうの一線を画さないと難しいですね。

――では3・2両国の丸井さんお薦めの試合というと？

**丸井**　小川選手ですかね。

――試合というより小川直也と？

**丸井**　小川選手がプレデターと金網マッチをやった後に「これからは普通のプロレスラーとして、普通のプロレスをやりたい」っ言ったんですよ。その言葉自体はあまり大きく扱われなかったんですけど、それって凄い重い言葉だと思うんですよ。ファンから観たらそうは見えないかもしれないですけど、小川選手はプロレスラーとして生きていくっていう腹を括ったんじゃないかなって。だから、そのプロレスラーとしての生き方を見ていきたいですよね。

――大舞台でのハワードとシングル戦で、いかにプロレスラーとして満足させる試合をしてくれるのかっていうことですね。

**丸井**　最近、OH砲とかタッグが多かったから、久々にピンなんで。多分すんなり試合が終わって、「さあ、帰りましょう」ってZERO―ONEはならないじゃないですか（笑）。

――ZERO―ONEと言えば乱闘がつきものですからね（笑）。

**丸井**　それを考えると、そこでプロレスラー小川直也がどう動くのかっていうのは非常に興味がありますよね。小川選手ってやらないことは言わない人じゃないですか。ヒクソン戦にしても、「じゃあ次やります」って言ってやってないわけじゃないですよね。ちゃんとコメントを読めば小川選手って嘘はついてないんですよ。

## 橋本選手と嵐選手の2人が両国で並んでるっていうのもいい絵ですよね

3・2両国大会のセミで対戦が決定している小川とハワード。急転直下カード変更の可能性もありえる？　とにかく小川には注目だ!!

――あぁ、そうかもしれませんね。

**丸井**　ただ決めてないことは言わないから曖昧なコメントになって「どうなの？」って思われる時もありますけど。

――そういうところは破壊王と対象的ですよね（笑）。そういう意味で逆に三沢選手に近いというか。

**丸井**　私も気になってたんですけど、ZERO―ONEに定期的に参戦するようになってるのを見るにつけ、「プロレスラーとして生きていきたい」っていう言葉が凄い重い一言だったと思うんですよ。だから今回ビッグネームが集まる中でどう動くのかっていうは見所ですよね。

――リング上のプロレスラーだけじゃなくて、そういう行動を含めてのプロレスラーですからね。メインはあくまでも別枠というか。

**丸井**　別枠ですね。対抗戦にしろ、ZERO―ONE内における橋本選手と大谷選手が組む意味っていうのを全日本プロレスがあんまりわかってないと思うんですよ。ただその武藤選手とWARが組むっていうことで出してきたカードっていうことで、相殺って言ったら変ですけど、敵対関係してる者同士が組んで「最強チームです」ってやってるのはわかるんですけど、ホントは組んじゃいけない2人ですからね。

――中村部長も「武藤＆嵐組を最強チームと見なす」って言ってましたからね。

**丸井**　皮肉ってましたね（笑）。

――裏を返せば全日本で一番ガチンコが強いとされる嵐選手なんで、そういう意味ではホントに潰しにきたという捉え方もできると思うんですけどね（笑）。

**丸井**　そうですよね。あの身体でフロッグスプラッシュやられたら死にますよね。だってホントに140キロですよ！

――ホントに140キロって、まるで誰かが体重ごまかしてるみたいじゃないですか（笑）。

**丸井**　それはノーコメントで（笑）。でも考えると、橋本選手と嵐選手の2人が両国で並んでるっていうのもいい絵ですよね。

――似合ってますよね（笑）。

**丸井**　ある意味、別のガファリプレスっていうか（笑）。嵐選手的にはそう言われるのはイヤだと思うんですけどね。

――嵐タイフーンが吹き荒れれば両国は面白くなりますよね？

**丸井**　まあ力皇選手もZERO―ONEの試合でブレークしましたし、橋本選手と嵐選手とガファリとガファリ弟が集まって、総重量何キロとか体脂肪何％の大会だとか面白いですよね（笑）。

――両国に相応しいマッチメークですね（笑）。でも、なんか話を聞いてるうちに両国大会は見所満載のような気がしてきましたよ。ZERO―ONEとともに丸井さんのPPV解説にも期待してます！

**【2月16日／シャトレーイン横浜にて収録】**

**ZERO-ONEシリーズ日程『～EPICENTERⅢ～』**
2月28日(金)仙台・宮城県スポーツセンター(18:30)
3月2日(日)東京・両国国技館(16:00)
3月4日(火)秋田・大館市民体育館(18:30)
3月6日(木)北海道・旭川大成市民センター体育館(18:30)
3月8日(土)北海道・札幌テイセンホール(18:30)
3月9日(日)北海道・札幌テイセンホール(15:00)

**◎シリーズタイトル未定**
3月27日(木)東京・後楽園ホール(18:30)
4月3日(木)岐阜・セラトピア土岐(18:30)
4月4日(金)兵庫・神戸サンボーホール(18:30)
4月5日(土)愛媛・松山市総合コミュニティセンター(18:30)
4月6日(日)和歌山・和歌山県立橋本体育館(18:30)

★お問い合わせ　ZERO-ONE　03-5730-3401

総合格闘家の「プロレスのセンセイ」が
W-1批判と正面からロックアップ!!

# 「山田邦子に怒った馳浩はどこに行った?」

(by新日本・上井取締役)

プロレスとは大衆のものだ!

聞き手／山口日昇
構成／坂井ノブ
撮影／森鷹博
試合写真／遠藤政文
designed by matsu（Two three）

# ここにいますよ!!（カン高い声で）

# 馳治

**SWS以来の大バッシングにさらされた『W―1』だが、その中で重要な役割を担っている馳先生に直撃インタビューを敢行！　じつはプロレス未経験の総合格闘家にプロレスの理論と技術を教えるという難題を任されたのが、誰あろう馳先生だったのだ。さらに、携帯サイト『紙プロHand』で実施したアンケート結果も馳先生に分析してもらったぞ！　国会期間中で馳先生もなかなか現場から離れられないということで、インタビューは国会議事堂の中で行われた。**

●

【国会対策委員会控室で、テレビに映る予算委員会の国会中継を見ながら】

**馳**　人が少なくなると、いまテレビに映ってるあの場所へ、ここから駆けつけたりするんだよ。

――乱入？（笑）

**馳**　違う違う。交代要員で行ったり、補充要員で行ったり、やっぱり答弁がうまくいかなくて質疑が止まる時があるじゃん。

――国会が膠着すると、馳先生が話術という名の腰振りに行くわけですか（笑）。

**馳**　低姿勢でね（笑）。やっぱり一見、強面だけど、低姿勢で行くとおさまる時もあるわけ。野党にとってはひとつのアピールの場でしょ。お互いに言い分があるもんだから、その調整役だね。期間中はこれを朝の9時から夕方6時近くまでやるんだよ。総理をはじめ全大臣が出てるからね。

――オールスター戦ですね（笑）。

**馳**　NHKで必ず全部放送するから各党も一生懸命だし。

――プロレスもオールスター戦やればテレビ中継は入りますかね？

**馳**　そりゃあ入るでしょう！（キッパリ）。

――ホントかなぁ（笑）。それで先生！　今日は面白いものを持ってきたんですよ。

**馳**　（一段と甲高い声で）はい、何でしょう！

――例によって賛否両論巻き起こる『WRESTLE―1』（以下『W―1』）のことなんですけどね。

**馳**　あ～、頭痛いなぁ（笑）。

――ウチでiモードの公式サイトを1月から始めたんですけど、『W―1』に関するアンケートを取ったんです（表参照）。

**馳**　それは『紙のプロレス』の読者？

――基本的にはそうでしょうね。でも、雑誌の『紙プロ』を読んでない人もいますよ。で、「1・19『W―1』の感想をひと言で表すと？」っていう質問を選択問題にしてみたんですよ。その1位はダントツで「まあまあ面白い。可能性は見出せる」だったんですよ。

**馳**　へぇ～、これを選んだ人が会場、PPV、地上波のうちのどれで見たかっていうことですよね。多分、これは類推すると地上波だと思うよ。

――それで2位が「腹が立つくらいつまらない」なんですけどね（笑）。

**馳**　これは会場で観た人かもしれないな。

――3位は「普通。可もなく不可もなく」。

**馳**　これはPPVっぽいな。俺はPPVも地上波も録画して全部見たからね。

――ヒマなんですか？

**馳**　なに言ってんだよ、忙しいよ！

――馳先生は視聴者として見ると、どれが一番面白かったですか。

**馳**　地上波が面白かったな。いわゆる加工した物がね。会場だとアラが見え過ぎるとか、客としてリングで行われてることに接点を持ちづらいとか、共感を覚えづらい。それでPPVだと間延びしちゃうわな。地上波の場合は、あそこまで加工されるのはプロレスラーとしては屈辱的ではあるけども、一般的にはそのほうが面白いわな。

――「プロレスをナメるな！」という意見も理解できますか？

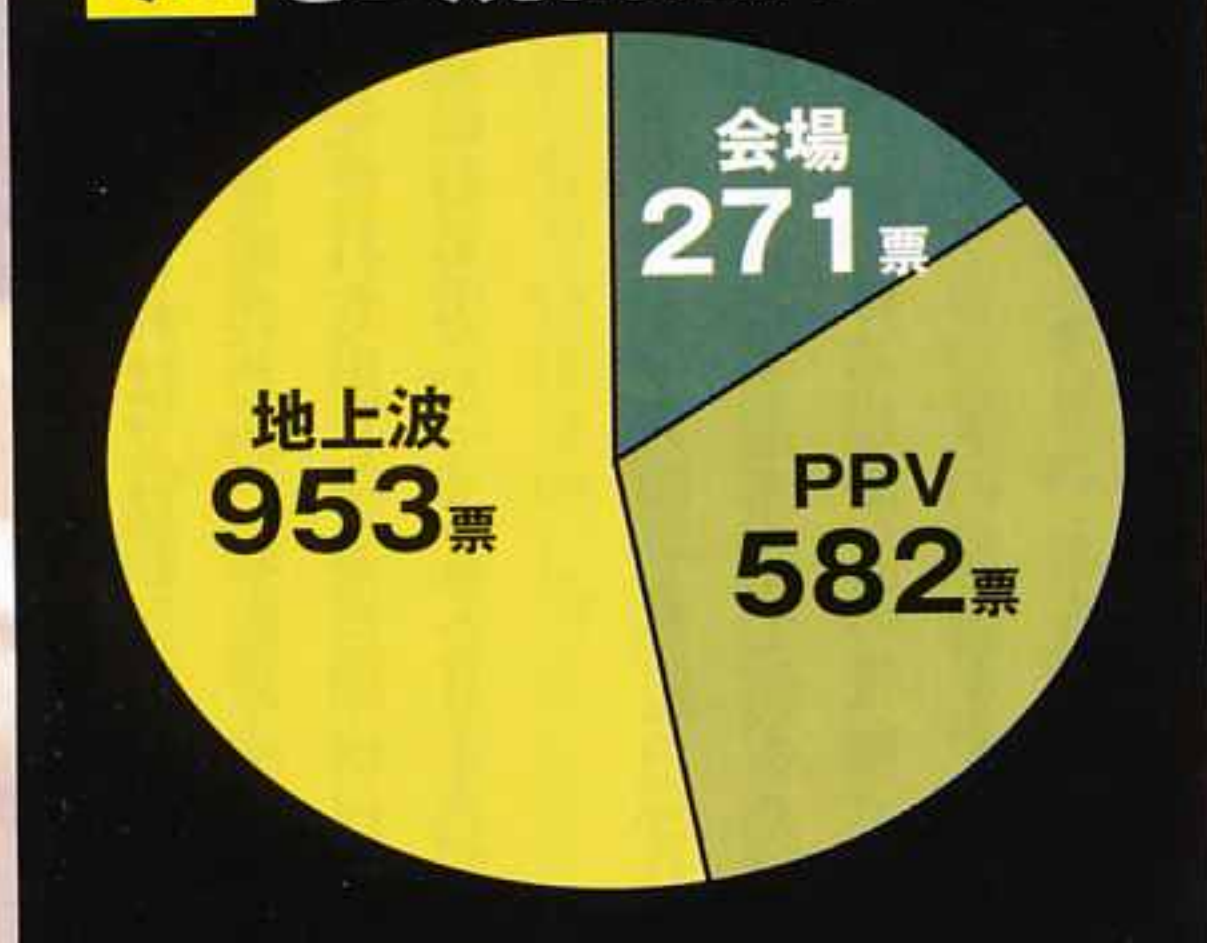
**馳**　もちろんわかりますよ。やってるんだから！　肌でわかるんだから。

――あ、じゃあ率直に言って馳先生も「プロレスをナメるな」と思ってますか？

**馳**　プロレス界の住人の視点から見ると、困ったなぁと。ただ今回は「なんとかしてくれ」と俺も頼まれてるから。

――陳情されたら政治家としては黙って

**Q.1 1/19『W-1』をどこで見ましたか？**

| 場所 | 票数 |
|---|---|
| 会場 | 271票 |
| PPV | 582票 |
| 地上波 | 953票 |

られないと（笑）。

**馳**　やっぱり投げ出すわけにはいかないじゃん！　多分、文句は出るんだろうなと思いながら、できる限りは何とかしてやろうと。そこに一筋の光ぐらいはもたらしたいなと一生懸命頑張ったんだけどね。

——『週刊ゴング』のインタビューで、「デビュー戦のホーストやヒーリング、あるいはサップに対して『あれはヒドイ』って言うのは酷だ」と言ってましたね。

**馳**　うん。

——だけど、「プロデュースした側にナメるなと俺は言いたい」「プロデューサーの方がこれとこれを呼んでくれれば何とかなるだろうという絵の描き方は、これはナメてるとしか言いようがない」と言ってますね。

**馳**　まぁ……ポイントはそこですよ！

——「プロデュースする側がプロレスをナメてる」っていう感覚は、馳先生は間近にいてわかるわけですか？

**馳**　いや、プロデュースする側の人間がプロレスをやったことがない、知らないと。よく知らないで「これとこれがやれば面白い」とか「これとこれは出場の了解を取りつけることができた」とか、そんな観点で「あとはこいつらにプロレスを教えて何とかやってください」って、いきなりこっちに持ってくるんだよ。それも試合の2日前とかにだよ！

——2日前！（笑）。

**馳**　フザケルなって（笑）。少なくとも1ヶ月くれよって。サップにしてもホーストにしてもヒーリングにしても、一生懸命やろうとしてるからね。その気持ちを活かしてあげて、リング上で納得いくぐらいのものをやるために、準備期間をアイツらにも与えてやりたいしさ。こっちにもくれないと。〝2日間でいったい何をしろっていうんだよ！〟っていうところで頭を抱えていたわけですよね。「やりたくねぇよ」って逃げ出すのは簡単なんだけど、決まってるものに対して困ってるんだったら、何とかしてやらないといけないしね。やっぱり頼まれたら嫌とは言えない性格だしね（ウィンク）。

——馳先生、一万票獲得!!（笑）。馳先生の言ってるプロデュースする側っていうのはテレビ局の人間なんですか？　それとも違う誰かなんですか？

**馳**　それがよくわからないんだけど、ナベちゃん（渡辺秀幸氏）にすべての権限があるわけでもないみたいだし、そうかと言って谷川さん（現K―1イベントプロデューサー）にすべての権限があるっていう感じもしないし。あと、俺にはローデスだっけ？　柳沢さん（『SRS・DX発行人』）もどこまで関わってるかも知らないし。

——やってる側からすると、〝プロデュース側〟とひと口に言っても、霞がかかってわからないんだ。

**馳**　それぞれが「何とかお願いします！」って言うから、みんなの顔を見て「やりますよ」という状況だね。どこが総指揮官なのかはわからない部分もある。

——でも、これは逆説的だけど、テレビ局のイチ番組だとしたら、出演者のリハーサル期間が2日間なんてことはザラじゃないですか？

**馳**　だから、向こうはそういう感覚なのかなって、慮ってはおりましたが……。

——慮っておりましたか（笑）。

**馳**　そう思わざるをえないでしょ？　でも、テレビのプロデューサーなり演出家に「プロレスラーを直接は演出できませんよ」って俺は言ってるんだよ。やったことがなかったら難しい。アイディアだけなら、やったことがなくたって使えるけどね。

——もし仮に「これはプロレスの大会ではなく、テレビ番組のためにやるイベントですよ」って先に打ち出してたら、プロレスラーの意識の持ち方ってどうなりましたかね？

**馳**　まず、最初の1ヶ月間で番組のコンセプトの説明。それと事前番組で何をやっていくか。それにおける出演者の役割、実際にリングの上でプロレスの試合をするとなったときの基本的なこと。そういうことが大事でしょう。俺もデビューしたときはそうだったけど、いくら他の格闘技をやっててもプロレスは素人なわけだから。その素人がいきなりリングに上がると自分の身体を使い切れない。見よう見まねの技はできるんだけど、それでは説得力を持つ試合にはならないわけですよ。そのへんを含めて1ヶ月あれば試合を成立させるだけの基本的な考え方や受け身は教えてあげられるんだけどね。というのは、いま新弟子が入ってきても、プロレスを教えるには最低でも半年はかかるんだよ。普通のプロレスが好きなあんちゃんでも少なくとも半年はかかるからね。

## Q.2 1/19『W-1』の感想をひと言であらわすと？

| 回答 | 票数 |
|---|---|
| ●バツグンに面白い。またぜヒ見たい | 176票 |
| ●まぁまぁ面白い。可能性は見出せる | 713票 |
| ●ふつう。可もなく不可もなく | 264票 |
| ●面白くない。もう見たいとは思わない | 189票 |
| ●プロレスをバカにしてる! | 192票 |
| ●腹が立つくらいつまらない | 272票 |

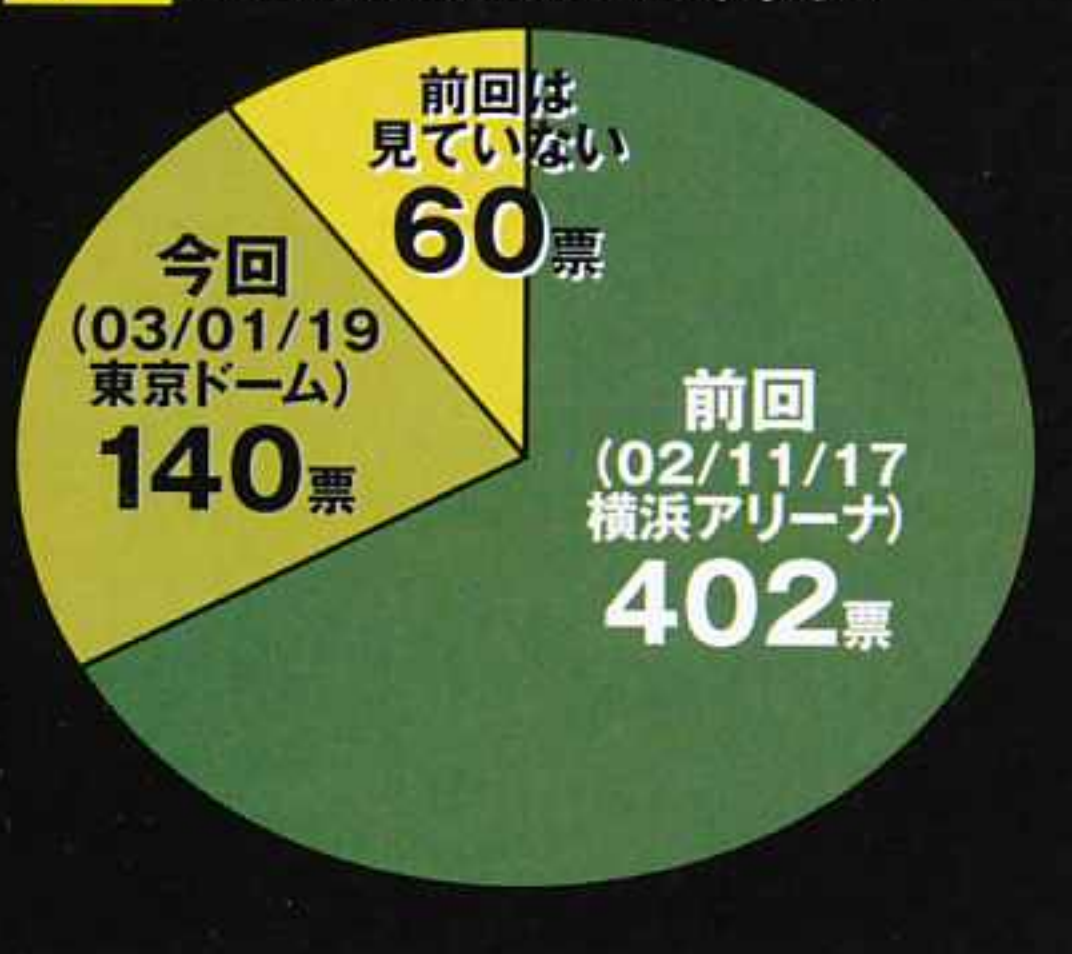
## Q.3 1/19『W-1』のベストバウト（一番面白かった試合）は？

| 試合 | 票数 |
|---|---|
| ●橋本vsジョー・サン | 404票 |
| ●ボブ・サップvsアーネスト・ビースト | 354票 |
| ●ウルティモ&カズ・ハヤシvsウルティモ・ゲレーロ&ブカネロ | 293票 |
| ●ミラノ組vsアンソニー組 | 277票 |
| ●コールマン&ランデルマンvsコンビクト組 | 132票 |
| ●さたやんvsブッチャー | 115票 |
| ●カシンvsサブゥ | 89票 |
| ●武藤&ゴールドバーグvsクロニック | 71票 |
| ●馳&小島vsテリー&ヒーリング | 66票 |

## Q.4 1/19『W-1』のワーストバウト（一番つまらなかった試合）は？

| 試合 | 票数 |
|---|---|
| ●武藤&ゴールドバーグvsクロニック | 491票 |
| ●ボブ・サップvsアーネスト・ビースト | 487票 |
| ●さたやんvsブッチャー | 423票 |
| ●橋本vsジョー・サン | 151票 |
| ●ミラノ組vsアンソニー組 | 65票 |
| ●馳&小島vsテリー&ヒーリング | 63票 |
| ●カシンvsサブゥ | 60票 |
| ●コールマン&ランデルマンvsコンビクト組 | 51票 |
| ●ウルティモ&カズ・ハヤシvsウルティモ・ゲレーロ&ブカネロ | 9票 |

## Q.5 昨年11/17の『W-1』と1/19の『W-1』は、どちらが面白かったですか？

| 回答 | 票数 |
|---|---|
| 前回（02/11/17 横浜アリーナ） | 402票 |
| 今回（03/01/19 東京ドーム） | 140票 |
| 前回は見ていない | 60票 |

※アンケートの集計結果はすべて2月6日時点でのもの

——ゲ！　普通のプロレスが好きなあんちゃんでも半年で何とかなっちゃうんですか？（笑）。

**馳**　いや、基礎体力ができてればの話だよ。ヘンなツッコミ入れるなよ（笑）。たとえば大学でアマレスで頑張ってきた威勢のいいヤツでさえ半年かかるってこと。もちろん俺だって半年かかったし、それでもショッパかったんだから。ところがホーストにしてもヒーリングにしても基礎体力は十分過ぎるほどある。ノルキヤもそうだし、コールマンもランデルマンもそうだけど、我々以上に肉体的なポテンシャルもある。プラス一生懸命にプロレスに臨もうとしてるわけだから、それは1ヶ月あれば試合を成立させるのは十分ですよと。ただ2日間はねぇだろう、と（笑）。そういう話ですよ。

——いまの話を聞いていて思うのは、もしヒーリングやホーストにしっかりした試合ができちゃったらプロレスラーってどうなっちゃうんですか？（笑）。

**馳**　う～ん……どうにもならないよ！

——ガハハハハハ！　なんじゃそりゃ。

**馳**　『W―1』という番組でサップやホーストが頑張って凄いというのと、地方巡業や中規模な会場でいわゆるハウスショー向けにプロレスラーが頑張るっていうのは意味合いが違うからね。つまり一つのイベントとして成立させるためにサップやホーストが頑張るっていうのと、ズッと20年ぐらい腹を決めてこの世界で頑張っていこうという人間が地方巡業や武道館、あるいは両国でファンを満足させて、なおかつ見せていくためのレスラーとしてのあり方とは意味が違うから。

——ひとつのイベントへの出演者と、プロレスに骨を埋めてやっていこうっていう選手では、意識が違うと。

**馳**　意識というか、有り様が違う。『W―1』という番組ソフトのコンセプトでやるんだったら、サップやホーストたちは1ヶ月でアジャストできると思うし、実際に練習や稽古を見ても一生懸命やってますからね。

——試合からも一生懸命さは伝わりましたよ。

**馳**　もう凄いんだから！　だから俺はもったいないと思うよ。「何だ、プロレスごっこしやがって！」っていう批判は出るんだろうなとは思ったけど、そういう汚名をこれだけ一生懸命やってる彼らに着せたくないなって。だからこそ俺に1ヶ月くれよ、と。そうしたらもっと凄い試合をさせてやるのになっていう切歯扼腕……歯ぎしりするような思いは見ていてありましたね。

——切歯扼腕！　難しい単語が出てきたなぁ（笑）。

**馳**　なんか国語の授業みたいになっちゃったけどな。

HIROSHI HASI

格闘家の持つ潜在的な運動神経がプロレスで発揮されたら？　このランデルマンは、自分の特性を良く理解した上でプロレスに取り組んでいる格闘家の一人だろう。凄すぎる！

## “馳先生”がサップやコールマンを教えてる映像を流すという企画もあったんだ

——永遠の国語教師（笑）。『W―1』も馳先生がキッチリ時間を取ってプロレスを叩き込んでくださいよ

**馳**　ムフフ（まんざらでもなさそうに）。こういう企画もあったんだよ。〝馳先生〟が、サップやコールマンやノルキヤを教えてる映像を流さしてほしいと。「それは別にいいよ」って言ったんだけど。

——それはホントに面白いと思いますよ。WWEでもそういう番組はありますからね。それを深夜枠で継続に流していけば思い入れも違ってきますからね。

**馳**　アイツらがみんな「イエッサー！」って言って、「こういう動きをしなければいけないのか」と学んでいくと。

——馳先生がプロレスの基本や理論を教えるとき、「レッスン・ワン！」とか甲高い声でやってるらしいですね（笑）。

**馳**　いや、「ステップ・ワン！　ステップ・ツー！」だよ（笑）

——ランデルマンとかが必死にメモをとってるわけでしょ？

**馳**　そうそう。

——プロレスの練習はみんなが思ってるより全然厳しいもんですからね。もはやスクワットやバーベルとかの我慢比べ、力自慢を武器にしてる時代じゃないですよ。でも、みんなホントに馳理論には感心してましたよ。

**馳**　そういうことを今回もサップやホースト、ランデルマンたちが一生懸命やってるんだから、むしろそういう部分をダイレクトに映像を流してくれたほうがプロレスを見直してくれるのかなって。

——それはボクもそう思いますね。見せ方のレベルは問われるけど。だから試合内容のクオリティを上げるっていうのは非常によくわかるんですけど、クオリティを上げただけでは大衆は食いついてこないっていう現実があって、そこをどうクリアしていくかの実験なんですよね、『W―1』は。第2回目にして失速したけど（笑）。

**馳**　試合のクオリティを上げるだけでいいんだったら、俺と小島の試合が一番いい試合になるはずですよ。あと武藤とかね。でもそうじゃないんだから。

——馳先生はこういうことを言ってて、プロレス村に対しては違うことを言うからなぁ（笑）。

**馳**　そんなこと、ないない（手をヒラヒラさせながら）。プロレス村にいる人は毎週いろんな試合を追いかけてるからね。その人たちの鑑賞に耐えるものを出してあげなくちゃいけないっていうことですよ。それとね、プロレス村の人は心配してるんだよ。

——何をですか？

**馳**　これによって、プロレスが色眼鏡で見られて、「プロレスって簡単にできるんじゃないか？」と思われる不安感があって拒絶反応が強いんだと思うんだけどね。まあ、でも『W―1』はホントになんとかしてあげたいなと思ってるんですよ。

——いよっ、馳先生、当選確実（笑）。

**馳**　やる以上はね。やっぱり午後7時から1時間の枠をいただけるっていうのはありがたいことですよ。そういう意味でいえば『W―1』っていうのをできるだけ定期的に続けてもらうようにして、いまのうちに鑑賞に耐えるものにしなくちゃいけないね。そこにやっぱりプロレスのドラマを取り込んでいかなくちゃいけないし。

——（手を挙げながら）先生、じゃあ次の質問です！　それでこれがまた面白いんですけど、アンケートで「一番面白かった試合はなんですか」という設問に対して一番票が入ったのが橋本真也vsジョー・サン

なんですよ。

**馳**　悲しいね（笑）。

——次がボブ・サップvsアーネスト・ホースト。その次がウルティモ・ドラゴンの試合なんですよ。

**馳**　うん、あれは良かったね。

——で、その次が闘龍門の6人タッグ。その次がコールマン組vsコンビクツの試合。で、ズーッと行って、馳先生の試合（馳浩&小島聡vsテリー・ファンク&ヒーリング）は、票数でいうと一番下！（笑）。

**馳**　……そうか……。

——どうですか、この現実は（笑）。でも、フォローすると、これはワーストバウトって意味じゃないですからね。

**馳**　この「面白かった」っていう言葉が問題だよな。つまり俺と小島が、テリーとヒーリングとの試合を無事におさめたというだけであって、ある意味で言えば、馳と小島の力量だったらこんなもんだろうと思われてるということだよね。だからファンにとって、そこに面白味はないんですよ。面白味というのは何かと言ったら、ハチャメチャさであったり、見た目の面白さであったり、理屈ではないホントに五感に訴えるような面白さだろうね。

——ホントに国語の授業みたいになってきましたね（笑）。

**馳**　つまり、そこには技術論はないってことですよ。

——そうですよね。面白さというのは、いろんな種類はあってもインパクトですからね。

**馳**　多分、俺も小島も困ったなぁと思いながら試合して、無難に試合をおさめたと思いますよ。

——馳先生はこの日はそういう役割だったということですよね。

**馳**　番組的には、そういう役割だったということだろうね。

——興行的にもそうだと思いますよ。それで「一番つまらなかった試合は？」っていう設問に対して一番票を集めたのが、なんと武藤&ゴールドバーグvsクロニック。これは面白いですよね。

**馳**　面白いねぇ。でもこれは、地上波で見た人だけにまず聞いてみるとか、会場内だけで聞いてみるとか、そうしたほうがよかったな。一緒にしちゃったのがミスマッチだよ。

——なるほど。馳先生的には第1回目の『W—1』と今回ではどっちが面白かったですか？

**馳**　それは圧倒的に第1回目でしょう。看板次第だった、ということかな。前回の看板だったムタvsサップと今回の看板であるサップvsホーストは、面白いという意見と面白くないという意見が両極端で、賛否両論を呼んだってことなんだろうね。前回のムタvsサップは目の前で観たし、PPVでも地上波でも見たけど、いずれにおいても鑑賞に耐えうる内容だったと、俺は判断してますけどね。

——メインの質感の差ですかね。

**馳**　そういうふうに取れるような気がするな。ムタのあの登場の仕方であったり、サップを相手にしたというインパクトの強さっていうのはあっただろうね。プラス、前回は武藤、蝶野、橋本の3人が揃ったっていうのは確かにインパクトがあったよね。今回はちょっと番組的にイジリ過ぎたなっていうのは感じますよ。それは番組制作者の方がそういうような方向を狙ったんだろうけどね。

馳が最初に入団したプロレス団体、それがジャパン・プロレスだった。専修大学レスリング部出身で長州の後輩にあたる馳はジャパンへ入団。そしていま再びWJへ参戦する。

## 俺だってデビューまで半年かかったし、それでもショッパかったんだから

——テレビ局の人と話してると、ハウスショーでやってるような目一杯のプロレスを、そのままゴールデンタイムで放送できるのかという問題になると、みんな「難しい」って言いますよね。

**馳**　今回は夜7時からの1時間番組で視聴率戦争の激しい時間帯だったでしょ。その時間帯では多分、「できない」ってハッキリ断言するだろうな。そして「スポンサーも付きません」とハッキリ言われる。「コンテンツとしてもいりません」とも言われる。これはもうハッキリしてるよ。

——ハッキリしてますよね。

**馳**　武藤も悩んでるところはそこなんだよな。ただ、そうは言いながらもプロレスの番組は衛星放送なんかでも、爆発的ではないけど、根強い人気はあるよね。過去のものであったり、現状のものにしても。

——PPVにしても、CSでもやっぱり根強い数字を取りますからね。

**馳**　となってくると、地上波っていうのはまさしく、現在進行形の知名度であったり、引きつけるものであったり、チャンネルを変えないでズッと見ていてもらえるだけのインパクト。そして安心して見ていられるという要素が必要で、7時台であればなおさらだってことだな。安心して子供やお母さん方が見ていられる番組じゃないとダメってことだろうな。

——以前、土曜の夜7時に全日本中継をやってたときは、輪島（大士）vsタイガー・ジェット・シンの流血戦が流れていたこともあるんですけどね（笑）。

**馳**　時代だね。

——その時代ってことでいえば、K—1や『PRIDE』に、いわゆる格闘技としての緊張感を持っていかれてしまった。その緊張感を取り戻す作業も一方では必要だけど、プロレスをどうやって大衆に届けるかって言ったら、お笑いタレントやバラエティタレントができないような凄いことをやるっていう方向に針を振る手も一方でありますよね。WWEなんかはそれに近いし。

**馳**　それをプロレスって言っていいのかわからないけど、プロレスラーをイチ出演者として使っちゃおうっていう、テレビ局の傲慢さであり、現実があるというふうに判断せざるをえないかな。現状のプロレスってものに全く期待してないからね、テレビ局は。興行であったり、レスラーたちであったり、アイディアであったり、企画力であったり、そういったものに期待してないから。

——それはいろんな局の関係者と話しても共通してますよね。

**馳**　まぁ、こうやって目を閉じて思いを巡らせれば（まったく目を閉じずに）……やっぱりタイガーマスクですよ！

——タイガーマスク！

馳　タイガーマスクがいたから猪木さんと長州さんの抗争に目が行ったのかもしれないし、タイガーマスクを入り口にして前田さんなんかにも目を向けてくれたのかもしれない。あの時代においてタイガーマスクの力量っていうのは一般の人に訴える普遍的なものがあった。市民権を得ていたでしょ。もちろん試合内容にもそういう力量があったから。

——なるほど！　馳先生、七万票獲得‼

（笑）。改めてそう思いますね。サップとタイガーマスクは全然質感は違いますけど、共通点は"スーパースター"ってことですよね。

馳　それと、誰にとってのスターかっていうことだよな。プロレス界にとってもスターなんだけど、お茶の間のファンにとってもスターなんだよね。

——そこですよ！　つまり大衆のスターってことですよね。ボクが勝手に定義づけてるのは『W—1』とは、プロレスを大衆の手に戻す作業」だと思ってるんですよ。

馳　うん。武藤もそこを期待して試行錯誤してると思いますよ。

——そういう意味では『W—1』は全日本にとっての"抗がん剤"」っていう意見も一部にありますけど、全日本vsZERO—ONEのほうが"抗がん剤"のような気もするんですよね（笑）。対抗戦が始まる前にこんなことを言うと怒られますけど。

馳　いや、全日本vsZERO—ONEは……う〜ん、こんなもんですよ！

——「こんなもん」ってどんなもんですか？（笑）。

馳　『W—1』の発想の域を越えてないってことだよ！　業界内のどっちが潰れるかっていうぐらいの切実感は確かにあるんだけどね。

——でも、それは大衆には関係ないですからね。

馳　そんなに効果はないだろうね。

——全日本vsZERO—ONEっていうのは馳先生から見て、どうなっていったら面白くなると思いますか。

馳　う〜ん、両方とも潰れればいい‼

——ガハハハハ！　馳先生、十五万票獲得‼　凄いこと言いますね（笑）。

馳　そういうことじゃないの？　両方とも潰れてね、レスラーもプロレスも生き残っていくための装置を作らなければいけないと思うんだよ。極端な話、コミッショナーの元に一個興行会社があればいい。どっかの団体が生き残っていくっていうんじゃなくて、猪木さんや馬場さんがプロレスを根付かせてきたものを残していかなければならない。それはレスラーであり、試合なんだから。それを残していくための形は何が一番いいのかなって俺は考えてるんだけどね。会社を残すよりもプロレスを残す最善の方法を模索していかなければならない。だから全日本が潰れたとしてもどうってことはないんですよ。

——馳浩の構造改革！

馳　それか、逆にまるっきり元へ戻って新日本と全日本の二つだけ残ってしまうかのどっちかですよね。どっちかの団体が生き残るかなんてファンにとってはどうでもいいことであって、それよりもファンは面白いプロレスを見せてほしいんですよ。見ていて、楽しくて迫力のあるプロレス！　それでやっぱり、その興行を観た後にみんながハッピーになれるようなプロレスを。嫌な気分では帰りたくないからね。だからさっきの大衆の話じゃないけど、『W—1』が求めてるのは、ボブ・サップという才能のあるスターをいかにプロレスというファクターを利用しながら、まさしくゴールデンタイムを使って社会現象にしていこうかっていう話だから、そこにプロレスがいい形で乗っかっていけばいいんだけどね。

——でも現状では乗っかり切れてないですよね。

馳　乗っかりきれないよね。単発で終わってるし、やっぱりこれは、月2回で毎週やらなきゃダメですよ。

——「月2回で毎週」ってどういう意味ですか、先生？（笑）。

馳　……いやいや、月2回で毎月だな。お前、ヘンなツッコミ入れるなよ（笑）。それを1年間やっていけば定着するだろうな。

——だから逆に言えば、全日本vsZERO—ONEだって1年間テレビがつけば行けるっていう発想も出てくるんでしょうけどね。

馳　いや、全日本vsZERO—ONEではゴールデンは付かないな。

——付かないですよね。

馳　魔界倶楽部vs正規軍でも付かない！

——つきませんね。馳先生が『ファイト』で提案していた、馳浩vs坂田亘の美人マネージャー対決だったら付くかもしれませんよぉ（笑）。

HIROSHI HASE

馳　あ、美人マネージャー対決だったら付く！　あるいは馳浩vs大仁田厚は……付かないな。深夜放映枠だったらうまくいくな。ゴールデンじゃ無理だけど（笑）。

——議員対決はゴールデンは無理ですか（笑）。でも、破壊王vsムルアカとかだったら絶対面白いでしょうね。小川直也vsムルアカとか（笑）。

馳　面白い！　だからね、批判はドンドンするべきだと思うし、それでいいと思うよ。ただ、ファンはいいんだけど、我々を含めて関係者が批判をしたとき、"じゃあ俺たちは何だよ？"って考えると、ファンの人のプロレスそのものに対する批判の本質をもう少し理解していかなきゃいけないんじゃないかなぁ。わかりやすく言うと、既存の全団体を全部潰してね、コミッショナーが一個の興行会社を作って、スターを揃えなくちゃダメだよ！

——先生、それは大ワクのところ賛成で〜す。

馳　日本プロレスコミッショナーのもとに運営会社があって、運営会社が定期的に二つぐらいリングを用意してね。こうなると『スマックダウン』と『ロウ』のパクリみたいになるけども、いまのレスラーの量からいけば、二つぐらいでもいいでしょう。プロレス団体にしてもプロレスラーにしても飽和状態だからね。どこの団体も経営力がないんだよね。三沢vs橋本とか、蝶野vs川田とか、毎週こういった凄いカードを提供して全国を回ることはできるよね。これがやっぱり面白いよ。分散してそれぞれが小さくなって興行やってりゃ、それは尻すぼみだわな。

——現状では、限られたパイを食い合ってるだけですからね。

馳　改めてプロレス界全体を考えたら、新

HIROSHI HASE

日本、全日本、ZERO—ONE、ノア、インディーが一つになったほうがいいに決まってるんですよ。たとえば『W—1』が毎週テレビで定期になれば、常時出れるのが20〜30人ぐらいのタレントであるとして、残りは出れないわけだから、これは逆に一つにまとめて二軍制を敷いたりね。技術をつけながら二軍制でやっていって、これが『W—1』と連動していく形になればもっといいし。

——さっきの話じゃないけど、K—1や総合の選手が凄いプロレスを見せた日には、知名度でも内容でもかなわないことになる。ということは、これは言い方を変えるとプロレスに対しての〝外圧〟じゃないですか。外圧と〝プロレSLOVE〟が同居しているところが『W—1』の可能性でもあり、批判されるところでもあると思うんですよ。昨今のプロレス界の発想では外圧の部分を切り捨てようとしますよね。でも、切り捨てたらテレビが付かないんですよね（笑）。

馳　ホントに難しいところだわな。

——プロレスにその外圧を飲み込むだけのエネルギーがあればいいんですけどね。でも、K—1のエンターテインメント部門なのか、単なるテレビ番組なのか、プロレスを広げる基盤をつくっていくのか、『W—1』のスタンスも、まだわからないじゃないですか。

馳　わからないな。

——そのスタンスがハッキリしないと、客席に熱は生まれないですよ。WWEを見て思いましたけど、やっぱりイベントを作りあげるときに、一番大事なものは客席の地熱ですよね。

馳　ああ〜。お前、たまにはいいこと言うね（笑）。

——そういう地熱を生んでくれる〝頑張るファン〟を作るにはスタンスをハッキリさせないと。

馳　やっぱりテレビの力って強いな。WWEにしたって年に数回しか来ないけど、あれに集まって来る人って衛星放送で毎週見てるからね。自民党でも大御所の江藤隆美さんを代表としてファンはいっぱいいるんだよな。毎日、派閥の会長室でそればっかり見てるんだよ。ロックとストーンコールドのファンなんだけどさ、「馳くん！国会もプロレスと一緒だ！」とか言い出すから、俺のほうが「え〜！」ってひっくり返りそうになるからね。「政治家もね、WWEのみんなみたいに体を張らなきゃダメなんだよ！」って言ってるよ（笑）。この人はよくわかってるなぁって。「やるからには徹底的に体を張らなきゃ面白くないんだよ！」って。素人って意外とズバってモノを見てますよ。

——だから、いまこそ大衆にプロレスを戻すっていう作業は必要ですよね。

馳　それはやっぱり、力道山先生の時代にいかに社会的な認知を得たかっていったらテレビだよな。なぜ、いまテレビが付かないかっていったらスターがいない。荒井（昌一・元FMW社長＝故人）さんの自殺なんかもあって暗いイメージですよね。そんなイメージではテレビも付かない。そうするとますますこじんまりとした村社会になっていくと。だんだんと萎縮してきてしまってるからね。こういうときにはサップみたいに開放的で圧倒的な実力と存在感があるっていうものが求められるんだろうしね。こないだ武藤と話したんだけども、「気にするなよ」と言ったんですよ。「俺たちはスターの座を追われる年代に入ってきてるんだから、新しいスターをつくってやるために協力していると思えば、プロレス界に貢献してるんだから」って。そういう意味で言えば、プロレス村がそういうチャンスの足を引っ張ってる側面もあるわな。

——そういう傾向はありますね。

馳　だから、武藤には「スターをまず作ってやろう。スターになるべき人間はいるはずだから。それを伸ばしてやろう」という話をしましたね。

——プロレスを大衆に戻すっていう作業は、プロレスを〝歌謡曲〟に戻すっていうことだと思うんですよ。プロレスが専門化して、たとえばラップだとかヒップホップだとか多ジャンルに分かれ過ぎちゃってる。

馳　いや、こないだね……お前、笑うなよ？

——笑いませんよ。

馳　この前、沢田研二が『勝手にしやがれ』と『TOKIO』を歌ってるのをテレビで見たんだよ。いいよね〜。

——ダーハッハッハ！

馳　笑うなって言ったろ！

——……いや、でもマジで沢田研二はバツグンですよ。

馳　あれは20数年前だよ。ピンクレディーもキャンディーズもいいねぇ。ところが最近の歌は耳に残らないじゃない。視覚にも残らないで通り過ぎていくし、1ヶ月か2ヶ月の流行のサイクルにはなるけども、残ってはいかないよね。ホントの意味で大衆にプロレスを訴えるならば、誰が見てもわかるものを作り出す必要はあるんじゃないかな。

——元々、戦後にプロレスが始まったときも柔道家の木村政彦や横綱の東富士。いろんな専門分野の格闘家がプロレスっていうものをやったわけですよね。これ、戦後の歌謡曲の成り立ちと一緒ですよ。何とかジルバとか何とかロックとか何とかマンボとか、専門的な外来の曲を全部、一度歌謡曲に変換して大衆に流してたわけですよね。

馳　ほうほう。

——それと同じでプロレスは格闘技を変換する装置ですからね。だから早く歌謡曲、あるいは〝音楽〟という大きな概念を取り戻してほしいですよね。沢田研二はカッコイイですからね。

馳　そうなんだよ！　沢田研二をパッとテレビで見た時に「これだな」って思ったから。カッコいいし、耳に残るし、目に残るし、また見たいなって思うよ。見た後、幸

「大衆と歌謡曲」というテーマは、そのまま「大衆とプロレス」というテーマにスライド可能だろう。サップとホーストが歌った歌謡曲は、少なからず世間には届いたのだ。

せな気持ちになるし、嫌な気持ちになんかないじゃん。それが、たとえばＢｚだったりすると理解度が足りないと「え、何?」って思うじゃん。沢田研二の魅力はやっぱり大衆性だわな。

――それでいてヘタな専門家より音楽性もあるし、歌もウマいし、カッコいいと。『Ｗ―1』のテーマってやっぱりそこなんじゃないですかね。

馳　せっかくあんな場所を与えて頂いたんだから感謝しなきゃいけないですよ。確かにお金の面でも感謝しなきゃいけないんだけど、そういう意味じゃなくて、その場を放り投げていいのかって言ったら絶対よくないですよ。

――スーパースターっていうのは大衆と向き合わないと絶対に生まれないですからね。プチスターはアングラでいくらでも生まれるけど。

馳　プロレスも大衆と共に歩んできたものだからね。圧倒的にその大衆に向けて体現できた猪木さん、馬場さんっていう人が、そういう意味でも力が強かったんだなって改めて思うよね。だから、今でいうと高山なんて素晴らしいじゃないですか！　頭もいいし、才能もあるし、根性もあるし、あれがなんでスーパースターになり切れないかっていったら、テレビだろうなって思うんだよな。うまくみんなで盛り上げるようにすればサップ並にはなると思うんですよ。

――ホント、高山選手は素晴らしいですよ。

馳　高山はいいよ～。高山は多分、馬場さんと出会ったことで素質が開花したんじゃないかと思うんだよな。

――それはなぜですか。プロレスっていうものに目覚めたってことですか。

馳　そういうことだね。馬場さんがいたからこそできたことなんだろうけどね。それとさ、小川（直也）はもったいないよ！　吉田（秀彦）も！　だから、みんなで期待してたのが小川じゃないですか。小川が橋本みたいにね、レガースを外せばもっと良くなると思うんだけどなぁ。で、身体は150キロぐらいにしたらね。

――ガハハハハ！　ファスティングなんかして痩せるなと（笑）。

馳　気がつかないと思うけど、橋本の凄いところは、あの140キロくらいの体で、あのキックをレガースなしでやってるんだよ。あれを俺たちも受けてきて大変だったけども、でもアイツは絶対に怪我をさせてないだろ？　思いっきり蹴ってるのに。

――まぁ、昔は干されたりありましたけどね（笑）。

はせ・ひろし■昭和36年5月5日、富山県小矢部市出身。名門・星陵高校3年の時に国体優勝。専修大学では教員免許も取得した。84年ロス五輪ではグレコローマン90キロ級に出場するという輝かしい戦績を誇る。85年にジャパン・プロレスに入門。95年には参議院議員に当選。2000年には衆議院議員となる。激務に追われる多忙な毎日を送りながらも、リングに上がり続けている。プロレスのコーチとしても評価が高い。

## 大衆にプロレスを訴えるなら誰が見てもわかるものを作りだす必要がある!

馳　あれがプロレスなんだよな。橋本ってやっぱり凄いですよ。

――ホント、破壊王は胆力がありますね。

馳　あの肉体であそこまでのキックができて、あそこまでお茶目で……ホントにプロレスラーだよな。

――頭いいし、バカですからね（笑）。バカだけど頭が切れる。相反するものを全部抱えてますよね。宇宙ですよ、破壊王は（笑）。

馳　ちょっと金遣いは荒いけどな（笑）。

――ダハハハハ！

馳　でもそれはファンから見れば関係ないことだからね。やっぱり存在感があるしね。それは武藤にしても蝶野にしてもそうだから。よく考えたら、こいつらは一つのところにいたんだよなぁ。

――ところで話は変わりますけど、ＷＪは面白くなりそうですか。

馳　う～ん、わかんねぇな。長州さんと天龍さんだとリバイバルだよね。身体が持つかな？ってところかな。

――でも長州さんのやる気は凄く感じますよね。

馳　うん。俺も最近はなぜか全日本の事務所よりＷＪの事務所に行くほうが多いもんな（笑）。

――この裏切り者！（笑）。

馳　でも、ＷＪの旗揚げ戦（3・1横浜アリーナ）で俺と闘うフライのパートナーは凄いよ。

――ダン・ボビッシュですよね。

馳　何でいつもあんなの相手にさせられるんだろうなって（苦笑）。いや、ホント凄いんだよ！（スコット・）ノートンより凄いんだから！　受け身の練習しとかなきゃなって思ったもん。

――でも、結構そういう役割が好きなんじゃないですか、馳先生は（笑）。

馳　ちょっとね（笑）。

――馳先生は処女好きなんだなぁ。処女でも痛くないように貫通させる自信があるんだろうなぁ（笑）。

馳　なに言ってんだよ、お前（笑）。ここは議員会館だよ。要は俺がちゃんと受け身が取れるってことだろう。でもホント、『Ｗ―1』のほうはやっぱり何とかしてあげたいと思うし、可能性も感じてるしね。

――『Ｗ―1』を主催する側がどれだけ本気になって取り組むかって問題もあるでしょうしね。

馳　彼らがやりたいことを好きにやってくれたらいいんだけど、準備期間をくれよって。ただそれだけですよ。あと、コンセプトね。そうしたら何とかしてやるからって。

――いやぁ、今後も馳先生の出番は腐るほどあるなぁ。プロレス界がこれ以上こじんまりしないように、馳先生、早く政治家を辞めてくださいよ（笑）。

馳　国会議員をやってるからいろんな発想が出てくるんだよ！

――失礼しました（笑）。

馳　国会議員を辞めてプロレスラーに専念しちゃったら、それはそれでいまの内輪の中に入ってっちゃうんだから。なぜかといったら俺には議員をやってることによって、いろんな発想が出るし、アイディアも教えてあげれる。でも、金を持ってないから！

――ダハハハ。ところで、新日本の上井取締役が「山田邦子に怒った馳はどこに行ったんだ！」って言ってましたよ。

馳　ここにいるよ～って。

――ガハハハハ！

馳　ちょっと頭を抱えているけど、頑張ってるよ～って。

――馳先生、おめでとう！　当確です（笑）。

【2月7日、国会議事堂内にて収録】

# 〝王道〟〝ストロングスタイル〟はWJにあり!!
# 噴火ド直前!! プロレスファンのハートの「ド真ん中」に突き刺さる

## 新日本は崩壊する！【長州力】

80年代新日本のゴタゴタが記憶に甦ったか、アントン総帥と新間寿の電撃和解を受けて、長州は新日本の終焉を予言!! というか、度重なる新日本からの引き抜き行為で、有言実行ならぬ予言実行をカチ喰らわすから恐ろしい!!

## ケンスキーが新日本を辞めたらしいな……【ホーク・ウォリアー】

どこでWJの電話番号を調べたのか、早朝から不気味な国際電話をWJ事務所にかけてきたホーク!! これを事件と報道する日本はまだまだ平和だな、と思う次第なのだ。

## 俺が業界のド真ん中を突っ走る！【長州力】

■『週刊ゴング』NO.938

他にこんなこと堂々と言えるのは、アントン総帥、日明さん、そしてターザンぐらいなもんである。以上！

## 闘う軍団WJ、王道を歩くWJの今日はめでたい入団式であります【福田社長】

吐く言葉すべてが名言化している感のある福田社長！ その貫禄ぶりもあるだろうが、WJがいつの間にか〝王道〟を名乗ろうが、福田社長の発する言葉にはいちいち納得してしまうパワーを感じる！ 健介がWJ入りを説得されるのは当然だ。ヴァー。

## （WWEで好きな選手は）辞めちゃいましたけど、マンカインドです【鈴木健想】

WWE行きを夢見る健想は、マンカインドのファイトに「明るい未来」を見ていたのだ。WWEフリークの健想の参戦で、「ストロングスタイル」「王道」の看板にエンターテインメントも加わる日も近いだろう。

## （サップを横目で見ながら）俺もウカウカしてられないよね【佐々木健介】

豆まきが行われた池上本門寺でのコメントだが、選手個人としての危機感溢れるはずの発言なのに、どうしても呑気さしか感じられないのは健介の人柄からであろう。

## お前、ヒットマンか!?【永島勝司】

永島氏がゲスト登場した月曜『生ゴン』に、安生が突然の乱入!! その安生に三流Vシネマでも使わないようなセリフをぶつける永島氏！ いつ何時話題を提供するWJからはホントに目が離せない！

## ともにバーリ・トゥード経験のある選手なため、ルールは未定【永島勝司】

もの凄く強引な論理！ WJ語録に象徴されるのは、とにかく意味はよくわからないが、なんだか凄さを感じてしまうことなのだ。

## どうして、普通に身につけられるグッズが少ないのか【長州力】

長州ブランド「ロックアップ」立ち上げのきっかけになったといわれるこの言葉はWJのHPにアップされている。WJはプロレスグッズでもド真ん中を突っ走ろうとしているのだ！ 新日本で売り残ったと言われる健介グッズも、WJセンスに仕立て上げるならメガヒットするのに違いない。きっとそうだ！

## 「アッ！」と目ん玉が飛び出るほどのストロング・スタイル【福田社長】

プロレスファンの想像力を刺激する言葉を吐き続ける福田社長には、今後も全面に立って頂きたい！

## 今回、35万坪の土地を買いましたんで、そこでウチの会社の合宿所をつくります【福田社長】

北海道で事業を営む福田社長は、こんなビックプロジェクトも推進中！ 35万坪と言われてもサッパリ見当がつかないが、福田社長の力をヒシヒシと感じられる良い話。言うこともデカイがやることもダイナミック！
福田社長は男の鏡だ！

## ヴァーッ！と、クァーッ！と暴れたい！【佐々木健介】

## 本当に死ぬつもりで頑張ります【佐々木健介】

WJ入団に向け意気込みを語った健介だが、本当に死んだらダメだって！……と、全国津々浦々から突っ込みが入ったと思われるが、骨を埋める覚悟の健介だけにそれを言っちゃあ野暮ってものだ。

## 招待券は撒くなって言ってますから【長州力】

とか言ってるそばからWJからリリースが！ 「当社では、3月1日横浜アリーナ大会に、神奈川県議の山田泰之議員を通じて福祉に役立ててもらうために、子供達を招待することになりました」……。仰天なことに1000人を招待！ 強きを挫き弱きを助ける！（というわけでもないが）。これがWJだ！

## WJのためにガイジンをすべてゲットします【マサ・サイトー】

マサさんのマグマのような意気込みも炸裂!! 「すべて」と言い切る凄さがWJらしさをビンビンに感じる！

## アルティメットのチャンピオン【永島勝司】

ドン・フライがパートナーとして連れてくる予定のアルティメットのチャンピオンは、なんとキング・オブ・ケージのチャンピオンだった……！ おもいきりズッコケる前に、アルティメット＝UFCと簡単に連想してしまうボクらの格闘頭を反省すべき！

繰り返すが、WJ語録はとにかく意味はわからないが、もの凄いエネルギーを感じて仕方がない！ ヴァーッ！と、クァーッ！と呟いたら、力みなぎってくるのは気のせいだろうか。気のせいじゃない！ クァーッ！

成/ジャン斎藤
signed by matsu(Two three)

FIGHTING OF WORLD JAPAN PRO-WRESTLING

# WJマグマ語録

旗揚げ前から話題沸騰！　毎日がWJアニバーサリーな活動を展開するWJプロレス！
その燃えたぎるマグマ発言の数々を、旗揚げ噴火ド直前を記念して、
ヴァーッ！と、クァーッ！と大放出！　スペースの都合上、ありたっけの発言用意したって！
とは言えないが、その暑苦しさに感動してほしい！

## 頭が軽くなった!!

**［佐々木健介］**

悩みに悩み抜き、遂に解消できた快感をストレートに表現した健介！　頭がスッキリするならともかく軽くなっちゃ何かを失ったみたいでマズイのだが、それほどまでに健介は苦しんでいたのだ。

## とにかく母のためにも強くなって、お金を稼ぎたい。楽をさせてあげたい

**［中島勝彦］**

長州が一目で気に入ったこの空手少年は、中学卒業後、そのままWJ入り。平成の時代ではとっくに失われた、ハングリーさ溢れるプロレス入りの理由は聞くだけでしんみりしてしまう。プロレスっていいですねぇ……。

## ロートル集団とか言ってる奴らオマエらこそ終わらせやる！

**［長州力］**

そんなこと「言ってる奴ら」とは、皆さんご存じのY氏やI氏のような気がしてならないが、きっと気のせいです。それにしても長州は、やること言うこと一度引退した人間とは思えないマグマぶりだ！

## 「MAGMA01」実況アナウンサーを巡って新日本から横やりが入った。今対処に困っている。

**［長州力］**

■2月8日『東スポ』

ズバリ言って〝ヒャッホー〟辻アナのことであるが、新日本から選手、レフェリー、ブッカーのみならず、アナウンサーまで引っ張ろうするWJに、引き抜きゴタゴタに異常に牙を剥くはずの専門誌が至って静かなのは、WJがド真ん中を突っ走ってるから……なのかなぁ。カチ喰らわせられるから？

## 白髪が出てくるぐらい考えたしね

**［佐々木健介］**

■『週刊プロレス』NO．1133

「メシが喰えないぐらい」「練習ができないぐらい」と、苦悩を表現する例えぶりにセンスを感じさせる健介。子供からお年寄りまで通じるシンプルさを、ホリオン・グレイシーあたりには見習ってほしいものだ。

## ありったけの爆弾用意しろって！

**［越中詩郎］**

WJ入りした越中が、水を得た魚のように「やるって節」を炸裂!!　なにしろ中東＆北朝鮮情勢の緊張が高まる中、こんな物騒な発言をするんだから、そのハッスル度は沸点を極めているって！　同じく「電流爆破をやろうぜよ」と呼びかける大仁田議員も最高だって！

## ここでWJに入ったら『やっぱり長州のところに行くんだな』って前から噂されていたことが、ホントになってしまう。それが怖かった！

**［佐々木健介］**

単なる噂が現実に!?　恐怖新聞に怯える鬼形礼張りに、健介はWJ入りの噂を聞く度に寿命が100日ずつ縮むような思いをしていたのだ。

## ヒクソン戦へのステップのために俺とやるなら気分は悪い

**［天龍源一郎］**

新日本ですら格闘技とプロレスの2部構成を思案するマット界において、ボーダーの引かなさ加減がたまらないWJ！　井上さんが「バードになる！」と騒いでもしょうがない。WJ万歳である。

## ヒクソンとやる夢を見るんですよ

**［長州力］**

■『週刊ゴング』NO．950

『ゴング』の表紙を飾った衝撃コピー「今、ヒクソンと闘う夢を見てる」！　ヒクソンと闘いたい願望があるのかと思いきや、言葉の額面通り、サイパンで眠るとヒクソンと闘う夢を見るという（しかもほとんど負けてるらしい）、違う意味でショッキングなインタビュー！　おい、金沢、どうなってんだ!?

### ヴァーッと、クアーッと、WJ旗揚げッ!

［3.1『MAGMA01』横浜アリーナ］

【究極のマグマ第1章】
長州力vs天龍源一郎

【プロレス―アルティメット・WJタッグワールド】
馳浩&佐々木健介vsドン・フライ&ダン・ボビッシュ

【タイトル未発表】
鈴木健想vs大森隆夫

【史上最大級! 有刺鉄線電流爆破マッチ】
越中詩郎vs大仁田厚

【USA版下克上! 新外国人タッグ決定戦】
ザ・ロード・ウォリアーズvsザ・クラッシャーズ

【Who is the master of terrorist 究極のテロリスト対決】
谷津嘉章vs安生洋二

【~WJ'S DNA~WJの遺伝子達】
石井智宏vs宇和野貴史

【~WJ'S DNA~WJの遺伝子達】
高智政光vs本間朋晃(全日本プロレス)
中嶋勝彦デモンストレーション

問い合わせ:WJプロレス TEL.03-5458-5915

# 3月1日、真の“プロレス”を感じたければ K−1有明コロシアムへ行け!

世間の注目度はブッチギリNO.1　マット界のど真ん中はK−1だ!

# K-1 WORLD MAX '03

## ——日本代表決定トーナメント——

| 準優勝 | 優勝 | 3位 |
|---|---|---|
| ¥1,500,000 | ¥6,000,000 | ¥750,000 |

3・1 有明コロシアム

| 魔裟斗 | 須藤元気 | 村浜武洋 | 阿部裕幸 | 武田幸三 | 小次郎 | 小比類巻貴之 | 安廣一哉 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| シルバーウルフ | ビバリーヒルズ柔術クラブ | 大阪プロレス | AADC | 治政館 | ウィラサクレック・ムエタイジム | 黒崎道場 | 正道会館 |

出場者変更

昨年2月11日、K-1史上最高とも言われるほどの盛り上がりを見せ、TV視聴率も13%という深夜とは思えぬ驚異的な数字をはじき出した、あの『K-1 WORLD MAX～日本代表決定トーナメント～』が、今年も3月1日に会場規模を代々木第2体育館から、有明コロシアムにグレードアップして帰ってくる!

グレードアップしたのはもちろん会場規模だけではない。出場メンバーの顔ぶれこそ、昨年から大幅な入れ替えはないが、いずれもこの1年でそのバリューを大幅にあげた選手ばかり。そこへ今年は、『K-1 WORLD MAX』シリーズファンにとっては、〝まだ見ぬ強豪〟とも言うべき、キック界の超大物・武田幸三の参戦が決定したのだから、これはもうタマラナイ!

武田幸三と言えば、立ち技の最高峰ムエタイで、外国人として史上4人目の王者(ラジャダムナン・スタジアム・ウェルター級)となった本物中の本物。この男がK-1ワンナイト・トーナメントに参戦するという衝撃は、現在のプロレス界に置き換えようと思っても、説明しきれないだろう。

魔裟斗か武田か。もしこの二人の決勝戦が実現したならば、プロレス、総合を含めた格闘技界全体でも、これ以上は考えられない、最高の頂上対決と言っても過言ではない。これまで決して交わることのなかった2大巨頭がいよいよ雌雄を決する。これを格闘技の醍醐味と言わず、何というか!

まったく刺激的ではない交流戦が横行するプロレス界が束になっても敵わないような濃密な緊張感とドラマがこの一戦にはつまっている。

このスーパーマッチが実現するか否かばかりに目を奪われがちであるが、トーナメントは1回戦から見逃せない組み合わせばかり。まず、いきなり王者・魔裟斗に挑むのは、昨年奇想天外な発想からのトリッキーな動きで、優勝候補の小比類巻をあと一歩まで追い込んだ須藤元気。須藤は今年も「秘策を用意している」と魔裟斗戦に自信満々なのが実に不気味。しょっぱなから何が起こるかわからない。さらに昨年は出場メンバー中最軽量ながら、魔裟斗を最も追いつめ、石井館長をして「60kg級なら最強じゃないか?」と言わせた村浜が、阿部兄ィこと阿部裕幸を迎え撃つ。村浜も準決勝で実現濃厚な魔裟斗戦に照準を絞っているだけに、期待が持てる。

対するブロックは実力派のキックボクサーがひしめき合う激戦区。武田と小比類巻の対戦が実現したら実に興味深い。

それぞれがそれぞれの思惑を抱いて参戦する、この戦国合戦を思わせるトーナメント。ここは格闘家たちの生の感情がすべて叩きつけられる戦場であり、プロレスのエッセンスがたっぷりと詰まったエンターテインメントの舞台でもあるのだ。

だからこそ声を大にして言いたい。3月1日、〝プロレス〟を感じたければ、有明に行け、と!

絶対的主人公には、最強のライバルが必要。昨年の小比類巻を実績で遥かに上回る武田の参戦は、テレビ番組的にも非常にアピールしやすい対立図式。ここにもK－1人気の秘密が隠されている。

**Ticket Information**

**K－1WORLD MAX**
**～日本代表決定トーナメント～**
**3・1(土)有明コロシアム**
**15:00 開場／16:00 開始**

★入場料金:
スペシャルリングサイド ¥20,000
スタンドS ¥10,000
スタンドA ¥6,000
★大会に関するお問い合わせ先:
K-1事務局
TEL:03-3796-2977

## K-1WORLD MAXの熱波がキック界に波及!

### 3・8&5・23全日本キックが『ライト級最強決定トーナメント』開催!! “野良犬”小林聡出場! 組み合わせ抽選は、あの「綱引き」方式!

武田幸三のK－1参戦に沸く中で、キック界もう一人の大物・小林聡も大勝負に挑む! 70kg以下の日本最強を争う3・1『K-1WORLD MAX』に対抗するかの如く、全日本キックボクシング連盟が62kg以下最強を決める『全日本ライト級最強決定トーナメント』を3・8後楽園大会から開催することが決定した。

参加メンバーは、“野良犬”小林聡を筆頭に金沢久幸、花戸忍など知名度こそK－1に及ばないが、実力的にはまったく見劣りしない充実度。しかも、キックのアイデンティティとも言うべき、ヒジ打ち、首相撲からの蹴りを禁止し、ルール面でも強くK－1を意識したものを採用し、しかも組み合わせ抽選は、あの新日本正規軍vs維新軍を思わせる「綱引き」方式と、これまでは考えられなかったエンターテインメント性も打ち出すなど、全日本キックがこの大会に賭ける意気込みはハンパではない。格闘技ファンなら、いやプロレスファンでも3・8後楽園へ絶対に行くべきだ! 行けば、そこでもやはり“プロレス”を感じるに違いない。

**全日本ライト級最強決定トーナメント**

| 賞金【総額 5,000,000円】 | |
|---|---|
| 優勝 | 3,000,000円 |
| 準優勝 | 1,000,000円 |
| KO賞 | 150,000円 |

**★ルール**
3分3ラウンド制。ドローの場合は延長、再延長を行う。「ヒジ」および「首相撲からの蹴り」は禁止。その他は全日本キック公式ルールに準ずる。

**★組み合わせ抽選方法「綱引き」**
・当日18：30に出場8選手がリングサイドに集合
・赤コーナー4選手が東側、青コーナー4選手が西側に分かれて綱を選ぶ
・合図と共に綱を引っ張り、同一綱を引いた選手が対戦相手となる。

南 / シート / 北

| 赤コーナー | 青コーナー |
|---|---|
| 小林 聡 WKA&WPKC世界ムエタイ・ライト級王者 | 大宮司 進 ISKA世界スーパー・フェザー級王者 |
| 金沢 久幸 WPKC世界ムエタイ・スーパー・ライト級王者 | 藤牧 孝仁 LIGHTNING全日本ライト級3Rトーナメント王者 |
| 大月 晴明 全日本ライト級王者 | 山本 優弥 2001全日本新空手軽量級王者 |
| 花戸 忍 『COMBAT2002』60kg級トーナメント王者 | 任 治彬 世界プロテコンドー・ミドル級王者 |

**Ticket Information**

**全日本キックボクシング 3・8[土]後楽園ホール**
『全日本ライト級最強決定トーナメント～開幕戦～』
★チケット料金 RS席 ¥10,000／S席 ¥7,000／A席 ¥5,000
★問い合わせ:全日本キックボクシング連盟 TEL 03-3365-1171 URL http://www.aj-kick.com

**準決勝／決勝(5試合) 5月23日(金)後楽園ホール**

誠に恐れ入りますが、気分は2002年でお読みください!!

# 紙のプロレス大賞2002 Part.2

さて、2月が終わりに近づき、3月を迎えようするこの時期に、
PART.2と称して『紙プロ』大賞をやるその理由は、
編集ミスで前号掲載できなかったからですよ！（逆ギレ）。……関係者の皆様方、
誠に申し訳ありませんでした。気分を正月頃に戻してお読みください。

**アンケート項目**

①MVP➡最も活躍したと思う選手
②ベストバウト➡最も印象に残った試合
③ベスト興行➡最も素晴らしかった大会
④ボクのわたしのMVP➡個人的に賞をあげたい選手とその賞名

©中川画伯

## ミュージシャン KEIGO

三島☆ド根性ノ助、滑川など、プロレス・格闘技の交友は幅広い。選手Tシャツの製作や美濃輪育久の新テーマ曲も作曲している。

①高山善廣
②三島☆ド根性ノ助vs五味隆典（12・11修斗東京ベイNKホール）
③『DEEP』全大会
④「野良犬魂」炸裂で賞➡小林聡

【総括】①ドローに持ち込むはず失敗。アゼン。②ムエマラソンは凄かった。これもプロレス！　村上、柳澤、山喧、滑川、横井、美濃輪、杉浦……。プロレスを感じる格闘技ええなぁ～！　格闘プロレスラーの時代や！

## 『FRIDAY』編集次長 仙波久幸

日本一の写真週刊誌編集次長の身分を隠してWWEスーパースターズに接近する通称ペイントマン。WWEののめり込み方は尋常ではなく、本誌鬼畜編集長・山口日昇に「俺が上司だったら、クビにしている」と言わしめるほどである。

①ザ・ロック
②〝ハリウッド〟ハルク・ホーガン
③レッスルマニア
④個人賞➡ホーガン&小川直也

【総括】今年はWWEを抜きには語れないよね！　なんたってさ～、俺がWWEのスーパースターズの仲間入りをしちゃったんだから！　だって、ジェリコやステイシー、さらにはあのロック様までもが俺のことを「Hey！　ペイントマン」って呼ぶんだよ！　アメリカン・レジェンドのホーガンにも密着したしさ～、日本のレジェンド（笑）、小川直也さんとの食事にも一緒に参加して……。至福の時を過ごしたな～。それとニック君には「イチ、ニー、サン、センバ！」なんて言われるし……（延々とおっかけ自慢話が続く）

浅草キッド
## 玉袋筋太郎

改めていうことでもないが、水道橋博士と浅草キッドのコンビを組む。ターザン使いの一人。

①ミルコ・クロコップ
②ベストバウト　高田延彦vs田村潔司（11・24『PRIDE.23』）
③ベスト興行　8・28『Dynamite!』（国立競技場）
④マイクアピール大賞➡山口日昇

【総括】①まぁ、ありきたりなんだけどね。次点は大谷晋二郎。②泣けたよなぁ。③真夏の夜の祭典だなありゃ。④『SAMURAI!』の生ゴンに出るたびに放送禁止用語を連発。スタッフは頭を抱えております。そろそろ大人として気づいてほしいために、この賞をさしあげます！　大ブレイクしたK-1、『PRIDE』。そこに降りかかるスキャンダルという寄り戻し現象。最後に笑うのはやっぱり猪木か。ンムフフフ（談）。

©中川画伯

TATSUO KAWAMURA
U.F.O.

芸人
## ハチミツ二郎

今号本誌ではWWE特集に出演。芸能界一WWEに詳しいとされている芸人。東京ダイナマイトHP http://tokyodynamite.com

ロック様

①金村キンタロー
②ザ・ロックvsハルク・ホーガン（3・17トロント　スカイドーム）
③8・30東京ダイナマイト単独ライヴ　日比谷野外大音楽堂
④ワースト賞→ボブ・サップ
最優秀メインイベント➡S・マイケルズvsHHH（サマースラム）
最優秀タッグチーム賞➡天龍源一郎&ビッグ・ジョン・テンタ組

【総括】ボブ・サップにプロレス大賞を渡してどーすんだよ！　都合良くプロレスラーって言葉を使われただけだ。プロレス側がボブ・サップに頼ったカンジがしてなんだか情けない。ハッキリ言ってオレと新間寿は怒ってるよ。金村キンタローの忙しさ、各試合のレベルの高さ、会場の熱を見たか？　誰が相手でもどこのリングでも必ず観客を満足させた金村キンタローこそ2002年のMVP。ロックvsホーガンはオレに言わせればプロレスの最終回。あれでプロレスは完結した。

フリーアナウンサー
## 辻よしなり

新日本テレビ中継『ワールドプロレスリング』でヒャッホー節を轟かせる名物アナウンサー。新日本の現状を斬らせたら右に出る者はいないが、その叱咤はプロレスLOVEに満ちあふれている。

①高山善廣
②高山善廣vsボブ・サップ
③新日本プロレス・G1クライマックス
④熱すぎて火傷しちゃったで賞➡大谷晋二郎

【総括】はっきり言って『プロレス』の危機が迫り来た一年だったような気がする。とにかく、選手の離合集散が激しくて、落ち着きが無かった。となれば、クウォリティーの高いものは出来にくい。下地作りの一年だったが、それだけにアイデアを搾り出していて面白かった。やはり、いよいよとは思ったが、プロレスと総合の融合だ。えてして、総合の選手がプロレスのリングに上がると、キレや動きに憤りを感じていたものだったが、2002年はそれがそうでもなかったように思えた。その中でも、高山は新日、ノア、プライド、などジャンルに関係なくエネルギッシュにリングに立ちフリーとしての生き様を見せてくれたように思う。企業の倒産や、リストラのピンチに立たされている我々には、どこか生きる参考書のようだ。

PRO-WRESTLING KESSYA
MAKAI CLUB

マカイクラブ

格闘技界の哲人
## 堀辺正史

日本武道傳骨法創始師範。「毎月最終日曜日に開催している『武士道セミナー』を通して、混迷する日本に活力を与えていきたい」

①高山善廣
②高山善廣vsドン・フライ（6・23『PRIDE.21』）
③8・28『Dynamite!』（国立競技場）
④武道世界一大賞➡吉田秀彦

【総括】総合系の闘いにおいては、どうしても寝技でチマチマやる試合になりがちであるが、高山とフライは真正面から殴り合うという〝男らしい〟闘いをみせ、清々しい気分にさせた。また、昨年は〝マスリング〟（『Dynamite!』、『猪木祭り』）などに代表される超大規模イベント）におけるレフェリングの向上と、日本人選手の育成を真剣に考えなければならないという課題が浮かび上がった1年であった（談）。

# ん〜ッ、ダイナマイッ!!

こんなポスター貰ったら
10年持つ身体が1日で終わってしまう!!

# Radical Presents

☆ステイシーポスター

ヒャッホーッ! WWEを見たことない読者の方もマンゾク間違いなしのダイナマイッポスター!! いやぁ、WWEってホントいいもんですねぇ〜! 【編集部提供】

3名様

## MOODYZ

ん〜ッ、ムーディーズッ! AVメーカーMOODYZからステキなTシャツ! 「バンバンビガロ」初代店長・岩淵さんのデザインだ! 【MOODYZ提供】
URL:http//www.moodyz.com

☆MOODYZ Tシャツ②

☆MOODYZ Tシャツ①

各2名様

## Yuka Tsuji

女子総合格闘技のエース・辻ちゃんのニューTシャツが出た! 女子格闘技会場でも販売中なので見かけたら即買いだ! 【闇愚羅提供】

各2名様

☆辻結花Tシャツ
〈スマックガールミドル級チャンピオンネーム入り〉

☆辻結花Tシャツ
〈ニューデザイン〉

## No Fear

3名様

☆高山堂ステッカー
(高山善廣カード入り)

今年も全開でマット界の"ど真ん中"をノシ歩く高山善廣の新商品! 事務所のステッカーというノーフィアーな一品だ! 【高山堂提供】
お問い合わせTEL.03-5464-2806

## Dusty Rhodes

1名様

☆サイン入り
ポートレート

アメリカン・ドリームを現地直撃取材! 直筆サイン入りのポートレートも頂いたぞ! ケツを振りながら当選を祈るんだ!(モンローウォークでも可)
【ダスティ・ローデス提供】

## Go Ryuma

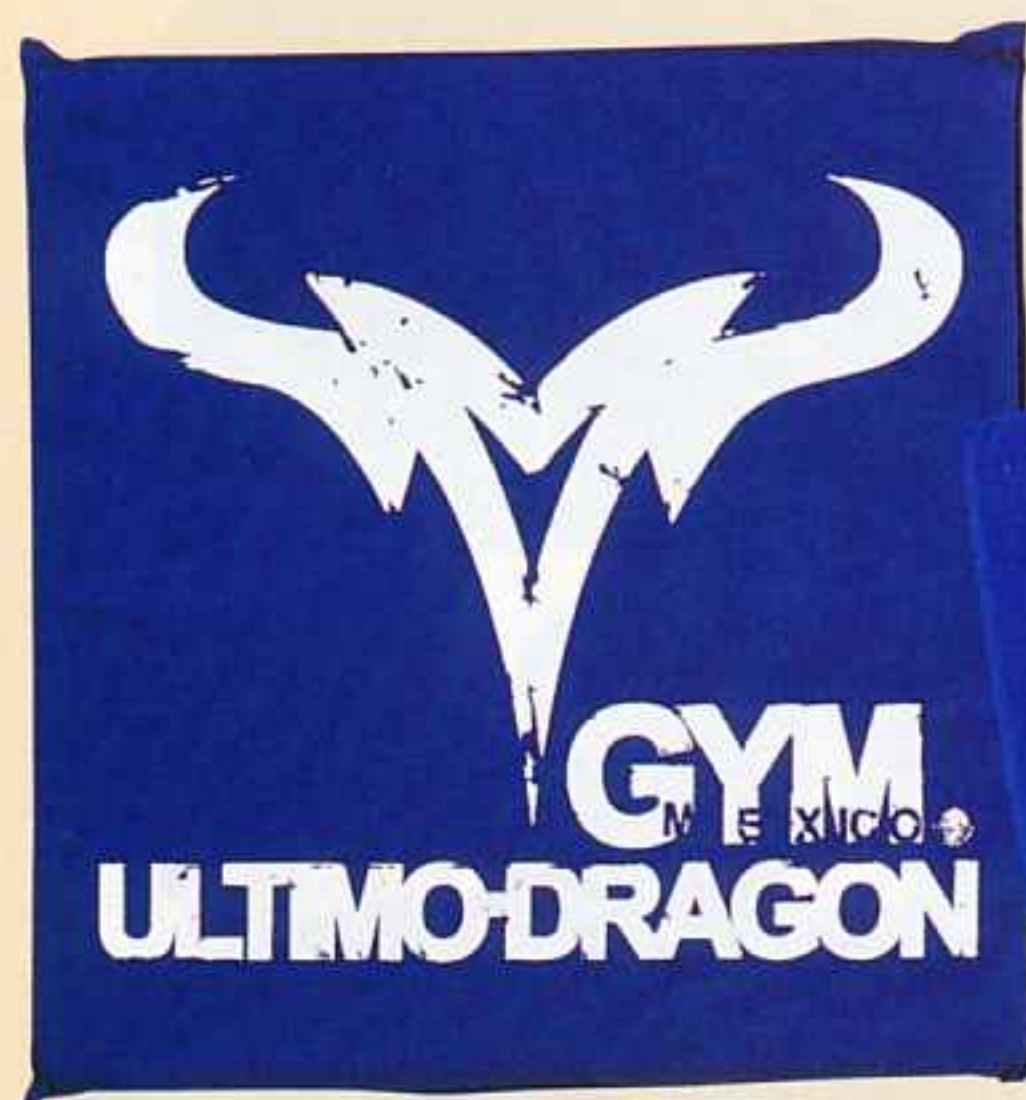
1名様

☆剛竜馬Tシャツ

以前も紹介したことがあったプロレスバカのスキャンダル度満点のTシャツですが、応募ゼロだったので再び掲載! 応募を待ってるぜ! GO! GO! 【編集部提供】

## ultimo-dragon gym

『W-1』では「アッ!」と目ン玉が飛び出る動きを見せつけたT2P!　惜しまれながらの解散となったのが.解散を記念してT2Pセットを怒濤の放出だ!　【T2P提供】

セットで 1 名様

☆タオル

☆クッション

☆女性用チビTシャツ

☆トレーナー

## new japan

セットで 5 名様

☆プロレスネットワークカードバトル「最後の切り札」

世界初となるプロレスネットワークカードバトルソフトがWindows対応ソフトで登場した! バーチャルトレカを収集すればするほど様々な戦闘カードを入手できるこのゲームは、新日本プロレス所属全選手が実名、実画像で登場し、なつかしのレトロレスラーも特別参戦するなど総勢44名のレスラーを駆使できるぞ!　チャンピオンはキミだ!

【ヴァリス提供】CD-ROM1枚組¥5800　お問い合わせTEL.03-5351-5181

## akira maeda

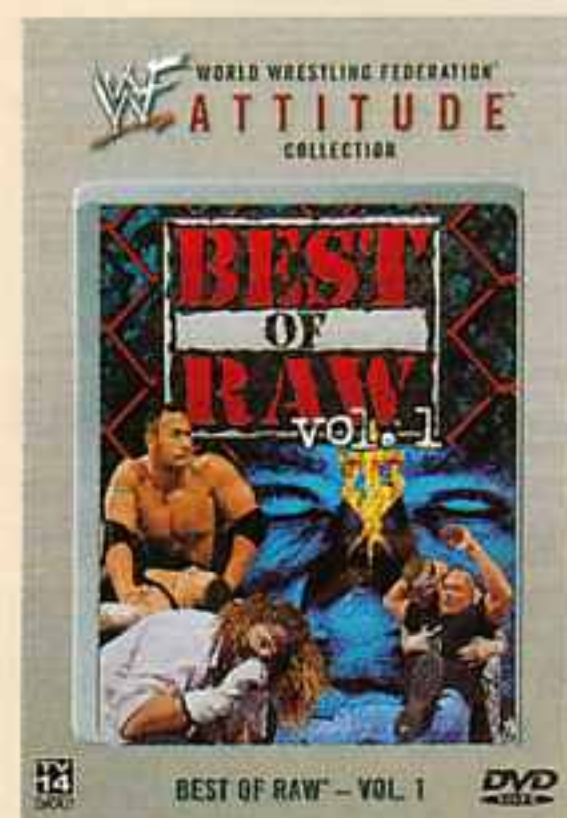
1 名様

☆CD-ROM「オレがこんなに強いのもアキラ前田のクラッカー」

復活間近!?を記念して、日明兄さんのお宝モノのCD-ROMを大放出やんけ!　ミニゲームや東京タワーを叩き割る日明兄さんなど、魅力が十分に楽しめるソフトになってます!!

【編集部提供】

## dvd

各 1 名様

☆ATTITUDE

ビンスとオースチンの白熱する絡みで『RAW』が一番面白かったと言われる時期の総集編!　字幕なしでも十分楽しめる!【タダシ☆タナカ提供】

☆グラバカvsイズム ～激震!!パンクラス～

昨年、沸点を極めたグラバカvsイズムの内部抗争をすべて収録!　美濃輪vs菊田、郷野vs近藤を再見できるのはこのDVDだけだ!

【パンクラス提供】

## j star

1 名様

☆サブゥ・サイン入りポートレート(左)

☆サブゥ・サイン入りTシャツ(右)

最新人気所品はもちろん、レトロレスラーのグッズなども取り揃えたマニア御用達のプロレスショップ「ジェイスター」!　大阪・京橋に行ったら必ず寄るべし!

【TEL】06-6926-2888

【URL】http//:www.jstar.co.jp/

### 応 募 要 項

応募券

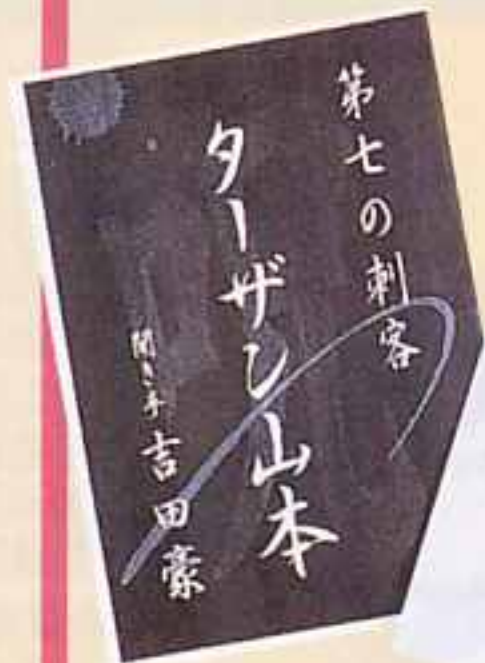
①郵便番号・住所・電話番号
②氏名③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦好きな選手&嫌いな選手
⑧今年注目の団体&選手を挙げてください

【宛　先】

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「ターザン降板」係まで

※締切は2003年3月24日(月)当日消印有効

## books

5 名様

☆『プロレスよ感情武装せよ!』改訂版

本誌スーパーバイザー吉田豪が登場した章の完全バージョン!(詳細は前号『紙プロ』での『書評の星座PART2』を参照)。ターザン本の真実はここにある!

【吉田豪提供】

☆アメリカンプロレス徹底ガイド

トリプルH、ジェフ・ハーディーのスペシャルインタビューも収録した魅力満載WWEムック。ジミー鈴木が監修。オールカラーは読み応え十分だ!　【日本文芸社提供】

10 名様

2 名様

☆がなり説法

日本一簡単なビジネス指南と題して高橋がなりが成功の秘訣を語る!　今号の本誌でも登場した、がなりのエネルギーを恐ろしく感じられる一冊だ!

【ソフト・オン・デマインド提供】
発行元インフォーバーン

☆アントニオ猪木の人生相談 風車の如く

『週刊プレイボーイ』に好評連載中のアントン総帥の人生相談が一冊の本になった!　これさえ読めば、悩みなんてどうなってことねぇですよ!　シムフフフ。ちなみにShowが監修というか【集英社提供】

3 名様

# 『紙のプロレス』が送るロシアングッズ!!

# RUSSIAN TOP TEAM

## ロシアン・トップチームを買え!!

ヴォルク・ハン、コピィロフ、そしてヒョードルを生み出したロシアから送る『紙プロ』読者なら即買いのマストアイテム!! ヒョードルが世界最強決定戦に挑む『PRIDE.25』にても販売するので、どれでもいいから買って応援しやがれッ！

RUSSIA

**ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉**
¥3,800 S or M or L or SOLD OUT

RUSSIAN TOP TEAM

**ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉**
¥3,800 S or M or L or SOLD OUT

RUSSIAN TOP TEAM

**ヴォルク・ハンTシャツ**
¥3,800 S or M or L

残りわずか!

VOLK HAN

**エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ホワイト〉**
¥3,800 S or M or L or XL

E


紙のプロレス RADICAL
No.59
2003年3月25日発行
No.60は3月下旬発売予定!
※多分にです。地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（マット界のど真ん中を歩くため非番）

スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）
海老沢勇
古賀ゆきえ（以上Zero graphics）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫
福島勝儀
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
出前
出前持ち入江（TwoThree）
フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元　株式会社ワニマガジン社　〒160-8580　東京都新宿区内藤町一番地　TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元　株式会社ダブルクロス　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　TEL.03-3403-5188（編集・制作）

これを着て、ど真ん中を歩こうぜ!!

好評につき量産決定!!

# Kapraギフトセット

**Bセット**
サービス価格
¥8,800 M or L

- Kapraパーカー［カーキー／前ジッパー・後イエロープリント・裏起毛］
- ニット帽［ブラック／ホワイト刺繍入り］
- トートバック［ブラック／ホワイトプリント］

**Aセット**
サービス価格
¥8,800 M or L

- Kapraパーカー［ネイビー／前ジッパー・後ホワイトプリント・裏起毛］
- ニット帽［ネイビー／ホワイト刺繍入り］
- トートバック［ネイビー／ホワイトプリント］

## 「代引き」を開始!! 『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

**代引**
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
**kapra@kamipro.com**
まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

**現金書留**
希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を現金書留で
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

**郵便振替**
希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

●問い合わせ●
（株）ダブルクロス 03-3403-5188

**Kapra半袖Tシャツ〈デニム〉**
¥3,500 S or SOLD OUT or SOLD OUT
残りわずか!

**田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉**
¥3,800 S or M or L

**田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉**
¥3,800 S or M or L or XL

**リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉**
¥3,800 S or M or SOLD OUT

**リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉**
¥4,500 S or M or L

**紙プロネックピース**
¥~~1,200~~ → 大特価 ¥600

**『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ネイビー〉**
¥3,000 S or M or L or XL

**『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ホワイト〉**
¥3,000 S or M or L or XL

通販完売商品は直販店にある!?
【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン（TEL.03-3221-6237）★東京イサミ（TEL.03-3352-4083）★岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）★グレート・アントニオ（TEL.03-3219-9550）★大阪・バディスラム（TEL.06-6645-1378）★三恵格闘技SHOP長崎（TEL.095-824-8658）★三恵格闘技SHOP諫早（TEL.0957-22-4646）★浜松市・Buddy（TEL.053-450-7888）

# アントニオ猪木の人生相談

## いつなんどき、誰の相談でも受ける!

「オレの彼女はブスなんです」19歳・専門学校生
「アメリカの戦争行為をどう思いますか」21歳・大学生
「どうしたら早漏は治りますか?」21歳・大学生
「今まで多くの女の子を風俗に売り飛ばしてきました」23歳・風俗キャッチ
「勉強って必要だと思いますか?」15歳・中学生
「父親の家庭内暴力がひどく辛いです」15歳・高校生
「どうすればモテるオヤジになれますか?」30歳・会社員
「このままでは痴漢になってしまいそう」27歳・会社員
「21世紀は本当に明るいの?」29歳・会社員
「早く総理大臣になってください!」20歳・会社員
「ボクは女性恐怖症です」16歳・高校生
「心地よいセックスとは?」24歳・自営業
「長州力にズバッと言ってやって!」19歳・大学生
「タマちゃんはどうして大人気なの?」19歳・専門学校生 etc.

**現代のカリスマが悩みを一刀両断!**
**これは史上最強の"猪木イズム"伝承本だ!**

# 「風車の如く」

## アントニオ猪木

**絶賛発売中!**

定価 本体1,500円+税
集英社

紙のプロレスRADICAL WANIMAGAZIN MOOK 222
2003 NO.59
吹けよ風! 呼べよ嵐!!
平成15年3月25日発行 編集発行人/山口日昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体838円+税

9784898297025
ISBN4-89829-702-1
C9476 ¥838E
1929476008381

雑誌 69860-22

印刷:図書印刷株式会社

# INDEX

*50音及びアルファベット順

| 団体名 | 電話 | 住所 |
|---|---|---|
| アルシオン | 03-5745-6101 | 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-24 サンハイツ1004 |
| 大阪プロレス | 06-6636-6672 | 〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F |
| 怪獣王国 | 03-5952-1177 | 〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F |
| キャプチャー | 044-959-3333 | 〒215-0011 神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘2-2-1 横山ビルB1 |
| キングダム・エルガイツ | 0423-31-2797 | 〒206-0822東京都稲城市坂浜2305 |
| 粟栖ジム | 06-6790-8896 | 〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7 |
| 喧嘩プロレス二瓶組 | 044-588-2438 | 〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル |
| 国際プロレス | 0467-86-0197 | 〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14 |
| 修斗コミッション | 03-5824-1324 | 〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8 若山ビル201 |
| 新日本プロレス | 03-5468-3111 | 〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11 |
| 掣圏道 | 042-544-6979 | 〒196-0013 東京都昭島市大神町1-2-22 |
| 全日本女子プロレス | 03-3493-6541 | 〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17 |
| 全日本プロレス | 03-3403-7344 | 〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12 |
| 大日本プロレス | 045-937-0811 | 〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347 |
| ダイプロデュース(大仁田興行) | 03-5496-4900 | 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3 大北ビル3F |
| 髙田道場 | 03-5749-5030 | 〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワールドパレス武蔵小山1F-B1 |
| 高山堂 | 03-5464-2806 | 〒150-0011 東京都渋谷区東2-21-9-803ジェイパーク渋谷イーストスクエア |
| 闘龍門JAPAN | 078-333-9797 | 〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8 TOWA元町ビル901 |
| トータルワークアウト | 03-3280-5557 | 〒108-0073 東京都芝区三田4-7-24 明るいビル |
| ドリームステージエンターテインメント | 03-5775-5700 | 〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103 |
| バトラーツ | 0489-63-0005 | 〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43 |
| パンクラス | 03-5792-0815 | 〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 |
| プロレスリング・ノア | 03-3527-5311 | 〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25 |
| みちのくプロレス | 019-626-1333 | 〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8 |
| DDT | 03-3868-9181 | 〒112-0002 東京都文京区小石川2-9-7 MORIMOTO FLATS 4F |
| DEEP事務局 | 052-339-0303 | 〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F |
| GAEA JAPAN | 03-5459-3101 | 〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F |
| GCM COMUNICATION | 03-3538-5801 | 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F |
| IWAジャパン | 03-3352-3366 | 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401 |
| Jd’ | 03-5561-0522 | 〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F |
| JWP | 03-5849-2341 | 〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4 |
| K－1 事務局 | 03-3796-2977 | 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14 |
| KAIENTAI DOJO | 043-214-6960 | 〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17 |
| LLPW | 03-3945-7926 | 〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105 |
| NEO | 044-422-8344 | 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102 |
| SMACK GIRL実行委員会 | 03-5545-4766 | 〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル12階 |
| SPWF | 0475-42-6687 | 〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮10073-2 |
| U-FILE CAMP | 044-932-0282 | 〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568 |
| UFO | 03-5447-2121 | 〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F |
| UNW | 03-3362-3014 | 〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311 |
| U.W.F.スネークピット・ジャパン | 03-3337-1889 | 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F |
| WEW | 03-5958-5651 | 〒176-0005 東京都豊島区南大塚3-34-4ニューヴァリー2F |
| WJプロレス | 03-5458-5915 | 〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-10-9 東信青葉台ビル4F |
| WMF | 03-5362-7364 | 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-26 テクノ四谷ビル2F |
| WWS | 0495-24-6900 | 〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106 |
| ZERO-ONE | 03-5730-3401 | 〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 寿ビル601 |
| ZST | 03-5321-9595 | 〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F |

# これが全日本プロレスだ!!

衝撃秘話満載! 倉持アナインタビュー次号掲載!!

# Stacy

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　◎ ジャン斉藤
♠ 松澤チョロ　♥ さささぃ
◆ 堀江ガンツ　● スモーノブ

18:30)

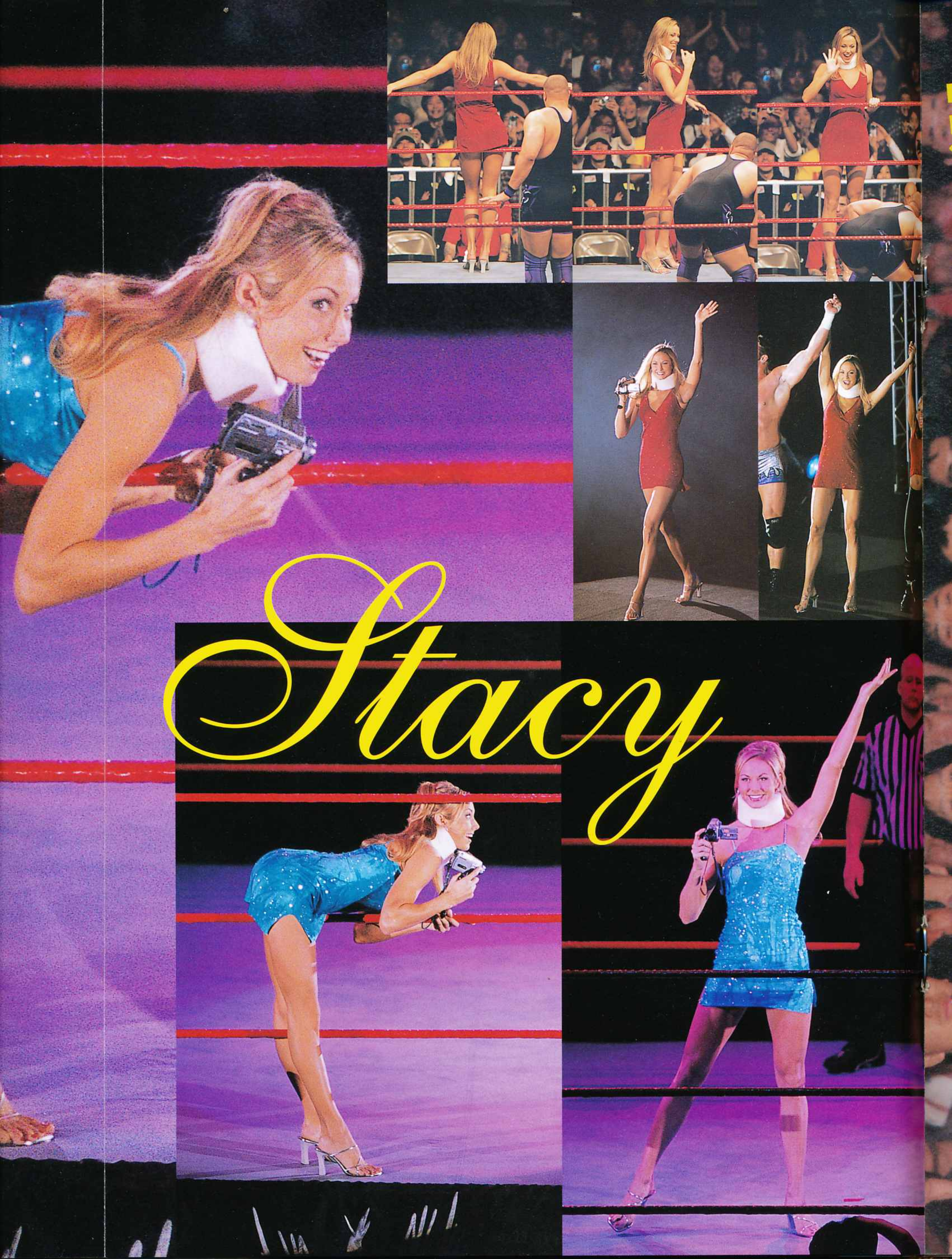
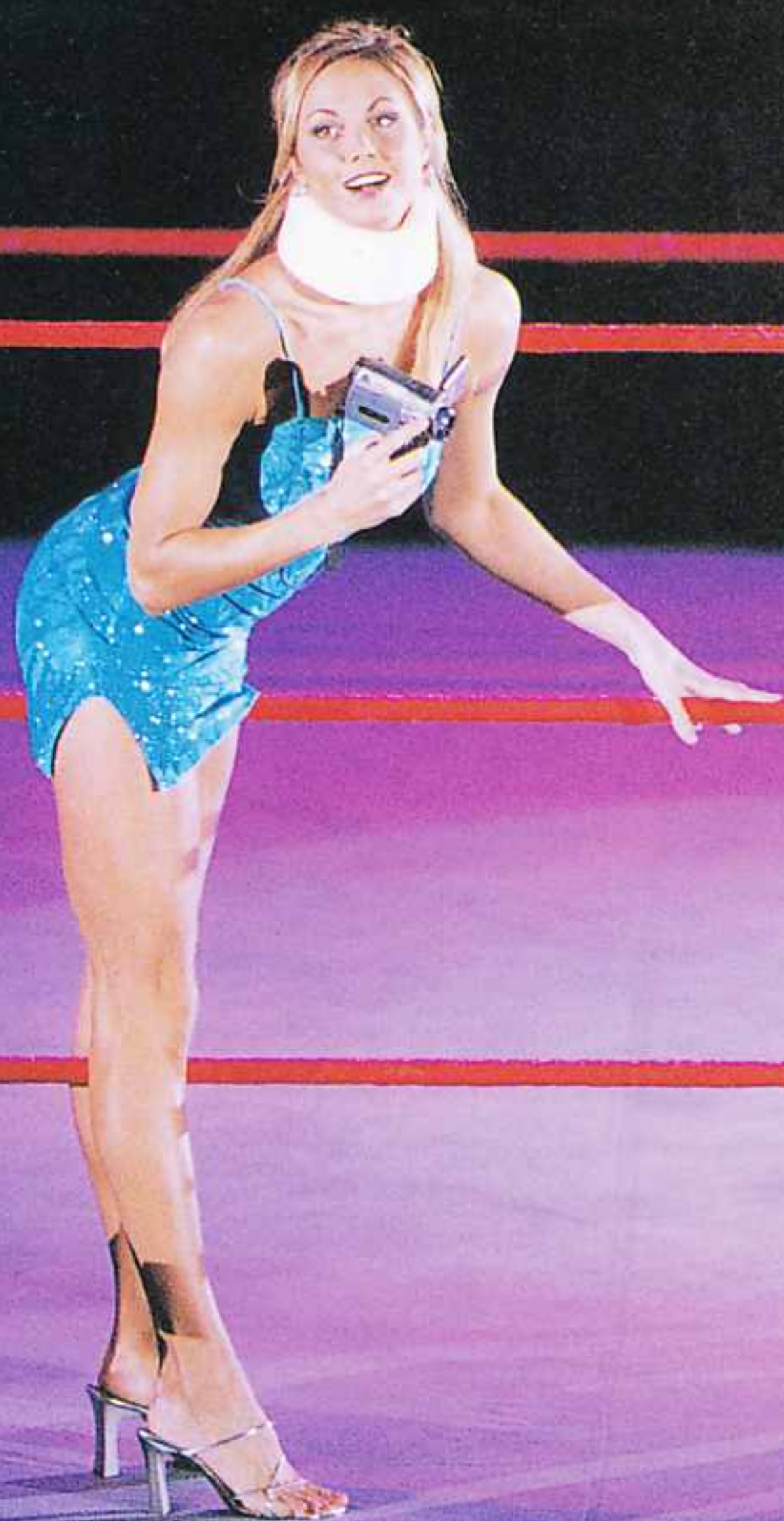
育館(18:30)★

18:30)

30)★♥

00)★♥

ズ(18:30)

ク(18:30)

## 13 THU.

全女■秋田・秋田市立体育館(18:30)

## 14 FRI.

新日本■徳島・徳島市総合スポーツセンター(18:30)
Jd'■東京・北沢タウンホール(18:30)
アルシオン■愛知・豊田市体育館(18:30)

## 15 SAT.

WJ■東京・後楽園ホール(12:30)♠♥
闘龍門■長野・長野運動公園(18:30)
みちのく■岩手・岩手県営体育館(18:30)
WMF■大阪・大阪ドーム・スカイホール(18:00)
DDT■東京・後楽園ゆうえんち内ジオポリス(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■千葉・多古町民体育館(18:30)

## 16 SUN.

『PRIDE.25』■神奈川・横浜アリーナ(17:00)★♠♥
WJ■宮城・宮城県スポーツセンター(16:00)
新日本■滋賀・長浜市民体育館(16:00)
ノア■東京・ディファ有明(17:00)
闘龍門■愛知・東海市民体育館(18:30)
みちのく■青森・青森産業会館(16:00)
アルシオン■茨城・つくばピカオ(18:00)
GAEA■名古屋市千種スポーツセンター第1競技場(13:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
全女■埼玉・児玉町民体育館(16:00)

## 17 MON.

新日本■富山・高岡テクノドーム(18:30)

## 18 TUE.

新日本■三重・三重県営サンアリーナ・サブアリーナ(18:30)
WJ■群馬・太田運動公園市民体育館 (18:30)♠
みちのく■秋田・横手平鹿広域圏民体育館(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)

## 19 WED.

WJ■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館(18:30)♠
みちのく■岩手・宮古市千徳地区体育館(18:30)

## 20 THU.

新日本■埼玉・熊谷市民体育館(18:30)
WJ■千葉・流山市民総合体育館(18:30)♠
みちのく■岩手・江刺市体育文化会館(19:00)

## 21 FRI.

新日本■東京・代々木競技場第2体育館(18:00)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
大日本■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール(17:00)
みちのく■福島・福島市体育館(16:00)
K−DOJO■埼玉・桂スタジオ(14:00&18:00)
IWA■東京・ディファ有明(16:00)
GAEA■埼玉・ペペホールアトラス(17:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)

## 22 SAT.

新日本■静岡・浜松市体育館(18:30)
ノア■神奈川・小田原アリーナ・サブアリーナ(18:00)
みちのく■宮城・鹿島台町鎌田記念ホール(18:30)
闘龍門■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
アルシオン■愛知・西尾市錦城体育館(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■埼玉・深谷市民体育館(18:30)

## 23 SUN.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
新日本■兵庫・尼崎市記念公園総合体育館(16:00)
ノア■茨城・水戸市民体育館(17:00)
大日本■大阪・鶴見緑地花博記念公園水の館付属展示場 (13:00)
WMF■埼玉・本川越ペペホール・アトラス(14:00)
みちのく■青森・はちのへハイツ(16:00)
JWP■東京・板橋区産文ホール(18:00)
Jd'■神奈川・横浜文化体育館(16:00)
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
全女■秋田・横手広鹿広域圏民体育館(18:30)

## 24 MON.

闘龍門■青森・弘前市河西体育センター(時間未定)
大日本■和歌山・和歌山県立体育館(18:30)
全女■青森・八戸市体育館(18:30)

## 25 TUE.

闘龍門■青森・青森産業会館(時間未定)
ノア■新潟・新津市民会館(18:00)
全日本■岩手・岩手県営体育館(18:30)
みちのく■福島・サンライフ原町(18:00)
大日本■福岡・博多スターレーン(18:30)

## 26 WED.

みちのく■山形・三川町民体育館(18:30)
闘龍門■青森・むつ市民体育館(18:30)
ノア■福井・福井市体育館(18:30)
大日本■徳島・アクトシティとくしま(18:30)

## 27 THU.

ZERO−ONE■東京・後楽園ホール(18:30)★♥
闘龍門■秋田・大館市民体育館(18:30)
みちのく■宮城・気仙沼市総合体育館サブアリーナ(18:30)
大日本■長野・長野運動公園総合運動場(18:30)

# RADICAL CALENDAR

## 2 February

### 27 THU.

ZERO—ONE■静岡・浜松展示イベントホール(18:30)★
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)
ノア■静岡・焼津市民体育館(18:30)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
全女■茨城・下妻市立体育館(18:30)

### 28 FRI.

ZERO—ONE■宮城・宮城スポーツセンター(18:30)★
DDT■東京・後楽園ゆうえんちジオポリス(19:00)
全女■茨城・岩瀬町総合体育館(18:30)
アルシオン■千葉・千葉ポートアリーナ(18:30)
大日本■静岡・ツインメッセ静岡(19:00)

## 3 March

### 1 SAT.

K—1■東京・有明コロシアム(16:00)◎
ノア■東京・日本武道館(18:00)●
WJ■神奈川・横浜アリーナ(18:00)♠♥
みちのく■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール(18:30)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(18:30)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
華☆激■福岡・さざんぴあ博多2F多目的ホール(19:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール2Fホール(18:30)
ZIPANG■東京・バトルスフィア東京(19:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
SGP■愛知・名古屋市中スポーツセンター第二競技場(17:30)

### 2 SUN.

ZERO—ONE■東京・両国国技館(17:00)★♠♥
大日本■愛知・名古屋市体育館 (16:00)
みちのく■東京・後楽園ホール(18:30)
イーグルプロ■栃木・小山市文化センター小ホール(13:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
全女■神奈川・伊勢原市食品市場(16:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)
JWP■東京・JWP道場(16:00)

### 3 MON.

SMACK GIRL■東京・六本木velfarre(19:30)♠♥
みちのく■愛知・名古屋市中区スポーツセンター(18:30)
アルシオン■群馬・伊勢崎市民体育館(18:30)

### 4 TUE.

ZERO—ONE■秋田・大館市民体育館(18:30)★
『DEEP』■東京・後楽園ホール(18:00)◎♠♥
みちのく■大阪・大阪府立臨海スポーツセンター(18:30)
LLPW■熊本・八千代市総合体育館(18:30)

### 5 WED.

みちのく■長野・長野運動公園体育館(18:30)
LLPW■熊本・熊本興南会館(18:30)

### 6 THU.

ZERO—ONE■北海道・旭川大成市民センター体育館(18:30)★
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■滋賀・野洲町立総合体育館(18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
LLPW■熊本・本渡市民体育館(18:30)
全女■茨城・古河市立体育館(18:30)

### 7 FRI.

新日本■新潟・新潟市体育館(18:30)
みちのく■広島・広島市佐伯区スポーツセンター(18:30)

### 8 SAT.

ZERO—ONE■北海道・札幌テイセンホール(18:30)★♥
新日本■神奈川・平塚総合体育館(18:30)
みちのく■高知・南国市体育館(18:30)
闘龍門■群馬・群馬アリーナ(時間未定)
パンクラス■東京・ディファ有明(18:30)♠
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
アルシオン■東京・八王子市民体育館(18:30)
キャプチャー■福岡・さざんぴあ博多(19:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■茨城・境町民体育館(18:30)

### 9 SUN.

ZERO—ONE■北海道・札幌テイセンホール(16:00)★♥
新日本■愛知・名古屋レインボーホール(16:00)
闘龍門■東京・ディファ有明(18:30)◆♥
みちのく■徳島・徳島市立体育館(16:00)
WMF■東京・バトルスフィア東京(14:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
ZST■東京・Zepp Tokyo(17:00)◆
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(16:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
全女■東京・全女事務所ガレージマッチ(12:00)

### 11 TUE.

新日本■広島県立ふくやま産業交流館ビックローズ(18:30)
WEW■東京・後楽園ホール(19:00)

### 12 WED.

新日本■広島・東広島運動公園体育館アクアパーク(18:30)

### 13 THU.

全女■秋田・秋

### 14 FRI.

新日本■徳島
Jd'■東京・北
アルシオン■愛

### 15 SAT.

WJ■東京・後
闘龍門■長野
みちのく■岩手
WMF■大阪・
DDT■東京・後
大阪■大阪・デ
全女■千葉・多

### 16 SUN.

『PRIDE.25』■
WJ■宮城・宮
新日本■滋賀・
ノア■東京・デ
闘龍門■愛知・
みちのく■青森
アルシオン■茨
GAEA■名古屋
大阪■大阪・デ
全女■埼玉・児

### 17 MON.

新日本■富山・

### 18 TUE.

新日本■三重・
WJ■群馬・太田
みちのく■秋田
修斗■東京・後

### 19 WED.

WJ■埼玉・草加
みちのく■岩手

### 20 THU.

新日本■埼玉・
WJ■千葉・流山
みちのく■岩手

### 21 FRI.

新日本■東京・
ノア■東京・後楽
闘龍門■北海道
大日本■静岡・
みちのく■福島